



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第1表 重要監視パラメータ及び重要代替監視パラメータの設定個数 (5/5)

分類	名称	計測範囲	個数	設定個数の考え方
原子炉格納容器内の水素濃度	静的触媒式水素再結合装置動作監視装置	0~500℃	8*	静的触媒式水素再結合装置 19 個の動作状況を広く監視するため、水平方向及び鉛直方向の位置関係を考慮し、互いに離れた位置にある4基を代表して、出入口に1個ずつ、合計8個を監視に設置する。
	格納容器内空気気体濃度	0~30vol.%	2	重大事故等時に原子炉格納容器内の水素濃度の可能性 (酸素濃度:5vol%) を監視するため、ドライウエルとサブプレッショナルチエントの運転切替 (サンプリング式) により計測可能な既設酸素濃度計を2個設置する。
使用済燃料プールの監視	使用済燃料プール水位/温度 (ヒートサーモ式)	0~7.010mm <sup>3</sup> (0.P.25920mm~32920mm) 0~150℃	1**	通常水位から使用済燃料プールの底部近傍まで監視可能な水位 (通常水位から使用済燃料プールの底部近傍まで監視可能な水位) に1個設置する。
	使用済燃料プール水位/温度 (ガイドバルブ式)	-4.200mm~3.300mm <sup>3</sup> (0.P.21620mm~32220mm)	1	通常水位から使用済燃料プールの底部近傍まで監視可能な水位 (通常水位から使用済燃料プールの底部近傍まで監視可能な水位) に1個設置する。
	使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量)	0~120℃	1**	通常水位から使用済燃料プールの底部近傍まで監視可能な水位 (通常水位から使用済燃料プールの底部近傍まで監視可能な水位) に1個設置する。
	使用済燃料プール監視カメラ	10msv/h~10 <sup>4</sup> msv/h 10 <sup>4</sup> msv/h~10 <sup>6</sup> msv/h	1	通常水位から使用済燃料プールの底部近傍まで監視可能な水位 (通常水位から使用済燃料プールの底部近傍まで監視可能な水位) に1個設置する。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

\*1：計測範囲の寄は、原子炉圧力容器等レベルより1.315m上の上とする (ドライウエルカテナード底部付近)。  
 \*2：計測範囲の寄は、原子炉圧力容器等レベルより900mm上の上とする (ドライウエルカテナード底部付近)。  
 \*3：計測範囲の寄は、原子炉格納容器下部 (0.6kg放射線センサー底部) 上の上とする (4基が放射線センサーの設置箇所)。  
 \*4：計測範囲の寄は、ドライウエル床面 (0.6kg放射線センサー底部) 上の上とする (4基が放射線センサーの設置箇所)。  
 \*5：定信出力時の値に対する比率で示す。  
 \*6：上部出力領域モニタの検出値は124個であり、平均出力領域モニタの各チャンネルには、A系17個及びB系14個ずつの信号が入力される。  
 \*7：4個の静的触媒式水素再結合装置に対して、入口側及び出口側にそれぞれ1個設置。  
 \*8：計測範囲の寄は、使用済燃料貯蔵ラック上層 (0.P.25920mm) のところとする。  
 \*9：検出点15箇所。  
 \*10：検出点2箇所。



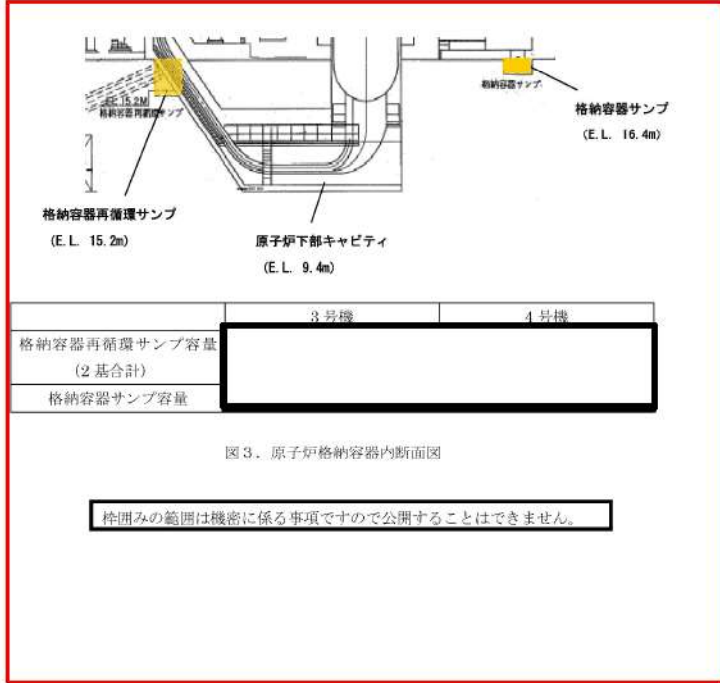
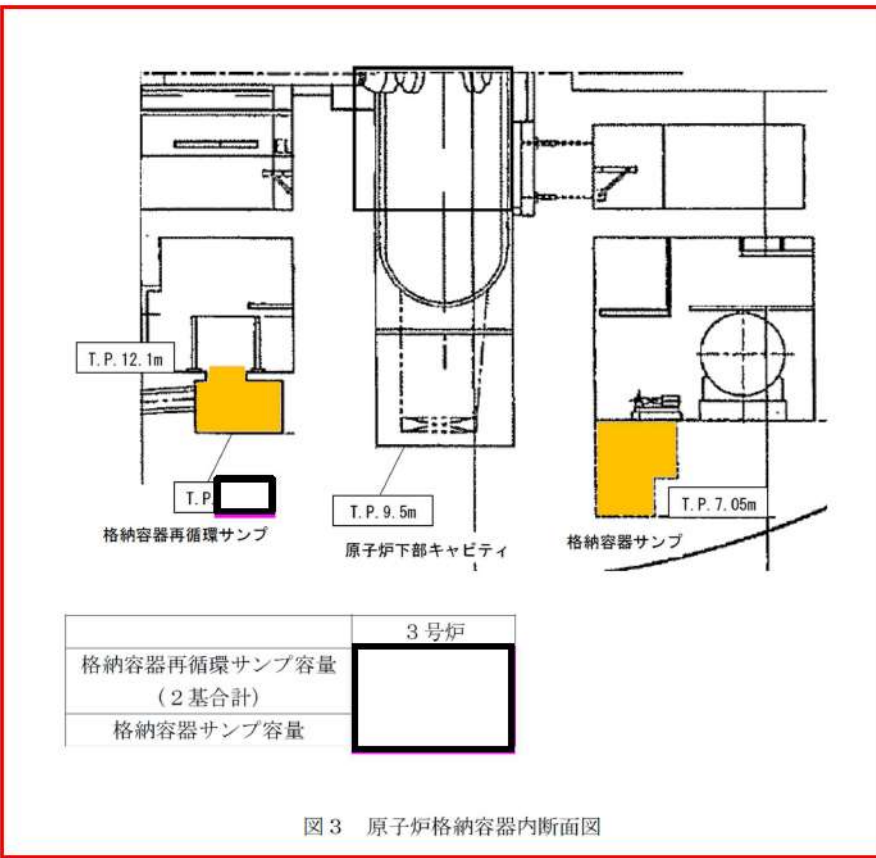
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">原子炉下部キャビティへの流入経路について</p> <p>LOCA 時の RCS 破断水および原子炉格納容器に注水されたスプレイ水が原子炉下部キャビティへ流入する経路について、図1および図2に示す。</p> <p style="text-align: center;">図1 スプレイ水及びRCS破断水の原子炉下部キャビティへの流入経路 (断面図)</p>	<p style="text-align: center;">原子炉下部キャビティへの流入経路について</p> <p>LOCA時のRCS破断水および原子炉格納容器に注水されたスプレイ水が原子炉下部キャビティへ流入する経路について、図1および図2に示す。</p> <p style="text-align: center;">図1 スプレイ水及びRCS破断水の原子炉下部キャビティへの流入経路 (断面図)</p> <p style="text-align: center;">■ 特記の内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>別紙4 <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p>




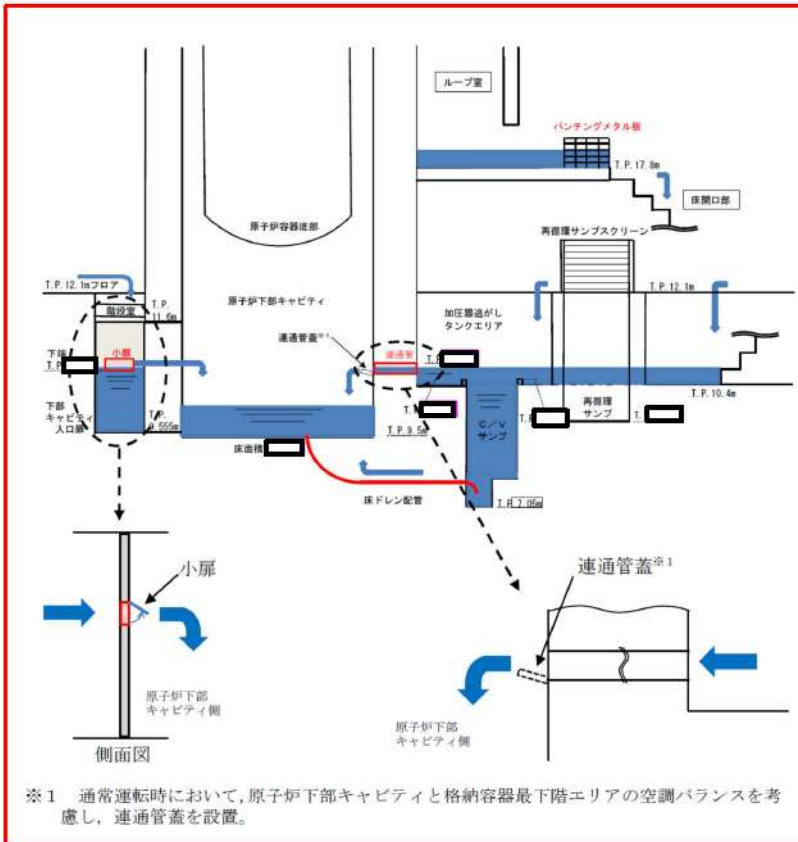
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第58条 計装設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>図3 原子炉格納容器内断面図</p> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>図3 原子炉格納容器内断面図</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>設計方針の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第58条 計装設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1. 原子炉下部キャビティへの流入箇所</p> <p>原子炉格納容器の最下階エリアからは、原子炉下部キャビティに通じる<b>連通穴</b>を経由して原子炉下部キャビティへ流入する。また、原子炉格納容器最下階フロアの水位上昇に伴い、<b>小扉</b>からも流入する。</p> <p>原子炉下部キャビティに流入する経路断面概要を図4に、また、最下階エリア及び原子炉下部キャビティの水位と原子炉格納容器内への注水量の関係を図5に示す。</p>  <p>図4. 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面概要図</p> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	<p>1. 原子炉下部キャビティへの流入箇所</p> <p>原子炉格納容器の最下階エリアからは、原子炉下部キャビティに通じる以下の<b>開口部（連通管及び小扉）</b>を経由して原子炉下部キャビティへ流入する。</p> <p>原子炉下部キャビティに流入する経路断面概要を図4に、また、最下階エリア及び原子炉下部キャビティの水位と原子炉格納容器内への注水量の関係を図5及び図6に示す。</p>  <p>図4 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面概要図</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>記載方針の相違</p> <p>・泊3号炉は小扉が最下層フロア床レベルと同等の高さにある連通管とは異なり高さとなるためほぼ同時に流入する。</p> <p>設計方針の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="264 188 913 655" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="421 632 770 651">図5. 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係</p> <p data-bbox="138 715 533 740">本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <p data-bbox="138 751 1048 1011">(a) 解析コード MAAP によれば、MCCI の発生に対してもっとも影響の大きい「大 LOCA+ECCS 失敗+格納容器スプレイ失敗」において、原子炉容器破損時（約 1.4 時間後）に合計 60 トン<sup>※2</sup>の溶融炉心及び溶融された炉内構造物等が原子炉下部キャビティに落下すると結果を得ている。この初期に落下する溶融炉心等の物量について、保守的に大飯 3,4 号機に装荷される炉心有効部の全量約 [ ] トンと設定し、これが原子炉下部キャビティに落下した際に蓄水した水により常温まで冷却するのに必要な水量として約 [ ]<sup>※3</sup>とした。解析結果によれば、原子炉容器破損時（約 1.4 時間後）における原子炉下部キャビティ水量は約 [ ]<sup>3</sup>（水位として約 1.3m）であり、十分な水量が確保されている。</p> <p data-bbox="203 1018 1048 1117">※2：MAAP 解析では、初期炉心熱出力を [ ] 大きめに設定しており、また、炉心崩壊熱も大きめの発熱量で推移すると設定している。そのため、原子炉容器破損時間や溶融炉心等落下物量は実態よりも早め・大きめになり、数値は十分保守的である。</p> <p data-bbox="203 1123 1048 1182">※3：初期以降に落下する溶融炉心等の冷却に必要な冷却水については、スプレイ水等により最下階に溜まった水が連通穴等により適宜注水される。</p> <p data-bbox="138 1225 1048 1284">(b) 大破断 LOCA 時には短時間に大流量が原子炉格納容器内へ注水されるため、連通穴を主経路として原子炉下部キャビティに通水されるため、以下については考慮しない。</p> <ul data-bbox="203 1327 510 1353" style="list-style-type: none"> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> <div data-bbox="338 1390 860 1415" data-label="Text"> <p>[ ] 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<div data-bbox="1128 172 1883 667" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1182 639 1823 665">図5 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係（既設連通管のみから流入の場合）</p> <p data-bbox="1055 715 1449 740">本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <p data-bbox="1055 751 1966 1011">(a) 解析コード MAAP によれば、MCCI の発生に対してもっとも影響の大きい「大破断 LOCA+ECCS 注入失敗+格納容器スプレイ失敗」において、原子炉容器破損時（約 1.6 時間後※2）に合計 [ ] トン<sup>※2</sup>の溶融炉心、溶融された炉内構造物等が原子炉下部キャビティに落下すると結果を得ている。この初期に落下する溶融炉心等の物量について、保守的に泊3号炉に装荷される炉心有効部の全量約 [ ] トンと設定し、これが原子炉下部キャビティに落下した際に蓄水した水により常温まで冷却するのに必要な水量として約 [ ]<sup>※3</sup>とした。解析結果によれば、原子炉容器破損時（約 1.4 時間後）における原子炉下部キャビティ水量は約 [ ]<sup>3</sup>（水位として約 1.5m）であり、十分な水量が確保されている。</p> <p data-bbox="1128 1018 1966 1117">※2 MAAP 解析では、初期炉心熱出力を 2% 大きめに設定しており、また、炉心崩壊熱も大きめの発熱量で推移すると想定している。そのため、原子炉容器破損時間や溶融炉心等落下物量は実態よりも早め・大きめになり、数値は十分保守的である。</p> <p data-bbox="1128 1123 1966 1182">※3 初期以降に落下する溶融炉心等の冷却に必要な冷却水については、スプレイ水等により最下階に溜まった水が連通管等により適宜注水される。</p> <p data-bbox="1055 1225 1966 1284">(b) 大破断 LOCA 時には短時間に大流量が原子炉格納容器内へ注水されるため、連通管を主経路として原子炉下部キャビティに通水されるため、上図においては以下については考慮しないこととした。</p> <ul data-bbox="1128 1294 1554 1353" style="list-style-type: none"> <li>・格納容器サンプルからのドレン配管逆流による流入</li> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> <div data-bbox="1420 1390 1935 1415" data-label="Text"> <p>[ ] 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1973 204 2107 229">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1973 783 2107 809">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1973 1225 2107 1251">設計方針の相違</p> <ul data-bbox="1973 1262 2125 1422" style="list-style-type: none"> <li>・泊3号炉は下部キャビティ床にドレン配管があるため、ドレン配管から逆流する経路がある。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
	<div data-bbox="1070 172 1951 687" style="border: 2px solid black; height: 323px; width: 393px; margin-bottom: 10px;"></div> <p data-bbox="1115 703 1827 724">図 6 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係 (追設小扉のみから流入の場合)</p> <p data-bbox="1081 751 1447 772">本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <p data-bbox="1104 783 1731 804">(a) 熔融炉心等の物量及び必要な冷却水量の設定については、図 5 と同じ。</p> <p data-bbox="1104 815 1955 871">(b) 追設する小扉の流入性確認のため、上図においては保守的に以下については考慮しないこととした。</p> <ul data-bbox="1126 887 1552 975" style="list-style-type: none"> <li>・既設の連通管からの流入</li> <li>・格納容器サンプからのドレン配管逆流による流入</li> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> <p data-bbox="1104 1023 1955 1142">(c) 保守的に、大破断 LOCA 時の初期の流入水 (RCS 配管破断水 (約 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;"> </span>)) は、既設の連通管が設置されている加圧器逃がシタンクエリアに流入し、このうち当該エリアの容積に相当する水が滞留水になると仮定した。また加圧器逃がシタンクエリアが満水となった後にオーバーフローし、階段室及び下部キャビティに流入すると仮定した。</p> <p data-bbox="1104 1158 1955 1246">(d) 実際には RCS 配管破断水及びスプレイ水は、加圧器逃がシタンクエリア (既設連通管側) 及び階段室 (追設小扉側) に同時に流入し、階段室 (追設小扉側) にも早期に流入することから、上記は保守的な仮定である。</p> <div data-bbox="1346 1342 1944 1369" style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p data-bbox="1977 204 2101 225">記載方針の相違</p> <ul data-bbox="1977 240 2123 432" style="list-style-type: none"> <li>・大飯では連通穴が 2 重化されていることから、小扉のみの流入による評価を行っていない。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉

泊発電所3号炉

相違理由

(1) 連通穴

原子炉下部キャビティへの流入経路として、炉内計装用シンプル配管室への連通穴を施工する。連通穴は1箇所のみでMCCI防止のために必要な原子炉下部キャビティ保有水を確保できることを確認しているが、2箇所設置することで多重性を持った設計とする。(図6)



図6. 連通穴施工イメージ

(2) 小扉

1箇所の連通穴からの流入のみでMCCI防止のために必要な原子炉下部キャビティ保有水を確保できることを確認しているが、原子炉格納容器最下階フロアの水位が上昇すれば、2箇所に設置する連通穴に加えて、小扉からも原子炉下部キャビティへ格納容器スプレイ水が流入する。(図7)

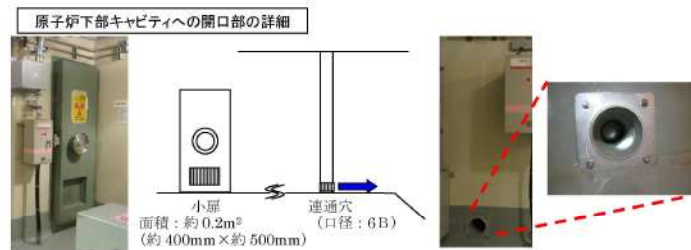


図7. 炉内計装用シンプル配管室入口小扉

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。

(1) 連通管

原子炉下部キャビティへの流入経路として、原子炉下部キャビティへの連通管を設置している。連通管は1箇所のみでMCCI防止のために必要な原子炉下部キャビティ保有水を確保できることを確認しているが、連通管と異なる位置に小扉を設置することで流路の多重性及び多様性を持った設計とする。(図7)

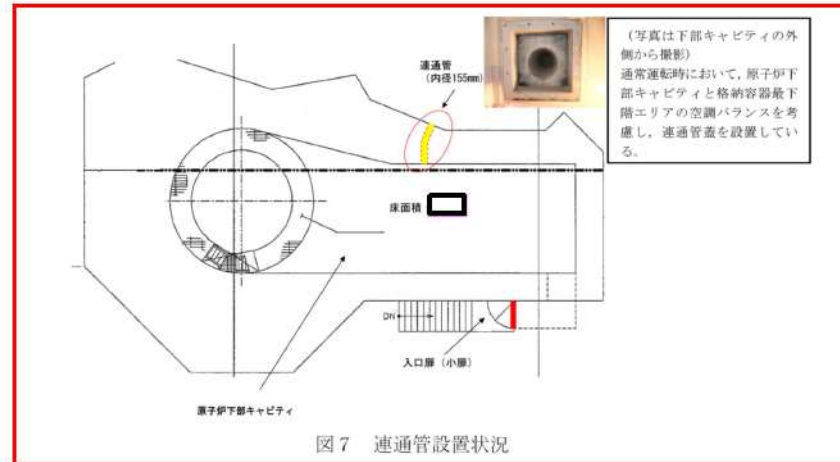


図7 連通管設置状況

(2) 小扉

連通管からの流入のみでMCCI防止のために必要な原子炉下部キャビティ保有水を確保できることを確認しているが、原子炉下部キャビティへの水の流入経路の多重性を確保するため、原子炉下部キャビティの入口扉に開口部(小扉)を設置し、小扉からも原子炉下部キャビティへ格納容器スプレイ水が流入する。(図8)

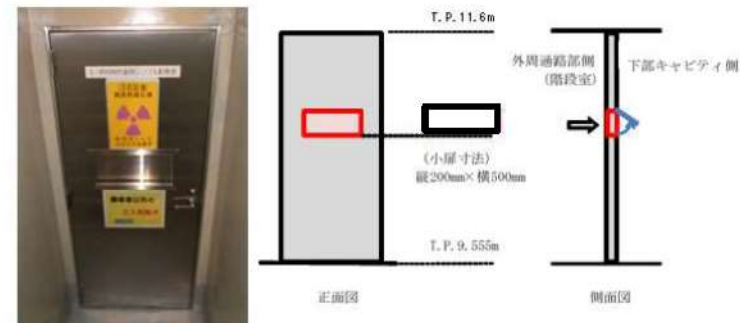


図8 □原子炉下部キャビティ入口扉小扉

□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

記載方針の相違  
 ・泊3号炉は連通管を設置済みである。

設計方針の相違  
 ・泊3号炉は連通管と異なる方向のほぼ同じ高さ(連通管よりも大きい開口部)を持つ小扉を設置することで多重性及び多様性を持った設計としている。

設計方針の相違  
 ・泊3号炉では、最下階フロアの水位上昇を待たずとも連通管と同じレベルにある小扉から格納容器スプレイ水が流入することで、多重性を確保した設計としている。



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 原子炉下部キャビティへの流入健全性について</p> <p>(1) 原子炉下部キャビティ内側からの閉塞の可能性について</p> <p>溶融炉心が原子炉下部キャビティ室に落下した際、溶融炉心等で連通穴（内側）が閉塞しないことを以下のとおり確認した。</p> <p>○解析コード MAAP によれば、「大破断 LOCA+ECCS 注入失敗+格納容器スプレイ失敗」において、以下の合計約 [ ] トンの溶融炉心等が LOCA 後 4 時間までに原子炉から落下するとの結果を得ている。</p> <p>○上記の結果に解析結果が持つ不確定性を考慮し、保守的に以下を想定して、物量が多くなるよう炉内構造物等の重量を約 [ ] トンとし、合計 [ ] トン分が下部キャビティ室に堆積することを想定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に溶融が想定される箇所は、下部炉内構造物のうち、溶融炉心が下部プレナムへ落下する際に接触する構造物の表面の一部と、滞留する下部プレナム内にある構造物であるが、これらが多めに溶け込むことを想定して、下部炉心板以下の全構造物の溶融とする。</li> <li>・原子炉容器については、クリーブ破損により開口部を生じさせる形態となり、原子炉容器そのものは落下しない。（溶融炉心と接するため、微量に溶け込む。）</li> <li>・原子炉容器下部の計装案内管については、原子炉容器との固定部が溶融されることにより、全てがその形状を保持したまま落下すること。</li> <li>・原子炉下部キャビティ室にあるサポート等が全て溶融すること。</li> </ul>	<p>2. 原子炉下部キャビティへの流入健全性について</p> <p>(1) 原子炉下部キャビティ内側からの閉塞の可能性について</p> <p>溶融炉心が原子炉下部キャビティに落下した際、溶融炉心等で連通管及び小扉が内側から閉塞しないことを以下のとおり確認した。</p> <p>○解析コード MAAP によれば、「大破断 LOCA+ECCS 注入失敗+格納容器スプレイ失敗」において、下表に示すとおり① 溶融炉心（全量）（約 [ ] トン）と② 炉内構造物等約 [ ] トンの合計約 [ ] トンの溶融炉心等が、LOCA 後 3 時間までに原子炉から落下するとの結果を得ている。</p> <p>○上記の結果に解析結果が持つ不確定性を考慮し、保守的に以下を想定して、物量が多くなるよう② 炉内構造物等の重量を約 [ ] トンとし、合計 [ ] トン分が原子炉下部キャビティに堆積することを想定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に溶融が想定される箇所は、下部炉内構造物のうち、溶融炉心が下部プレナムへ落下する際に接触する構造物の表面の一部と、滞留する下部プレナム内にある構造物であり、これらは約 [ ] トンである。これらが多めに溶け込むことを想定して、下部炉心板以下の全構造物約 [ ] トンの溶融とする。</li> <li>・原子炉容器については、クリーブ破損により開口部を生じさせる形態となり、原子炉容器そのものは落下しない。（溶融炉心と接するため、微量に溶け込む。）</li> <li>・原子炉容器下部の計装案内管については、原子炉容器との固定部が溶融されることにより、全てがその形状を保持したまま落下すること。</li> <li>・原子炉下部キャビティにあるサポート等が全て溶融することを想定する。これらの総重量は [ ] トンである。</li> </ul> <p>以上を全て合計した約 [ ] トンに対して、保守的になるように切りが良い数値として、② 炉内構造物等の重量を約 [ ] トンと設定した。</p> <p>[ ] 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>相違理由</p> <p>記載方針の相違                  設計方針の相違                  ・炉心及び炉内構造物の相違による重量の相違</p> <p>記載方針の相違                  ・重量を明確化した</p> <p>記載方針の相違                  ・想定する重量に対してより保守的に重慮を設定した</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第58条 計装設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
<table border="1" data-bbox="264 193 909 360"> <thead> <tr> <th>構成物</th> <th>材質</th> <th>重量 (MAAP)</th> <th>重量 (今回想定)</th> <th>比重*</th> <th>体積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">① 熔融炉心 (全量)</td> <td>UO<sub>2</sub></td> <td rowspan="2">[ ]</td> <td rowspan="2">[ ]</td> <td>約 11</td> <td rowspan="2">約 23m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>ZrO<sub>2</sub></td> <td>約 6</td> </tr> <tr> <td>② 炉内構造物等</td> <td>SUS304 等</td> <td rowspan="2">[ ]</td> <td rowspan="2">約 200 トン</td> <td>約 8</td> <td rowspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="302 363 465 384">※：空隙率を考慮せず</p> <p data-bbox="183 408 1048 536">以上のように保守的に設定した条件の場合において、原子炉下部キャビティ室に蓄積される熔融炉心等は約 [ ] となる。これら熔融炉心等が平均的に原子炉下部キャビティ室に堆積すると仮定した場合、原子炉下部キャビティ室の水平方向断面積は約 [ ] であるので、堆積高さは約 [ ] m となることから、原子炉下部キャビティ内側室床面から流入経路が閉塞することはない。</p> <div data-bbox="327 576 848 603" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div> <p data-bbox="152 713 703 740">(2) 原子炉下部キャビティ外側からの閉塞の可能性について</p> <p data-bbox="203 748 1041 805">原子炉下部キャビティへの流入口である連通穴は、原子炉格納容器内に発生する可能性のあるデブリにより連通穴が閉塞することのない設計とする。</p> <p data-bbox="224 815 810 841">なお、連通穴を閉塞させる恐れのある異物は以下のとおりである。</p> <p data-bbox="215 849 1048 943">(a) プラント定期検査期間中に、原子炉格納容器内に検査機器等が多く持ち込まれるが、定期検査終了後、取り残された異物</p> <p data-bbox="215 916 685 943">(b) 設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物</p> <p data-bbox="174 984 586 1011">(a) 定期検査時に持ち込まれる異物について</p> <p data-bbox="183 1019 645 1045">①定期検査時の作業のため、一時的に使用する異物</p> <ul data-bbox="228 1053 506 1182" style="list-style-type: none"> <li>・テープ</li> <li>・プラスチック、ビニール製品</li> <li>・ロープ</li> <li>・ウェス、布切れ等</li> </ul> <p data-bbox="183 1192 253 1217">②対応</p> <p data-bbox="183 1225 1048 1319">定期検査期間中は異物が放置されていないことを目視により点検するとともに、放置された異物が発見された場合は原子炉起動までに除去する等の適切な措置を講じている。また、定期検査終了後には、異物等が残っていないことを原子炉格納容器内点検にて確認している。</p> <p data-bbox="203 1327 1030 1355">引き続き、適正に異物管理を実施することで、連通穴の健全性を確保することが可能である。</p>	構成物	材質	重量 (MAAP)	重量 (今回想定)	比重*	体積	① 熔融炉心 (全量)	UO <sub>2</sub>	[ ]	[ ]	約 11	約 23m <sup>3</sup>	ZrO <sub>2</sub>	約 6	② 炉内構造物等	SUS304 等	[ ]	約 200 トン	約 8	[ ]	合計				<table border="1" data-bbox="1182 170 1827 338"> <thead> <tr> <th>構成物</th> <th>材料</th> <th>重量 (解析)</th> <th>重量 (今回想定)</th> <th>比重*</th> <th>体積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">① 熔融炉心 (全量)</td> <td>UO<sub>2</sub></td> <td rowspan="2">[ ]</td> <td rowspan="2">[ ]</td> <td>約 11</td> <td rowspan="2">約 17m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>ZrO<sub>2</sub></td> <td>約 6</td> </tr> <tr> <td>② 炉内構造物等</td> <td>SUS304 等</td> <td rowspan="2">[ ]</td> <td rowspan="2">[ ]</td> <td>約 8</td> <td rowspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1182 341 1339 362">※：空隙を考慮せず。</p> <p data-bbox="1093 408 1966 569">以上のように保守的に設定した条件の場合において、原子炉下部キャビティに蓄積される熔融炉心等は約 17m<sup>3</sup> となる。これら熔融炉心等が平均的に原子炉下部キャビティに堆積すると仮定した場合、原子炉下部キャビティの水平方向断面積は約 [ ] m<sup>2</sup> であるので、堆積高さは約 [ ] m となる。原子炉下部キャビティへの連通管まで約 [ ] m 以上あることから、熔融炉心等の堆積高さを多めに見た場合でも原子炉下部キャビティへの連通管及び小扉が内側から閉塞することはない。</p> <div data-bbox="1458 593 1951 620" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>[ ] 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div> <p data-bbox="1057 679 1608 707">(2) 原子炉下部キャビティ外側からの閉塞の可能性について</p> <p data-bbox="1115 715 1966 772">原子炉下部キャビティへの流入口である連通管と小扉は、原子炉格納容器内に発生する可能性のあるデブリにより閉塞することのない設計とする。</p> <p data-bbox="1131 782 1805 807">なお、連通管及び小扉を閉塞させる恐れのある異物は以下のとおりである。</p> <p data-bbox="1144 815 1966 909">(a) プラント定期事業者検査期間中に、原子炉格納容器内に検査機器等が多く持ち込まれるが、定期事業者検査終了後、取り残された異物</p> <p data-bbox="1144 884 1619 909">(b) 設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物</p> <p data-bbox="1115 951 1568 978">(a) 定期事業者検査時に持ち込まれる異物について</p> <p data-bbox="1131 986 1657 1011">①定期事業者検査時の作業のため、一時的に使用する異物</p> <ul data-bbox="1144 1019 1438 1149" style="list-style-type: none"> <li>・テープ</li> <li>・プラスチック、ビニール製品</li> <li>・ロープ</li> <li>・ウェス、布切れ等</li> </ul> <p data-bbox="1131 1158 1202 1184">②対応</p> <p data-bbox="1131 1192 1966 1319">定期事業者検査期間中は異物が放置されないことを目視により点検するとともに、放置された異物が発見された場合は原子炉起動までに除去する等の適切な措置を講じている。また、定期事業者検査終了後には、異物等が残っていないことを原子炉格納容器内点検にて確認している。</p> <p data-bbox="1131 1327 1966 1385">引き続き、適正に異物管理を実施することで、連通管及び小扉の健全性を確保することが可能である。</p>	構成物	材料	重量 (解析)	重量 (今回想定)	比重*	体積	① 熔融炉心 (全量)	UO <sub>2</sub>	[ ]	[ ]	約 11	約 17m <sup>3</sup>	ZrO <sub>2</sub>	約 6	② 炉内構造物等	SUS304 等	[ ]	[ ]	約 8	[ ]	合計				<p data-bbox="1973 237 2121 263">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1973 272 2134 330">・想定する構成物の重量の相違</p> <p data-bbox="1973 510 2121 536">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1973 545 2134 636">・連通管及び小扉と体積高さの関係を明確化した。</p> <p data-bbox="1973 751 2101 777">記載表現の相違</p> <p data-bbox="1973 786 2134 943">・泊では大飯における2重の連通穴と同等の多重性を確保するため、連通管と小扉を使用する。</p>
構成物	材質	重量 (MAAP)	重量 (今回想定)	比重*	体積																																													
① 熔融炉心 (全量)	UO <sub>2</sub>	[ ]	[ ]	約 11	約 23m <sup>3</sup>																																													
	ZrO <sub>2</sub>			約 6																																														
② 炉内構造物等	SUS304 等	[ ]	約 200 トン	約 8	[ ]																																													
合計																																																		
構成物	材料	重量 (解析)	重量 (今回想定)	比重*	体積																																													
① 熔融炉心 (全量)	UO <sub>2</sub>	[ ]	[ ]	約 11	約 17m <sup>3</sup>																																													
	ZrO <sub>2</sub>			約 6																																														
② 炉内構造物等	SUS304 等	[ ]	[ ]	約 8	[ ]																																													
合計																																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）





大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(b) 設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物について</p> <p>①想定する事故シーケンス</p> <p>連通穴による原子炉下部キャビティへの流入が想定される状況は、炉心損傷時であるが、炉心損傷に至る事故シーケンスとしては、主として1次冷却材管のLOCA又は過渡事象が起因となる。そのうち発生異物量が最大となる、1次冷却材管の大破断LOCAを想定して発生異物への対策を考察する。</p> <p>②大破断LOCA時に発生する異物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・破損保温材（繊維質）：ロックウール、<span style="color: red;">グラスウール</span></li> <li>・破損保温材（粒子状）：<span style="color: red;">ケイ酸カルシウム</span></li> <li>・その他粒子状異物：塗装</li> <li>・堆積異物（繊維質、粒子）</li> </ul> <p>上記異物のうち、各種保温材については、1次冷却材管の破断点を中心として想定される破損影響範囲において発生することから、ループ室内で発生する。それら以外の粒子状異物及び堆積異物に関してはループ室内外で発生する。</p>	<p>(b) 設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物について</p> <p>①想定する事故シーケンス</p> <p>連通管及び小扉による原子炉下部キャビティへの流入が想定される状況は、炉心損傷時であるが、炉心損傷に至る事故シーケンスとしては、主として1次冷却材管のLOCA又は過渡事象が起因となる。そのうち発生異物量が最大となる、1次冷却材の大破断LOCAを想定して発生異物への対策を考察する。</p> <p>②大破断LOCA時に発生する異物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・破損保温材（繊維質）：ロックウール</li> <li>・その他粒子状異物：塗装</li> <li>・堆積異物（繊維質、粒子）</li> </ul> <p>上記異物のうち、各種保温材については、1次冷却材管の破断点を中心として想定される破損影響範囲において発生することから、ループ室内で発生する。それら以外の粒子状異物及び堆積異物に関してはループ室内外で発生する。</p>	<p><span style="color: red;">設計方針の相違</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊ではデブリ対策として格納容器内でグラスウール及びケイ酸カルシウムを使用していない。</li> </ul>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

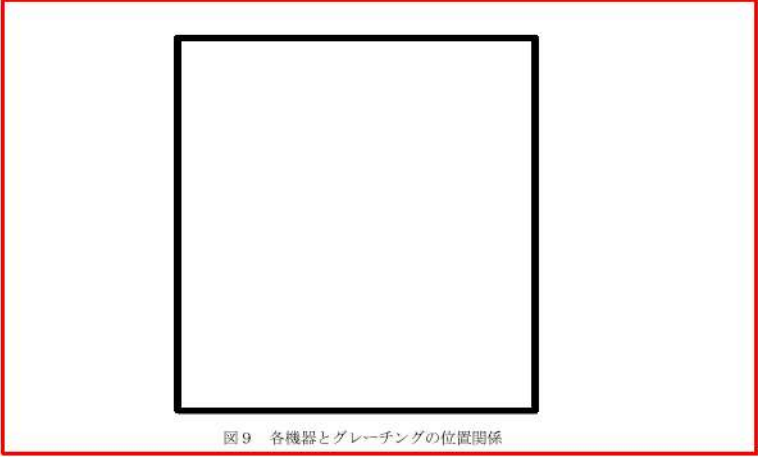
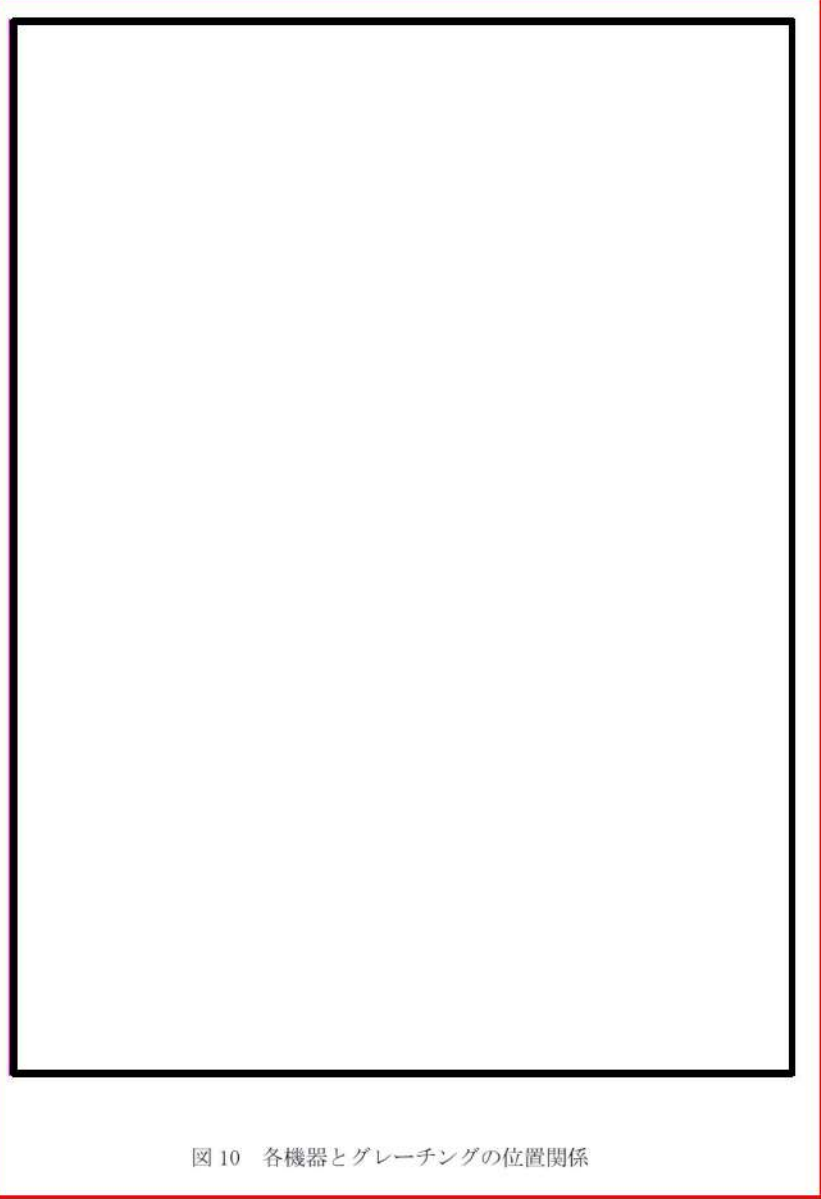

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>③対応</p> <p>i. ループ室内で発生する異物への対応</p> <p>大破断LOCA時にループ室内で発生する異物は、大部分が蒸気発生器保温材及び1次冷却材管保温材であり、ループ室内のグレーチングの開口部等を通じた大型保温材や、クロスオーバーレグの大型保温材が、万一連通穴（φ155mm）に到達することを防止するために、各ループ室最下階入口（5箇所）に、下部80cmに網目30mm×100mmのグレーチングを取り付けた金網扉を設置する。（図8）</p> <p>保温材等の異物は、ループ室入口の金網扉に至るまでにループ室各階の床グレーチングにて補足される。（図9）また、ループ室床面グレーチングとループ室入口の金網扉の網目の大きさは同じであり、ループ室床のグレーチングを通過した保温材等によりループ室入口の金網扉が閉塞することは無い。また、この網目を通る異物については連通穴（φ155mm）を閉塞させることは考えにくい。</p> <p>ii. ループ室外で発生する異物への対応</p> <p>大破断LOCA時にループ室外で発生する異物は、塗装等の粒子状異物及び堆積異物であるが、万一、ループ室床面（E.L.+17.6m）に落下しても、流路が複雑かつ長いこと等により、原子炉下部キャビティまで到達し難い。（図10）更に、連通穴は原子炉格納容器最下層床面近傍に位置しており、また穴径も155mmであることから、ループ室外で発生する塗装等の粒子状異物及び堆積異物が、連通穴を閉塞させるような大型の異物に該当するとは考えにくい。さらに、連通穴は複数設置することで多重性を持った設計としている。</p> <p>(d) まとめ</p> <p>プラント定期検査期間中に、原子炉格納容器内に検査機器等が多く持ち込まれるが、定期検査時及び終了後に異物が放置されていないことを目視により点検している。</p> <p>設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物は、発生異物量が最大となる1次冷却材管の大破断LOCAを想定している。連通穴を閉塞させるような大きな塊の保温材は大破断LOCA時にループ室で発生するものの、ループ室床面等のグレーチングで捕捉されるなど原子炉下部キャビティまで到達し難いが、さらにループ室出口に柵を設ける対策を講じている。さらに、原子炉下部キャビティへの流入経路である連通穴は複数確保して多重性を確保する。</p> <p>以上のことにより、原子炉下部キャビティへの流入の健全性を確保する。</p>	<p>③対応</p> <p>i. ループ室内で発生する異物への対応</p> <p>大破断LOCA時にループ室内で発生する異物は、大部分が蒸気発生器保温材及び1次冷却材管保温材であり、ループ室内のグレーチングの開口部等を通じた大型保温材や、クロスオーバーレグの大型保温材が、万一連通管（内径155mm）及び小扉（200mm×500mm）に到達することを防止するために、T.P.17.8mの外周通路部床面の階段開口部（2箇所）の手摺部に、グレーチングと同程度のメッシュ間隔のパンチングメタル板を設置する。（図9）（この他に機器搬入部の開口部が1箇所あり、既にグレーチングを設置している。）</p> <p>保温材等の異物は、T.P.17.8mの外周通路部床面の階段開口部の手摺部のパンチングメタル板に至るまでにループ室各階の床グレーチングにて捕捉される。（図10）また、ループ室床面グレーチングとパンチングメタル板の網目の大きさは同程度であり、ループ室床のグレーチングを通過した保温材等によりパンチングメタル板が閉塞することはない。また、この網目を通る異物については連通管（内径155mm）及び小扉（200mm×500mm）を閉塞させることは考えにくい。</p> <p>ii. ループ室外で発生する異物への対応</p> <p>大破断LOCA時にループ室外で発生する異物は、塗装等の粒子状異物及び堆積異物であるが、万一、ループ室床面（T.P.17.8m）に落下しても、流路が複雑かつ長いこと等により、原子炉下部キャビティまで到達し難い。（図11）更に、連通管及び小扉は原子炉格納容器最下層床面近傍に位置しており、また穴径及びサイズもそれぞれ155mm、200mm×500mmであることから、ループ室外で発生する塗装等の粒子状異物及び堆積異物が、連通管及び小扉を閉塞させるような大型の異物に該当するとは考えにくい。さらに、連通管（内径155mm）と小扉（200mm×500mm）をそれぞれ設置することで多重性を持った設計としている。</p> <p>(c) まとめ</p> <p>プラント定期事業者検査期間中に、原子炉格納容器内に検査機器等が多く持ち込まれるが、定期事業者検査時及び終了後に異物が放置されていないことを目視により点検している。</p> <p>設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物は、発生異物量が最大となる1次冷却材管の大破断LOCAを想定している。連通管及び小扉を閉塞させるような大きな塊の保温材は大破断LOCA時にループ室で発生するものの、ループ室床面等のグレーチングで捕捉されるなど原子炉下部キャビティまで到達し難いが、さらにT.P.17.8mの外周通路部床面の階段開口部の手摺部にパンチングメタル板を設ける対策を講じている。さらに、原子炉下部キャビティへの流入経路は連通管（内径155mm）と小扉（200mm×500mm）をそれぞれ設置することで多重性を確保する。</p> <p>以上のことにより、原子炉下部キャビティへの流入の健全性を確保する。</p>	<p>相違理由</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では設置場所の相違からパンチングメタル板を使用しているが、網目サイズをグレーチングと同程度とすることで異物の捕捉性能に相違はない。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ループ室床高さの設計が相違している。</li> </ul> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では大飯における2重の連通穴と同等の多重性を確保するため、連通管と小扉を使用する。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造は異なるが、異物の捕捉性能は同等である。</li> </ul> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開口部のサイズを明確化した。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
<div data-bbox="203 284 972 1118" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="479 1123 687 1145" style="text-align: center;"> <p>図 8 保温材等のデブリ対策</p> </div> <div data-bbox="327 1174 846 1203" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<div data-bbox="1093 181 1928 1177" style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <div data-bbox="1330 188 1518 293" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>大型の破損保温材等を捕捉するため、階段開口部周囲を囲むように手摺にパンチングメタルを設置した。(写真 A)</p> </div> <div data-bbox="1637 181 1899 288" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>T.P.17.8m フロア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: blue;">→</span> : 水平方向の水の流れ</li> <li><span style="color: blue;">⇩</span> : 下層階への水の流れ</li> <li><span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 床開口部</li> </ul> </div> <div data-bbox="1122 405 1285 459" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>LOCA 発生場所 (ループ室内)</p> </div> <div data-bbox="1093 587 1285 740" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="1093 751 1375 810" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>機器搬入口の開口部には既にグレーチングが設置されており、大型の破損保温材等は捕捉される。</p> </div> <div data-bbox="1122 842 1384 1050" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="1099 1059 1391 1098" style="text-align: center;"> <p>(写真 A) 階段開口部に設置したパンチングメタル</p> </div> <div data-bbox="1429 772 1644 938" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="1666 842 1928 1050" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="1653 1059 1944 1098" style="text-align: center;"> <p>(写真 B) 階段開口部に設置したパンチングメタル</p> </div> <div data-bbox="1742 320 1921 528" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>LOCA 時の大型の破損保温材を含んだ水は、ループ室入口を経由し、階段開口部 2 箇所及び機器搬入口 1 箇所を通過して、最下階へ流下する。従ってこの 3 箇所で、大型の破損保温材等を捕捉できるよう、対処を図る。</p> </div> <div data-bbox="1742 628 1921 730" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>大型の破損保温材等を捕捉するため、階段開口部周囲を囲むように手摺にパンチングメタルを設置した。(写真 B)</p> </div> <div data-bbox="1391 1139 1630 1161" style="text-align: center;"> <p>図 9 保温材等のデブリ対策</p> </div> </div> <div data-bbox="1249 1190 1711 1212" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1973 277 2101 300" style="color: red;"> <p>設計方針の相違</p> </div>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
 <p data-bbox="443 1193 725 1214">図 9 各機器とグレーチングの位置関係</p>	 <p data-bbox="1301 1321 1704 1342">図 10 各機器とグレーチングの位置関係</p> <p data-bbox="1272 1417 1816 1437">  枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </p>	<p data-bbox="1973 308 2101 328">設計方針の相違</p>


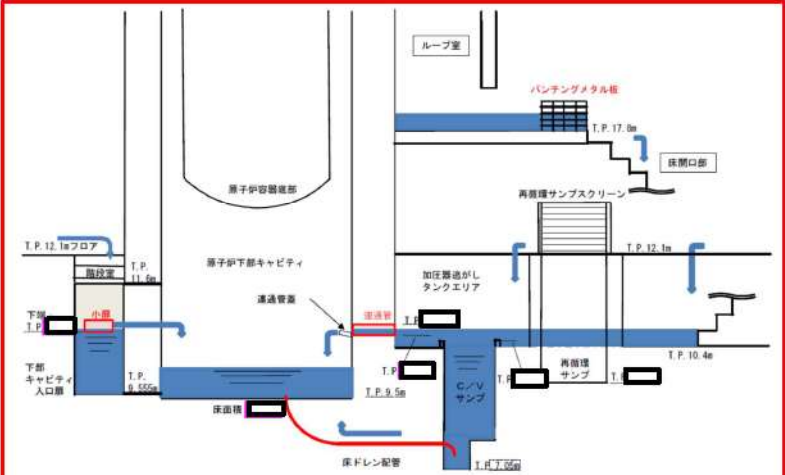
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="224 172 967 614" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p data-bbox="273 619 907 638">図10-1 各グループ室から原子炉下部キャビティまでの流路（大飯3号機 断面図の例）</p> <div data-bbox="324 651 844 678" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="353 657 815 671">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div> <div data-bbox="257 801 940 1204" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p data-bbox="291 1216 873 1235">図10-2 各グループ室から原子炉下部キャビティまでの流路（大飯3号機 17.6M 平面図）</p> <div data-bbox="353 1273 822 1300" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="360 1279 792 1294">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<div data-bbox="1120 300 1921 1332" style="border: 2px solid red; width: 100%; height: 100%; padding: 10px;"> <div data-bbox="1288 338 1724 778" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p data-bbox="1438 785 1585 801">T. P. 17.8m フロア</p> <div data-bbox="1288 801 1724 1220" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p data-bbox="1438 1225 1585 1241">T. P. 10.4m フロア</p> <div data-bbox="1205 1104 1243 1120">小扉</div> <div data-bbox="1765 1120 1818 1136">連通管</div> </div> <p data-bbox="1281 1248 1742 1295">図11 各グループ室から原子炉下部キャビティまでの流路 (T. P. 17.8m/10.4m 平面図)</p> <div data-bbox="1321 1337 1780 1364" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="1377 1343 1780 1358">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div> <div data-bbox="1742 507 1899 534" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="1780 513 1886 528">: 床開口部</p> </div>	<p data-bbox="1975 311 2101 327">設計方針の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. まとめ</p> <p>原子炉下部キャビティへ通じる炉内核計装用シンプル配管室への注水を確実にするために、以下の対策を実施する。(図11)</p> <p>①原子炉下部キャビティへの流入経路確保</p> <p>原子炉下部キャビティへ通じる炉内計装用シンプル配管室への連通穴2箇所設置。              また、炉内計装用シンプル配管入口扉に小扉を従来より設置している。</p> <p>②保温材等のデブリ対策</p> <p>各ループ室最下階入口（4箇所）にデブリ捕捉用の柵を設置する。</p> <p>これらの対策により、以下に示す効果が期待できることから、原子炉下部キャビティへの注水を確実に実施することができる。</p> <p>○大破断LOCAにより発生する保温材等のデブリは、デブリ捕捉用の柵により捕捉することができるため、連通穴にこれらのデブリが到達することはない。また、連通穴についてはデブリにより閉塞し難い構造であるため、外側から通水経路が閉塞することはない。</p> <p>○溶融炉心等が平均的に原子炉下部キャビティに堆積することを想定した場合においても、連通穴の設置高さは堆積高さより高いことから、内側から注水経路が閉塞することはない。</p>	<p>3. まとめ</p> <p>原子炉下部キャビティへの注水を確実にするために、以下の対策を実施する。(図12)</p> <p>① 原子炉下部キャビティへの流入経路確保</p> <p>原子炉下部キャビティ入口扉に小扉を設置。              また、原子炉下部キャビティへの連通管を従来より設置している。</p> <p>② 保温材等のデブリ対策</p> <p>T.P.17.8mの外周通路部床面の階段開口部（2箇所）の手摺部にデブリ捕捉用のパンチングメタル板を設置する。</p> <p>これらの対策により、以下に示す効果が期待できることから、原子炉下部キャビティへの注水を確実に実施することができる。</p> <p>○大破断LOCAにより発生する大型の保温材等のデブリは、デブリ捕捉用のパンチングメタル板及びグレーチングにより捕捉することができるため連通管及び小扉の外側にこれらのデブリが到達することはない。また、連通管及び小扉についてはデブリにより閉塞し難い構造であるため、外側から通水経路が閉塞することはない。</p> <p>○溶融炉心等が平均的に原子炉下部キャビティに堆積することを想定した場合においても、連通管及び小扉の設置高さは堆積高さより高いことから、内側から注水経路が閉塞することはない。</p>	<p>相違理由</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊3号炉は連通管と異なる方向のほぼ同じ高さに連通管よりも大きい開口部を持つ小扉を設置することで多重性及び多様性を持つ設計としている。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では設置場所の相違からパンチングメタル板を採用しているが、捕捉性能は同等である。</li> <li>・泊では床面開口部にグレーチングを設置している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
 <p data-bbox="398 600 775 619">図 11 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面図</p> <p data-bbox="331 628 846 647">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p data-bbox="1285 663 1783 683">図 12 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面図</p> <p data-bbox="1308 703 1845 722">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p data-bbox="1980 204 2101 223">設計方針の相違</p>




赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">別紙</p> <p style="text-align: center;">原子炉下部キャビティへの蓄水時間について</p> <p>1. 原子炉下部キャビティへの流入箇所</p> <p>原子炉格納容器の最下階エリアからは、図 1 に示すとおり原子炉下部キャビティに通じる連通穴を経由して原子炉下部キャビティへ流入する。また、原子炉格納容器最下階フロアの水位上昇に伴い、小扉からも流入する。</p> <p>図 2 に連通穴から原子炉下部キャビティへ流入する場合の、最下階エリア及び原子炉下部キャビティの水位と原子炉格納容器内への注水量の関係を示す。</p> <p>なお、解析コード MAAP によると、図 3 のとおり溶融炉心等を常温まで冷却するのに必要な水量を上回る冷却水が、原子炉容器破損時 (約 1.4 時間後) までに確保可能である。</p> <div data-bbox="250 742 965 1204" style="border: 1px solid black; width: 319px; height: 290px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">図 1. 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面概要図</p> <div data-bbox="327 1225 846 1254" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</div>	<p style="text-align: center;">別紙</p> <p style="text-align: center;">原子炉下部キャビティへの蓄水時間について</p> <p>1. 原子炉下部キャビティへの流入箇所</p> <p>原子炉格納容器の最下階エリアからは、図 1 に示すとおり原子炉下部キャビティに通じる開口部 (連通管及び小扉) を経由して原子炉下部キャビティへ流入する。</p> <p>図 2 及び図 3 に連通管又は小扉から原子炉下部キャビティへ流入する場合の、最下階エリア及び原子炉下部キャビティの水位と原子炉格納容器内への注水量の関係を示す。</p> <p>原子炉下部キャビティに通じる開口部は 2 箇所 (連通管及び小扉) あり、仮にどちらか一方が閉塞した場合においても、図 2 及び図 3 のとおり冷却に必要な冷却水の確保は可能である。</p> <p>なお、解析コード MAAP によると、図 4 のとおり溶融炉心等を常温まで冷却するのに必要な水量を上回る冷却水が、原子炉容器破損時 (約 1.6 時間後) までに確保可能である。</p> <div data-bbox="1140 742 1890 1339" style="border: 1px solid black; width: 335px; height: 374px; margin: 10px auto;"> </div> <p style="text-align: center;">図 1 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面概要図</p> <div data-bbox="1288 1369 1778 1398" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊 3 号炉は小扉が、連通管とは同高きとなるため同様に流入する。</li> </ul> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では大飯における 2 重の連通穴と同等の多重性を確保するため、連通管と小扉を使用する。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="342 180 813 512" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="421 513 770 536" data-label="Caption"> <p>図2. 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係。</p> </div> <p>本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <p>(a) 解析コード MAAP によれば、MCCI の発生に対してもっとも影響の大きい「大 LOCA+ECCS 失敗+格納容器スプレイ失敗」において、原子炉容器破損時（約 1.4 時間後）に合計 <input type="text"/> トン<sup>*1</sup> の熔融炉心及び熔融された炉内構造物等が原子炉下部キャビティに落下するとの結果を得ている。この初期に落下する熔融炉心等の物量について、保守的に大飯 3,4 号機に装荷される炉心有効部の全量約 <input type="text"/> トンと設定し、これが原子炉下部キャビティに落下した際に蓄水した水により常温まで冷却するのに必要な水量として約 <input type="text"/> <sup>*2</sup> とした。</p> <p>※1：MAAP 解析では、初期炉心熱出力を <input type="text"/> 大きめに設定しており、また、炉心崩壊熱も大きめの発熱量で推移すると設定している。そのため、原子炉容器破損時間や熔融炉心等落下物量は実態よりも早め・大きめになり、数値は十分保守的である。</p> <p>※2：初期以降に落下する熔融炉心等の冷却に必要な冷却水については、スプレイ水等により最下階に溜まった水が連通穴等により適宜注水される。</p> <p>(b) 大破断 LOCA 時には短時間に大流量が原子炉格納容器内へ注水されるため、連通穴を主経路として原子炉下部キャビティに通水されるため、原子炉容器外周隙間からの流入については考慮しない。</p> <div data-bbox="327 1361 848 1390" data-label="Text"> <p><input type="text"/> 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<div data-bbox="1064 172 1937 694" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1055 700 1948 766" data-label="Caption"> <p>図2 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係（既設連通管のみから流入の場合）</p> </div> <p>本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <p>(a) 解析コード MAAP によれば、MCCI の発生に対してもっとも影響の大きい「大破断 LOCA+ECCS 注入失敗+格納容器スプレイ失敗」において、原子炉容器破損時（約 1.6 時間後）に合計 <input type="text"/> トン<sup>*2</sup> の熔融炉心、熔融された炉内構造物等が原子炉下部キャビティに落下するとの結果を得ている。この初期に落下する熔融炉心等の物量について、保守的に泊 3 号炉に装荷される炉心有効部の全量約 <input type="text"/> トンと設定し、これが原子炉下部キャビティに落下した際に蓄水した水により常温まで冷却するのに必要な水量として約 <input type="text"/> <sup>*3</sup> とした。</p> <p>※2 MAAP 解析では、初期炉心熱出力を 2% 大きめに設定しており、また、炉心崩壊熱も大きめの発熱量で推移すると想定している。そのため、原子炉容器破損時間や熔融炉心等落下物量は実態よりも早め・大きめになり、数値は十分保守的である。</p> <p>※3 初期以降に落下する熔融炉心等の冷却に必要な冷却水については、スプレイ水等により最下階に溜まった水が連通管等により適宜注水される。</p> <p>(b) 大破断 LOCA 時には短時間に大流量が原子炉格納容器内へ注水されるため、連通管を主経路として原子炉下部キャビティに通水されるため、以下については考慮しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器サンプからのドレン配管逆流による流入</li> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> <div data-bbox="1462 1374 1955 1398" data-label="Text"> <p><input type="text"/> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>設計方針の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊3号炉は下部キャビティ床にドレン配管があるため、ドレン配管から逆流する経路がある。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所 3 / 4 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
	 <p data-bbox="1093 699 1921 724">図 3 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係(追設小扉のみから流入の場合)</p> <p data-bbox="1077 783 1451 805">本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <p data-bbox="1099 817 1742 839">(a) 溶融炉心等の物量及び必要な冷却水量の設定については、図 2 と同じ。</p> <p data-bbox="1099 850 1749 873">(b) 追設する小扉の流入性確認のため、保守的に以下については考慮しない。</p> <ul data-bbox="1122 884 1563 975" style="list-style-type: none"> <li>・既設の連通管からの流入</li> <li>・格納容器サンプからのドレン配管逆流による流入</li> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> <p data-bbox="1099 986 1966 1114">(c) 保守的に、大破断 LOCA 時の初期の流入水 ( RCS 配管破断水 ( 緑 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;"> </span> ) ) は、既設の連通管が設置されている加圧器逃がシタンクエリアに流入し、このうち当該エリアの容積に相当する水が滞留水になると仮定した。また加圧器逃がシタンクエリアが満水となった後にオーバーフローし、階段室及び下部キャビティに流入すると仮定した。</p> <p data-bbox="1099 1125 1966 1216">(d) 実際には RCS 配管破断水及びスプレイ水は、加圧器逃がシタンクエリア ( 既設連通管側 ) 及び階段室 ( 追設小扉側 ) に同時に流入し、階段室 ( 追設小扉側 ) にも早期に流入することから、上記は保守的な仮定である。</p> <p data-bbox="1458 1347 1951 1369" style="text-align: right;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </p>	<p data-bbox="1973 172 2101 194">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1973 205 2123 363">・大阪では連通穴が 2 重化されていることから、小扉のみの流入による評価を行っていない。</p>

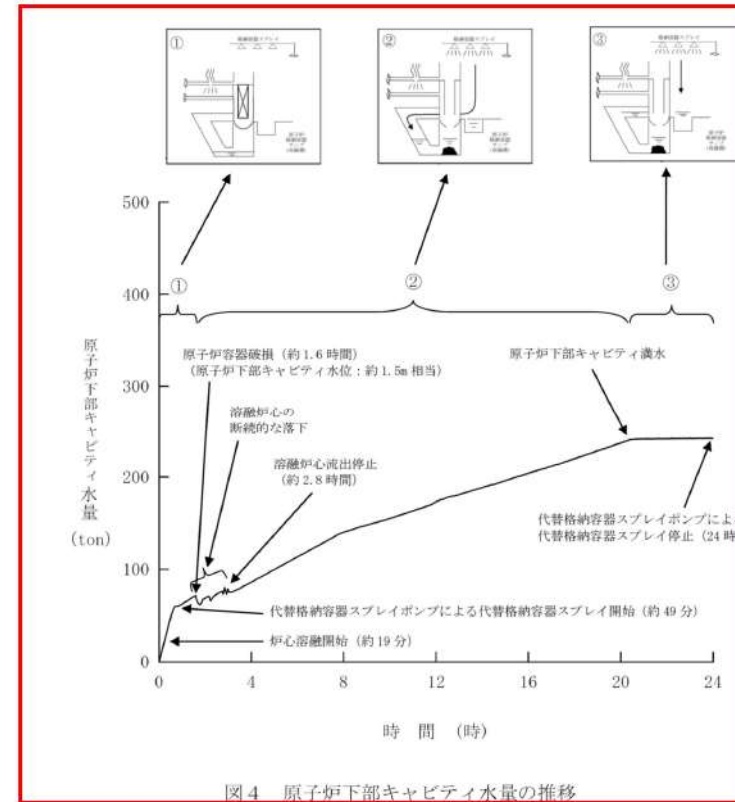
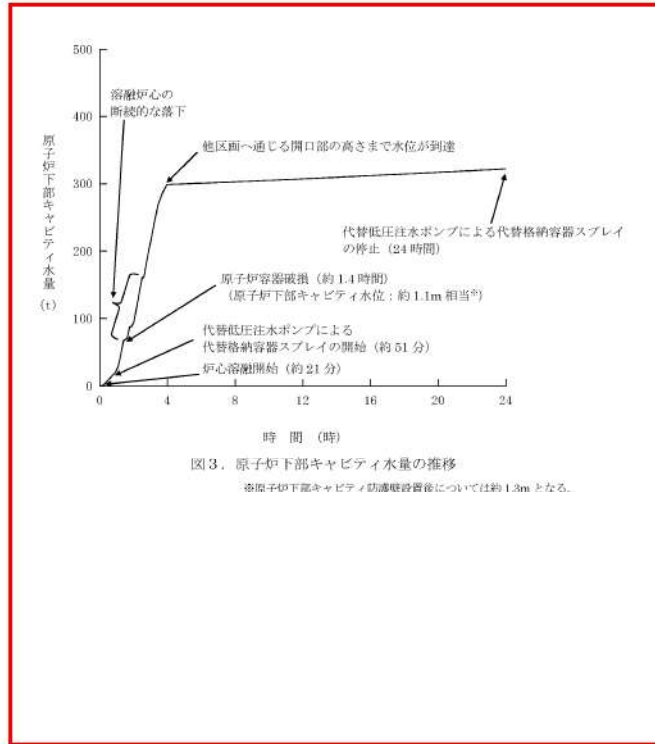
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第58条 計装設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉

泊発電所3号炉

相違理由



設計方針の相違  
 ・格納容器配置等の  
 相違による



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容  
 赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>原子炉格納容器内の冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について</p> <p>原子炉格納容器内の冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について、次ページ以降に示す。</p> <p>原子炉格納容器内の冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について</p> <p>重大事故等発生時に、原子炉格納容器（以下、「CV」という。）内の圧力、温度が上昇した場合における、CV内の冷却状況の確認方法について説明する。</p> <p>1. 現状と課題</p> <p>重大事故等時におけるCV内の冷却の確認については、重大事故等時において確認可能なCV内全体雰囲気の圧力、温度計により、確認できるようになっている。</p> <p>しかしながら、よりの確に事故等対応の判断を行うためには、CV冷却が行われていることの確認を多様化することが望ましいことから、CV外に設置された温度計でのCV冷却状況確認の可否について検討した。</p> <p>大飯3号炉及び4号炉のCV外温度計の現状は下表のとおりであり、格納容器再循環ユニットの出口温度計だけが計測不可で、他の温度計はトレンド監視が可能である。</p>	<p>(女川該当資料なし)</p>	<p>別紙5</p> <p>原子炉格納容器内の冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について</p> <p>原子炉格納容器内の冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について、次ページ以降に示す。</p> <p>原子炉格納容器内の冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について</p> <p>重大事故等発生時に、原子炉格納容器内の圧力、温度が上昇した場合における、原子炉格納容器内の冷却状況の確認方法について説明する。</p> <p>1. 現状と課題</p> <p>重大事故等時における原子炉格納容器内の冷却の確認については、重大事故等時において確認可能な原子炉格納容器内全体雰囲気の圧力、温度計により、確認できるようになっている。</p> <p>しかしながら、よりの確に事故等対応の判断を行うためには、原子炉格納容器冷却が行われていることの確認を多様化することが望ましいことから、原子炉格納容器外に設置された温度計での原子炉格納容器冷却状況確認の可否について検討した。</p> <p>泊3号炉の原子炉格納容器外温度計の現状は第1表のとおりであり、海水通水時の格納容器再循環ユニットの入口及び出口温度計だけがトレンド監視不可で、他の温度計はトレンド監視が可能である。</p>	<p>【大飯】資料構成の相違</p> <p>【大飯】用語の統一 「CV」→「原子炉格納容器」として統一。以下同じ。</p> <p>【大飯】申請プラントの相違</p> <p>【大飯】設計方針の相違</p> <p>【大飯】設備構成の相違</p> <p>・海水通水時において、大飯では原子炉補機冷却水冷却器出口温度計上流より注水するが、泊では原子炉補機冷却水冷却器出口温度計下流より注水するため、格納容器再循環ユニットの入口温度についてもトレンド監視不可となる。(可搬型温度計測装置の設置によって格納容器再循環ユニット入口温度および出口温度の監視可能となることは大飯と同様)。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第58条 計装設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉			女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉			相違理由																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>冷却モード</th> <th>対象ヒートシンク</th> <th>説明（CV外温度計の状況等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>余熱除去系再循環</td> <td>余熱除去冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)</td> <td>余熱除去冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。 また、原子炉補機冷却水冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。</td> </tr> <tr> <td>格納容器スプレィ系再循環</td> <td>格納容器スプレィ冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)</td> <td>原子炉補機冷却水冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。</td> </tr> <tr> <td>格納容器再循環ユニット冷却（補機冷却水通水）</td> <td>格納容器再循環ユニット (原子炉補機冷却水冷却器)</td> <td>格納容器再循環ユニット入口温度及び出口温度（原子炉補機冷却水冷却器出口及び入口温度）が、トレンド監視可能。</td> </tr> <tr> <td>格納容器再循環ユニット冷却（海水）</td> <td>格納容器再循環ユニット</td> <td>格納容器再循環ユニット入口温度（原子炉補機冷却水冷却器出口温度）が、トレンド監視可能。 格納容器再循環ユニット出口温度は指示計なし。</td> </tr> </tbody> </table>			冷却モード	対象ヒートシンク	説明（CV外温度計の状況等）	余熱除去系再循環	余熱除去冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)	余熱除去冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。 また、原子炉補機冷却水冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。	格納容器スプレィ系再循環	格納容器スプレィ冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)	原子炉補機冷却水冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。	格納容器再循環ユニット冷却（補機冷却水通水）	格納容器再循環ユニット (原子炉補機冷却水冷却器)	格納容器再循環ユニット入口温度及び出口温度（原子炉補機冷却水冷却器出口及び入口温度）が、トレンド監視可能。	格納容器再循環ユニット冷却（海水）	格納容器再循環ユニット	格納容器再循環ユニット入口温度（原子炉補機冷却水冷却器出口温度）が、トレンド監視可能。 格納容器再循環ユニット出口温度は指示計なし。	<p>第1表 原子炉格納容器外温度計の現状</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>冷却モード</th> <th>対象ヒートシンク</th> <th>説明（原子炉格納容器外での温度監視方法等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>余熱除去系再循環</td> <td>余熱除去冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)</td> <td>余熱除去冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。 また、原子炉補機冷却水冷却器の入口及び出口温度が、トレンド監視可能。</td> </tr> <tr> <td>格納容器スプレィ系再循環</td> <td>格納容器スプレィ冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)</td> <td>格納容器スプレィ冷却器の出口温度が、トレンド監視可能。 また、原子炉補機冷却水冷却器の入口温度及び出口温度がトレンド監視可能。</td> </tr> <tr> <td>格納容器再循環ユニット冷却（補機冷却水通水）</td> <td>格納容器再循環ユニット (原子炉補機冷却水冷却器)</td> <td>格納容器再循環ユニット入口温度及び出口温度（原子炉補機冷却水冷却器の出口及び入口温度）が、トレンド監視可能。</td> </tr> <tr> <td>格納容器再循環ユニット冷却（海水）</td> <td>格納容器再循環ユニット</td> <td>格納容器再循環ユニット入口温度及び出口温度ともに、トレンド監視不可。</td> </tr> </tbody> </table>			冷却モード	対象ヒートシンク	説明（原子炉格納容器外での温度監視方法等）	余熱除去系再循環	余熱除去冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)	余熱除去冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。 また、原子炉補機冷却水冷却器の入口及び出口温度が、トレンド監視可能。	格納容器スプレィ系再循環	格納容器スプレィ冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)	格納容器スプレィ冷却器の出口温度が、トレンド監視可能。 また、原子炉補機冷却水冷却器の入口温度及び出口温度がトレンド監視可能。	格納容器再循環ユニット冷却（補機冷却水通水）	格納容器再循環ユニット (原子炉補機冷却水冷却器)	格納容器再循環ユニット入口温度及び出口温度（原子炉補機冷却水冷却器の出口及び入口温度）が、トレンド監視可能。	格納容器再循環ユニット冷却（海水）	格納容器再循環ユニット	格納容器再循環ユニット入口温度及び出口温度ともに、トレンド監視不可。	<p>2. 対応内容</p> <p>重大事故等時において、CV冷却状況確認は、基本的にはCV圧力監視で対応可能であるが、それに加え、CV冷却状況確認手段に多様性を持たせるために、冷却不調の場合の追加対応であること及び計測が必要となるまでに時間的な余裕があることを踏まえて、記録機能を備えた可搬型の温度計を配備する。測定にあたっては、格納容器再循環ユニット入口配管及び出口配管にて温度を測定する。</p> <p>なお、重大事故等時の原子炉補機冷却水による自然対流冷却時に、沸騰防止のために原子炉補機冷却水サージタンクを加圧することから、既設圧力計の代替計器として可搬型の計器にてサージタンクの圧力を計測する。</p> <p>3. 可搬型温度計測の概要</p> <p>(1) 温度計測機器の構成</p> <p>温度ロガー、温度センサー、データコレクタ（データ収集用）</p> <p>(2) 温度計の仕様</p> <p>測定範囲：約200℃まで計測可能</p> <p>（格納容器過温破損（全交流動力電源喪失+補助給水失敗）における原子炉格納容器雰囲気温度の最高値（約144℃）が計測可能であり、余裕をみても十分測定可能な範囲としている。）</p> <p>重量：約100g（1台当たり）</p>			<p>【大飯】設備構成の相違</p> <p>・泊では格納容器スプレィ系再循環時において、格納容器スプレィ冷却器出口温度にてトレンド監視が可能。</p> <p>【大飯】設備構成の相違</p> <p>・海水通水時において、大飯では原子炉補機冷却水冷却器出口温度計上流より注水するが、泊では原子炉補機冷却水冷却器出口温度計下流より注水するため、格納容器再循環ユニットの入口温度についてもトレンド監視不可となる。（可搬型温度計測装置の設置によって格納容器再循環ユニット入口温度および出口温度の監視可能となることは大飯と同様）</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>・泊は有効性評価における記載表現と整合を図っている。想定する事故シナリオは大飯と同様。</p> <p>【大飯】解析結果の相違</p>
冷却モード	対象ヒートシンク	説明（CV外温度計の状況等）																																					
余熱除去系再循環	余熱除去冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)	余熱除去冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。 また、原子炉補機冷却水冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。																																					
格納容器スプレィ系再循環	格納容器スプレィ冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)	原子炉補機冷却水冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。																																					
格納容器再循環ユニット冷却（補機冷却水通水）	格納容器再循環ユニット (原子炉補機冷却水冷却器)	格納容器再循環ユニット入口温度及び出口温度（原子炉補機冷却水冷却器出口及び入口温度）が、トレンド監視可能。																																					
格納容器再循環ユニット冷却（海水）	格納容器再循環ユニット	格納容器再循環ユニット入口温度（原子炉補機冷却水冷却器出口温度）が、トレンド監視可能。 格納容器再循環ユニット出口温度は指示計なし。																																					
冷却モード	対象ヒートシンク	説明（原子炉格納容器外での温度監視方法等）																																					
余熱除去系再循環	余熱除去冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)	余熱除去冷却器の入口温度及び出口温度が、トレンド監視可能。 また、原子炉補機冷却水冷却器の入口及び出口温度が、トレンド監視可能。																																					
格納容器スプレィ系再循環	格納容器スプレィ冷却器 (原子炉補機冷却水冷却器)	格納容器スプレィ冷却器の出口温度が、トレンド監視可能。 また、原子炉補機冷却水冷却器の入口温度及び出口温度がトレンド監視可能。																																					
格納容器再循環ユニット冷却（補機冷却水通水）	格納容器再循環ユニット (原子炉補機冷却水冷却器)	格納容器再循環ユニット入口温度及び出口温度（原子炉補機冷却水冷却器の出口及び入口温度）が、トレンド監視可能。																																					
格納容器再循環ユニット冷却（海水）	格納容器再循環ユニット	格納容器再循環ユニット入口温度及び出口温度ともに、トレンド監視不可。																																					
<p>2. 対応内容</p> <p>重大事故等時において、原子炉格納容器冷却状況確認は、基本的には原子炉格納容器圧力監視で対応可能であるが、それに加え、原子炉格納容器冷却状況確認手段に多様性を持たせるために、冷却不調の場合の追加対応であること及び計測が必要となるまでに時間的な余裕があることを踏まえて、記録機能を備えた可搬型の温度計を配備する。測定にあたっては、格納容器再循環ユニット入口配管及び出口配管にて温度を測定する。</p> <p>なお、重大事故等時の原子炉補機冷却水による自然対流冷却時に、沸騰防止のために原子炉補機冷却水サージタンクを加圧することから、既設圧力計の代替計器として可搬型の計器にてサージタンクの圧力を計測する。</p> <p>3. 可搬型温度計測の概要</p> <p>(1) 温度計測機器の構成</p> <p>温度ロガー、温度センサー、データコレクタ（データ収集用）</p> <p>(2) 温度計の仕様</p> <p>測定範囲：約200℃まで計測可能</p> <p>（雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過温破損）における原子炉格納容器雰囲気温度の最高値（約141℃）が計測可能であり、余裕をみても十分測定可能な範囲としている。）</p> <p>重量：約100g（1台当たり）</p>																																							



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）




第58条 計装設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>温度センサー：配管表面に添付                      SUSバンド等で配管に巻きつけ（取付け及び取外し可能）</p> <p>電源：リチウム電池（使用可能時間 約10ヶ月）                      データ保有量：約10日分（約1分間隔（プラントコンピューター（PCCS）相当）のデータ測定及び保有が可能）</p> <p>（3）温度計測体制                      可搬型温度計測装置の配備に際しては、手順書を作成するとともに、必要な要員を配置し、教育訓練等を実施する。</p> <p>具体的には、当該可搬型温度計測装置は大容量ポンプによる格納容器再循環ユニットへの海水の通水の際に使用するため、可搬型温度計測装置の設置は召集要員にて行うこととし、温度監視は運転員が行うこととし、社内マニュアルに反映する。</p> <p>（4）温度計取付け模式図</p>  <p>データコレクタ      温度ロガー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地に温度センサー及び温度ロガーを設置して温度測定を実施。</li> <li>・データの吸い上げは現場で可能。</li> <li>・データコレクタにより、温度のトレンドが確認可能。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p>4. 重大事故等時の格納容器再循環ユニット出入口温度差の監視                      重大事故等時において、格納容器内自然対流冷却を実施する場合は、原子炉補機冷却水配管に温度センサーを取り付け、被ばく低減のためCVから離れた場所で可搬型温度計測装置により温度を監視し、格納容器再循環ユニットの冷却状態を確認する。</p> <p>格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を実施した場合の格納容器再循環ユニット冷却水出入口温度差を表1に示す。また、重大事故等時の格納容器再循環ユニット</p>	<p>温度センサー：配管表面に添付                      SUSバンド等で配管に巻きつけ（取付け及び取外し可能）</p> <p>電源：リチウム電池（使用可能時間 約10ヶ月）                      データ保有量：約10日分（約1分間隔（プラントコンピューター（PCCS）相当）のデータ測定及び保有が可能）</p> <p>（3）温度計測体制                      可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度）の配備に際しては、手順書を作成するとともに、必要な要員を配置し、教育訓練等を実施する。</p> <p>具体的には、当該可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度）は可搬型大型送水ポンプ車による格納容器再循環ユニットへの海水の通水の際に使用するため、可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度）の設置は運転員にて行うこととし、温度監視は運転員が行うこととし、社内マニュアルに反映する。</p> <p>（4）温度計取付け模式図</p>  <p>温度ロガー      データコレクタ</p> <p>周辺補機種 T.P. 17.8a      周辺補機種 T.P. 10.3a(中間床)      温度計設置場所の例 (泊3号炉)</p> <p>第1図 温度計取付け模式図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地に温度センサー及び温度ロガーを設置して温度測定を実施。</li> <li>・データの吸い上げは現場で可能。</li> <li>・データコレクタにより、温度のトレンドが確認可能。</li> </ul> <p>4. 重大事故等時の格納容器再循環ユニット出入口温度差の監視                      重大事故等時において、格納容器内自然対流冷却を実施する場合は、原子炉補機冷却水配管に温度センサーを取り付け、被ばく低減のため原子炉格納容器から離れた場所で可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度）により温度を監視し、格納容器再循環ユニットの冷却状態を確認する。</p> <p>格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を実施した場合の格納容器再循環ユニット冷却水出入口温度差を表2に示す。また、重大事故等時の格納容器再循環ユニット</p>	<p>温度センサー：配管表面に添付                      SUSバンド等で配管に巻きつけ（取付け及び取外し可能）</p> <p>電源：リチウム電池（使用可能時間 約10ヶ月）                      データ保有量：約10日分（約1分間隔（プラントコンピューター（PCCS）相当）のデータ測定及び保有が可能）</p> <p>（3）温度計測体制                      可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度）の配備に際しては、手順書を作成するとともに、必要な要員を配置し、教育訓練等を実施する。</p> <p>具体的には、当該可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度）は可搬型大型送水ポンプ車による格納容器再循環ユニットへの海水の通水の際に使用するため、可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度）の設置は運転員にて行うこととし、温度監視は運転員が行うこととし、社内マニュアルに反映する。</p> <p>（4）温度計取付け模式図</p>  <p>温度ロガー      データコレクタ</p> <p>周辺補機種 T.P. 17.8a      周辺補機種 T.P. 10.3a(中間床)      温度計設置場所の例 (泊3号炉)</p> <p>第1図 温度計取付け模式図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地に温度センサー及び温度ロガーを設置して温度測定を実施。</li> <li>・データの吸い上げは現場で可能。</li> <li>・データコレクタにより、温度のトレンドが確認可能。</li> </ul> <p>4. 重大事故等時の格納容器再循環ユニット出入口温度差の監視                      重大事故等時において、格納容器内自然対流冷却を実施する場合は、原子炉補機冷却水配管に温度センサーを取り付け、被ばく低減のため原子炉格納容器から離れた場所で可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度）により温度を監視し、格納容器再循環ユニットの冷却状態を確認する。</p> <p>格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を実施した場合の格納容器再循環ユニット冷却水出入口温度差を表2に示す。また、重大事故等時の格納容器再循環ユニット</p>	<p>【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違                      【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】体制の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違                      【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違                      【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第58条 計装設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																													
<p>の除熱性能曲線を図1に示す。この出入口温度差と実際の出入口温度差を比較し、格納容器再循環ユニットの冷却状態を確認する。</p> <table border="1" data-bbox="85 247 638 359"> <thead> <tr> <th>C.V.圧力</th> <th>飽和蒸気温度 (°C)</th> <th>除熱量 (MW/台)</th> <th>冷却水流量 (m³/h)</th> <th>出入口温度差 (°C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.282MPa[gage]時 (最高使用圧力時)</td> <td>約144</td> <td>約2.3</td> <td>141</td> <td>約75</td> </tr> <tr> <td>0.594MPa[gage]時 (最高使用圧力2倍)</td> <td>約168</td> <td>約13.0</td> <td>141</td> <td>約80</td> </tr> </tbody> </table> <p>表1 格納容器再循環ユニットによる格納容器自然対流冷却時の出入口温度</p>  <p>図1 重大事故時の格納容器再循環ユニットの除熱性能曲線  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</span></p> <p>5. 原子炉補機冷却水サージタンク圧力計測の概要          原子炉補機冷却水サージタンク圧力を確認するため、<b>既設圧力計</b>と代替計器として可搬型の計器である<b>原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライン圧力</b>にて計測する。</p> <p>(1) 計器仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライン圧力仕様 (計測範囲) : 0.0~1.6 MPa              タンク加圧目標 : 0.3MPa</li> </ul>	C.V.圧力	飽和蒸気温度 (°C)	除熱量 (MW/台)	冷却水流量 (m³/h)	出入口温度差 (°C)	0.282MPa[gage]時 (最高使用圧力時)	約144	約2.3	141	約75	0.594MPa[gage]時 (最高使用圧力2倍)	約168	約13.0	141	約80	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>トの除熱性能曲線を第2図に示す。この出入口温度差と実際の出入口温度差を比較し、格納容器再循環ユニットの冷却状態を確認する。</p> <p>第2表 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却時の出入口温度</p> <table border="1" data-bbox="1254 247 1807 383"> <thead> <tr> <th>格納容器圧力</th> <th>飽和蒸気温度 (°C)</th> <th>除熱量 (MW/台)</th> <th>冷却水流量 (m³/h)</th> <th>出入口温度差 (°C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.283MPa[gage]時 (最高使用圧力時)</td> <td>132</td> <td>約<b>1.8</b></td> <td>82</td> <td>約<b>75</b></td> </tr> <tr> <td>0.566MPa[gage]時 (最高使用圧力2倍)</td> <td>155</td> <td>約<b>7.7</b></td> <td>82</td> <td>約<b>85</b></td> </tr> </tbody> </table>  <p>第2図 重大事故等時の格納容器再循環ユニットの除熱性能曲線  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</span></p> <p>5. 原子炉補機冷却水サージタンク圧力計測の概要          原子炉補機冷却水サージタンク圧力を確認するため、<b>既設圧力計</b>（原子炉補機冷却水サージタンク圧力（AM用））と代替計器として可搬型の計器である<b>原子炉補機冷却水サージタンク圧力（可搬型）</b>にて計測する。</p> <p>(1) 計器仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉補機冷却水サージタンク圧力（AM用）仕様 (計測範囲) : 0~1.0MPa[gage]</li> <li>原子炉補機冷却水サージタンク圧力（可搬型）仕様 (計測範囲) : 0~1.0MPa[gage]              タンク加圧目標 : 0.28MPa[gage]</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【伊方3号炉補足資料抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>圧力計仕様                      原子炉補機冷却水サージタンク広域圧力計 : 0~0.6MPa                      原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライン圧力計 : 0~1MPa</li> <li>タンク加圧目標 : 0.27MPa</li> </ul> </div>	格納容器圧力	飽和蒸気温度 (°C)	除熱量 (MW/台)	冷却水流量 (m³/h)	出入口温度差 (°C)	0.283MPa[gage]時 (最高使用圧力時)	132	約 <b>1.8</b>	82	約 <b>75</b>	0.566MPa[gage]時 (最高使用圧力2倍)	155	約 <b>7.7</b>	82	約 <b>85</b>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>トの除熱性能曲線を第2図に示す。この出入口温度差と実際の出入口温度差を比較し、格納容器再循環ユニットの冷却状態を確認する。</p> <p>第2表 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却時の出入口温度</p> <table border="1" data-bbox="1254 247 1807 383"> <thead> <tr> <th>格納容器圧力</th> <th>飽和蒸気温度 (°C)</th> <th>除熱量 (MW/台)</th> <th>冷却水流量 (m³/h)</th> <th>出入口温度差 (°C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.283MPa[gage]時 (最高使用圧力時)</td> <td>132</td> <td>約<b>1.8</b></td> <td>82</td> <td>約<b>75</b></td> </tr> <tr> <td>0.566MPa[gage]時 (最高使用圧力2倍)</td> <td>155</td> <td>約<b>7.7</b></td> <td>82</td> <td>約<b>85</b></td> </tr> </tbody> </table>  <p>第2図 重大事故等時の格納容器再循環ユニットの除熱性能曲線  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</span></p> <p>5. 原子炉補機冷却水サージタンク圧力計測の概要          原子炉補機冷却水サージタンク圧力を確認するため、<b>既設圧力計</b>（原子炉補機冷却水サージタンク圧力（AM用））と代替計器として可搬型の計器である<b>原子炉補機冷却水サージタンク圧力（可搬型）</b>にて計測する。</p> <p>(1) 計器仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉補機冷却水サージタンク圧力（AM用）仕様 (計測範囲) : 0~1.0MPa[gage]</li> <li>原子炉補機冷却水サージタンク圧力（可搬型）仕様 (計測範囲) : 0~1.0MPa[gage]              タンク加圧目標 : 0.28MPa[gage]</li> </ul>	格納容器圧力	飽和蒸気温度 (°C)	除熱量 (MW/台)	冷却水流量 (m³/h)	出入口温度差 (°C)	0.283MPa[gage]時 (最高使用圧力時)	132	約 <b>1.8</b>	82	約 <b>75</b>	0.566MPa[gage]時 (最高使用圧力2倍)	155	約 <b>7.7</b>	82	約 <b>85</b>	<p>相違理由</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>【大飯】解析結果の相違</p> <p>【大飯】解析結果の相違</p> <p>【大飯】記載方針の相違          ・既設圧力計名称の明確化</p> <p>【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】記載方針の相違          ・既設圧力計仕様を記載（伊方と同様）</p> <p>【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】設備仕様の相違          ・設備の相違により計測範囲が異なる。(必要な範囲を計測できることに相違なし)</p>
C.V.圧力	飽和蒸気温度 (°C)	除熱量 (MW/台)	冷却水流量 (m³/h)	出入口温度差 (°C)																																												
0.282MPa[gage]時 (最高使用圧力時)	約144	約2.3	141	約75																																												
0.594MPa[gage]時 (最高使用圧力2倍)	約168	約13.0	141	約80																																												
格納容器圧力	飽和蒸気温度 (°C)	除熱量 (MW/台)	冷却水流量 (m³/h)	出入口温度差 (°C)																																												
0.283MPa[gage]時 (最高使用圧力時)	132	約 <b>1.8</b>	82	約 <b>75</b>																																												
0.566MPa[gage]時 (最高使用圧力2倍)	155	約 <b>7.7</b>	82	約 <b>85</b>																																												
格納容器圧力	飽和蒸気温度 (°C)	除熱量 (MW/台)	冷却水流量 (m³/h)	出入口温度差 (°C)																																												
0.283MPa[gage]時 (最高使用圧力時)	132	約 <b>1.8</b>	82	約 <b>75</b>																																												
0.566MPa[gage]時 (最高使用圧力2倍)	155	約 <b>7.7</b>	82	約 <b>85</b>																																												

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉

《参考図面》

○大飯3号炉及び4号炉 温度計測計器  
 原子炉補機冷却水サージタンク圧力

温度測定位置	温度確認箇所及び確認方法
① 原子炉補機冷却水供給側	PCCS
② 原子炉補機冷却水戻り側	PCCS
③ 再循環ユニット入口温度	可搬型温度計測装置
④ 再循環ユニット出口温度	可搬型温度計測装置
⑤ 余熱除去系再循環余熱除去冷却器出口	PCCS、記録計
⑥ 余熱除去系再循環余熱除去冷却器入口	PCCS、記録計

※③、④の確認箇所は変更の可能性がある。

計器名称	確認方法
⑤ AM用原子炉補機冷却水サージタンク圧力	指示計
⑥ 原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライン圧力	現地指示計

女川原子力発電所2号炉

《参考図面》

○泊3号炉 温度計測計器  
 原子炉補機冷却水サージタンク圧力

温度測定位置	温度確認箇所及び確認方法
① 原子炉補機冷却水冷却器出口補機冷却水	PCCS
② 原子炉補機冷却水戻り母管	PCCS
③ 格納容器スプレイ冷却器出口	PCCS
④ 格納容器再循環ユニット入口補機冷却水	可搬型温度計測装置 (格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度)
⑤ 格納容器再循環ユニット出口補機冷却水	可搬型温度計測装置 (格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度)
⑥ 余熱除去冷却器出口	PCCS
⑦ 余熱除去冷却器入口	PCCS

計器名称	確認方法
⑥ 原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (AM用)	現場指示計
⑦ 原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (可搬型)	現場指示計

泊発電所3号炉

《参考図面》

○泊3号炉 温度計測計器  
 原子炉補機冷却水サージタンク圧力

温度測定位置	温度確認箇所及び確認方法
① 原子炉補機冷却水冷却器出口補機冷却水	PCCS
② 原子炉補機冷却水戻り母管	PCCS
③ 格納容器スプレイ冷却器出口	PCCS
④ 格納容器再循環ユニット入口補機冷却水	可搬型温度計測装置 (格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度)
⑤ 格納容器再循環ユニット出口補機冷却水	可搬型温度計測装置 (格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度)
⑥ 余熱除去冷却器出口	PCCS
⑦ 余熱除去冷却器入口	PCCS

計器名称	確認方法
⑥ 原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (AM用)	現場指示計
⑦ 原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (可搬型)	現場指示計

相違理由

【大飯】申請プラントの相違

【大飯】設備名称の相違

【大飯】海水通水箇所の相違

- 大飯では大容量ポンプにて原子炉補機冷却水冷却器出口温度計上流より海水注水するが、泊では可搬型大型送水ポンプにて原子炉補機冷却水冷却器出口温度計下流より注水する。

【大飯】設備名称の相違

【大飯】設備構成の相違

- 泊では格納容器スプレイ系再循環時において、格納容器スプレイ冷却器出口温度にてトレンド監視が可能であるため本表に当該計器を追記している。
- 泊3号炉は、デジタルプラントであるため、余熱除去系冷却器出口及び入口温度を記録するアナログの記録計は設置していない。

【大飯】設備名称及び記載表現の相違



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容  
 赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>原子炉圧力容器の水位の推定手段について</p> <p>1. 概要</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」第五十八条第1項(計装設備)、「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」及び1.15事故時の計装に関する手順等においては、重大事故等が発生し、計測機器の故障により当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータを計測することが困難となった場合において、当該パラメータを推定するために有効な情報を把握できる設備を設けることが要求されている。</p> <p>このうち、原子炉圧力容器（以下「原子炉容器」という）の水位として通常監視している加圧器水位の計測が困難になった場合、①原子炉水位の指示値より水位を確認、②1次冷却材圧力と1次冷却材高温側温度(広域)、サブクール度(CRT)指示値により、原子炉容器内のサブクール状態を監視することで原子炉容器の水位を推定することとしている。</p> <p>また、「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」1.2原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等においても、<b>原子炉容器の水位を推定する手順等(手順、計測機器及び装備等)</b>を整備することが要求されており、同様の推定を行うこととしている。</p> <p>2. 原子炉容器内の水位監視について</p> <p>PWRプラントにおいては、原子炉容器より上に位置する加圧器により通常運転や事故時の圧力及び1次系の保有水量の制御を行っており、加圧器の水位を計測することで、原子炉容器内の水位の状態を監視し、炉心の冷却状態を把握する上で重要となる原子炉容器内の保有水量の監視を行っている。</p> <p>したがって、重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータのうち、原子炉容器内の水位については、加圧器水位を主要パラメータとしており、加圧器水位の計測が困難になった場合、以下の推定手段を整備している。</p> <p>①原子炉水位による原子炉容器内の水位計測                  ②1次冷却材圧力、1次冷却材高温側温度(広域)及びサブクール度(CRT)の計測値による水位の推定                  (原子炉容器内のサブクール状態の監視)</p>	<p>(女川該当資料なし)</p>	<p>別紙6</p> <p>原子炉圧力容器の水位の推定手段について</p> <p>1. 概要</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」第五十八条第1項(計装設備)、「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」及び1.15事故時の計装に関する手順等においては、重大事故等が発生し、計測機器の故障により当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータを計測することが困難となった場合において当該パラメータを推定するために有効な情報を把握できる設備を設けることが要求されている。</p> <p>このうち、原子炉圧力容器の水位として通常監視している加圧器水位の計測が困難になった場合、①原子炉容器水位の指示値より水位を確認、②1次冷却材圧力(広域)と1次冷却材温度(広域-高温側)、サブクール度指示値により、原子炉圧力容器内のサブクール状態を監視することで原子炉圧力容器の水位を推定することとしている。</p> <p>また、「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」1.2原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等においても、<b>原子炉圧力容器の水位を推定する手順等(手順、計測機器、装備等)</b>を整備することが要求されており、同様の推定を行うこととしている。</p> <p>2. 原子炉圧力容器内の水位監視について</p> <p>PWRプラントにおいては、原子炉圧力容器より上に位置する加圧器により通常運転や事故時の圧力及び1次冷却系の保有水量の制御を行っており、加圧器の水位を計測することで、原子炉圧力容器内の水位の状態を監視し、炉心の冷却状態を把握する上で重要となる原子炉圧力容器内の保有水量の監視を行っている。</p> <p>したがって、重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータのうち、原子炉圧力容器内の水位については、加圧器水位を主要パラメータとしており、加圧器水位の計測が困難になった場合、以下の推定手段を整備している。</p> <p>①原子炉容器水位による原子炉圧力容器内の水位計測                  ②1次冷却材圧力(広域)、1次冷却材温度(広域-高温側)及びサブクール度の計測値による水位の推定                  (原子炉圧力容器内のサブクール状態の監視)</p>	<p>【大飯】資料構成の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違                  ・以降、大飯が言い換えしていることに伴う相違は、相違理由の記載を省略する。</p> <p>【大飯】設備名称の相違                  【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>【大飯】設備名称の相違                  【大飯】設備名称の相違</p>



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉

項目	原子炉容器内の水位				
	監視パラメータ	対応設備	検出器	個数	計測範囲
主要パラメータ	加圧器水位	重大事故等対処設備	差圧式水位検出器	2	0~100% (加圧器側上端近傍~側下端近傍)
推定手段①	原子炉水位	重大事故等対処設備	差圧式水位検出器	1	0~100% (原子炉容器頂部~原子炉容器底部)
推定手段②	1次冷却材圧力	重大事故等対処設備	弾性圧力検出器	2	0~20.6MPa
	1次冷却材高温側温度(広域)	重大事故等対処設備	測温抵抗体	4	0~400℃
	サブクール度 (CRT)	多様性拡張設備	弾性圧力検出器 測温抵抗体	1	-200.0~200.0℃

**【主要パラメータの考え方】**

- 安全機能を有する計測制御装置の設計指針 (JEAG-4611) では、PWRの事故時の炉心冷却状態の確認手段として、MS-2の加圧器水位が対象パラメータとなっている。
- 原子炉水位は、重要度分類上MS-3であり、原子炉容器内の水位の主要パラメータとして、MS-2の加圧器水位を選定している

※:加圧器水位と原子炉水位の計測範囲において、約2.74mの間は連続した水位監視ができないが、その範囲は各々の計測範囲に比べ小さく、水位変化傾向により、その間に水位があることが推定できることから、原子炉容器内の水位監視に問題はない。

原子炉容器底部から原子炉容器頂部までの水位を計測する原子炉水位により、原子炉容器内の水位を確認する。

○測定原理  
 差圧式水位検出器により、原子炉容器下部のコンジットチューブより分岐した受圧部 (高圧側) に加わる水頭圧と原子炉容器ペント管より分岐した受圧部 (低圧側) に加わる圧力との差

女川原子力発電所2号炉

※:加圧器水位と原子炉容器水位の計測範囲において、約0.04mの間は連続した水位監視ができないが、その範囲は各々の計測範囲に比べ小さく、水位変化傾向により、その間に水位があることが推定できることから、原子炉圧力容器内の水位監視に問題はない。

3. 原子炉容器水位計の概要  
 原子炉容器底部から原子炉容器頂部までの水位を計測する原子炉容器水位により、原子炉圧力容器内の水位を確認する。

○測定原理  
 差圧式水位検出器により、原子炉容器下部のコンジットチューブより分岐した受圧部 (高圧側) に加わる水頭圧と原子炉容器ペント管より分岐した受圧部 (低圧側) に加わる圧力との差

泊発電所3号炉

項目	原子炉圧力容器内の水位				
	監視パラメータ	対応設備	検出器	個数	計測範囲
主要パラメータ	加圧器水位	重大事故等対処設備	差圧式水位検出器	2	0~100% (加圧器側上端近傍~側下端近傍)
推定手段①	原子炉容器水位	重大事故等対処設備	差圧式水位検出器	1	0~100% (原子炉容器頂部~原子炉容器底部)
推定手段②	1次冷却材圧力(広域)	重大事故等対処設備	弾性圧力検出器	2	0~21.0MPa
	1次冷却材温度(広域-高温側)	重大事故等対処設備	測温抵抗体	3	0~400℃
	サブクール度	自主対策設備	弾性圧力検出器 測温抵抗体	1	-200~200℃

**【主要パラメータの考え方】**

- 安全機能を有する計測制御装置の設計指針 (JEAG-4611) では、PWRの事故時の炉心冷却状態の確認手段として、MS-2の加圧器水位が対象パラメータとなっている。
- 原子炉容器水位は、重要度分類上MS-3であり、原子炉圧力容器内の水位の主要パラメータとして、MS-2の加圧器水位を選定している。

※:加圧器水位と原子炉容器水位の計測範囲において、約0.04mの間は連続した水位監視ができないが、その範囲は各々の計測範囲に比べ小さく、水位変化傾向により、その間に水位があることが推定できることから、原子炉圧力容器内の水位監視に問題はない。

3. 原子炉容器水位計の概要  
 原子炉容器底部から原子炉容器頂部までの水位を計測する原子炉容器水位により、原子炉圧力容器内の水位を確認する。

○測定原理  
 差圧式水位検出器により、原子炉容器下部のコンジットチューブより分岐した受圧部 (高圧側) に加わる水頭圧と原子炉容器ペント管より分岐した受圧部 (低圧側) に加わる圧力との差

相違理由

【大飯】設備名称の相違

【大飯】設備構成の相違  
 ・大飯は4ループ、泊は3ループプラントであることによる相違

【大飯】記載表現の相違

【大飯】設備仕様の相違  
 ・加圧器水位計及び原子炉水位計の設置高さの差異による。

【大飯】設備名称の相違

【大飯】設備仕様の相違  
 ・加圧器水位計及び原子炉水位計の設置高さの差異による。

【大飯】章立ての相違

【大飯】設備名称の相違

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第58条 計装設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉

を検出することで、水位に比例した信号を検出し、信号演算処理後、指示、記録する。

項目	計器仕様	補足
計測範囲	0 ~ 100% (原子炉容器底部 ~ 原子炉容器頂部)	原子炉容器底部から原子炉容器頂部までの水位を確認可能であり、燃料集合体の冠水を確認可能である
検出器種類	差圧式水位検出器	水位に比例する水頭圧を検出することができる。
個数	1 (3号炉及び4号炉 各々)	-
精度		-
検出器の耐環境性	耐環境仕様	重大事故等時の温度、圧力、放射線に耐えることを確認。
耐震性	耐震Sクラス相当	-
電源	非常用電源から給電	-

3. 1次冷却材圧力、1次冷却材高温側温度(広域)及びサブクール度(CRT)による原子炉容器内の水位の推定手段

監視パラメータである1次冷却材圧力と1次冷却材高温側温度(広域)により、飽和蒸気-圧力曲線を基に原子炉容器内のサブクール状態、飽和状態又は過熱状態を監視することで、原子炉容器内の水位が、炉心上端以上、炉心上端近傍もしくは炉心上端未満の水位であることを推定する。

1次冷却材高温側温度(広域)が飽和温度を示し、炉心上端近傍と推定した場合においては、温度の推移による状態の傾向を監視することにより、温度が上昇する場合には炉心が露出状態であることを判断でき、温度が安定していれば炉心が冠水状態であることを判断できる。

なお、本パラメータによる原子炉容器内の水位の推定は、炉心損傷で原子炉容器が損傷に至っていない状態であれば、プラント状態に依存することなく適用できるものであり、炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

を検出することで、水位に比例した信号を検出し、信号演算処理後、表示、記録する。

項目	計器仕様	補足
計測範囲	0 ~ 100% (原子炉容器底部 ~ 原子炉容器頂部)	原子炉容器底部から原子炉容器頂部までの水位を確認可能であり、燃料集合体の冠水を確認可能である。
検出器種類	差圧式水位検出器	水位に比例する水頭圧を検出することができる。
個数	1	-
精度		-
検出器の耐環境性	耐環境仕様	重大事故等時の温度、圧力、放射線に耐えることを確認。
耐震性	耐震Sクラス相当	-
電源	非常用電源から給電	-

4. 1次冷却材圧力(広域)、1次冷却材温度(広域-高温側)及びサブクール度による原子炉圧力容器内の水位の推定手段

監視パラメータである1次冷却材圧力(広域)と1次冷却材温度(広域-高温側)により、飽和蒸気-圧力曲線を基に原子炉圧力容器内のサブクール状態、飽和状態又は過熱状態を監視することで、原子炉圧力容器内の水位が、炉心上端以上、炉心上端近傍もしくは炉心上端未満の水位であることを推定する。

1次冷却材温度(広域-高温側)が飽和温度を示し、炉心上端近傍と推定した場合においては、温度の推移による状態の傾向を監視することにより、温度が上昇する場合には炉心が露出状態であることを判断でき、温度が安定していれば炉心が冠水状態であることを判断できる。

なお、本パラメータによる原子炉圧力容器内の水位の推定は、炉心損傷で原子炉圧力容器が損傷に至っていない状態であれば、プラント状態に依存することなく適用できるものであり、炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させ

相違理由

【大飯】設備構成の相違  
 ・泊は計測結果を指示計や記録計に指示するのではなく、ディスプレイに盤面表示するため。

【大飯】設備名称の相違

【大飯】記載表現の相違  
 ・大飯はツインプラントであるため、個数の表現が異なる。

【大飯】章立て及び設備名称の相違

【大飯】設備名称の相違

【大飯】設備名称の相違

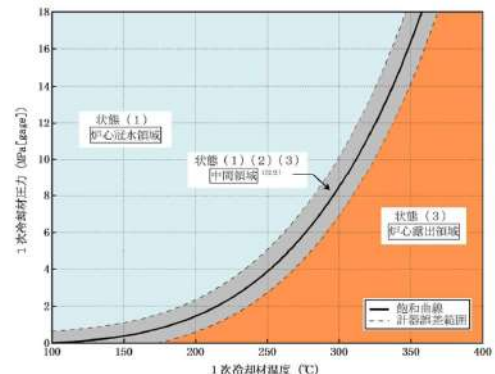
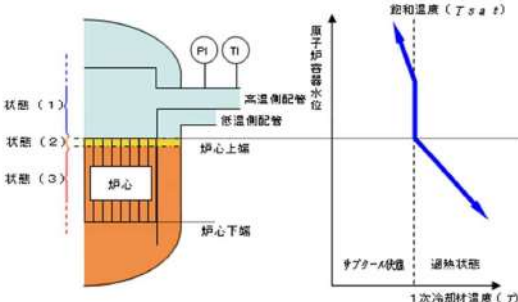
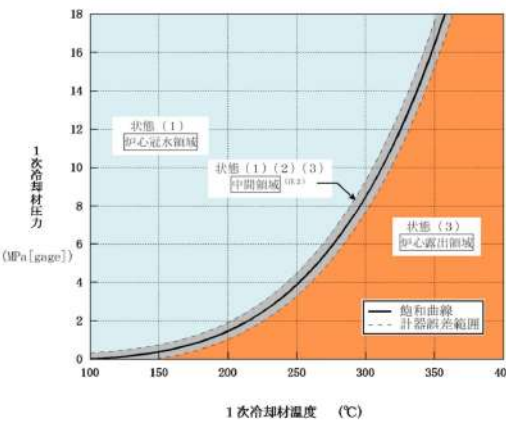
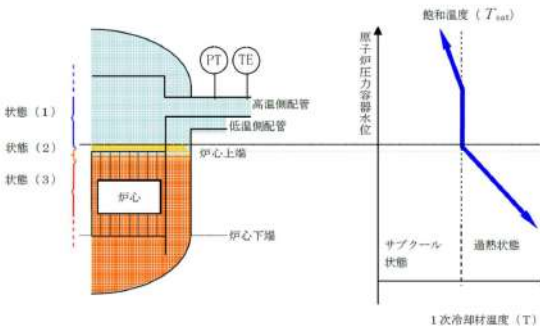
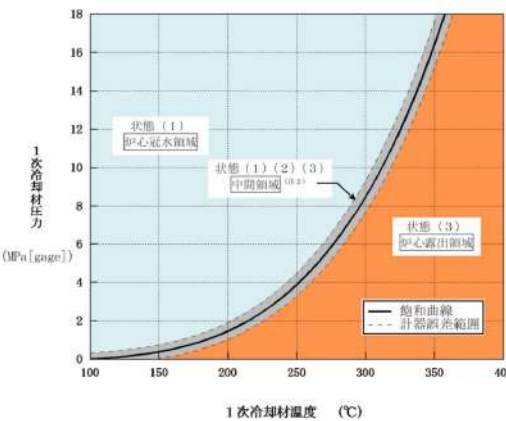
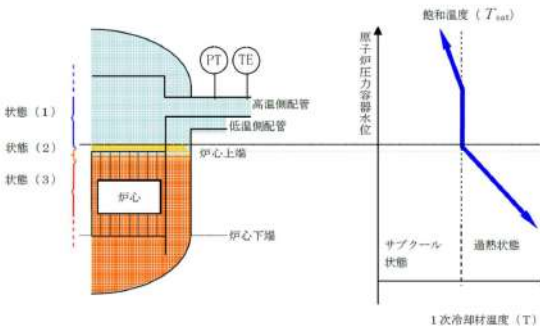
枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。



大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																				
<p>要な状態を把握できる。</p> <p>○推定方法</p> <table border="1" data-bbox="91 225 651 357"> <thead> <tr> <th>監視計器</th> <th>使用用途</th> <th>得られる情報</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次冷却材圧力</td> <td>飽和温度の推定</td> <td>飽和温度 (T<sub>sat</sub>)</td> <td>耐環境仕様</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1次冷却材高温側温度(広域)</td> <td>冷却材・蒸気の温度 (T)</td> <td>温度 (T)</td> <td rowspan="2">耐環境仕様</td> </tr> <tr> <td>温度監視</td> <td>飽和温度と蒸気温度から得られる過熱度 (ΔT<sub>sat</sub>)</td> </tr> <tr> <td>サブクール度 (CRT)</td> <td>サブクール監視</td> <td>サブクール状態の監視</td> <td>通常仕様</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 原子炉容器内がサブクール状態もしくは飽和状態                      推定方法：T ≤ T<sub>sat</sub>                      水位：炉心上端以上 図1、2状態(1)に相当</p> <p>(2) 原子炉容器内が飽和温度を上回る状態                      推定方法：T &gt; T<sub>sat</sub> (温度Tが過熱状態を指示、ΔT<sub>sat</sub>=小)                      水位：炉心上端近傍 図1、2状態(2)に相当</p> <p>(3) 原子炉容器内が飽和温度を大きく上回る状態 (過熱状態)                      推定方法：T &gt;&gt; T<sub>sat</sub> (ΔT<sub>sat</sub>=大)                      水位：炉心上端未満 図1、2状態(3)に相当</p> <p>○原子炉容器内の水位の推移</p> <p>【炉心上端以上の水位の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>炉心の冠水状態の確認が可能。</li> </ul> <p>【炉心上端以下の水位の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水位の上昇傾向：ΔT<sub>sat</sub> が大きい状態から小さい状態へ移行</li> <li>水位の低下傾向：ΔT<sub>sat</sub> が小さい状態から大きい状態へ移行</li> </ul> <p>(注1) 過熱度：ΔT<sub>sat</sub> = T - T<sub>sat</sub>                      (注2) 中間領域では炉心上端以上、炉心上端近傍もしくは炉心上端未満の水位である。温度の水位を監視することで、以下を推定することが可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温度安定：炉心上端以上の水位がある ⇒ 状態(1)</li> <li>温度急上昇：炉心上端近傍もしくは炉心上端未満 ⇒ 状態(2)、(3)</li> </ul>	監視計器	使用用途	得られる情報	備考	1次冷却材圧力	飽和温度の推定	飽和温度 (T <sub>sat</sub> )	耐環境仕様	1次冷却材高温側温度(広域)	冷却材・蒸気の温度 (T)	温度 (T)	耐環境仕様	温度監視	飽和温度と蒸気温度から得られる過熱度 (ΔT <sub>sat</sub> )	サブクール度 (CRT)	サブクール監視	サブクール状態の監視	通常仕様		<p>るために必要な状態を把握できる。</p> <p>○推定方法</p> <table border="1" data-bbox="1263 225 1818 421"> <thead> <tr> <th>監視計器</th> <th>使用用途</th> <th>得られる情報</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次冷却材圧力 (広域)</td> <td>飽和温度の推定</td> <td>飽和温度 (T<sub>sat</sub>)</td> <td>耐環境仕様</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1次冷却材温度 (広域-高温側)</td> <td>冷却材・蒸気の温度監視</td> <td>温度 (T)</td> <td rowspan="2">耐環境仕様</td> </tr> <tr> <td></td> <td>飽和温度と蒸気温度から得られる過熱度 (ΔT<sub>sat</sub>)</td> </tr> <tr> <td>サブクール度</td> <td>サブクール監視</td> <td>サブクール状態の監視</td> <td>通常仕様</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 原子炉圧力容器内がサブクール状態もしくは飽和状態                      推定方法：T ≤ T<sub>sat</sub>                      水位：炉心上端以上……第1、2図の状態(1)に相当</p> <p>(2) 原子炉圧力容器内が飽和温度を上回る状態                      推定方法：T &gt; T<sub>sat</sub> (温度Tが過熱状態を指示、ΔT<sub>sat</sub><sup>(注1)</sup> = 小)                      水位：炉心上端近傍……第1、2図の状態(2)に相当</p> <p>(3) 原子炉圧力容器内が飽和温度を大きく上回る状態 (過熱状態)                      推定方法：T &gt;&gt; T<sub>sat</sub> (ΔT<sub>sat</sub>=大)                      水位：炉心上端未満……第1、2図の状態(3)に相当</p> <p>○原子炉圧力容器内の水位の推移</p> <p>【炉心上端以上の水位の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>炉心の冠水状態の確認が可能</li> </ul> <p>【炉心上端以下の水位の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水位の上昇傾向：ΔT<sub>sat</sub> が大きい状態から小さい状態へ移行</li> <li>水位の低下傾向：ΔT<sub>sat</sub> が小さい状態から大きい状態へ移行</li> </ul> <p>(注1) 過熱度：ΔT<sub>sat</sub> = T - T<sub>sat</sub>                      (注2) 中間領域では炉心上端以上、炉心上端近傍もしくは炉心上端部未満の水位である。温度の推移を監視することで、以下を推定することが可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温度安定：炉心上端以上の水位がある ⇒ 状態(1)</li> <li>温度急上昇：炉心上端近傍もしくは炉心上端部未満 ⇒ 状態(2)、(3)</li> </ul>	監視計器	使用用途	得られる情報	備考	1次冷却材圧力 (広域)	飽和温度の推定	飽和温度 (T <sub>sat</sub> )	耐環境仕様	1次冷却材温度 (広域-高温側)	冷却材・蒸気の温度監視	温度 (T)	耐環境仕様		飽和温度と蒸気温度から得られる過熱度 (ΔT <sub>sat</sub> )	サブクール度	サブクール監視	サブクール状態の監視	通常仕様	<p>【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>・泊は、理解しやすさの観点で注釈の紐づけを行っている。</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>・適正な表現とした。(「水位」→「推移」)</p>
監視計器	使用用途	得られる情報	備考																																				
1次冷却材圧力	飽和温度の推定	飽和温度 (T <sub>sat</sub> )	耐環境仕様																																				
1次冷却材高温側温度(広域)	冷却材・蒸気の温度 (T)	温度 (T)	耐環境仕様																																				
	温度監視	飽和温度と蒸気温度から得られる過熱度 (ΔT <sub>sat</sub> )																																					
サブクール度 (CRT)	サブクール監視	サブクール状態の監視	通常仕様																																				
監視計器	使用用途	得られる情報	備考																																				
1次冷却材圧力 (広域)	飽和温度の推定	飽和温度 (T <sub>sat</sub> )	耐環境仕様																																				
1次冷却材温度 (広域-高温側)	冷却材・蒸気の温度監視	温度 (T)	耐環境仕様																																				
		飽和温度と蒸気温度から得られる過熱度 (ΔT <sub>sat</sub> )																																					
サブクール度	サブクール監視	サブクール状態の監視	通常仕様																																				

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>図1 飽和蒸気-圧力曲線を基にした水位の推定</p>  <p>図2 原子炉容器の水位と水位変化の概念図</p> <p><b>【推定における不確かさの影響】</b>              各監視パラメータには不確かさがあり、本推定においても不確かさを考慮する必要がある。例えば、炉心が冠水していない場合において、「過熱状態」にも係らず「飽和温度」と推定した場合においても、温度の推移による状態の傾向監視により、温度が上昇する場合は炉心が露出状態であることを判断でき、温度が安定していれば炉心が冠水状態であることを判断できる。したがって、不確かさを考慮しても、<b>原子炉容器</b>内の水位を推定することが可能である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	 <p>第1図 飽和蒸気-圧力曲線を基にした水位の推定</p>  <p>第2図 原子炉压力容器の水位と水位変化の概念図</p> <p><b>【推定における不確かさの影響】</b>              各監視パラメータには不確かさがあり、本推定においても不確かさを考慮する必要がある。例えば、炉心が冠水していない場合において、「過熱状態」にも係らず「飽和温度」と推定した場合においても、温度の推移による状態の傾向監視により、温度が上昇する場合は炉心が露出状態であることを判断でき、温度が安定していれば炉心が冠水状態であることを判断できる。したがって、不確かさを考慮しても、<b>原子炉压力容器</b>内の水位を推定することが可能である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	 <p>第1図 飽和蒸気-圧力曲線を基にした水位の推定</p>  <p>第2図 原子炉压力容器の水位と水位変化の概念図</p> <p><b>【推定における不確かさの影響】</b>              各監視パラメータには不確かさがあり、本推定においても不確かさを考慮する必要がある。例えば、炉心が冠水していない場合において、「過熱状態」にも係らず「飽和温度」と推定した場合においても、温度の推移による状態の傾向監視により、温度が上昇する場合は炉心が露出状態であることを判断でき、温度が安定していれば炉心が冠水状態であることを判断できる。したがって、不確かさを考慮しても、<b>原子炉压力容器</b>内の水位を推定することが可能である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	<p>相違理由</p>



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																						
<p>(大飯該当資料なし)</p>	<p>58-13                      重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ</p> <p>表 58-13-1 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (1/8)</p> <table border="1" data-bbox="672 279 1220 638"> <thead> <tr> <th rowspan="2">重要監視パラメータ</th> <th rowspan="2">重要計器 (計測範囲)</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">重要代替計器等 (代表) (※)</th> </tr> <tr> <th>重要計器に故障の疑いがある場合</th> <th>重要計器の計測範囲を超えた場合 (※2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>原子炉圧力容器温度 (0~500℃)</td> <td>熱電対</td> <td>・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・原子炉圧力 (SA) (0~11MPa) (※2)</td> <td>・計測範囲の冷却失敗の判断 ・計測 (300℃) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器内の圧力</td> <td>原子炉圧力 (SA) (0~11MPa)</td> <td>弾性圧力検出器 (※2)</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉圧力 (0~10MPa) ・原子炉圧力容器温度 (0~500℃) (※2)</td> <td>・重大事故等時において、原子炉圧力容器最高使用圧力 (H. 42MPa) の1.2倍 (12.24MPa) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉圧力容器内の水位</td> <td>原子炉水位 (広帯域) (※2)</td> <td rowspan="2">差圧式水位検出器 (※2)</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉水位 (SA 広帯域) (-2,800~1,500mm) (※2) ・原子炉水位 (SA 燃料域) (-2,800~1,300mm) (※2) (※2)</td> <td rowspan="2">・重大事故等時において、原子炉水位 (広帯域) 及び原子炉水位 (燃料域) に関して、原子炉水位計測範囲から有効燃料棒底部まで監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位 (燃料域) (-2,800~1,300mm) (※2)</td> <td>・高圧代替注水ポンプ出口流量 (0~120m<sup>3</sup>/h) (※2) ・原子炉圧力 (SA) (0~11MPa) 及び圧力抑制室圧力 (0~1MPa) (abs) (※2)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 複数ある重要代替計器等の代表を記載。                  (※2) 計測範囲を超えない場合は、その理由を記載。                  (※3) 原子炉圧力容器内の飽和状態と仮定し、原子炉圧力容器温度又は原子炉圧力を推定。                  (※4) 隔壁ダイヤフラムにかゝる原子炉圧力 (隔壁槽からの水頭圧を含む) と大気圧の差を計測。                  (※5) 基準点 (0mm) はドライヤスカーリ底部付近 (原子炉圧力容器センターより 1,313mm 上)。                  (※6) 基準点 (0mm) は有効燃料棒頂部付近 (原子炉圧力容器センターより 900mm 上)。                  (※7) 隔壁ダイヤフラムにかゝる原子炉圧力 (隔壁槽からの水頭圧を含む) と原子炉圧力容器下部の節圧を計測。                  (※8) 原子炉水位 (SA 広帯域) は他の広帯域の原子炉水位と、また、原子炉水位 (SA 燃料域) は他の燃料域の原子炉水位と同じ基準面にて計測器が異なる。                  (※9) 原子炉圧力容器への注水量、融解熱除去による蒸気量及び炉前の水位から炉心の注水を推定。                  (※10) LOCA の発生がなく、水位を主蒸気配管より上になるまで注水した場合には、原子炉圧力と圧力抑制室圧力の節圧から炉心の注水を推定。</p> <div data-bbox="862 829 1220 901" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(凡例)                      ・特に記載がなければ、本表での圧力はゲージ圧を示す。                      ・重要計器に故障の疑いがある場合の複数ある推定手段については、優先順位に応じて簡潔書きに記載する。</p> </div>	重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)		重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※2)	原子炉圧力容器内の温度	原子炉圧力容器温度 (0~500℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・原子炉圧力 (SA) (0~11MPa) (※2)	・計測範囲の冷却失敗の判断 ・計測 (300℃) を監視可能。	原子炉圧力容器内の圧力	原子炉圧力 (SA) (0~11MPa)	弾性圧力検出器 (※2)	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉圧力 (0~10MPa) ・原子炉圧力容器温度 (0~500℃) (※2)	・重大事故等時において、原子炉圧力容器最高使用圧力 (H. 42MPa) の1.2倍 (12.24MPa) を監視可能。	原子炉圧力容器内の水位	原子炉水位 (広帯域) (※2)	差圧式水位検出器 (※2)	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉水位 (SA 広帯域) (-2,800~1,500mm) (※2) ・原子炉水位 (SA 燃料域) (-2,800~1,300mm) (※2) (※2)	・重大事故等時において、原子炉水位 (広帯域) 及び原子炉水位 (燃料域) に関して、原子炉水位計測範囲から有効燃料棒底部まで監視可能。	原子炉水位 (燃料域) (-2,800~1,300mm) (※2)	・高圧代替注水ポンプ出口流量 (0~120m <sup>3</sup> /h) (※2) ・原子炉圧力 (SA) (0~11MPa) 及び圧力抑制室圧力 (0~1MPa) (abs) (※2)	<p>58-13                      重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ</p> <p>第1表 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (1/7)</p> <table border="1" data-bbox="1265 287 1803 598"> <thead> <tr> <th rowspan="2">重要監視パラメータ</th> <th rowspan="2">重要計器 (計測範囲)</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">重要代替計器等 (代表) (※)</th> </tr> <tr> <th>重要計器に故障の疑いがある場合</th> <th>重要計器の計測範囲を超えた場合 (※2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原子炉圧力容器内の温度</td> <td>1 広帯域材料温度 (広帯域) (0~500℃)</td> <td rowspan="2">熱電対</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・1 広帯域材料温度 (広帯域) (0~500℃)</td> <td>・1 及び冷却系最高使用温度 (0.4℃) 及び炉心の判断基準である 350℃ を超える温度を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>1 燃料棒材料温度 (広帯域) (0~500℃)</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・1 燃料棒材料温度 (広帯域) (0~500℃)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉圧力容器内の圧力</td> <td>1 燃料棒材料圧力 (広帯域) (0~21.6MPa)</td> <td rowspan="2">弾性圧力検出器 (※2)</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・1 燃料棒材料温度 (広帯域) (0~500℃) (※2)</td> <td>・1 冷却系最高使用圧力 (17.10MPa) の1.2倍 (取事故時の種類基準) である 20.52MPa を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器内の水位</td> <td>知照器水位 (0~100%)</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉燃料棒水位 (0~100%)</td> <td>・重大事故等時において、原子炉容器上流に位置する知照器上流側と下流側から下流側下流側槽までの水位を監視可能。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉圧力容器内の圧力</td> <td>知照器水位 (0~100%)</td> <td rowspan="2">差圧式水位検出器 (※2)</td> <td>・加圧器水位 (0~100%)</td> <td>・重大事故等時において、知照器の下流に位置し、知照器の計測範囲をカバーしない30、原子炉容器底部から原子炉容器頂部までの原子炉容器内の水位を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉燃料棒水位 (0~100%)</td> <td>・加圧器水位 (0~100%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 複数ある重要代替計器等の代表を記載。                  (※2) 計測範囲を超えない場合は、その理由を記載。                  (※3) 隔壁ダイヤフラムにかゝる1 冷却系材料圧力を計測。                  (※4) 1 冷却系材料温度状態にあると仮定し、原子炉圧力容器内の圧力を推定。                  (※5) 隔壁ダイヤフラムにかゝる知照器圧力 (隔壁槽からの水頭圧を含む) と加圧器下部の節圧を計測。                  (※6) 隔壁ダイヤフラムにかゝる原子炉圧力と原子炉容器下部の節圧を計測。</p> <div data-bbox="1512 686 1803 742" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(凡例)                      ・特に記載がなければ、本表での圧力はゲージ圧を示す。                      ・重要計器に故障の疑いがある場合の複数ある推定手段については、優先順位に応じて簡潔書きに記載する。</p> </div>	重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)		重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※2)	原子炉圧力容器内の温度	1 広帯域材料温度 (広帯域) (0~500℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・1 広帯域材料温度 (広帯域) (0~500℃)	・1 及び冷却系最高使用温度 (0.4℃) 及び炉心の判断基準である 350℃ を超える温度を監視可能。	1 燃料棒材料温度 (広帯域) (0~500℃)	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・1 燃料棒材料温度 (広帯域) (0~500℃)	原子炉圧力容器内の圧力	1 燃料棒材料圧力 (広帯域) (0~21.6MPa)	弾性圧力検出器 (※2)	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・1 燃料棒材料温度 (広帯域) (0~500℃) (※2)	・1 冷却系最高使用圧力 (17.10MPa) の1.2倍 (取事故時の種類基準) である 20.52MPa を監視可能。	原子炉圧力容器内の水位	知照器水位 (0~100%)	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉燃料棒水位 (0~100%)	・重大事故等時において、原子炉容器上流に位置する知照器上流側と下流側から下流側下流側槽までの水位を監視可能。	原子炉圧力容器内の圧力	知照器水位 (0~100%)	差圧式水位検出器 (※2)	・加圧器水位 (0~100%)	・重大事故等時において、知照器の下流に位置し、知照器の計測範囲をカバーしない30、原子炉容器底部から原子炉容器頂部までの原子炉容器内の水位を監視可能。	原子炉燃料棒水位 (0~100%)	・加圧器水位 (0~100%)	<p>【女川】炉型の相違                  ・PWRとBWRで想定される重大事故等及び対処するための監視パラメータが異なるため、比較対象外としている。以降、同表において同じ。</p>
重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)				検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)																																																			
		重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※2)																																																						
原子炉圧力容器内の温度	原子炉圧力容器温度 (0~500℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・原子炉圧力 (SA) (0~11MPa) (※2)	・計測範囲の冷却失敗の判断 ・計測 (300℃) を監視可能。																																																					
原子炉圧力容器内の圧力	原子炉圧力 (SA) (0~11MPa)	弾性圧力検出器 (※2)	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉圧力 (0~10MPa) ・原子炉圧力容器温度 (0~500℃) (※2)	・重大事故等時において、原子炉圧力容器最高使用圧力 (H. 42MPa) の1.2倍 (12.24MPa) を監視可能。																																																					
原子炉圧力容器内の水位	原子炉水位 (広帯域) (※2)	差圧式水位検出器 (※2)	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉水位 (SA 広帯域) (-2,800~1,500mm) (※2) ・原子炉水位 (SA 燃料域) (-2,800~1,300mm) (※2) (※2)	・重大事故等時において、原子炉水位 (広帯域) 及び原子炉水位 (燃料域) に関して、原子炉水位計測範囲から有効燃料棒底部まで監視可能。																																																					
	原子炉水位 (燃料域) (-2,800~1,300mm) (※2)		・高圧代替注水ポンプ出口流量 (0~120m <sup>3</sup> /h) (※2) ・原子炉圧力 (SA) (0~11MPa) 及び圧力抑制室圧力 (0~1MPa) (abs) (※2)																																																						
重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)																																																						
			重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※2)																																																					
原子炉圧力容器内の温度	1 広帯域材料温度 (広帯域) (0~500℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・1 広帯域材料温度 (広帯域) (0~500℃)	・1 及び冷却系最高使用温度 (0.4℃) 及び炉心の判断基準である 350℃ を超える温度を監視可能。																																																					
	1 燃料棒材料温度 (広帯域) (0~500℃)		・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・1 燃料棒材料温度 (広帯域) (0~500℃)																																																						
原子炉圧力容器内の圧力	1 燃料棒材料圧力 (広帯域) (0~21.6MPa)	弾性圧力検出器 (※2)	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・1 燃料棒材料温度 (広帯域) (0~500℃) (※2)	・1 冷却系最高使用圧力 (17.10MPa) の1.2倍 (取事故時の種類基準) である 20.52MPa を監視可能。																																																					
	原子炉圧力容器内の水位		知照器水位 (0~100%)	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉燃料棒水位 (0~100%)	・重大事故等時において、原子炉容器上流に位置する知照器上流側と下流側から下流側下流側槽までの水位を監視可能。																																																				
原子炉圧力容器内の圧力	知照器水位 (0~100%)	差圧式水位検出器 (※2)	・加圧器水位 (0~100%)	・重大事故等時において、知照器の下流に位置し、知照器の計測範囲をカバーしない30、原子炉容器底部から原子炉容器頂部までの原子炉容器内の水位を監視可能。																																																					
	原子炉燃料棒水位 (0~100%)		・加圧器水位 (0~100%)																																																						

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																								
	<p>表 58-13-1 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (2/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">重要監視パラメータ</th> <th rowspan="2">重要計器 (計測範囲)</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">重要代替計器等 (代表) (※)</th> </tr> <tr> <th>重要計器に記録の無いときとの場合 (※)</th> <th>重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力容器への注水量</td> <td>高圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m<sup>3</sup>) (※)</td> <td>重大事故等時の高圧炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (318m<sup>3</sup>/h、1,650m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高圧代替注水系ポンプ出口流量 (0~120m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m<sup>3</sup>) (※)</td> <td>重大事故等時の高圧代替注水系ポンプの最大注水量 (99.8m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 (0~150m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m<sup>3</sup>) (※)</td> <td>重大事故等時の原子炉隔離時冷却系ポンプの最大注水量 (100.8m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・圧力制御室水位 (0~5m) (※)</td> <td>重大事故等時の炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (1,050m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>代替凝縮冷却ポンプ出口流量 (0~200m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・圧力制御室水位 (0~5m) (※)</td> <td>重大事故等時の代替凝縮冷却ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (150m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレィライン(洗浄流量)) (0~220m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m<sup>3</sup>) (※)</td> <td>重大事故等時の復水移送ポンプ又は大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系A系ライン) における最大注水量 (199m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系洗浄器冷却ライン(洗浄流量)) (0~220m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m<sup>3</sup>) (※)</td> <td>重大事故等時の大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系B系ライン) における最大注水量 (199m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>直流原動機注水系ポンプ出口流量 (0~100m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m<sup>3</sup>) (※)</td> <td>重大事故等時の直流原動機注水系ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (80m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>残留熱除去系ポンプ出口流量 (0~1,500m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・圧力制御室水位 (0~5m) (※)</td> <td>重大事故等時の残留熱除去系ポンプの最大注水量 (1,130m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※) 漏洩ダイヤグラムにかかる送り機構前後の差圧を計測。          (※) 復水貯蔵タンク水位の変化量及び注水時間から注水量を推定。          (※) 圧力制御室水位の変化量及び注水時間から注水量を推定。</p>	重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)		重要計器に記録の無いときとの場合 (※)	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)	原子炉圧力容器への注水量	高圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の高圧炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (318m <sup>3</sup> /h、1,650m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		高圧代替注水系ポンプ出口流量 (0~120m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の高圧代替注水系ポンプの最大注水量 (99.8m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 (0~150m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の原子炉隔離時冷却系ポンプの最大注水量 (100.8m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・圧力制御室水位 (0~5m) (※)	重大事故等時の炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (1,050m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		代替凝縮冷却ポンプ出口流量 (0~200m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・圧力制御室水位 (0~5m) (※)	重大事故等時の代替凝縮冷却ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (150m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレィライン(洗浄流量)) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプ又は大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系A系ライン) における最大注水量 (199m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系洗浄器冷却ライン(洗浄流量)) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系B系ライン) における最大注水量 (199m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		直流原動機注水系ポンプ出口流量 (0~100m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の直流原動機注水系ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (80m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		残留熱除去系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・圧力制御室水位 (0~5m) (※)	重大事故等時の残留熱除去系ポンプの最大注水量 (1,130m <sup>3</sup> /h) を監視可能。	<p>第1表 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (2/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">重要監視パラメータ</th> <th rowspan="2">重要計器 (計測範囲)</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">重要代替計器等 (代表) (※)</th> </tr> <tr> <th>重要計器に記録の無いときとの場合 (※)</th> <th>重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力容器への注水量</td> <td>高圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時の高圧炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (290m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高圧代替注水系ポンプ出口流量 (0~120m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時の高圧代替注水系ポンプの最大注水量 (99.8m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 (0~150m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時の原子炉隔離時冷却系ポンプの最大注水量 (100.8m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時の炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (1,050m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>代替凝縮冷却ポンプ出口流量 (0~200m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時の代替凝縮冷却ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (150m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレィライン(洗浄流量)) (0~220m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時の復水移送ポンプ又は大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系A系ライン) における最大注水量 (199m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系洗浄器冷却ライン(洗浄流量)) (0~220m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時の大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系B系ライン) における最大注水量 (199m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>直流原動機注水系ポンプ出口流量 (0~100m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時の直流原動機注水系ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (80m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>残留熱除去系ポンプ出口流量 (0~1,500m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時の残留熱除去系ポンプの最大注水量 (1,130m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※) 漏洩ダイヤグラムにかかる送り機構前後の差圧を計測。          (※) 燃料取替用本水位の変化量及び注水時間より注水量を推定。          (※) 燃料取替用本水位及び凝縮本水位の変化量及び注水時間より注水量を推定。</p> <p>□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)		重要計器に記録の無いときとの場合 (※)	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)	原子炉圧力容器への注水量	高圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の高圧炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (290m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		高圧代替注水系ポンプ出口流量 (0~120m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の高圧代替注水系ポンプの最大注水量 (99.8m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 (0~150m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の原子炉隔離時冷却系ポンプの最大注水量 (100.8m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (1,050m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		代替凝縮冷却ポンプ出口流量 (0~200m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の代替凝縮冷却ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (150m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレィライン(洗浄流量)) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプ又は大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系A系ライン) における最大注水量 (199m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系洗浄器冷却ライン(洗浄流量)) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系B系ライン) における最大注水量 (199m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		直流原動機注水系ポンプ出口流量 (0~100m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の直流原動機注水系ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (80m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		残留熱除去系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の残留熱除去系ポンプの最大注水量 (1,130m <sup>3</sup> /h) を監視可能。	
重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)				検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)																																																																																																					
		重要計器に記録の無いときとの場合 (※)	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)																																																																																																								
原子炉圧力容器への注水量	高圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の高圧炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (318m <sup>3</sup> /h、1,650m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	高圧代替注水系ポンプ出口流量 (0~120m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の高圧代替注水系ポンプの最大注水量 (99.8m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 (0~150m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の原子炉隔離時冷却系ポンプの最大注水量 (100.8m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・圧力制御室水位 (0~5m) (※)	重大事故等時の炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (1,050m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	代替凝縮冷却ポンプ出口流量 (0~200m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・圧力制御室水位 (0~5m) (※)	重大事故等時の代替凝縮冷却ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (150m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレィライン(洗浄流量)) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプ又は大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系A系ライン) における最大注水量 (199m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系洗浄器冷却ライン(洗浄流量)) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系B系ライン) における最大注水量 (199m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	直流原動機注水系ポンプ出口流量 (0~100m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の直流原動機注水系ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (80m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	残留熱除去系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・圧力制御室水位 (0~5m) (※)	重大事故等時の残留熱除去系ポンプの最大注水量 (1,130m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)																																																																																																								
			重要計器に記録の無いときとの場合 (※)	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)																																																																																																							
原子炉圧力容器への注水量	高圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の高圧炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (290m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	高圧代替注水系ポンプ出口流量 (0~120m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の高圧代替注水系ポンプの最大注水量 (99.8m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 (0~150m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の原子炉隔離時冷却系ポンプの最大注水量 (100.8m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	炉心スプレィ系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の炉心スプレィ系ポンプの最大注水量 (1,050m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	代替凝縮冷却ポンプ出口流量 (0~200m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の代替凝縮冷却ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (150m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレィライン(洗浄流量)) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプ又は大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系A系ライン) における最大注水量 (199m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系洗浄器冷却ライン(洗浄流量)) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の大容量送水ポンプ (タイプ1) を用いた低圧代替注水系 (残留熱除去系B系ライン) における最大注水量 (199m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	直流原動機注水系ポンプ出口流量 (0~100m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の直流原動機注水系ポンプを用いた原子炉圧力容器注水時における最大注水量 (80m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							
	残留熱除去系ポンプ出口流量 (0~1,500m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用本水位 (0~100%) (※)	重大事故等時の残留熱除去系ポンプの最大注水量 (1,130m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																																							

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																	
	<p>表58-13-1 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (3/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">重要監視パラメータ</th> <th rowspan="2">重要計器 (計測範囲)</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">重要代替計器等 (代表) (※)</th> </tr> <tr> <th>重要計器に故障の疑いがある場合</th> <th>重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系→ドラスレイライン洗浄流量) (0~220m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m<sup>3</sup>) (※)</td> <td>重大事故等時の復水移送ポンプを用いた原子炉格納容器代替スプレイ冷却系 (残留熱除去系→ドラスライン) における最大注水量 (89m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系格納容器冷却ライン洗浄流量) (0~220m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m<sup>3</sup>) (※)</td> <td>重大事故等時の復水移送ポンプを用いた原子炉格納容器代替スプレイ冷却系 (残留熱除去系B系→ドラスライン) における最大注水量 (89m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>原子炉格納容器代替スプレイ流量 (0~100m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・原子炉格納容器下部水位 (0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m, 2.5m, 2.8m) 及びドライウエル水位 (0.02m, 0.23m, 0.34m) (※)</td> <td>重大事故等時の大容量送水ポンプ (クイック1) を用いた原子炉格納容器代替スプレイ冷却系による最大注水量 (88m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>代替格納冷却ポンプ出口流量 (0~200m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・原子炉格納容器下部水位 (0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m, 2.5m, 2.8m) 及びドライウエル水位 (0.02m, 0.23m, 0.34m) (※)</td> <td>重大事故等時の代替格納冷却ポンプを用いた原子炉格納容器代替スプレイ時における最大注水量 (150m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>原子炉格納容器下部注水量 (0~110m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m<sup>3</sup>) (※)</td> <td>重大事故等時の復水移送ポンプ又は大容量送水ポンプ (クイック1) を用いた原子炉格納容器下部注水量による最大注水量 (89m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">原子炉格納容器内の温度</td> <td>ドライウエル温度 (0~300℃)</td> <td>熱電対</td> <td>・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・ドライウエル圧力 (0~1MPa(abs)) (※)</td> <td>重大事故等時において、原子炉格納容器の限界温度 (200℃) を監視可能。さらに可搬型計測器にて350℃まで計測可能。</td> </tr> <tr> <td>圧力抑制室内空気温度 (0~300℃)</td> <td>熱電対</td> <td>・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・サブレンションプール水温度 (0~200℃) (※)</td> <td>重大事故等時において、原子炉格納容器限界圧力 (854kPa) におけるサブレンションプール水の飽和温度 (約178℃) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>サブレンションプール水温度 (0~200℃)</td> <td>温度抵抗体</td> <td>・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・圧力抑制室内空気温度 (0~300℃) (※)</td> <td>重大事故等時において、原子炉格納容器下部に環状中心が落下した場合における原子炉格納容器の構造格納可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器下部温度 (0~700℃)</td> <td>熱電対</td> <td>・多重性を有する重要計器の他のチャンネル</td> <td>原子炉格納容器下部に環状中心が落下した場合における原子炉格納容器の構造格納可能。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※) 原子炉格納容器下部水位及びドライウエル水位の測定値と注水時間から注水量を推定。          (※) 原子炉格納容器内の飽和状態と推定し、原子炉格納容器内の温度又は圧力を推定。          (※) 空気温度と水温が平衡状態と推定し、空気温度又は水温を推定。</p>	重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)		重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)	原子炉格納容器への注水量	残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系→ドラスレイライン洗浄流量) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプを用いた原子炉格納容器代替スプレイ冷却系 (残留熱除去系→ドラスライン) における最大注水量 (89m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系格納容器冷却ライン洗浄流量) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプを用いた原子炉格納容器代替スプレイ冷却系 (残留熱除去系B系→ドラスライン) における最大注水量 (89m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		原子炉格納容器代替スプレイ流量 (0~100m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・原子炉格納容器下部水位 (0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m, 2.5m, 2.8m) 及びドライウエル水位 (0.02m, 0.23m, 0.34m) (※)	重大事故等時の大容量送水ポンプ (クイック1) を用いた原子炉格納容器代替スプレイ冷却系による最大注水量 (88m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		代替格納冷却ポンプ出口流量 (0~200m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・原子炉格納容器下部水位 (0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m, 2.5m, 2.8m) 及びドライウエル水位 (0.02m, 0.23m, 0.34m) (※)	重大事故等時の代替格納冷却ポンプを用いた原子炉格納容器代替スプレイ時における最大注水量 (150m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		原子炉格納容器下部注水量 (0~110m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプ又は大容量送水ポンプ (クイック1) を用いた原子炉格納容器下部注水量による最大注水量 (89m <sup>3</sup> /h) を監視可能。	原子炉格納容器内の温度	ドライウエル温度 (0~300℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・ドライウエル圧力 (0~1MPa(abs)) (※)	重大事故等時において、原子炉格納容器の限界温度 (200℃) を監視可能。さらに可搬型計測器にて350℃まで計測可能。	圧力抑制室内空気温度 (0~300℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・サブレンションプール水温度 (0~200℃) (※)	重大事故等時において、原子炉格納容器限界圧力 (854kPa) におけるサブレンションプール水の飽和温度 (約178℃) を監視可能。	サブレンションプール水温度 (0~200℃)	温度抵抗体	・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・圧力抑制室内空気温度 (0~300℃) (※)	重大事故等時において、原子炉格納容器下部に環状中心が落下した場合における原子炉格納容器の構造格納可能。	原子炉格納容器下部温度 (0~700℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他のチャンネル	原子炉格納容器下部に環状中心が落下した場合における原子炉格納容器の構造格納可能。	<p>第1表 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (3/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">重要監視パラメータ</th> <th rowspan="2">重要計器 (計測範囲)</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">重要代替計器等 (代表) (※)</th> </tr> <tr> <th>重要計器に故障の疑いがある場合</th> <th>重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>B系格納容器スプレイ冷却ポンプ出口流量 (0~1,300m<sup>3</sup>/h) (0~1,300m<sup>3</sup>/h) (0~1,300m<sup>3</sup>/h) (0~1,300m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時において、格納容器スプレイポンプの流量 (1,000m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>代替格納冷却ポンプスプレイ冷却ポンプ出口流量 (0~200m<sup>3</sup>/h) (0~200m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時において、代替格納冷却ポンプの流量 (200m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高圧注入流量 (0~350m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時において、高圧注入ポンプの流量 (200m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>低圧注入流量 (0~1,100m<sup>3</sup>/h)</td> <td>差圧式流量検出器 (※)</td> <td>・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)</td> <td>重大事故等時において、低圧注入ポンプの流量 (1,000m<sup>3</sup>/h) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の温度</td> <td>格納容器内温度 (0~250℃)</td> <td>温度抵抗体</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉格納容器圧力 (0~0.30MPa) (※)</td> <td>重大事故等時において、原子炉格納容器の限界温度 (200℃) を監視可能。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※) 原子炉格納容器内の飽和状態と推定し、原子炉格納容器内の温度又は圧力を推定。          ( ) 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)		重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)	原子炉格納容器への注水量	B系格納容器スプレイ冷却ポンプ出口流量 (0~1,300m <sup>3</sup> /h) (0~1,300m <sup>3</sup> /h) (0~1,300m <sup>3</sup> /h) (0~1,300m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)	重大事故等時において、格納容器スプレイポンプの流量 (1,000m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		代替格納冷却ポンプスプレイ冷却ポンプ出口流量 (0~200m <sup>3</sup> /h) (0~200m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)	重大事故等時において、代替格納冷却ポンプの流量 (200m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		高圧注入流量 (0~350m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)	重大事故等時において、高圧注入ポンプの流量 (200m <sup>3</sup> /h) を監視可能。		低圧注入流量 (0~1,100m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)	重大事故等時において、低圧注入ポンプの流量 (1,000m <sup>3</sup> /h) を監視可能。	原子炉格納容器内の温度	格納容器内温度 (0~250℃)	温度抵抗体	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉格納容器圧力 (0~0.30MPa) (※)	重大事故等時において、原子炉格納容器の限界温度 (200℃) を監視可能。	
重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)				検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)																																																																														
		重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)																																																																																	
原子炉格納容器への注水量	残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系→ドラスレイライン洗浄流量) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプを用いた原子炉格納容器代替スプレイ冷却系 (残留熱除去系→ドラスライン) における最大注水量 (89m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																
	残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系格納容器冷却ライン洗浄流量) (0~220m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプを用いた原子炉格納容器代替スプレイ冷却系 (残留熱除去系B系→ドラスライン) における最大注水量 (89m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																
	原子炉格納容器代替スプレイ流量 (0~100m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・原子炉格納容器下部水位 (0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m, 2.5m, 2.8m) 及びドライウエル水位 (0.02m, 0.23m, 0.34m) (※)	重大事故等時の大容量送水ポンプ (クイック1) を用いた原子炉格納容器代替スプレイ冷却系による最大注水量 (88m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																
	代替格納冷却ポンプ出口流量 (0~200m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・原子炉格納容器下部水位 (0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m, 2.5m, 2.8m) 及びドライウエル水位 (0.02m, 0.23m, 0.34m) (※)	重大事故等時の代替格納冷却ポンプを用いた原子炉格納容器代替スプレイ時における最大注水量 (150m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																
	原子炉格納容器下部注水量 (0~110m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・復水貯蔵タンク水位 (0~3,200m <sup>3</sup> ) (※)	重大事故等時の復水移送ポンプ又は大容量送水ポンプ (クイック1) を用いた原子炉格納容器下部注水量による最大注水量 (89m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																
原子炉格納容器内の温度	ドライウエル温度 (0~300℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・ドライウエル圧力 (0~1MPa(abs)) (※)	重大事故等時において、原子炉格納容器の限界温度 (200℃) を監視可能。さらに可搬型計測器にて350℃まで計測可能。																																																																																
	圧力抑制室内空気温度 (0~300℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・サブレンションプール水温度 (0~200℃) (※)	重大事故等時において、原子炉格納容器限界圧力 (854kPa) におけるサブレンションプール水の飽和温度 (約178℃) を監視可能。																																																																																
	サブレンションプール水温度 (0~200℃)	温度抵抗体	・多重性を有する重要計器の他の検出器 ・圧力抑制室内空気温度 (0~300℃) (※)	重大事故等時において、原子炉格納容器下部に環状中心が落下した場合における原子炉格納容器の構造格納可能。																																																																																
	原子炉格納容器下部温度 (0~700℃)	熱電対	・多重性を有する重要計器の他のチャンネル	原子炉格納容器下部に環状中心が落下した場合における原子炉格納容器の構造格納可能。																																																																																
重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※)																																																																																	
			重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※)																																																																																
原子炉格納容器への注水量	B系格納容器スプレイ冷却ポンプ出口流量 (0~1,300m <sup>3</sup> /h) (0~1,300m <sup>3</sup> /h) (0~1,300m <sup>3</sup> /h) (0~1,300m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)	重大事故等時において、格納容器スプレイポンプの流量 (1,000m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																
	代替格納冷却ポンプスプレイ冷却ポンプ出口流量 (0~200m <sup>3</sup> /h) (0~200m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)	重大事故等時において、代替格納冷却ポンプの流量 (200m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																
	高圧注入流量 (0~350m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)	重大事故等時において、高圧注入ポンプの流量 (200m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																
	低圧注入流量 (0~1,100m <sup>3</sup> /h)	差圧式流量検出器 (※)	・燃料取替用ボット水位 (0~100%) (※)	重大事故等時において、低圧注入ポンプの流量 (1,000m <sup>3</sup> /h) を監視可能。																																																																																
原子炉格納容器内の温度	格納容器内温度 (0~250℃)	温度抵抗体	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・原子炉格納容器圧力 (0~0.30MPa) (※)	重大事故等時において、原子炉格納容器の限界温度 (200℃) を監視可能。																																																																																

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																					
	<p>表 58-13-1 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (4/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">重要監視パラメータ</th> <th rowspan="2">重要計器 (計測範囲)</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">重要代替計器等 (代表) (※<sup>1</sup>)</th> </tr> <tr> <th>重要計器に故障の疑いがある場合</th> <th>重要計器の計測範囲を超えた場合 (※<sup>2</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>ドライウェル圧力 (0~1MPa[abs]) 圧力抑制室圧力 (0~1MPa[abs])</td> <td>弾性圧力検出器 (※<sup>3</sup>)</td> <td>・圧力抑制室圧力 (0~1MPa[abs]) (※<sup>4</sup>) ・ドライウェル温度 (0~300℃) (※<sup>5</sup>) ・ドライウェル圧力 (0~1MPa[abs]) (※<sup>6</sup>) ・圧力抑制室内空気温度 (0~200℃) (※<sup>7</sup>)</td> <td>重大事故等時において、原子炉格納容器限界圧力 (950kPa) をドライウェル圧力又は圧力抑制室圧力にて監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水位</td> <td>圧力抑制室水位 (0~5m) (※<sup>8</sup>) 原子炉格納容器下部水位 (0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m, 2.5m, 2.8m) ドライウェル水位 (0.02m, 0.25m, 0.34m)</td> <td>差圧式水位検出器 (※<sup>9</sup>) 電極式水位検出器 (※<sup>10</sup>) 電極式水位検出器 (※<sup>11</sup>)</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・代替補償冷却ポンプ出口流量 (0~200t/h) (※<sup>12</sup>)</td> <td>重大事故等時において、外部水漏注水流量 (通常運転水位約 2m (※<sup>13</sup>)) の範囲を監視可能。 重大事故等時において、原子炉格納容器下部への注水による圧力容器へブスタル部の露水状況を監視可能。 重大事故等時において、原子炉格納容器下部の清浄な水の冷却に必要な水深 (0.23m) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水素濃度</td> <td>格納容器内空気水素濃度 (0~30vol%) / 0~100vol%</td> <td>熱伝導率式水素検出器</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・格納容器内水素濃度 (0/%) (0~100vol%) 及び格納容器内水素濃度 (S/C) (0~100vol%) (※<sup>14</sup>)</td> <td>重大事故等時において、炉心の著しい揺動時に変動する可能性ある範囲 (0~100vol%) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の酸素濃度</td> <td>格納容器内空気酸素濃度 (0~30vol%)</td> <td>熱伝導率式酸素検出器</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル</td> <td>重大事故等時において、原子炉格納容器内の酸素濃度の変動範囲 (0~4.3vol%) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>格納容器内空気放射線モニタ (0/%) 格納容器内空気放射線モニタ (S/C) (10<sup>-7</sup>~10<sup>-5</sup>/h)</td> <td>電離箱 電離箱</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・多重性を有する重要計器の他チャンネル</td> <td>炉心格納の判断値 (停止直後で約 195v/h) を監視可能。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※<sup>1</sup>) 漏洩ダイアフラムにおけるドライウェル圧力及び圧力抑制室圧力の絶対圧力を計測。          (※<sup>2</sup>) 圧力抑制室圧力はドライウェル圧力+12.0kPa からドライウェル圧力+6.9kPa の範囲で推移。          (※<sup>3</sup>) 基準点 (0m) は通常運転水位 (0.P.~3850mm)。          (※<sup>4</sup>) 漏洩ダイアフラムにおける圧力抑制室圧力 (補償槽からの水頭圧を含む) と圧力抑制室下部の差圧を計測。          (※<sup>5</sup>) 流量と注入時間から水位を推定。          (※<sup>6</sup>) 格納容器内水素濃度 (0/%) 及び格納容器内水素濃度 (S/C) は、水素吸蔵材料式水素検出器を用いて計測。</p>	重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※ <sup>1</sup> )		重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※ <sup>2</sup> )	原子炉格納容器内の圧力	ドライウェル圧力 (0~1MPa[abs]) 圧力抑制室圧力 (0~1MPa[abs])	弾性圧力検出器 (※ <sup>3</sup> )	・圧力抑制室圧力 (0~1MPa[abs]) (※ <sup>4</sup> ) ・ドライウェル温度 (0~300℃) (※ <sup>5</sup> ) ・ドライウェル圧力 (0~1MPa[abs]) (※ <sup>6</sup> ) ・圧力抑制室内空気温度 (0~200℃) (※ <sup>7</sup> )	重大事故等時において、原子炉格納容器限界圧力 (950kPa) をドライウェル圧力又は圧力抑制室圧力にて監視可能。	原子炉格納容器内の水位	圧力抑制室水位 (0~5m) (※ <sup>8</sup> ) 原子炉格納容器下部水位 (0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m, 2.5m, 2.8m) ドライウェル水位 (0.02m, 0.25m, 0.34m)	差圧式水位検出器 (※ <sup>9</sup> ) 電極式水位検出器 (※ <sup>10</sup> ) 電極式水位検出器 (※ <sup>11</sup> )	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・代替補償冷却ポンプ出口流量 (0~200t/h) (※ <sup>12</sup> )	重大事故等時において、外部水漏注水流量 (通常運転水位約 2m (※ <sup>13</sup> )) の範囲を監視可能。 重大事故等時において、原子炉格納容器下部への注水による圧力容器へブスタル部の露水状況を監視可能。 重大事故等時において、原子炉格納容器下部の清浄な水の冷却に必要な水深 (0.23m) を監視可能。	原子炉格納容器内の水素濃度	格納容器内空気水素濃度 (0~30vol%) / 0~100vol%	熱伝導率式水素検出器	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・格納容器内水素濃度 (0/%) (0~100vol%) 及び格納容器内水素濃度 (S/C) (0~100vol%) (※ <sup>14</sup> )	重大事故等時において、炉心の著しい揺動時に変動する可能性ある範囲 (0~100vol%) を監視可能。	原子炉格納容器内の酸素濃度	格納容器内空気酸素濃度 (0~30vol%)	熱伝導率式酸素検出器	・多重性を有する重要計器の他チャンネル	重大事故等時において、原子炉格納容器内の酸素濃度の変動範囲 (0~4.3vol%) を監視可能。	原子炉格納容器内の放射線量率	格納容器内空気放射線モニタ (0/%) 格納容器内空気放射線モニタ (S/C) (10 <sup>-7</sup> ~10 <sup>-5</sup> /h)	電離箱 電離箱	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・多重性を有する重要計器の他チャンネル	炉心格納の判断値 (停止直後で約 195v/h) を監視可能。	<p>第1表 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (4/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">重要監視パラメータ</th> <th rowspan="2">重要計器 (計測範囲)</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">重要代替計器等 (代表) (※<sup>1</sup>)</th> </tr> <tr> <th>重要計器に故障の疑いがある場合</th> <th>重要計器の計測範囲を超えた場合 (※<sup>2</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>原子炉格納容器圧力 (0~0.30MPa) 格納容器圧力 (0~1.0MPa)</td> <td>弾性圧力検出器 (※<sup>3</sup>)</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・格納容器圧力 (0~1.0MPa) (※<sup>4</sup>)</td> <td>重大事故等時において、原子炉格納容器限界圧力 (0.203MPa) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水位</td> <td>格納容器内液面センサ水位 (0~100%) 格納容器内液面センサ水位 (0~100%) 原子炉下部キャビティ水位 (0/0.4m)</td> <td>差圧式水位検出器 (※<sup>5</sup>) 電極式水位検出器 (※<sup>6</sup>)</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※<sup>7</sup>) ・格納容器内液面センサ水位 (0~100%) (※<sup>8</sup>) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※<sup>9</sup>) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※<sup>10</sup>) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※<sup>11</sup>) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※<sup>12</sup>)</td> <td>重大事故等時において、再循環可能本水位 (7%) を監視可能。 重大事故等時において、再循環サブ上層 (約 100%) を監視可能。格納容器の 100% は、広域水位が約 48% に相当。 重大事故等時において、原子炉下部キャビティに貯蔵中の冷却に必要な水量があることを監視可能。</td> </tr> <tr> <td>格納容器水位 (0/0.4m)</td> <td></td> <td>電極式水位検出器 (※<sup>13</sup>)</td> <td>・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%)</td> <td>重大事故等時において、格納容器内水位の異常レベルに達したことを監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水素濃度</td> <td>燃料貯蔵槽内空気水素濃度計測ユニット (0~30vol%)</td> <td>熱伝導率式水素検出器</td> <td>・重要計器の不備 ・原子炉格納容器内水素処理装置流量監視装置 (0~30vol%) 及び格納容器水素イオン交換装置流量監視 (0~400℃) (※<sup>14</sup>)</td> <td>重大事故等時において、変動範囲 (0~30vol%) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の酸素濃度</td> <td>燃料貯蔵槽内空気酸素濃度計測ユニット (0~30vol%)</td> <td>熱伝導率式酸素検出器</td> <td>・重要計器の不備</td> <td>重大事故等時において、変動範囲 (0~30vol%) を監視可能。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>格納容器内高レンジリアモニタ (高レンジ) (10<sup>-7</sup>~10<sup>-5</sup>/h) 格納容器内高レンジリアモニタ (高レンジ) (10<sup>-7</sup>~10<sup>-5</sup>/h)</td> <td>電離箱 電離箱</td> <td>・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・多重性を有する重要計器の他チャンネル</td> <td>炉心格納初期の値である 195vol/h を超える燃料貯蔵量率を監視可能。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※<sup>1</sup>) 漏洩ダイアフラムにおける原子炉格納容器圧力を計測。          (※<sup>2</sup>) 漏洩ダイアフラムにおける原子炉格納容器内の圧力と格納容器内液面センサ下部の差圧を計測。          (※<sup>3</sup>) 基準点 (0m) は通常運転水位 (0.P.~3850mm)。          (※<sup>4</sup>) 格納容器内水素濃度及び格納容器水素イオン交換装置流量監視 (0~400℃) は、作動状況を監視することにより、格納容器内の水素濃度が大幅な変動を生じない状態であることを確認する。</p>	重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※ <sup>1</sup> )		重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※ <sup>2</sup> )	原子炉格納容器内の圧力	原子炉格納容器圧力 (0~0.30MPa) 格納容器圧力 (0~1.0MPa)	弾性圧力検出器 (※ <sup>3</sup> )	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・格納容器圧力 (0~1.0MPa) (※ <sup>4</sup> )	重大事故等時において、原子炉格納容器限界圧力 (0.203MPa) を監視可能。	原子炉格納容器内の水位	格納容器内液面センサ水位 (0~100%) 格納容器内液面センサ水位 (0~100%) 原子炉下部キャビティ水位 (0/0.4m)	差圧式水位検出器 (※ <sup>5</sup> ) 電極式水位検出器 (※ <sup>6</sup> )	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>7</sup> ) ・格納容器内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>8</sup> ) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>9</sup> ) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>10</sup> ) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>11</sup> ) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>12</sup> )	重大事故等時において、再循環可能本水位 (7%) を監視可能。 重大事故等時において、再循環サブ上層 (約 100%) を監視可能。格納容器の 100% は、広域水位が約 48% に相当。 重大事故等時において、原子炉下部キャビティに貯蔵中の冷却に必要な水量があることを監視可能。	格納容器水位 (0/0.4m)		電極式水位検出器 (※ <sup>13</sup> )	・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%)	重大事故等時において、格納容器内水位の異常レベルに達したことを監視可能。	原子炉格納容器内の水素濃度	燃料貯蔵槽内空気水素濃度計測ユニット (0~30vol%)	熱伝導率式水素検出器	・重要計器の不備 ・原子炉格納容器内水素処理装置流量監視装置 (0~30vol%) 及び格納容器水素イオン交換装置流量監視 (0~400℃) (※ <sup>14</sup> )	重大事故等時において、変動範囲 (0~30vol%) を監視可能。	原子炉格納容器内の酸素濃度	燃料貯蔵槽内空気酸素濃度計測ユニット (0~30vol%)	熱伝導率式酸素検出器	・重要計器の不備	重大事故等時において、変動範囲 (0~30vol%) を監視可能。	原子炉格納容器内の放射線量率	格納容器内高レンジリアモニタ (高レンジ) (10 <sup>-7</sup> ~10 <sup>-5</sup> /h) 格納容器内高レンジリアモニタ (高レンジ) (10 <sup>-7</sup> ~10 <sup>-5</sup> /h)	電離箱 電離箱	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・多重性を有する重要計器の他チャンネル	炉心格納初期の値である 195vol/h を超える燃料貯蔵量率を監視可能。	
重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)				検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※ <sup>1</sup> )																																																																		
		重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※ <sup>2</sup> )																																																																					
原子炉格納容器内の圧力	ドライウェル圧力 (0~1MPa[abs]) 圧力抑制室圧力 (0~1MPa[abs])	弾性圧力検出器 (※ <sup>3</sup> )	・圧力抑制室圧力 (0~1MPa[abs]) (※ <sup>4</sup> ) ・ドライウェル温度 (0~300℃) (※ <sup>5</sup> ) ・ドライウェル圧力 (0~1MPa[abs]) (※ <sup>6</sup> ) ・圧力抑制室内空気温度 (0~200℃) (※ <sup>7</sup> )	重大事故等時において、原子炉格納容器限界圧力 (950kPa) をドライウェル圧力又は圧力抑制室圧力にて監視可能。																																																																				
原子炉格納容器内の水位	圧力抑制室水位 (0~5m) (※ <sup>8</sup> ) 原子炉格納容器下部水位 (0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m, 2.5m, 2.8m) ドライウェル水位 (0.02m, 0.25m, 0.34m)	差圧式水位検出器 (※ <sup>9</sup> ) 電極式水位検出器 (※ <sup>10</sup> ) 電極式水位検出器 (※ <sup>11</sup> )	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・代替補償冷却ポンプ出口流量 (0~200t/h) (※ <sup>12</sup> )	重大事故等時において、外部水漏注水流量 (通常運転水位約 2m (※ <sup>13</sup> )) の範囲を監視可能。 重大事故等時において、原子炉格納容器下部への注水による圧力容器へブスタル部の露水状況を監視可能。 重大事故等時において、原子炉格納容器下部の清浄な水の冷却に必要な水深 (0.23m) を監視可能。																																																																				
原子炉格納容器内の水素濃度	格納容器内空気水素濃度 (0~30vol%) / 0~100vol%	熱伝導率式水素検出器	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・格納容器内水素濃度 (0/%) (0~100vol%) 及び格納容器内水素濃度 (S/C) (0~100vol%) (※ <sup>14</sup> )	重大事故等時において、炉心の著しい揺動時に変動する可能性ある範囲 (0~100vol%) を監視可能。																																																																				
原子炉格納容器内の酸素濃度	格納容器内空気酸素濃度 (0~30vol%)	熱伝導率式酸素検出器	・多重性を有する重要計器の他チャンネル	重大事故等時において、原子炉格納容器内の酸素濃度の変動範囲 (0~4.3vol%) を監視可能。																																																																				
原子炉格納容器内の放射線量率	格納容器内空気放射線モニタ (0/%) 格納容器内空気放射線モニタ (S/C) (10 <sup>-7</sup> ~10 <sup>-5</sup> /h)	電離箱 電離箱	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・多重性を有する重要計器の他チャンネル	炉心格納の判断値 (停止直後で約 195v/h) を監視可能。																																																																				
重要監視パラメータ	重要計器 (計測範囲)	検出器の種類	重要代替計器等 (代表) (※ <sup>1</sup> )																																																																					
			重要計器に故障の疑いがある場合	重要計器の計測範囲を超えた場合 (※ <sup>2</sup> )																																																																				
原子炉格納容器内の圧力	原子炉格納容器圧力 (0~0.30MPa) 格納容器圧力 (0~1.0MPa)	弾性圧力検出器 (※ <sup>3</sup> )	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・格納容器圧力 (0~1.0MPa) (※ <sup>4</sup> )	重大事故等時において、原子炉格納容器限界圧力 (0.203MPa) を監視可能。																																																																				
原子炉格納容器内の水位	格納容器内液面センサ水位 (0~100%) 格納容器内液面センサ水位 (0~100%) 原子炉下部キャビティ水位 (0/0.4m)	差圧式水位検出器 (※ <sup>5</sup> ) 電極式水位検出器 (※ <sup>6</sup> )	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>7</sup> ) ・格納容器内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>8</sup> ) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>9</sup> ) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>10</sup> ) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>11</sup> ) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) (※ <sup>12</sup> )	重大事故等時において、再循環可能本水位 (7%) を監視可能。 重大事故等時において、再循環サブ上層 (約 100%) を監視可能。格納容器の 100% は、広域水位が約 48% に相当。 重大事故等時において、原子炉下部キャビティに貯蔵中の冷却に必要な水量があることを監視可能。																																																																				
格納容器水位 (0/0.4m)		電極式水位検出器 (※ <sup>13</sup> )	・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%) ・燃料貯蔵槽内液面センサ水位 (0~100%)	重大事故等時において、格納容器内水位の異常レベルに達したことを監視可能。																																																																				
原子炉格納容器内の水素濃度	燃料貯蔵槽内空気水素濃度計測ユニット (0~30vol%)	熱伝導率式水素検出器	・重要計器の不備 ・原子炉格納容器内水素処理装置流量監視装置 (0~30vol%) 及び格納容器水素イオン交換装置流量監視 (0~400℃) (※ <sup>14</sup> )	重大事故等時において、変動範囲 (0~30vol%) を監視可能。																																																																				
原子炉格納容器内の酸素濃度	燃料貯蔵槽内空気酸素濃度計測ユニット (0~30vol%)	熱伝導率式酸素検出器	・重要計器の不備	重大事故等時において、変動範囲 (0~30vol%) を監視可能。																																																																				
原子炉格納容器内の放射線量率	格納容器内高レンジリアモニタ (高レンジ) (10 <sup>-7</sup> ~10 <sup>-5</sup> /h) 格納容器内高レンジリアモニタ (高レンジ) (10 <sup>-7</sup> ~10 <sup>-5</sup> /h)	電離箱 電離箱	・多重性を有する重要計器の他チャンネル ・多重性を有する重要計器の他チャンネル	炉心格納初期の値である 195vol/h を超える燃料貯蔵量率を監視可能。																																																																				



灰色: 女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

表 58-13-1 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (5/8)

Table with 4 columns: 重要監視パラメータ, 重要計器 (計測範囲), 検出器の種類, 重要計器の計測範囲を前記する場合. Includes rows for 中性子束, 最終ヒートシンタの確保, 冷却水の温度, 代替循環冷却ポンプ, 原子炉格納容器スプレイト.

(赤字) 原子炉起動時から定格出力運転時の中性子束を監視可能。
(青字) 起動前域モニタが測定できる前域を越えた場合には平均出力前域モニタによって監視可能。

表 58-13-1 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (6/8)

Table with 4 columns: 重要監視パラメータ, 重要計器 (計測範囲), 検出器の種類, 重要計器の計測範囲を前記した場合. Includes rows for 最終ヒートシンタの確保, 原子炉格納容器水位, フィルタ装置入口圧力, フィルタ装置出口圧力, フィルタ装置入口温度, 格納容器出口放射線モニタ, フィルタ装置出口水素濃度, フィルタ装置出口水素濃度, 最終ヒートシンタの確保.

(赤字) 隔壁ダイヤフラムにかかるフィルタ装置内の圧力 (気相部) とフィルタ装置下部の圧力を計測。
(青字) 隔壁ダイヤフラムにかかるフィルタ装置入口圧力及びフィルタ装置出口圧力を計測。
(赤字) 隔壁により原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置の健全性を確認する。
(赤字) 原子炉停止後に中心相高し、原子炉格納容器ベント開始を原子炉停止後1時間と想定した濃度。
(赤字) フィルタ装置出口水素濃度は、原子炉格納容器内の気体が飽和することから格納容器内水素濃度とはほぼ一致すると見做す。
(赤字) 中心相高前ベントすることを想定した保守的な濃度率 (中心相高の判断値 (停止直前で約 165%/h) を参照)。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

第1表 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (5/7)

Table with 4 columns: 重要監視パラメータ, 重要計器 (計測範囲), 検出器の種類, 重要計器の計測範囲を前記した場合. Includes rows for 中性子束, 最終ヒートシンタの確保, 冷却水の温度, 代替循環冷却ポンプ, 原子炉格納容器スプレイト, 原子炉格納容器水位, 原子炉格納容器出口放射線モニタ, フィルタ装置入口圧力, フィルタ装置出口圧力, フィルタ装置入口温度, 格納容器出口放射線モニタ, フィルタ装置出口水素濃度, 最終ヒートシンタの確保.

(赤字) 隔壁ダイヤフラムにかかるタンク内の圧力 (気相部) とタンク下部の圧力を計測。
(青字) 隔壁ダイヤフラムにかかるタンク内の圧力 (液相部) とタンク下部の圧力を計測。
(赤字) 隔壁により原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置の健全性を確認する。
(赤字) 原子炉停止後に中心相高し、原子炉格納容器ベント開始を原子炉停止後1時間と想定した濃度。
(赤字) フィルタ装置出口水素濃度は、原子炉格納容器内の気体が飽和することから格納容器内水素濃度とはほぼ一致すると見做す。
(赤字) 中心相高前ベントすることを想定した保守的な濃度率 (中心相高の判断値 (停止直前で約 165%/h) を参照)。

灰色: 女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

表 58-13-1 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (7/8)

Table with 4 columns: 重要監視パラメータ, 重要計器 (計測範囲), 検出器の種類, 重要代替計器等 (代表) (色). Rows include parameters like 最高炉内圧力, 炉内温度, 炉内圧力, etc.

(色) 原子炉圧力容器温度と炉内温度計測用熱交換器入口温度の相違 (黒) 黒字に指定。
(赤) 熱交換器出口の熱交換率 (設計値) を用いて水温を推定。
(青) 臨界リアクタムにおける炉内圧力計測。
(緑) 定期試験時に測定可能な場合を指定。

表 58-13-1 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (8/8)

Table with 4 columns: 重要監視パラメータ, 重要計器 (計測範囲), 検出器の種類, 重要代替計器等 (代表) (色). Rows include parameters like 炉内圧力, 炉内温度, 炉内圧力, etc.

(赤) 臨界リアクタムにおける炉内圧力計測。
(青) 定期試験時に測定可能な場合を指定。
(緑) 定期試験時に測定可能な場合を指定。
(黒) 定期試験時に測定可能な場合を指定。

第1表 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (6/7)

Table with 4 columns: 重要監視パラメータ, 重要計器 (計測範囲), 検出器の種類, 重要代替計器等 (代表) (色). Rows include parameters like 最高炉内圧力, 炉内温度, 炉内圧力, etc.

(赤) 最高炉内圧力 (BWR) の上昇が臨界炉内温度の増加を転写することにより、最高炉内圧力監視機能を補完する。
(青) 最高炉内圧力監視機能がなく、及び臨界炉内温度監視機能が (BWR) の上昇がないことでインターフェイスシステムが機能しない。
(緑) 臨界リアクタムにおける炉内圧力計測と炉内温度計測。
(黒) 定期試験時に測定可能な場合を指定する。

第1表 重大事故等対処設備により計測する重要監視パラメータ (7/7)

Table with 4 columns: 重要監視パラメータ, 重要計器 (計測範囲), 検出器の種類, 重要代替計器等 (代表) (色). Rows include parameters like 最高炉内圧力, 炉内温度, 炉内圧力, etc.

(赤) 最高炉内圧力 (BWR) の上昇が臨界炉内温度の増加を転写することにより、最高炉内圧力監視機能を補完する。
(青) 最高炉内圧力監視機能がなく、及び臨界炉内温度監視機能が (BWR) の上昇がないことでインターフェイスシステムが機能しない。
(緑) 臨界リアクタムにおける炉内圧力計測と炉内温度計測。
(黒) 定期試験時に測定可能な場合を指定する。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第58条 計装設備 (補足説明資料)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																	
<p>(大飯該当資料なし)</p>	<p>58-14                      「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」の第58条に基づく主要な重大事故等対処設備一覧表</p> <p>(第58条) 計装設備 (1/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故等対処設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>事故可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>原子炉圧力容器温度*</td> <td>原子炉圧力容器温度</td> <td>主要パラメータの他 原子炉圧力 (広域) 原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 残留熱除去系熱交換器入口温度</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器内の圧力</td> <td>(原子炉圧力)</td> <td>原子炉圧力</td> <td>主要パラメータの他 原子炉圧力 (広域) 原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>原子炉圧力</td> <td>原子炉圧力 (SA)</td> <td>主要パラメータの他 原子炉圧力 (広域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故等対処設備がないため「-」とする。                      *2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。                      *3：常用計器としての計装設備。個数と設置場所を添付資料1に示す。</p> <p>(第58条) 計装設備 (2/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故等対処設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>事故可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力容器内の水位</td> <td>(原子炉水位 (広域)) (原子炉水位 (燃料域))</td> <td>原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域)</td> <td>主要パラメータの他 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 高圧代替注水系ポンプ出口流量 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイレイン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系物納容器冷却ライン洗浄流量) 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 低圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 圧力抑制圧力</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域)</td> <td>原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域)</td> <td>主要パラメータの他 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 高圧代替注水系ポンプ出口流量 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイレイン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系物納容器冷却ライン洗浄流量) 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 低圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 圧力抑制圧力</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故等対処設備がないため「-」とする。                      *2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。                      *3：常用計器としての計装設備。個数と設置場所を添付資料1に示す。</p>	機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故等対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	事故可搬型	原子炉圧力容器内の温度	原子炉圧力容器温度*	原子炉圧力容器温度	主要パラメータの他 原子炉圧力 (広域) 原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 残留熱除去系熱交換器入口温度	常設	原子炉圧力容器内の圧力	(原子炉圧力)	原子炉圧力	主要パラメータの他 原子炉圧力 (広域) 原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度	常設		原子炉圧力	原子炉圧力 (SA)	主要パラメータの他 原子炉圧力 (広域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度	常設	機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故等対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	事故可搬型	原子炉圧力容器内の水位	(原子炉水位 (広域)) (原子炉水位 (燃料域))	原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域)	主要パラメータの他 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 高圧代替注水系ポンプ出口流量 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイレイン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系物納容器冷却ライン洗浄流量) 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 低圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 圧力抑制圧力	常設		原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域)	原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域)	主要パラメータの他 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 高圧代替注水系ポンプ出口流量 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイレイン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系物納容器冷却ライン洗浄流量) 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 低圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 圧力抑制圧力	常設	<p>58-14                      「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」の第58条に基づく主要な重大事故等対処設備一覧表</p> <p>(第58条) 計装設備 (1/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故等対処設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>事故可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>(1次冷却材温度 (広域-高温側))</td> <td>1次冷却材温度 (広域-高温側)</td> <td>主要パラメータの他 1次冷却材温度 (広域-低温側)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(1次冷却材温度 (広域-低温側))</td> <td>1次冷却材温度 (広域-低温側)</td> <td>主要パラメータの他 1次冷却材温度 (広域-高温側)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器内の圧力</td> <td>(1次冷却材圧力 (広域))</td> <td>1次冷却材圧力 (広域)</td> <td>主要パラメータの他 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域-低温側)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器内の水位</td> <td>加圧器水位*3</td> <td>加圧器水位</td> <td>主要パラメータの他 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域-高温側) 1次冷却材圧力 (広域-低温側)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(原子炉容器水位)</td> <td>原子炉容器水位</td> <td>加圧器水位 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域-高温側) 1次冷却材圧力 (広域-低温側)</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故等対処設備がないため「-」とする。                      *2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。                      *3：常用計器としての計装設備。個数と設置場所を添付資料1に示す。</p>	機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故等対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	事故可搬型	原子炉圧力容器内の温度	(1次冷却材温度 (広域-高温側))	1次冷却材温度 (広域-高温側)	主要パラメータの他 1次冷却材温度 (広域-低温側)	常設		(1次冷却材温度 (広域-低温側))	1次冷却材温度 (広域-低温側)	主要パラメータの他 1次冷却材温度 (広域-高温側)	常設	原子炉圧力容器内の圧力	(1次冷却材圧力 (広域))	1次冷却材圧力 (広域)	主要パラメータの他 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域-低温側)	常設	原子炉圧力容器内の水位	加圧器水位*3	加圧器水位	主要パラメータの他 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域-高温側) 1次冷却材圧力 (広域-低温側)	常設		(原子炉容器水位)	原子炉容器水位	加圧器水位 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域-高温側) 1次冷却材圧力 (広域-低温側)	常設	<p>相違理由</p> <p>【女川】炉型の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PWR と BWR で想定される重大事故等及び対処するための監視パラメータが異なるため、比較対象外としている。以降、同表において同じ。</li> </ul>
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故等対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	事故可搬型																																																																
原子炉圧力容器内の温度	原子炉圧力容器温度*	原子炉圧力容器温度	主要パラメータの他 原子炉圧力 (広域) 原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 残留熱除去系熱交換器入口温度	常設																																																																
原子炉圧力容器内の圧力	(原子炉圧力)	原子炉圧力	主要パラメータの他 原子炉圧力 (広域) 原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度	常設																																																																
	原子炉圧力	原子炉圧力 (SA)	主要パラメータの他 原子炉圧力 (広域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度	常設																																																																
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故等対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	事故可搬型																																																																
原子炉圧力容器内の水位	(原子炉水位 (広域)) (原子炉水位 (燃料域))	原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域)	主要パラメータの他 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 高圧代替注水系ポンプ出口流量 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイレイン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系物納容器冷却ライン洗浄流量) 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 低圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 圧力抑制圧力	常設																																																																
	原子炉水位 (広域) 原子炉水位 (燃料域)	原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域)	主要パラメータの他 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 高圧代替注水系ポンプ出口流量 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイレイン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系物納容器冷却ライン洗浄流量) 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 低圧駆動ポンプ系ポンプ出口流量 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 圧力抑制圧力	常設																																																																
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故等対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	事故可搬型																																																																
原子炉圧力容器内の温度	(1次冷却材温度 (広域-高温側))	1次冷却材温度 (広域-高温側)	主要パラメータの他 1次冷却材温度 (広域-低温側)	常設																																																																
	(1次冷却材温度 (広域-低温側))	1次冷却材温度 (広域-低温側)	主要パラメータの他 1次冷却材温度 (広域-高温側)	常設																																																																
原子炉圧力容器内の圧力	(1次冷却材圧力 (広域))	1次冷却材圧力 (広域)	主要パラメータの他 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域-低温側)	常設																																																																
原子炉圧力容器内の水位	加圧器水位*3	加圧器水位	主要パラメータの他 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域-高温側) 1次冷却材圧力 (広域-低温側)	常設																																																																
	(原子炉容器水位)	原子炉容器水位	加圧器水位 1次冷却材圧力 (広域) 1次冷却材圧力 (広域-高温側) 1次冷却材圧力 (広域-低温側)	常設																																																																



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

Main comparison table with columns for equipment name, function, and comparison details. It is divided into four quadrants based on equipment type and comparison criteria.



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																														
	<p>(第58条) 計装設備 (5/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等<sup>*1, *2</sup></th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計装が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設/可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">原子炉格納容器内の水位</td> <td rowspan="3">—</td> <td>圧力抑制室水位<sup>1)</sup></td> <td>主要パラメータの他チャンネル熱圧代替注水系ポンプ出口流量 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系3系格納容器冷却ライン洗浄流量) 蒸気駆動低圧注水系ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧中心スプレイ系ポンプ出口流量 原子炉格納容器代替スプレイ流量 原子炉格納容器下部注水流量 復水貯蔵タンク水位</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>原子炉格納容器下部水位</td> <td>主要パラメータの他チャンネル残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系3系格納容器冷却ライン洗浄流量) 原子炉格納容器代替スプレイ流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉格納容器下部注水流量 復水貯蔵タンク水位</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ドライケル水位</td> <td>主要パラメータの他チャンネル残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系3系格納容器冷却ライン洗浄流量) 原子炉格納容器代替スプレイ流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉格納容器下部注水流量 復水貯蔵タンク水位</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原子炉格納容器内の水素濃度</td> <td rowspan="3">—</td> <td>格納容器内雰囲気気水素濃度 (D/M)</td> <td>主要パラメータの他チャンネル格納容器内雰囲気気水素濃度</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>格納容器内雰囲気気水素濃度</td> <td>主要パラメータの他チャンネル格納容器内雰囲気気水素濃度</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>格納容器内雰囲気気水素濃度</td> <td>主要パラメータの他チャンネル格納容器内水素濃度 (D/M) 格納容器内水素濃度 (S/C)</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備等がないため「—」とする。          *2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。          *3：常用計器としての計装設備。換装と設置場所を添付資料1に示す。</p>	機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等 <sup>*1, *2</sup>	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計装が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設/可搬型	原子炉格納容器内の水位	—	圧力抑制室水位 <sup>1)</sup>	主要パラメータの他チャンネル熱圧代替注水系ポンプ出口流量 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系3系格納容器冷却ライン洗浄流量) 蒸気駆動低圧注水系ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧中心スプレイ系ポンプ出口流量 原子炉格納容器代替スプレイ流量 原子炉格納容器下部注水流量 復水貯蔵タンク水位	常設	—	原子炉格納容器下部水位	主要パラメータの他チャンネル残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系3系格納容器冷却ライン洗浄流量) 原子炉格納容器代替スプレイ流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉格納容器下部注水流量 復水貯蔵タンク水位	常設	—	ドライケル水位	主要パラメータの他チャンネル残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系3系格納容器冷却ライン洗浄流量) 原子炉格納容器代替スプレイ流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉格納容器下部注水流量 復水貯蔵タンク水位	常設	原子炉格納容器内の水素濃度	—	格納容器内雰囲気気水素濃度 (D/M)	主要パラメータの他チャンネル格納容器内雰囲気気水素濃度	常設	格納容器内雰囲気気水素濃度	主要パラメータの他チャンネル格納容器内雰囲気気水素濃度	常設	格納容器内雰囲気気水素濃度	主要パラメータの他チャンネル格納容器内水素濃度 (D/M) 格納容器内水素濃度 (S/C)	常設	<p>(第58条) 計装設備 (4/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等<sup>*1, *2</sup></th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計装が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設/可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">原子炉格納容器内の水位</td> <td rowspan="4">—</td> <td>(格納容器再循環サンプ水位 (広域))</td> <td>格納容器再循環サンプ水位 (広域)</td> <td>主要パラメータの他チャンネル格納容器再循環サンプ水位 (広域) 原子炉下部キャビティ水位 格納容器水位 燃料取扱用水ビット水位 補助給水ビット水位 B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(格納容器再循環サンプ水位 (狭域))</td> <td>格納容器再循環サンプ水位 (狭域)</td> <td>格納容器再循環サンプ水位 (広域)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>原子炉下部キャビティ水位</td> <td>格納容器再循環サンプ水位 (広域) 燃料取扱用水ビット水位 補助給水ビット水位 B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>格納容器水位</td> <td>燃料取扱用水ビット水位 補助給水ビット水位 B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水素濃度</td> <td>—</td> <td>可搬型格納容器内水素濃度計測ユニット</td> <td>主要パラメータの手摘 原子炉格納容器内水素処理装置風度 格納容器水素イグナイト温度</td> <td>可搬型</td> </tr> <tr> <td>アニュラス部の水素濃度</td> <td>—</td> <td>可搬型アニュラス水素濃度計測ユニット</td> <td>主要パラメータの手摘</td> <td>可搬型</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備等がないため「—」とする。          *2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。</p>	機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等 <sup>*1, *2</sup>	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計装が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設/可搬型	原子炉格納容器内の水位	—	(格納容器再循環サンプ水位 (広域))	格納容器再循環サンプ水位 (広域)	主要パラメータの他チャンネル格納容器再循環サンプ水位 (広域) 原子炉下部キャビティ水位 格納容器水位 燃料取扱用水ビット水位 補助給水ビット水位 B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	常設	(格納容器再循環サンプ水位 (狭域))	格納容器再循環サンプ水位 (狭域)	格納容器再循環サンプ水位 (広域)	常設	—	原子炉下部キャビティ水位	格納容器再循環サンプ水位 (広域) 燃料取扱用水ビット水位 補助給水ビット水位 B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	常設	—	格納容器水位	燃料取扱用水ビット水位 補助給水ビット水位 B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	常設	原子炉格納容器内の水素濃度	—	可搬型格納容器内水素濃度計測ユニット	主要パラメータの手摘 原子炉格納容器内水素処理装置風度 格納容器水素イグナイト温度	可搬型	アニュラス部の水素濃度	—	可搬型アニュラス水素濃度計測ユニット	主要パラメータの手摘	可搬型	
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等 <sup>*1, *2</sup>	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計装が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設/可搬型																																																													
原子炉格納容器内の水位	—	圧力抑制室水位 <sup>1)</sup>	主要パラメータの他チャンネル熱圧代替注水系ポンプ出口流量 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系3系格納容器冷却ライン洗浄流量) 蒸気駆動低圧注水系ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧中心スプレイ系ポンプ出口流量 原子炉格納容器代替スプレイ流量 原子炉格納容器下部注水流量 復水貯蔵タンク水位	常設																																																													
		—	原子炉格納容器下部水位	主要パラメータの他チャンネル残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系3系格納容器冷却ライン洗浄流量) 原子炉格納容器代替スプレイ流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉格納容器下部注水流量 復水貯蔵タンク水位	常設																																																												
		—	ドライケル水位	主要パラメータの他チャンネル残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量) 残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系3系格納容器冷却ライン洗浄流量) 原子炉格納容器代替スプレイ流量 代替循環冷却ポンプ出口流量 原子炉格納容器下部注水流量 復水貯蔵タンク水位	常設																																																												
原子炉格納容器内の水素濃度	—	格納容器内雰囲気気水素濃度 (D/M)	主要パラメータの他チャンネル格納容器内雰囲気気水素濃度	常設																																																													
		格納容器内雰囲気気水素濃度	主要パラメータの他チャンネル格納容器内雰囲気気水素濃度	常設																																																													
		格納容器内雰囲気気水素濃度	主要パラメータの他チャンネル格納容器内水素濃度 (D/M) 格納容器内水素濃度 (S/C)	常設																																																													
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等 <sup>*1, *2</sup>	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計装が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設/可搬型																																																													
原子炉格納容器内の水位	—	(格納容器再循環サンプ水位 (広域))	格納容器再循環サンプ水位 (広域)	主要パラメータの他チャンネル格納容器再循環サンプ水位 (広域) 原子炉下部キャビティ水位 格納容器水位 燃料取扱用水ビット水位 補助給水ビット水位 B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	常設																																																												
		(格納容器再循環サンプ水位 (狭域))	格納容器再循環サンプ水位 (狭域)	格納容器再循環サンプ水位 (広域)	常設																																																												
		—	原子炉下部キャビティ水位	格納容器再循環サンプ水位 (広域) 燃料取扱用水ビット水位 補助給水ビット水位 B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	常設																																																												
		—	格納容器水位	燃料取扱用水ビット水位 補助給水ビット水位 B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	常設																																																												
原子炉格納容器内の水素濃度	—	可搬型格納容器内水素濃度計測ユニット	主要パラメータの手摘 原子炉格納容器内水素処理装置風度 格納容器水素イグナイト温度	可搬型																																																													
アニュラス部の水素濃度	—	可搬型アニュラス水素濃度計測ユニット	主要パラメータの手摘	可搬型																																																													

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																			
<p>(第58条) 計装設備 (6/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設 可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>(格納容器内雰囲気放射線モニタ(D/W)) 格納容器雰囲気放射線モニタ(S/C) (格納容器内雰囲気放射線モニタ(S/C)) 格納容器雰囲気放射線モニタ(S/C)</td> <td>格納容器内雰囲気放射線モニタ(D/W) 格納容器内雰囲気放射線モニタ(S/C)</td> <td>主要パラメータの他チャンネル</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>本機界の維持又は監視</td> <td>起動循環モニタ 平均出力領域モニタ (平均出力領域モニタ) 起動循環モニタ</td> <td>起動循環モニタ 平均出力領域モニタ 主要パラメータの他チャンネル 起動循環モニタ</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 平均出力領域モニタ</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最終ヒートシンクの確保 (代替循環冷却系)</td> <td>—</td> <td>サブプレッションプール水温度 残留熱除去系熱交換器入口温度</td> <td>主要パラメータの他 圧力制御室内空気温度</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>サブプレッションプール水温度</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※1：重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備がないため「—」とする。          ※2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。</p>	機能	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型	原子炉格納容器内の放射線量率	(格納容器内雰囲気放射線モニタ(D/W)) 格納容器雰囲気放射線モニタ(S/C) (格納容器内雰囲気放射線モニタ(S/C)) 格納容器雰囲気放射線モニタ(S/C)	格納容器内雰囲気放射線モニタ(D/W) 格納容器内雰囲気放射線モニタ(S/C)	主要パラメータの他チャンネル	常設	本機界の維持又は監視	起動循環モニタ 平均出力領域モニタ (平均出力領域モニタ) 起動循環モニタ	起動循環モニタ 平均出力領域モニタ 主要パラメータの他チャンネル 起動循環モニタ	主要パラメータの他チャンネル 平均出力領域モニタ	常設	最終ヒートシンクの確保 (代替循環冷却系)	—	サブプレッションプール水温度 残留熱除去系熱交換器入口温度	主要パラメータの他 圧力制御室内空気温度	常設	—	—	サブプレッションプール水温度	常設	<p>(第58条) 計装設備 (7/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設 可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最終ヒートシンクの確保 (格納容器圧力高がし装置)</td> <td>残留熱除去系熱交換器入口温度 残留熱除去系熱交換器出口温度 残留熱除去系ポンプ出口流量</td> <td>フィルタ装置入口圧力 (広帯域) フィルタ装置出口圧力 (広帯域) フィルタ装置水温度 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置出口水素濃度</td> <td>主要パラメータの他チャンネル</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>最終ヒートシンクの確保 (耐圧強化バント系)</td> <td>残留熱除去系熱交換器入口温度 残留熱除去系熱交換器出口温度 残留熱除去系ポンプ出口流量</td> <td>耐圧強化バント系放射線モニタ</td> <td>主要パラメータの他チャンネル</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>最終ヒートシンクの確保 (残留熱除去系)</td> <td>(残留熱除去系熱交換器入口温度) (残留熱除去系熱交換器出口温度) (残留熱除去系ポンプ出口流量)</td> <td>残留熱除去系熱交換器入口温度 残留熱除去系熱交換器出口温度 原子炉圧力容器温度 サブプレッションプール水温度</td> <td>原子炉圧力容器温度 圧力制御室水位</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※1：重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備がないため「—」とする。          ※2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。</p>	機能	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型	最終ヒートシンクの確保 (格納容器圧力高がし装置)	残留熱除去系熱交換器入口温度 残留熱除去系熱交換器出口温度 残留熱除去系ポンプ出口流量	フィルタ装置入口圧力 (広帯域) フィルタ装置出口圧力 (広帯域) フィルタ装置水温度 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置出口水素濃度	主要パラメータの他チャンネル	常設	最終ヒートシンクの確保 (耐圧強化バント系)	残留熱除去系熱交換器入口温度 残留熱除去系熱交換器出口温度 残留熱除去系ポンプ出口流量	耐圧強化バント系放射線モニタ	主要パラメータの他チャンネル	常設	最終ヒートシンクの確保 (残留熱除去系)	(残留熱除去系熱交換器入口温度) (残留熱除去系熱交換器出口温度) (残留熱除去系ポンプ出口流量)	残留熱除去系熱交換器入口温度 残留熱除去系熱交換器出口温度 原子炉圧力容器温度 サブプレッションプール水温度	原子炉圧力容器温度 圧力制御室水位	常設	<p>(第58条) 計装設備 (5/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設 可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>(格納容器内高レンジエリアモニタ (高レンジ)) (格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ))</td> <td>格納容器内高レンジエリアモニタ (高レンジ) 格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ)</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">本機界の維持又は監視</td> <td>(出力領域中性子束)</td> <td>出力領域中性子束</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 中間領域中性子束 1次冷却材温度 (広域-高範囲) 1次冷却材温度 (広域-低範囲) ほうげんタンク水位</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(中間領域中性子束)</td> <td>中間領域中性子束</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 出力領域中性子束 中性子蓄留域中性子束 ほうげんタンク水位</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(中性子蓄留域中性子束)</td> <td>中性子蓄留域中性子束</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 中間領域中性子束 ほうげんタンク水位</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※1：重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備がないため「—」とする。          ※2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。</p>	機能	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型	原子炉格納容器内の放射線量率	(格納容器内高レンジエリアモニタ (高レンジ)) (格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ))	格納容器内高レンジエリアモニタ (高レンジ) 格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ)	主要パラメータの他チャンネル 格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ)	常設	本機界の維持又は監視	(出力領域中性子束)	出力領域中性子束	主要パラメータの他チャンネル 中間領域中性子束 1次冷却材温度 (広域-高範囲) 1次冷却材温度 (広域-低範囲) ほうげんタンク水位	常設	(中間領域中性子束)	中間領域中性子束	主要パラメータの他チャンネル 出力領域中性子束 中性子蓄留域中性子束 ほうげんタンク水位	常設	(中性子蓄留域中性子束)	中性子蓄留域中性子束	主要パラメータの他チャンネル 中間領域中性子束 ほうげんタンク水位	常設	
機能	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型																																																																		
原子炉格納容器内の放射線量率	(格納容器内雰囲気放射線モニタ(D/W)) 格納容器雰囲気放射線モニタ(S/C) (格納容器内雰囲気放射線モニタ(S/C)) 格納容器雰囲気放射線モニタ(S/C)	格納容器内雰囲気放射線モニタ(D/W) 格納容器内雰囲気放射線モニタ(S/C)	主要パラメータの他チャンネル	常設																																																																		
本機界の維持又は監視	起動循環モニタ 平均出力領域モニタ (平均出力領域モニタ) 起動循環モニタ	起動循環モニタ 平均出力領域モニタ 主要パラメータの他チャンネル 起動循環モニタ	主要パラメータの他チャンネル 平均出力領域モニタ	常設																																																																		
最終ヒートシンクの確保 (代替循環冷却系)	—	サブプレッションプール水温度 残留熱除去系熱交換器入口温度	主要パラメータの他 圧力制御室内空気温度	常設																																																																		
	—	—	サブプレッションプール水温度	常設																																																																		
機能	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型																																																																		
最終ヒートシンクの確保 (格納容器圧力高がし装置)	残留熱除去系熱交換器入口温度 残留熱除去系熱交換器出口温度 残留熱除去系ポンプ出口流量	フィルタ装置入口圧力 (広帯域) フィルタ装置出口圧力 (広帯域) フィルタ装置水温度 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置出口水素濃度	主要パラメータの他チャンネル	常設																																																																		
最終ヒートシンクの確保 (耐圧強化バント系)	残留熱除去系熱交換器入口温度 残留熱除去系熱交換器出口温度 残留熱除去系ポンプ出口流量	耐圧強化バント系放射線モニタ	主要パラメータの他チャンネル	常設																																																																		
最終ヒートシンクの確保 (残留熱除去系)	(残留熱除去系熱交換器入口温度) (残留熱除去系熱交換器出口温度) (残留熱除去系ポンプ出口流量)	残留熱除去系熱交換器入口温度 残留熱除去系熱交換器出口温度 原子炉圧力容器温度 サブプレッションプール水温度	原子炉圧力容器温度 圧力制御室水位	常設																																																																		
機能	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型																																																																		
原子炉格納容器内の放射線量率	(格納容器内高レンジエリアモニタ (高レンジ)) (格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ))	格納容器内高レンジエリアモニタ (高レンジ) 格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ)	主要パラメータの他チャンネル 格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ)	常設																																																																		
本機界の維持又は監視	(出力領域中性子束)	出力領域中性子束	主要パラメータの他チャンネル 中間領域中性子束 1次冷却材温度 (広域-高範囲) 1次冷却材温度 (広域-低範囲) ほうげんタンク水位	常設																																																																		
	(中間領域中性子束)	中間領域中性子束	主要パラメータの他チャンネル 出力領域中性子束 中性子蓄留域中性子束 ほうげんタンク水位	常設																																																																		
(中性子蓄留域中性子束)	中性子蓄留域中性子束	主要パラメータの他チャンネル 中間領域中性子束 ほうげんタンク水位	常設																																																																			
<p>(第58条) 計装設備 (6/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設 可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">最終ヒートシンクの確保</td> <td>(原子炉格納容器圧力)</td> <td>原子炉格納容器圧力</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 格納容器圧力 (AM用) 格納容器内温度</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(原子炉補機冷却水サージタンク水位)</td> <td>原子炉補機冷却水サージタンク水位</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最終ヒートシンクの確保</td> <td>原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (AM用)</td> <td>—</td> <td>原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (可搬型)</td> <td>可搬型</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>可搬型温度計測装置 (格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度)</td> <td>主要パラメータの子備 格納容器内温度 原子炉格納容器圧力</td> <td>可搬型</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最終ヒートシンクの確保</td> <td>主蒸気ライン圧力*1</td> <td>主蒸気ライン圧力</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 又はループ 1次冷却材温度 (広域-低範囲) 1次冷却材温度 (広域-高範囲)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器水位 (狭域)*2</td> <td>蒸気発生器水位 (狭域)</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 蒸気発生器水位 (広域) 1次冷却材温度 (広域-低範囲) 1次冷却材温度 (広域-高範囲)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最終ヒートシンクの確保</td> <td>蒸気発生器水位 (広域)</td> <td>蒸気発生器水位 (広域)</td> <td>蒸気発生器水位 (狭域) 1次冷却材温度 (広域-低範囲) 1次冷却材温度 (広域-高範囲)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(補助給水流量)</td> <td>補助給水流量</td> <td>補助給水水位 (広域) 蒸気発生器水位 (狭域) 蒸気発生器水位 (狭域)</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※1：重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備がないため「—」とする。          ※2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。          ※3：常用計器としての計装設備。個数と設置場所を添付資料1に示す。</p>	機能	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型	最終ヒートシンクの確保	(原子炉格納容器圧力)	原子炉格納容器圧力	主要パラメータの他チャンネル 格納容器圧力 (AM用) 格納容器内温度	常設	(原子炉補機冷却水サージタンク水位)	原子炉補機冷却水サージタンク水位	主要パラメータの他チャンネル 格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度	常設	最終ヒートシンクの確保	原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (AM用)	—	原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (可搬型)	可搬型	—	可搬型温度計測装置 (格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度)	主要パラメータの子備 格納容器内温度 原子炉格納容器圧力	可搬型	最終ヒートシンクの確保	主蒸気ライン圧力*1	主蒸気ライン圧力	主要パラメータの他チャンネル 又はループ 1次冷却材温度 (広域-低範囲) 1次冷却材温度 (広域-高範囲)	常設	蒸気発生器水位 (狭域)*2	蒸気発生器水位 (狭域)	主要パラメータの他チャンネル 蒸気発生器水位 (広域) 1次冷却材温度 (広域-低範囲) 1次冷却材温度 (広域-高範囲)	常設	最終ヒートシンクの確保	蒸気発生器水位 (広域)	蒸気発生器水位 (広域)	蒸気発生器水位 (狭域) 1次冷却材温度 (広域-低範囲) 1次冷却材温度 (広域-高範囲)	常設	(補助給水流量)	補助給水流量	補助給水水位 (広域) 蒸気発生器水位 (狭域) 蒸気発生器水位 (狭域)	常設																													
機能	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型																																																																		
最終ヒートシンクの確保	(原子炉格納容器圧力)	原子炉格納容器圧力	主要パラメータの他チャンネル 格納容器圧力 (AM用) 格納容器内温度	常設																																																																		
	(原子炉補機冷却水サージタンク水位)	原子炉補機冷却水サージタンク水位	主要パラメータの他チャンネル 格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度	常設																																																																		
最終ヒートシンクの確保	原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (AM用)	—	原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (可搬型)	可搬型																																																																		
	—	可搬型温度計測装置 (格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度)	主要パラメータの子備 格納容器内温度 原子炉格納容器圧力	可搬型																																																																		
最終ヒートシンクの確保	主蒸気ライン圧力*1	主蒸気ライン圧力	主要パラメータの他チャンネル 又はループ 1次冷却材温度 (広域-低範囲) 1次冷却材温度 (広域-高範囲)	常設																																																																		
	蒸気発生器水位 (狭域)*2	蒸気発生器水位 (狭域)	主要パラメータの他チャンネル 蒸気発生器水位 (広域) 1次冷却材温度 (広域-低範囲) 1次冷却材温度 (広域-高範囲)	常設																																																																		
最終ヒートシンクの確保	蒸気発生器水位 (広域)	蒸気発生器水位 (広域)	蒸気発生器水位 (狭域) 1次冷却材温度 (広域-低範囲) 1次冷却材温度 (広域-高範囲)	常設																																																																		
	(補助給水流量)	補助給水流量	補助給水水位 (広域) 蒸気発生器水位 (狭域) 蒸気発生器水位 (狭域)	常設																																																																		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																								
<p>(第58条) 計装設備 (8/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設可観型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">格納容器パイプ内の監視 (原子炉圧力容器内の状態)</td> <td>(原子炉水位 (広帯域)) (原子炉水位 (燃料域))</td> <td>原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域)</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 原子炉水位 (SA広帯域) 原子炉水位 (SA燃料域)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域)</td> <td>原子炉水位 (SA広帯域) 原子炉水位 (SA燃料域)</td> <td>原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(原子炉圧力)</td> <td>原子炉圧力</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 原子炉圧力 (SA) 原子炉圧力 (広帯域) 原子炉圧力 (燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>原子炉圧力</td> <td>原子炉圧力 (SA)</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 原子炉圧力 原子炉圧力 (広帯域) 原子炉圧力 (燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>格納容器パイプ内の監視 (原子炉格納容器内の状態)</td> <td>ドライウェル温度*1 ドライウェル圧力*2</td> <td>ドライウェル温度 ドライウェル圧力</td> <td>主要パラメータの他抽出器 ドライウェル圧力 圧力制御室圧力 ドライウェル温度</td> <td>常設 常設</td> </tr> <tr> <td>格納容器パイプ内の監視 (原子炉格納容器内の状態)</td> <td>高圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力 (残留熱除去系ポンプ出口圧力)</td> <td>高圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力 残留熱除去系ポンプ出口圧力</td> <td>原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 原子炉圧力</td> <td>常設 常設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>低圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力</td> <td>低圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力</td> <td>原子炉圧力 原子炉圧力 (SA)</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：重大事故防止設備以外の重大事故等対応設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対応設備等がないため「-」とする。                  *2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通原因による機能喪失を想定していない。                  *3：常用計器としての計装設備。個数と設置場所を添付資料1に示す。</p>		機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)	主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設可観型	格納容器パイプ内の監視 (原子炉圧力容器内の状態)	(原子炉水位 (広帯域)) (原子炉水位 (燃料域))	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域)	主要パラメータの他チャンネル 原子炉水位 (SA広帯域) 原子炉水位 (SA燃料域)	常設	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域)	原子炉水位 (SA広帯域) 原子炉水位 (SA燃料域)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域)	常設	(原子炉圧力)	原子炉圧力	主要パラメータの他チャンネル 原子炉圧力 (SA) 原子炉圧力 (広帯域) 原子炉圧力 (燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度	常設		原子炉圧力	原子炉圧力 (SA)	主要パラメータの他チャンネル 原子炉圧力 原子炉圧力 (広帯域) 原子炉圧力 (燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度	常設	格納容器パイプ内の監視 (原子炉格納容器内の状態)	ドライウェル温度*1 ドライウェル圧力*2	ドライウェル温度 ドライウェル圧力	主要パラメータの他抽出器 ドライウェル圧力 圧力制御室圧力 ドライウェル温度	常設 常設	格納容器パイプ内の監視 (原子炉格納容器内の状態)	高圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力 (残留熱除去系ポンプ出口圧力)	高圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力 残留熱除去系ポンプ出口圧力	原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 原子炉圧力	常設 常設		低圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力	低圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力	原子炉圧力 原子炉圧力 (SA)	常設	<p>(第58条) 計装設備 (7/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設可観型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">格納容器パイプ内の監視</td> <td>(蒸気発生器水位 (狭域))</td> <td>蒸気発生器水位 (狭域)</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 蒸気発生器水位 (広域) 主蒸気ライン圧力 補助給水流量</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>主蒸気ライン圧力*3</td> <td>主蒸気ライン圧力</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 蒸気発生器水位 (広域) 補助給水流量</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(1次冷却材圧力 (広域))</td> <td>1次冷却材圧力 (広域)</td> <td>主要パラメータの他グループ 蒸気発生器水位 (狭域) 主蒸気ライン圧力 格納容器再循環サブ水位 (広域) 1次冷却材温度 (広域-高温側) 1次冷却材温度 (広域-低温側)</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：重大事故防止設備以外の重大事故等対応設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対応設備等がないため「-」とする。                  *2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通原因による機能喪失を想定していない。                  *3：常用計器としての計装設備。個数と設置場所を添付資料1に示す。</p>		機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)	主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設可観型	格納容器パイプ内の監視	(蒸気発生器水位 (狭域))	蒸気発生器水位 (狭域)	主要パラメータの他チャンネル 蒸気発生器水位 (広域) 主蒸気ライン圧力 補助給水流量	常設	主蒸気ライン圧力*3	主蒸気ライン圧力	主要パラメータの他チャンネル 蒸気発生器水位 (広域) 補助給水流量	常設	(1次冷却材圧力 (広域))	1次冷却材圧力 (広域)	主要パラメータの他グループ 蒸気発生器水位 (狭域) 主蒸気ライン圧力 格納容器再循環サブ水位 (広域) 1次冷却材温度 (広域-高温側) 1次冷却材温度 (広域-低温側)	常設
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)	主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設可観型																																																							
格納容器パイプ内の監視 (原子炉圧力容器内の状態)	(原子炉水位 (広帯域)) (原子炉水位 (燃料域))	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域)	主要パラメータの他チャンネル 原子炉水位 (SA広帯域) 原子炉水位 (SA燃料域)	常設																																																							
	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域)	原子炉水位 (SA広帯域) 原子炉水位 (SA燃料域)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域)	常設																																																							
	(原子炉圧力)	原子炉圧力	主要パラメータの他チャンネル 原子炉圧力 (SA) 原子炉圧力 (広帯域) 原子炉圧力 (燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度	常設																																																							
	原子炉圧力	原子炉圧力 (SA)	主要パラメータの他チャンネル 原子炉圧力 原子炉圧力 (広帯域) 原子炉圧力 (燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力 (SA燃料域) 原子炉圧力容器温度	常設																																																							
格納容器パイプ内の監視 (原子炉格納容器内の状態)	ドライウェル温度*1 ドライウェル圧力*2	ドライウェル温度 ドライウェル圧力	主要パラメータの他抽出器 ドライウェル圧力 圧力制御室圧力 ドライウェル温度	常設 常設																																																							
格納容器パイプ内の監視 (原子炉格納容器内の状態)	高圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力 (残留熱除去系ポンプ出口圧力)	高圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力 残留熱除去系ポンプ出口圧力	原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 原子炉圧力	常設 常設																																																							
	低圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力	低圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力	原子炉圧力 原子炉圧力 (SA)	常設																																																							
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)	主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設可観型																																																							
格納容器パイプ内の監視	(蒸気発生器水位 (狭域))	蒸気発生器水位 (狭域)	主要パラメータの他チャンネル 蒸気発生器水位 (広域) 主蒸気ライン圧力 補助給水流量	常設																																																							
	主蒸気ライン圧力*3	主蒸気ライン圧力	主要パラメータの他チャンネル 蒸気発生器水位 (広域) 補助給水流量	常設																																																							
	(1次冷却材圧力 (広域))	1次冷却材圧力 (広域)	主要パラメータの他グループ 蒸気発生器水位 (狭域) 主蒸気ライン圧力 格納容器再循環サブ水位 (広域) 1次冷却材温度 (広域-高温側) 1次冷却材温度 (広域-低温側)	常設																																																							
<p>(第58条) 計装設備 (6/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設可観型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">水源の確保</td> <td>圧力制御室水位</td> <td>復水貯蔵タンク水位</td> <td>復水代替注水ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 残留熱除去系ヘッドスプレィライン冷却流量 残留熱除去系高圧ライン流量 (残留熱除去系系格納容器冷却ライン冷却流量) 低圧駆動低圧注水系ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量 原子炉格納容器下部注水流量 高圧代替注水系ポンプ出口圧力 高圧駆動低圧注水系ポンプ出口圧力 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口圧力 高圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力 復水移送ポンプ出口圧力 原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>圧力制御室水位*2</td> <td>圧力制御室水位</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 代替熱交換器ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 低圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1次冷却材ポンプ出口圧力 残留熱除去系ポンプ出口圧力 低圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：重大事故防止設備以外の重大事故等対応設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対応設備等がないため「-」とする。                  *2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通原因による機能喪失を想定していない。                  *3：常用計器としての計装設備。個数と設置場所を添付資料1に示す。</p>		機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)	主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設可観型	水源の確保	圧力制御室水位	復水貯蔵タンク水位	復水代替注水ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 残留熱除去系ヘッドスプレィライン冷却流量 残留熱除去系高圧ライン流量 (残留熱除去系系格納容器冷却ライン冷却流量) 低圧駆動低圧注水系ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量 原子炉格納容器下部注水流量 高圧代替注水系ポンプ出口圧力 高圧駆動低圧注水系ポンプ出口圧力 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口圧力 高圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力 復水移送ポンプ出口圧力 原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域)	常設	圧力制御室水位*2	圧力制御室水位	主要パラメータの他チャンネル 代替熱交換器ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 低圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量	常設			1次冷却材ポンプ出口圧力 残留熱除去系ポンプ出口圧力 低圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力			<p>(第58条) 計装設備 (8/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設可観型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">水源の確保</td> <td>(燃料取替用水ピット水位)</td> <td>燃料取替用水ピット水位</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 格納容器再循環サブ水位 (広域) B-格納容器スプレィ冷却器出口積算流量 (AM期) 高圧注入流量 低圧注入流量 代替格納容器スプレィポンプ出口積算流量</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(補助給水ピット水位)</td> <td>補助給水ピット水位</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 補助給水流量 代替格納容器スプレィポンプ出口積算流量</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(ほう酸タンク水位)</td> <td>ほう酸タンク水位</td> <td>主要パラメータの他チャンネル 出力領域中性子束 中間領域中性子束 中性子観測域中性子束</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：重大事故防止設備以外の重大事故等対応設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対応設備等がないため「-」とする。                  *2：( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通原因による機能喪失を想定していない。                  *3：常用計器としての計装設備。個数と設置場所を添付資料1に示す。</p>		機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)	主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設可観型	水源の確保	(燃料取替用水ピット水位)	燃料取替用水ピット水位	主要パラメータの他チャンネル 格納容器再循環サブ水位 (広域) B-格納容器スプレィ冷却器出口積算流量 (AM期) 高圧注入流量 低圧注入流量 代替格納容器スプレィポンプ出口積算流量	常設	(補助給水ピット水位)	補助給水ピット水位	主要パラメータの他チャンネル 補助給水流量 代替格納容器スプレィポンプ出口積算流量	常設	(ほう酸タンク水位)	ほう酸タンク水位	主要パラメータの他チャンネル 出力領域中性子束 中間領域中性子束 中性子観測域中性子束	常設																			
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)	主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設可観型																																																							
水源の確保	圧力制御室水位	復水貯蔵タンク水位	復水代替注水ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 残留熱除去系ヘッドスプレィライン冷却流量 残留熱除去系高圧ライン流量 (残留熱除去系系格納容器冷却ライン冷却流量) 低圧駆動低圧注水系ポンプ出口流量 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 高圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量 原子炉格納容器下部注水流量 高圧代替注水系ポンプ出口圧力 高圧駆動低圧注水系ポンプ出口圧力 原子炉隔離時冷却系ポンプ出口圧力 高圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力 復水移送ポンプ出口圧力 原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域) 原子炉水位 (SA燃料域)	常設																																																							
	圧力制御室水位*2	圧力制御室水位	主要パラメータの他チャンネル 代替熱交換器ポンプ出口流量 残留熱除去系ポンプ出口流量 低圧炉心スプレィ系ポンプ出口流量	常設																																																							
			1次冷却材ポンプ出口圧力 残留熱除去系ポンプ出口圧力 低圧炉心スプレィ系ポンプ出口圧力																																																								
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対応設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対応設備 (既設+新設)	主要設備の計測が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設可観型																																																							
水源の確保	(燃料取替用水ピット水位)	燃料取替用水ピット水位	主要パラメータの他チャンネル 格納容器再循環サブ水位 (広域) B-格納容器スプレィ冷却器出口積算流量 (AM期) 高圧注入流量 低圧注入流量 代替格納容器スプレィポンプ出口積算流量	常設																																																							
	(補助給水ピット水位)	補助給水ピット水位	主要パラメータの他チャンネル 補助給水流量 代替格納容器スプレィポンプ出口積算流量	常設																																																							
	(ほう酸タンク水位)	ほう酸タンク水位	主要パラメータの他チャンネル 出力領域中性子束 中間領域中性子束 中性子観測域中性子束	常設																																																							



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																	
<p>(第50条) 計装設備 (10/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設 可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋内の水素濃度</td> <td>—</td> <td>原子炉建屋内水素濃度</td> <td>主要パラメータの塩化チタンセル特約細目式水素再結合装置動作監視装置</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の酸素濃度</td> <td>(格納容器内雰囲気酸素濃度)</td> <td>格納容器内雰囲気酸素濃度</td> <td>主要パラメータの塩化チタンセル特約細目式酸素再結合装置モニタ (O<sub>2</sub>/%) 格納容器内雰囲気放射線モニタ (S/C) ドライウェル圧力 圧力制御圧力</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">使用済燃料プールの監視</td> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール水温度</td> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式)</td> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール水温度 燃料貯蔵プール放射線モニタ</td> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式)</td> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール放射線モニタ</td> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式)</td> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール水温度</td> <td>使用済燃料プール監視カメラ</td> <td>—</td> <td>常設 (可搬型)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備がないため「—」とする。          *2: ( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。</p>	機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型	原子炉建屋内の水素濃度	—	原子炉建屋内水素濃度	主要パラメータの塩化チタンセル特約細目式水素再結合装置動作監視装置	常設	原子炉格納容器内の酸素濃度	(格納容器内雰囲気酸素濃度)	格納容器内雰囲気酸素濃度	主要パラメータの塩化チタンセル特約細目式酸素再結合装置モニタ (O <sub>2</sub> /%) 格納容器内雰囲気放射線モニタ (S/C) ドライウェル圧力 圧力制御圧力	常設	使用済燃料プールの監視	使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール水温度	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式)	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ	常設	使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール水温度 燃料貯蔵プール放射線モニタ	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式)	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ	常設	使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール放射線モニタ	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式)	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ	常設	使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール水温度	使用済燃料プール監視カメラ	—	常設 (可搬型)	<p>(第58条) 計装設備 (9/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設 可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用済燃料ピットの監視</td> <td>—</td> <td>使用済燃料ピット水位 (AM用)</td> <td>使用済燃料ピット水位 (可搬型) 使用済燃料ピット可搬型エアリアモニタ 使用済燃料ピット監視カメラ</td> <td>可搬型</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの監視</td> <td>—</td> <td>使用済燃料ピット温度 (AM用)</td> <td>使用済燃料ピット水位 (AM用) 使用済燃料ピット監視カメラ</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの監視</td> <td>—</td> <td>使用済燃料ピットエアリアモニタ</td> <td>主要パラメータの予備 使用済燃料ピット水位 (AM用) 使用済燃料ピット監視カメラ</td> <td>可搬型</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの監視</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>使用済燃料ピット監視カメラ 使用済燃料ピット温度 (AM用) 使用済燃料ピット可搬型エアリアモニタ</td> <td>常設 (可搬型)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備がないため「—」とする。          *2: ( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。          *3: 使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置は可搬型重大事故等対処設備。</p>	機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型	使用済燃料ピットの監視	—	使用済燃料ピット水位 (AM用)	使用済燃料ピット水位 (可搬型) 使用済燃料ピット可搬型エアリアモニタ 使用済燃料ピット監視カメラ	可搬型	使用済燃料ピットの監視	—	使用済燃料ピット温度 (AM用)	使用済燃料ピット水位 (AM用) 使用済燃料ピット監視カメラ	常設	使用済燃料ピットの監視	—	使用済燃料ピットエアリアモニタ	主要パラメータの予備 使用済燃料ピット水位 (AM用) 使用済燃料ピット監視カメラ	可搬型	使用済燃料ピットの監視	—	—	使用済燃料ピット監視カメラ 使用済燃料ピット温度 (AM用) 使用済燃料ピット可搬型エアリアモニタ	常設 (可搬型)	<p>(第58条) 計装設備 (10/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設 可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発電所の通信連絡</td> <td>—</td> <td>データ伝送設備 (発電所内)</td> <td>—</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>温度、圧力、水位、注水量の計測・監視</td> <td>各計器</td> <td>可搬型計測器</td> <td>—</td> <td>可搬型</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">その他*3</td> <td>(6-2C 母線電圧)</td> <td>6-2C 母線電圧</td> <td>6-2A、B母線電圧</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(6-2D 母線電圧)</td> <td>6-2D 母線電圧</td> <td>(A、B-直流コントロールセンタ母線電圧)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(6-2B 母線電圧)</td> <td>6-2B 母線電圧</td> <td>A-高圧注入ポンプ及び油冷却器補機冷却水流量</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(4-2C 母線電圧)</td> <td>4-2C 母線電圧</td> <td>A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量 (AM用)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(4-2D 母線電圧)</td> <td>4-2D 母線電圧</td> <td>A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量 (AM用)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>6-2C 母線電圧</td> <td>6-2F-1 母線電圧</td> <td>原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 (AM用)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>6-2D 母線電圧</td> <td>6-2F-2 母線電圧</td> <td>原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 (AM用)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>6-2B 母線電圧</td> <td>—</td> <td>原子炉補機冷却水供給母管流量 (AM用)</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(125V 高圧主母線 2A 電圧)</td> <td>125V 高圧主母線 2A 電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(125V 高圧主母線 2B 電圧)</td> <td>125V 高圧主母線 2B 電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備がないため「—」とする。          *2: ( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。          *3: 重大事故等対処設備を活用する手順等の着目の判断基準として用いる補助パラメータ。</p>	機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型	発電所の通信連絡	—	データ伝送設備 (発電所内)	—	常設	温度、圧力、水位、注水量の計測・監視	各計器	可搬型計測器	—	可搬型	その他*3	(6-2C 母線電圧)	6-2C 母線電圧	6-2A、B母線電圧	常設	(6-2D 母線電圧)	6-2D 母線電圧	(A、B-直流コントロールセンタ母線電圧)	常設	(6-2B 母線電圧)	6-2B 母線電圧	A-高圧注入ポンプ及び油冷却器補機冷却水流量	常設	(4-2C 母線電圧)	4-2C 母線電圧	A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量 (AM用)	常設	(4-2D 母線電圧)	4-2D 母線電圧	A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量 (AM用)	常設	6-2C 母線電圧	6-2F-1 母線電圧	原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 (AM用)	常設	6-2D 母線電圧	6-2F-2 母線電圧	原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 (AM用)	常設	6-2B 母線電圧	—	原子炉補機冷却水供給母管流量 (AM用)	常設	(125V 高圧主母線 2A 電圧)	125V 高圧主母線 2A 電圧	—	—	(125V 高圧主母線 2B 電圧)	125V 高圧主母線 2B 電圧	—	—	
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型																																																																																																																
原子炉建屋内の水素濃度	—	原子炉建屋内水素濃度	主要パラメータの塩化チタンセル特約細目式水素再結合装置動作監視装置	常設																																																																																																																
原子炉格納容器内の酸素濃度	(格納容器内雰囲気酸素濃度)	格納容器内雰囲気酸素濃度	主要パラメータの塩化チタンセル特約細目式酸素再結合装置モニタ (O <sub>2</sub> /%) 格納容器内雰囲気放射線モニタ (S/C) ドライウェル圧力 圧力制御圧力	常設																																																																																																																
使用済燃料プールの監視	使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール水温度	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式)	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ	常設																																																																																																																
	使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール水温度 燃料貯蔵プール放射線モニタ	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式)	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ	常設																																																																																																																
	使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール放射線モニタ	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式)	使用済燃料プール水位 / 温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ	常設																																																																																																																
	使用済燃料プール水位 / 温度 (ガイドバルス式) 燃料貯蔵プール水位 燃料貯蔵プール浄化系ポンプ入口流量 燃料貯蔵プール水温度	使用済燃料プール監視カメラ	—	常設 (可搬型)																																																																																																																
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型																																																																																																																
使用済燃料ピットの監視	—	使用済燃料ピット水位 (AM用)	使用済燃料ピット水位 (可搬型) 使用済燃料ピット可搬型エアリアモニタ 使用済燃料ピット監視カメラ	可搬型																																																																																																																
使用済燃料ピットの監視	—	使用済燃料ピット温度 (AM用)	使用済燃料ピット水位 (AM用) 使用済燃料ピット監視カメラ	常設																																																																																																																
使用済燃料ピットの監視	—	使用済燃料ピットエアリアモニタ	主要パラメータの予備 使用済燃料ピット水位 (AM用) 使用済燃料ピット監視カメラ	可搬型																																																																																																																
使用済燃料ピットの監視	—	—	使用済燃料ピット監視カメラ 使用済燃料ピット温度 (AM用) 使用済燃料ピット可搬型エアリアモニタ	常設 (可搬型)																																																																																																																
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型																																																																																																																
発電所の通信連絡	—	データ伝送設備 (発電所内)	—	常設																																																																																																																
温度、圧力、水位、注水量の計測・監視	各計器	可搬型計測器	—	可搬型																																																																																																																
その他*3	(6-2C 母線電圧)	6-2C 母線電圧	6-2A、B母線電圧	常設																																																																																																																
	(6-2D 母線電圧)	6-2D 母線電圧	(A、B-直流コントロールセンタ母線電圧)	常設																																																																																																																
	(6-2B 母線電圧)	6-2B 母線電圧	A-高圧注入ポンプ及び油冷却器補機冷却水流量	常設																																																																																																																
	(4-2C 母線電圧)	4-2C 母線電圧	A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量 (AM用)	常設																																																																																																																
	(4-2D 母線電圧)	4-2D 母線電圧	A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量 (AM用)	常設																																																																																																																
	6-2C 母線電圧	6-2F-1 母線電圧	原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 (AM用)	常設																																																																																																																
	6-2D 母線電圧	6-2F-2 母線電圧	原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 (AM用)	常設																																																																																																																
	6-2B 母線電圧	—	原子炉補機冷却水供給母管流量 (AM用)	常設																																																																																																																
	(125V 高圧主母線 2A 電圧)	125V 高圧主母線 2A 電圧	—	—																																																																																																																
	(125V 高圧主母線 2B 電圧)	125V 高圧主母線 2B 電圧	—	—																																																																																																																
<p>(第56条) 計装設備 (11/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2</th> <th>機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)</th> <th>主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ</th> <th>常設 可搬型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発電所内の通信連絡</td> <td>(安全パラメータ表示システム (S P D S))</td> <td>安全パラメータ表示システム (S P D S)</td> <td>—</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>温度、圧力、水位、注水量の計測・監視</td> <td>各計器</td> <td>可搬型計測器</td> <td>—</td> <td>可搬型</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">その他**</td> <td>(6-2D 母線電圧)</td> <td>6-2D 母線電圧</td> <td>6-2C 母線電圧</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(6-2B 母線電圧)</td> <td>6-2B 母線電圧</td> <td>6-2D 母線電圧</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(4-2C 母線電圧)</td> <td>4-2C 母線電圧</td> <td>4-2B 母線電圧</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>(4-2D 母線電圧)</td> <td>4-2D 母線電圧</td> <td>4-2C 母線電圧</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>6-2C 母線電圧</td> <td>6-2F-1 母線電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>6-2D 母線電圧</td> <td>6-2F-2 母線電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>6-2B 母線電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(125V 高圧主母線 2A 電圧)</td> <td>125V 高圧主母線 2A 電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(125V 高圧主母線 2B 電圧)</td> <td>125V 高圧主母線 2B 電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(HPCS125V 高圧主母線電圧)</td> <td>HPCS125V 高圧主母線電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>125V 高圧主母線 2A 電圧</td> <td>125V 高圧主母線 2A-1 電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>125V 高圧主母線 2B 電圧</td> <td>125V 高圧主母線 2B-1 電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(250V 高圧主母線電圧)</td> <td>250V 高圧主母線電圧</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(高圧空素ガス供給系 ADS 入口圧力)</td> <td>高圧空素ガス供給系 ADS 入口圧力</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(高圧空素ガス供給系 ADS 入口圧力)</td> <td>代替高圧空素ガス供給系空素ガス供給止め弁入口圧力</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 重大事故防止設備以外の重大事故等対処設備が有する機能については、その代替機能を有する設計基準事故対処設備がないため「—」とする。          *2: ( ) 付の設備は、重大事故等時に設計基準対象施設としての機能を期待する設計基準対象施設であり、共通要因による機能喪失を想定していない。          *3: 重大事故等対処設備を活用する手順等の着目の判断基準として用いる補助パラメータ。</p>	機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型	発電所内の通信連絡	(安全パラメータ表示システム (S P D S))	安全パラメータ表示システム (S P D S)	—	常設	温度、圧力、水位、注水量の計測・監視	各計器	可搬型計測器	—	可搬型	その他**	(6-2D 母線電圧)	6-2D 母線電圧	6-2C 母線電圧	常設	(6-2B 母線電圧)	6-2B 母線電圧	6-2D 母線電圧	常設	(4-2C 母線電圧)	4-2C 母線電圧	4-2B 母線電圧	常設	(4-2D 母線電圧)	4-2D 母線電圧	4-2C 母線電圧	常設	6-2C 母線電圧	6-2F-1 母線電圧	—	—	6-2D 母線電圧	6-2F-2 母線電圧	—	—	6-2B 母線電圧	—	—	—	(125V 高圧主母線 2A 電圧)	125V 高圧主母線 2A 電圧	—	—	(125V 高圧主母線 2B 電圧)	125V 高圧主母線 2B 電圧	—	—	(HPCS125V 高圧主母線電圧)	HPCS125V 高圧主母線電圧	—	—	125V 高圧主母線 2A 電圧	125V 高圧主母線 2A-1 電圧	—	—	125V 高圧主母線 2B 電圧	125V 高圧主母線 2B-1 電圧	—	—	(250V 高圧主母線電圧)	250V 高圧主母線電圧	—	—	(高圧空素ガス供給系 ADS 入口圧力)	高圧空素ガス供給系 ADS 入口圧力	—	—	(高圧空素ガス供給系 ADS 入口圧力)	代替高圧空素ガス供給系空素ガス供給止め弁入口圧力	—	—																																								
機能	機能喪失を想定する主要な設計基準事故対処設備等*1、*2	機能を代替する主要な重大事故等対処設備 (既設+新設)	主要設備の計画が困難となった場合の重要代替監視パラメータ	常設 可搬型																																																																																																																
発電所内の通信連絡	(安全パラメータ表示システム (S P D S))	安全パラメータ表示システム (S P D S)	—	常設																																																																																																																
温度、圧力、水位、注水量の計測・監視	各計器	可搬型計測器	—	可搬型																																																																																																																
その他**	(6-2D 母線電圧)	6-2D 母線電圧	6-2C 母線電圧	常設																																																																																																																
	(6-2B 母線電圧)	6-2B 母線電圧	6-2D 母線電圧	常設																																																																																																																
	(4-2C 母線電圧)	4-2C 母線電圧	4-2B 母線電圧	常設																																																																																																																
	(4-2D 母線電圧)	4-2D 母線電圧	4-2C 母線電圧	常設																																																																																																																
	6-2C 母線電圧	6-2F-1 母線電圧	—	—																																																																																																																
	6-2D 母線電圧	6-2F-2 母線電圧	—	—																																																																																																																
	6-2B 母線電圧	—	—	—																																																																																																																
	(125V 高圧主母線 2A 電圧)	125V 高圧主母線 2A 電圧	—	—																																																																																																																
	(125V 高圧主母線 2B 電圧)	125V 高圧主母線 2B 電圧	—	—																																																																																																																
	(HPCS125V 高圧主母線電圧)	HPCS125V 高圧主母線電圧	—	—																																																																																																																
125V 高圧主母線 2A 電圧	125V 高圧主母線 2A-1 電圧	—	—																																																																																																																	
125V 高圧主母線 2B 電圧	125V 高圧主母線 2B-1 電圧	—	—																																																																																																																	
(250V 高圧主母線電圧)	250V 高圧主母線電圧	—	—																																																																																																																	
(高圧空素ガス供給系 ADS 入口圧力)	高圧空素ガス供給系 ADS 入口圧力	—	—																																																																																																																	
(高圧空素ガス供給系 ADS 入口圧力)	代替高圧空素ガス供給系空素ガス供給止め弁入口圧力	—	—																																																																																																																	

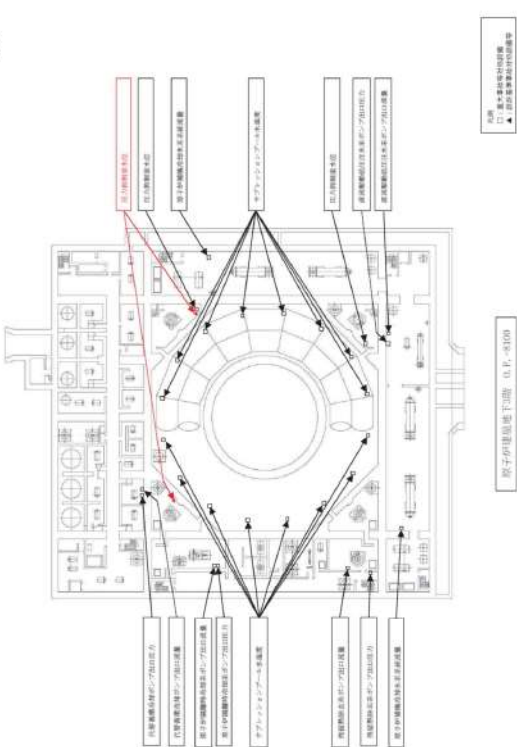
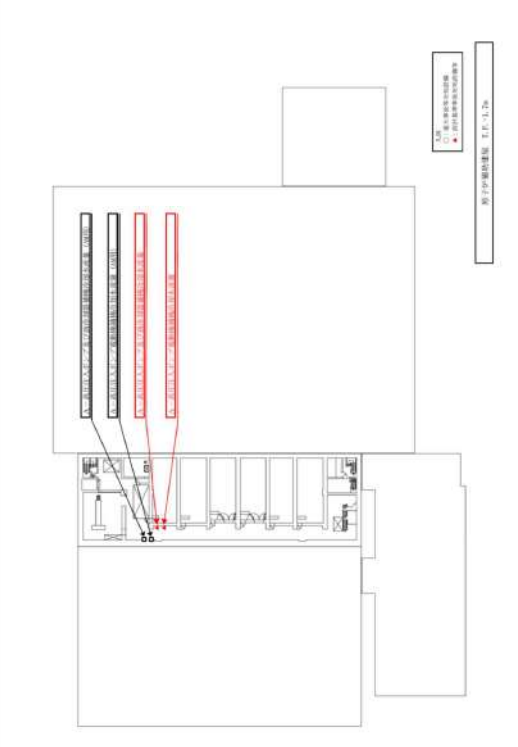
灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																											
	<p style="text-align: center;">添付資料1</p> <p>設計基準対象施設及び常用計器としての計装設備の個数と設置場所について</p> <p>設計基準対象施設及び常用計器としての計装設備の個数と設置場所を表1及び図1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表1 設計基準対象施設及び常用計器としての計装設備の個数と設置場所</p> <table border="1" data-bbox="674 416 1223 863"> <thead> <tr> <th>計装設備</th> <th>個数</th> <th>設置場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力容器温度*</td> <td>14</td> <td>原子炉格納容器内 【図1(3/7)、(4/7)、(5/7)】</td> </tr> <tr> <td>ドライウェル温度</td> <td>40</td> <td>原子炉格納容器内 【図1(2/7)、(3/7)、(4/7)、(5/7)】</td> </tr> <tr> <td>ドライウェル圧力</td> <td>2</td> <td>原子炉建屋地上2階 【図1(5/7)】</td> </tr> <tr> <td>圧力抑制室圧力</td> <td>2</td> <td>原子炉建屋地下1階 【図1(3/7)】</td> </tr> <tr> <td>圧力抑制室水位</td> <td>2</td> <td>原子炉建屋地下3階 【図1(1/7)】</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵プール水位</td> <td>1</td> <td>原子炉建屋地上3階 【図1(6/7)】</td> </tr> <tr> <td>燃料プール冷却浄化系ポンプ入口温度</td> <td>1</td> <td>原子炉建屋地上1階 【図1(4/7)】</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵プール水温度</td> <td>1</td> <td>原子炉建屋地上3階 【図1(5/7)】</td> </tr> <tr> <td>燃料交換フロア放射線モニタ</td> <td>1</td> <td>原子炉建屋地上3階 【図1(6/7)】</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋原子炉機排気放射線モニタ</td> <td>4</td> <td>原子炉建屋地上3階 【図1(5/7)】</td> </tr> <tr> <td>燃料取替エリア放射線モニタ</td> <td>4</td> <td>原子炉建屋地上3階 【図1(5/7)】</td> </tr> </tbody> </table> <p>*：一部の計装設備は異なる高さ方向に複数の検出器を設置</p>	計装設備	個数	設置場所	原子炉圧力容器温度*	14	原子炉格納容器内 【図1(3/7)、(4/7)、(5/7)】	ドライウェル温度	40	原子炉格納容器内 【図1(2/7)、(3/7)、(4/7)、(5/7)】	ドライウェル圧力	2	原子炉建屋地上2階 【図1(5/7)】	圧力抑制室圧力	2	原子炉建屋地下1階 【図1(3/7)】	圧力抑制室水位	2	原子炉建屋地下3階 【図1(1/7)】	燃料貯蔵プール水位	1	原子炉建屋地上3階 【図1(6/7)】	燃料プール冷却浄化系ポンプ入口温度	1	原子炉建屋地上1階 【図1(4/7)】	燃料貯蔵プール水温度	1	原子炉建屋地上3階 【図1(5/7)】	燃料交換フロア放射線モニタ	1	原子炉建屋地上3階 【図1(6/7)】	原子炉建屋原子炉機排気放射線モニタ	4	原子炉建屋地上3階 【図1(5/7)】	燃料取替エリア放射線モニタ	4	原子炉建屋地上3階 【図1(5/7)】	<p style="text-align: center;">添付資料1</p> <p>設計基準対象施設及び常用計器としての計装設備の個数と設置場所について</p> <p>設計基準対象施設及び常用計器としての計装設備の個数と設置場所を第1表及び第1図に示す。</p> <p style="text-align: center;">第1表 設計基準対象施設及び常用計器としての計装設備の個数と設置場所</p> <table border="1" data-bbox="1256 395 1809 943"> <thead> <tr> <th>計装設備</th> <th>個数</th> <th>設置場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A-高圧注入ポンプ及び油冷却器補機冷却水流量</td> <td>1</td> <td>原子炉補助建屋 T.P. -1.7m 【第1図(1/9)】</td> </tr> <tr> <td>A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量</td> <td>1</td> <td>原子炉補助建屋 T.P. -1.7m 【第1図(1/9)】</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量</td> <td>4</td> <td>周辺補機棟 T.P. 2.3m 【第1図(2/9)】</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却水供給母管流量</td> <td>2</td> <td>周辺補機棟 T.P. 2.3m 【第1図(2/9)】</td> </tr> <tr> <td>加圧器水位</td> <td>2</td> <td>原子炉格納容器内 【第1図(5/9)】</td> </tr> <tr> <td>主蒸気ライン圧力</td> <td>6</td> <td>周辺補機棟 T.P. 33.1m 【第1図(7/9)】</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器圧力</td> <td>2</td> <td>周辺補機棟 T.P. 17.8m 【第1図(5/9)】</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器水位 (狭域)</td> <td>6</td> <td>原子炉格納容器内 【第1図(6/9)】</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (AM用)</td> <td>1</td> <td>周辺補機棟 T.P. 43.6m 【第1図(9/9)】</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット水位</td> <td>2</td> <td>燃料取扱棟 【第1図(7/9)】</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット温度</td> <td>2</td> <td>燃料取扱棟 【第1図(7/9)】</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットエアモニタ</td> <td>1</td> <td>燃料取扱棟 【第1図(7/9)】</td> </tr> </tbody> </table>	計装設備	個数	設置場所	A-高圧注入ポンプ及び油冷却器補機冷却水流量	1	原子炉補助建屋 T.P. -1.7m 【第1図(1/9)】	A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量	1	原子炉補助建屋 T.P. -1.7m 【第1図(1/9)】	原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量	4	周辺補機棟 T.P. 2.3m 【第1図(2/9)】	原子炉補機冷却水供給母管流量	2	周辺補機棟 T.P. 2.3m 【第1図(2/9)】	加圧器水位	2	原子炉格納容器内 【第1図(5/9)】	主蒸気ライン圧力	6	周辺補機棟 T.P. 33.1m 【第1図(7/9)】	原子炉格納容器圧力	2	周辺補機棟 T.P. 17.8m 【第1図(5/9)】	蒸気発生器水位 (狭域)	6	原子炉格納容器内 【第1図(6/9)】	原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (AM用)	1	周辺補機棟 T.P. 43.6m 【第1図(9/9)】	使用済燃料ピット水位	2	燃料取扱棟 【第1図(7/9)】	使用済燃料ピット温度	2	燃料取扱棟 【第1図(7/9)】	使用済燃料ピットエアモニタ	1	燃料取扱棟 【第1図(7/9)】	<p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】炉型の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PWRとBWRで想定される重大事故等及び対処するための監視パラメータが異なるため、比較対象外としている。</li> </ul>
計装設備	個数	設置場所																																																																												
原子炉圧力容器温度*	14	原子炉格納容器内 【図1(3/7)、(4/7)、(5/7)】																																																																												
ドライウェル温度	40	原子炉格納容器内 【図1(2/7)、(3/7)、(4/7)、(5/7)】																																																																												
ドライウェル圧力	2	原子炉建屋地上2階 【図1(5/7)】																																																																												
圧力抑制室圧力	2	原子炉建屋地下1階 【図1(3/7)】																																																																												
圧力抑制室水位	2	原子炉建屋地下3階 【図1(1/7)】																																																																												
燃料貯蔵プール水位	1	原子炉建屋地上3階 【図1(6/7)】																																																																												
燃料プール冷却浄化系ポンプ入口温度	1	原子炉建屋地上1階 【図1(4/7)】																																																																												
燃料貯蔵プール水温度	1	原子炉建屋地上3階 【図1(5/7)】																																																																												
燃料交換フロア放射線モニタ	1	原子炉建屋地上3階 【図1(6/7)】																																																																												
原子炉建屋原子炉機排気放射線モニタ	4	原子炉建屋地上3階 【図1(5/7)】																																																																												
燃料取替エリア放射線モニタ	4	原子炉建屋地上3階 【図1(5/7)】																																																																												
計装設備	個数	設置場所																																																																												
A-高圧注入ポンプ及び油冷却器補機冷却水流量	1	原子炉補助建屋 T.P. -1.7m 【第1図(1/9)】																																																																												
A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量	1	原子炉補助建屋 T.P. -1.7m 【第1図(1/9)】																																																																												
原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量	4	周辺補機棟 T.P. 2.3m 【第1図(2/9)】																																																																												
原子炉補機冷却水供給母管流量	2	周辺補機棟 T.P. 2.3m 【第1図(2/9)】																																																																												
加圧器水位	2	原子炉格納容器内 【第1図(5/9)】																																																																												
主蒸気ライン圧力	6	周辺補機棟 T.P. 33.1m 【第1図(7/9)】																																																																												
原子炉格納容器圧力	2	周辺補機棟 T.P. 17.8m 【第1図(5/9)】																																																																												
蒸気発生器水位 (狭域)	6	原子炉格納容器内 【第1図(6/9)】																																																																												
原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (AM用)	1	周辺補機棟 T.P. 43.6m 【第1図(9/9)】																																																																												
使用済燃料ピット水位	2	燃料取扱棟 【第1図(7/9)】																																																																												
使用済燃料ピット温度	2	燃料取扱棟 【第1図(7/9)】																																																																												
使用済燃料ピットエアモニタ	1	燃料取扱棟 【第1図(7/9)】																																																																												

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図1 配置図(1/7)</p>	 <p>第1図 配置図(1/9)</p>	<p>【女川】炉型の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PWRとBWRで想定される重大事故等及び対処するための監視パラメータが異なるため、比較対象外としている。以降、同図において同じ</li> </ul>



灰色：女川 2 号炉の記載のうち、BWR 固有の設備や対応手段であり、泊 3 号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
	<p>図 1 配置図 (2/7)</p>	<p>第 1 図 配置図 (2/9)</p>	

灰色：女川 2 号炉の記載のうち、BWR 固有の設備や対応手段であり、泊 3 号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
	<p>図 1 配置図 (3/7)          原子炉建屋地下階 0. P. 4000</p>	<p>第 1 図 配置図 (3/9)</p>	

灰色：女川 2 号炉の記載のうち、BWR 固有の設備や対応手段であり、泊 3 号炉と比較対象とならない記載内容

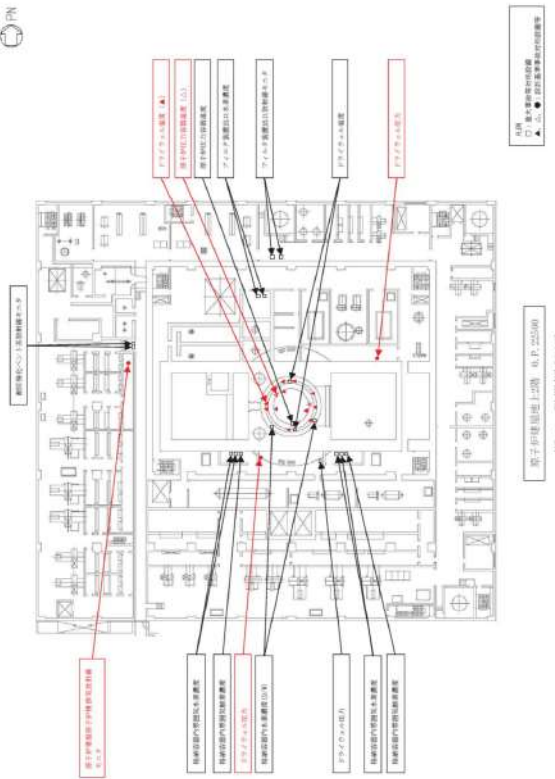
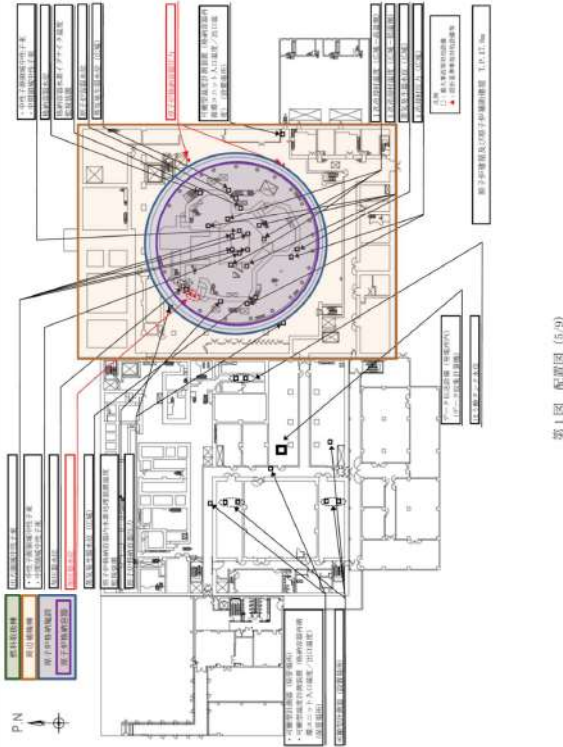
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
	<p>図 1 配設図 (4/7)</p> <p>原子炉建屋地上1階 01.P.10000</p>	<p>第 1 図 配設図 (4/9)</p>	



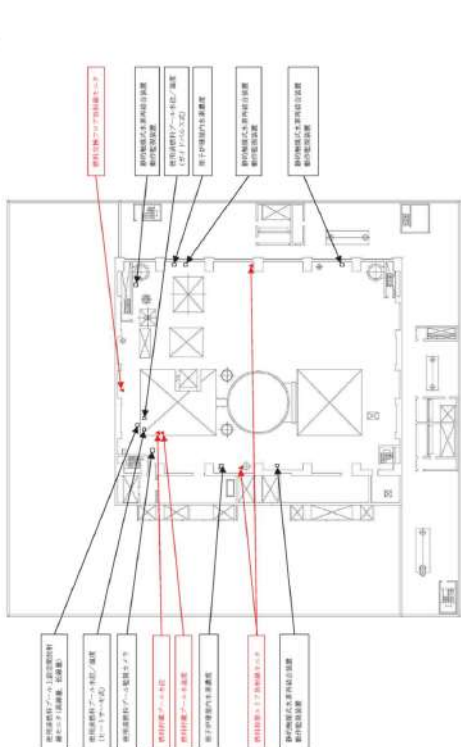
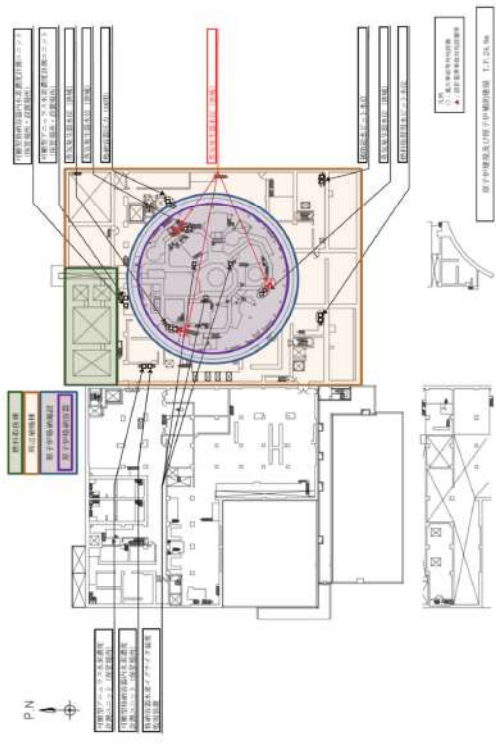
灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図1 配置図 (5/7)</p>	 <p>第1図 配置図 (5/9)</p>	

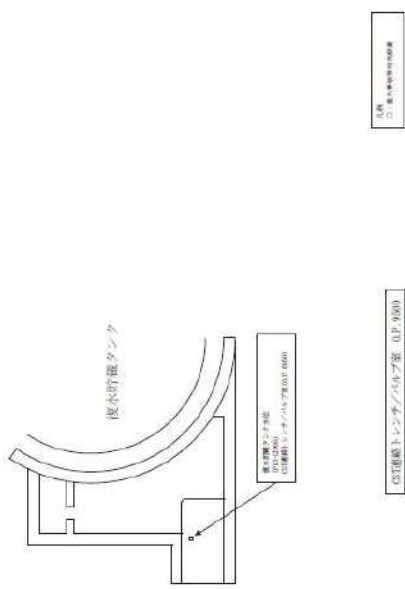
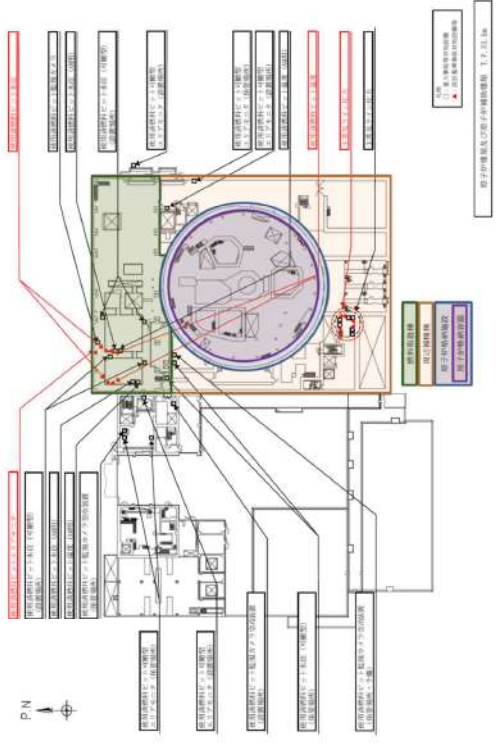
灰色：女川 2 号炉の記載のうち、BWR 固有の設備や対応手段であり、泊 3 号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
	 <p>図 1 配置図 (6.7)</p>	 <p>第 1 図 配置図 (6.9)</p>	

灰色：女川 2 号炉の記載のうち、BWR 固有の設備や対応手段であり、泊 3 号炉と比較対象とならない記載内容

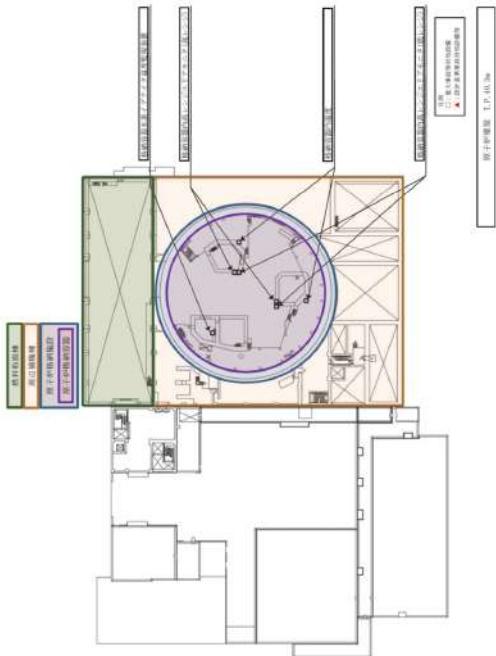
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
	 <p>後小計電タンク</p> <p>図 1 配管図 (7/7)</p>	 <p>第 1 図 配管図 (7/9)</p>	



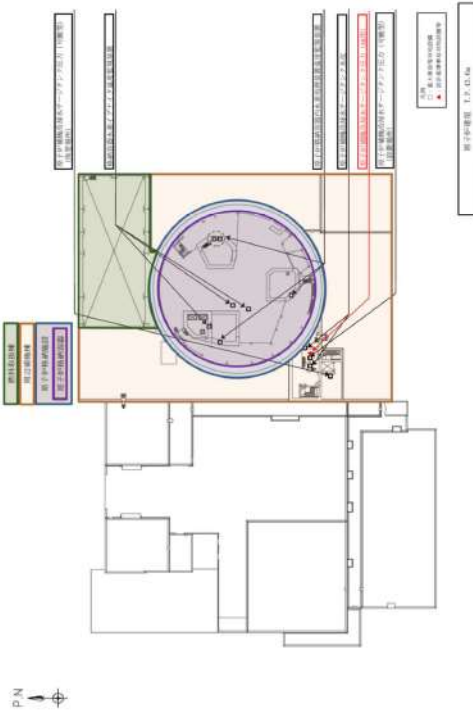
灰色：女川 2 号炉の記載のうち、BWR 固有の設備や対応手段であり、泊 3 号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
			

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>第1図 配置図 (9/9)</p>	

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	SA59H-9 r.11.0
提出年月日	令和5年7月31日

## 泊発電所3号炉

設置許可基準規則等への適合状況について  
(重大事故等対処設備)  
補足説明資料  
比較表

59条

令和5年7月  
北海道電力株式会社

枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 原子炉制御室等（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>59条                      59-1 SA設備基準適合性一覧表                      59-2 配置図</p> <p>59-3 アクセスルート</p> <p>59-4 試験・検査説明資料                      59-5 系統図</p> <p>59-6 (欠番)                      59-7 SAバウンダリ系統図(参考)</p>	<p>59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</p> <p>目次</p> <p>59-1 SA設備基準適合性一覧表                      59-3 配置図                      59-7 保管場所図</p> <p>59-5 試験及び検査                      59-4 系統図                      59-6 容量設定根拠</p>	<p>59条                      59-1 SA設備基準適合性一覧表                      59-2 配置図</p> <p>59-3 試験・検査説明資料                      59-4 系統図                      59-5 容量設定根拠</p>	<p>【女川・大飯】資料構成の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川とは資料の順序が異なるが、内容は同等である。</li> <li>・大飯との資料順序も異なる。</li> <li>・比較のため、次ページ以降は本ページに記載の順序で掲載する。</li> </ul> <p>【女川】資料構成の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では保管場所図を配置図に含めている。</li> </ul> <p>【大飯】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、アクセスルート図は技術的能力1.0.2にて整理している。</li> </ul> <p>【大飯】資料構成の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯では「SAバウンダリ系統図」として示しているが、内容としては泊では「系統図」として記載している内容と同等であるため、作成していない。</li> </ul>
<p>59-8 大飯3号炉および4号炉 原子炉制御室等（被ばく評価除く）について</p>	<p>59-8 原子炉制御室について（被ばく評価除く）</p>	<p>59-6 原子炉制御室等（被ばく評価除く）について</p>	<p>本資料については26条と共通の内容であり、26条で比較表を作成している。</p>
<p>59-9 大飯発電所3号炉及び4号炉 原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価について</p> <p>59-10 大飯発電所3号炉及び4号炉 原子炉制御室等について</p>	<p>59-9 原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価について</p> <p>59-2 単線結線図                      59-10 非常用ガス処理系に流入するガスの水素濃度について                      59-11 非常用ガス処理系の系統内における水素爆発防止について                      59-12 原子炉建屋ブローアウトパネル及び原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置について</p>	<p>59-7 原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価について</p> <p>59-8 単線結線図</p>	<p>【大飯】資料構成の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は59-8と59-9の補足的な事項を59-10として添付しているが、泊は女川同様59-6、59-7それぞれに添付している。</li> </ul> <p>②の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これらの資料はBWR特有の設備についての説明資料であるため、泊では作成していない。また、これらの資料は比較表への掲載も行わない。</li> <li>・水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための設備(53条)でもあるアンユラス空気浄化設備の水素対策については53条で説明する。</li> </ul>

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
59-1 SA 設備基準適合性 一覧表	59-1 SA 設備基準適合性 一覧表	59-1 SA設備 基準適合性一覧表	





泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																															
	<p style="text-align: center;">女川原子力発電所2号炉 SA設備基準適合性一覧表（常設）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">項目</th> <th style="width: 45%;">大飯発電所3/4号炉</th> <th style="width: 45%;">女川原子力発電所2号炉</th> <th style="width: 5%;">相違点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第1項</td> <td>構造形式・配置・圧力 （燃料の圧縮/加圧機）</td> <td>その他の構造内</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>床面</td> <td>（床面に構造を参照する）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>扉</td> <td>（扉を透過しない）</td> <td>可動性</td> </tr> <tr> <td>遮断機からの影響</td> <td>（遮断機等からの影響により機能を失うことがない）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>遮断機障害</td> <td>（遮断機により機能が失われない）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>遮断機材料</td> <td>②-1 配管用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>操作不要</td> <td>可動性</td> </tr> <tr> <td>遮断機材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>試験・検査 （検査性・点検機材・検査人力）</td> <td>標準</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>遮断機材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第2項</td> <td>可動性</td> <td>本機の構造として使用/操作不要</td> <td>△△</td> </tr> <tr> <td>遮断機材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>遮蔽設計</td> <td>前記欄から読み</td> <td>△△</td> </tr> <tr> <td>その他（放射線）</td> <td>対策済</td> <td>可動性</td> </tr> <tr> <td>遮断機材料</td> <td>②-1 配管用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>操作不要</td> <td>可動性</td> </tr> <tr> <td>遮断機材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>遮蔽体への影響</td> <td>遮蔽体等の機能を本機の目的として設置するもの</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>遮断機材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>共用性禁止</td> <td>（共用しない設備）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>遮断機材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第3項</td> <td>放射線発生、自然現象、人為事故、漏洩、火災</td> <td>対策済（共通設備の有無は考慮なし）</td> <td>可動性</td> </tr> <tr> <td>サボータ対策</td> <td>対策済（サボータなし）</td> <td>可動性</td> </tr> <tr> <td>遮断機材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	項目	大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	相違点	第1項	構造形式・配置・圧力 （燃料の圧縮/加圧機）	その他の構造内	○	床面	（床面に構造を参照する）	—	扉	（扉を透過しない）	可動性	遮断機からの影響	（遮断機等からの影響により機能を失うことがない）	—	遮断機障害	（遮断機により機能が失われない）	—	遮断機材料	②-1 配管用	—	操作性	操作不要	可動性	遮断機材料	—	—	試験・検査 （検査性・点検機材・検査人力）	標準	△	遮断機材料	—	—	第2項	可動性	本機の構造として使用/操作不要	△△	遮断機材料	—	—	遮蔽設計	前記欄から読み	△△	その他（放射線）	対策済	可動性	遮断機材料	②-1 配管用	—	操作性	操作不要	可動性	遮断機材料	—	—	遮蔽体への影響	遮蔽体等の機能を本機の目的として設置するもの	△	遮断機材料	—	—	共用性禁止	（共用しない設備）	—	遮断機材料	—	—	第3項	放射線発生、自然現象、人為事故、漏洩、火災	対策済（共通設備の有無は考慮なし）	可動性	サボータ対策	対策済（サボータなし）	可動性	遮断機材料	—	—		
項目	大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	相違点																																																																															
第1項	構造形式・配置・圧力 （燃料の圧縮/加圧機）	その他の構造内	○																																																																															
	床面	（床面に構造を参照する）	—																																																																															
	扉	（扉を透過しない）	可動性																																																																															
	遮断機からの影響	（遮断機等からの影響により機能を失うことがない）	—																																																																															
	遮断機障害	（遮断機により機能が失われない）	—																																																																															
	遮断機材料	②-1 配管用	—																																																																															
	操作性	操作不要	可動性																																																																															
	遮断機材料	—	—																																																																															
	試験・検査 （検査性・点検機材・検査人力）	標準	△																																																																															
	遮断機材料	—	—																																																																															
第2項	可動性	本機の構造として使用/操作不要	△△																																																																															
	遮断機材料	—	—																																																																															
	遮蔽設計	前記欄から読み	△△																																																																															
	その他（放射線）	対策済	可動性																																																																															
	遮断機材料	②-1 配管用	—																																																																															
	操作性	操作不要	可動性																																																																															
	遮断機材料	—	—																																																																															
	遮蔽体への影響	遮蔽体等の機能を本機の目的として設置するもの	△																																																																															
	遮断機材料	—	—																																																																															
	共用性禁止	（共用しない設備）	—																																																																															
遮断機材料	—	—																																																																																
第3項	放射線発生、自然現象、人為事故、漏洩、火災	対策済（共通設備の有無は考慮なし）	可動性																																																																															
	サボータ対策	対策済（サボータなし）	可動性																																																																															
遮断機材料	—	—																																																																																
			<p style="color: red;">①の相違</p>																																																																															

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																																																
	<p style="text-align: center;">女川原子力発電所 2 号炉 SA 設備基準適合性一覧表 (常設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">第 1 条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</th> <th>基準適合状況 (規定型)</th> <th>相違状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 1 号</td> <td>構造条件</td> <td>その他の建物内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>扉</td> <td>(構造) 構造を確保する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>耐火</td> <td>(耐火) 耐火しない</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>放射線からの影響</td> <td>(放射線) 放射線により構造を劣化させない</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電磁的障害</td> <td>(電磁的) 放射線により構造が劣化しない</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>中央制御室操作</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 2 号</td> <td>設備・構造 (耐火性、放射線遮蔽、外部入力)</td> <td>構造適合</td> <td>M</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 3 号</td> <td>設備・構造 (耐火性、放射線遮蔽、外部入力)</td> <td>構造適合</td> <td>M</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 4 号</td> <td>設備・構造 (耐火性、放射線遮蔽、外部入力)</td> <td>構造適合</td> <td>M</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉鎖材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	第 1 条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備		基準適合状況 (規定型)	相違状況	第 1 号	構造条件	その他の建物内	C	扉	(構造) 構造を確保する	—	耐火	(耐火) 耐火しない	対象外	放射線からの影響	(放射線) 放射線により構造を劣化させない	—	電磁的障害	(電磁的) 放射線により構造が劣化しない	—	閉鎖材料	—	—	操作性	中央制御室操作	A	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	第 2 号	設備・構造 (耐火性、放射線遮蔽、外部入力)	構造適合	M	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	第 3 号	設備・構造 (耐火性、放射線遮蔽、外部入力)	構造適合	M	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	第 4 号	設備・構造 (耐火性、放射線遮蔽、外部入力)	構造適合	M	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—	閉鎖材料	—	—		①の相違
第 1 条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備		基準適合状況 (規定型)	相違状況																																																																																																																																
第 1 号	構造条件	その他の建物内	C																																																																																																																																
	扉	(構造) 構造を確保する	—																																																																																																																																
	耐火	(耐火) 耐火しない	対象外																																																																																																																																
	放射線からの影響	(放射線) 放射線により構造を劣化させない	—																																																																																																																																
	電磁的障害	(電磁的) 放射線により構造が劣化しない	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	操作性	中央制御室操作	A																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
第 2 号	設備・構造 (耐火性、放射線遮蔽、外部入力)	構造適合	M																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
第 3 号	設備・構造 (耐火性、放射線遮蔽、外部入力)	構造適合	M																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
第 4 号	設備・構造 (耐火性、放射線遮蔽、外部入力)	構造適合	M																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																
	閉鎖材料	—	—																																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																				
	女川原子力発電所 2 号炉 SA 設備基準適合性一覧表 (常設)																																																																																						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 70%;">最新設備 (旧設備)</th> <th style="width: 20%;">相違区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 1 号機</td> <td>建屋高さ・厚さ・圧力 / 厚手の窓枠 / 防射線</td> <td>その他の建屋内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>設備</td> <td>(設備に相違を有する)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>床面</td> <td>(床面を被褥しない)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>他の設備からの影響</td> <td>(他の機器等からの影響により機能を失うことがない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電線経路表</td> <td>(電線経路により機能に影響を及ぼさない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-3 配図用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>検査性</td> <td>中央制御室隣接</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-9 配図用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 2 号機</td> <td>試験・検査 (検査性、非破壊検査・再投入力)</td> <td>通信機器設置</td> <td>M</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 試験及び検査</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 3 号機</td> <td>同等性能</td> <td>本機の用途として同等に使用可能</td> <td>Bb</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-4 表紙用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 4 号機</td> <td>事前設計</td> <td>設備設計と同一系統機器</td> <td>Aa</td> </tr> <tr> <td>燃焼器 (燃焼物)</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 5 号機</td> <td>防護資料</td> <td>39-3 配図用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置場所</td> <td>中央制御室隣接</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 6 号機</td> <td>防護資料</td> <td>39-3 配図用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>消防への影響</td> <td>消防基準は施設設計基準及び設備の容量等が十分</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 7 号機</td> <td>防護資料</td> <td>39-6 非常時対応機</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>共用の禁止</td> <td>(共用しない) 設備</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 8 号機</td> <td>防護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>気候条件、自然現象、人為事故、漏洩、火災</td> <td>防火設備一貫性 (防火扉等閉鎖設備有り) 一貫性</td> <td>A*</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 9 号機</td> <td>燃焼器 (燃焼物)</td> <td>対象 (1号機-3号機) 一貫性 (燃焼器又は冷却器)</td> <td>C*</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-2 制御品質図、39-3 配図用、39-4 表紙用</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		項目	最新設備 (旧設備)	相違区分	第 1 号機	建屋高さ・厚さ・圧力 / 厚手の窓枠 / 防射線	その他の建屋内	C	設備	(設備に相違を有する)	—	床面	(床面を被褥しない)	対象外	他の設備からの影響	(他の機器等からの影響により機能を失うことがない)	—	電線経路表	(電線経路により機能に影響を及ぼさない)	—	防護資料	39-3 配図用	—	検査性	中央制御室隣接	A	防護資料	39-9 配図用	—	第 2 号機	試験・検査 (検査性、非破壊検査・再投入力)	通信機器設置	M	防護資料	39-5 試験及び検査	—	第 3 号機	同等性能	本機の用途として同等に使用可能	Bb	防護資料	39-4 表紙用	—	第 4 号機	事前設計	設備設計と同一系統機器	Aa	燃焼器 (燃焼物)	対象外	対象外	第 5 号機	防護資料	39-3 配図用	—	設置場所	中央制御室隣接	B	第 6 号機	防護資料	39-3 配図用	—	消防への影響	消防基準は施設設計基準及び設備の容量等が十分	B	第 7 号機	防護資料	39-6 非常時対応機	—	共用の禁止	(共用しない) 設備	—	第 8 号機	防護資料	—	—	気候条件、自然現象、人為事故、漏洩、火災	防火設備一貫性 (防火扉等閉鎖設備有り) 一貫性	A*	第 9 号機	燃焼器 (燃焼物)	対象 (1号機-3号機) 一貫性 (燃焼器又は冷却器)	C*	防護資料	39-2 制御品質図、39-3 配図用、39-4 表紙用	—	①の相違
項目	最新設備 (旧設備)	相違区分																																																																																					
第 1 号機	建屋高さ・厚さ・圧力 / 厚手の窓枠 / 防射線	その他の建屋内	C																																																																																				
	設備	(設備に相違を有する)	—																																																																																				
	床面	(床面を被褥しない)	対象外																																																																																				
	他の設備からの影響	(他の機器等からの影響により機能を失うことがない)	—																																																																																				
	電線経路表	(電線経路により機能に影響を及ぼさない)	—																																																																																				
	防護資料	39-3 配図用	—																																																																																				
	検査性	中央制御室隣接	A																																																																																				
	防護資料	39-9 配図用	—																																																																																				
	第 2 号機	試験・検査 (検査性、非破壊検査・再投入力)	通信機器設置	M																																																																																			
		防護資料	39-5 試験及び検査	—																																																																																			
第 3 号機	同等性能	本機の用途として同等に使用可能	Bb																																																																																				
	防護資料	39-4 表紙用	—																																																																																				
第 4 号機	事前設計	設備設計と同一系統機器	Aa																																																																																				
	燃焼器 (燃焼物)	対象外	対象外																																																																																				
第 5 号機	防護資料	39-3 配図用	—																																																																																				
	設置場所	中央制御室隣接	B																																																																																				
第 6 号機	防護資料	39-3 配図用	—																																																																																				
	消防への影響	消防基準は施設設計基準及び設備の容量等が十分	B																																																																																				
第 7 号機	防護資料	39-6 非常時対応機	—																																																																																				
	共用の禁止	(共用しない) 設備	—																																																																																				
第 8 号機	防護資料	—	—																																																																																				
	気候条件、自然現象、人為事故、漏洩、火災	防火設備一貫性 (防火扉等閉鎖設備有り) 一貫性	A*																																																																																				
第 9 号機	燃焼器 (燃焼物)	対象 (1号機-3号機) 一貫性 (燃焼器又は冷却器)	C*																																																																																				
	防護資料	39-2 制御品質図、39-3 配図用、39-4 表紙用	—																																																																																				



泊発電所 3 号炉 SA 基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																																																																																																																		
<p>女川原子力発電所 2 号炉 SA 設備基準適合性一覧表 (常設)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>項目名</th> <th>中央制御室設置</th> <th>型式記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 1 項</td> <td>保安施設・保安・圧力 / 異常の検出 / 監視機</td> <td>その他(機室内)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>保護</td> <td>(制御室に設置し兼用する)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>遮断</td> <td>(機室を遮断しない)</td> <td>可兼用</td> </tr> <tr> <td>遮断機への影響</td> <td>(他の機器等から遮断機に与える機能を有していない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電線経路調査</td> <td>(電線路により機能の妨げがない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-2 配図用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>中央制御室操作</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-2 配図用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>試験・検査 (種別別、当該機内・外部入力)</td> <td>アマン</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 試験及び検査</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 2 項</td> <td>放射防護</td> <td>本来の用途として放射線計測不能</td> <td>Bb</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-4 放射計</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 3 項</td> <td>放射設計</td> <td>放射線計測器具取扱規定</td> <td>A-d</td> </tr> <tr> <td>その他 (機器類)</td> <td>可兼用</td> <td>可兼用</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 4 項</td> <td>防護資料</td> <td>39-4 放射計</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置標準</td> <td>中央制御室操作</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 5 項</td> <td>防護資料</td> <td>39-3 配図用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>緊急停止の位置</td> <td>設計基準自動機停止位置及び機室の位置等が十分</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 6 項</td> <td>防護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>共有の禁止</td> <td>(共用しない設備)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 7 項</td> <td>防護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>環境条件、自然現象、人為事故、洪水、火災</td> <td>可兼用 (共通要件の考慮対象設備なし)</td> <td>可兼用</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 8 項</td> <td>サボータ故障</td> <td>対策 (サボータあり) → 異常通報機能又は遮断機</td> <td>C-a</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-2 保護遮断機、39-3 配図用、39-4 放射計</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		項目	項目名	中央制御室設置	型式記号	第 1 項	保安施設・保安・圧力 / 異常の検出 / 監視機	その他(機室内)	C	保護	(制御室に設置し兼用する)	—	遮断	(機室を遮断しない)	可兼用	遮断機への影響	(他の機器等から遮断機に与える機能を有していない)	—	電線経路調査	(電線路により機能の妨げがない)	—	防護資料	39-2 配図用	—	操作性	中央制御室操作	A	防護資料	39-2 配図用	—	試験・検査 (種別別、当該機内・外部入力)	アマン	A	防護資料	39-5 試験及び検査	—	第 2 項	放射防護	本来の用途として放射線計測不能	Bb	防護資料	39-4 放射計	—	第 3 項	放射設計	放射線計測器具取扱規定	A-d	その他 (機器類)	可兼用	可兼用	第 4 項	防護資料	39-4 放射計	—	設置標準	中央制御室操作	D	第 5 項	防護資料	39-3 配図用	—	緊急停止の位置	設計基準自動機停止位置及び機室の位置等が十分	B	第 6 項	防護資料	—	—	共有の禁止	(共用しない設備)	—	第 7 項	防護資料	—	—	環境条件、自然現象、人為事故、洪水、火災	可兼用 (共通要件の考慮対象設備なし)	可兼用	第 8 項	サボータ故障	対策 (サボータあり) → 異常通報機能又は遮断機	C-a	防護資料	39-2 保護遮断機、39-3 配図用、39-4 放射計	—	<p>泊発電所 3 号炉 SA 設備基準適合性 一覧表 (常設)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>項目名</th> <th>中央制御室設置</th> <th>型式記号</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 1 項</td> <td>保安施設・保安・圧力 / 異常の検出 / 監視機</td> <td>その他(機室内)</td> <td>C</td> <td>機室設置資料(39-2)参照</td> </tr> <tr> <td>保護</td> <td>(制御室に設置し兼用する)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>遮断</td> <td>(機室を遮断しない)</td> <td>可兼用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>遮断機への影響</td> <td>(他の機器等から遮断機に与える機能を有していない)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電線経路調査</td> <td>(電線路により機能の妨げがない)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-2 配図用</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>中央制御室操作</td> <td>A</td> <td>機室設置資料(39-2)参照</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-2 配図用</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>試験・検査 (種別別、当該機内・外部入力)</td> <td>アマン</td> <td>A</td> <td>機室設置資料(39-2)参照</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 試験及び検査</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 2 項</td> <td>放射防護</td> <td>本来の用途として放射線計測不能</td> <td>Bb</td> <td>機室設置資料(39-2)参照</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-4 放射計</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 3 項</td> <td>放射設計</td> <td>放射線計測器具取扱規定</td> <td>A-d</td> <td>機室設置資料(39-2)参照</td> </tr> <tr> <td>その他 (機器類)</td> <td>可兼用</td> <td>可兼用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 4 項</td> <td>防護資料</td> <td>39-4 放射計</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置標準</td> <td>中央制御室操作</td> <td>D</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 5 項</td> <td>防護資料</td> <td>39-3 配図用</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>緊急停止の位置</td> <td>設計基準自動機停止位置及び機室の位置等が十分</td> <td>B</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 6 項</td> <td>防護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>共有の禁止</td> <td>(共用しない設備)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 7 項</td> <td>防護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>環境条件、自然現象、人為事故、洪水、火災</td> <td>可兼用 (共通要件の考慮対象設備なし)</td> <td>可兼用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第 8 項</td> <td>サボータ故障</td> <td>対策 (サボータあり) → 異常通報機能又は遮断機</td> <td>C-a</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-2 保護遮断機、39-3 配図用、39-4 放射計</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		項目	項目名	中央制御室設置	型式記号	備考	第 1 項	保安施設・保安・圧力 / 異常の検出 / 監視機	その他(機室内)	C	機室設置資料(39-2)参照	保護	(制御室に設置し兼用する)	—	—	遮断	(機室を遮断しない)	可兼用	—	遮断機への影響	(他の機器等から遮断機に与える機能を有していない)	—	—	電線経路調査	(電線路により機能の妨げがない)	—	—	防護資料	39-2 配図用	—	—	操作性	中央制御室操作	A	機室設置資料(39-2)参照	防護資料	39-2 配図用	—	—	試験・検査 (種別別、当該機内・外部入力)	アマン	A	機室設置資料(39-2)参照	防護資料	39-5 試験及び検査	—	—	第 2 項	放射防護	本来の用途として放射線計測不能	Bb	機室設置資料(39-2)参照	防護資料	39-4 放射計	—	—	第 3 項	放射設計	放射線計測器具取扱規定	A-d	機室設置資料(39-2)参照	その他 (機器類)	可兼用	可兼用	—	第 4 項	防護資料	39-4 放射計	—	—	設置標準	中央制御室操作	D	—	第 5 項	防護資料	39-3 配図用	—	—	緊急停止の位置	設計基準自動機停止位置及び機室の位置等が十分	B	—	第 6 項	防護資料	—	—	—	共有の禁止	(共用しない設備)	—	—	第 7 項	防護資料	—	—	—	環境条件、自然現象、人為事故、洪水、火災	可兼用 (共通要件の考慮対象設備なし)	可兼用	—	第 8 項	サボータ故障	対策 (サボータあり) → 異常通報機能又は遮断機	C-a	—	防護資料	39-2 保護遮断機、39-3 配図用、39-4 放射計	—	—	
項目	項目名	中央制御室設置	型式記号																																																																																																																																																																																																		
第 1 項	保安施設・保安・圧力 / 異常の検出 / 監視機	その他(機室内)	C																																																																																																																																																																																																		
	保護	(制御室に設置し兼用する)	—																																																																																																																																																																																																		
	遮断	(機室を遮断しない)	可兼用																																																																																																																																																																																																		
	遮断機への影響	(他の機器等から遮断機に与える機能を有していない)	—																																																																																																																																																																																																		
	電線経路調査	(電線路により機能の妨げがない)	—																																																																																																																																																																																																		
	防護資料	39-2 配図用	—																																																																																																																																																																																																		
	操作性	中央制御室操作	A																																																																																																																																																																																																		
	防護資料	39-2 配図用	—																																																																																																																																																																																																		
	試験・検査 (種別別、当該機内・外部入力)	アマン	A																																																																																																																																																																																																		
	防護資料	39-5 試験及び検査	—																																																																																																																																																																																																		
第 2 項	放射防護	本来の用途として放射線計測不能	Bb																																																																																																																																																																																																		
	防護資料	39-4 放射計	—																																																																																																																																																																																																		
第 3 項	放射設計	放射線計測器具取扱規定	A-d																																																																																																																																																																																																		
	その他 (機器類)	可兼用	可兼用																																																																																																																																																																																																		
第 4 項	防護資料	39-4 放射計	—																																																																																																																																																																																																		
	設置標準	中央制御室操作	D																																																																																																																																																																																																		
第 5 項	防護資料	39-3 配図用	—																																																																																																																																																																																																		
	緊急停止の位置	設計基準自動機停止位置及び機室の位置等が十分	B																																																																																																																																																																																																		
第 6 項	防護資料	—	—																																																																																																																																																																																																		
	共有の禁止	(共用しない設備)	—																																																																																																																																																																																																		
第 7 項	防護資料	—	—																																																																																																																																																																																																		
	環境条件、自然現象、人為事故、洪水、火災	可兼用 (共通要件の考慮対象設備なし)	可兼用																																																																																																																																																																																																		
第 8 項	サボータ故障	対策 (サボータあり) → 異常通報機能又は遮断機	C-a																																																																																																																																																																																																		
	防護資料	39-2 保護遮断機、39-3 配図用、39-4 放射計	—																																																																																																																																																																																																		
項目	項目名	中央制御室設置	型式記号	備考																																																																																																																																																																																																	
第 1 項	保安施設・保安・圧力 / 異常の検出 / 監視機	その他(機室内)	C	機室設置資料(39-2)参照																																																																																																																																																																																																	
	保護	(制御室に設置し兼用する)	—	—																																																																																																																																																																																																	
	遮断	(機室を遮断しない)	可兼用	—																																																																																																																																																																																																	
	遮断機への影響	(他の機器等から遮断機に与える機能を有していない)	—	—																																																																																																																																																																																																	
	電線経路調査	(電線路により機能の妨げがない)	—	—																																																																																																																																																																																																	
	防護資料	39-2 配図用	—	—																																																																																																																																																																																																	
	操作性	中央制御室操作	A	機室設置資料(39-2)参照																																																																																																																																																																																																	
	防護資料	39-2 配図用	—	—																																																																																																																																																																																																	
	試験・検査 (種別別、当該機内・外部入力)	アマン	A	機室設置資料(39-2)参照																																																																																																																																																																																																	
	防護資料	39-5 試験及び検査	—	—																																																																																																																																																																																																	
第 2 項	放射防護	本来の用途として放射線計測不能	Bb	機室設置資料(39-2)参照																																																																																																																																																																																																	
	防護資料	39-4 放射計	—	—																																																																																																																																																																																																	
第 3 項	放射設計	放射線計測器具取扱規定	A-d	機室設置資料(39-2)参照																																																																																																																																																																																																	
	その他 (機器類)	可兼用	可兼用	—																																																																																																																																																																																																	
第 4 項	防護資料	39-4 放射計	—	—																																																																																																																																																																																																	
	設置標準	中央制御室操作	D	—																																																																																																																																																																																																	
第 5 項	防護資料	39-3 配図用	—	—																																																																																																																																																																																																	
	緊急停止の位置	設計基準自動機停止位置及び機室の位置等が十分	B	—																																																																																																																																																																																																	
第 6 項	防護資料	—	—	—																																																																																																																																																																																																	
	共有の禁止	(共用しない設備)	—	—																																																																																																																																																																																																	
第 7 項	防護資料	—	—	—																																																																																																																																																																																																	
	環境条件、自然現象、人為事故、洪水、火災	可兼用 (共通要件の考慮対象設備なし)	可兼用	—																																																																																																																																																																																																	
第 8 項	サボータ故障	対策 (サボータあり) → 異常通報機能又は遮断機	C-a	—																																																																																																																																																																																																	
	防護資料	39-2 保護遮断機、39-3 配図用、39-4 放射計	—	—																																																																																																																																																																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																																																																																										
	<p style="text-align: center;">女川原子力発電所 2 号炉 SA 設備基準適合性一覧表 (常設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">設備名、運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</th> <th style="width: 60%;">中央制御室設備</th> <th style="width: 25%;">設置状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保安設備・運用・圧力 / 炉内の大気汚染監視</td> <td>その他の建屋内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>防護</td> <td>(防護口構造を参照)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>海水</td> <td>(海水を漏れしなく)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>施設屋への影響</td> <td>(施設機器等との距離)より機器を傷つけない</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電線経路</td> <td>(電線径より機器が損傷しない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 1 項</td> <td>操作台</td> <td>中央制御室操作台</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>第 2 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 3 項</td> <td>空調・給電 (換気性、事故時給電、非常電力)</td> <td>ファン</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>第 4 項</td> <td>防音対策</td> <td>本体の構造として使用し対策不要</td> <td>該当</td> </tr> <tr> <td>第 5 項</td> <td>放射線計</td> <td>放射線計と同レベルで検出</td> <td>該当</td> </tr> <tr> <td>第 6 項</td> <td>その他 (数値物)</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>第 7 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 8 項</td> <td>設置場所</td> <td>中央制御室操作台</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>第 9 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 10 項</td> <td>施設屋への影響</td> <td>施設屋外壁構造の厚さ及び機器の設置位置</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>第 11 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 12 項</td> <td>炉内の蒸気</td> <td>(利用しない設備)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 13 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 14 項</td> <td>地震対策、自然現象、人為事故、漏れ、火</td> <td>対象外 (高層階別の考慮対象外)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>第 15 項</td> <td>その他 (放射線)</td> <td>対象 (サポーターあり) 一層のみ放射線計は内蔵</td> <td>C*</td> </tr> <tr> <td>第 16 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設備名、運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	中央制御室設備	設置状況	保安設備・運用・圧力 / 炉内の大気汚染監視	その他の建屋内	C	防護	(防護口構造を参照)	—	海水	(海水を漏れしなく)	対象外	施設屋への影響	(施設機器等との距離)より機器を傷つけない	—	電線経路	(電線径より機器が損傷しない)	—	防護壁	—	—	第 1 項	操作台	中央制御室操作台	A	第 2 項	防護壁	—	—	第 3 項	空調・給電 (換気性、事故時給電、非常電力)	ファン	A	第 4 項	防音対策	本体の構造として使用し対策不要	該当	第 5 項	放射線計	放射線計と同レベルで検出	該当	第 6 項	その他 (数値物)	対象外	対象外	第 7 項	防護壁	—	—	第 8 項	設置場所	中央制御室操作台	B	第 9 項	防護壁	—	—	第 10 項	施設屋への影響	施設屋外壁構造の厚さ及び機器の設置位置	D	第 11 項	防護壁	—	—	第 12 項	炉内の蒸気	(利用しない設備)	—	第 13 項	防護壁	—	—	第 14 項	地震対策、自然現象、人為事故、漏れ、火	対象外 (高層階別の考慮対象外)	対象外	第 15 項	その他 (放射線)	対象 (サポーターあり) 一層のみ放射線計は内蔵	C*	第 16 項	防護壁	—	—	<p style="text-align: center;">泊発電所 3 号炉 SA 設備基準適合性 一覧表 (常設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">設備名、運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</th> <th style="width: 60%;">中央制御室設備</th> <th style="width: 25%;">設置状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保安設備・運用・圧力 / 炉内の大気汚染監視</td> <td>その他の建屋内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>防護</td> <td>(防護口構造を参照)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>海水</td> <td>(海水を漏れしなく)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>施設屋への影響</td> <td>(施設機器等との距離)より機器を傷つけない</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電線経路</td> <td>(電線径より機器が損傷しない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 1 項</td> <td>操作台</td> <td>中央制御室操作台</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>第 2 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 3 項</td> <td>空調・給電 (換気性、事故時給電、非常電力)</td> <td>ファン</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>第 4 項</td> <td>防音対策</td> <td>本体の構造として使用し対策不要</td> <td>該当</td> </tr> <tr> <td>第 5 項</td> <td>放射線計</td> <td>放射線計と同レベルで検出</td> <td>該当</td> </tr> <tr> <td>第 6 項</td> <td>その他 (数値物)</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>第 7 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 8 項</td> <td>設置場所</td> <td>中央制御室操作台</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>第 9 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 10 項</td> <td>施設屋への影響</td> <td>施設屋外壁構造の厚さ及び機器の設置位置</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>第 11 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 12 項</td> <td>炉内の蒸気</td> <td>(利用しない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 13 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第 14 項</td> <td>地震対策、自然現象、人為事故、漏れ、火</td> <td>対象外 (高層階別の考慮対象外)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>第 15 項</td> <td>その他 (放射線)</td> <td>対象 (サポーターあり) 一層のみ放射線計は内蔵</td> <td>C*</td> </tr> <tr> <td>第 16 項</td> <td>防護壁</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設備名、運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	中央制御室設備	設置状況	保安設備・運用・圧力 / 炉内の大気汚染監視	その他の建屋内	C	防護	(防護口構造を参照)	—	海水	(海水を漏れしなく)	対象外	施設屋への影響	(施設機器等との距離)より機器を傷つけない	—	電線経路	(電線径より機器が損傷しない)	—	防護壁	—	—	第 1 項	操作台	中央制御室操作台	A	第 2 項	防護壁	—	—	第 3 項	空調・給電 (換気性、事故時給電、非常電力)	ファン	A	第 4 項	防音対策	本体の構造として使用し対策不要	該当	第 5 項	放射線計	放射線計と同レベルで検出	該当	第 6 項	その他 (数値物)	対象外	対象外	第 7 項	防護壁	—	—	第 8 項	設置場所	中央制御室操作台	B	第 9 項	防護壁	—	—	第 10 項	施設屋への影響	施設屋外壁構造の厚さ及び機器の設置位置	D	第 11 項	防護壁	—	—	第 12 項	炉内の蒸気	(利用しない)	—	第 13 項	防護壁	—	—	第 14 項	地震対策、自然現象、人為事故、漏れ、火	対象外 (高層階別の考慮対象外)	対象外	第 15 項	その他 (放射線)	対象 (サポーターあり) 一層のみ放射線計は内蔵	C*	第 16 項	防護壁	—	—	<p style="text-align: center;">④の相違</p>
設備名、運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	中央制御室設備	設置状況																																																																																																																																																																											
保安設備・運用・圧力 / 炉内の大気汚染監視	その他の建屋内	C																																																																																																																																																																											
防護	(防護口構造を参照)	—																																																																																																																																																																											
海水	(海水を漏れしなく)	対象外																																																																																																																																																																											
施設屋への影響	(施設機器等との距離)より機器を傷つけない	—																																																																																																																																																																											
電線経路	(電線径より機器が損傷しない)	—																																																																																																																																																																											
防護壁	—	—																																																																																																																																																																											
第 1 項	操作台	中央制御室操作台	A																																																																																																																																																																										
第 2 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 3 項	空調・給電 (換気性、事故時給電、非常電力)	ファン	A																																																																																																																																																																										
第 4 項	防音対策	本体の構造として使用し対策不要	該当																																																																																																																																																																										
第 5 項	放射線計	放射線計と同レベルで検出	該当																																																																																																																																																																										
第 6 項	その他 (数値物)	対象外	対象外																																																																																																																																																																										
第 7 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 8 項	設置場所	中央制御室操作台	B																																																																																																																																																																										
第 9 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 10 項	施設屋への影響	施設屋外壁構造の厚さ及び機器の設置位置	D																																																																																																																																																																										
第 11 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 12 項	炉内の蒸気	(利用しない設備)	—																																																																																																																																																																										
第 13 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 14 項	地震対策、自然現象、人為事故、漏れ、火	対象外 (高層階別の考慮対象外)	対象外																																																																																																																																																																										
第 15 項	その他 (放射線)	対象 (サポーターあり) 一層のみ放射線計は内蔵	C*																																																																																																																																																																										
第 16 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
設備名、運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	中央制御室設備	設置状況																																																																																																																																																																											
保安設備・運用・圧力 / 炉内の大気汚染監視	その他の建屋内	C																																																																																																																																																																											
防護	(防護口構造を参照)	—																																																																																																																																																																											
海水	(海水を漏れしなく)	対象外																																																																																																																																																																											
施設屋への影響	(施設機器等との距離)より機器を傷つけない	—																																																																																																																																																																											
電線経路	(電線径より機器が損傷しない)	—																																																																																																																																																																											
防護壁	—	—																																																																																																																																																																											
第 1 項	操作台	中央制御室操作台	A																																																																																																																																																																										
第 2 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 3 項	空調・給電 (換気性、事故時給電、非常電力)	ファン	A																																																																																																																																																																										
第 4 項	防音対策	本体の構造として使用し対策不要	該当																																																																																																																																																																										
第 5 項	放射線計	放射線計と同レベルで検出	該当																																																																																																																																																																										
第 6 項	その他 (数値物)	対象外	対象外																																																																																																																																																																										
第 7 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 8 項	設置場所	中央制御室操作台	B																																																																																																																																																																										
第 9 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 10 項	施設屋への影響	施設屋外壁構造の厚さ及び機器の設置位置	D																																																																																																																																																																										
第 11 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 12 項	炉内の蒸気	(利用しない)	—																																																																																																																																																																										
第 13 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										
第 14 項	地震対策、自然現象、人為事故、漏れ、火	対象外 (高層階別の考慮対象外)	対象外																																																																																																																																																																										
第 15 項	その他 (放射線)	対象 (サポーターあり) 一層のみ放射線計は内蔵	C*																																																																																																																																																																										
第 16 項	防護壁	—	—																																																																																																																																																																										

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																																																																																																																															
	<p style="text-align: center;">女川原子力発電所2号炉 SA設備基準適合性一覧表（常設）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名称（運転員が原子炉制御室にとどまるための設備）</th> <th>中核制御室内設置設備</th> <th>機器仕訳号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備</td> <td>その他機器室内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>配電</td> <td>（表裏に機能を分離する）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>漏水</td> <td>（漏水を遮断しない）</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>絶縁壁のみの設置</td> <td>（同じ機器等から放射線により機能を遮断しておきたい部分）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電線防護管</td> <td>（電線径により機能が隔てられない）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 配電図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>中核制御室設備</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 配電図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験・検査 （検査機、測定構成、検査人力）</td> <td>アアア</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 試験及び検査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御方式</td> <td>本機の用途として使用・制御不能</td> <td>拒否</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-4 系統図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>監視装置</td> <td>監視器として監視構成</td> <td>高B</td> </tr> <tr> <td>その他（構築物）</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-4 系統図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護構成</td> <td>中核制御室設備</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 配電図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>225kVの半導</td> <td>225kV変圧器配線の系統及び機器の性能等が十分</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>林用の禁止</td> <td>（利用しない設備）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備</td> <td>対象外（共通型設計考慮対象外とし）</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>ホビー1系制御</td> <td>対象（「ホビー1系あり」→「無心な制御」の1系制御）</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 保護制御図、39-5 配電図、39-4 系統図</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設備名称（運転員が原子炉制御室にとどまるための設備）	中核制御室内設置設備	機器仕訳号	機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備	その他機器室内	C	配電	（表裏に機能を分離する）	—	漏水	（漏水を遮断しない）	対象外	絶縁壁のみの設置	（同じ機器等から放射線により機能を遮断しておきたい部分）	—	電線防護管	（電線径により機能が隔てられない）	—	防護資料	39-5 配電図		操作性	中核制御室設備	A	防護資料	39-5 配電図		試験・検査 （検査機、測定構成、検査人力）	アアア	A	防護資料	39-5 試験及び検査		制御方式	本機の用途として使用・制御不能	拒否	防護資料	39-4 系統図		監視装置	監視器として監視構成	高B	その他（構築物）	対象外	対象外	防護資料	39-4 系統図		防護構成	中核制御室設備	B	防護資料	39-5 配電図		225kVの半導	225kV変圧器配線の系統及び機器の性能等が十分	B	防護資料	—		林用の禁止	（利用しない設備）	—	防護資料	—		機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備	対象外（共通型設計考慮対象外とし）	対象外	ホビー1系制御	対象（「ホビー1系あり」→「無心な制御」の1系制御）	C	防護資料	39-5 保護制御図、39-5 配電図、39-4 系統図		<p style="text-align: center;">泊発電所3号炉 SA設備基準適合性一覧表（常設）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名称（運転員が原子炉制御室にとどまるための設備）</th> <th>中核制御室内設置設備</th> <th>機器仕訳号</th> <th>設置目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備</td> <td>（1）1号機から2号機へ （2）2号機から3号機へ （3）3号機から2号機へ （4）2号機から1号機へ （5）1号機から3号機へ （6）3号機から1号機へ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>配電</td> <td>（表裏に機能を分離する）</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>漏水</td> <td>（漏水を遮断しない）</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>絶縁壁のみの設置</td> <td>（同じ機器等から放射線により機能を遮断しておきたい部分）</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電線防護管</td> <td>（電線径により機能が隔てられない）</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 配電図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>中核制御室設備</td> <td>A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 配電図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験・検査 （検査機、測定構成、検査人力）</td> <td>アアア</td> <td>B</td> <td>（表裏に機能を分離する）</td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 試験及び検査</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御方式</td> <td>本機の用途として使用・制御不能</td> <td>拒否</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-4 系統図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>監視装置</td> <td>監視器として監視構成</td> <td>高B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他（構築物）</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-4 系統図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護構成</td> <td>中核制御室設備</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 配電図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>225kVの半導</td> <td>225kV変圧器配線の系統及び機器の性能等が十分</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>林用の禁止</td> <td>（利用しない設備）</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備</td> <td>対象外（共通型設計考慮対象外とし）</td> <td>対象外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホビー1系制御</td> <td>対象（「ホビー1系あり」→「無心な制御」の1系制御）</td> <td>C</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護資料</td> <td>39-5 保護制御図、39-5 配電図、39-4 系統図</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設備名称（運転員が原子炉制御室にとどまるための設備）	中核制御室内設置設備	機器仕訳号	設置目的	機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備	（1）1号機から2号機へ （2）2号機から3号機へ （3）3号機から2号機へ （4）2号機から1号機へ （5）1号機から3号機へ （6）3号機から1号機へ	—	—	配電	（表裏に機能を分離する）	—	—	漏水	（漏水を遮断しない）	—	—	絶縁壁のみの設置	（同じ機器等から放射線により機能を遮断しておきたい部分）	—	—	電線防護管	（電線径により機能が隔てられない）	—	—	防護資料	39-5 配電図			操作性	中核制御室設備	A		防護資料	39-5 配電図			試験・検査 （検査機、測定構成、検査人力）	アアア	B	（表裏に機能を分離する）	防護資料	39-5 試験及び検査			制御方式	本機の用途として使用・制御不能	拒否		防護資料	39-4 系統図			監視装置	監視器として監視構成	高B		その他（構築物）	対象外	対象外		防護資料	39-4 系統図			防護構成	中核制御室設備	B		防護資料	39-5 配電図			225kVの半導	225kV変圧器配線の系統及び機器の性能等が十分	B		防護資料	—			林用の禁止	（利用しない設備）	—		防護資料	—			機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備	対象外（共通型設計考慮対象外とし）	対象外		ホビー1系制御	対象（「ホビー1系あり」→「無心な制御」の1系制御）	C		防護資料	39-5 保護制御図、39-5 配電図、39-4 系統図			<p>【女川】設備名称の相違</p>
設備名称（運転員が原子炉制御室にとどまるための設備）	中核制御室内設置設備	機器仕訳号																																																																																																																																																																																
機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備	その他機器室内	C																																																																																																																																																																																
配電	（表裏に機能を分離する）	—																																																																																																																																																																																
漏水	（漏水を遮断しない）	対象外																																																																																																																																																																																
絶縁壁のみの設置	（同じ機器等から放射線により機能を遮断しておきたい部分）	—																																																																																																																																																																																
電線防護管	（電線径により機能が隔てられない）	—																																																																																																																																																																																
防護資料	39-5 配電図																																																																																																																																																																																	
操作性	中核制御室設備	A																																																																																																																																																																																
防護資料	39-5 配電図																																																																																																																																																																																	
試験・検査 （検査機、測定構成、検査人力）	アアア	A																																																																																																																																																																																
防護資料	39-5 試験及び検査																																																																																																																																																																																	
制御方式	本機の用途として使用・制御不能	拒否																																																																																																																																																																																
防護資料	39-4 系統図																																																																																																																																																																																	
監視装置	監視器として監視構成	高B																																																																																																																																																																																
その他（構築物）	対象外	対象外																																																																																																																																																																																
防護資料	39-4 系統図																																																																																																																																																																																	
防護構成	中核制御室設備	B																																																																																																																																																																																
防護資料	39-5 配電図																																																																																																																																																																																	
225kVの半導	225kV変圧器配線の系統及び機器の性能等が十分	B																																																																																																																																																																																
防護資料	—																																																																																																																																																																																	
林用の禁止	（利用しない設備）	—																																																																																																																																																																																
防護資料	—																																																																																																																																																																																	
機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備	対象外（共通型設計考慮対象外とし）	対象外																																																																																																																																																																																
ホビー1系制御	対象（「ホビー1系あり」→「無心な制御」の1系制御）	C																																																																																																																																																																																
防護資料	39-5 保護制御図、39-5 配電図、39-4 系統図																																																																																																																																																																																	
設備名称（運転員が原子炉制御室にとどまるための設備）	中核制御室内設置設備	機器仕訳号	設置目的																																																																																																																																																																															
機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備	（1）1号機から2号機へ （2）2号機から3号機へ （3）3号機から2号機へ （4）2号機から1号機へ （5）1号機から3号機へ （6）3号機から1号機へ	—	—																																																																																																																																																																															
配電	（表裏に機能を分離する）	—	—																																																																																																																																																																															
漏水	（漏水を遮断しない）	—	—																																																																																																																																																																															
絶縁壁のみの設置	（同じ機器等から放射線により機能を遮断しておきたい部分）	—	—																																																																																																																																																																															
電線防護管	（電線径により機能が隔てられない）	—	—																																																																																																																																																																															
防護資料	39-5 配電図																																																																																																																																																																																	
操作性	中核制御室設備	A																																																																																																																																																																																
防護資料	39-5 配電図																																																																																																																																																																																	
試験・検査 （検査機、測定構成、検査人力）	アアア	B	（表裏に機能を分離する）																																																																																																																																																																															
防護資料	39-5 試験及び検査																																																																																																																																																																																	
制御方式	本機の用途として使用・制御不能	拒否																																																																																																																																																																																
防護資料	39-4 系統図																																																																																																																																																																																	
監視装置	監視器として監視構成	高B																																																																																																																																																																																
その他（構築物）	対象外	対象外																																																																																																																																																																																
防護資料	39-4 系統図																																																																																																																																																																																	
防護構成	中核制御室設備	B																																																																																																																																																																																
防護資料	39-5 配電図																																																																																																																																																																																	
225kVの半導	225kV変圧器配線の系統及び機器の性能等が十分	B																																																																																																																																																																																
防護資料	—																																																																																																																																																																																	
林用の禁止	（利用しない設備）	—																																																																																																																																																																																
防護資料	—																																																																																																																																																																																	
機電設備・配電・電力 / 特殊の配電・制御設備	対象外（共通型設計考慮対象外とし）	対象外																																																																																																																																																																																
ホビー1系制御	対象（「ホビー1系あり」→「無心な制御」の1系制御）	C																																																																																																																																																																																
防護資料	39-5 保護制御図、39-5 配電図、39-4 系統図																																																																																																																																																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																																																																																																																		
	<p style="text-align: center;">女川原子力発電所 2 号炉 SA 設備基準適合性一覧表 (常設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">設備名称</th> <th>中央制御室設置 イオノ交換</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 4 号機</td> <td>運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</td> <td>中央制御室設置イオノ交換</td> <td>中央制御室内</td> </tr> <tr> <td>環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検</td> <td>その他(制御室内)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(無償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 5 号機</td> <td>環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検</td> <td>その他(制御室内)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 6 号機</td> <td>環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検</td> <td>その他(制御室内)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設備名称		中央制御室設置 イオノ交換	設置位置	第 4 号機	運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	中央制御室設置イオノ交換	中央制御室内	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(無償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	第 5 号機	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	第 6 号機	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	<p style="text-align: center;">泊発電所 3 号炉 SA 設備基準適合性 一覧表 (常設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">設備名称</th> <th>中央制御室設置イオノ交換</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 3 号機</td> <td>運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</td> <td>中央制御室設置イオノ交換</td> <td>中央制御室内</td> </tr> <tr> <td>環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検</td> <td>その他(制御室内)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 4 号機</td> <td>環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検</td> <td>その他(制御室内)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 5 号機</td> <td>環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検</td> <td>その他(制御室内)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>(有償)機能を実現する</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設備名称		中央制御室設置イオノ交換	設置位置	第 3 号機	運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	中央制御室設置イオノ交換	中央制御室内	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	第 4 号機	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	第 5 号機	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	異常	(有償)機能を実現する	—	<p>【女川】設備名称の相違</p>
設備名称		中央制御室設置 イオノ交換	設置位置																																																																																																																																																																																																		
第 4 号機	運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	中央制御室設置イオノ交換	中央制御室内																																																																																																																																																																																																		
	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(無償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
第 5 号機	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
第 6 号機	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
設備名称		中央制御室設置イオノ交換	設置位置																																																																																																																																																																																																		
第 3 号機	運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	中央制御室設置イオノ交換	中央制御室内																																																																																																																																																																																																		
	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
第 4 号機	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
第 5 号機	環境監視・監視・圧力 / 異常の検出 / 異常検	その他(制御室内)	C																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		
	異常	(有償)機能を実現する	—																																																																																																																																																																																																		



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																		
		<p style="text-align: center;">泊発電所 3 号炉 SA 設備基準適合性 一覧表 (略設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">項目</th> <th style="width: 65%;">項目名 (設備名)</th> <th style="width: 10%;">規格</th> <th style="width: 20%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">設備</td> <td>緊急停止装置 (ECS)</td> <td>電力系統の緊急停止装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の制御装置</td> <td>電力系統の緊急停止装置の制御装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の監視装置</td> <td>電力系統の緊急停止装置の監視装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の警報装置</td> <td>電力系統の緊急停止装置の警報装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の記録装置</td> <td>電力系統の緊急停止装置の記録装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の試験装置</td> <td>電力系統の緊急停止装置の試験装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の点検装置</td> <td>電力系統の緊急停止装置の点検装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の保守装置</td> <td>電力系統の緊急停止装置の保守装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の修理装置</td> <td>電力系統の緊急停止装置の修理装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の廃棄装置</td> <td>電力系統の緊急停止装置の廃棄装置</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">運用</td> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用計画</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用計画</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用手続</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用手続</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用記録</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用記録</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用点検</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用点検</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用保守</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用保守</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用修理</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用修理</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用廃棄</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用廃棄</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用管理</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用管理</td> <td>同</td> </tr> <tr> <td>緊急停止装置 (ECS) の運用評価</td> <td>電力系統の緊急停止装置の運用評価</td> <td>同</td> </tr> </tbody> </table>	項目	項目名 (設備名)	規格	備考	設備	緊急停止装置 (ECS)	電力系統の緊急停止装置	同	緊急停止装置 (ECS) の制御装置	電力系統の緊急停止装置の制御装置	同	緊急停止装置 (ECS) の監視装置	電力系統の緊急停止装置の監視装置	同	緊急停止装置 (ECS) の警報装置	電力系統の緊急停止装置の警報装置	同	緊急停止装置 (ECS) の記録装置	電力系統の緊急停止装置の記録装置	同	緊急停止装置 (ECS) の試験装置	電力系統の緊急停止装置の試験装置	同	緊急停止装置 (ECS) の点検装置	電力系統の緊急停止装置の点検装置	同	緊急停止装置 (ECS) の保守装置	電力系統の緊急停止装置の保守装置	同	緊急停止装置 (ECS) の修理装置	電力系統の緊急停止装置の修理装置	同	緊急停止装置 (ECS) の廃棄装置	電力系統の緊急停止装置の廃棄装置	同	運用	緊急停止装置 (ECS) の運用	電力系統の緊急停止装置の運用	同	緊急停止装置 (ECS) の運用計画	電力系統の緊急停止装置の運用計画	同	緊急停止装置 (ECS) の運用手続	電力系統の緊急停止装置の運用手続	同	緊急停止装置 (ECS) の運用記録	電力系統の緊急停止装置の運用記録	同	緊急停止装置 (ECS) の運用点検	電力系統の緊急停止装置の運用点検	同	緊急停止装置 (ECS) の運用保守	電力系統の緊急停止装置の運用保守	同	緊急停止装置 (ECS) の運用修理	電力系統の緊急停止装置の運用修理	同	緊急停止装置 (ECS) の運用廃棄	電力系統の緊急停止装置の運用廃棄	同	緊急停止装置 (ECS) の運用管理	電力系統の緊急停止装置の運用管理	同	緊急停止装置 (ECS) の運用評価	電力系統の緊急停止装置の運用評価	同	<p style="color: red;">⑤の相違</p>
項目	項目名 (設備名)	規格	備考																																																																		
設備	緊急停止装置 (ECS)	電力系統の緊急停止装置	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の制御装置	電力系統の緊急停止装置の制御装置	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の監視装置	電力系統の緊急停止装置の監視装置	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の警報装置	電力系統の緊急停止装置の警報装置	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の記録装置	電力系統の緊急停止装置の記録装置	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の試験装置	電力系統の緊急停止装置の試験装置	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の点検装置	電力系統の緊急停止装置の点検装置	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の保守装置	電力系統の緊急停止装置の保守装置	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の修理装置	電力系統の緊急停止装置の修理装置	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の廃棄装置	電力系統の緊急停止装置の廃棄装置	同																																																																		
運用	緊急停止装置 (ECS) の運用	電力系統の緊急停止装置の運用	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の運用計画	電力系統の緊急停止装置の運用計画	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の運用手続	電力系統の緊急停止装置の運用手続	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の運用記録	電力系統の緊急停止装置の運用記録	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の運用点検	電力系統の緊急停止装置の運用点検	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の運用保守	電力系統の緊急停止装置の運用保守	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の運用修理	電力系統の緊急停止装置の運用修理	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の運用廃棄	電力系統の緊急停止装置の運用廃棄	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の運用管理	電力系統の緊急停止装置の運用管理	同																																																																		
	緊急停止装置 (ECS) の運用評価	電力系統の緊急停止装置の運用評価	同																																																																		



泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																																		
	<p style="text-align: center;">女川原子力発電所2号炉 SA設備基準適合性一覧表（常設）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">設備名（運転員が原子炉制御室にとどまるための設備）</th> <th>適用設計</th> <th>設備区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第1号機</td> <td>増設出力・出力・圧力 / 限界の監視/ 監視器</td> <td>その他の適用内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>異常</td> <td>（有誤に機能を実施する）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>周波</td> <td>（周波を監視しない）</td> <td>可動作</td> </tr> <tr> <td>増設出力の検出</td> <td>（増設出力の検出装置により検出するものがない）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>増設出力の保護</td> <td>（増設出力により機能に異常をきたさない）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第2号機</td> <td>増設出力</td> <td>20-3 取扱い</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作灯</td> <td>操作手帳</td> <td>可動作</td> </tr> <tr> <td>監視資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>試験・検査 （検査性、運転確認、再投入力）</td> <td>計測制御設備</td> <td>K</td> </tr> <tr> <td>監視資料</td> <td>20-3 試験及び検査</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第3号機</td> <td>切替装置</td> <td>本機の用途として適用（切替手帳）</td> <td>緑字</td> </tr> <tr> <td>監視資料</td> <td>20-4 参照用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>系統設計</td> <td>設計書中心適合</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>その他（機器類）</td> <td>可動作</td> <td>可動作</td> </tr> <tr> <td>監視資料</td> <td>20-3 取扱い</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第4号機</td> <td>試験場所</td> <td>操作手帳</td> <td>可動作</td> </tr> <tr> <td>監視資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設計書A中の仕様</td> <td>基本構成等への仕様を基本の自動として設置するもの</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>監視資料</td> <td>20-6 異常設定仕様</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>制御の停止</td> <td>（実施しない）設備</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第5号機</td> <td>監視資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>増設出力、自然降集、人為事故、漏水、火</td> <td>可動作（設計仕様（又は図面でも記載していない）設備） → 対象（同一目的の設備なし）</td> <td>可動作</td> </tr> <tr> <td>予備停止装置</td> <td>可動作（予備停止なし）</td> <td>可動作</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">①の相違</td> </tr> </tbody> </table>	設備名（運転員が原子炉制御室にとどまるための設備）		適用設計	設備区分	第1号機	増設出力・出力・圧力 / 限界の監視/ 監視器	その他の適用内	C	異常	（有誤に機能を実施する）	—	周波	（周波を監視しない）	可動作	増設出力の検出	（増設出力の検出装置により検出するものがない）	—	増設出力の保護	（増設出力により機能に異常をきたさない）	—	第2号機	増設出力	20-3 取扱い	—	操作灯	操作手帳	可動作	監視資料	—	—	試験・検査 （検査性、運転確認、再投入力）	計測制御設備	K	監視資料	20-3 試験及び検査	—	第3号機	切替装置	本機の用途として適用（切替手帳）	緑字	監視資料	20-4 参照用	—	系統設計	設計書中心適合	A	その他（機器類）	可動作	可動作	監視資料	20-3 取扱い	—	第4号機	試験場所	操作手帳	可動作	監視資料	—	—	設計書A中の仕様	基本構成等への仕様を基本の自動として設置するもの	A	監視資料	20-6 異常設定仕様	—	制御の停止	（実施しない）設備	—	第5号機	監視資料	—	—	増設出力、自然降集、人為事故、漏水、火	可動作（設計仕様（又は図面でも記載していない）設備） → 対象（同一目的の設備なし）	可動作	予備停止装置	可動作（予備停止なし）	可動作				①の相違		
設備名（運転員が原子炉制御室にとどまるための設備）		適用設計	設備区分																																																																																		
第1号機	増設出力・出力・圧力 / 限界の監視/ 監視器	その他の適用内	C																																																																																		
	異常	（有誤に機能を実施する）	—																																																																																		
	周波	（周波を監視しない）	可動作																																																																																		
	増設出力の検出	（増設出力の検出装置により検出するものがない）	—																																																																																		
	増設出力の保護	（増設出力により機能に異常をきたさない）	—																																																																																		
第2号機	増設出力	20-3 取扱い	—																																																																																		
	操作灯	操作手帳	可動作																																																																																		
	監視資料	—	—																																																																																		
	試験・検査 （検査性、運転確認、再投入力）	計測制御設備	K																																																																																		
	監視資料	20-3 試験及び検査	—																																																																																		
第3号機	切替装置	本機の用途として適用（切替手帳）	緑字																																																																																		
	監視資料	20-4 参照用	—																																																																																		
	系統設計	設計書中心適合	A																																																																																		
	その他（機器類）	可動作	可動作																																																																																		
	監視資料	20-3 取扱い	—																																																																																		
第4号機	試験場所	操作手帳	可動作																																																																																		
	監視資料	—	—																																																																																		
	設計書A中の仕様	基本構成等への仕様を基本の自動として設置するもの	A																																																																																		
	監視資料	20-6 異常設定仕様	—																																																																																		
	制御の停止	（実施しない）設備	—																																																																																		
第5号機	監視資料	—	—																																																																																		
	増設出力、自然降集、人為事故、漏水、火	可動作（設計仕様（又は図面でも記載していない）設備） → 対象（同一目的の設備なし）	可動作																																																																																		
	予備停止装置	可動作（予備停止なし）	可動作																																																																																		
			①の相違																																																																																		





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																																																																																																																																																	
	<p style="text-align: center;">女川原子力発電所2号炉 SA設備基準適合性一覧表 (常設)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">注(対象) 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</th> <th>原子炉建屋ブローアウトバルブ閉鎖装置</th> <th>物理区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">第1号機</td> <td>電圧・電流・圧力・放射線の監視/制御</td> <td>原子炉建屋ブローアウトバルブ閉鎖装置</td> <td>(B、D)</td> </tr> <tr> <td>排気</td> <td>(右側)排気(制御する)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>海水</td> <td>海水を過さない</td> <td>別添付</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第2号機</td> <td>建造物からの影響</td> <td>(周辺建屋からの放射線により機能喪失をうおされない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>周囲の障害</td> <td>(電線類により障害が及ぼされない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-2 規程図、99-4 系統図</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第3号機</td> <td>操作性</td> <td>中央制御室操作、現場操作</td> <td>A、B</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-2 規程図、99-4 系統図</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>試験・検査 (放射性、系統構成・再投入時)</td> <td>その他</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第4号機</td> <td>関連資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設備名称</td> <td>本来の用途として使用一切を不要</td> <td>D、E</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-4 系統図</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第5号機</td> <td>設計設計</td> <td>設計図からの指示</td> <td>A、F</td> </tr> <tr> <td>その他 (検査時)</td> <td>別添付</td> <td>別添付</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-4 系統図</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第6号機</td> <td>設置場所</td> <td>現場操作 (設置場所が操作可能) 中央制御室操作</td> <td>A、B</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-2 規程図</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置SAの容量</td> <td>最大事故等への対策を本来の目的として設置するもの</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第7号機</td> <td>関連資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>使用の燃料</td> <td>(使用しない燃料)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第8号機</td> <td>建造物、自然現象、人為的災害、洪水、火災</td> <td>放射線 (放射線) (21000kV/20000kV/20000kV) → 21000kV/20000kV/20000kV (設備互換性)</td> <td>別添付</td> </tr> <tr> <td>サロート系統図</td> <td>別添 (サロート系あり) 一機各制御室入口用系統</td> <td>C、G</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-2 規程図</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	注(対象) 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備		原子炉建屋ブローアウトバルブ閉鎖装置	物理区分	第1号機	電圧・電流・圧力・放射線の監視/制御	原子炉建屋ブローアウトバルブ閉鎖装置	(B、D)	排気	(右側)排気(制御する)	—	海水	海水を過さない	別添付	第2号機	建造物からの影響	(周辺建屋からの放射線により機能喪失をうおされない)	—	周囲の障害	(電線類により障害が及ぼされない)	—	関連資料	99-2 規程図、99-4 系統図	—	第3号機	操作性	中央制御室操作、現場操作	A、B	関連資料	99-2 規程図、99-4 系統図	—	試験・検査 (放射性、系統構成・再投入時)	その他	S	第4号機	関連資料	—	—	設備名称	本来の用途として使用一切を不要	D、E	関連資料	99-4 系統図	—	第5号機	設計設計	設計図からの指示	A、F	その他 (検査時)	別添付	別添付	関連資料	99-4 系統図	—	第6号機	設置場所	現場操作 (設置場所が操作可能) 中央制御室操作	A、B	関連資料	99-2 規程図	—	設置SAの容量	最大事故等への対策を本来の目的として設置するもの	A	第7号機	関連資料	—	—	使用の燃料	(使用しない燃料)	—	関連資料	—	—	第8号機	建造物、自然現象、人為的災害、洪水、火災	放射線 (放射線) (21000kV/20000kV/20000kV) → 21000kV/20000kV/20000kV (設備互換性)	別添付	サロート系統図	別添 (サロート系あり) 一機各制御室入口用系統	C、G	関連資料	99-2 規程図	—	<p style="text-align: center;">泊発電所3号炉 SA設備基準適合性 一覧表 (常設)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">注(対象) 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</th> <th>ブローアウトバルブ閉鎖装置 (物理区分の相違)</th> <th>物理区分</th> <th>関連資料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">第1号機</td> <td>電圧・電流・圧力・放射線の監視/制御</td> <td>(右側の放射線) (左側の放射線)</td> <td>(B、D)</td> <td>(99-2 規程図)</td> </tr> <tr> <td>排気</td> <td>(左側)排気(制御する)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>海水</td> <td>海水を過さない</td> <td>別添付</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第2号機</td> <td>建造物からの影響</td> <td>(周辺建屋からの放射線により機能喪失をうおされない)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>周囲の障害</td> <td>(電線類により障害が及ぼされない)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-2 規程図、99-4 系統図</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第3号機</td> <td>操作性</td> <td>中央制御室操作、現場操作</td> <td>A、B</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-2 規程図、99-4 系統図</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>試験・検査 (放射性、系統構成・再投入時)</td> <td>その他</td> <td>S</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第4号機</td> <td>関連資料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設備名称</td> <td>本来の用途として使用一切を不要</td> <td>D、E</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-4 系統図</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第5号機</td> <td>設計設計</td> <td>設計図からの指示</td> <td>A、F</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>その他 (検査時)</td> <td>別添付</td> <td>別添付</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-4 系統図</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第6号機</td> <td>設置場所</td> <td>現場操作 (設置場所が操作可能) 中央制御室操作</td> <td>A、B</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-2 規程図</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置SAの容量</td> <td>最大事故等への対策を本来の目的として設置するもの</td> <td>A</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第7号機</td> <td>関連資料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>使用の燃料</td> <td>(使用しない燃料)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第8号機</td> <td>建造物、自然現象、人為的災害、洪水、火災</td> <td>放射線 (放射線) (21000kV/20000kV/20000kV) → 21000kV/20000kV/20000kV (設備互換性)</td> <td>別添付</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>サロート系統図</td> <td>別添 (サロート系あり) 一機各制御室入口用系統</td> <td>C、G</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>関連資料</td> <td>99-2 規程図</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	注(対象) 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備		ブローアウトバルブ閉鎖装置 (物理区分の相違)	物理区分	関連資料	第1号機	電圧・電流・圧力・放射線の監視/制御	(右側の放射線) (左側の放射線)	(B、D)	(99-2 規程図)	排気	(左側)排気(制御する)	—	—	海水	海水を過さない	別添付	—	第2号機	建造物からの影響	(周辺建屋からの放射線により機能喪失をうおされない)	—	—	周囲の障害	(電線類により障害が及ぼされない)	—	—	関連資料	99-2 規程図、99-4 系統図	—	—	第3号機	操作性	中央制御室操作、現場操作	A、B	—	関連資料	99-2 規程図、99-4 系統図	—	—	試験・検査 (放射性、系統構成・再投入時)	その他	S	—	第4号機	関連資料	—	—	—	設備名称	本来の用途として使用一切を不要	D、E	—	関連資料	99-4 系統図	—	—	第5号機	設計設計	設計図からの指示	A、F	—	その他 (検査時)	別添付	別添付	—	関連資料	99-4 系統図	—	—	第6号機	設置場所	現場操作 (設置場所が操作可能) 中央制御室操作	A、B	—	関連資料	99-2 規程図	—	—	設置SAの容量	最大事故等への対策を本来の目的として設置するもの	A	—	第7号機	関連資料	—	—	—	使用の燃料	(使用しない燃料)	—	—	関連資料	—	—	—	第8号機	建造物、自然現象、人為的災害、洪水、火災	放射線 (放射線) (21000kV/20000kV/20000kV) → 21000kV/20000kV/20000kV (設備互換性)	別添付	—	サロート系統図	別添 (サロート系あり) 一機各制御室入口用系統	C、G	—	関連資料	99-2 規程図	—	—	<p>②の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PWR においては、アンユラス空気浄化ファンにより、原子炉格納容器からアンユラス部へ漏えいする放射性物質等を含む空気を吸入し、アンユラス空気浄化フィルタユニットを介して放射性物質を低減させた後、排気筒から排出することで放射性物質の濃度を低減する設計を採用している。</li> <li>• また、全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合にはアンユラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスボンベを用いて排気弁を開操作する。</li> </ul>
注(対象) 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備		原子炉建屋ブローアウトバルブ閉鎖装置	物理区分																																																																																																																																																																																																	
第1号機	電圧・電流・圧力・放射線の監視/制御	原子炉建屋ブローアウトバルブ閉鎖装置	(B、D)																																																																																																																																																																																																	
	排気	(右側)排気(制御する)	—																																																																																																																																																																																																	
	海水	海水を過さない	別添付																																																																																																																																																																																																	
第2号機	建造物からの影響	(周辺建屋からの放射線により機能喪失をうおされない)	—																																																																																																																																																																																																	
	周囲の障害	(電線類により障害が及ぼされない)	—																																																																																																																																																																																																	
	関連資料	99-2 規程図、99-4 系統図	—																																																																																																																																																																																																	
第3号機	操作性	中央制御室操作、現場操作	A、B																																																																																																																																																																																																	
	関連資料	99-2 規程図、99-4 系統図	—																																																																																																																																																																																																	
	試験・検査 (放射性、系統構成・再投入時)	その他	S																																																																																																																																																																																																	
第4号機	関連資料	—	—																																																																																																																																																																																																	
	設備名称	本来の用途として使用一切を不要	D、E																																																																																																																																																																																																	
	関連資料	99-4 系統図	—																																																																																																																																																																																																	
第5号機	設計設計	設計図からの指示	A、F																																																																																																																																																																																																	
	その他 (検査時)	別添付	別添付																																																																																																																																																																																																	
	関連資料	99-4 系統図	—																																																																																																																																																																																																	
第6号機	設置場所	現場操作 (設置場所が操作可能) 中央制御室操作	A、B																																																																																																																																																																																																	
	関連資料	99-2 規程図	—																																																																																																																																																																																																	
	設置SAの容量	最大事故等への対策を本来の目的として設置するもの	A																																																																																																																																																																																																	
第7号機	関連資料	—	—																																																																																																																																																																																																	
	使用の燃料	(使用しない燃料)	—																																																																																																																																																																																																	
	関連資料	—	—																																																																																																																																																																																																	
第8号機	建造物、自然現象、人為的災害、洪水、火災	放射線 (放射線) (21000kV/20000kV/20000kV) → 21000kV/20000kV/20000kV (設備互換性)	別添付																																																																																																																																																																																																	
	サロート系統図	別添 (サロート系あり) 一機各制御室入口用系統	C、G																																																																																																																																																																																																	
	関連資料	99-2 規程図	—																																																																																																																																																																																																	
注(対象) 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備		ブローアウトバルブ閉鎖装置 (物理区分の相違)	物理区分	関連資料																																																																																																																																																																																																
第1号機	電圧・電流・圧力・放射線の監視/制御	(右側の放射線) (左側の放射線)	(B、D)	(99-2 規程図)																																																																																																																																																																																																
	排気	(左側)排気(制御する)	—	—																																																																																																																																																																																																
	海水	海水を過さない	別添付	—																																																																																																																																																																																																
第2号機	建造物からの影響	(周辺建屋からの放射線により機能喪失をうおされない)	—	—																																																																																																																																																																																																
	周囲の障害	(電線類により障害が及ぼされない)	—	—																																																																																																																																																																																																
	関連資料	99-2 規程図、99-4 系統図	—	—																																																																																																																																																																																																
第3号機	操作性	中央制御室操作、現場操作	A、B	—																																																																																																																																																																																																
	関連資料	99-2 規程図、99-4 系統図	—	—																																																																																																																																																																																																
	試験・検査 (放射性、系統構成・再投入時)	その他	S	—																																																																																																																																																																																																
第4号機	関連資料	—	—	—																																																																																																																																																																																																
	設備名称	本来の用途として使用一切を不要	D、E	—																																																																																																																																																																																																
	関連資料	99-4 系統図	—	—																																																																																																																																																																																																
第5号機	設計設計	設計図からの指示	A、F	—																																																																																																																																																																																																
	その他 (検査時)	別添付	別添付	—																																																																																																																																																																																																
	関連資料	99-4 系統図	—	—																																																																																																																																																																																																
第6号機	設置場所	現場操作 (設置場所が操作可能) 中央制御室操作	A、B	—																																																																																																																																																																																																
	関連資料	99-2 規程図	—	—																																																																																																																																																																																																
	設置SAの容量	最大事故等への対策を本来の目的として設置するもの	A	—																																																																																																																																																																																																
第7号機	関連資料	—	—	—																																																																																																																																																																																																
	使用の燃料	(使用しない燃料)	—	—																																																																																																																																																																																																
	関連資料	—	—	—																																																																																																																																																																																																
第8号機	建造物、自然現象、人為的災害、洪水、火災	放射線 (放射線) (21000kV/20000kV/20000kV) → 21000kV/20000kV/20000kV (設備互換性)	別添付	—																																																																																																																																																																																																
	サロート系統図	別添 (サロート系あり) 一機各制御室入口用系統	C、G	—																																																																																																																																																																																																
	関連資料	99-2 規程図	—	—																																																																																																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																	
		<p style="text-align: center;">泊発電所 3 号炉 S A 設備基準適合性 一覧表 (常設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">項目</th> <th style="width: 65%;">項目名</th> <th style="width: 10%;">対応状況</th> <th style="width: 20%;">取組資料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">設計</td> <td>設計方針</td> <td>○</td> <td>【施設設計方針】(施設設計)</td> </tr> <tr> <td>設備設計</td> <td>○</td> <td>【設備設計方針】(設備設計)</td> </tr> <tr> <td>配管設計</td> <td>○</td> <td>【配管設計方針】(配管設計)</td> </tr> <tr> <td>電気設計</td> <td>○</td> <td>【電気設計方針】(電気設計)</td> </tr> <tr> <td>機械設計</td> <td>○</td> <td>【機械設計方針】(機械設計)</td> </tr> <tr> <td>土木設計</td> <td>○</td> <td>【土木設計方針】(土木設計)</td> </tr> <tr> <td>建築設計</td> <td>○</td> <td>【建築設計方針】(建築設計)</td> </tr> <tr> <td>放射線設計</td> <td>○</td> <td>【放射線設計方針】(放射線設計)</td> </tr> <tr> <td>環境設計</td> <td>○</td> <td>【環境設計方針】(環境設計)</td> </tr> <tr> <td>安全設計</td> <td>○</td> <td>【安全設計方針】(安全設計)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">製造</td> <td>製造方針</td> <td>○</td> <td>【製造方針】(製造)</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>○</td> <td>【材料】(材料)</td> </tr> <tr> <td>組立</td> <td>○</td> <td>【組立】(組立)</td> </tr> <tr> <td>検査</td> <td>○</td> <td>【検査】(検査)</td> </tr> <tr> <td>塗装</td> <td>○</td> <td>【塗装】(塗装)</td> </tr> <tr> <td>包装</td> <td>○</td> <td>【包装】(包装)</td> </tr> <tr> <td>輸送</td> <td>○</td> <td>【輸送】(輸送)</td> </tr> <tr> <td>設置</td> <td>○</td> <td>【設置】(設置)</td> </tr> <tr> <td>立上り</td> <td>○</td> <td>【立上り】(立上り)</td> </tr> <tr> <td>撤去</td> <td>○</td> <td>【撤去】(撤去)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">運用</td> <td>運用方針</td> <td>○</td> <td>【運用方針】(運用)</td> </tr> <tr> <td>点検</td> <td>○</td> <td>【点検】(点検)</td> </tr> <tr> <td>保守</td> <td>○</td> <td>【保守】(保守)</td> </tr> <tr> <td>修理</td> <td>○</td> <td>【修理】(修理)</td> </tr> <tr> <td>清掃</td> <td>○</td> <td>【清掃】(清掃)</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>○</td> <td>【試験】(試験)</td> </tr> <tr> <td>訓練</td> <td>○</td> <td>【訓練】(訓練)</td> </tr> <tr> <td>記録</td> <td>○</td> <td>【記録】(記録)</td> </tr> <tr> <td>報告</td> <td>○</td> <td>【報告】(報告)</td> </tr> <tr> <td>廃止</td> <td>○</td> <td>【廃止】(廃止)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	項目名	対応状況	取組資料	設計	設計方針	○	【施設設計方針】(施設設計)	設備設計	○	【設備設計方針】(設備設計)	配管設計	○	【配管設計方針】(配管設計)	電気設計	○	【電気設計方針】(電気設計)	機械設計	○	【機械設計方針】(機械設計)	土木設計	○	【土木設計方針】(土木設計)	建築設計	○	【建築設計方針】(建築設計)	放射線設計	○	【放射線設計方針】(放射線設計)	環境設計	○	【環境設計方針】(環境設計)	安全設計	○	【安全設計方針】(安全設計)	製造	製造方針	○	【製造方針】(製造)	材料	○	【材料】(材料)	組立	○	【組立】(組立)	検査	○	【検査】(検査)	塗装	○	【塗装】(塗装)	包装	○	【包装】(包装)	輸送	○	【輸送】(輸送)	設置	○	【設置】(設置)	立上り	○	【立上り】(立上り)	撤去	○	【撤去】(撤去)	運用	運用方針	○	【運用方針】(運用)	点検	○	【点検】(点検)	保守	○	【保守】(保守)	修理	○	【修理】(修理)	清掃	○	【清掃】(清掃)	試験	○	【試験】(試験)	訓練	○	【訓練】(訓練)	記録	○	【記録】(記録)	報告	○	【報告】(報告)	廃止	○	【廃止】(廃止)	<p>②の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PWR においては、アンユラス空気浄化ファンにより、原子炉格納容器からアンユラス部へ漏えいする放射性物質等を含む空気を吸入し、アンユラス空気浄化フィルタユニットを介して放射性物質を低減させた後、排気筒から排出することで放射性物質の濃度を低減する設計を採用している。</li> <li>・また、全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合にはアンユラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンベを用いて排気弁を開操作する。</li> </ul>
項目	項目名	対応状況	取組資料																																																																																																	
設計	設計方針	○	【施設設計方針】(施設設計)																																																																																																	
	設備設計	○	【設備設計方針】(設備設計)																																																																																																	
	配管設計	○	【配管設計方針】(配管設計)																																																																																																	
	電気設計	○	【電気設計方針】(電気設計)																																																																																																	
	機械設計	○	【機械設計方針】(機械設計)																																																																																																	
	土木設計	○	【土木設計方針】(土木設計)																																																																																																	
	建築設計	○	【建築設計方針】(建築設計)																																																																																																	
	放射線設計	○	【放射線設計方針】(放射線設計)																																																																																																	
	環境設計	○	【環境設計方針】(環境設計)																																																																																																	
	安全設計	○	【安全設計方針】(安全設計)																																																																																																	
製造	製造方針	○	【製造方針】(製造)																																																																																																	
	材料	○	【材料】(材料)																																																																																																	
	組立	○	【組立】(組立)																																																																																																	
	検査	○	【検査】(検査)																																																																																																	
	塗装	○	【塗装】(塗装)																																																																																																	
	包装	○	【包装】(包装)																																																																																																	
	輸送	○	【輸送】(輸送)																																																																																																	
	設置	○	【設置】(設置)																																																																																																	
	立上り	○	【立上り】(立上り)																																																																																																	
	撤去	○	【撤去】(撤去)																																																																																																	
運用	運用方針	○	【運用方針】(運用)																																																																																																	
	点検	○	【点検】(点検)																																																																																																	
	保守	○	【保守】(保守)																																																																																																	
	修理	○	【修理】(修理)																																																																																																	
	清掃	○	【清掃】(清掃)																																																																																																	
	試験	○	【試験】(試験)																																																																																																	
	訓練	○	【訓練】(訓練)																																																																																																	
	記録	○	【記録】(記録)																																																																																																	
	報告	○	【報告】(報告)																																																																																																	
	廃止	○	【廃止】(廃止)																																																																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																																										
	女川原子力発電所 2 号炉 SA 設備基準適合性一覧表 (可搬型)																																																																																																																												
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 40%;">中核制御室作業用設備 (2号炉専用)</th> <th style="width: 50%;">新設化項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 1 項 構造</td> <td>構造強度・保安・圧力 / 圧力の支配 / 監視設備</td> <td>その他の建設内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>床盤</td> <td>(有用に機能を提供する)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>基礎</td> <td>(固有共振を抑制)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>柱</td> <td>(固有共振を抑制)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>壁</td> <td>(固有共振を抑制)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>(固有共振を抑制)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電線配線</td> <td>(電線束により機能の低下を抑制)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>配管</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 2 項 試験・検査</td> <td>試験・検査 (構造、系統構成・外連入)</td> <td>—</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 3 項 設計</td> <td>設計方針</td> <td>本来の用途として使用・設計不能</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>基礎</td> <td>設計値から推定</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>柱</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>壁</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電線配線</td> <td>中核制御室専用</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 4 項 可搬式の設備</td> <td>可搬式の設備</td> <td>その仕様値</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 5 項 可搬式の補綴性</td> <td>可搬式の補綴性</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 6 項 高圧電圧の補綴箇所の確保</td> <td>高圧電圧の補綴箇所の確保</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 7 項 放射線</td> <td>放射線</td> <td>(放射線量の低減を目的とする)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 8 項 保管場所</td> <td>保管場所</td> <td>屋内 (本館新設の作業用保管庫なし)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 9 項 アクセス</td> <td>アクセス</td> <td>屋内アクセスの確保</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 10 項 地震対策、自然現象、人為事象、盗賊、火災</td> <td>地震対策、自然現象、人為事象、盗賊、火災</td> <td>対象外 (同一目的の設備なし又は対策が実施済み)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 11 項 その他</td> <td>その他 (未定)</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>配管材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		項目	中核制御室作業用設備 (2号炉専用)	新設化項目	第 1 項 構造	構造強度・保安・圧力 / 圧力の支配 / 監視設備	その他の建設内	C	床盤	(有用に機能を提供する)	—	基礎	(固有共振を抑制)	対象外	柱	(固有共振を抑制)	—	壁	(固有共振を抑制)	—	屋根	(固有共振を抑制)	—	電線配線	(電線束により機能の低下を抑制)	—	配管	—	—	配管材料	—	—	配管材料	—	—	第 2 項 試験・検査	試験・検査 (構造、系統構成・外連入)	—	C	配管材料	—	—	第 3 項 設計	設計方針	本来の用途として使用・設計不能	B	配管材料	—	—	基礎	設計値から推定	A	柱	対象外	対象外	壁	対象外	対象外	屋根	—	—	電線配線	中核制御室専用	B	配管材料	—	—	第 4 項 可搬式の設備	可搬式の設備	その仕様値	C	配管材料	—	—	第 5 項 可搬式の補綴性	可搬式の補綴性	対象外	対象外	配管材料	—	—	第 6 項 高圧電圧の補綴箇所の確保	高圧電圧の補綴箇所の確保	対象外	対象外	配管材料	—	—	第 7 項 放射線	放射線	(放射線量の低減を目的とする)	—	配管材料	—	—	第 8 項 保管場所	保管場所	屋内 (本館新設の作業用保管庫なし)	B	配管材料	—	—	第 9 項 アクセス	アクセス	屋内アクセスの確保	A	配管材料	—	—	第 10 項 地震対策、自然現象、人為事象、盗賊、火災	地震対策、自然現象、人為事象、盗賊、火災	対象外 (同一目的の設備なし又は対策が実施済み)	対象外	配管材料	—	—	第 11 項 その他	その他 (未定)	対象外	対象外	配管材料	—	—	①の相違
項目	中核制御室作業用設備 (2号炉専用)	新設化項目																																																																																																																											
第 1 項 構造	構造強度・保安・圧力 / 圧力の支配 / 監視設備	その他の建設内	C																																																																																																																										
	床盤	(有用に機能を提供する)	—																																																																																																																										
	基礎	(固有共振を抑制)	対象外																																																																																																																										
	柱	(固有共振を抑制)	—																																																																																																																										
	壁	(固有共振を抑制)	—																																																																																																																										
	屋根	(固有共振を抑制)	—																																																																																																																										
	電線配線	(電線束により機能の低下を抑制)	—																																																																																																																										
	配管	—	—																																																																																																																										
	配管材料	—	—																																																																																																																										
	配管材料	—	—																																																																																																																										
第 2 項 試験・検査	試験・検査 (構造、系統構成・外連入)	—	C																																																																																																																										
	配管材料	—	—																																																																																																																										
	第 3 項 設計	設計方針	本来の用途として使用・設計不能	B																																																																																																																									
		配管材料	—	—																																																																																																																									
		基礎	設計値から推定	A																																																																																																																									
		柱	対象外	対象外																																																																																																																									
		壁	対象外	対象外																																																																																																																									
		屋根	—	—																																																																																																																									
		電線配線	中核制御室専用	B																																																																																																																									
		配管材料	—	—																																																																																																																									
第 4 項 可搬式の設備		可搬式の設備	その仕様値	C																																																																																																																									
		配管材料	—	—																																																																																																																									
	第 5 項 可搬式の補綴性	可搬式の補綴性	対象外	対象外																																																																																																																									
		配管材料	—	—																																																																																																																									
		第 6 項 高圧電圧の補綴箇所の確保	高圧電圧の補綴箇所の確保	対象外	対象外																																																																																																																								
			配管材料	—	—																																																																																																																								
			第 7 項 放射線	放射線	(放射線量の低減を目的とする)	—																																																																																																																							
				配管材料	—	—																																																																																																																							
				第 8 項 保管場所	保管場所	屋内 (本館新設の作業用保管庫なし)	B																																																																																																																						
					配管材料	—	—																																																																																																																						
第 9 項 アクセス					アクセス	屋内アクセスの確保	A																																																																																																																						
					配管材料	—	—																																																																																																																						
	第 10 項 地震対策、自然現象、人為事象、盗賊、火災				地震対策、自然現象、人為事象、盗賊、火災	対象外 (同一目的の設備なし又は対策が実施済み)	対象外																																																																																																																						
					配管材料	—	—																																																																																																																						
		第 11 項 その他			その他 (未定)	対象外	対象外																																																																																																																						
					配管材料	—	—																																																																																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
女川原子力発電所 2 号炉 SA 設備基準適合性一覧表 (可搬型)		泊発電所 3 号炉 SA 設備基準適合性 一覧表 (可搬)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
<p>第 4 号表 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>設備構成</th> <th>設備仕様</th> <th>適合性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 1 号表</td> <td>温度測定・湿度・圧力・放射線計測</td> <td>その他の機器内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>音響</td> <td>(音響に機能を提供する)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>漏水</td> <td>(漏水を通知し取り)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>放射線計測の必要</td> <td>(放射線計測からの影響により機能を失うおそれがない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>(放射線計測により機能を失うおそれがない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>中央制御室操作</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 2 号表</td> <td>保護・警報 (警報音、警報表示、警報入力)</td> <td>非常警報設備</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 3 号表</td> <td>可搬型 A の設置</td> <td>その他の設備</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 4 号表</td> <td>放射線計測</td> <td>(放射線計測の誤りなく取り扱える) (機内を確保)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 5 号表</td> <td>アークアウト</td> <td>(アークアウト)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	項目	設備構成	設備仕様	適合性	第 1 号表	温度測定・湿度・圧力・放射線計測	その他の機器内	C	音響	(音響に機能を提供する)	—	漏水	(漏水を通知し取り)	対象外	放射線計測の必要	(放射線計測からの影響により機能を失うおそれがない)	—	放射線計測	(放射線計測により機能を失うおそれがない)	—	放射線計測	—	—	操作性	中央制御室操作	A	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 2 号表	保護・警報 (警報音、警報表示、警報入力)	非常警報設備	A	保護資料	—	—	放射線計測	—	—	放射線計測	—	—	放射線計測	—	—	放射線計測	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 3 号表	可搬型 A の設置	その他の設備	C	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 4 号表	放射線計測	(放射線計測の誤りなく取り扱える) (機内を確保)	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 5 号表	アークアウト	(アークアウト)	対象外	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>設備構成</th> <th>設備仕様</th> <th>適合性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 1 号表</td> <td>温度測定・湿度・圧力・放射線計測</td> <td>その他の機器内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>音響</td> <td>(音響に機能を提供する)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>漏水</td> <td>(漏水を通知し取り)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>放射線計測の必要</td> <td>(放射線計測からの影響により機能を失うおそれがない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>(放射線計測により機能を失うおそれがない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>中央制御室操作</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 2 号表</td> <td>保護・警報 (警報音、警報表示、警報入力)</td> <td>非常警報設備</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 3 号表</td> <td>可搬型 A の設置</td> <td>その他の設備</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 4 号表</td> <td>放射線計測</td> <td>(放射線計測の誤りなく取り扱える) (機内を確保)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 5 号表</td> <td>アークアウト</td> <td>(アークアウト)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	項目	設備構成	設備仕様	適合性	第 1 号表	温度測定・湿度・圧力・放射線計測	その他の機器内	C	音響	(音響に機能を提供する)	—	漏水	(漏水を通知し取り)	対象外	放射線計測の必要	(放射線計測からの影響により機能を失うおそれがない)	—	放射線計測	(放射線計測により機能を失うおそれがない)	—	放射線計測	—	—	操作性	中央制御室操作	A	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 2 号表	保護・警報 (警報音、警報表示、警報入力)	非常警報設備	A	保護資料	—	—	放射線計測	—	—	放射線計測	—	—	放射線計測	—	—	放射線計測	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 3 号表	可搬型 A の設置	その他の設備	C	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 4 号表	放射線計測	(放射線計測の誤りなく取り扱える) (機内を確保)	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 5 号表	アークアウト	(アークアウト)	対象外	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>設備構成</th> <th>設備仕様</th> <th>適合性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第 1 号表</td> <td>温度測定・湿度・圧力・放射線計測</td> <td>その他の機器内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>音響</td> <td>(音響に機能を提供する)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>漏水</td> <td>(漏水を通知し取り)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>放射線計測の必要</td> <td>(放射線計測からの影響により機能を失うおそれがない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>(放射線計測により機能を失うおそれがない)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作性</td> <td>中央制御室操作</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 2 号表</td> <td>保護・警報 (警報音、警報表示、警報入力)</td> <td>非常警報設備</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放射線計測</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 3 号表</td> <td>可搬型 A の設置</td> <td>その他の設備</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 4 号表</td> <td>放射線計測</td> <td>(放射線計測の誤りなく取り扱える) (機内を確保)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">第 5 号表</td> <td>アークアウト</td> <td>(アークアウト)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>保護資料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	項目	設備構成	設備仕様	適合性	第 1 号表	温度測定・湿度・圧力・放射線計測	その他の機器内	C	音響	(音響に機能を提供する)	—	漏水	(漏水を通知し取り)	対象外	放射線計測の必要	(放射線計測からの影響により機能を失うおそれがない)	—	放射線計測	(放射線計測により機能を失うおそれがない)	—	放射線計測	—	—	操作性	中央制御室操作	A	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 2 号表	保護・警報 (警報音、警報表示、警報入力)	非常警報設備	A	保護資料	—	—	放射線計測	—	—	放射線計測	—	—	放射線計測	—	—	放射線計測	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 3 号表	可搬型 A の設置	その他の設備	C	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 4 号表	放射線計測	(放射線計測の誤りなく取り扱える) (機内を確保)	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	第 5 号表	アークアウト	(アークアウト)	対象外	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	保護資料	—	—	<p>差異理由</p>
	項目	設備構成	設備仕様	適合性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
第 1 号表	温度測定・湿度・圧力・放射線計測	その他の機器内	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	音響	(音響に機能を提供する)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	漏水	(漏水を通知し取り)	対象外																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測の必要	(放射線計測からの影響により機能を失うおそれがない)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	(放射線計測により機能を失うおそれがない)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	操作性	中央制御室操作	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 2 号表	保護・警報 (警報音、警報表示、警報入力)	非常警報設備	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 3 号表	可搬型 A の設置	その他の設備	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 4 号表	放射線計測	(放射線計測の誤りなく取り扱える) (機内を確保)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 5 号表	アークアウト	(アークアウト)	対象外																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
項目	設備構成	設備仕様	適合性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 1 号表	温度測定・湿度・圧力・放射線計測	その他の機器内	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	音響	(音響に機能を提供する)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	漏水	(漏水を通知し取り)	対象外																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測の必要	(放射線計測からの影響により機能を失うおそれがない)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	(放射線計測により機能を失うおそれがない)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	操作性	中央制御室操作	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 2 号表	保護・警報 (警報音、警報表示、警報入力)	非常警報設備	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 3 号表	可搬型 A の設置	その他の設備	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 4 号表	放射線計測	(放射線計測の誤りなく取り扱える) (機内を確保)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 5 号表	アークアウト	(アークアウト)	対象外																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
項目	設備構成	設備仕様	適合性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 1 号表	温度測定・湿度・圧力・放射線計測	その他の機器内	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	音響	(音響に機能を提供する)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	漏水	(漏水を通知し取り)	対象外																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測の必要	(放射線計測からの影響により機能を失うおそれがない)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	(放射線計測により機能を失うおそれがない)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	操作性	中央制御室操作	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 2 号表	保護・警報 (警報音、警報表示、警報入力)	非常警報設備	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	放射線計測	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 3 号表	可搬型 A の設置	その他の設備	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 4 号表	放射線計測	(放射線計測の誤りなく取り扱える) (機内を確保)	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 5 号表	アークアウト	(アークアウト)	対象外																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保護資料	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																																																																																																																																																												
	<p style="text-align: center;">女川原子力発電所 2 号炉 SA 設備基準適合性一覧表 (可搬型)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目名</th> <th>運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</th> <th>二酸化炭素濃度計</th> <th>監視状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組監視・操作・仕立 / 屋外の天候・放射線</td> <td>その他の機組内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組</td> <td>(機組は機組を監視する)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組</td> <td>(機組を監視しない)</td> <td>監視外</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組監視の形態</td> <td>(国の機関等からの通報等)により機組を立ち上げを行う</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組の構造</td> <td>(機組により機組が異なる)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>中央制御室操作</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組・機組 (機組性、放射線検出・放射線計)</td> <td>計測機器設置</td> <td>K</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	項目名		運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	二酸化炭素濃度計	監視状況	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組監視・操作・仕立 / 屋外の天候・放射線	その他の機組内	C	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組	(機組は機組を監視する)	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組	(機組を監視しない)	監視外	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組監視の形態	(国の機関等からの通報等)により機組を立ち上げを行う	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組の構造	(機組により機組が異なる)	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	中央制御室操作	A	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組・機組 (機組性、放射線検出・放射線計)	計測機器設置	K	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	<p style="text-align: center;">泊発電所 3 号炉 SA 設備基準適合性 一覧表 (可搬)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目名</th> <th>運転員が原子炉制御室にとどまるための設備</th> <th>二酸化炭素濃度計</th> <th>監視状況</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組監視・操作・仕立 / 屋外の天候・放射線</td> <td>その他の機組内</td> <td>C</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組</td> <td>(機組は機組を監視する)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組</td> <td>(機組を監視しない)</td> <td>監視外</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組監視の形態</td> <td>(国の機関等からの通報等)により機組を立ち上げを行う</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組の構造</td> <td>(機組により機組が異なる)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>中央制御室操作</td> <td>A</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組・機組 (機組性、放射線検出・放射線計)</td> <td>計測機器設置</td> <td>K</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機 組 機 組 機 組 機 組 機 組</td> <td>機組材料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	項目名		運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	二酸化炭素濃度計	監視状況	備考	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組監視・操作・仕立 / 屋外の天候・放射線	その他の機組内	C	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組	(機組は機組を監視する)	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組	(機組を監視しない)	監視外	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組監視の形態	(国の機関等からの通報等)により機組を立ち上げを行う	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組の構造	(機組により機組が異なる)	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	中央制御室操作	A	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組・機組 (機組性、放射線検出・放射線計)	計測機器設置	K	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—	<p>【再掲】</p>
項目名		運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	二酸化炭素濃度計	監視状況																																																																																																																																																																																																																																											
機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組監視・操作・仕立 / 屋外の天候・放射線	その他の機組内	C																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組	(機組は機組を監視する)	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組	(機組を監視しない)	監視外																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組監視の形態	(国の機関等からの通報等)により機組を立ち上げを行う	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組の構造	(機組により機組が異なる)	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	中央制御室操作	A																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組・機組 (機組性、放射線検出・放射線計)	計測機器設置	K																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—																																																																																																																																																																																																																																											
項目名		運転員が原子炉制御室にとどまるための設備	二酸化炭素濃度計	監視状況	備考																																																																																																																																																																																																																																										
機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組監視・操作・仕立 / 屋外の天候・放射線	その他の機組内	C	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組	(機組は機組を監視する)	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組	(機組を監視しない)	監視外	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組監視の形態	(国の機関等からの通報等)により機組を立ち上げを行う	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組の構造	(機組により機組が異なる)	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	中央制御室操作	A	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組・機組 (機組性、放射線検出・放射線計)	計測機器設置	K	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										
	機 組 機 組 機 組 機 組 機 組	機組材料	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																																																																																																																																																																																														
	<p align="center">女川原子力発電所2号炉 SA設備基準適合性一覧表（可推型）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>適用規格 (注)</th> <th>適合状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機室温度・湿度・圧力 / 気体の分析 / 放射線</td> <td>原子炉の機室内</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>耐火</td> <td>(耐火に構造も参照下さい)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>防水</td> <td>(防水を確保下さい)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>放射線からの影響</td> <td>(放射線遮蔽材の設置)より機室を充分放射線が及びない</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>電線の経路</td> <td>(電線束により機室を充分放射線が及びない)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機室の構造・設備</td> <td>図-5 配線図</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験・検査 (構造材、基礎構造、作業人力)</td> <td>その構造設備</td> <td>J</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理</td> <td>本来の使用として使用・制御不能</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防火・防音設計</td> <td>機室の中心構造</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>防火・防音</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線遮蔽</td> <td>中心放射線遮蔽</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>可燃物の取扱い</td> <td>その構造設備</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>可燃物の取扱い</td> <td>より機室を保護</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高圧電圧の取扱い</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線遮蔽</td> <td>(放射線遮蔽の高さをおおむね1m程度を確保)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護装置</td> <td>屋内 (未確認時の考慮対象外)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防水・防音</td> <td>(防水・防音)</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線遮蔽</td> <td>禁止でも認められない設備 (放射線遮蔽設備有り)</td> <td>H</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線遮蔽</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設備名	適用規格 (注)	適合状況	機室温度・湿度・圧力 / 気体の分析 / 放射線	原子炉の機室内	C	耐火	(耐火に構造も参照下さい)	-	防水	(防水を確保下さい)	対象外	放射線からの影響	(放射線遮蔽材の設置)より機室を充分放射線が及びない	-	電線の経路	(電線束により機室を充分放射線が及びない)	-	配線資料	図-5 配線図		機室の構造・設備	図-5 配線図	B	配線資料	図-5 配線図		試験・検査 (構造材、基礎構造、作業人力)	その構造設備	J	配線資料	図-5 配線図		維持管理	本来の使用として使用・制御不能	B	配線資料	-		防火・防音設計	機室の中心構造	A	防火・防音	対象外	対象外	配線資料	-		放射線遮蔽	中心放射線遮蔽	B	配線資料	図-5 配線図		可燃物の取扱い	その構造設備	C	配線資料	-		可燃物の取扱い	より機室を保護	C	配線資料	-		高圧電圧の取扱い	対象外	対象外	配線資料	-		放射線遮蔽	(放射線遮蔽の高さをおおむね1m程度を確保)	-	配線資料	図-5 配線図		保護装置	屋内 (未確認時の考慮対象外)	A	配線資料	図-5 配線図		防水・防音	(防水・防音)	対象外	配線資料	-		放射線遮蔽	禁止でも認められない設備 (放射線遮蔽設備有り)	H	配線資料	-		放射線遮蔽	対象外	対象外	配線資料	-		<p align="center">泊発電所3号炉 SA設備基準適合性 一覧表(可推)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>適用規格 (注)</th> <th>適合状況</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機室温度・湿度・圧力 / 気体の分析 / 放射線</td> <td>原子炉の機室内 (放射線遮蔽材の設置)より機室を充分放射線が及びない</td> <td>B</td> <td>【放射線遮蔽材の設置】より機室を充分放射線が及びない</td> </tr> <tr> <td>耐火</td> <td>(耐火に構造も参照下さい)</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防水</td> <td>(防水を確保下さい)</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線からの影響</td> <td>(放射線遮蔽材の設置)より機室を充分放射線が及びない</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電線の経路</td> <td>(電線束により機室を充分放射線が及びない)</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機室の構造・設備</td> <td>図-5 配線図</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験・検査 (構造材、基礎構造、作業人力)</td> <td>その構造設備</td> <td>J</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理</td> <td>本来の使用として使用・制御不能</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防火・防音設計</td> <td>機室の中心構造</td> <td>A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防火・防音</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線遮蔽</td> <td>中心放射線遮蔽</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>可燃物の取扱い</td> <td>その構造設備</td> <td>C</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>可燃物の取扱い</td> <td>より機室を保護</td> <td>C</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高圧電圧の取扱い</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線遮蔽</td> <td>(放射線遮蔽の高さをおおむね1m程度を確保)</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護装置</td> <td>屋内 (未確認時の考慮対象外)</td> <td>A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>図-5 配線図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防水・防音</td> <td>(防水・防音)</td> <td>対象外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線遮蔽</td> <td>禁止でも認められない設備 (放射線遮蔽設備有り)</td> <td>H</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線遮蔽</td> <td>対象外</td> <td>対象外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配線資料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設備名	適用規格 (注)	適合状況	備考	機室温度・湿度・圧力 / 気体の分析 / 放射線	原子炉の機室内 (放射線遮蔽材の設置)より機室を充分放射線が及びない	B	【放射線遮蔽材の設置】より機室を充分放射線が及びない	耐火	(耐火に構造も参照下さい)	-		防水	(防水を確保下さい)	-		放射線からの影響	(放射線遮蔽材の設置)より機室を充分放射線が及びない	-		電線の経路	(電線束により機室を充分放射線が及びない)	-		配線資料	図-5 配線図			機室の構造・設備	図-5 配線図	B		配線資料	図-5 配線図			試験・検査 (構造材、基礎構造、作業人力)	その構造設備	J		配線資料	図-5 配線図			維持管理	本来の使用として使用・制御不能	B		配線資料	-			防火・防音設計	機室の中心構造	A		防火・防音	対象外	対象外		配線資料	-			放射線遮蔽	中心放射線遮蔽	B		配線資料	図-5 配線図			可燃物の取扱い	その構造設備	C		配線資料	-			可燃物の取扱い	より機室を保護	C		配線資料	-			高圧電圧の取扱い	対象外	対象外		配線資料	-			放射線遮蔽	(放射線遮蔽の高さをおおむね1m程度を確保)	-		配線資料	図-5 配線図			保護装置	屋内 (未確認時の考慮対象外)	A		配線資料	図-5 配線図			防水・防音	(防水・防音)	対象外		配線資料	-			放射線遮蔽	禁止でも認められない設備 (放射線遮蔽設備有り)	H		配線資料	-			放射線遮蔽	対象外	対象外		配線資料	-			
設備名	適用規格 (注)	適合状況																																																																																																																																																																																																																																															
機室温度・湿度・圧力 / 気体の分析 / 放射線	原子炉の機室内	C																																																																																																																																																																																																																																															
耐火	(耐火に構造も参照下さい)	-																																																																																																																																																																																																																																															
防水	(防水を確保下さい)	対象外																																																																																																																																																																																																																																															
放射線からの影響	(放射線遮蔽材の設置)より機室を充分放射線が及びない	-																																																																																																																																																																																																																																															
電線の経路	(電線束により機室を充分放射線が及びない)	-																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
機室の構造・設備	図-5 配線図	B																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
試験・検査 (構造材、基礎構造、作業人力)	その構造設備	J																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
維持管理	本来の使用として使用・制御不能	B																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
防火・防音設計	機室の中心構造	A																																																																																																																																																																																																																																															
防火・防音	対象外	対象外																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
放射線遮蔽	中心放射線遮蔽	B																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
可燃物の取扱い	その構造設備	C																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
可燃物の取扱い	より機室を保護	C																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
高圧電圧の取扱い	対象外	対象外																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
放射線遮蔽	(放射線遮蔽の高さをおおむね1m程度を確保)	-																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
保護装置	屋内 (未確認時の考慮対象外)	A																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
防水・防音	(防水・防音)	対象外																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
放射線遮蔽	禁止でも認められない設備 (放射線遮蔽設備有り)	H																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
放射線遮蔽	対象外	対象外																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
設備名	適用規格 (注)	適合状況	備考																																																																																																																																																																																																																																														
機室温度・湿度・圧力 / 気体の分析 / 放射線	原子炉の機室内 (放射線遮蔽材の設置)より機室を充分放射線が及びない	B	【放射線遮蔽材の設置】より機室を充分放射線が及びない																																																																																																																																																																																																																																														
耐火	(耐火に構造も参照下さい)	-																																																																																																																																																																																																																																															
防水	(防水を確保下さい)	-																																																																																																																																																																																																																																															
放射線からの影響	(放射線遮蔽材の設置)より機室を充分放射線が及びない	-																																																																																																																																																																																																																																															
電線の経路	(電線束により機室を充分放射線が及びない)	-																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
機室の構造・設備	図-5 配線図	B																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
試験・検査 (構造材、基礎構造、作業人力)	その構造設備	J																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
維持管理	本来の使用として使用・制御不能	B																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
防火・防音設計	機室の中心構造	A																																																																																																																																																																																																																																															
防火・防音	対象外	対象外																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
放射線遮蔽	中心放射線遮蔽	B																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
可燃物の取扱い	その構造設備	C																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
可燃物の取扱い	より機室を保護	C																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
高圧電圧の取扱い	対象外	対象外																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
放射線遮蔽	(放射線遮蔽の高さをおおむね1m程度を確保)	-																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
保護装置	屋内 (未確認時の考慮対象外)	A																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	図-5 配線図																																																																																																																																																																																																																																																
防水・防音	(防水・防音)	対象外																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
放射線遮蔽	禁止でも認められない設備 (放射線遮蔽設備有り)	H																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																
放射線遮蔽	対象外	対象外																																																																																																																																																																																																																																															
配線資料	-																																																																																																																																																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																	
		<p style="text-align: center;">泊発電所 3 号炉 S A 設備基準適合性 一覧表 (可読)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">項目</th> <th style="width: 70%;">設備名</th> <th style="width: 10%;">規格</th> <th style="width: 15%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">設備</td> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置、炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">設備</td> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">設備</td> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> <tr> <td>【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> <td>炉内監視装置 (炉内監視装置)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	設備名	規格	備考	設備	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置、炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	設備	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	設備	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	<p>②の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PWR においては、アンユラス空気浄化ファンにより、原子炉格納容器からアンユラス部へ漏えいする放射性物質等を含む空気を吸入し、アンユラス空気浄化フィルタユニットを介して放射性物質を低減させた後、排気筒から排出することで放射性物質の濃度を低減する設計を採用している。</li> <li>・また、全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合にはアンユラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンプを用いて排気弁を開操作する。</li> </ul>
項目	設備名	規格	備考																																																																																																	
設備	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置、炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
設備	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
設備	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	
	【設備】 炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)	炉内監視装置 (炉内監視装置)																																																																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉

大飯3、4号炉  
SA設備基準適合性一覧表の記号説明

■設置許可基準規則 第43条 第1項 第1号  
重大事故等時の環境条件における健全性について

①炉水を過水する系統については、I：通常時に炉水を過水する系統、II：放水又は海水から選択できる系統、III：炉水を過水しない系統で分類する。

■設置許可基準規則 第44条 第1項 第2号  
操作の健全性について

※：設備ごとに対応の組み合わせが異なるため、その対応を設備ごとに記載する。  
 (例：A③、A②、A①等)

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

差異理由

泊3号炉  
SA設備基準適合性一覧表の記号説明

■設置許可基準規則 第43条 第1項 第1号  
重大事故等時の環境条件における健全性について

■設置許可基準規則 第43条 第1項 第2号  
操作の健全性について

【女川】大飯審査実績の反映



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>■設置許可基準規則 第43条 第1項 第3号 試験又は検査性について</p> <p>■設置許可基準規則 第45条 第1項 第4号 切り替え性について</p> <p>■設置許可基準規則 第45条 第1項 第5号 重大事故等対策設備の悪影響防止について</p> <p>※：Aについては、Aと考慮事項の番号を記載する。（例：A①、A②等）</p>		<p>■設置許可基準規則 第43条 第1項 第3号 試験又は検査性について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第1項 第4号 切り替え性について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第1項 第5号 重大事故等対策設備の悪影響防止について</p>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由								
<p>■設置許可基準規則 第43条 第1項 第6号 設置場所について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第2項 第1号 常設重大事故等対応設備の容量等について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第2項 第2号 発電用原子炉施設での共用の禁止について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第2項 第3号 常設重大事故防止設備の共通要因排除防止について</p> <p>※：記号の記載については、考慮事項の番号=a又はbを記載する。（例：①a、①b、②a、②b）</p>		<p>■設置許可基準規則 第43条 第1項 第6号 設置場所について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第2項 第1号 常設重大事故等対応設備の容量等について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第2項 第2号 発電用原子炉施設での共用の禁止について</p> <table border="1" data-bbox="1272 702 1809 790"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>設計方針</th> <th>関連資料</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>2以上の発電用原子炉施設において共用しない設計とする。</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>■設置許可基準規則 第43条 第2項 第3号 常設重大事故防止設備の共通要因排除について</p>	区分	設計方針	関連資料	備考	-	2以上の発電用原子炉施設において共用しない設計とする。	-		<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>
区分	設計方針	関連資料	備考								
-	2以上の発電用原子炉施設において共用しない設計とする。	-									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第1号 可観型重大事故等対応設備の容量等について</p> <p>必要数量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【考慮事項】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>① 原子炉補助建屋の外から水又は電力を供給する設備かどうか</li> <li>② 長所に直接接続する可観型式電流計盤、可観型パネル、可観型ポンプかどうか</li> </ul> </li> <li>原子炉補助建屋の外から水又は電力を供給する可観型設備 — A</li> <li>長所に直接接続する可観型式電流計盤、可観型パネル等 — B</li> <li>①、②以外 — C</li> </ul> <p>半観型数の増え方</p> <p>半観型数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【考慮事項】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>① プラント定機中等可観型重大事故等対応設備の機能を要求されない時期に保守点検を実施するかどうか</li> <li>② 保守点検中でも使用可能（外観目視、音響・振動、メータチェック、機能確認、一式取替（交換済みの設備との取替含む）の際に、事前に取替品を準備してから保守点検するかどうか等）であるかどうか</li> </ul> </li> <li>プラント定機中等可観型重大事故等対応設備の機能を要求されない時期に保守点検を実施する設備 — A</li> <li>保守点検中でも使用可能（外観目視、音響・振動、メータチェック、機能確認、一式取替（交換済みの設備との取替含む）の際に事前に取替品を準備してから保守点検するかどうか等）である設備 — B</li> <li>①、②以外 — C</li> </ul> <p>■設置許可基準規則 第45条 第3項 第2号 可観型重大事故等対応設備の常設設備との接続性について</p> <p>接続設備と接続するものに係る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【考慮事項】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>① 容量かつ種別を接続</li> <li>② 接続部の規格の統一</li> </ul> </li> <li>ケーブル                     <ul style="list-style-type: none"> <li>コネクタ接続 — A</li> <li>より簡便な接続規格等による接続 — C</li> </ul> </li> <li>配管                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ボルト締フランジ接続 — B</li> <li>より簡便な接続規格等による接続 — C</li> <li>その他の構造 — D</li> <li>接続なし — E</li> </ul> </li> </ul> <p>■設置許可基準規則 第45条 第3項 第3号 異なる複数の接続箇所の確保について</p> <p>接続箇所（建屋外から供給するものに係る）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【考慮事項】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 放射線による影響因子</li> <li>- 洪水、火災</li> <li>- 自然現象</li> <li>- 外部人為事象</li> </ul> </li> <li>水・電力 — 屋内（壁面含む） — A</li> <li>屋内及び屋外 — B</li> <li>その他（空気） — C</li> <li>接続箇所なし — D</li> </ul>		<p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第1号 可観型重大事故等対応設備の容量等について</p> <p>必要数量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【考慮事項】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>① 原子炉建屋又は原子炉補助建屋の外から水又は電力を供給する設備かどうか</li> <li>② 長所に直接接続する可観型パネル及び可観型ポンプ等かどうか</li> <li>③ ①、②以外</li> </ul> </li> <li>原子炉建屋又は原子炉補助建屋の外から水又は電力を供給する可観型設備 — A</li> <li>長所に直接接続する可観型パネル及び可観型ポンプ等 — B</li> <li>①、②以外 — C</li> </ul> <p>半観型数もあわせて検討方針とする。</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第2号 可観型重大事故等対応設備の常設設備との接続性について</p> <p>接続設備と接続するものに係る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【考慮事項】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>① 容量かつ種別を接続</li> <li>② 接続部の規格の統一</li> </ul> </li> <li>ケーブル                     <ul style="list-style-type: none"> <li>両子のサルト・ネジによる接続 — A</li> <li>専用の接続方法による接続 — D</li> </ul> </li> <li>水・空気配管                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ボルト締フランジ接続 — B</li> <li>より簡便な接続規格等による接続 — C</li> </ul> </li> <li>油配管、計装用配管                     <ul style="list-style-type: none"> <li>専用の接続方法による接続 — D</li> </ul> </li> </ul> <p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第3号 異なる複数の接続箇所の確保について</p> <p>接続箇所（建屋外から供給するものに係る）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【考慮事項】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 放射線</li> <li>- 洪水、火災</li> <li>- 自然現象</li> <li>- 外部人為事象</li> </ul> </li> <li>水・電力 — 屋内（壁面含む） — A</li> <li>その他（空気） — 対象外</li> </ul>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第4号 可搬型重大事故等対応設備の設置場所について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第5号 保管場所について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第6号 アクセスルートについて</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第7号 重大事故防止設備のうち可能型のもの共通要因設備について</p> <p>※：記号の記載については、考慮事項の番号+a又はbを記載する。(例：①a、①b、②a、②b)</p>		<p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第4号 可搬型重大事故等対応設備の設置場所について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第5号 保管場所について</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第6号 アクセスルートについて</p> <p>■設置許可基準規則 第43条 第3項 第7号 重大事故防止設備のうち可能型のもの共通要因設備について</p>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>59-2 配置図</p> <p>3号炉</p>	<p>59-3 配置図</p>	<p>59-2 配置図</p> <div data-bbox="1541 965 1814 1053" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>凡例</p> <p><span style="border: 1px solid blue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 設計基準対象施設</p> <p><span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 重大事故等対処設備</p> </div>	<p>【大飯】記載順序の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配置図については比較のため、大飯の掲載順を女川に合わせて再構成している。</li> </ul> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大飯は3号炉と4号炉を区別して記載している。</li> </ul> <p>【女川・大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は凡例を記載。</li> </ul>

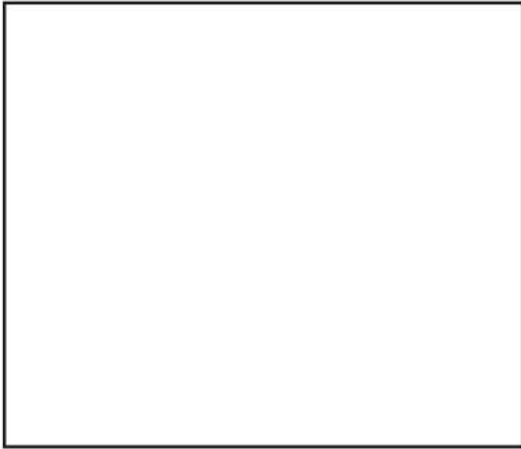
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

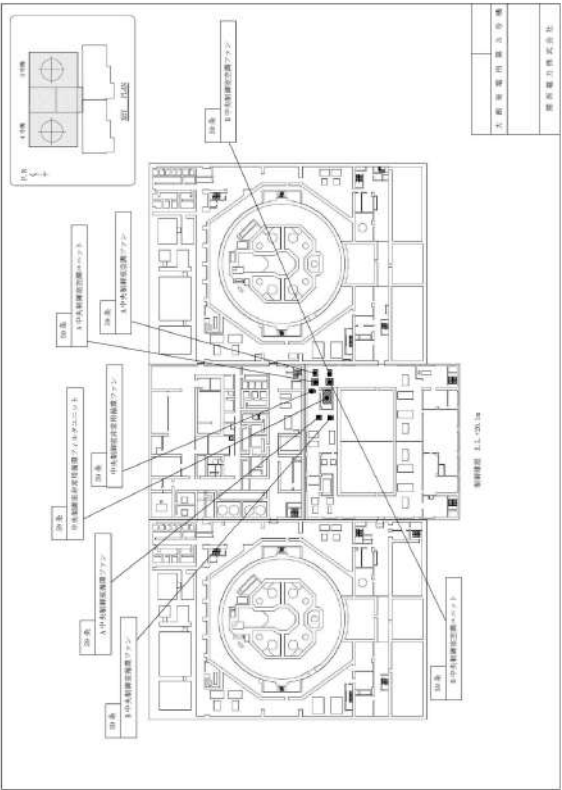
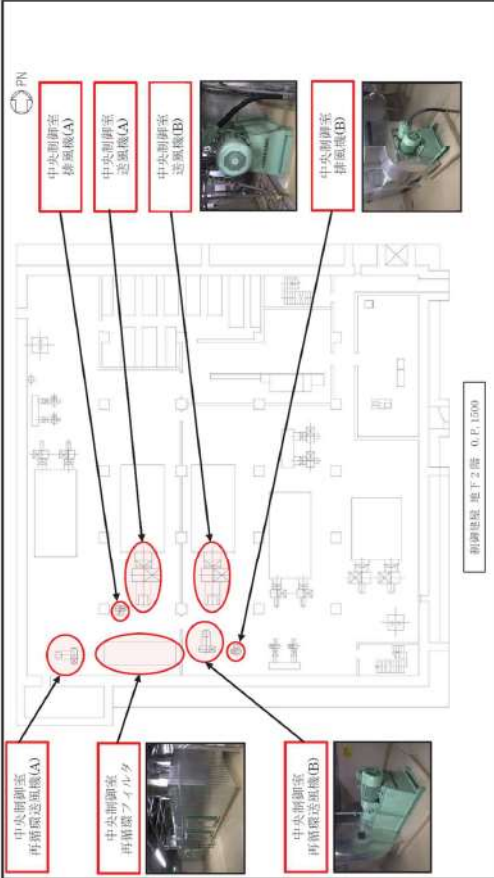
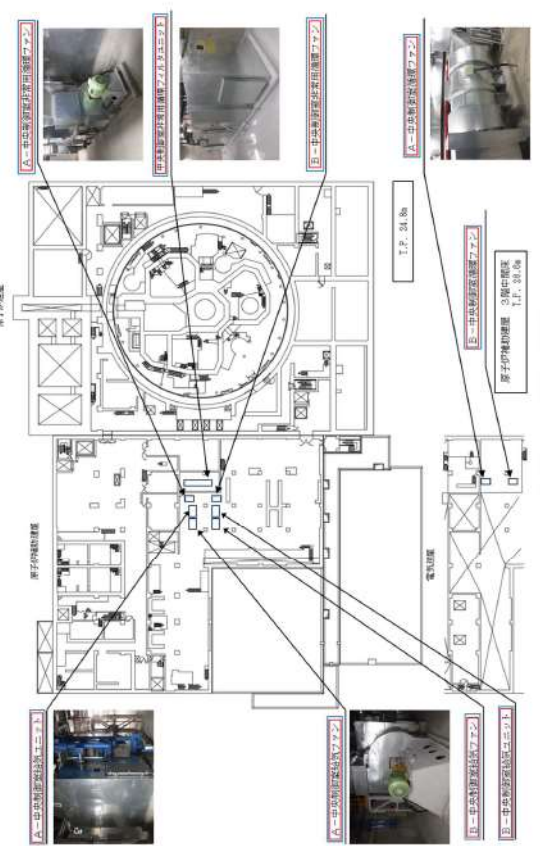
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>【大飯欄はp59-2-5を掲載】</p>			<p>差異理由</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

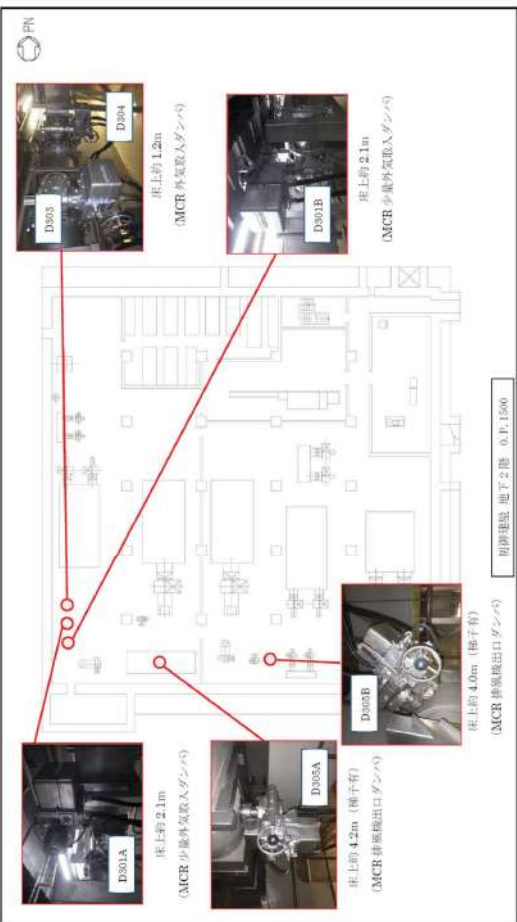
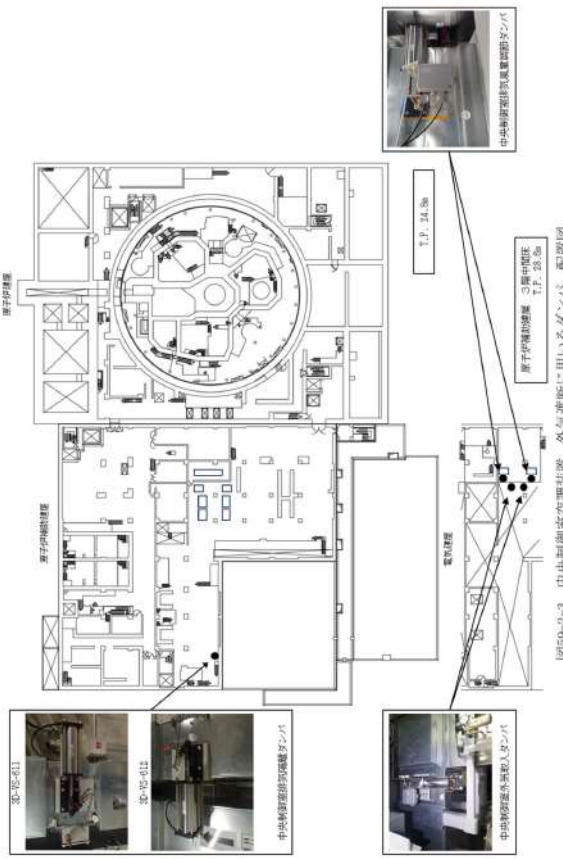
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p data-bbox="750 710 1108 758">図 59-3-2 中央制御室待避所正圧化バウンダリ 配置図 (制御建屋地上3階)</p> <div data-bbox="916 772 1229 799" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="920 778 1225 799">特開みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<p data-bbox="1839 231 1915 252">①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
<p>【大飯欄は p59-2-6 を掲載】</p> 	 <p>図 59-3-3 中央制御室換気空調系設備 配置図 (制御建屋地下 2 階)</p>	 <p>図 59-2-2 中央制御室空調装置 配置図</p>	

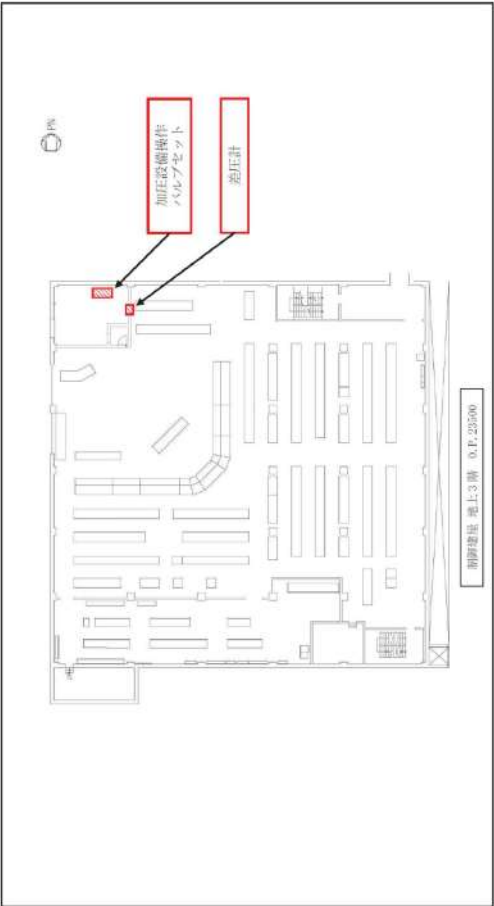


赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	 <p>図 59-3-4 中央制御室燃気空調系結気及び排気隔離ダンパ配置図          (制御建屋地下 2 階)</p>	 <p>図 59-2-3 中央制御室空調系設置 外気遮断に用いるダンパ配置図</p>	

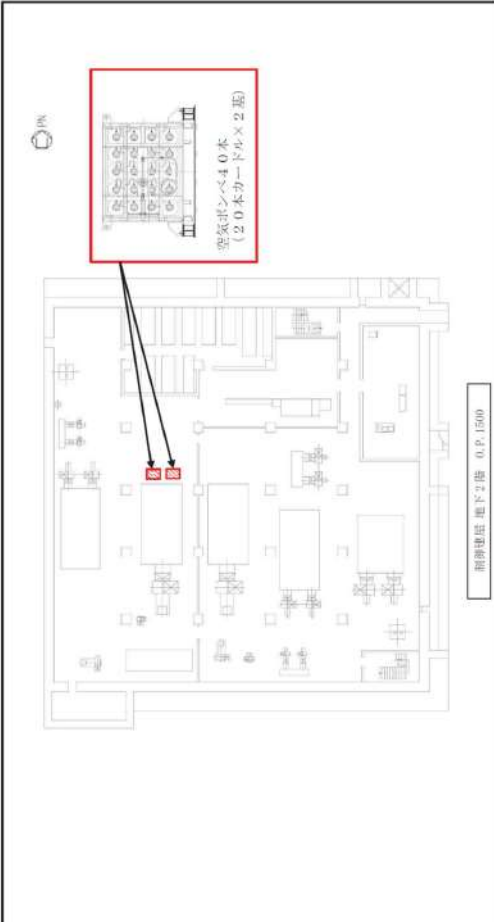
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p>図 59-3-5 中央制御室待機所加圧設備 配置図 (その1)              (制御室地上3階)</p>		<p>①の相違</p>

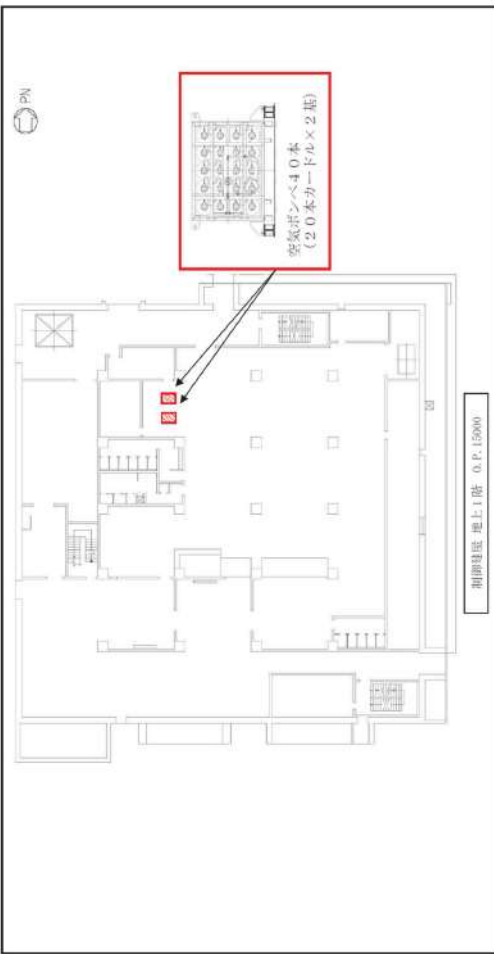
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p>図 59-3-6 中央制御室待機所加圧設備 配置図 (その2)              (制御室地下2階)</p>		<p>①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

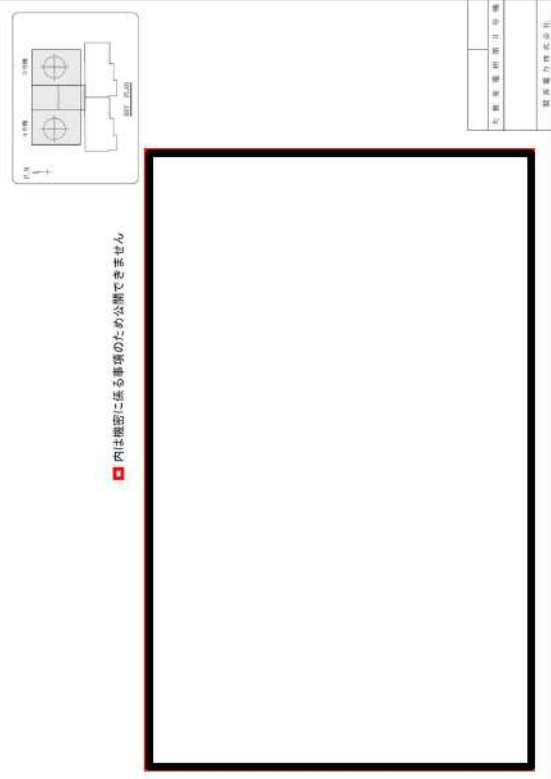
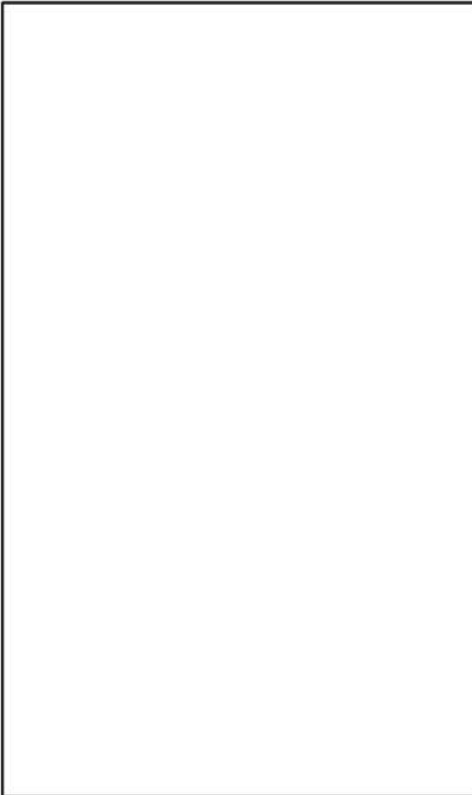
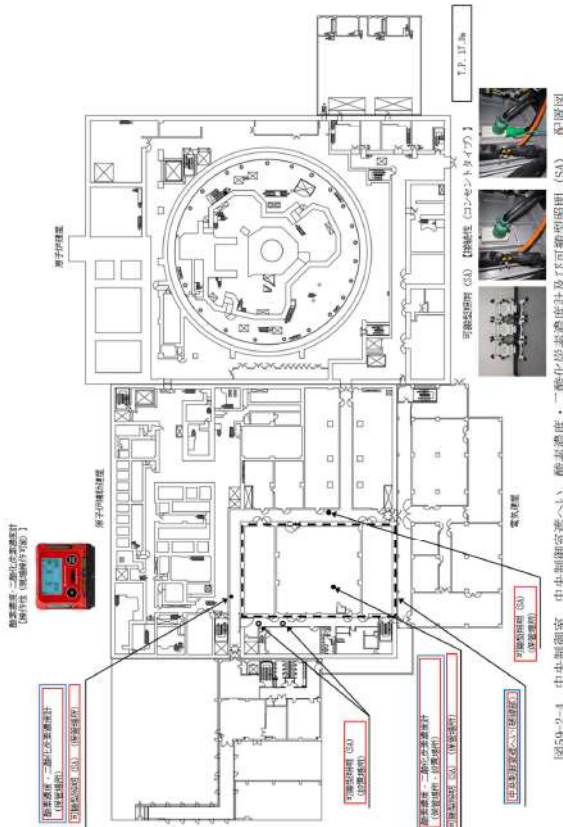
第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p>図 59-9-7 中央制御室待機所加圧設備 配置図（その3）              （制御室屋上1階）</p> <p>制御室屋上1階 0.P.15000</p> <p>空気ポンプ×40本              （20本カーブドル×2基）</p>		<p>①の相違</p>



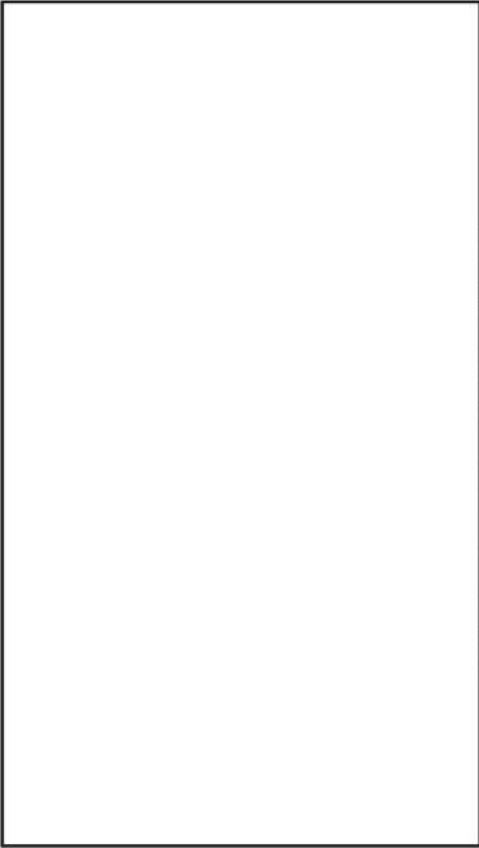
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

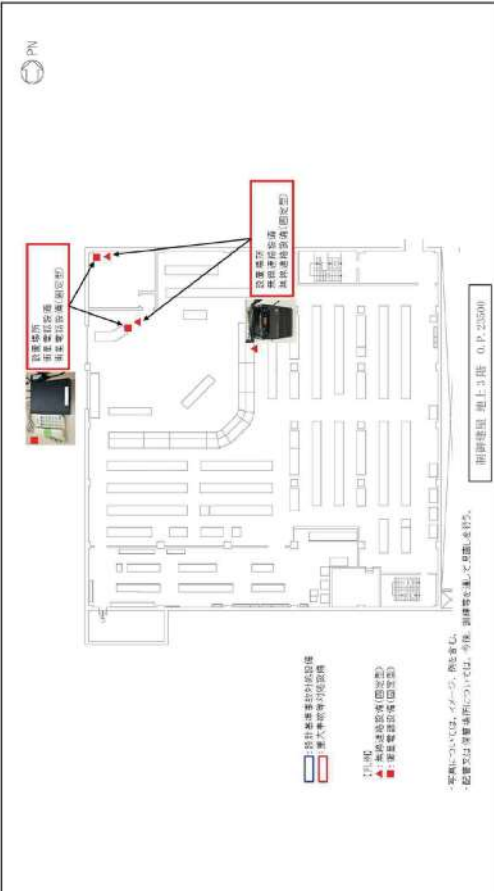
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>【大飯欄はp59-2-4を掲載】</p>  <p>内は概略に依る事項のため公開できません</p>	 <p>内容の相違は図面上の観点から公開できません。</p> <p>図59-3-8 中央制御室遮蔽及び中央制御室待避所遮蔽 配置図（その1）</p>	 <p>図59-2-4 中央制御室 中央制御室遮へい、二酸化炭素濃度遮へい、酸素濃度・二酸化炭素濃度計及びび可搬型照明 (SA) 配置図</p>	<p>【女川・大飯】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は複数設備をまとめて記載している。</li> </ul> <p>①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

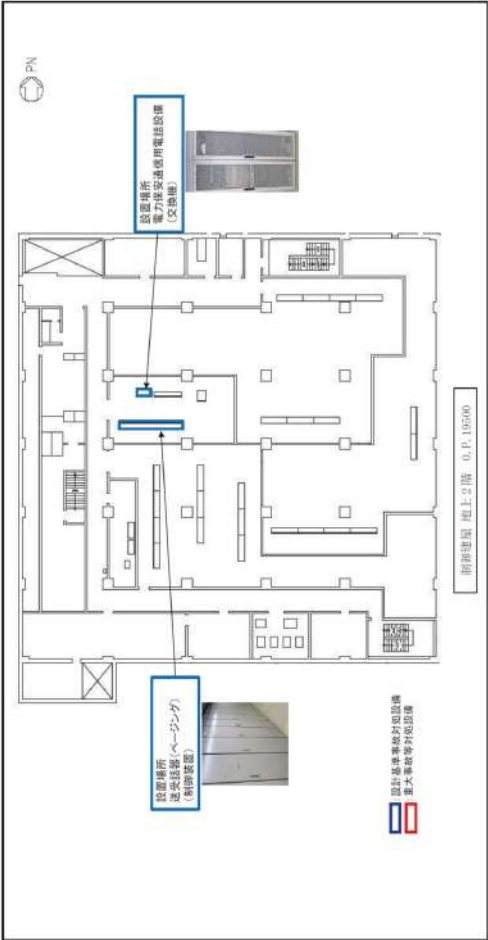
第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; top: 50%; transform: translateY(-50%); font-size: small;">中身の内容は商業機密の観点から公開できません。</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; top: 20%; font-size: small;">図 54-3-9 中央制御室遮蔽及び中央制御室作動所遮蔽 配図図（その2）</p>		<p style="color: red;">①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p>図 59-3-10 無線連絡設備 (固定型) 及び無線電話設備 (固定型) 配置図      (制御建屋地上3階)</p>		<p>①の相違</p>

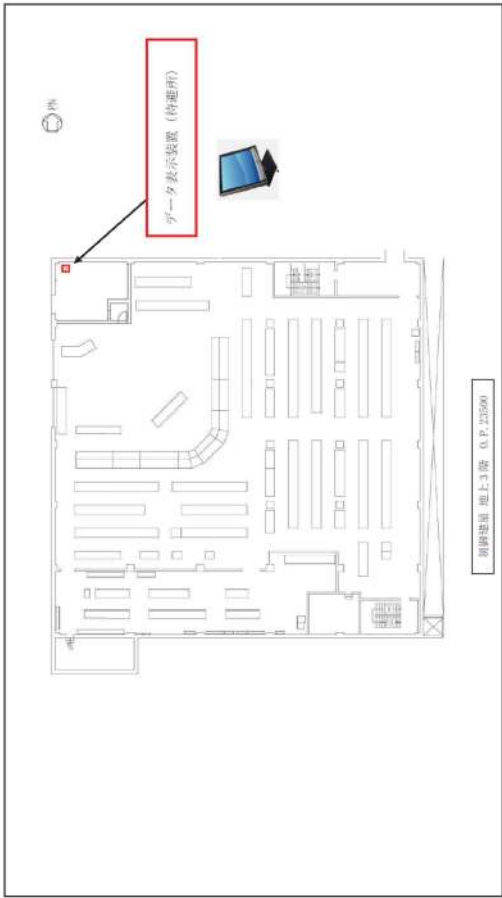
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	 <p>図 59-9-11 送受話器 (ページング) 及び電力停安通信用電話設備 (交換機) 配置図              (制御室地上 2 階)</p>		<p>①の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

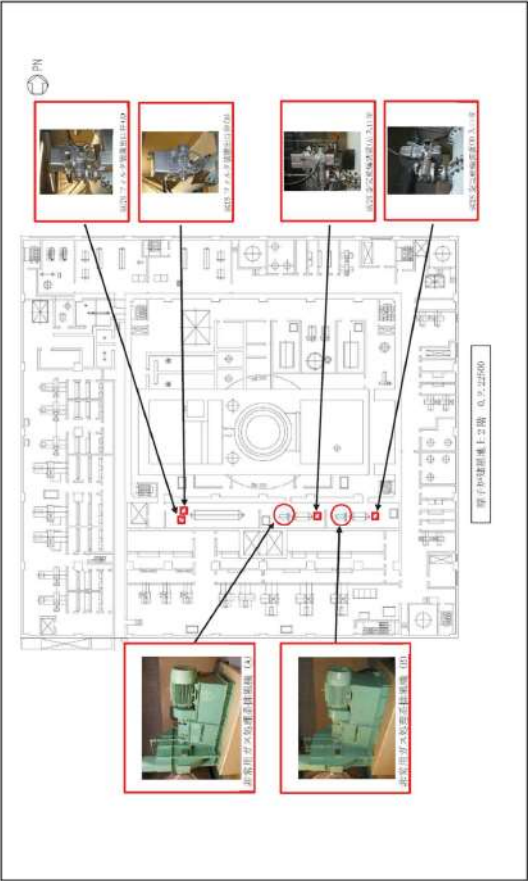
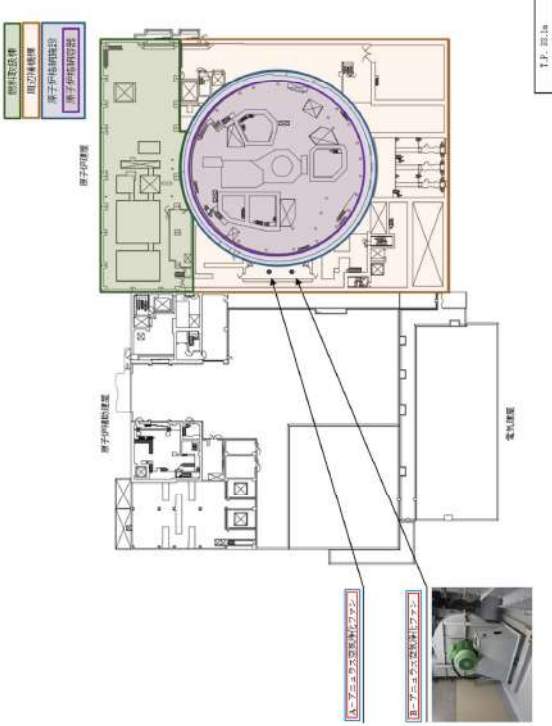
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p data-bbox="1137 624 1160 815">制御室 地上3階 O.P.23500</p> <p data-bbox="1193 523 1238 858">図 59-3-12 データ表示装置（待避所）配置図 （制御建屋地上3階）</p>		<p data-bbox="1839 231 1910 252">①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

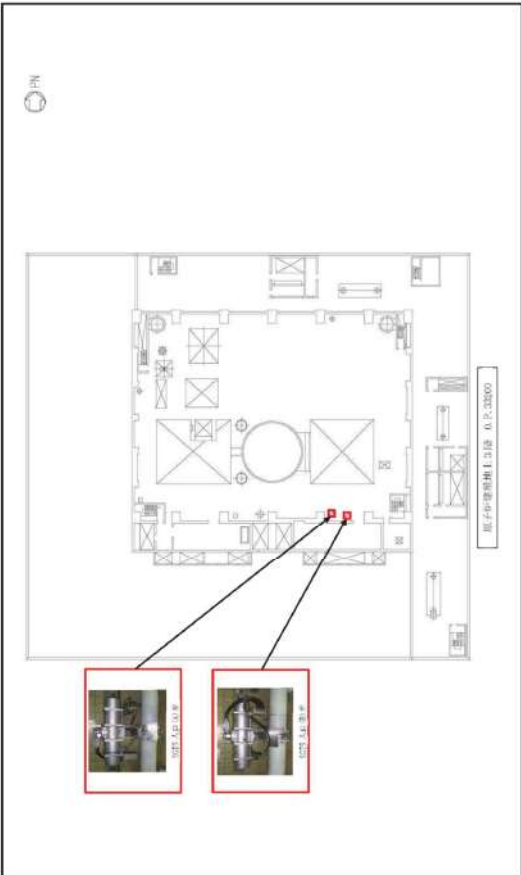
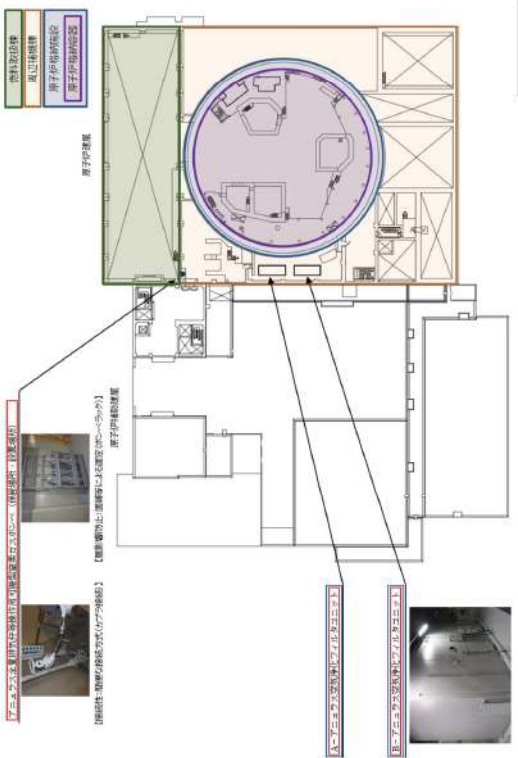
第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>【大飯欄はp59-2-3を掲載】</p> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▲：酸蒸濃度計</li> <li>■：二酸化炭素濃度計</li> <li>▲：酸蒸濃度計（予備）</li> <li>■：二酸化炭素濃度計（予備）</li> <li>■：酸蒸濃度計及び二酸化炭素濃度計の使用箇所</li> </ul> <p>制御室 地上3階 O.P.23300</p>	<p>【二酸化炭素濃度計】</p> <p>【酸蒸濃度計】</p> <p>図59-3-13 酸蒸濃度計及び二酸化炭素濃度計 配置図          （附側建屋地上3階）</p>	<p>【再掲】</p> <p>図59-2-4 中央制御室 中央制御室窓へ、酸蒸濃度・二酸化炭素濃度計及び可搬型照明(SA) 配置図</p>	<p>【女川】記載箇所の相違          ・泊は複数設備をまとめて記載しているため、再掲して比較。</p>

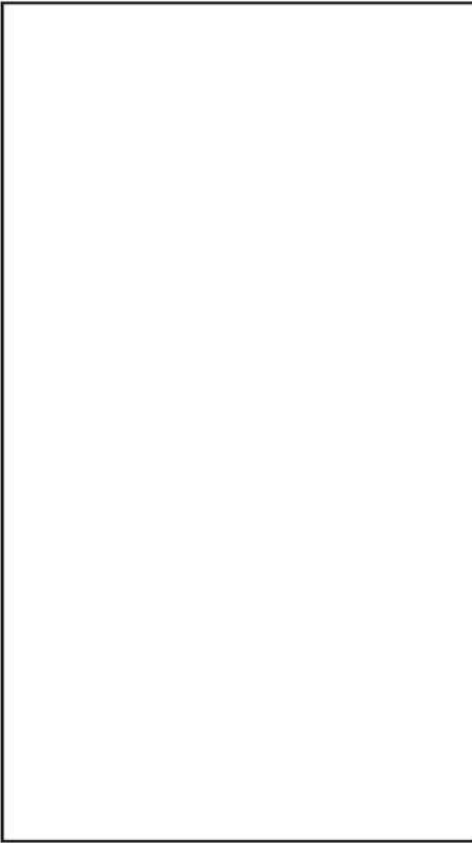
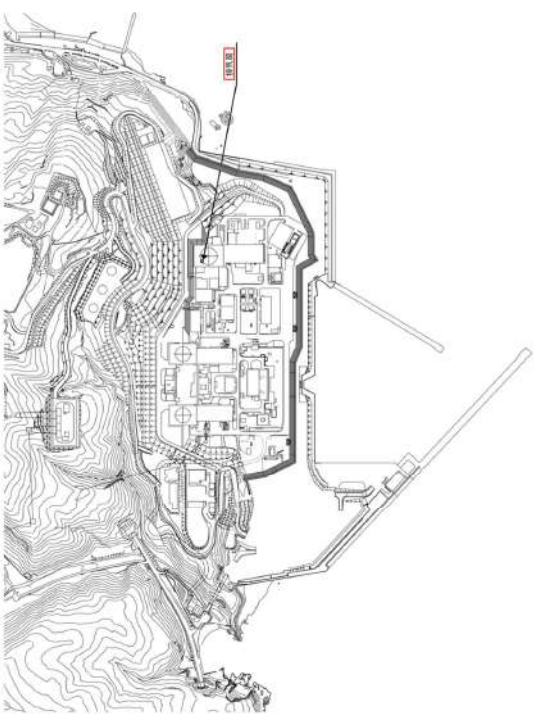
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	 <p>図 59-3-14 非常用ガス処理系 配管図 (原子炉建屋地上 2 階)</p>	 <p>図 59-2-5 アニオクス空気浄化ファン 配管図</p>	<p>②の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	 <p>図 59-3-15 非常用ガス処理系 配置図 (原子炉建屋地上 3 階)</p>	 <p>図 59-2-6 中央制御室 アニュラス空気浄化設備 配置図</p>	<p>②の相違</p>

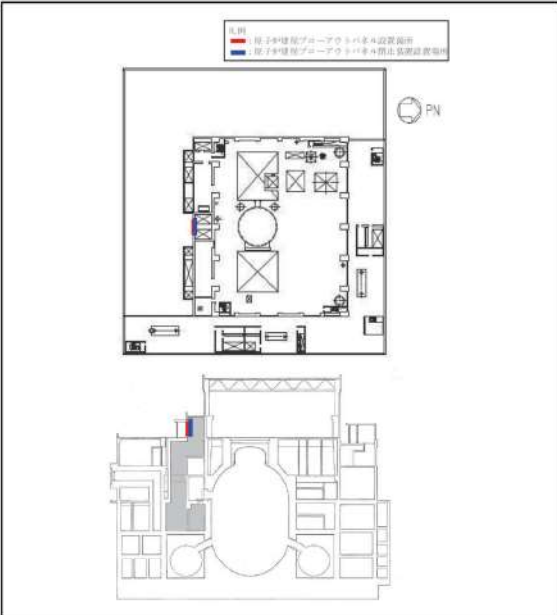
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	 <p style="text-align: center;">図 59-3-16 非常用ガス処理系 配置図 (中央制御室)</p> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p>	 <p style="text-align: center;">図 59-2-7 排気筒 配置図</p>	<p style="color: red;">②の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p data-bbox="734 866 1164 911">図 59-3-17 原子炉建屋フロアアウトパネル閉止装置 配置図                  (原子炉建屋地上3階)</p>		<p data-bbox="1832 228 1910 252">②の相違</p>

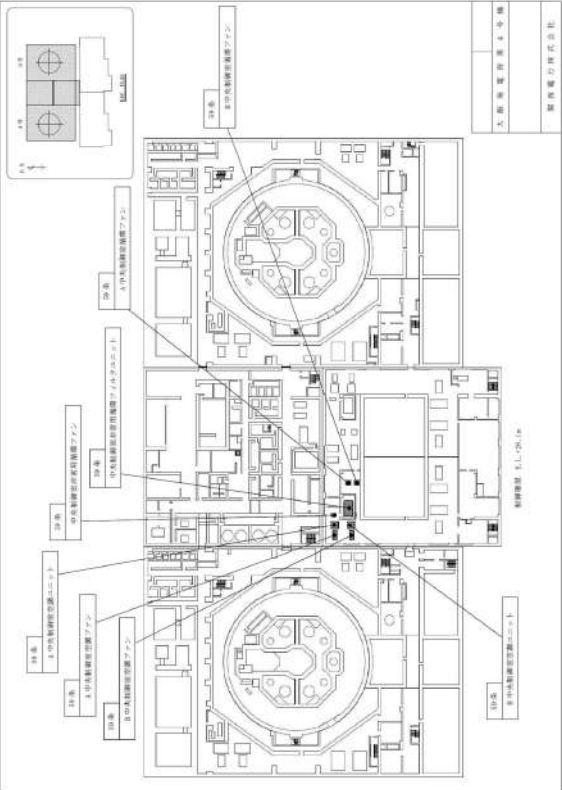
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>【大飯欄は p59-2-7 を掲載】</p> <p>4号炉</p>			<p>【大飯】共用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は4号炉の設備を記載している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>【大飯欄はp59-2-8を掲載】</p> 			<p>【大飯】共用の相違                  ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>

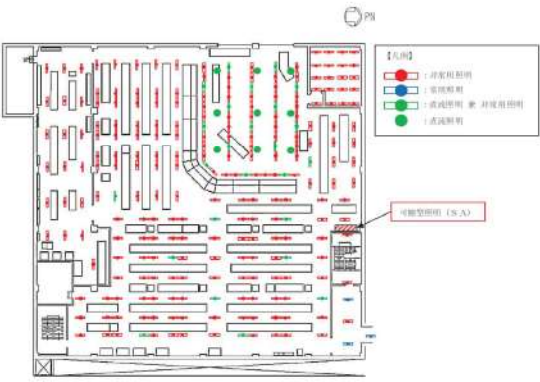
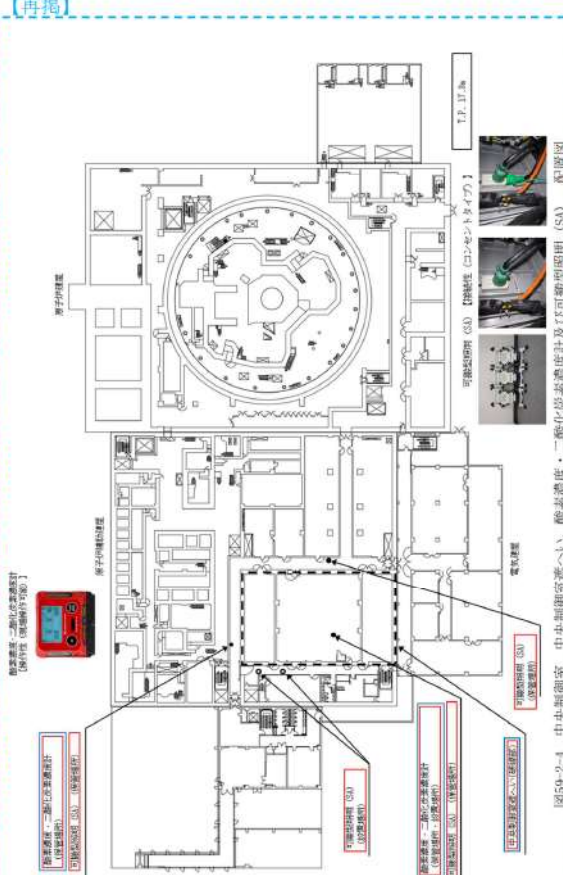
泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）


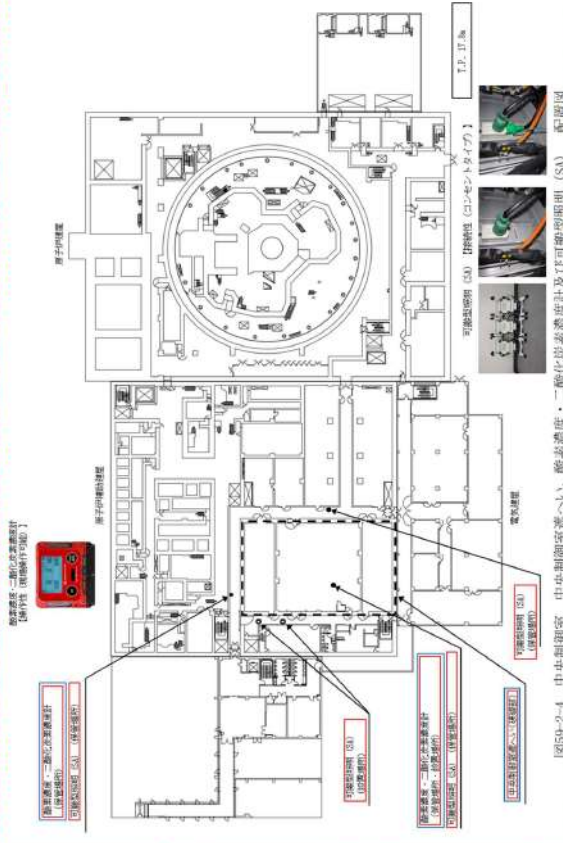
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	<p>59-7 保管場所図</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	 <p>新築建屋 地上 3 階 O.P. 23500</p> <p>図 59-7-1 中央制御室 可搬型照明 (SA) 保管場所</p>	<p>【本ページの泊欄は 59-2 を一部掲載して比較する。】</p> <p>【再掲】</p>  <p>図 59-2-4 中央制御室 中央制御室窓へ、酸素濃度・二酸化炭素濃度へ、二酸化炭素濃度計及び可搬型照明 (SA) 配置図</p>	<p>差異理由</p> <p>【女川】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は「59-2 配置図」に保管場所も記載しており、比較のため再掲する。</li> </ul>

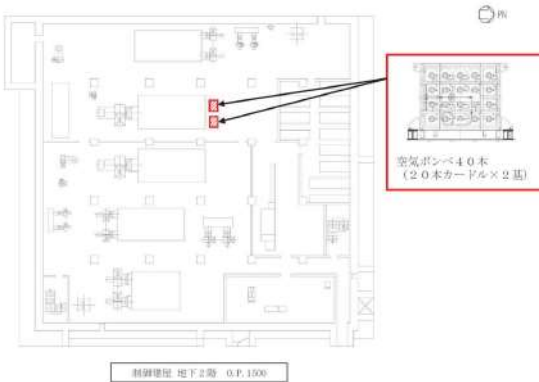


赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ : 酸素濃度計</li> <li>■ : 二酸化炭素濃度計</li> <li>▲ : 酸素濃度計 (予備)</li> <li>■ : 二酸化炭素濃度計 (予備)</li> </ul> <p>図 59-7-2 酸素濃度及び二酸化炭素濃度計 保管場所</p>	<p>【本ページの泊欄は 5 9 - 2 を一部掲載して比較する。】</p> <p>【再掲】</p>  <p>図 59-2-4 中央制御室 中央制御室へ、酸素濃度・二酸化炭素濃度計及び予備型挿入 (SA) 配線図</p>	<p>差異理由</p> <p>【女川】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は「59-2 配置図」に保管場所も記載しており、比較のため再掲する。</li> </ul>

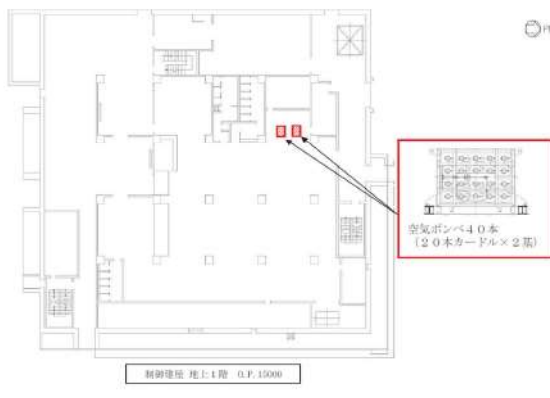
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p data-bbox="683 662 1108 702">図 59-7-3 中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）保管場所（その1） （新御建屋地下2階）</p>		<p data-bbox="1836 231 1915 255">①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p>図 59-7-4 中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）保管場所（その2） （制御室屋地上1階）</p>		<p>①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>59-3 アクセスルート</p>			<p>【大飯】記載箇所の相違                      ・泊では、アクセスルート図は技術的能力1.0.2にて整理している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<div data-bbox="85 240 136 336" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>事件発生箇所                      発生原因                      経過</p> </div> <div data-bbox="85 359 136 624" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>大飯発電所3、4号機 重大事故等時アクセスルート図(第59条関連)〔屋内〕                      □ 内は機密に係る事項のため公開できません</p> </div> <div data-bbox="147 276 645 1023" style="border: 2px solid red; height: 468px; width: 222px;"></div>			<p>【大飯】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、アクセスルート図は技術的能力1.0.2にて整理している。</li> </ul>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<div data-bbox="85 274 129 367" style="float: left; margin-bottom: 10px;"> </div> <div data-bbox="107 427 129 896" style="float: left; margin-bottom: 10px;"> <p>大飯発電所3、4号機 重大事故等時アクセスルート図(第59条関連)〔屋内〕</p> </div> <div data-bbox="145 347 168 593" style="float: left; margin-bottom: 10px;"> <p>■ 内は強密に係る事項のため公開できません</p> </div> <div data-bbox="174 242 645 992" style="border: 2px solid red; width: 100%; height: 100%; margin-top: 10px;"> </div>			<p>【大飯】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、アクセスルート図は技術的能力1.0.2にて整理している。</li> </ul>


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<div data-bbox="85 239 134 335" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>製作の順序                      ● 設計                      ■ 概算                      □ 概算</p> </div> <div data-bbox="85 351 134 909" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>大飯発電所3、4号機 重大事故時アクセスルート図〔屋内〕                      ■内は機密に係る事項のため公開できません</p> </div> <div data-bbox="145 236 645 1034" style="border: 2px solid red; height: 500px; width: 223px;"></div>			<p>【大飯】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、アクセスルート図は技術的能力1.0.2にて整理している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）


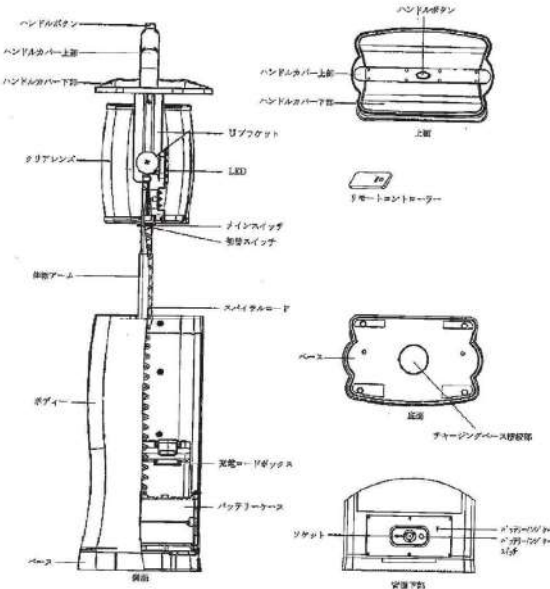
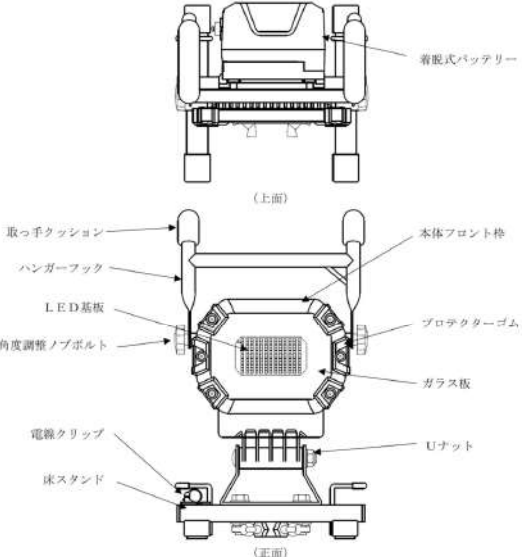
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<div data-bbox="85 263 134 359" style="float: left; margin-right: 5px;">  </div> <div data-bbox="85 375 134 933" style="float: left; margin-right: 5px;"> <p>大飯発電所3、4号機 重大事故等時アクセスルート図(第59条関連)〔屋内〕              □ 内は機密に係る事項のため公開できません</p> </div> <div data-bbox="129 236 645 1056" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>			<p>【大飯】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、アクセスルート図は技術的能力1.0.2にて整理している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>59-4 試験・検査説明資料</p> <p>3号炉</p>	<p>59-5 試験及び検査</p>	<p>59-3 試験・検査説明資料</p>	<p>【大飯】記載表現の相違                      ・大飯は3号炉と4号炉を区別して記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																
<p>可搬型照明 (SA) 外形図</p> 	<p>○可搬型照明 (SA) の試験及び検査について</p> <p>可搬型照明 (SA) は、原子炉の運転中及び停止中に表59-5-1に示す試験及び検査が可能な設計とする。</p> <table border="1" data-bbox="678 355 1220 427"> <caption>表 59-5-1 可搬型照明 (SA) の試験及び検査</caption> <thead> <tr> <th>状態</th> <th>項目</th> <th>試験・検査項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">運転中 又は停止中</td> <td>外観確認</td> <td>外観の確認</td> </tr> <tr> <td>機能・性能試験</td> <td>点灯確認</td> </tr> </tbody> </table>  <p>図 59-5-1 可搬型照明 (SA) の概略図</p>	状態	項目	試験・検査項目	運転中 又は停止中	外観確認	外観の確認	機能・性能試験	点灯確認	<p>○可搬型照明 (SA) の試験及び検査について</p> <p>可搬型照明 (SA) は、原子炉の運転中及び停止中に表 59-3-1 に示す試験及び検査が可能な設計とする。</p> <table border="1" data-bbox="1283 347 1769 411"> <caption>表 59-3-1 可搬型照明 (SA) の試験及び検査</caption> <thead> <tr> <th>状態</th> <th>項目</th> <th>試験・検査項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">運転中又は 停止中</td> <td>外観検査</td> <td>外観の確認</td> </tr> <tr> <td>機能・性能確認</td> <td>点灯確認</td> </tr> </tbody> </table>  <p>図 59-3-1 可搬型照明 (SA) の概略図</p>	状態	項目	試験・検査項目	運転中又は 停止中	外観検査	外観の確認	機能・性能確認	点灯確認	<p>【大飯】記載箇所の相違              ・比較のため大飯を移動して掲載した。</p>
状態	項目	試験・検査項目																	
運転中 又は停止中	外観確認	外観の確認																	
	機能・性能試験	点灯確認																	
状態	項目	試験・検査項目																	
運転中又は 停止中	外観検査	外観の確認																	
	機能・性能確認	点灯確認																	



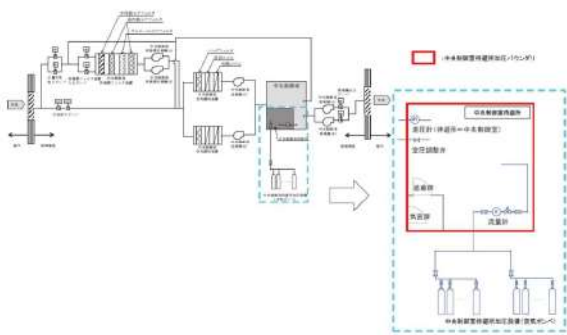
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由													
	<p>中央制御室待避所加圧設備の試験及び検査について</p> <p>中央制御室待避所加圧設備については、原子炉の運転中又は停止中に表59-5-2に示す試験・検査が可能な設計とする。</p> <p>表 59-5-2 中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）の試験及び検査</p> <table border="1" data-bbox="696 359 1225 568"> <thead> <tr> <th>発電用原子炉の状態</th> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">運転中</td> <td>機能・性能試験</td> <td>空気ポンプ残圧の確認</td> </tr> <tr> <td>外観検査</td> <td>中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）の表面状態の外観の確認</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">停止中</td> <td>機能・性能試験</td> <td>空気ポンプ残圧の確認 中央制御室待避所の正圧化試験</td> </tr> <tr> <td>外観確認</td> <td>中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）の表面状態の外観の確認</td> </tr> </tbody> </table> <p>【中央制御室待避所の正圧化試験】</p> <p>(1) 概要                  中央制御室待避所の気密性に関する試験・検査として、原子炉停止中において、正圧化試験を実施する。</p> <p>(2) 試験内容                  中央制御室待避所加圧設備の操作対象弁を開として、中央制御室待避所を加圧し、中央制御室待避所と中央制御室で正圧化に必要な差圧を確保できることを確認する。（正圧化に必要な差圧については、(P. 59-5-2)を参照）                  中央制御室待避所の正圧化試験のパワントリ構成図を図59-5-2に示す。</p>	発電用原子炉の状態	項目	内容	運転中	機能・性能試験	空気ポンプ残圧の確認	外観検査	中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）の表面状態の外観の確認	停止中	機能・性能試験	空気ポンプ残圧の確認 中央制御室待避所の正圧化試験	外観確認	中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）の表面状態の外観の確認		<p>①の相違</p>
発電用原子炉の状態	項目	内容														
運転中	機能・性能試験	空気ポンプ残圧の確認														
	外観検査	中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）の表面状態の外観の確認														
停止中	機能・性能試験	空気ポンプ残圧の確認 中央制御室待避所の正圧化試験														
	外観確認	中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）の表面状態の外観の確認														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	 <p>図59-5-2 中央制御室待避所の正圧化試験におけるバウンダリ構成図</p>		<p>①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

差異理由

建設段階 長期設備計画・設備表 (03-104)

設備名	設備種別	設備位置	設備仕様	設備容量	設備台数	設備状態	設備備考
中央制御室	制御室	中央制御室	中央制御室	1000	1	稼働	中央制御室
...	...	...	...	...	...	...	...

設備名	設備種別	設備位置	設備仕様	設備容量	設備台数	設備状態	設備備考
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...

【女川】大飯審査実績の反映

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<div data-bbox="85 239 638 1045"> <p>第1原子炉制御室(2号機)1階(2号機)1階              大飯発電所3号機              運転員への乗入れ              構造図 (1/20)</p> <p>■ 内は機密に係る事項のため公開できません</p> </div>	<div data-bbox="840 111 1064 135"> <p>女川原子力発電所2号炉</p> </div>	<div data-bbox="1254 239 1814 1085"> <p>外観が施が可能である。</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																														
	<p>○ 中央制御室換気空調系の試験及び検査について                      中央制御室換気空調系における試験及び検査は、表59-5-3のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表59-5-3 中央制御室換気空調系の試験及び検査</p> <table border="1" data-bbox="672 331 1227 539"> <thead> <tr> <th>発電用原子炉の状態</th> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">運転中</td> <td>機能・性能試験</td> <td>運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認</td> </tr> <tr> <td>外観確認</td> <td>機器<sup>(*)</sup>の表面状態の確認</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">停止中</td> <td>機能・性能試験</td> <td>運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認</td> </tr> <tr> <td>分解検査</td> <td>機器<sup>(*)</sup>各部の状態を目視等で確認</td> </tr> <tr> <td>外観確認</td> <td>機器<sup>(*)</sup>の表面状態の確認</td> </tr> </tbody> </table> <p>(*) 機器とは以下のとおり：                      中央制御室送風機、中央制御室排風機、中央制御室再循環送風機、中央制御室再循環フィルタ装置</p>	発電用原子炉の状態	項目	内容	運転中	機能・性能試験	運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認	外観確認	機器 <sup>(*)</sup> の表面状態の確認	停止中	機能・性能試験	運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認	分解検査	機器 <sup>(*)</sup> 各部の状態を目視等で確認	外観確認	機器 <sup>(*)</sup> の表面状態の確認	<p>○ 中央制御室空調装置の試験及び検査について                      中央制御室空調装置の試験及び検査は、表59-3-2のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表59-3-2 中央制御室空調装置の試験及び検査</p> <table border="1" data-bbox="1299 331 1803 539"> <thead> <tr> <th>発電用原子炉の状態</th> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">運転中</td> <td>機能・性能試験</td> <td>運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認</td> </tr> <tr> <td>外観確認</td> <td>各機器<sup>(*)</sup>の表面状態の確認</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">停止中</td> <td>機能・性能試験</td> <td>運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認</td> </tr> <tr> <td>分解検査</td> <td>各機器<sup>(*)</sup>各部の状態を目視等で確認</td> </tr> <tr> <td>外観確認</td> <td>各機器<sup>(*)</sup>の表面状態の確認</td> </tr> </tbody> </table> <p>(*) 各機器とは以下の通り：                      中央制御室給気ファン、中央制御室循環ファン、中央制御室非常用循環ファン、                      中央制御室非常用循環フィルタユニット及び中央制御室給気ユニット。ただし、                      中央制御室非常用循環フィルタユニット及び中央制御室給気ユニットは分解検査として開放点検時の目視による確認を実施。</p>	発電用原子炉の状態	項目	内容	運転中	機能・性能試験	運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認	外観確認	各機器 <sup>(*)</sup> の表面状態の確認	停止中	機能・性能試験	運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認	分解検査	各機器 <sup>(*)</sup> 各部の状態を目視等で確認	外観確認	各機器 <sup>(*)</sup> の表面状態の確認	<p>【女川】記載表現の相違                      【大飯】女川審査実績の反映</p>
発電用原子炉の状態	項目	内容																															
運転中	機能・性能試験	運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認																															
	外観確認	機器 <sup>(*)</sup> の表面状態の確認																															
停止中	機能・性能試験	運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認																															
	分解検査	機器 <sup>(*)</sup> 各部の状態を目視等で確認																															
	外観確認	機器 <sup>(*)</sup> の表面状態の確認																															
発電用原子炉の状態	項目	内容																															
運転中	機能・性能試験	運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認																															
	外観確認	各機器 <sup>(*)</sup> の表面状態の確認																															
停止中	機能・性能試験	運転性能、漏えい有無の確認 フィルタ差圧の確認																															
	分解検査	各機器 <sup>(*)</sup> 各部の状態を目視等で確認																															
	外観確認	各機器 <sup>(*)</sup> の表面状態の確認																															





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: right;">改 1</p> <p style="text-align: center;">関西電力株式会社 大飯発電所                      第3号機 第16保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>施設名：放射線管理施設                      検査名：中央制御室非常用循環系機能検査                      要領書番号：O3-16-144</p>		<p style="text-align: center;">北海道電力株式会社 泊発電所                      3号機 第2保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>設備名：放射線管理設備                      検査名：中央制御室非常用循環系機能検査                      要領書番号：HT3-40</p>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																		
<p>中央制御室非常用循環ファン          ファンケーシングを取り外すことにより、          分解点検が可能である。</p> <p>66-0213</p>		<p>カバーを取り外すことで、          分解点検が可能である。</p> <table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>内容</td> </tr> <tr> <td>設計</td> <td>設計</td> </tr> <tr> <td>製造</td> <td>製造</td> </tr> <tr> <td>検査</td> <td>検査</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>材料</td> </tr> <tr> <td>部品</td> <td>部品</td> </tr> <tr> <td>組立</td> <td>組立</td> </tr> <tr> <td>塗装</td> <td>塗装</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>その他</td> </tr> </table>	項目	内容	設計	設計	製造	製造	検査	検査	材料	材料	部品	部品	組立	組立	塗装	塗装	その他	その他	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>
項目	内容																				
設計	設計																				
製造	製造																				
検査	検査																				
材料	材料																				
部品	部品																				
組立	組立																				
塗装	塗装																				
その他	その他																				

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
			<p>【大飯】記載方針の相違                  ・泊は B 系を別途記載。                  【女川】大飯審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

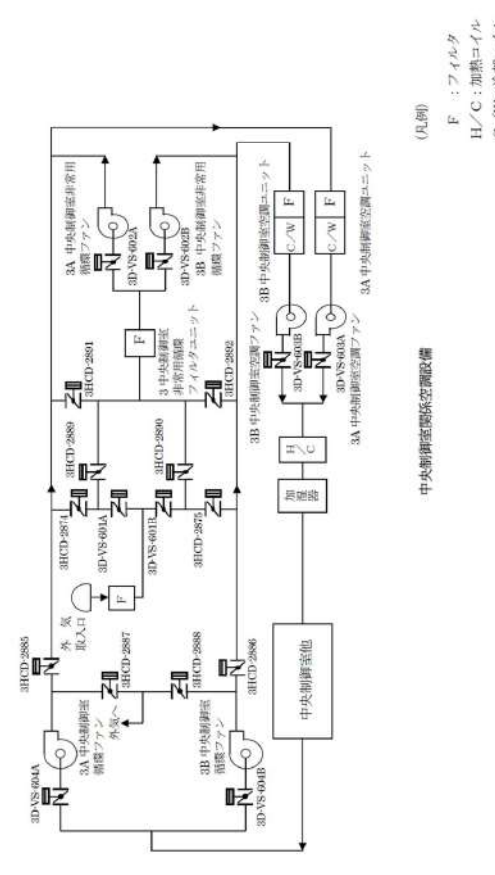
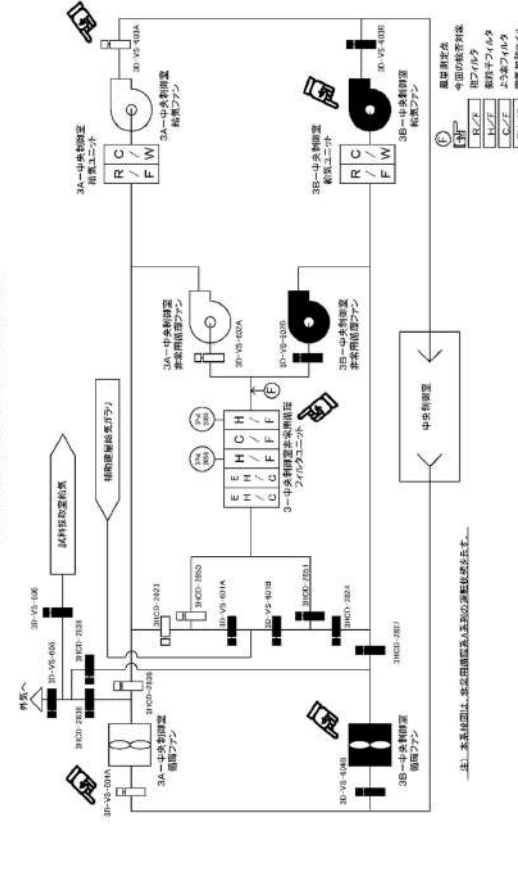
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																																																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>機器又は設備名</th> <th>機器名 (機能)</th> <th>系統及び接続の項目 (機能) (寸法) (材質)</th> <th>適合性の 判定 又は 留意度</th> <th>機器名</th> <th>備考 (1)中は適用する 機器の名称を 記載する。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="20">3号機</td> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>17 1次系機用電源制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機器又は設備名	機器名 (機能)	系統及び接続の項目 (機能) (寸法) (材質)	適合性の 判定 又は 留意度	機器名	備考 (1)中は適用する 機器の名称を 記載する。	3号機	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	17 1次系機用電源制御室		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M			<table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名 (機能)</th> <th>系統及び接続の項目 (機能) (寸法) (材質)</th> <th>適合性の 判定 又は 留意度</th> <th>機器名</th> <th>備考 (1)中は適用する 機器の名称を 記載する。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>17 1次系機用電源制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>1機能: 寸法試験</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34号制御室用電源ファン電動機</td> <td>2分極高圧 (電数制)</td> <td>高</td> <td>30M</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機器名 (機能)	系統及び接続の項目 (機能) (寸法) (材質)	適合性の 判定 又は 留意度	機器名	備考 (1)中は適用する 機器の名称を 記載する。	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	17 1次系機用電源制御室		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M		34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M		<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>
機器又は設備名	機器名 (機能)	系統及び接続の項目 (機能) (寸法) (材質)	適合性の 判定 又は 留意度	機器名	備考 (1)中は適用する 機器の名称を 記載する。																																																																																																																																																																																														
3号機	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	17 1次系機用電源制御室																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																															
	34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																															
	機器名 (機能)	系統及び接続の項目 (機能) (寸法) (材質)	適合性の 判定 又は 留意度	機器名	備考 (1)中は適用する 機器の名称を 記載する。																																																																																																																																																																																														
	34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	17 1次系機用電源制御室																																																																																																																																																																																															
34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	1機能: 寸法試験	高	30M																																																																																																																																																																																																
34号制御室用電源ファン電動機	2分極高圧 (電数制)	高	30M																																																																																																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: right;"><u>改 4</u></p> <p style="text-align: center;">関西電力株式会社 大飯発電所                      第3号機 第16保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>施設名：放射線管理施設                      検査名：1次系換気空調設備検査                      要領書番号：O3-16-315</p>		<p style="text-align: center;">北海道電力株式会社 泊発電所                      3号機 第2保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>設備名：放射線管理設備                      検査名：1次系換気空調設備検査                      要領書番号：HT3-77</p>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
<p style="text-align: center;">横査系統図</p>  <p style="text-align: center;">(凡例)          F : フィルタ          H/C : 加熱コイル          C/W : 冷却コイル</p>		<p style="text-align: center;">中央制御室空調、中央制御室非常用循環系系統図</p>  <p style="text-align: center;">中央制御室</p> <p>注：本系統図は、本原子炉施設安全部の運転員が作成したものである。</p>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
			<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<p style="text-align: center;">北海道電力株式会社 泊発電所                      3号機 第2保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p style="text-align: center;">設 備 名：放射線管理設備                      検 査 名：1次系換気空調設備検査                      要領書番号：HT3-77</p>	<p>【大飯】記載箇所の相違                      ・大飯は中央制御室循環ファンと中央制御室空調ファンをまとめて記載している。</p> <p>【女川】大飯審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																												
<p>中央前側空気空調ファン</p> <p>ファンケーシングを取り外すことにより、 分解点検が可能である。</p> <table border="1"> <tr> <td>型式</td> <td>86-0712</td> </tr> <tr> <td>製造</td> <td>中興製作所</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>鋼</td> </tr> <tr> <td>寸法</td> <td>φ1,000 × 1,000</td> </tr> <tr> <td>重量</td> <td>約 100kg</td> </tr> <tr> <td>回転数</td> <td>1,450rpm</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>200V</td> </tr> <tr> <td>電流</td> <td>約 10A</td> </tr> <tr> <td>消費電力</td> <td>約 2kW</td> </tr> <tr> <td>騒音</td> <td>約 75dB(A)</td> </tr> <tr> <td>設置場所</td> <td>原子炉制御室</td> </tr> </table>	型式	86-0712	製造	中興製作所	材料	鋼	寸法	φ1,000 × 1,000	重量	約 100kg	回転数	1,450rpm	電圧	200V	電流	約 10A	消費電力	約 2kW	騒音	約 75dB(A)	設置場所	原子炉制御室		<p>カバーを取り外すことで、 分解点検が可能である。</p> <table border="1"> <tr> <td>型式</td> <td>86-0712</td> </tr> <tr> <td>製造</td> <td>中興製作所</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>鋼</td> </tr> <tr> <td>寸法</td> <td>φ1,000 × 1,000</td> </tr> <tr> <td>重量</td> <td>約 100kg</td> </tr> <tr> <td>回転数</td> <td>1,450rpm</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>200V</td> </tr> <tr> <td>電流</td> <td>約 10A</td> </tr> <tr> <td>消費電力</td> <td>約 2kW</td> </tr> <tr> <td>騒音</td> <td>約 75dB(A)</td> </tr> <tr> <td>設置場所</td> <td>原子炉制御室</td> </tr> </table>	型式	86-0712	製造	中興製作所	材料	鋼	寸法	φ1,000 × 1,000	重量	約 100kg	回転数	1,450rpm	電圧	200V	電流	約 10A	消費電力	約 2kW	騒音	約 75dB(A)	設置場所	原子炉制御室	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>
型式	86-0712																																														
製造	中興製作所																																														
材料	鋼																																														
寸法	φ1,000 × 1,000																																														
重量	約 100kg																																														
回転数	1,450rpm																																														
電圧	200V																																														
電流	約 10A																																														
消費電力	約 2kW																																														
騒音	約 75dB(A)																																														
設置場所	原子炉制御室																																														
型式	86-0712																																														
製造	中興製作所																																														
材料	鋼																																														
寸法	φ1,000 × 1,000																																														
重量	約 100kg																																														
回転数	1,450rpm																																														
電圧	200V																																														
電流	約 10A																																														
消費電力	約 2kW																																														
騒音	約 75dB(A)																																														
設置場所	原子炉制御室																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

差異理由

機器又は設備名	実装数(種名)	点検及び試験の項目	安全方式 種別	種名	備考 (1)内は適用する 原簿(別添)
3号機	07アニオクス送気弁化スバル電機	1.点検 2.分断試験 3.動作試験	高	高	電機種別: 電動機 電動機: 電動機
	A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ	1.運転・性能試験 (シラテフィルタ)	高	IF	アニオクス送気弁化スバルニシカ A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ
	A.アニオクス送気弁化スバルニシカ	1.運転・性能試験 (フィルタ動作) 2.分断試験 3.動作試験	高	X *	X *
	B.アニオクス送気弁化スバルニシカ	1.運転・性能試験 (巻戻装置) 2.分断試験	高	IF	1.送気弁化スバルニシカ 2.送気弁化スバルニシカ
	中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.運転・性能試験 (ファン動作) 2.分断試験	高	IF	中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種

機器又は設備名	実装数(種名)	点検及び試験の項目	安全方式 種別	種名	備考 (1)内は適用する 原簿(別添)
3号機	07アニオクス送気弁化スバル電機	1.点検 2.分断試験 3.動作試験	高	高	電機種別: 電動機 電動機: 電動機
	A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ	1.運転・性能試験 (シラテフィルタ)	高	IF	アニオクス送気弁化スバルニシカ A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ
	A.アニオクス送気弁化スバルニシカ	1.運転・性能試験 (フィルタ動作) 2.分断試験 3.動作試験	高	X *	X *
	B.アニオクス送気弁化スバルニシカ	1.運転・性能試験 (巻戻装置) 2.分断試験	高	IF	1.送気弁化スバルニシカ 2.送気弁化スバルニシカ
	中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.運転・性能試験 (ファン動作) 2.分断試験	高	IF	中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種

機器又は設備名	実装数(種名)	点検及び試験の項目	安全方式 種別	種名	備考 (1)内は適用する 原簿(別添)
3号機	07アニオクス送気弁化スバル電機	1.点検 2.分断試験 3.動作試験	高	高	電機種別: 電動機 電動機: 電動機
	A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ	1.運転・性能試験 (シラテフィルタ)	高	IF	アニオクス送気弁化スバルニシカ A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ A.07アニオクス送気弁化スバルニシカ
	A.アニオクス送気弁化スバルニシカ	1.運転・性能試験 (フィルタ動作) 2.分断試験 3.動作試験	高	X *	X *
	B.アニオクス送気弁化スバルニシカ	1.運転・性能試験 (巻戻装置) 2.分断試験	高	IF	1.送気弁化スバルニシカ 2.送気弁化スバルニシカ
	中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.運転・性能試験 (ファン動作) 2.分断試験	高	IF	中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種
	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種	1.分断試験 2.動作試験	高	IF	低中込制御弁非常閉鎖ファン電機種

【女川】大飯審査実績の反映

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: right;">改 1</p> <p>関西電力株式会社 大飯発電所                      第3号機 第16保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>施設名：放射線管理施設                      検査名：中央制御室非常用循環系フィルター性能検査                      要領書番号：O3-16-147</p>		<p>北海道電力株式会社 泊発電所                      3号機 第2保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>設備名：放射線管理設備                      検査名：中央制御室非常用循環系フィルター性能検査                      要領書番号：HT3-41</p>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
<p style="text-align: right;">添付資料-6</p> <p style="text-align: center;">中央制御室非常用循環系統図</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① : フッ素化炭素化合物ガス注入点</li> <li>② : 上流側フッ素化炭素化合物ガス濃度測定点</li> <li>③ : 下流側フッ素化炭素化合物ガス濃度測定点</li> <li>F : 流量測定点</li> <li>EH/C : 電気加熱コイル</li> <li>微粒子フィルタ</li> <li>よう素フィルタ</li> <li>④ : ④ファン使用時の下流側フッ素化炭素化合物ガス濃度測定点</li> </ul> <p>(注) 中央制御室非常用循環ファン運転については、検査時期の状態により異なる場合がある。          本図は、3 A 中央制御室非常用循環ファン運転時のダンパ開閉状態を示す。</p>		<p style="text-align: center;">よう素除去効率検査装置系統図</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① : 試験ガス供給</li> <li>② : 試験ガス流</li> <li>FRC : 脱ヨウ素効率</li> <li>MC : ミネソシアンゲンキャパシタ</li> </ul>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: right;">改 4</p> <p style="text-align: center;">関西電力株式会社 大飯発電所                      第3号機 第16保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>施設名：放射線管理施設                      検査名：1次系換気空調設備検査                      要領書番号：O3-16-315</p>		<p style="text-align: center;">北海道電力株式会社 泊発電所                      3号機 第2保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>設備名：放射線管理設備                      検査名：1次系換気空調設備検査                      要領書番号：HT3-77</p>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
<p style="text-align: center;">検査系統図</p> <p style="text-align: center;">(凡例)</p> <p style="text-align: center;">F : フィルタ          H/C : 加熱コイル          C/W : 冷却コイル</p> <p style="text-align: center;">中央制御室関係空調設備</p>		<p style="text-align: center;">中央制御室空調、中央制御室非常用循環水系系統図</p> <p style="text-align: center;">(凡例)</p> <p style="text-align: center;">① 基準適合性          ② 今回の検査対象          R/F : 循環ファン          H/F : 加熱コイル          C/F : 冷却コイル          E/C : 電気加熱コイル          C/W : 冷却コイル</p> <p style="text-align: center;">③ 本系統図は、検査用図面を基に運転員作成した。</p>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>中核制御室 非常用設備ファイルユニット</p>		<p>図面1 図面2 図面3</p>	<p>【女川】大飯審査実績の反映</p>



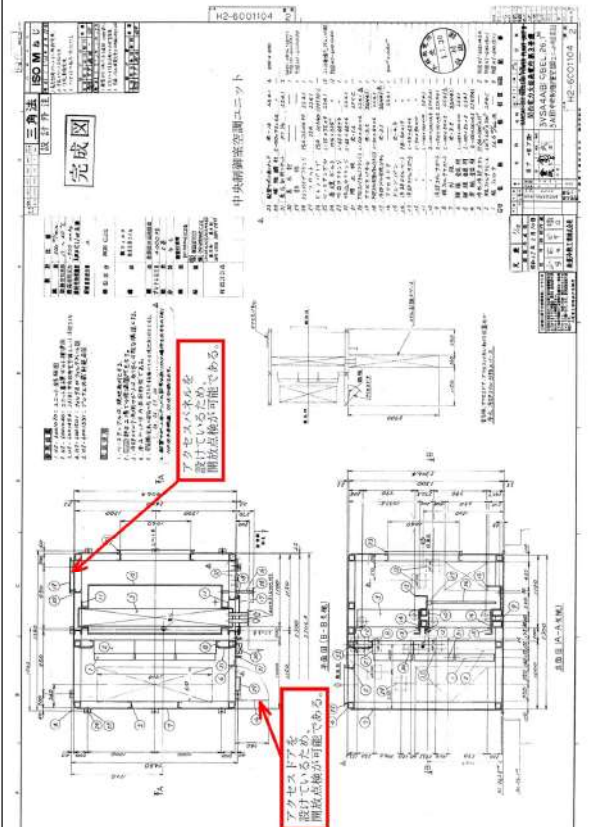
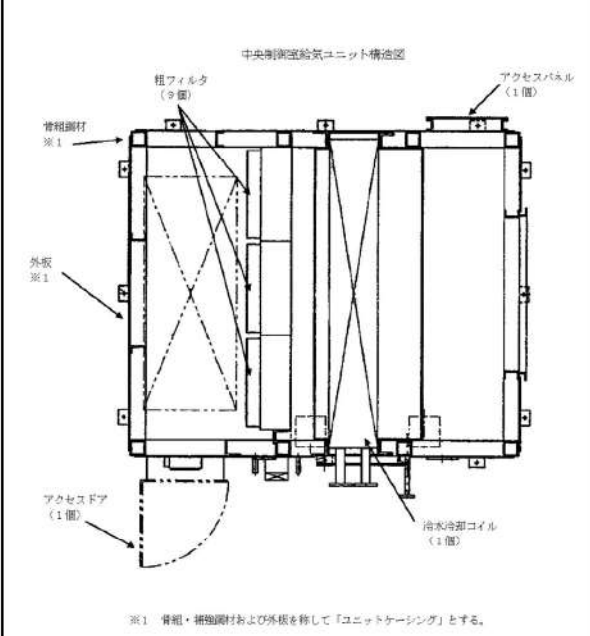


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

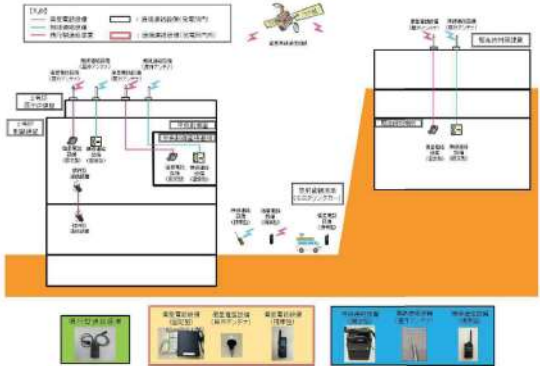
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<p style="text-align: center;">北海道電力株式会社 泊発電所                      3号機 第2保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p style="text-align: center;">設 備 名:放射線管理設備                      検 査 名:1次系換気空調設備検査                      (換気空調系の分解等)                      要領書番号:HT3-93</p>	<p>【大飯】記載方針の相違                      ・大飯は空調ユニットについては表紙を個別に示していない。                      【女川】大飯審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
			<p>【大飯】記載箇所の相違              ・比較のため大飯を移動して記載した。              【女川】大飯審査実績の反映</p>

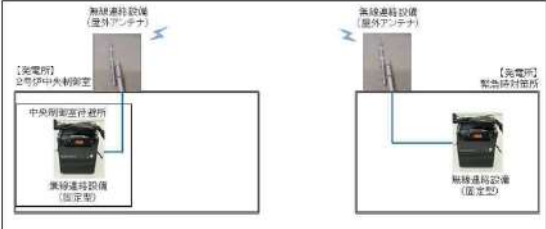
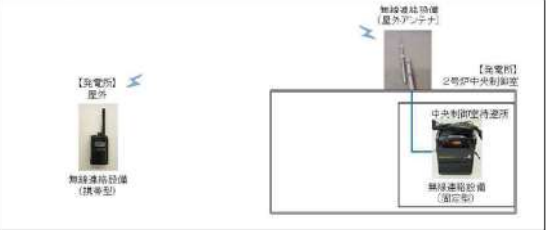


赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由								
	<p>○無線連絡設備 (固定型) 及び衛星電話設備 (固定型) の試験及び検査について</p> <p>無線連絡設備 (固定型) 及び衛星電話設備 (固定型) における試験及び検査は表 59-5-5のとおりである。</p> <p>無線連絡設備 (固定型) 及び衛星電話設備 (固定型) の概要を図 59-5-3に示す。</p> <p>表 59-5-5 無線連絡設備 (固定型) 及び衛星電話設備 (固定型) の試験及び検査</p> <table border="1" data-bbox="689 411 1227 491"> <thead> <tr> <th>状態</th> <th>項目</th> <th>試験・検査項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">運転中 又は停止中</td> <td>外観検査機能・ 性能試験</td> <td>通話通信の確認</td> </tr> <tr> <td>外観確認</td> <td>外観の確認</td> </tr> </tbody> </table>  <p>図 59-5-3 無線連絡設備 (固定型) 及び衛星電話設備 (固定型) の概要</p>	状態	項目	試験・検査項目	運転中 又は停止中	外観検査機能・ 性能試験	通話通信の確認	外観確認	外観の確認		<p>①の相違</p>
状態	項目	試験・検査項目									
運転中 又は停止中	外観検査機能・ 性能試験	通話通信の確認									
	外観確認	外観の確認									

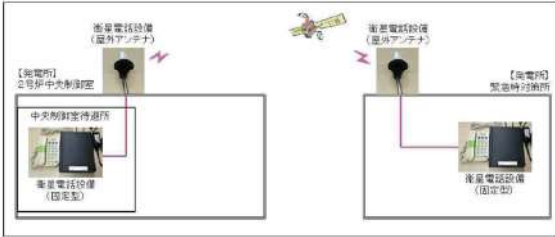
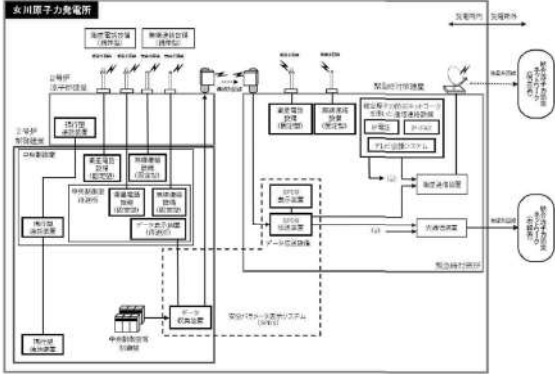
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	<p>無線連絡設備（固定型） 試験・検査内容</p> <p>【試験構成】</p>  <p>※試験区間：2号炉中央制御室待避所 ～ 緊急時対策所</p> <p>図 59-5-4 無線連絡設備（固定型）試験・検査構成</p> <p>無線連絡設備（携帯型／固定型） 試験・検査内容</p> <p>【試験構成】</p>  <p>※ 試験区間：現場（屋外） ～ 2号炉中央制御室待避所</p> <p>図 59-5-5 無線連絡設備（携帯型／固定型）試験・検査構成</p>		<p>①の相違</p>

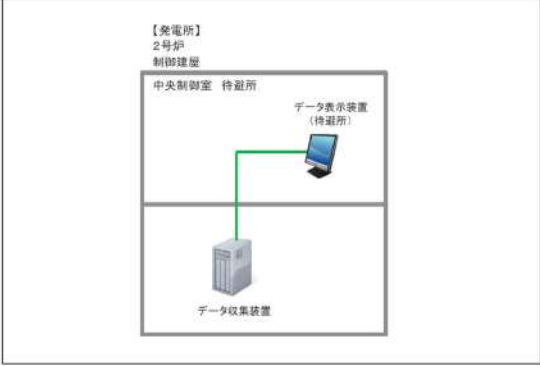


赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

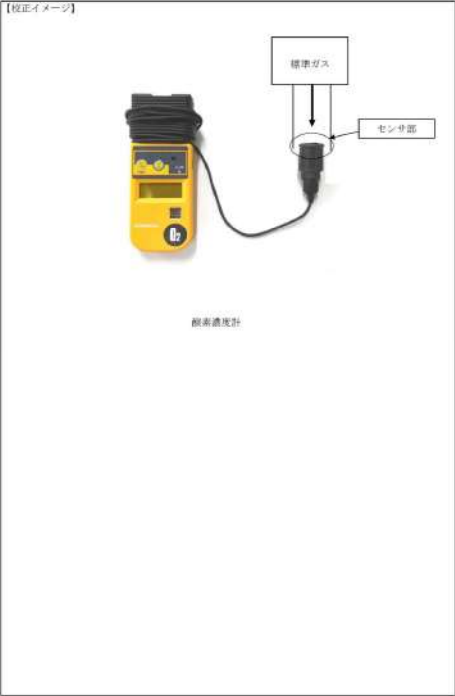




大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由								
	<p>衛星電話設備 (固定型) 試験・検査内容</p> <p>【試験構成】</p>  <p>※ 試験区間：2号炉中央制御室待避所 ～ 緊急時対策所</p> <p>図59-5-6 衛星電話設備 (固定型) 試験・検査構成</p> <p>○データ表示装置 (待避所) の試験及び検査について</p> <p>データ表示装置 (待避所) における試験及び検査は表59-5-6のとおりである。データ表示装置 (待避所) の概要を図59-5-7に示す。</p> <p>表 59-5-6 データ表示装置 (待避所) の試験及び検査</p> <table border="1" data-bbox="689 839 1211 919"> <thead> <tr> <th>状態</th> <th>項目</th> <th>試験・検査項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">運転中 又は 停止中</td> <td>外観検査</td> <td>通話通信の確認</td> </tr> <tr> <td>機能・性能試験</td> <td>外観の確認</td> </tr> </tbody> </table>  <p>図 59-5-7 データ表示装置 (待避所) の概要</p>	状態	項目	試験・検査項目	運転中 又は 停止中	外観検査	通話通信の確認	機能・性能試験	外観の確認		<p>①の相違</p>
状態	項目	試験・検査項目									
運転中 又は 停止中	外観検査	通話通信の確認									
	機能・性能試験	外観の確認									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	<p>データ表示装置（待避所） 試験・検査内容</p> <p>【試験構成】</p>  <p>図 59-5-8 データ表示装置（待避所）試験・検査構成</p>		<p>①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>【校正イメージ】</p>  <p>酸素濃度計</p> <p>【校正イメージ】</p>  <p>二酸化炭素濃度計</p>	<p>○酸素濃度計、二酸化炭素濃度計及び差圧計の試験及び検査について</p> <p>酸素濃度計、二酸化炭素濃度計及び差圧計は、運転中又は停止中においても校正ガスによる性能検査が可能な設計とする。</p> <p>酸素濃度計外観図を図59-5-9、二酸化炭素濃度計外観図を図59-5-10に示す。</p>  <p>図59-5-9 酸素濃度計の外観図</p>  <p>図59-5-10 二酸化炭素濃度計の外観図</p>	<p>○酸素濃度・二酸化炭素濃度計の試験及び検査について</p> <p>酸素濃度・二酸化炭素濃度計は運転中又は停止中においても校正ガスによる性能検査が可能な設計とする。</p> <p>酸素濃度・二酸化炭素濃度計外観図を以下に示す。</p>  <p>酸素濃度・二酸化炭素濃度計の外観図</p>	<p>【大飯】女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	<p>東北電力株式会社                      女川原子力発電所第2号機                      第11保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>設備名：放射線管理設備                      検査名：非常用ガス処理系機能検査                      要領書番号：O2-035</p>	<p>北海道電力株式会社 泊発電所                      3号機 第2保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>設備名：放射線管理設備                      検査名：アニュラス循環排気系機能検査                      要領書番号：HT3-38</p>	<p>②の相違</p>




赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	<p>図 59-5-11 非常用ガス処理系 A 系 性能検査系統図</p>	<p>図 59-5-12 非常用ガス処理系 A 系 性能検査系統図</p>	<p>②の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	<p>図 59-5-12 非常用ガス処理系 B 系 性能検査系統図</p>	<p>図面は3A-Aerius空気浄化ファンであるが、3B-Aerius空気浄化ファンも同様の構造である。</p>	<p>②の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																										
	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>	<p style="text-align: center;">図 59-5-13 非常用ガス処理系統風機 構成図</p> <p style="text-align: center;">※ 図面内の内容は商業機密の観点から公開できません。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <thead> <tr> <th>機器の名称</th> <th>型式 (規格名)</th> <th>設置位置</th> <th>設置台数</th> <th>設置高さ</th> <th>設置位置</th> <th>設置台数</th> <th>設置高さ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">非常用ガス処理系統風機</td> <td>1000Y1</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> <tr> <td>1000Y2</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> <tr> <td>1000Y3</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> <tr> <td>1000Y4</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> <tr> <td>1000Y5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> <tr> <td>1000Y6</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> <tr> <td>1000Y7</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> <tr> <td>1000Y8</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> <tr> <td>1000Y9</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> <tr> <td>1000Y10</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> <td>1</td> <td>1.5</td> <td>1号機室(風機室)内</td> </tr> </tbody> </table>	機器の名称	型式 (規格名)	設置位置	設置台数	設置高さ	設置位置	設置台数	設置高さ	備考	非常用ガス処理系統風機	1000Y1	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1000Y2	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1000Y3	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1000Y4	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1000Y5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1000Y6	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1000Y7	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1000Y8	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1000Y9	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1000Y10	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	<p>②の相違</p>
機器の名称	型式 (規格名)	設置位置	設置台数	設置高さ	設置位置	設置台数	設置高さ	備考																																																																																					
非常用ガス処理系統風機	1000Y1	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					
	1000Y2	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					
	1000Y3	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					
	1000Y4	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					
	1000Y5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					
	1000Y6	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					
	1000Y7	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					
	1000Y8	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					
	1000Y9	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					
	1000Y10	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内	1	1.5	1号機室(風機室)内																																																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<p style="text-align: center;">北海道電力株式会社 泊発電所                      3号機 第2保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p style="text-align: center;">設 備 名：放射線管理設備                      検 査 名：アネオラス循環排気系フィルタ性能検査                      要領書番号：HT3-39</p>	<p style="text-align: center;">②の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
		<p style="text-align: center;">別紙-1</p> <p style="text-align: center;">よう素除去効率検査装置系統図</p>	<p>②の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<p style="text-align: center;">北海道電力株式会社 泊発電所                      3号機 第2保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p style="text-align: center;">設 備 名：放射線管理設備                      検 査 名：1次系換気空調設備検査                      要領書番号：HT 3-77</p>	<p style="text-align: center;">②の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
			<p>②の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
		<p>機能・性能の確認が可能である。</p>	<p>②の相違</p>





赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
		<p>外観点検が可能である。</p>	<p>②の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: right;">改 1</p> <p>関西電力株式会社 大飯発電所                      第4号機 第15保全サイクル</p> <p>定期事業者検査要領書</p> <p>施設名：放射線管理施設                      検査名：中央制御室非常用循環系機能検査                      要領書番号：O4-15-144</p>			<p>【大飯】共用の相違                      ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: center;">中央制御室換気系統図</p> <p style="text-align: right;">添付資料-6</p> <p style="text-align: right;">(注) 太線はIAH中央制御室非常用扇風機用扇風ファン機種のラインを示す。   : 扇風機機種を示す</p> <p style="text-align: right;">  : 電気フィルター   : HEPAフィルター   : 共用扇風ファン         </p>			<p>【大飯】共用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は4号炉の設備を記載している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
			<p>【大飯】共用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は4号炉の設備を記載している。</li> </ul>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																																																																							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">機器又は設備名</th> <th style="width: 35%;">機器名(機器名)</th> <th style="width: 15%;">単体及び設備の項目</th> <th style="width: 10%;">基本の 仕様</th> <th style="width: 10%;">基本形式 又は仕様</th> <th style="width: 15%;">機器名</th> <th style="width: 10%;">備考 (1)外注品は添付する 仕様書(図表)を参照</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>汽機制御室用電源ファン・電動機</td> <td>1.電動機/圧電設機</td> <td>高</td> <td>150kW</td> <td>1次系統気空調用制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.分解弁操 作機</td> <td>高</td> <td>0.5kW</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>圧縮機用電源ファン・電動機</td> <td>1.電動機/圧電設機</td> <td>高</td> <td>150kW</td> <td>1次系統気空調用制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.分解弁操 作機</td> <td>高</td> <td>0.5kW</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>圧縮機用電源ファン・電動機</td> <td>1.電動機/圧電設機</td> <td>高</td> <td>150kW</td> <td>1次系統気空調用制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.分解弁操 作機</td> <td>高</td> <td>0.5kW</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>圧縮機用電源ファン・電動機</td> <td>1.電動機/圧電設機</td> <td>高</td> <td>150kW</td> <td>1次系統気空調用制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.分解弁操 作機</td> <td>高</td> <td>0.5kW</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>汽機制御室用電源ファン・電動機</td> <td>1.電動機/圧電設機</td> <td>低</td> <td>150kW</td> <td>1次系統気空調用制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.分解弁操 作機</td> <td>低</td> <td>0.5kW</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>圧縮機用電源ファン・電動機</td> <td>1.電動機/圧電設機</td> <td>低</td> <td>150kW</td> <td>1次系統気空調用制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.分解弁操 作機</td> <td>低</td> <td>0.5kW</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4号機</td> <td></td> <td>汽機制御室用電源ファン・電動機</td> <td>高</td> <td>150kW</td> <td>1次系統気空調用制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.分解弁操 作機</td> <td>高</td> <td>0.5kW</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>圧縮機用電源ファン・電動機</td> <td>高</td> <td>150kW</td> <td>1次系統気空調用制御室</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.分解弁操 作機</td> <td>高</td> <td>0.5kW</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機器又は設備名	機器名(機器名)	単体及び設備の項目	基本の 仕様	基本形式 又は仕様	機器名	備考 (1)外注品は添付する 仕様書(図表)を参照		汽機制御室用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	高	150kW	1次系統気空調用制御室				2.分解弁操 作機	高	0.5kW				圧縮機用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	高	150kW	1次系統気空調用制御室				2.分解弁操 作機	高	0.5kW				圧縮機用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	高	150kW	1次系統気空調用制御室				2.分解弁操 作機	高	0.5kW				圧縮機用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	高	150kW	1次系統気空調用制御室				2.分解弁操 作機	高	0.5kW				汽機制御室用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	低	150kW	1次系統気空調用制御室				2.分解弁操 作機	低	0.5kW				圧縮機用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	低	150kW	1次系統気空調用制御室				2.分解弁操 作機	低	0.5kW			4号機		汽機制御室用電源ファン・電動機	高	150kW	1次系統気空調用制御室				2.分解弁操 作機	高	0.5kW					圧縮機用電源ファン・電動機	高	150kW	1次系統気空調用制御室				2.分解弁操 作機	高	0.5kW					<p>【大飯】共用の相違                  ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>
機器又は設備名	機器名(機器名)	単体及び設備の項目	基本の 仕様	基本形式 又は仕様	機器名	備考 (1)外注品は添付する 仕様書(図表)を参照																																																																																																																				
	汽機制御室用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	高	150kW	1次系統気空調用制御室																																																																																																																					
		2.分解弁操 作機	高	0.5kW																																																																																																																						
	圧縮機用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	高	150kW	1次系統気空調用制御室																																																																																																																					
		2.分解弁操 作機	高	0.5kW																																																																																																																						
	圧縮機用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	高	150kW	1次系統気空調用制御室																																																																																																																					
		2.分解弁操 作機	高	0.5kW																																																																																																																						
	圧縮機用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	高	150kW	1次系統気空調用制御室																																																																																																																					
		2.分解弁操 作機	高	0.5kW																																																																																																																						
	汽機制御室用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	低	150kW	1次系統気空調用制御室																																																																																																																					
		2.分解弁操 作機	低	0.5kW																																																																																																																						
	圧縮機用電源ファン・電動機	1.電動機/圧電設機	低	150kW	1次系統気空調用制御室																																																																																																																					
		2.分解弁操 作機	低	0.5kW																																																																																																																						
4号機		汽機制御室用電源ファン・電動機	高	150kW	1次系統気空調用制御室																																																																																																																					
		2.分解弁操 作機	高	0.5kW																																																																																																																						
		圧縮機用電源ファン・電動機	高	150kW	1次系統気空調用制御室																																																																																																																					
		2.分解弁操 作機	高	0.5kW																																																																																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">機組又は設備名</th> <th style="width: 15%;">設備名(機組名)</th> <th style="width: 15%;">単体及び設備の項目</th> <th style="width: 10%;">機組又は設備の型式</th> <th style="width: 10%;">種別名</th> <th style="width: 35%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15" style="text-align: center; vertical-align: middle;">4号機</td> <td>大飯発電所3号炉用ファン電動機</td> <td>1.運転用性能試験</td> <td>高</td> <td>TF</td> <td>1.10kV三相交流誘導電動機</td> <td rowspan="15" style="vertical-align: top;">(1)10kVは適用するファン電動機(50A)電動機 巻線形(20)</td> </tr> <tr> <td>2号機名機</td> <td>2.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>TFM</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3号機名機</td> <td>3.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>OSM</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4号機名機</td> <td>4.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>TF</td> <td>1.10kV三相交流誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>5号機名機</td> <td>5.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>91M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6号機名機</td> <td>6.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>OSM</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7号機名機</td> <td>7.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>TF</td> <td>1.10kV三相交流誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>8号機名機</td> <td>8.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>130M</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9号機名機</td> <td>9.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>OSM</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10号機名機</td> <td>10.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>TF</td> <td>1.10kV三相交流誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>11号機名機</td> <td>11.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>OSM</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12号機名機</td> <td>12.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>TF</td> <td>1.10kV三相交流誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>13号機名機</td> <td>13.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>OSM</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14号機名機</td> <td>14.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>TF</td> <td>1.10kV三相交流誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>15号機名機</td> <td>15.10kV三相交流誘導電動機</td> <td>高</td> <td>OSM</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機組又は設備名	設備名(機組名)	単体及び設備の項目	機組又は設備の型式	種別名	備考	4号機	大飯発電所3号炉用ファン電動機	1.運転用性能試験	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機	(1)10kVは適用するファン電動機(50A)電動機 巻線形(20)	2号機名機	2.10kV三相交流誘導電動機	高	TFM		3号機名機	3.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM		4号機名機	4.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機	5号機名機	5.10kV三相交流誘導電動機	高	91M		6号機名機	6.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM		7号機名機	7.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機	8号機名機	8.10kV三相交流誘導電動機	高	130M		9号機名機	9.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM		10号機名機	10.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機	11号機名機	11.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM		12号機名機	12.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機	13号機名機	13.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM		14号機名機	14.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機	15号機名機	15.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM				<p>【大飯】共用の相違                  ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>
機組又は設備名	設備名(機組名)	単体及び設備の項目	機組又は設備の型式	種別名	備考																																																																																	
4号機	大飯発電所3号炉用ファン電動機	1.運転用性能試験	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機	(1)10kVは適用するファン電動機(50A)電動機 巻線形(20)																																																																																
	2号機名機	2.10kV三相交流誘導電動機	高	TFM																																																																																		
	3号機名機	3.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM																																																																																		
	4号機名機	4.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機																																																																																	
	5号機名機	5.10kV三相交流誘導電動機	高	91M																																																																																		
	6号機名機	6.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM																																																																																		
	7号機名機	7.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機																																																																																	
	8号機名機	8.10kV三相交流誘導電動機	高	130M																																																																																		
	9号機名機	9.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM																																																																																		
	10号機名機	10.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機																																																																																	
	11号機名機	11.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM																																																																																		
	12号機名機	12.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機																																																																																	
	13号機名機	13.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM																																																																																		
	14号機名機	14.10kV三相交流誘導電動機	高	TF	1.10kV三相交流誘導電動機																																																																																	
	15号機名機	15.10kV三相交流誘導電動機	高	OSM																																																																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: right;">改 3</p> <p style="text-align: center;">関西電力株式会社 大飯発電所                      第4号機 第15保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>施設名：放射線管理施設                      検査名：1次系換気空調設備検査                      要領書番号：O4-15-315</p>			<p>【大飯】共用の相違                      ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: center;">検査系統図</p> <p style="text-align: center;">(凡例)              F：フィルタ              H/C：加熱コイル              C/W：冷却コイル</p> <p style="text-align: center;">中央制御室関係空調設備</p>			<p>【大飯】共用の相違              ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>

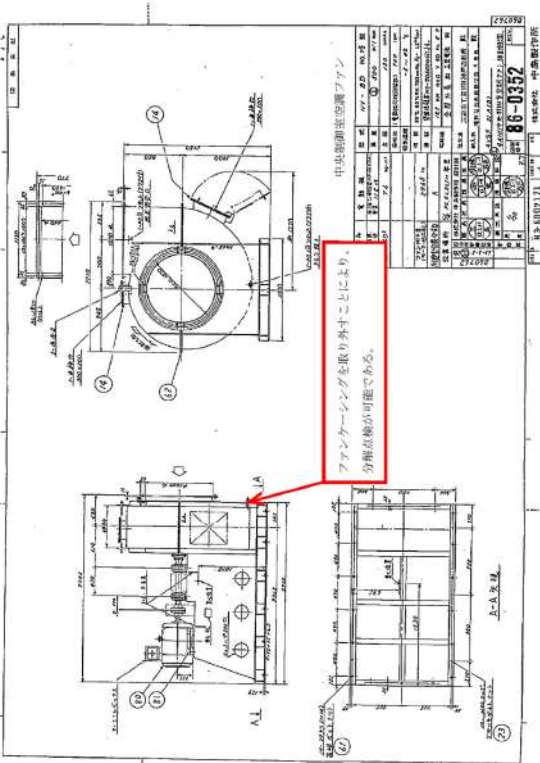
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																	
<p>中央制御室循環ファン</p> <p>ファンケーシングを取り外すことで、 分解点検が可能である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部品番号</th> <th>部品名</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> <tr><td>3</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> <tr><td>4</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> <tr><td>5</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> <tr><td>6</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> <tr><td>7</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> <tr><td>8</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> <tr><td>9</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> <tr><td>10</td><td>ファンケーシング</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	部品番号	部品名	数量	1	ファンケーシング	1	2	ファンケーシング	1	3	ファンケーシング	1	4	ファンケーシング	1	5	ファンケーシング	1	6	ファンケーシング	1	7	ファンケーシング	1	8	ファンケーシング	1	9	ファンケーシング	1	10	ファンケーシング	1			<p>【大飯】共用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は4号炉の設備を記載している。</li> </ul>
部品番号	部品名	数量																																		
1	ファンケーシング	1																																		
2	ファンケーシング	1																																		
3	ファンケーシング	1																																		
4	ファンケーシング	1																																		
5	ファンケーシング	1																																		
6	ファンケーシング	1																																		
7	ファンケーシング	1																																		
8	ファンケーシング	1																																		
9	ファンケーシング	1																																		
10	ファンケーシング	1																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
 <p>中圧制御室空機ファン          1. 型式: 86-0352          2. 製造番号: 86-0352          3. 製造年: 1986          4. 製造工場: 中島製作所</p> <p>ファンケーシングを取り外すことにより、          分解点検が可能である。</p>			<p>【大飯】共用の相違          ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="91 938 248 1042">機器の名称</th> <th data-bbox="248 938 405 1042">東電製(機器名)</th> <th data-bbox="405 938 633 1042">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</th> <th data-bbox="539 938 633 1042">機名 又は機種</th> <th data-bbox="539 938 633 1042">適合形式 又は規格</th> <th data-bbox="539 938 633 1042">備考 ※</th> <th data-bbox="539 938 633 1042">備考 (1)対応する 設備を記載する</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="91 826 248 938">中央制御室非用電源装置</td> <td data-bbox="248 826 405 938">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 826 633 938">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 826 633 938">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 826 633 938">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 826 633 938">備考 ※</td> <td data-bbox="539 826 633 938">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 778 248 826">A中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 778 405 826">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 778 633 826">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 778 633 826">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 778 633 826">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 778 633 826">備考 ※</td> <td data-bbox="539 778 633 826">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 730 248 778">B中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 730 405 778">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 730 633 778">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 730 633 778">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 730 633 778">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 730 633 778">備考 ※</td> <td data-bbox="539 730 633 778">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 683 248 730">C中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 683 405 730">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 683 633 730">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 683 633 730">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 683 633 730">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 683 633 730">備考 ※</td> <td data-bbox="539 683 633 730">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 635 248 683">D中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 635 405 683">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 635 633 683">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 635 633 683">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 635 633 683">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 635 633 683">備考 ※</td> <td data-bbox="539 635 633 683">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 587 248 635">E中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 587 405 635">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 587 633 635">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 587 633 635">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 587 633 635">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 587 633 635">備考 ※</td> <td data-bbox="539 587 633 635">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 539 248 587">F中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 539 405 587">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 539 633 587">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 539 633 587">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 539 633 587">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 539 633 587">備考 ※</td> <td data-bbox="539 539 633 587">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 491 248 539">G中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 491 405 539">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 491 633 539">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 491 633 539">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 491 633 539">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 491 633 539">備考 ※</td> <td data-bbox="539 491 633 539">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 443 248 491">H中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 443 405 491">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 443 633 491">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 443 633 491">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 443 633 491">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 443 633 491">備考 ※</td> <td data-bbox="539 443 633 491">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 395 248 443">I中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 395 405 443">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 395 633 443">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 395 633 443">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 395 633 443">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 395 633 443">備考 ※</td> <td data-bbox="539 395 633 443">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 347 248 395">J中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 347 405 395">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 347 633 395">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 347 633 395">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 347 633 395">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 347 633 395">備考 ※</td> <td data-bbox="539 347 633 395">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 300 248 347">K中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 300 405 347">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 300 633 347">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 300 633 347">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 300 633 347">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 300 633 347">備考 ※</td> <td data-bbox="539 300 633 347">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 252 248 300">L中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 252 405 300">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 252 633 300">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 252 633 300">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 252 633 300">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 252 633 300">備考 ※</td> <td data-bbox="539 252 633 300">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 204 248 252">M中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 204 405 252">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 204 633 252">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 204 633 252">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 204 633 252">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 204 633 252">備考 ※</td> <td data-bbox="539 204 633 252">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 156 248 204">N中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 156 405 204">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 156 633 204">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 156 633 204">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 156 633 204">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 156 633 204">備考 ※</td> <td data-bbox="539 156 633 204">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="91 108 248 156">O中央制御室非用電源装置ファン、電動機</td> <td data-bbox="248 108 405 156">東電製(機器名)</td> <td data-bbox="405 108 633 156">品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)</td> <td data-bbox="539 108 633 156">機名 又は機種</td> <td data-bbox="539 108 633 156">適合形式 又は規格</td> <td data-bbox="539 108 633 156">備考 ※</td> <td data-bbox="539 108 633 156">備考 (1)対応する 設備を記載する</td> </tr> </tbody> </table>	機器の名称	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	中央制御室非用電源装置	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	A中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	B中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	C中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	D中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	E中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	F中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	G中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	H中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	I中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	J中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	K中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	L中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	M中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	N中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する	O中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する			<p>【大飯】共用の相違                  ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>
機器の名称	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
中央制御室非用電源装置	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
A中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
B中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
C中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
D中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
E中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
F中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
G中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
H中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
I中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
J中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
K中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
L中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
M中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
N中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				
O中央制御室非用電源装置ファン、電動機	東電製(機器名)	品名及び仕様等の項目 ファン、電動機、ケーブル、タンク (電動機等を含む)	機名 又は機種	適合形式 又は規格	備考 ※	備考 (1)対応する 設備を記載する																																																																																																																				

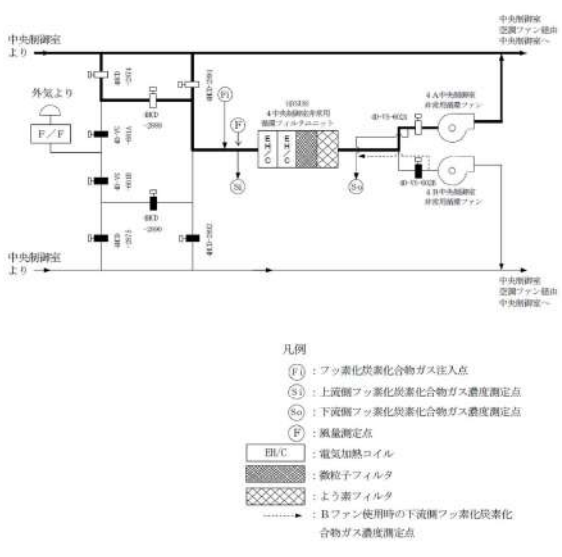
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: right;">改 1</p> <p>関西電力株式会社 大飯発電所                      第4号機 第15保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>施設名：放射線管理施設                      検査名：中央制御室非常用循環系フィルター性能検査                      要領書番号：O4-15-147</p>			<p>【大飯】共用の相違                      ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: center;">添付資料-6</p> <p style="text-align: center;">中央制御室非常用循環系系統図</p>  <p style="text-align: center;">(注) 中央制御室非常用循環ファン運転については、検査時期の状態により異なる場合がある。          本図は、4A中央制御室非常用循環ファン運転時のダンパが開閉状態を示す。</p>			<p style="color: red;">【大飯】 共用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は4号炉の設備を記載している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: right;">改 3</p> <p style="text-align: center;">関西電力株式会社 大飯発電所                      第4号機 第15保全サイクル                      定期事業者検査要領書</p> <p>施設名：放射線管理施設                      検査名：1次系換気空調設備検査                      要領書番号：O4-15-315</p>			<p>【大飯】共用の相違                      ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: center;">検査系統図</p> <p style="text-align: center;">中央制御室関係空調設備</p> <p style="text-align: right;">(凡例)                  F：フィルタ                  H/C：加熱ノイズ                  C/W：冷間ノイズ</p>			<p>【大飯】共用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は4号炉の設備を記載している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
			<p>【大飯】共用の相違                  ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>







赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
			<p>【大飯】共用の相違                  ・大飯は4号炉の設備を記載している。</p>

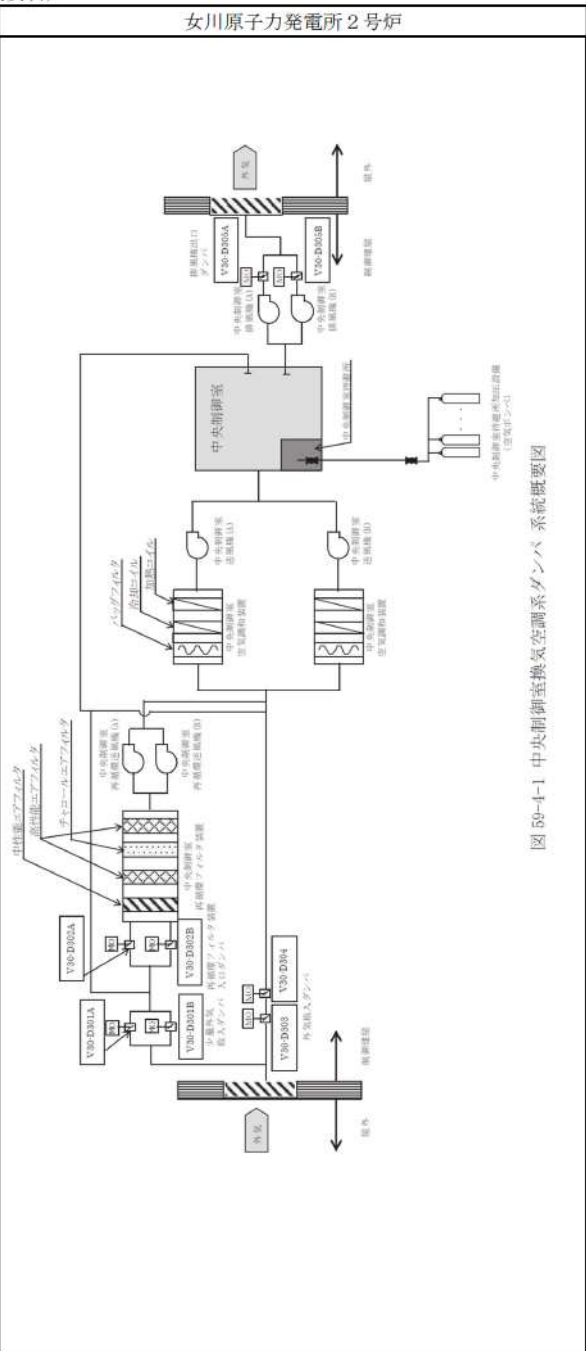
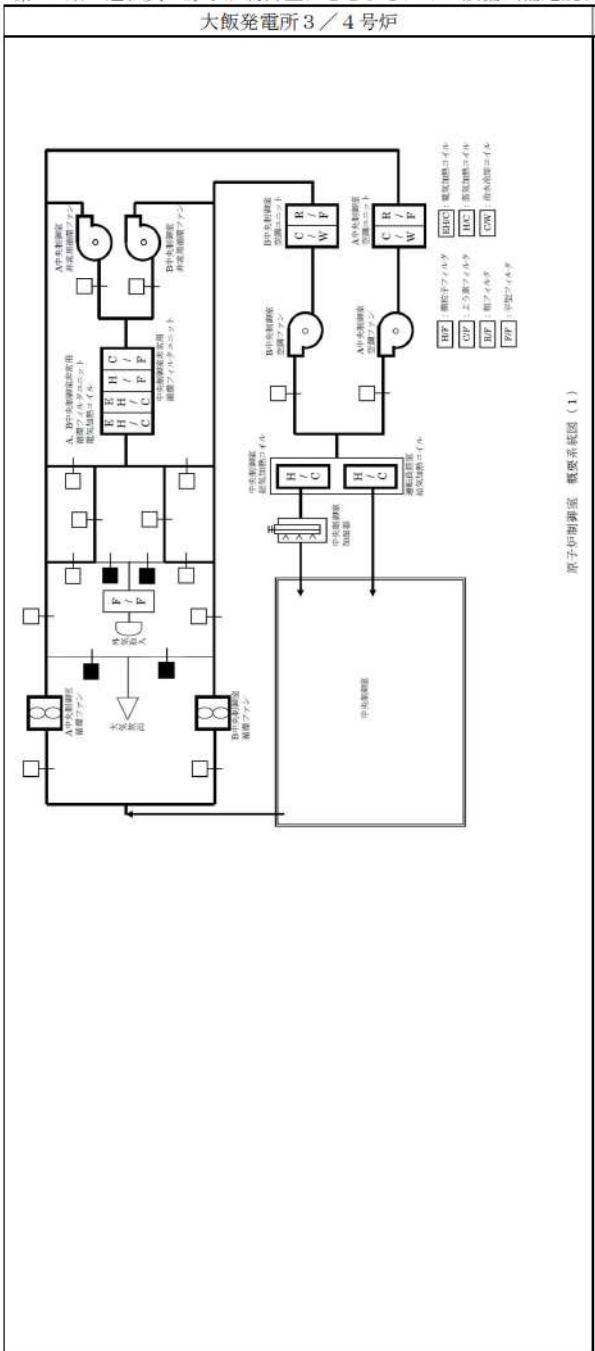
泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>59-5 系統図</p>	<p>59-4 系統図</p>	<p>59-4 系統図</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)



泊発電所 3 号炉

No	機器名称	状態の変化	操作場所	操作方法	備考
①	B-中央制御室結気ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	交流電源
②	B-中央制御室循環ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	交流電源
③	A-中央制御室非常用循環ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	交流電源
④	中央制御室排気ファン	起動→停止	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	交流電源
⑤	A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ	全開→全閉	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑥	A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ	全開→全閉	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑦	A-中央制御室外気取入ダンパ	全開→全閉	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑧	A-中央制御室排気風量調節ダンパ	調整開→全閉	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑨	中央制御室排気第 1 隔離ダンパ	全開→全閉	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑩	中央制御室排気第 2 隔離ダンパ	全開→全閉	原子炉補助建屋 T.P.17.8e 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気

図 59-4-1 中央制御室空調装置 閉回路循環運転時 (A 系列運転中・交流動力電源が正常な場合)

差異理由

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉

女川原子力発電所 2 号炉

泊発電所 3 号炉

差異理由

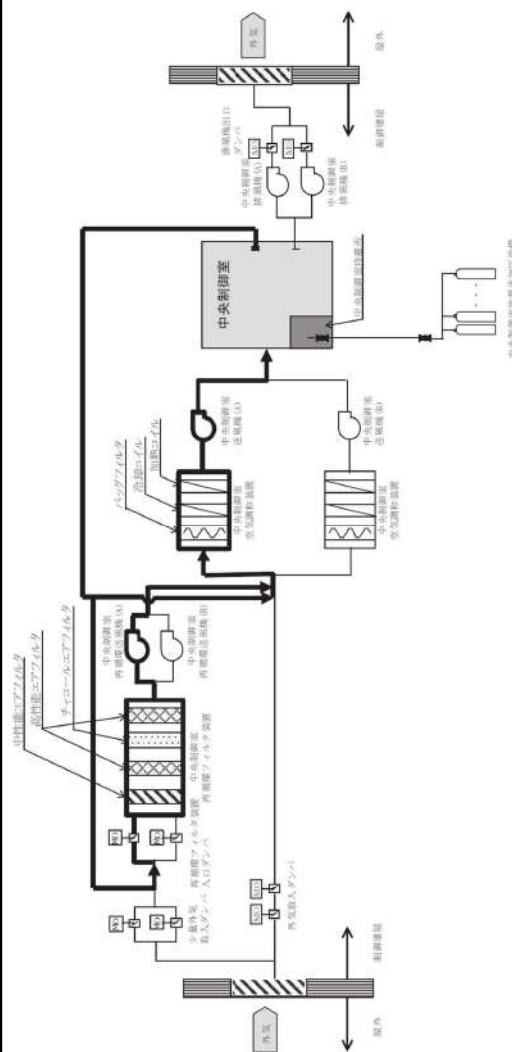


図 59-4-2 中央制御室換気空調系 系統概要図 (中央制御室換気空調系 事故時運転モード時)

No	機器名称	状態の変化	操作場所	操作方法	備考
①	ダンパ駆動用制御用空気ミニチュエア弁	全閉→全開	原子伊補助建屋 T.P.24.8a	手動操作	-
②	A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ	全閉→全開	原子伊補助建屋 T.P.24.8a	手動操作	-
③	A-中央制御室熱気ファン出口ダンパ	全閉→全開	原子伊補助建屋 T.P.24.8a	手動操作	-
④	A-中央制御室循環ファン入口ダンパ	全閉→全開	原子伊補助建屋 T.P.24.8a	手動操作	-
⑤	A-中央制御室外気取入風量調節ダンパ	全閉→開閉	原子伊補助建屋 T.P.24.8a	手動操作	-
⑥	A-中央制御室循環風量調節ダンパ	全閉→開閉	原子伊補助建屋 T.P.24.8a	手動操作	-
⑦	A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ	全閉→全開	原子伊補助建屋 T.P.24.8a	手動操作	-
⑧	A-中央制御室熱気ファン	停止→起動	原子伊補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	操作器操作	交流電源
⑨	A-中央制御室循環ファン	停止→起動	原子伊補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	操作器操作	交流電源
⑩	A-中央制御室非常用循環ファン	停止→起動	原子伊補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	操作器操作	交流電源

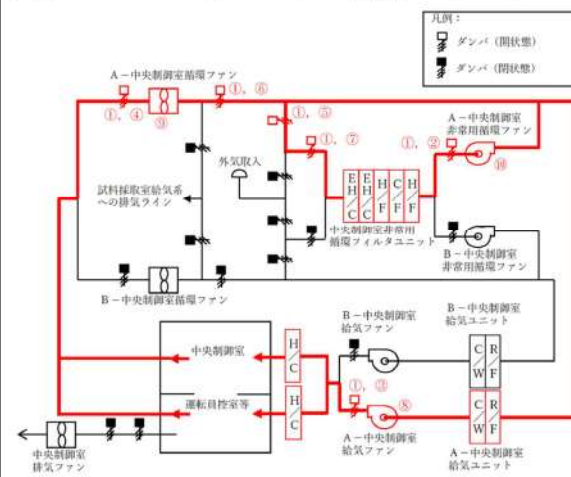
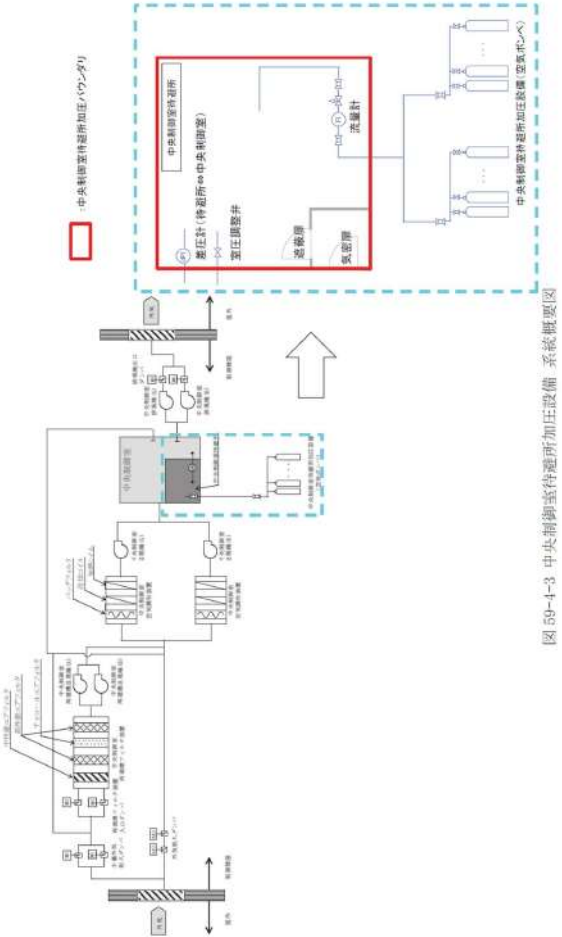


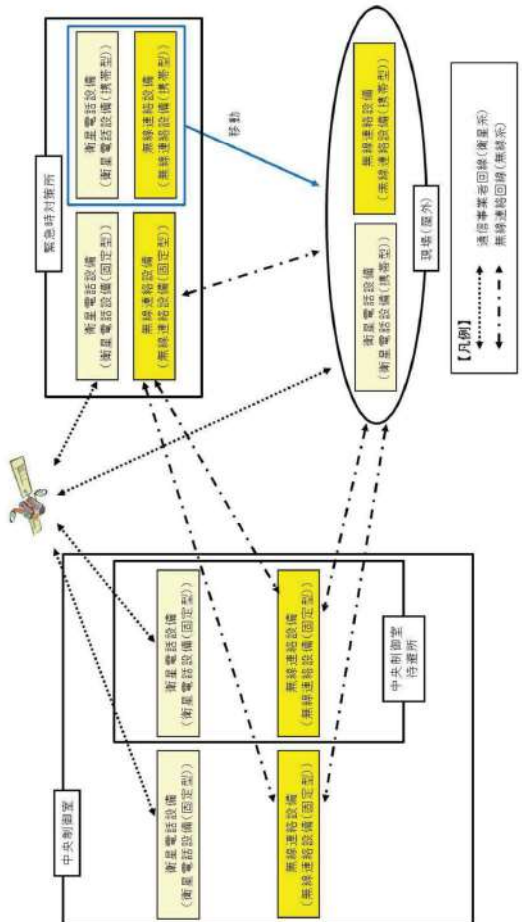
図 59-4-2 中央制御室空調装置 閉回路循環運転時 (A 系列運転中・全交流動力電源が喪失した場合)



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	 <p>図 59-4-3 中央制御室付設追加圧設備 系統概要図</p>		<p>①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	 <p style="text-align: center;">図 59-4-4 無線連絡設備 (固定型) 及び衛星電話設備 (固定型) 系統概要図</p>		<p>①の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由
	<p>女川原子力発電所</p> <p>図 59-4-5 データ表示装置 (特種所) 系統概要図</p>		<p>①の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																				
<table border="1"> <tr> <td>No.</td> <td>機器名称</td> <td>状態の変化</td> <td>操作方法</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>非常用ガス処理装置入口弁 (A)</td> <td>全閉→全開</td> <td>スイッチ操作</td> <td>ACV (A) 及び補助風機スイッチによる 遠隔一括運転</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>非常用ガス処理装置空気圧調整装置 (A) 入口弁</td> <td>全閉→全開</td> <td>スイッチ操作</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>非常用ガス処理装置空気圧調整装置 (A) 出口弁</td> <td>全閉→全開</td> <td>スイッチ操作</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>非常用ガス処理装置排気弁</td> <td>閉止→全開</td> <td>スイッチ操作</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>原子炉建屋アローアフト (A) を閉止装置</td> <td>全閉→全開</td> <td>スイッチ操作</td> <td></td> </tr> </table>	No.	機器名称	状態の変化	操作方法	備考	①	非常用ガス処理装置入口弁 (A)	全閉→全開	スイッチ操作	ACV (A) 及び補助風機スイッチによる 遠隔一括運転	②	非常用ガス処理装置空気圧調整装置 (A) 入口弁	全閉→全開	スイッチ操作		③	非常用ガス処理装置空気圧調整装置 (A) 出口弁	全閉→全開	スイッチ操作		④	非常用ガス処理装置排気弁	閉止→全開	スイッチ操作		⑤	原子炉建屋アローアフト (A) を閉止装置	全閉→全開	スイッチ操作			<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>機器名称</th> <th>状態の変化</th> <th>操作場所</th> <th>操作方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>A-アニュラス空気浄化ファン</td> <td>停止→起動</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室</td> <td>操作器操作</td> <td>うち 1 台使用 交流電源</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>B-アニュラス空気浄化ファン</td> <td>停止→起動</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室</td> <td>操作器操作</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>A-アニュラス排気ダンパ</td> <td>全閉→全開</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室</td> <td>遠動</td> <td>4 系使用時 直流電源 制御用空気</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>B-アニュラス排気ダンパ</td> <td>全閉→全開</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室</td> <td>遠動</td> <td>5 系使用時 直流電源 制御用空気</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>A-アニュラス全量排気弁</td> <td>全閉→全開</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室</td> <td>遠動</td> <td>4 系使用時 直流電源 制御用空気</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>B-アニュラス全量排気弁</td> <td>全閉→全開</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室</td> <td>遠動</td> <td>5 系使用時 直流電源 制御用空気</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>A-アニュラス戻りダンパ</td> <td>全閉→調整開</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室</td> <td>遠動</td> <td>4 系使用時 直流電源 制御用空気</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>B-アニュラス戻りダンパ</td> <td>全閉→調整開</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室</td> <td>遠動</td> <td>5 系使用時 直流電源 制御用空気</td> </tr> </tbody> </table> 	No.	機器名称	状態の変化	操作場所	操作方法	備考	①	A-アニュラス空気浄化ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	操作器操作	うち 1 台使用 交流電源	②	B-アニュラス空気浄化ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	操作器操作		③	A-アニュラス排気ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	4 系使用時 直流電源 制御用空気	④	B-アニュラス排気ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	5 系使用時 直流電源 制御用空気	⑤	A-アニュラス全量排気弁	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	4 系使用時 直流電源 制御用空気	⑥	B-アニュラス全量排気弁	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	5 系使用時 直流電源 制御用空気	⑦	A-アニュラス戻りダンパ	全閉→調整開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	4 系使用時 直流電源 制御用空気	⑧	B-アニュラス戻りダンパ	全閉→調整開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	5 系使用時 直流電源 制御用空気	<p>②の相違</p>
No.	機器名称	状態の変化	操作方法	備考																																																																																			
①	非常用ガス処理装置入口弁 (A)	全閉→全開	スイッチ操作	ACV (A) 及び補助風機スイッチによる 遠隔一括運転																																																																																			
②	非常用ガス処理装置空気圧調整装置 (A) 入口弁	全閉→全開	スイッチ操作																																																																																				
③	非常用ガス処理装置空気圧調整装置 (A) 出口弁	全閉→全開	スイッチ操作																																																																																				
④	非常用ガス処理装置排気弁	閉止→全開	スイッチ操作																																																																																				
⑤	原子炉建屋アローアフト (A) を閉止装置	全閉→全開	スイッチ操作																																																																																				
No.	機器名称	状態の変化	操作場所	操作方法	備考																																																																																		
①	A-アニュラス空気浄化ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	操作器操作	うち 1 台使用 交流電源																																																																																		
②	B-アニュラス空気浄化ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	操作器操作																																																																																			
③	A-アニュラス排気ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	4 系使用時 直流電源 制御用空気																																																																																		
④	B-アニュラス排気ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	5 系使用時 直流電源 制御用空気																																																																																		
⑤	A-アニュラス全量排気弁	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	4 系使用時 直流電源 制御用空気																																																																																		
⑥	B-アニュラス全量排気弁	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	5 系使用時 直流電源 制御用空気																																																																																		
⑦	A-アニュラス戻りダンパ	全閉→調整開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	4 系使用時 直流電源 制御用空気																																																																																		
⑧	B-アニュラス戻りダンパ	全閉→調整開	原子炉補助建屋 T.P.17.8a 中央制御室	遠動	5 系使用時 直流電源 制御用空気																																																																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																																																																																								
<table border="1"> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3">50% 原子炉起動スイングによる高帯域一圧運転</td> </tr> <tr> <td>操作場所</td> <td>中央制御室</td> <td>中央制御室</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td>操作方法</td> <td>スイッチ操作</td> <td>スイッチ操作</td> <td>スイッチ操作</td> </tr> <tr> <td>状態の変化</td> <td>全開→全開</td> <td>全開→全開</td> <td>全開→全開</td> </tr> <tr> <td>機器名称</td> <td>非常用ガス処理器入口弁 (0)</td> <td>非常用ガス処理器入口弁 (0)</td> <td>非常用ガス処理器入口弁 (0)</td> </tr> <tr> <td>No</td> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> </tr> </table>	備考	50% 原子炉起動スイングによる高帯域一圧運転			操作場所	中央制御室	中央制御室	中央制御室	操作方法	スイッチ操作	スイッチ操作	スイッチ操作	状態の変化	全開→全開	全開→全開	全開→全開	機器名称	非常用ガス処理器入口弁 (0)	非常用ガス処理器入口弁 (0)	非常用ガス処理器入口弁 (0)	No	①	②	③	<p>図 59-1-8 非常用ガス処理系 系統概要図 (非常用ガス処理系 (B) を手動起動する場合)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>機器名称</th> <th>状態の変化</th> <th>操作場所</th> <th>操作方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>D-VS-653 制御用空気供給弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>試料採取室排気隔離ダンパ</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>V-VS-102B 制御用空気供給弁</td> <td>全開→全開</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>ホース</td> <td>ホース接続</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>接続操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>ホース</td> <td>ホース接続</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>接続操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスボンベ口弁 1</td> <td>全開→全開</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>1 系使用時</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル入口弁 1</td> <td>全開→全開</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスボンベ口弁 2</td> <td>全開→全開</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>2 系使用時</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル入口弁 2</td> <td>全開→全開</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル減圧弁</td> <td>全開→調整</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル出口弁 2</td> <td>全開→全開</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑫</td> <td>アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル出口弁 1</td> <td>全開→全開</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑬</td> <td>V-VS-102B 窒素ガス供給弁 (SA 対策)</td> <td>全開→全開</td> <td>馬辺補機棟 T.P.40.3m</td> <td>手動操作</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑭</td> <td>B-アニュラス空気浄化ファン</td> <td>停止→起動</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8m 中央制御室</td> <td>操作器操作</td> <td>交流電源</td> </tr> <tr> <td>⑮</td> <td>B-アニュラス全量排気弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8m 中央制御室</td> <td>連動</td> <td>直流電源 制御用空気</td> </tr> </tbody> </table> <p>図 59-4-4 アニュラス空気浄化設備 系統概要図 (全交流動力電源及び直流電源喪失した場合)</p>	No	機器名称	状態の変化	操作場所	操作方法	備考	①	D-VS-653 制御用空気供給弁	全開→全開	原子炉補助建屋 T.P.40.3m	手動操作	-	②	試料採取室排気隔離ダンパ	全開→全開	原子炉補助建屋 T.P.40.3m	手動操作	-	③	V-VS-102B 制御用空気供給弁	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-	④	ホース	ホース接続	馬辺補機棟 T.P.40.3m	接続操作	-	⑤	ホース	ホース接続	馬辺補機棟 T.P.40.3m	接続操作	-	⑥	アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスボンベ口弁 1	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	1 系使用時	⑦	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル入口弁 1	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-	⑧	アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスボンベ口弁 2	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	2 系使用時	⑨	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル入口弁 2	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-	⑩	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル減圧弁	全開→調整	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-	⑪	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル出口弁 2	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-	⑫	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル出口弁 1	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-	⑬	V-VS-102B 窒素ガス供給弁 (SA 対策)	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-	⑭	B-アニュラス空気浄化ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.P.17.8m 中央制御室	操作器操作	交流電源	⑮	B-アニュラス全量排気弁	全開→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8m 中央制御室	連動	直流電源 制御用空気	<p>②の相違</p>
備考	50% 原子炉起動スイングによる高帯域一圧運転																																																																																																																										
操作場所	中央制御室	中央制御室	中央制御室																																																																																																																								
操作方法	スイッチ操作	スイッチ操作	スイッチ操作																																																																																																																								
状態の変化	全開→全開	全開→全開	全開→全開																																																																																																																								
機器名称	非常用ガス処理器入口弁 (0)	非常用ガス処理器入口弁 (0)	非常用ガス処理器入口弁 (0)																																																																																																																								
No	①	②	③																																																																																																																								
No	機器名称	状態の変化	操作場所	操作方法	備考																																																																																																																						
①	D-VS-653 制御用空気供給弁	全開→全開	原子炉補助建屋 T.P.40.3m	手動操作	-																																																																																																																						
②	試料採取室排気隔離ダンパ	全開→全開	原子炉補助建屋 T.P.40.3m	手動操作	-																																																																																																																						
③	V-VS-102B 制御用空気供給弁	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-																																																																																																																						
④	ホース	ホース接続	馬辺補機棟 T.P.40.3m	接続操作	-																																																																																																																						
⑤	ホース	ホース接続	馬辺補機棟 T.P.40.3m	接続操作	-																																																																																																																						
⑥	アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスボンベ口弁 1	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	1 系使用時																																																																																																																						
⑦	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル入口弁 1	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-																																																																																																																						
⑧	アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスボンベ口弁 2	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	2 系使用時																																																																																																																						
⑨	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル入口弁 2	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-																																																																																																																						
⑩	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル減圧弁	全開→調整	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-																																																																																																																						
⑪	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル出口弁 2	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-																																																																																																																						
⑫	アニュラス全量排気弁等操作用窒素供給ゲネル出口弁 1	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-																																																																																																																						
⑬	V-VS-102B 窒素ガス供給弁 (SA 対策)	全開→全開	馬辺補機棟 T.P.40.3m	手動操作	-																																																																																																																						
⑭	B-アニュラス空気浄化ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.P.17.8m 中央制御室	操作器操作	交流電源																																																																																																																						
⑮	B-アニュラス全量排気弁	全開→全開	原子炉補助建屋 T.P.17.8m 中央制御室	連動	直流電源 制御用空気																																																																																																																						



泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	<p>59-6                      容量設定根拠</p>	<p>59-5 容量設定根拠</p> <div data-bbox="1294 746 1816 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>本資料は、一部、詳細設計中のものも含まれているため、設計の進捗により変更する場合がある。</p> </div>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

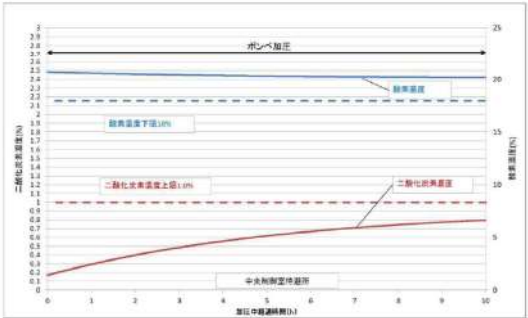
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由						
	<table border="1" data-bbox="667 231 1229 316"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="678 236 869 268">名称</th> <th data-bbox="869 236 1218 268">中央制御室待避所の正圧化差圧</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="678 268 813 311">中央制御室待避所/隣接区画の正圧化差圧</td> <td data-bbox="813 268 869 311">Pa</td> <td data-bbox="869 268 1218 311">20以上</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="678 320 1218 406"> <b>【設定根拠】</b>                      中央制御室待避所加圧バウンダリは、配置上、動圧の影響を直接受けない屋内に設置されているため、室内へのインリークは隣接区画との温度差によるものと考えられる。                 </p> <p data-bbox="678 427 1218 539">                     中央制御室待避所の加圧バウンダリ設計に際しては、炉心の著しい損傷の発生時の室内の温度を、中央制御室のある制御建屋の設計最高温度40.0℃、隣接区画を設計最低温度-4.9℃と仮定すると、中央制御室待避所の階層高さは最大3.3mであるため、以下のとおり約7Paの圧力差があれば、温度の影響を無視できると考えられる。                 </p> $  \begin{aligned}  \Delta P &= [ (-4.9\text{℃の乾き空気密度}) \\  &\quad - (+40.0\text{℃の乾き空気の密度}) ] \times \text{階層高さ} \\  &= (1.316 - 1.127) \times 3.3 \\  &= 0.189 \times 3.3 \\  &= 0.6237\text{kg/m}^3 (\approx 7\text{Pa})  \end{aligned}  $ <p data-bbox="678 676 1218 719">                     このため、中央制御室待避所の加圧バウンダリの必要差圧は設計裕度を考慮して隣接区画+20Paとする。                 </p>	名称		中央制御室待避所の正圧化差圧	中央制御室待避所/隣接区画の正圧化差圧	Pa	20以上		<p data-bbox="1832 231 1906 252">①の相違</p>
名称		中央制御室待避所の正圧化差圧							
中央制御室待避所/隣接区画の正圧化差圧	Pa	20以上							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

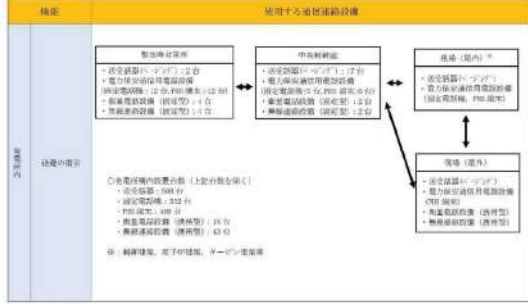
第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由															
	<table border="1" data-bbox="667 231 1229 375"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本数</td> <td>本</td> <td>40（注1）、（80（注2））</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>L/本</td> <td>46.7</td> </tr> <tr> <td>充填圧力</td> <td>MPa</td> <td>19.6（35℃）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">機器仕様に関する注記</td> <td>注1：要求値を示す 注2：公称値を示す</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="696 375 1223 414"> <b>【設定根拠】</b>                      必要ポンプ本数としては、以下に示すとおり40本以上確保する設計とする。                 </p> <p data-bbox="696 438 1223 566">                     (1) 正圧維持に必要な空気ポンプ本数                      中央制御室待避所を10時間正圧化するために必要な空気量は、中央制御室待避所の漏えい量162m<sup>3</sup>(中央制御室待避所の容積162m<sup>3</sup>に対し部屋容積比0.1回/hの漏えい量×10時間分)に余裕を考慮した300m<sup>3</sup>とする。ポンプ使用可能量を7.5m<sup>3</sup>/本とした場合(実容量約9m<sup>3</sup>/本に対し、外気温度-4.9℃での容量を保守的に評価した値)、必要ポンプ本数は下記のとおり40本となる。                 </p> <ul data-bbox="750 582 1120 670" style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ初期充填圧力 : 19.6MPa (at 35℃)</li> <li>・ポンプ内容積 : 46.7L</li> <li>・圧力調整弁最低制御圧力 : 2.0MPa</li> <li>・ポンプ供給可能空気量 : 7.5m<sup>3</sup>/本 (at -4.9℃)</li> </ul> <p data-bbox="734 694 1120 734">                     以上より、必要ポンプ本数は下記の通り40本以上となる。  <math>300 \text{ m}^3 \div 7.5 \text{ m}^3/\text{本} = 40 \text{ 本}</math> </p> <p data-bbox="696 758 1223 997">                     (2) 酸素濃度及び二酸化炭素濃度維持に必要なポンプ本数                      中央制御室待避所における加圧設備使用時の酸素濃度及び二酸化炭素濃度並びに空気ポンプ本数について評価を行った。中央制御室待避所への空気の流入はないものとし、放射性震通過中に収容する人数7名による10時間後の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の変化は、許容酸素濃度18%以上及び許容二酸化炭素濃度1.0%以下を満足する結果となった。したがって、許容酸素濃度及び許容二酸化炭素濃度を維持するのに必要な空気ポンプ本数は、正圧維持に必要な40本となる。現場に設置するポンプ本数については、加圧開始及び加圧停止の前後1時間の余裕分8本をカードル単位(20本/基)として切り上げた20本、及びメンテナンス予備20本を加えた合計80本確保する設計とする。                 </p> <p data-bbox="696 1005 1223 1069">                     なお、中央制御室待避所に対する正圧化試験を実施し10時間正圧を維持するのに十分である必要ポンプ本数を確認し、その結果を踏まえて適切な空気ポンプ本数を確保する。                 </p>	名称		中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）	本数	本	40（注1）、（80（注2））	容量	L/本	46.7	充填圧力	MPa	19.6（35℃）	機器仕様に関する注記		注1：要求値を示す 注2：公称値を示す		<p data-bbox="1839 231 1915 255" style="color: red;">①の相違</p>
名称		中央制御室待避所加圧設備（空気ポンプ）																
本数	本	40（注1）、（80（注2））																
容量	L/本	46.7																
充填圧力	MPa	19.6（35℃）																
機器仕様に関する注記		注1：要求値を示す 注2：公称値を示す																

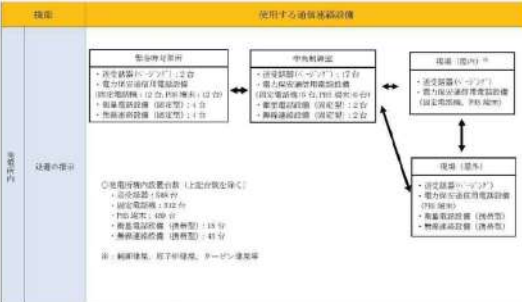
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由						
	<p>(a) 評価条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在室人員：12 名</li> <li>・中央制御室待避所内体積：162m<sup>3</sup></li> <li>・空気流入はないものとする。</li> <li>・許容酸素濃度：18%以上 (労働安全衛生規則)</li> <li>・許容二酸化炭素濃度：1.0%以下 (労働安全衛生規則の許容二酸化炭素濃度 1.5%に余裕を見た値)</li> <li>・酸素消費量：0.022m<sup>3</sup>/h/人 (「空気調和・衛生工学便覧」の作業強度分類の「静座」の作業強度に対する酸素消費量)</li> <li>・呼吸による炭酸ガス排出量：0.022m<sup>3</sup>/h/人 (「空気調和・衛生工学便覧」の労働強度別二酸化炭素吐出量の「極軽作業」の作業程度に対する二酸化炭素吐出量の値)</li> <li>・加圧開始時酸素濃度：20.65% (中央制御室内酸素濃度)</li> <li>・加圧開始時二酸化炭素濃度：0.166% (中央制御室内二酸化炭素濃度)</li> <li>・空気ポンプ加圧時間：10 時間</li> </ul> <p>(b) 評価結果</p> <p>10 時間加圧の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の時間変化を図 59-6-1 に示す。酸素濃度の最小値及び二酸化炭素濃度の最大値は以下のとおりであり、いずれも許容値を満足している。</p> <table border="1" data-bbox="734 667 1169 715"> <thead> <tr> <th></th> <th>酸素濃度 (%)</th> <th>二酸化炭素濃度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加圧 10 時間後</td> <td>20.16</td> <td>0.793</td> </tr> </tbody> </table>  <p>図 59-6-1 中央制御室待避所待避期間中の酸素濃度及び二酸化炭素濃度変化</p>		酸素濃度 (%)	二酸化炭素濃度 (%)	加圧 10 時間後	20.16	0.793		①の相違
	酸素濃度 (%)	二酸化炭素濃度 (%)							
加圧 10 時間後	20.16	0.793							

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由						
	<table border="1" data-bbox="672 231 1227 300"> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>無線連絡設備 (固定型)</td> </tr> <tr> <td>台数</td> <td>台</td> <td>1</td> </tr> </table> <p data-bbox="672 327 1227 438"> <b>【設定根拠】</b>                      中央制御室待避所には、炉心の著しい損傷の発生時に正圧化した中央制御室待避所に待避した場合においても、無線連絡設備 (固定型) を設置することで、発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うことができる設計とする。                 </p>  <p data-bbox="761 813 1120 837">図 59-6-2 機能ごとに必要な通信連絡設備 (発電所内)</p>	名称		無線連絡設備 (固定型)	台数	台	1		<p data-bbox="1836 231 1915 255">①の相違</p>
名称		無線連絡設備 (固定型)							
台数	台	1							

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由						
	<table border="1" data-bbox="672 231 1227 311"> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>衛星電話設備 (固定型)</td> </tr> <tr> <td>台数</td> <td>台</td> <td>1</td> </tr> </table> <p data-bbox="689 335 772 354">【設定根拠】</p> <p data-bbox="689 355 1227 443">中央制御室待避所には、炉心の著しい損傷の発生時に正圧化した中央制御室待避所に待避した場合においても、衛星電話設備 (固定型) を設置することで、発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うことができる設計とする。</p>  <p data-bbox="766 821 1131 841">図 59-6-3 機能ごとに必要な通信連絡設備 (発電所内)</p>	名称		衛星電話設備 (固定型)	台数	台	1		<p data-bbox="1832 228 1912 247">①の相違</p>
名称		衛星電話設備 (固定型)							
台数	台	1							



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																																			
	<table border="1" data-bbox="674 240 1227 1023"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>データ表示装置（待避所）</th> </tr> <tr> <th>台数</th> <th>台</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">【設定根拠】</td> </tr> <tr> <td colspan="3">データ表示装置（待避所）は、炉心の著しい損傷が発生した場合において、中央制御室待避所に待避中に継続的にプラントパラメータを監視するために必要なデータ量を伝送及び表示が可能な設計とする。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">表 59-6-1 データ表示装置（待避所）で確認できるパラメータ（1/10）</td> </tr> <tr> <th>目 的</th> <th colspan="2">対象パラメータ</th> </tr> <tr> <td rowspan="32">炉心規定値の 状態確認</td> <td colspan="2">APRMレベル（平均）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">APRM (A) レベル</td> </tr> <tr> <td colspan="2">APRM (B) レベル</td> </tr> <tr> <td colspan="2">APRM (C) レベル</td> </tr> <tr> <td colspan="2">APRM (D) レベル</td> </tr> <tr> <td colspan="2">APRM (E) レベル</td> </tr> <tr> <td colspan="2">APRM (F) レベル</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (A) 状態計数率</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (B) 状態計数率</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (C) 状態計数率</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (D) 状態計数率</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (E) 状態計数率</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (F) 状態計数率</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (G) 状態計数率</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (H) 状態計数率</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (A) 状態率高高</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (B) 状態率高高</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (C) 状態率高高</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (D) 状態率高高</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (E) 状態率高高</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (F) 状態率高高</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (G) 状態率高高</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (H) 状態率高高</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (A) 稼働%出力</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (B) 稼働%出力</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (C) 稼働%出力</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (D) 稼働%出力</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (E) 稼働%出力</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (F) 稼働%出力</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (G) 稼働%出力</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SRNM (H) 稼働%出力</td> </tr> <tr> <td colspan="2">全機群挿入</td> </tr> </tbody> </table>	名称		データ表示装置（待避所）	台数	台	1	【設定根拠】			データ表示装置（待避所）は、炉心の著しい損傷が発生した場合において、中央制御室待避所に待避中に継続的にプラントパラメータを監視するために必要なデータ量を伝送及び表示が可能な設計とする。			表 59-6-1 データ表示装置（待避所）で確認できるパラメータ（1/10）			目 的	対象パラメータ		炉心規定値の 状態確認	APRMレベル（平均）		APRM (A) レベル		APRM (B) レベル		APRM (C) レベル		APRM (D) レベル		APRM (E) レベル		APRM (F) レベル		SRNM (A) 状態計数率		SRNM (B) 状態計数率		SRNM (C) 状態計数率		SRNM (D) 状態計数率		SRNM (E) 状態計数率		SRNM (F) 状態計数率		SRNM (G) 状態計数率		SRNM (H) 状態計数率		SRNM (A) 状態率高高		SRNM (B) 状態率高高		SRNM (C) 状態率高高		SRNM (D) 状態率高高		SRNM (E) 状態率高高		SRNM (F) 状態率高高		SRNM (G) 状態率高高		SRNM (H) 状態率高高		SRNM (A) 稼働%出力		SRNM (B) 稼働%出力		SRNM (C) 稼働%出力		SRNM (D) 稼働%出力		SRNM (E) 稼働%出力		SRNM (F) 稼働%出力		SRNM (G) 稼働%出力		SRNM (H) 稼働%出力		全機群挿入			<p>①の相違</p>
名称		データ表示装置（待避所）																																																																																				
台数	台	1																																																																																				
【設定根拠】																																																																																						
データ表示装置（待避所）は、炉心の著しい損傷が発生した場合において、中央制御室待避所に待避中に継続的にプラントパラメータを監視するために必要なデータ量を伝送及び表示が可能な設計とする。																																																																																						
表 59-6-1 データ表示装置（待避所）で確認できるパラメータ（1/10）																																																																																						
目 的	対象パラメータ																																																																																					
炉心規定値の 状態確認	APRMレベル（平均）																																																																																					
	APRM (A) レベル																																																																																					
	APRM (B) レベル																																																																																					
	APRM (C) レベル																																																																																					
	APRM (D) レベル																																																																																					
	APRM (E) レベル																																																																																					
	APRM (F) レベル																																																																																					
	SRNM (A) 状態計数率																																																																																					
	SRNM (B) 状態計数率																																																																																					
	SRNM (C) 状態計数率																																																																																					
	SRNM (D) 状態計数率																																																																																					
	SRNM (E) 状態計数率																																																																																					
	SRNM (F) 状態計数率																																																																																					
	SRNM (G) 状態計数率																																																																																					
	SRNM (H) 状態計数率																																																																																					
	SRNM (A) 状態率高高																																																																																					
	SRNM (B) 状態率高高																																																																																					
	SRNM (C) 状態率高高																																																																																					
	SRNM (D) 状態率高高																																																																																					
	SRNM (E) 状態率高高																																																																																					
	SRNM (F) 状態率高高																																																																																					
	SRNM (G) 状態率高高																																																																																					
	SRNM (H) 状態率高高																																																																																					
	SRNM (A) 稼働%出力																																																																																					
	SRNM (B) 稼働%出力																																																																																					
	SRNM (C) 稼働%出力																																																																																					
	SRNM (D) 稼働%出力																																																																																					
	SRNM (E) 稼働%出力																																																																																					
	SRNM (F) 稼働%出力																																																																																					
	SRNM (G) 稼働%出力																																																																																					
	SRNM (H) 稼働%出力																																																																																					
	全機群挿入																																																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																															
	<div data-bbox="667 240 1229 1023" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【設定根拠】 (2/10)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">目 的</th> <th style="width: 90%;">対象パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="28" style="vertical-align: middle;">炉心冷却の 状態確認</td><td>原子炉圧力調整用B/V</td></tr> <tr><td>原子炉圧力調整用A</td></tr> <tr><td>原子炉圧力調整用B</td></tr> <tr><td>原子炉水位調整用P/B/V</td></tr> <tr><td>原子炉水位調整用A</td></tr> <tr><td>原子炉水位調整用B</td></tr> <tr><td>原子炉水位調整用P/B/V</td></tr> <tr><td>原子炉水位調整用A</td></tr> <tr><td>原子炉水位調整用B</td></tr> <tr><td>原子炉水位調整用P/B/V</td></tr> <tr><td>原子炉水位調整用A</td></tr> <tr><td>原子炉水位調整用B</td></tr> <tr><td>PLRポンプ(A) 入口温度</td></tr> <tr><td>PLRポンプ(B) 入口温度</td></tr> <tr><td>SRV 値</td></tr> <tr><td>RHRポンプ(A) 出口流量</td></tr> <tr><td>RHRポンプ(B) 出口流量</td></tr> <tr><td>RHRポンプ(C) 出口流量</td></tr> <tr><td>LPCポンプ出口流量</td></tr> <tr><td>HPCポンプ出口流量</td></tr> <tr><td>RCCポンプ出口流量</td></tr> <tr><td>HPCポンプ出口流量</td></tr> <tr><td>RHRヘッドスプレイン洗浄流量</td></tr> <tr><td>RHR蒸餾器部冷却ライン洗浄流量</td></tr> <tr><td>RHR熱交換器(A) 冷却水入口流量</td></tr> <tr><td>RHR熱交換器(B) 冷却水入口流量</td></tr> <tr><td>RWC A系 蒸気流量</td></tr> <tr><td>RWC B系 蒸気流量</td></tr> </tbody> </table> </div>	目 的	対象パラメータ	炉心冷却の 状態確認	原子炉圧力調整用B/V	原子炉圧力調整用A	原子炉圧力調整用B	原子炉水位調整用P/B/V	原子炉水位調整用A	原子炉水位調整用B	原子炉水位調整用P/B/V	原子炉水位調整用A	原子炉水位調整用B	原子炉水位調整用P/B/V	原子炉水位調整用A	原子炉水位調整用B	PLRポンプ(A) 入口温度	PLRポンプ(B) 入口温度	SRV 値	RHRポンプ(A) 出口流量	RHRポンプ(B) 出口流量	RHRポンプ(C) 出口流量	LPCポンプ出口流量	HPCポンプ出口流量	RCCポンプ出口流量	HPCポンプ出口流量	RHRヘッドスプレイン洗浄流量	RHR蒸餾器部冷却ライン洗浄流量	RHR熱交換器(A) 冷却水入口流量	RHR熱交換器(B) 冷却水入口流量	RWC A系 蒸気流量	RWC B系 蒸気流量		<p>①の相違</p>
目 的	対象パラメータ																																	
炉心冷却の 状態確認	原子炉圧力調整用B/V																																	
	原子炉圧力調整用A																																	
	原子炉圧力調整用B																																	
	原子炉水位調整用P/B/V																																	
	原子炉水位調整用A																																	
	原子炉水位調整用B																																	
	原子炉水位調整用P/B/V																																	
	原子炉水位調整用A																																	
	原子炉水位調整用B																																	
	原子炉水位調整用P/B/V																																	
	原子炉水位調整用A																																	
	原子炉水位調整用B																																	
	PLRポンプ(A) 入口温度																																	
	PLRポンプ(B) 入口温度																																	
	SRV 値																																	
	RHRポンプ(A) 出口流量																																	
	RHRポンプ(B) 出口流量																																	
	RHRポンプ(C) 出口流量																																	
	LPCポンプ出口流量																																	
	HPCポンプ出口流量																																	
	RCCポンプ出口流量																																	
	HPCポンプ出口流量																																	
	RHRヘッドスプレイン洗浄流量																																	
	RHR蒸餾器部冷却ライン洗浄流量																																	
	RHR熱交換器(A) 冷却水入口流量																																	
	RHR熱交換器(B) 冷却水入口流量																																	
	RWC A系 蒸気流量																																	
	RWC B系 蒸気流量																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																						
	<p>【設定快捷】 (3/10)</p> <table border="1" data-bbox="741 288 1160 799"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パワーマータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="18">炉心冷却の 状態確認</td> <td>6. 9kV母線6-2A電圧</td> </tr> <tr><td>6. 9kV母線6-2B電圧</td> </tr> <tr><td>6. 9kV母線6-2E電圧</td> </tr> <tr><td>6. 9kV母線6-2SA1電圧</td> </tr> <tr><td>6. 9kV母線6-2SA2電圧</td> </tr> <tr><td>6. 9kV母線6-2SD1電圧</td> </tr> <tr><td>6. 9kV母線6-2SD2電圧</td> </tr> <tr><td>6. 9kV母線6-2C電圧</td> </tr> <tr><td>6. 9kV母線6-2D電圧</td> </tr> <tr><td>6. 9kV母線6-2H電圧</td> </tr> <tr><td>D/G-2A シェル器投入</td> </tr> <tr><td>D/G-2B シェル器投入</td> </tr> <tr><td>HPCS D/G-2 シェル器投入</td> </tr> <tr><td>凝水の減タンク水位</td> </tr> <tr><td>原子炉圧力容器温度 (原子炉圧力容器側フランジ下部温度)</td> </tr> <tr><td>原子炉圧力容器温度 (給水ノズルN4口温度)</td> </tr> <tr><td>原子炉圧力容器温度 (給水ノズルN4口温度)</td> </tr> <tr><td>原子炉圧力容器温度 (原子炉圧力容器下部上部温度)</td> </tr> <tr><td>原子炉圧力容器温度 (原子炉圧力容器下部温度)</td> </tr> </tbody> </table>	目的	対象パワーマータ	炉心冷却の 状態確認	6. 9kV母線6-2A電圧	6. 9kV母線6-2B電圧	6. 9kV母線6-2E電圧	6. 9kV母線6-2SA1電圧	6. 9kV母線6-2SA2電圧	6. 9kV母線6-2SD1電圧	6. 9kV母線6-2SD2電圧	6. 9kV母線6-2C電圧	6. 9kV母線6-2D電圧	6. 9kV母線6-2H電圧	D/G-2A シェル器投入	D/G-2B シェル器投入	HPCS D/G-2 シェル器投入	凝水の減タンク水位	原子炉圧力容器温度 (原子炉圧力容器側フランジ下部温度)	原子炉圧力容器温度 (給水ノズルN4口温度)	原子炉圧力容器温度 (給水ノズルN4口温度)	原子炉圧力容器温度 (原子炉圧力容器下部上部温度)	原子炉圧力容器温度 (原子炉圧力容器下部温度)		<p>①の相違</p>
目的	対象パワーマータ																								
炉心冷却の 状態確認	6. 9kV母線6-2A電圧																								
	6. 9kV母線6-2B電圧																								
	6. 9kV母線6-2E電圧																								
	6. 9kV母線6-2SA1電圧																								
	6. 9kV母線6-2SA2電圧																								
	6. 9kV母線6-2SD1電圧																								
	6. 9kV母線6-2SD2電圧																								
	6. 9kV母線6-2C電圧																								
	6. 9kV母線6-2D電圧																								
	6. 9kV母線6-2H電圧																								
	D/G-2A シェル器投入																								
	D/G-2B シェル器投入																								
	HPCS D/G-2 シェル器投入																								
	凝水の減タンク水位																								
	原子炉圧力容器温度 (原子炉圧力容器側フランジ下部温度)																								
	原子炉圧力容器温度 (給水ノズルN4口温度)																								
	原子炉圧力容器温度 (給水ノズルN4口温度)																								
	原子炉圧力容器温度 (原子炉圧力容器下部上部温度)																								
原子炉圧力容器温度 (原子炉圧力容器下部温度)																									

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																																												
	<p>【設定換機】 (4/10)</p> <table border="1" data-bbox="741 300 1160 922"> <thead> <tr> <th>目 的</th> <th>対象パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>ドライウエル圧力 (広範囲) (最大)</td></tr> <tr><td></td><td>ドライウエル圧力</td></tr> <tr><td></td><td>圧力換熱器圧力 (最大)</td></tr> <tr><td></td><td>圧力換熱器圧力</td></tr> <tr><td></td><td>RDVバローレーム循環口温度 (最大)</td></tr> <tr><td></td><td>圧力換熱器水位 (R.V.)</td></tr> <tr><td></td><td>圧力換熱器水位 A</td></tr> <tr><td></td><td>圧力換熱器水位 B</td></tr> <tr><td></td><td>圧力換熱器内空気温度 A</td></tr> <tr><td></td><td>圧力換熱器内空気温度 B</td></tr> <tr><td></td><td>圧力換熱器内空気温度 C</td></tr> <tr><td></td><td>圧力換熱器内空気温度 D</td></tr> <tr><td>格納容器内の</td><td>サプレッションプール水温 (最大)</td></tr> <tr><td>状態確認</td><td>サプレッションプール水温 (1F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (3F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (5F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (7F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (10F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (12F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (14F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (16F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (19F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (21F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (23F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (25F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (27F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (29F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (31F)</td></tr> <tr><td></td><td>サプレッションプール水温 (33F)</td></tr> </tbody> </table>	目 的	対象パラメータ		ドライウエル圧力 (広範囲) (最大)		ドライウエル圧力		圧力換熱器圧力 (最大)		圧力換熱器圧力		RDVバローレーム循環口温度 (最大)		圧力換熱器水位 (R.V.)		圧力換熱器水位 A		圧力換熱器水位 B		圧力換熱器内空気温度 A		圧力換熱器内空気温度 B		圧力換熱器内空気温度 C		圧力換熱器内空気温度 D	格納容器内の	サプレッションプール水温 (最大)	状態確認	サプレッションプール水温 (1F)		サプレッションプール水温 (3F)		サプレッションプール水温 (5F)		サプレッションプール水温 (7F)		サプレッションプール水温 (10F)		サプレッションプール水温 (12F)		サプレッションプール水温 (14F)		サプレッションプール水温 (16F)		サプレッションプール水温 (19F)		サプレッションプール水温 (21F)		サプレッションプール水温 (23F)		サプレッションプール水温 (25F)		サプレッションプール水温 (27F)		サプレッションプール水温 (29F)		サプレッションプール水温 (31F)		サプレッションプール水温 (33F)		<p>①の相違</p>
目 的	対象パラメータ																																																														
	ドライウエル圧力 (広範囲) (最大)																																																														
	ドライウエル圧力																																																														
	圧力換熱器圧力 (最大)																																																														
	圧力換熱器圧力																																																														
	RDVバローレーム循環口温度 (最大)																																																														
	圧力換熱器水位 (R.V.)																																																														
	圧力換熱器水位 A																																																														
	圧力換熱器水位 B																																																														
	圧力換熱器内空気温度 A																																																														
	圧力換熱器内空気温度 B																																																														
	圧力換熱器内空気温度 C																																																														
	圧力換熱器内空気温度 D																																																														
格納容器内の	サプレッションプール水温 (最大)																																																														
状態確認	サプレッションプール水温 (1F)																																																														
	サプレッションプール水温 (3F)																																																														
	サプレッションプール水温 (5F)																																																														
	サプレッションプール水温 (7F)																																																														
	サプレッションプール水温 (10F)																																																														
	サプレッションプール水温 (12F)																																																														
	サプレッションプール水温 (14F)																																																														
	サプレッションプール水温 (16F)																																																														
	サプレッションプール水温 (19F)																																																														
	サプレッションプール水温 (21F)																																																														
	サプレッションプール水温 (23F)																																																														
	サプレッションプール水温 (25F)																																																														
	サプレッションプール水温 (27F)																																																														
	サプレッションプール水温 (29F)																																																														
	サプレッションプール水温 (31F)																																																														
	サプレッションプール水温 (33F)																																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																														
	<p>【設定根拠】 (5/10)</p> <table border="1" data-bbox="741 284 1160 858"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="26">格納容器内の 状態確認</td><td>CAMS水素濃度A (0~3.0%)</td></tr> <tr><td>CAMS水素濃度B (0~3.0%)</td></tr> <tr><td>CAMS水素濃度A (0~1.0%)</td></tr> <tr><td>CAMS水素濃度B (0~1.0%)</td></tr> <tr><td>格納容器内水素濃度A (D/W)</td></tr> <tr><td>格納容器内水素濃度A (S/C)</td></tr> <tr><td>格納容器内水素濃度B (D/W)</td></tr> <tr><td>格納容器内水素濃度B (S/C)</td></tr> <tr><td>CAMS酸素濃度A</td></tr> <tr><td>CAMS酸素濃度B</td></tr> <tr><td>CAMS (A) サンプル切替 (D/W)</td></tr> <tr><td>CAMS (B) サンプル切替 (D/W)</td></tr> <tr><td>D/W放射線モニタA</td></tr> <tr><td>D/W放射線モニタB</td></tr> <tr><td>S/C放射線モニタA</td></tr> <tr><td>S/C放射線モニタB</td></tr> <tr><td>RHR A系格納容器スプレイ隔離弁開</td></tr> <tr><td>RHR B系格納容器スプレイ隔離弁開</td></tr> <tr><td>RHRポンプ (A) 出口圧力</td></tr> <tr><td>RHRポンプ (B) 出口圧力</td></tr> <tr><td>RHRポンプ (C) 出口圧力</td></tr> <tr><td>HFCポンプ出口圧力</td></tr> <tr><td>LFCポンプ出口圧力</td></tr> <tr><td>RCCポンプ出口圧力</td></tr> <tr><td>RCCポンプ駆動用タービン入口蒸気圧力</td></tr> <tr><td>HFAポンプ出口圧力</td></tr> <tr><td>HFAポンプ入口蒸気圧力</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	格納容器内の 状態確認	CAMS水素濃度A (0~3.0%)	CAMS水素濃度B (0~3.0%)	CAMS水素濃度A (0~1.0%)	CAMS水素濃度B (0~1.0%)	格納容器内水素濃度A (D/W)	格納容器内水素濃度A (S/C)	格納容器内水素濃度B (D/W)	格納容器内水素濃度B (S/C)	CAMS酸素濃度A	CAMS酸素濃度B	CAMS (A) サンプル切替 (D/W)	CAMS (B) サンプル切替 (D/W)	D/W放射線モニタA	D/W放射線モニタB	S/C放射線モニタA	S/C放射線モニタB	RHR A系格納容器スプレイ隔離弁開	RHR B系格納容器スプレイ隔離弁開	RHRポンプ (A) 出口圧力	RHRポンプ (B) 出口圧力	RHRポンプ (C) 出口圧力	HFCポンプ出口圧力	LFCポンプ出口圧力	RCCポンプ出口圧力	RCCポンプ駆動用タービン入口蒸気圧力	HFAポンプ出口圧力	HFAポンプ入口蒸気圧力		<p>①の相違</p>
目的	対象パラメータ																																
格納容器内の 状態確認	CAMS水素濃度A (0~3.0%)																																
	CAMS水素濃度B (0~3.0%)																																
	CAMS水素濃度A (0~1.0%)																																
	CAMS水素濃度B (0~1.0%)																																
	格納容器内水素濃度A (D/W)																																
	格納容器内水素濃度A (S/C)																																
	格納容器内水素濃度B (D/W)																																
	格納容器内水素濃度B (S/C)																																
	CAMS酸素濃度A																																
	CAMS酸素濃度B																																
	CAMS (A) サンプル切替 (D/W)																																
	CAMS (B) サンプル切替 (D/W)																																
	D/W放射線モニタA																																
	D/W放射線モニタB																																
	S/C放射線モニタA																																
	S/C放射線モニタB																																
	RHR A系格納容器スプレイ隔離弁開																																
	RHR B系格納容器スプレイ隔離弁開																																
	RHRポンプ (A) 出口圧力																																
	RHRポンプ (B) 出口圧力																																
	RHRポンプ (C) 出口圧力																																
	HFCポンプ出口圧力																																
	LFCポンプ出口圧力																																
	RCCポンプ出口圧力																																
	RCCポンプ駆動用タービン入口蒸気圧力																																
	HFAポンプ出口圧力																																
HFAポンプ入口蒸気圧力																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																																						
	<p>【設定根拠】 (6/10)</p> <table border="1" data-bbox="741 284 1162 991"> <thead> <tr> <th>目 的</th> <th>対象パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="33">格納容器内の 状態確認</td><td>ドライウェル雰囲気温度 (ドライウェルフランジ部 (0℃) 周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (ドライウェルフランジ部 (80℃) 周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (S R V 脱出入口上部周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (南島用エアロック上部周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (電気弁本部 (45℃) 周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (電気弁本部 (225℃) 周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (廃液搬出入用ハッチ下部 (115℃) 周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (廃液搬出入用ハッチ下部 (115℃) 周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (前継種船舶機機搬出入口下部周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (ベグステル内 (30℃) 周辺温度)</td></tr> <tr><td>ドライウェル雰囲気温度 (ベグステル内 (270℃) 周辺温度)</td></tr> <tr><td>軽水移送ポンプ出口圧力</td></tr> <tr><td>ドライウェル水位 A (2m)</td></tr> <tr><td>ドライウェル水位 B (2m)</td></tr> <tr><td>ドライウェル水位 A (23m)</td></tr> <tr><td>ドライウェル水位 B (23m)</td></tr> <tr><td>ドライウェル水位 A (44m)</td></tr> <tr><td>ドライウェル水位 B (44m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 A (0.5m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 B (0.5m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 A (1.0m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 B (1.0m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 A (1.5m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 B (1.5m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 A (1.5m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 B (1.5m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 A (2.0m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 B (2.0m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 A (2.5m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 B (2.5m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 A (2.8m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部水位 B (2.8m)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器下部注水流量</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器代替スプレイ流量 (A)</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器代替スプレイ流量 (B)</td></tr> </tbody> </table>	目 的	対象パラメータ	格納容器内の 状態確認	ドライウェル雰囲気温度 (ドライウェルフランジ部 (0℃) 周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (ドライウェルフランジ部 (80℃) 周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (S R V 脱出入口上部周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (南島用エアロック上部周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (電気弁本部 (45℃) 周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (電気弁本部 (225℃) 周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (廃液搬出入用ハッチ下部 (115℃) 周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (廃液搬出入用ハッチ下部 (115℃) 周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (前継種船舶機機搬出入口下部周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (ベグステル内 (30℃) 周辺温度)	ドライウェル雰囲気温度 (ベグステル内 (270℃) 周辺温度)	軽水移送ポンプ出口圧力	ドライウェル水位 A (2m)	ドライウェル水位 B (2m)	ドライウェル水位 A (23m)	ドライウェル水位 B (23m)	ドライウェル水位 A (44m)	ドライウェル水位 B (44m)	原子炉格納容器下部水位 A (0.5m)	原子炉格納容器下部水位 B (0.5m)	原子炉格納容器下部水位 A (1.0m)	原子炉格納容器下部水位 B (1.0m)	原子炉格納容器下部水位 A (1.5m)	原子炉格納容器下部水位 B (1.5m)	原子炉格納容器下部水位 A (1.5m)	原子炉格納容器下部水位 B (1.5m)	原子炉格納容器下部水位 A (2.0m)	原子炉格納容器下部水位 B (2.0m)	原子炉格納容器下部水位 A (2.5m)	原子炉格納容器下部水位 B (2.5m)	原子炉格納容器下部水位 A (2.8m)	原子炉格納容器下部水位 B (2.8m)	原子炉格納容器下部注水流量	原子炉格納容器代替スプレイ流量 (A)	原子炉格納容器代替スプレイ流量 (B)		<p>①の相違</p>
目 的	対象パラメータ																																								
格納容器内の 状態確認	ドライウェル雰囲気温度 (ドライウェルフランジ部 (0℃) 周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (ドライウェルフランジ部 (80℃) 周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (S R V 脱出入口上部周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (南島用エアロック上部周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (電気弁本部 (45℃) 周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (電気弁本部 (225℃) 周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (廃液搬出入用ハッチ下部 (115℃) 周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (廃液搬出入用ハッチ下部 (115℃) 周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (前継種船舶機機搬出入口下部周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (ベグステル内 (30℃) 周辺温度)																																								
	ドライウェル雰囲気温度 (ベグステル内 (270℃) 周辺温度)																																								
	軽水移送ポンプ出口圧力																																								
	ドライウェル水位 A (2m)																																								
	ドライウェル水位 B (2m)																																								
	ドライウェル水位 A (23m)																																								
	ドライウェル水位 B (23m)																																								
	ドライウェル水位 A (44m)																																								
	ドライウェル水位 B (44m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 A (0.5m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 B (0.5m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 A (1.0m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 B (1.0m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 A (1.5m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 B (1.5m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 A (1.5m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 B (1.5m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 A (2.0m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 B (2.0m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 A (2.5m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 B (2.5m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 A (2.8m)																																								
	原子炉格納容器下部水位 B (2.8m)																																								
	原子炉格納容器下部注水流量																																								
原子炉格納容器代替スプレイ流量 (A)																																									
原子炉格納容器代替スプレイ流量 (B)																																									



泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																							
	<p>【設定提供】 (7/10)</p> <table border="1" data-bbox="734 288 1164 727"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="20">放射能監視の 状態確認</td><td>スタック放射能モニタ (IC) A</td></tr> <tr><td>スタック放射能モニタ (IC) B</td></tr> <tr><td>スタック放射能モニタ (SCFN) A</td></tr> <tr><td>スタック放射能モニタ (SCFN) B</td></tr> <tr><td>主蒸気管放射能高A1</td></tr> <tr><td>主蒸気管放射能高A2</td></tr> <tr><td>主蒸気管放射能高B1</td></tr> <tr><td>主蒸気管放射能高B2</td></tr> <tr><td>PCIS内監視</td></tr> <tr><td>PCIS外監視</td></tr> <tr><td>MS1V (第1) 全弁閉</td></tr> <tr><td>主蒸気第1隔離弁 (A) 閉</td></tr> <tr><td>主蒸気第1隔離弁 (B) 閉</td></tr> <tr><td>主蒸気第1隔離弁 (C) 閉</td></tr> <tr><td>主蒸気第1隔離弁 (D) 閉</td></tr> <tr><td>MS1V (第2) 全弁閉</td></tr> <tr><td>主蒸気第2隔離弁 (A) 閉</td></tr> <tr><td>主蒸気第2隔離弁 (B) 閉</td></tr> <tr><td>主蒸気第2隔離弁 (C) 閉</td></tr> <tr><td>主蒸気第2隔離弁 (D) 閉</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	放射能監視の 状態確認	スタック放射能モニタ (IC) A	スタック放射能モニタ (IC) B	スタック放射能モニタ (SCFN) A	スタック放射能モニタ (SCFN) B	主蒸気管放射能高A1	主蒸気管放射能高A2	主蒸気管放射能高B1	主蒸気管放射能高B2	PCIS内監視	PCIS外監視	MS1V (第1) 全弁閉	主蒸気第1隔離弁 (A) 閉	主蒸気第1隔離弁 (B) 閉	主蒸気第1隔離弁 (C) 閉	主蒸気第1隔離弁 (D) 閉	MS1V (第2) 全弁閉	主蒸気第2隔離弁 (A) 閉	主蒸気第2隔離弁 (B) 閉	主蒸気第2隔離弁 (C) 閉	主蒸気第2隔離弁 (D) 閉		<p>①の相違</p>
目的	対象パラメータ																									
放射能監視の 状態確認	スタック放射能モニタ (IC) A																									
	スタック放射能モニタ (IC) B																									
	スタック放射能モニタ (SCFN) A																									
	スタック放射能モニタ (SCFN) B																									
	主蒸気管放射能高A1																									
	主蒸気管放射能高A2																									
	主蒸気管放射能高B1																									
	主蒸気管放射能高B2																									
	PCIS内監視																									
	PCIS外監視																									
	MS1V (第1) 全弁閉																									
	主蒸気第1隔離弁 (A) 閉																									
	主蒸気第1隔離弁 (B) 閉																									
	主蒸気第1隔離弁 (C) 閉																									
	主蒸気第1隔離弁 (D) 閉																									
	MS1V (第2) 全弁閉																									
	主蒸気第2隔離弁 (A) 閉																									
	主蒸気第2隔離弁 (B) 閉																									
	主蒸気第2隔離弁 (C) 閉																									
	主蒸気第2隔離弁 (D) 閉																									

泊発電所3号炉 S A基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																						
	<p>【設定根拠】 (8/10)</p> <table border="1" data-bbox="736 284 1160 1008"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="16">環境の情報を</td><td>SGTS A系動作</td></tr> <tr><td>SGTS B系動作</td></tr> <tr><td>SGTS放射線モニタ (LC) A</td></tr> <tr><td>SGTS放射線モニタ (LC) B</td></tr> <tr><td>放射線モニタ (2号機)</td></tr> <tr><td>モニタリングポストIC流量率H1</td></tr> <tr><td>モニタリングポストIC流量率H2</td></tr> <tr><td>モニタリングポストIC流量率H3</td></tr> <tr><td>モニタリングポストIC流量率H4</td></tr> <tr><td>モニタリングポストIC流量率H5</td></tr> <tr><td>モニタリングポストIC流量率H6</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNaI流量率L1</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNaI流量率L2</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNaI流量率L3</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNaI流量率L4</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNaI流量率L5</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNaI流量率L6</td></tr> <tr><td>風速 (ドップラーブレード)</td></tr> <tr><td>風速 (線形観測)</td></tr> <tr><td>風速 (ドップラーブレード)</td></tr> <tr><td>風速 (線形観測)</td></tr> <tr><td>大気安定度</td></tr> <tr><td rowspan="10">非常用炉心冷却系 (FCCS) の状態等</td><td>ADS A系作動</td></tr> <tr><td>ADS B系作動</td></tr> <tr><td>長ICタービン止めの弁開</td></tr> <tr><td>LPCSポンプ 運転中</td></tr> <tr><td>HPCSポンプ 運転中</td></tr> <tr><td>長HRポンプ (A) 運転中</td></tr> <tr><td>長HRポンプ (B) 運転中</td></tr> <tr><td>長HRポンプ (C) 運転中</td></tr> <tr><td>長HR A系LPC注入隔離弁開</td></tr> <tr><td>長HR B系LPC注入隔離弁開</td></tr> <tr><td>長HR C系LPC注入隔離弁開</td></tr> <tr><td>放射線流量</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	環境の情報を	SGTS A系動作	SGTS B系動作	SGTS放射線モニタ (LC) A	SGTS放射線モニタ (LC) B	放射線モニタ (2号機)	モニタリングポストIC流量率H1	モニタリングポストIC流量率H2	モニタリングポストIC流量率H3	モニタリングポストIC流量率H4	モニタリングポストIC流量率H5	モニタリングポストIC流量率H6	モニタリングポストNaI流量率L1	モニタリングポストNaI流量率L2	モニタリングポストNaI流量率L3	モニタリングポストNaI流量率L4	モニタリングポストNaI流量率L5	モニタリングポストNaI流量率L6	風速 (ドップラーブレード)	風速 (線形観測)	風速 (ドップラーブレード)	風速 (線形観測)	大気安定度	非常用炉心冷却系 (FCCS) の状態等	ADS A系作動	ADS B系作動	長ICタービン止めの弁開	LPCSポンプ 運転中	HPCSポンプ 運転中	長HRポンプ (A) 運転中	長HRポンプ (B) 運転中	長HRポンプ (C) 運転中	長HR A系LPC注入隔離弁開	長HR B系LPC注入隔離弁開	長HR C系LPC注入隔離弁開	放射線流量		<p>①の相違</p>
目的	対象パラメータ																																								
環境の情報を	SGTS A系動作																																								
	SGTS B系動作																																								
	SGTS放射線モニタ (LC) A																																								
	SGTS放射線モニタ (LC) B																																								
	放射線モニタ (2号機)																																								
	モニタリングポストIC流量率H1																																								
	モニタリングポストIC流量率H2																																								
	モニタリングポストIC流量率H3																																								
	モニタリングポストIC流量率H4																																								
	モニタリングポストIC流量率H5																																								
	モニタリングポストIC流量率H6																																								
	モニタリングポストNaI流量率L1																																								
	モニタリングポストNaI流量率L2																																								
	モニタリングポストNaI流量率L3																																								
	モニタリングポストNaI流量率L4																																								
	モニタリングポストNaI流量率L5																																								
モニタリングポストNaI流量率L6																																									
風速 (ドップラーブレード)																																									
風速 (線形観測)																																									
風速 (ドップラーブレード)																																									
風速 (線形観測)																																									
大気安定度																																									
非常用炉心冷却系 (FCCS) の状態等	ADS A系作動																																								
	ADS B系作動																																								
	長ICタービン止めの弁開																																								
	LPCSポンプ 運転中																																								
	HPCSポンプ 運転中																																								
	長HRポンプ (A) 運転中																																								
	長HRポンプ (B) 運転中																																								
	長HRポンプ (C) 運転中																																								
	長HR A系LPC注入隔離弁開																																								
	長HR B系LPC注入隔離弁開																																								
長HR C系LPC注入隔離弁開																																									
放射線流量																																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																														
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【設定根拠】 <span style="float: right;">(9/10)</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">目 的</th> <th>対象パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+7.019m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+6.819m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+6.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+5.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+4.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+3.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+2.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+1.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-1.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-2.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-3.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-4.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-5.000m）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール水位（燃料クック上部-100mm~+700mm）〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール上部温度〕</td></tr> <tr><td></td><td>使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）</td></tr> <tr><td></td><td>〔使用済燃料プール下部温度〕</td></tr> <tr><td></td><td>燃料プール上部空間放射線モニタ（鉛遮蔽）</td></tr> <tr><td></td><td>燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量）</td></tr> </tbody> </table> </div>	目 的	対象パラメータ		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+7.019m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+6.819m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+6.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+5.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+4.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+3.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+2.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+1.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-1.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-2.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-3.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-4.000m）〕		使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）		〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-5.000m）〕		使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）		〔使用済燃料プール水位（燃料クック上部-100mm~+700mm）〕		使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）		〔使用済燃料プール上部温度〕		使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）		〔使用済燃料プール下部温度〕		燃料プール上部空間放射線モニタ（鉛遮蔽）		燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量）		<p>①の相違</p>
目 的	対象パラメータ																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+7.019m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+6.819m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+6.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+5.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+4.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+3.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+2.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部+1.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-1.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-2.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-3.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-4.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール温度（燃料クック上部-5.000m）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール水位（燃料クック上部-100mm~+700mm）〕																																																																																
	使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール上部温度〕																																																																																
	使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）																																																																																
	〔使用済燃料プール下部温度〕																																																																																
	燃料プール上部空間放射線モニタ（鉛遮蔽）																																																																																
	燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量）																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																															
	<p>【設定根拠】 (10/10)</p> <table border="1" data-bbox="734 300 1160 874"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">水素発生による格納容器の蒸気圧止確認</td> <td>フィルト装設出口水素濃度 (0~30%)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設出口水素濃度 (0~100%)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設水位 (A) (広帯域)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設水位 (B) (広帯域)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設水位 (C) (広帯域)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設入口圧力 (広帯域)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設出口圧力 (広帯域)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設水温度 (A)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設水温度 (B)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設水温度 (C)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設出口放射線モニタ (A)</td> </tr> <tr> <td>フィルト装設出口放射線モニタ (B)</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">水素発生による原子炉建屋の蒸気圧止確認</td> <td>原子炉建屋内水素濃度 (原子炉建屋オーバーテイクンダフロア水素濃度A)</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内水素濃度 (原子炉建屋オーバーテイクンダフロア水素濃度B)</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内水素濃度 (α/βラッチング室)</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内水素濃度 (再処理エアロフ前室)</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内水素濃度 (CRD補修室)</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内水素濃度 (計装ベネトレーション室)</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内水素濃度 (トラス室)</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合装置1動作監視装置入口温度</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合装置1動作監視装置出口温度</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合装置8動作監視装置入口温度</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合装置8動作監視装置出口温度</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合装置12動作監視装置入口温度</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合装置12動作監視装置出口温度</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合装置15動作監視装置入口温度</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合装置15動作監視装置出口温度</td> </tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	水素発生による格納容器の蒸気圧止確認	フィルト装設出口水素濃度 (0~30%)	フィルト装設出口水素濃度 (0~100%)	フィルト装設水位 (A) (広帯域)	フィルト装設水位 (B) (広帯域)	フィルト装設水位 (C) (広帯域)	フィルト装設入口圧力 (広帯域)	フィルト装設出口圧力 (広帯域)	フィルト装設水温度 (A)	フィルト装設水温度 (B)	フィルト装設水温度 (C)	フィルト装設出口放射線モニタ (A)	フィルト装設出口放射線モニタ (B)	水素発生による原子炉建屋の蒸気圧止確認	原子炉建屋内水素濃度 (原子炉建屋オーバーテイクンダフロア水素濃度A)	原子炉建屋内水素濃度 (原子炉建屋オーバーテイクンダフロア水素濃度B)	原子炉建屋内水素濃度 (α/βラッチング室)	原子炉建屋内水素濃度 (再処理エアロフ前室)	原子炉建屋内水素濃度 (CRD補修室)	原子炉建屋内水素濃度 (計装ベネトレーション室)	原子炉建屋内水素濃度 (トラス室)	静的熱媒式水素再結合装置1動作監視装置入口温度	静的熱媒式水素再結合装置1動作監視装置出口温度	静的熱媒式水素再結合装置8動作監視装置入口温度	静的熱媒式水素再結合装置8動作監視装置出口温度	静的熱媒式水素再結合装置12動作監視装置入口温度	静的熱媒式水素再結合装置12動作監視装置出口温度	静的熱媒式水素再結合装置15動作監視装置入口温度	静的熱媒式水素再結合装置15動作監視装置出口温度		<p>①の相違</p>
目的	対象パラメータ																																	
水素発生による格納容器の蒸気圧止確認	フィルト装設出口水素濃度 (0~30%)																																	
	フィルト装設出口水素濃度 (0~100%)																																	
	フィルト装設水位 (A) (広帯域)																																	
	フィルト装設水位 (B) (広帯域)																																	
	フィルト装設水位 (C) (広帯域)																																	
	フィルト装設入口圧力 (広帯域)																																	
	フィルト装設出口圧力 (広帯域)																																	
	フィルト装設水温度 (A)																																	
	フィルト装設水温度 (B)																																	
	フィルト装設水温度 (C)																																	
	フィルト装設出口放射線モニタ (A)																																	
	フィルト装設出口放射線モニタ (B)																																	
	水素発生による原子炉建屋の蒸気圧止確認	原子炉建屋内水素濃度 (原子炉建屋オーバーテイクンダフロア水素濃度A)																																
		原子炉建屋内水素濃度 (原子炉建屋オーバーテイクンダフロア水素濃度B)																																
原子炉建屋内水素濃度 (α/βラッチング室)																																		
原子炉建屋内水素濃度 (再処理エアロフ前室)																																		
原子炉建屋内水素濃度 (CRD補修室)																																		
原子炉建屋内水素濃度 (計装ベネトレーション室)																																		
原子炉建屋内水素濃度 (トラス室)																																		
静的熱媒式水素再結合装置1動作監視装置入口温度																																		
静的熱媒式水素再結合装置1動作監視装置出口温度																																		
静的熱媒式水素再結合装置8動作監視装置入口温度																																		
静的熱媒式水素再結合装置8動作監視装置出口温度																																		
静的熱媒式水素再結合装置12動作監視装置入口温度																																		
静的熱媒式水素再結合装置12動作監視装置出口温度																																		
静的熱媒式水素再結合装置15動作監視装置入口温度																																		
静的熱媒式水素再結合装置15動作監視装置出口温度																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由																									
	<table border="1" data-bbox="672 239 1232 327"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th colspan="2">酸素濃度計、二酸化炭素濃度計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">検知範囲</td> <td>酸素</td> <td>%</td> <td>0 ~ 100</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素</td> <td>%</td> <td>0.04 ~ 5.0</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="672 343 1232 406">【設定根拠】                      酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計は、可搬型重大事故等対処設備として配置するものである。</p> <p data-bbox="672 430 1232 502">酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計は、外気から中央制御室及び中央制御室待避所への空気の取り込みを停止した場合に、酸素濃度、二酸化炭素が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握するためのものである。</p> <p data-bbox="672 526 1232 590">なお、保管数は、中央制御室及び中央制御室待避所にそれぞれ1台保管するための合計2台に、故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップ用として1台を加えた合計3台を保管する設計とする。</p> <p data-bbox="672 614 1232 726">1. 検知範囲                      1.1 酸素濃度                      労働安全衛生法の酸素欠乏症等防止規則に基づき、空気中の酸素濃度18%を十分に満足する範囲を検知できる設計とする。また、表示精度としては、3%FSの精度を有する設計とする。</p> <p data-bbox="672 750 1232 861">1.2 二酸化炭素濃度                      労働安全衛生規則に基づき、許容炭酸ガス濃度1.5%以下であることを管理するため、空気中の二酸化炭素濃度が1%以下であることを検知できる設計とする。また、表示精度としては、±10%rdg又は0.01%のうち大きいほうの精度を有する設計とする。</p>	名称		酸素濃度計、二酸化炭素濃度計		検知範囲	酸素	%	0 ~ 100	二酸化炭素	%	0.04 ~ 5.0	<table border="1" data-bbox="1265 239 1814 319"> <thead> <tr> <th colspan="3">名称</th> <th colspan="2">酸素濃度・二酸化炭素濃度計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">検知範囲</td> <td>酸素</td> <td>vol%</td> <td colspan="2">0 ~ 25.0</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素</td> <td>vol%</td> <td colspan="2">0 ~ 5.00</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1265 335 1814 406">【設定根拠】                      酸素濃度・二酸化炭素濃度計は、可搬型重大事故等対処設備として配置するものである。</p> <p data-bbox="1265 430 1814 502">酸素濃度・二酸化炭素濃度計は、外気から中央制御室への空気の取り込みを停止した場合に、酸素濃度、二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握するためのものである。</p> <p data-bbox="1265 526 1814 574">保管数は、中央制御室に保管する1台に、故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップ用として2台を加えた合計3台を保管する設計とする。</p> <p data-bbox="1265 598 1814 718">1. 検知範囲                      1. 1 酸素濃度                      労働安全衛生法の酸素欠乏症等防止規則及び鉱山保安法に基づき、空気中の酸素濃度19%を十分に満足する範囲を検知できる設計とする。また、表示精度としては±0.7%の精度を有する設計とする。</p> <p data-bbox="1265 742 1814 837">1. 2 二酸化炭素濃度                      鉱山保安法に基づき、炭酸ガス含有率が1%以下であることを管理するため、空気中の二酸化炭素濃度が1%以下であることを検知できる設計とする。また、表示精度としては±0.25%の精度を有する設計とする。</p>	名称			酸素濃度・二酸化炭素濃度計		検知範囲	酸素	vol%	0 ~ 25.0		二酸化炭素	vol%	0 ~ 5.00		<p data-bbox="1848 231 2150 279">【女川】記載表現の相違                      【大飯】女川審査実績の反映</p>
名称		酸素濃度計、二酸化炭素濃度計																										
検知範囲	酸素	%	0 ~ 100																									
	二酸化炭素	%	0.04 ~ 5.0																									
名称			酸素濃度・二酸化炭素濃度計																									
検知範囲	酸素	vol%	0 ~ 25.0																									
	二酸化炭素	vol%	0 ~ 5.00																									

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由															
		<table border="1" data-bbox="1256 240 1816 384"> <thead> <tr> <th colspan="2">名 称</th> <th>アニュラス全量排気弁等操作用 可搬型窒素ガスポンペ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>容 量</td> <td>個</td> <td>46.7 以上 (46.7)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>14.7</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>1以上 (2 (予備1))</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1256 389 1816 405">【設 定 根 拠】</p> <p data-bbox="1256 411 1816 432">・重大事故等対処設備</p> <p data-bbox="1256 437 1816 480">重大事故等時に使用するアニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペは、以下の機能を有する。</p> <p data-bbox="1256 507 1816 572">アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペは、炉心の著しい損傷により原子炉格納容器内に水素が発生した場合にアニュラスの水素濃度を低減することで水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するために設置する。</p> <p data-bbox="1256 577 1816 738">系統構成は、アニュラスからの水素排出として、B系アニュラス空気浄化設備の弁及びダンパは、アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペにより代替空気を供給すること又は、アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペにより代替空気を供給し、代替電源設備である常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から給電可能な所内常設蓄電式直流電源設備により電磁弁を開放することで開操作できる設計とする。これらの系統構成については、設備別記載事項の設定根拠に関する説明書別添3「技術基準規則 第68条系統図」による。</p> <p data-bbox="1256 766 1816 831">アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペは、炉心の著しい損傷が発生した場合において、運転員が中央制御室にとどまるために、原子炉格納容器から漏えいた空気中の放射性物質の濃度を低減するために設置する。</p> <p data-bbox="1256 836 1816 997">系統構成は、放射性物質の濃度低減として、B系アニュラス空気浄化設備の弁及びダンパは、アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペにより代替空気を供給すること又は、アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペにより代替空気を供給し、代替電源設備である常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から給電可能な所内常設蓄電式直流電源設備により電磁弁を開放することで開操作できる設計とする。これらの系統構成については、設備別記載事項の設定根拠に関する説明書別添3「技術基準規則 第74条系統図」による。</p>	名 称		アニュラス全量排気弁等操作用 可搬型窒素ガスポンペ	容 量	個	46.7 以上 (46.7)	最高使用圧力	MPa	14.7	最高使用温度	℃	40	個 数	—	1以上 (2 (予備1))	<p data-bbox="1843 229 1910 250">②の相違</p>
名 称		アニュラス全量排気弁等操作用 可搬型窒素ガスポンペ																
容 量	個	46.7 以上 (46.7)																
最高使用圧力	MPa	14.7																
最高使用温度	℃	40																
個 数	—	1以上 (2 (予備1))																



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由						
		<p>1. 容量</p> <p>重大事故等時に使用するアニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンベは、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用型の窒素ガスポンベを使用する。このため、当該ポンベの容量は一般汎用型の窒素ガスポンベの標準容量46.7個以上とする。</p> <p>アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンベは、アニュラス全量排気弁及びアニュラス排気ダンパの操作に必要な容量を満足する設計とする。</p> <p>なお、アニュラス全量排気弁及びアニュラス排気ダンパへの空気供給ラインには、窒素がリークする箇所がないため連続加圧の必要はなく、1回の加圧作業でアニュラス全量排気弁及びアニュラス排気ダンパは、「開」状態を維持する。</p> <table border="1" data-bbox="1285 539 1787 992"> <thead> <tr> <th>想定操作</th> <th>開保持1回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消費量</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>連続消費量： <math>\square</math> m<sup>3</sup>/h</li> <li>供給先にある機器の消費量を含む継続的に消費される量</li> <li>パッチ消費量(アニュラス全量排気弁1台分)： <math>\square</math> m<sup>3</sup>/回 アニュラス全量排気弁を全開にするための消費量</li> <li>パッチ消費量(アニュラス排気ダンパ1台分)： <math>\square</math> m<sup>3</sup>/回 アニュラス排気ダンパを開放するための消費量</li> <li>配管加圧消費量：約 <math>\square</math> m<sup>3</sup>/回 窒素供給ラインを重大事故等時の供給圧力まで加圧するための消費量</li> </ul>                     窒素ガス消費総量：  <math>\square</math> </td> </tr> <tr> <td>ポンベ必要個数</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポンベ充てん圧力：14.801MPa[abs]</li> <li>ポンベ容量：<math>\square</math> m<sup>3</sup>/個<sup>(注1)</sup></li> <li>制御弁動作圧力：<math>\square</math> MPa[abs]</li> </ul>                     窒素供給時は、制御弁動作圧力範囲内を維持する必要があることから、ポンベ1個当たりの供給可能量は、  <math>\square</math>                      必要個数 <math>\square</math> </td> </tr> </tbody> </table> <p>以上より、アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンベの必要個数は <math>\square</math> 個となるため、設置個数は <math>\square</math> 個を上回る1個とする。</p> <p>公称値については、要求される容量と同じ46.7個とする。</p> <p><math>\square</math> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	想定操作	開保持1回	消費量	<ul style="list-style-type: none"> <li>連続消費量： <math>\square</math> m<sup>3</sup>/h</li> <li>供給先にある機器の消費量を含む継続的に消費される量</li> <li>パッチ消費量(アニュラス全量排気弁1台分)： <math>\square</math> m<sup>3</sup>/回 アニュラス全量排気弁を全開にするための消費量</li> <li>パッチ消費量(アニュラス排気ダンパ1台分)： <math>\square</math> m<sup>3</sup>/回 アニュラス排気ダンパを開放するための消費量</li> <li>配管加圧消費量：約 <math>\square</math> m<sup>3</sup>/回 窒素供給ラインを重大事故等時の供給圧力まで加圧するための消費量</li> </ul> 窒素ガス消費総量： $\square$	ポンベ必要個数	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポンベ充てん圧力：14.801MPa[abs]</li> <li>ポンベ容量：<math>\square</math> m<sup>3</sup>/個<sup>(注1)</sup></li> <li>制御弁動作圧力：<math>\square</math> MPa[abs]</li> </ul> 窒素供給時は、制御弁動作圧力範囲内を維持する必要があることから、ポンベ1個当たりの供給可能量は、 $\square$ 必要個数 $\square$	<p>②の相違</p>
想定操作	開保持1回								
消費量	<ul style="list-style-type: none"> <li>連続消費量： <math>\square</math> m<sup>3</sup>/h</li> <li>供給先にある機器の消費量を含む継続的に消費される量</li> <li>パッチ消費量(アニュラス全量排気弁1台分)： <math>\square</math> m<sup>3</sup>/回 アニュラス全量排気弁を全開にするための消費量</li> <li>パッチ消費量(アニュラス排気ダンパ1台分)： <math>\square</math> m<sup>3</sup>/回 アニュラス排気ダンパを開放するための消費量</li> <li>配管加圧消費量：約 <math>\square</math> m<sup>3</sup>/回 窒素供給ラインを重大事故等時の供給圧力まで加圧するための消費量</li> </ul> 窒素ガス消費総量： $\square$								
ポンベ必要個数	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポンベ充てん圧力：14.801MPa[abs]</li> <li>ポンベ容量：<math>\square</math> m<sup>3</sup>/個<sup>(注1)</sup></li> <li>制御弁動作圧力：<math>\square</math> MPa[abs]</li> </ul> 窒素供給時は、制御弁動作圧力範囲内を維持する必要があることから、ポンベ1個当たりの供給可能量は、 $\square$ 必要個数 $\square$								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<p>2. 最高使用圧力                      アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペを重大事故等時において使用する                      場合の圧力は、高圧ガス保安法の適合品であるポンペにて実績を有する充てん圧力である                      14.7MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度                      アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペを重大事故等時において使用する                      場合の温度は、高圧ガス保安法に基づき40℃とする。</p> <p>4. 個数                      可搬型設備であるアニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペは、重大事故等                      対応設備としてB-アニュラス全量排気弁及びB-アニュラス排気ダンパに窒素を供給し、B-                      アニュラス全量排気弁及びB-アニュラス排気ダンパを開操作するために必要な個数であ                      る。1セット1個及び本設備は保守点検中にも使用可能であるため、保守点検による待機除                      外時のバックアップ用は考慮せずに、故障時のバックアップ用として予備1個を保管する。</p> <p>(注1) アニュラス全量排気弁等操作用可搬型窒素ガスポンペ内の窒素量</p> $Q = P \times V_1 / 0.101 = 14.801 \times 46.7 \times 10^{-3} / 0.101 = 6.84 \text{Nm}^3$ <p>Q：窒素ポンペ内の窒素量 (Nm<sup>3</sup>)                      V<sub>1</sub>：ポンペの容積 (m<sup>3</sup>) = 46.7 × 10<sup>-3</sup>                      P：ポンペの充てん圧力 (MPa[abs]) = 14.7 + 0.101 = 14.801</p>	<p>②の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	差異理由												
	<table border="1" data-bbox="672 240 1227 357"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>非常用ガス処理系排風機</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>容量</td> <td>m<sup>3</sup>/h/個</td> <td>2463 (注 1) (2500 (注 2))</td> </tr> <tr> <td>原動機出力</td> <td>kW/個</td> <td>□ (注 1) (22 (注 2))</td> </tr> <tr> <td colspan="2">機器仕様に関する注記</td> <td>注 1：要求値を示す 注 2：公称値を示す</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="683 360 761 376">【設定根拠】</p> <p data-bbox="672 379 1227 533">非常用ガス処理系排風機は、設計基準事故対処設備として使用する場合、放射性よう素及び粒子状放射性物質等が直接大気へ放出されることを防止し、原子炉建屋原子炉棟内を負圧に維持することを目的とし、事故時に原子炉建屋原子炉棟内のガスを吸引し、非常用ガス処理系フィルタ装置を介して排気する。また、非常用ガス処理系排風機は、工学的安全施設作動回路からの信号により、自動的に常用の換気空調系が停止されるとともに起動し、原子炉建屋原子炉棟内を水柱約 6mm の負圧に維持し、原子炉建屋原子炉棟内を 50%/day で換気する能力を有する。</p> <p data-bbox="672 560 1227 663">非常用ガス処理系排風機を重大事故等対処設備として使用する場合、炉心の著しい損傷の発生時に原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟内に放射性物質を含むガスが漏えいした場合において、原子炉建屋原子炉棟内のガスを排気筒を経由して屋外に排気することにより、原子炉建屋原子炉棟内を負圧に維持するとともに、運転員の被ばく線量を低減することが可能な設計とする。</p> <p data-bbox="672 667 1227 754">ただし、非常用ガス処理系を使用する際は、非常用ガス処理系フィルタ装置の高性能エアフィルタ及びチャコールエアフィルタによる放射性物質の除去が期待できるが、中央制御室の居住性に係る被ばく評価にあたっては保守的に非常用ガス処理系フィルタ装置による放射性物質の除去能力には期待しないものとする。</p> <p data-bbox="672 758 1227 861">なお、炉心の著しい損傷の発生時における中央制御室の居住性に係る被ばく評価については、運転員の 7 日間の実効線量が代替循環冷却系を用いて事象収束に成功した場合で最大約 51mSv、原子炉格納容器フィルタベント系を用いて事象収束に成功した場合で最大約 51mSv となり、判断基準である「運転員の実効線量が 7 日間で 100mSv を超えないこと」を満足することを確認している。</p> <p data-bbox="683 865 1171 885">(詳細は「59-9 原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価について」参照。)</p> <div data-bbox="875 1110 1227 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	名称		非常用ガス処理系排風機	容量	m <sup>3</sup> /h/個	2463 (注 1) (2500 (注 2))	原動機出力	kW/個	□ (注 1) (22 (注 2))	機器仕様に関する注記		注 1：要求値を示す 注 2：公称値を示す		<p data-bbox="1839 229 1910 248">②の相違</p>
名称		非常用ガス処理系排風機													
容量	m <sup>3</sup> /h/個	2463 (注 1) (2500 (注 2))													
原動機出力	kW/個	□ (注 1) (22 (注 2))													
機器仕様に関する注記		注 1：要求値を示す 注 2：公称値を示す													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

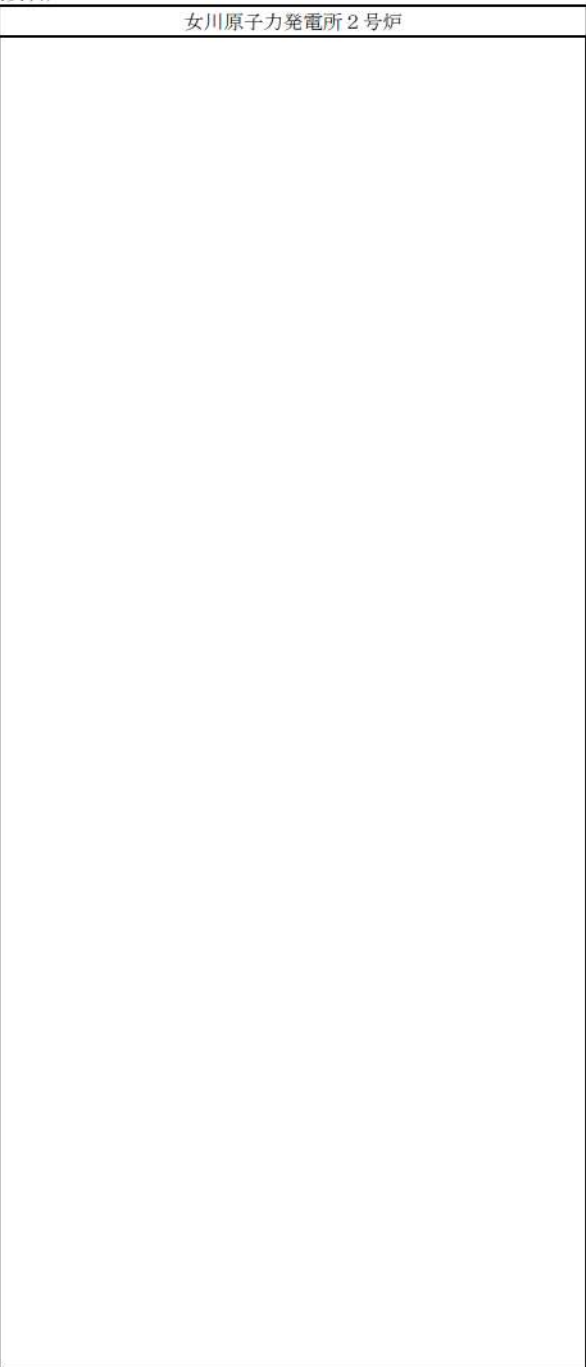
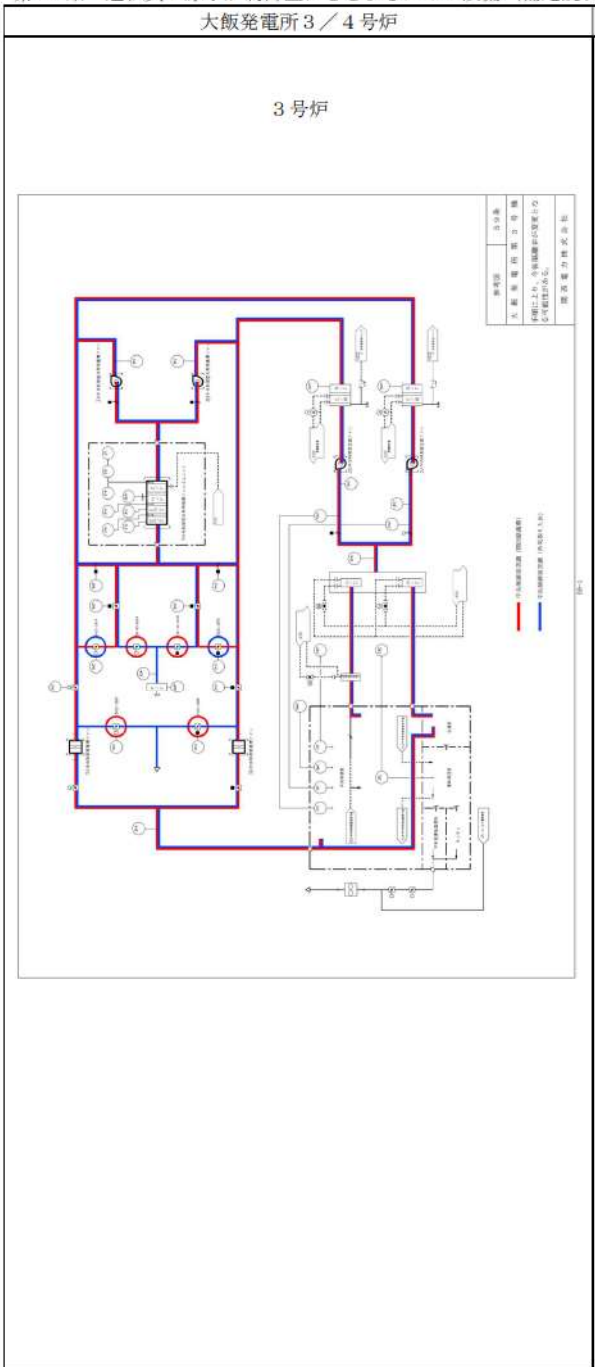
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	<p>1. 容量</p> <p>重大事故等対処設備としての非常用ガス処理系排風機の容量は、「(1) 原子炉建屋原子炉棟内の空間容積を50%/dayで処理できる容量」に「(2) 原子炉格納容器からの漏えい量」を加えたものとする。</p> <p>(1) 原子炉建屋原子炉棟内の空間容積を50%/dayで処理できる容量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋原子炉棟内の空間容積：115,000m<sup>3</sup></li> </ul> $115000 \times \frac{50}{100} \times \frac{1}{24} = 2395.83 \approx 2396 \text{ m}^3/\text{h}$ <p>(2) 原子炉格納容器からの漏えい量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉格納容器の空間容積：13,100m<sup>3</sup></li> <li>原子炉格納容器漏えい率：1.3 %/day (原子炉格納容器限界圧力時における想定漏えい率)</li> <li>原子炉格納容器限界圧力である0.955325MPa[abs]の気体が 大気圧(0.101325MPa[abs])に開放された場合の容積比：9.43 (0.955325/0.101325 = 9.428 ≈ 9.43)</li> </ul> $13100 \times \frac{1.3}{100} \times 9.43 \times \frac{1}{24} = 66.91 \approx 67 \text{ m}^3/\text{h}$ <p>以上より、非常用ガス処理系排風機の容量は、2396+67=2463m<sup>3</sup>/h以上とし、設計基準事故対処設備としての容量と同じ2500m<sup>3</sup>/h/個とする。</p> <p>2. 原動機出力</p> <p>非常用ガス処理系排風機の原動機出力は、非常用ガス処理系排風機の定格風量点における軸動力をもとに設定する。</p> <p>定格風量点における非常用ガス処理系排風機の風量は2,500 m<sup>3</sup>/h、静圧は750mmAqであり、その場合の必要軸動力は□ kWとなる。</p> <p>上記より、非常用ガス処理系排風機の原動機出力は、必要軸動力を上回る原動機メーカー標準出力とし、22 kW/個とする。</p>		<p>②の相違</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">特開みの内容は商業機密の観点から公開できません。</div>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p>59-7 SA バウンダリ系統図（参考）</p>			<p>【大飯】資料構成の相違                      ・大飯では「SA バウンダリ系統図」として示しているが、内容としては泊では「系統図」として記載している内容と同等であるため、作成していない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)



泊発電所3号炉

【泊欄は59-4を一部再掲】

No.	機器名称	状態の変化	操作場所	操作方法	備考
①	B-中央制御室結露ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	交流電源
②	B-中央制御室循環ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	交流電源
③	A-中央制御室非常用循環ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	交流電源
④	中央制御室排気ファン	起動→停止	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	交流電源
⑤	A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑥	A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑦	A-中央制御室排気外気取入ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑧	A-中央制御室排気風量調節ダンパ	設定値→全開	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑨	中央制御室排気1階層ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気
⑩	中央制御室排気2階層ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	遠動	直流電源 制御用空気

図 59-4-1 中央制御室空調装置 (閉回路循環運転時)  
(A系列運転中・交流動力電源が正常な場合)

No.	機器名称	状態の変化	操作場所	操作方法	備考
①	ダンパ駆動機制御装置及びモニタ装置	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.14.5a	手動操作	-
②	A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.14.5a	手動操作	-
③	A-中央制御室排気ファン出口ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.14.5a	手動操作	-
④	A-中央制御室循環ファン入口ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.14.5a	手動操作	-
⑤	A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.14.5a	手動操作	-
⑥	A-中央制御室排気外気取入風量調節ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.14.5a	手動操作	-
⑦	A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ	全閉→全開	原子炉補助建屋 T.F.14.5a	手動操作	-
⑧	A-中央制御室結露ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	操作員操作	交流電源
⑨	A-中央制御室循環ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	操作員操作	交流電源
⑩	A-中央制御室非常用循環ファン	停止→起動	原子炉補助建屋 T.F.17.3a 中央制御室	操作員操作	交流電源

図 59-4-2 中央制御室空調装置 (閉回路循環運転時)  
(A系列運転中・全交流動力電源が喪失した場合)

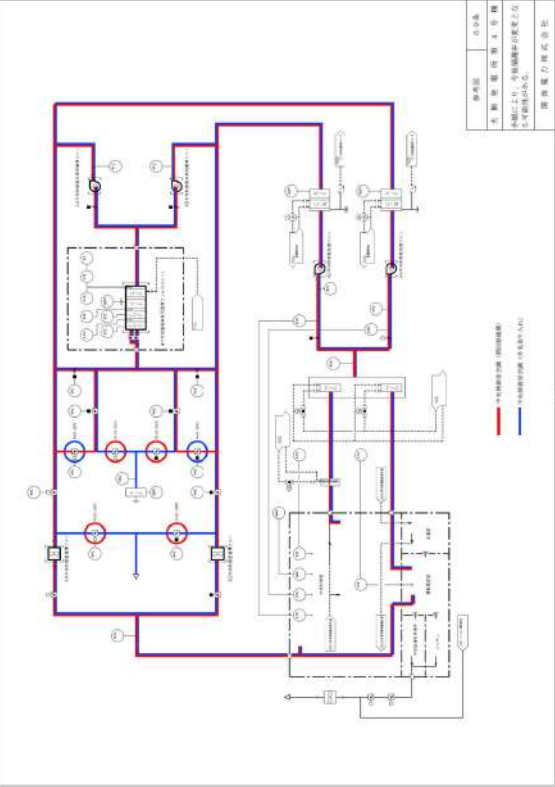
差異理由

【大飯】資料構成の相違  
 ・大飯では「SA バウンダリ系統図」として示しているが、内容としては泊では「系統図」として記載している内容と同等である。



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
<p style="text-align: center;">4号炉</p> 			<p>【大飯】共用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は4号炉についても示している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 原子炉制御室等（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>59-9 大飯発電所3号炉及び4号炉原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価について</p>	<p>59-9                      原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価について</p>	<p>59-7                      原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価について</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">目 次</p> <p>1. 中央制御室の居住性(設計基準)に係る被ばく評価について</p> <p>2. 中央制御室の居住性(重大事故対策)に係る被ばく評価について</p> <div style="margin-top: 20px;"> <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> = DB  <span style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> = SA                 </div>	<p style="text-align: center;">目 次</p> <p style="text-align: right;">26 条別添 2 参照 本資料</p> <p>1. 中央制御室の居住性 (設計基準事故) に係る被ばく評価について 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.1 大気中への放出量の評価・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.2 大気拡散の評価・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.3 建屋内の放射性物質からのガンマ線の評価・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.4 中央制御室の居住性に係る被ばく評価・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.4.1 中央制御室内での被ばく・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-2</p> <p>1.4.1.1 建屋内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく (経路①)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-2</p> <p>1.4.1.2 大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく (経路②)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-2</p> <p>1.4.1.3 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく (経路③)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-4</p> <p>1.4.2 入退域時の被ばく・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-4</p> <p>1.4.2.1 建屋内の放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく (経路④)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-4</p> <p>1.4.2.2 大気中へ放出された放射性物質による入退域時の被ばく (経路⑤)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-4</p> <p>1.5 評価結果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-5</p> <p>2. 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価について・・・・・・・・ 59-9-2-1</p> <p>2.1 評価事象・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-9-2-1</p> <p>2.2 大気中への放出量の評価・・・・・・・・ 59-9-2-2</p> <p>2.3 大気拡散の評価・・・・・・・・ 59-9-2-3</p> <p>2.4 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価・・・・・・・・ 59-9-2-4</p> <p>2.4.1 中央制御室内での被ばく・・・・・・・・ 59-9-2-5</p> <p>2.4.1.1 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路①)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-9-2-5</p> <p>2.4.1.2 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路②)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-9-2-5</p> <p>2.4.1.3 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路③)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-9-2-5</p> <p>2.4.1.4 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく (経路④)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-9-2-5</p> <p>2.4.2 入退域時の被ばく・・・・・・・・ 59-9-2-6</p> <p>2.4.2.1 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路⑤)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-9-2-6</p> <p>2.4.2.2 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路⑥)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-9-2-6</p> <p>2.4.2.3 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路⑦)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-9-2-6</p> <p>2.4.2.4 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による被ばく (経路⑧)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-9-2-7</p> <p>2.5 評価結果のまとめ・・・・・・・・ 59-9-2-7</p>	<p style="text-align: center;">目 次</p> <p style="text-align: right;">26 条別添 2 参照 本資料</p> <p>1. 中央制御室の居住性 (設計基準事故) に係る被ばく評価について 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.1 大気中への放出量の評価・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.2 大気拡散の評価・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.3 建屋内の放射性物質からのガンマ線の評価・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.4 中央制御室の居住性に係る被ばく評価・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-1</p> <p>1.4.1 中央制御室内での被ばく・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-2</p> <p>1.4.1.1 建屋内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく (経路①)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-2</p> <p>1.4.1.2 大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく (経路②)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-2</p> <p>1.4.1.3 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく (経路③)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-2</p> <p>1.4.2 入退域時の被ばく・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-4</p> <p>1.4.2.1 建屋内の放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく (経路④)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-4</p> <p>1.4.2.2 大気中へ放出された放射性物質による入退域時の被ばく (経路⑤)・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-4</p> <p>1.5 評価結果のまとめ・・・・・・・・ 26 条-別添 2-1-6</p> <p>2. 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価について・・・・・・・・ 59-7-2-1</p> <p>2.1 評価事象・・・・・・・・ 59-7-2-1</p> <p>2.2 大気中への放出量の評価・・・・・・・・ 59-7-2-1</p> <p>2.3 大気拡散の評価・・・・・・・・ 59-7-2-2</p> <p>2.4 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価・・・・・・・・ 59-7-2-3</p> <p>2.4.1 中央制御室内での被ばく・・・・・・・・ 59-7-2-3</p> <p>2.4.1.1 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路①)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-7-2-3</p> <p>2.4.1.2 大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路②)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-7-2-3</p> <p>2.4.1.3 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく (経路③)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-7-2-4</p> <p>2.4.2 入退域時の被ばく・・・・・・・・ 59-7-2-4</p> <p>2.4.2.1 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路④)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-7-2-4</p> <p>2.4.2.2 大気中へ放出された放射性物質による被ばく (経路⑤)・・・・・・・・・・・・・・・・ 59-7-2-4</p> <p>2.5 評価結果のまとめ・・・・・・・・ 59-7-2-4</p>	<p>【大飯】                  女川審査実績の反映</p> <p>【女川】                  女川との評価項目の相違理由については各資料の相違理由欄を参照</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>【再掲】</b></p> <p>1. 中央制御室居住性に係る被ばく評価について        大飯3、4号炉 中央制御室居住性に係る被ばく評価の評価条件等について、添付資料の一覧を以下に示す。</p> <p style="text-align: center;">添付一覧</p> <p>添付資料1-1：中央制御室の居住性(設計基準事故)に係る被ばく評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1-1-1 中央制御室の居住性(設計基準事故)に係る被ばく評価条件表</li> <li>・ 1-1-2 原子炉冷却材喪失時における再循環開始時間について</li> <li>・ 1-1-3 居住性に係る被ばく評価に用いた気象資料の代表性について</li> <li>・ 1-1-4 線量評価に用いる大気拡散の評価について</li> <li>・ 1-1-5 空気流入率試験結果について</li> <li>・ 1-1-6 直交代の考え方について</li> <li>・ 1-1-7 内規<sup>3)</sup>との整合性について</li> </ul> <p style="text-align: right;">SAの内容を含む</p> <p>添付資料1-2：中央制御室の居住性(重大事故対策)に係る被ばく評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1-2-1 中央制御室の居住性(重大事故対策)に係る被ばく評価条件表</li> <li>・ 1-2-2 事故シナシス選定の考え方について</li> <li>・ 1-2-3 原子炉格納容器への核分裂生成物の放出割合の設定について</li> <li>・ 1-2-4 よう素の化学形態の設定について</li> <li>・ 1-2-5 原子炉格納容器等への元素状よう素の沈着効果について</li> <li>・ 1-2-6 原子炉格納容器等へのエアロゾルの沈着効果について</li> <li>・ 1-2-7 スプレイによるエアロゾルの除去速度の設定について</li> <li>・ 1-2-8 原子炉格納容器漏えい率の設定について</li> <li>・ 1-2-9 アンユラス空気浄化系統 空気作動ダンプの開放手順の成立性について</li> <li>・ 1-2-10 フィルタ除去効率の設定について</li> </ul> <p><b>【目次再掲】</b> 1-2-17 湿性沈着を考慮した地表面沈着速度の設定について</p> <p><b>【目次再掲】</b> 1-2-14 マスクによる防護係数について</p> <p><b>【目次再掲】</b> 1-2-13 中央制御室換気系統の閉回路循環運転時における空気作動ダンプ強制開放手順の成立性について</p> <p><b>【目次再掲】</b> 1-2-12 中央制御室の直接換、スカイシャイン線評価方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1-2-11 大気への放出放射線量の推移グラフについて</li> </ul> <p><b>【目次再掲】</b> 1-2-16 中央制御室のグランドシャイン線量の評価方法について</p>	<p>添付資料1 中央制御室の居住性(設計基準事故)に係る被ばく評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>26 条-別添2-添1-1-1</li> <li>1-1 中央制御室の居住性(設計基準事故)に係る被ばく評価条件表</li> <li>1-2 被ばく評価に用いた気象資料の代表性について</li> <li>26 条-別添2-添1-1-1</li> <li>1-3 運転員の交替について</li> <li>26 条-別添2-添1-2-1</li> <li>1-4 内規<sup>3)</sup>との整合性について</li> <li>26 条-別添2-添1-3-1</li> <li>26 条-別添2-添1-4-1</li> </ul> <p>添付資料2 中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>59-9-添2-2-1-1</li> <li>2-1 中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価条件表</li> <li>59-9-添2-2-1-1</li> <li>2-2 事象の選定の考え方について</li> <li>59-9-添2-2-1</li> <li>2-3 核分裂生成物の放出割合について</li> <li>59-9-添2-3-1</li> <li>2-4 放射性物質の大気放出過程について</li> <li>59-9-添2-4-1</li> <li>2-5 原子炉格納容器等への無機よう素の沈着効果について</li> <li>59-9-添2-5-1</li> <li>2-6 原子炉建屋原子炉棟の負圧達成時間について</li> <li>59-9-添2-6-1</li> <li>2-7 被ばく評価に用いた気象資料の代表性について</li> <li>59-9-添2-7-1</li> <li>2-8 被ばく評価に用いる大気拡散評価について</li> <li>59-9-添2-8-1</li> <li>2-9 地表面への沈着速度の設定について</li> <li>59-9-添2-9-1</li> <li>2-10 エアロゾル粒子の乾性沈着速度について</li> <li>59-9-添2-10-1</li> <li>2-11 有機よう素の乾性沈着速度について</li> <li>59-9-添2-11-1</li> <li>2-12 マスクによる防護係数について</li> <li>59-9-添2-12-1</li> <li>2-13 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による被ばくの評価方法について</li> <li>59-9-添2-13-1</li> <li>2-14 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばくの評価方法について</li> <li>59-9-添2-14-1</li> <li>2-15 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばくの評価方法について</li> <li>59-9-添2-15-1</li> <li>2-16 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばくの評価方法について</li> <li>59-9-添2-16-1</li> <li>2-17 大気中に放出された放射性物質の入退域時の吸入摂取による被ばくの評価方法について</li> <li>59-9-添2-17-1</li> <li>2-18 原子炉格納容器フィルタベント系排気管内の放射性物質からのガンマ線による被ばくの評価方法について</li> <li>59-9-添2-18-1</li> <li>2-19 原子炉運転時の炉心熱出力を定格熱出力に余裕を見た出力とした場合の影響について</li> <li>59-9-添2-19-1</li> </ul>	<p>添付資料1 中央制御室の居住性(設計基準事故)に係る被ばく評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>26 条-別添2-添1-1-1</li> <li>1-1 中央制御室の居住性(設計基準事故)に係る被ばく評価条件表</li> <li>26 条-別添2-添1-1-1</li> <li>1-2 原子炉冷却材喪失時における再循環開始時間について</li> <li>26 条-別添2-添1-2-1</li> <li>1-3 居住性に係る被ばく評価に用いた気象資料の代表性について</li> <li>26 条-別添2-添1-3-1</li> <li>1-4 線量評価に用いる大気拡散の評価について</li> <li>26 条-別添2-添1-4-1</li> <li>1-5 空気流入率試験結果について</li> <li>26 条-別添2-添1-5-1</li> <li>1-6 直交代の考え方について</li> <li>26 条-別添2-添1-6-1</li> <li>1-7 中央制御室(設計基準事故)居住性に係る被ばく評価との適合状況</li> <li>26 条-別添2-添1-7-1</li> </ul> <p>添付資料2 中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>59-7-添2-2-1-1</li> <li>2-1 中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価条件表</li> <li>59-7-添2-2-1-1</li> <li>2-2 事象の選定の考え方について</li> <li>59-7-添2-2-1</li> <li>2-3 居住性評価に用いる炉心選定の考え方について</li> <li>59-7-添2-3-1</li> <li>2-4 核分裂生成物の放出割合について</li> <li>59-7-添2-4-1</li> <li>2-5 放射性物質の大気放出過程について</li> <li>59-7-添2-5-1</li> <li>2-6 よう素の化学形態の設定について</li> <li>59-7-添2-6-1</li> <li>2-7 原子炉格納容器等への無機よう素の沈着効果について</li> <li>59-7-添2-7-1</li> <li>2-8 原子炉格納容器等へのエアロゾルの沈着効果について</li> <li>59-7-添2-8-1</li> <li>2-9 スプレイによるエアロゾルの除去速度の設定について</li> <li>59-7-添2-9-1</li> <li>2-10 アンユラス空気浄化設備 空気作動弁の開放手順の成立性について</li> <li>59-7-添2-10-1</li> <li>2-11 アンユラス部の負圧達成時間について</li> <li>59-7-添2-11-1</li> <li>2-12 フィルタ除去効率の設定について</li> <li>59-7-添2-12-1</li> <li>2-13 被ばく評価に用いた気象資料の代表性について</li> <li>59-7-添2-13-1</li> <li>2-14 被ばく評価に用いる大気拡散評価について</li> <li>59-7-添2-14-1</li> <li>2-15 地表面への沈着速度の設定について</li> <li>59-7-添2-15-1</li> <li>2-16 乾性沈着速度の設定について</li> <li>59-7-添2-16-1</li> <li>2-17 マスクによる防護係数について</li> <li>59-7-添2-17-1</li> <li>2-18 中央制御室空調装置の閉回路循環運転時における空気作動ダンプ強制開放手順の成立性について</li> <li>59-7-添2-18-1</li> <li>2-19 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばくの評価方法について</li> <li>59-7-添2-19-1</li> <li>2-20 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばくの評価方法について</li> <li>59-7-添2-20-1</li> <li>2-21 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばくの評価方法について</li> <li>59-7-添2-21-1</li> <li>2-22 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばくの評価方法について</li> <li>59-7-添2-22-1</li> <li>2-23 大気中に放出された放射性物質の入退域時の吸入摂取による被ばくの評価方法について</li> <li>59-7-添2-23-1</li> </ul>	<p><b>【大飯】</b>        女川審査実績の反映</p> <p><b>【女川】</b>        女川との評価項目の相違理由については各資料の相違理由欄を参照</p>





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 中央制御室の居住性（重大事故対策）に係る被ばく評価</p> <p>重大事故が発生した場合の中央制御室の居住性に係る被ばく評価にあたっては、「実用発電用原子炉施設に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド（以下、審査ガイドという）」に基づき、評価を行った。</p> <p>（実用発電用原子炉及びその附属施設的位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈 第59条より抜粋）</p> <p>h) 炉心の著しい損傷が発生した場合の原子炉制御室の居住性について、次の要件を満たすものであること。</p> <p>① 本規定第37条の想定する格納容器破損モードのうち、原子炉制御室の運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シーケンス（例えば、炉心の著しい損傷の後、格納容器圧力逃がし装置等の格納容器破損防止対策が有効に機能した場合）を想定すること。</p> <p>② 運転員はマスクの着用を考慮してもよい。ただしその場合は、実施のための体制を整備すること。</p> <p>③ 交代要員体制を考慮してもよい。ただしその場合は、実施のための体制を整備すること。</p> <p>④ 判断基準は、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと。</p> <p>2.1. 評価事象</p> <p>評価事象については、想定する格納容器破損モードのうち、中央制御室の運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シーケンスを想定し、格納容器破損防止対策に係る有効性評価における雰囲気圧力・温度による静的負荷のうち、格納容器過圧の破損モードにおいて想定している、大破断 LOCA 時に ECCS 注入および格納容器スプレイ注入に失敗するシーケンスとする。</p> <p style="text-align: right;">☐ = SA</p>	<p>2. 中央制御室の居住性（炉心の著しい損傷）に係る被ばく評価について</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合の中央制御室の居住性（炉心の著しい損傷）に係る被ばく評価は、「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド」（以下「審査ガイド」という。）に基づき行った。</p> <p>（実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 第74条抜粋）</p> <p>b) 炉心の著しい損傷が発生した場合の原子炉制御室の居住性について、次の要件を満たすものであること。</p> <p>① 本規程第37条の想定する格納容器破損モードのうち、原子炉制御室の運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シーケンス（例えば、炉心の著しい損傷の後、格納容器圧力逃がし装置等の格納容器破損防止対策が有効に機能した場合）を想定すること。</p> <p>② 運転員はマスクの着用を考慮してもよい。ただしその場合は、実施のための体制を整備すること。</p> <p>③ 交代要員体制を考慮してもよい。ただしその場合は、実施のための体制を整備すること。</p> <p>④ 判断基準は、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと。</p> <p>評価の結果、7日間での実効線量は代替循環冷却系を用いて事故収束に成功した場合で最大約 51mSv、格納容器ペントを実施した場合で最大約 51mSv となった。なお、この評価結果は遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の評価としている。</p> <p>このことから、判断基準である「運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと」を満足することを確認した。</p> <p>2.1 評価事象</p> <p>女川原子力発電所2号炉においては、「想定する格納容器破損モードのうち、原子炉制御室の運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シーケンス」である「大破断 LOCA+HPCS 失敗+低圧 ECCS 失敗+全交流動力電源喪失したシーケンス」においても、格納容器ペントを実施することなく事象を収束することのできる代替循環冷却系を整備している。しかしながら、被ばく評価においては、中央制御室の居住性評価を厳しくする観点から、代替循環冷却系を使用した場合のみならず、前述の「大破断 LOCA+HPCS 失敗+低圧 ECCS 失敗+全交流動力電源喪失したシーケンス」において、原子炉格納容器フィルタペント系を経由した格納容器ペントを実施した場合も想定する。</p>	<p>2. 中央制御室の居住性（炉心の著しい損傷）に係る被ばく評価について</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合の中央制御室の居住性（炉心の著しい損傷）に係る被ばく評価は、「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド」（以下、「審査ガイド」という。）に基づき行った。</p> <p>（実用発電用原子炉及びその附属施設的位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈 第69条抜粋）</p> <p>b) 炉心の著しい損傷が発生した場合の原子炉制御室の居住性について、次の要件を満たすものであること。</p> <p>① 本規程第37条の想定する格納容器破損モードのうち、原子炉制御室の運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シーケンス（例えば、炉心の著しい損傷の後、格納容器圧力逃がし装置等の格納容器破損防止対策が有効に機能した場合）を想定すること。</p> <p>② 運転員はマスクの着用を考慮してもよい。ただしその場合は、実施のための体制を整備すること。</p> <p>③ 交代要員体制を考慮してもよい。ただしその場合は、実施のための体制を整備すること。</p> <p>④ 判断基準は、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと。</p> <p>評価の結果、7日間での実効線量は約 21mSv となった。なお、この評価結果は遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の評価としている。</p> <p>このことから、判断基準である「運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと」を満足することを確認した。</p> <p>2.1 評価事象</p> <p>泊発電所3号炉においては、「想定する格納容器破損モードのうち、原子炉制御室の運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シーケンス」を想定し、格納容器破損防止対策に係る有効性評価における雰囲気圧力・温度による静的負荷のうち、格納容器過圧の破損モードにおいて想定している、「大破断 LOCA 時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故」を想定する。</p>	<p>【大飯】                  女川審査実績の反映</p> <p>【女川】型式の相違・プラント型式の相違に伴う評価事象想定との相違及び評価線量の相違。PWRの評価事象については「2.1 評価事象」を参照。</p> <p>【女川】大飯審査実績の反映</p> <p>【女川】型式の相違・プラント型式の相違に伴う評価事象想定との相違。なお、大飯とは同様の評価事象想定である。</p> <p>【大飯】記載表現の相違                  ・泊は有効性評価で用いている用語に統一した。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																					
<p>2.2. 大気中への放出量の評価</p> <p>放射性物質の大気中への放出量は、従来の原子炉設置変更許可申請書添付書類十の原子炉冷却材喪失時被ばく評価と同様のプロセスにて評価する。</p> <p>また、上記評価事象が炉心損傷後の事象であることを踏まえ、原子炉格納容器内に放出された放射性物質は NUREG-1465 の原子炉格納容器内への放出割合を基に設定して評価する。</p> <p>大気中への放射性物質の放出低減機能を有する代替低圧注水ポンプによるスプレイおよびアニユラス空気浄化設備の起動時間については、全交流動力電源喪失および最終ヒートシンク喪失を想定した起動遅れを考慮した評価とした。</p> <p style="text-align: right;">☐ = SA</p>	<p>2.2 大気中への放出量の評価</p> <p>大気中へ放出される放射性物質の量は、上記 2.1 で示した事故シーケンスを想定し評価した。なお、原子炉格納容器から原子炉格納容器フィルタベント系への流入量及び原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟への漏えい量を MAAP 解析及びNUREG-1465 の知見を用いて評価した。ただし、MAAP コードでは、よう素の化学組成は考慮されないため、粒子状よう素、無機よう素及び有機よう素については、大気中の放出量評価条件を設定し、放出量を評価した。評価に用いた放出放射エネルギーを表1及び表2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表1 大気中への放出放射エネルギー（7日間積算） （代替循環冷却系により事象を収束することを想定する場合）</p> <table border="1" data-bbox="750 571 1294 874"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種グループ</th> <th rowspan="2">停止時炉内蔵量 [Bq] (gross 値)</th> <th>放出放射エネルギー [Bq] (gross 値)</th> </tr> <tr> <th>原子炉建屋原子炉棟からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 1.6×10<sup>19</sup></td><td>約 1.6×10<sup>17</sup></td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 2.1×10<sup>19</sup></td><td>約 4.5×10<sup>15</sup></td></tr> <tr><td>Cs 類</td><td>約 8.4×10<sup>17</sup></td><td>約 2.5×10<sup>12</sup></td></tr> <tr><td>Te 類</td><td>約 6.0×10<sup>18</sup></td><td>約 2.7×10<sup>12</sup></td></tr> <tr><td>Ba 類</td><td>約 1.8×10<sup>19</sup></td><td>約 2.9×10<sup>12</sup></td></tr> <tr><td>Ru 類</td><td>約 1.8×10<sup>19</sup></td><td>約 4.2×10<sup>11</sup></td></tr> <tr><td>Ce 類</td><td>約 5.5×10<sup>19</sup></td><td>約 2.8×10<sup>11</sup></td></tr> <tr><td>La 類</td><td>約 4.1×10<sup>19</sup></td><td>約 7.5×10<sup>10</sup></td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表2 大気中への放出放射エネルギー（7日間積算） （格納容器ベントの実施を想定する場合）</p> <table border="1" data-bbox="750 954 1294 1279"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種グループ</th> <th colspan="2">放出放射エネルギー [Bq] (gross 値)</th> </tr> <tr> <th>原子炉格納容器フィルタベント系を経由した放出</th> <th>原子炉建屋原子炉棟からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 4.6×10<sup>19</sup></td><td>約 8.9×10<sup>16</sup></td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 3.3×10<sup>15</sup></td><td>約 3.0×10<sup>15</sup></td></tr> <tr><td>Cs 類</td><td>約 9.6×10<sup>8</sup></td><td>約 2.5×10<sup>12</sup></td></tr> <tr><td>Te 類</td><td>約 6.7×10<sup>9</sup></td><td>約 2.7×10<sup>12</sup></td></tr> <tr><td>Ba 類</td><td>約 6.3×10<sup>9</sup></td><td>約 2.9×10<sup>12</sup></td></tr> <tr><td>Ru 類</td><td>約 1.3×10<sup>9</sup></td><td>約 4.2×10<sup>11</sup></td></tr> <tr><td>Ce 類</td><td>約 7.9×10<sup>7</sup></td><td>約 2.8×10<sup>11</sup></td></tr> <tr><td>La 類</td><td>約 2.0×10<sup>7</sup></td><td>約 7.5×10<sup>10</sup></td></tr> </tbody> </table>	核種グループ	停止時炉内蔵量 [Bq] (gross 値)	放出放射エネルギー [Bq] (gross 値)	原子炉建屋原子炉棟からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出	希ガス類	約 1.6×10 <sup>19</sup>	約 1.6×10 <sup>17</sup>	よう素類	約 2.1×10 <sup>19</sup>	約 4.5×10 <sup>15</sup>	Cs 類	約 8.4×10 <sup>17</sup>	約 2.5×10 <sup>12</sup>	Te 類	約 6.0×10 <sup>18</sup>	約 2.7×10 <sup>12</sup>	Ba 類	約 1.8×10 <sup>19</sup>	約 2.9×10 <sup>12</sup>	Ru 類	約 1.8×10 <sup>19</sup>	約 4.2×10 <sup>11</sup>	Ce 類	約 5.5×10 <sup>19</sup>	約 2.8×10 <sup>11</sup>	La 類	約 4.1×10 <sup>19</sup>	約 7.5×10 <sup>10</sup>	核種グループ	放出放射エネルギー [Bq] (gross 値)		原子炉格納容器フィルタベント系を経由した放出	原子炉建屋原子炉棟からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出	希ガス類	約 4.6×10 <sup>19</sup>	約 8.9×10 <sup>16</sup>	よう素類	約 3.3×10 <sup>15</sup>	約 3.0×10 <sup>15</sup>	Cs 類	約 9.6×10 <sup>8</sup>	約 2.5×10 <sup>12</sup>	Te 類	約 6.7×10 <sup>9</sup>	約 2.7×10 <sup>12</sup>	Ba 類	約 6.3×10 <sup>9</sup>	約 2.9×10 <sup>12</sup>	Ru 類	約 1.3×10 <sup>9</sup>	約 4.2×10 <sup>11</sup>	Ce 類	約 7.9×10 <sup>7</sup>	約 2.8×10 <sup>11</sup>	La 類	約 2.0×10 <sup>7</sup>	約 7.5×10 <sup>10</sup>	<p>2.2 大気中への放出量の評価</p> <p>大気中へ放出される放射性物質の量は、上記 2.1 で示した事故シーケンスを想定し、従来の原子炉設置変更許可申請書添付書類十の原子炉冷却材喪失時被ばく評価と同様のプロセスにて評価した。</p> <p>また、上記評価事象が炉心損傷後の事象であることを踏まえ、原子炉格納容器内に放出された放射性物質は NUREG-1465 の原子炉格納容器内への放出割合を基に設定して評価した。</p> <p>大気中への放射性物質の放出低減機能を有する代替格納容器スプレイ設備及びアニユラス空気浄化設備の起動時間については、全交流動力電源喪失及び最終ヒートシンク喪失を想定した起動遅れを考慮した評価とした。評価に用いた放出放射エネルギーを第1表に示す。</p> <p style="text-align: center;">第1表 大気中への放出放射エネルギー（7日間積算）*</p> <table border="1" data-bbox="1384 545 1915 890"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種グループ</th> <th rowspan="2">停止時炉心内蔵量 [Bq] (gross 値)</th> <th>放出放射エネルギー [Bq] (gross 値)</th> </tr> <tr> <th>原子炉格納容器からの漏えい及びアニユラス空気浄化設備による放出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 3.0×10<sup>19</sup></td><td>約 5.4×10<sup>18</sup></td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 3.1×10<sup>19</sup></td><td>約 2.3×10<sup>14</sup></td></tr> <tr><td>Cs 類</td><td>約 1.2×10<sup>19</sup></td><td>約 6.0×10<sup>12</sup></td></tr> <tr><td>Te 類</td><td>約 1.9×10<sup>19</sup></td><td>約 2.5×10<sup>12</sup></td></tr> <tr><td>Ba 類</td><td>約 1.8×10<sup>19</sup></td><td>約 1.7×10<sup>12</sup></td></tr> <tr><td>Ru 類</td><td>約 3.7×10<sup>19</sup></td><td>約 2.3×10<sup>11</sup></td></tr> <tr><td>Ce 類</td><td>約 6.5×10<sup>19</sup></td><td>約 3.4×10<sup>11</sup></td></tr> <tr><td>La 類</td><td>約 6.6×10<sup>19</sup></td><td>約 2.4×10<sup>11</sup></td></tr> </tbody> </table> <p>*：有効数字2桁で四捨五入した値</p>	核種グループ	停止時炉心内蔵量 [Bq] (gross 値)	放出放射エネルギー [Bq] (gross 値)	原子炉格納容器からの漏えい及びアニユラス空気浄化設備による放出	希ガス類	約 3.0×10 <sup>19</sup>	約 5.4×10 <sup>18</sup>	よう素類	約 3.1×10 <sup>19</sup>	約 2.3×10 <sup>14</sup>	Cs 類	約 1.2×10 <sup>19</sup>	約 6.0×10 <sup>12</sup>	Te 類	約 1.9×10 <sup>19</sup>	約 2.5×10 <sup>12</sup>	Ba 類	約 1.8×10 <sup>19</sup>	約 1.7×10 <sup>12</sup>	Ru 類	約 3.7×10 <sup>19</sup>	約 2.3×10 <sup>11</sup>	Ce 類	約 6.5×10 <sup>19</sup>	約 3.4×10 <sup>11</sup>	La 類	約 6.6×10 <sup>19</sup>	約 2.4×10 <sup>11</sup>	<p>【大飯】記載表現の相違          【女川】記載内容の相違          ・取り上げている内容が異なるが、いずれもソースタームの考え方を記載している。なお、大飯とは評価条件は同様である。          【女川】型式の相違          ・PWR では格納容器ベントを用いない。</p> <p>【女川】型式の相違          ・PWR では格納容器ベントを用いない。</p>
核種グループ	停止時炉内蔵量 [Bq] (gross 値)			放出放射エネルギー [Bq] (gross 値)																																																																																				
		原子炉建屋原子炉棟からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出																																																																																						
希ガス類	約 1.6×10 <sup>19</sup>	約 1.6×10 <sup>17</sup>																																																																																						
よう素類	約 2.1×10 <sup>19</sup>	約 4.5×10 <sup>15</sup>																																																																																						
Cs 類	約 8.4×10 <sup>17</sup>	約 2.5×10 <sup>12</sup>																																																																																						
Te 類	約 6.0×10 <sup>18</sup>	約 2.7×10 <sup>12</sup>																																																																																						
Ba 類	約 1.8×10 <sup>19</sup>	約 2.9×10 <sup>12</sup>																																																																																						
Ru 類	約 1.8×10 <sup>19</sup>	約 4.2×10 <sup>11</sup>																																																																																						
Ce 類	約 5.5×10 <sup>19</sup>	約 2.8×10 <sup>11</sup>																																																																																						
La 類	約 4.1×10 <sup>19</sup>	約 7.5×10 <sup>10</sup>																																																																																						
核種グループ	放出放射エネルギー [Bq] (gross 値)																																																																																							
	原子炉格納容器フィルタベント系を経由した放出	原子炉建屋原子炉棟からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出																																																																																						
希ガス類	約 4.6×10 <sup>19</sup>	約 8.9×10 <sup>16</sup>																																																																																						
よう素類	約 3.3×10 <sup>15</sup>	約 3.0×10 <sup>15</sup>																																																																																						
Cs 類	約 9.6×10 <sup>8</sup>	約 2.5×10 <sup>12</sup>																																																																																						
Te 類	約 6.7×10 <sup>9</sup>	約 2.7×10 <sup>12</sup>																																																																																						
Ba 類	約 6.3×10 <sup>9</sup>	約 2.9×10 <sup>12</sup>																																																																																						
Ru 類	約 1.3×10 <sup>9</sup>	約 4.2×10 <sup>11</sup>																																																																																						
Ce 類	約 7.9×10 <sup>7</sup>	約 2.8×10 <sup>11</sup>																																																																																						
La 類	約 2.0×10 <sup>7</sup>	約 7.5×10 <sup>10</sup>																																																																																						
核種グループ	停止時炉心内蔵量 [Bq] (gross 値)	放出放射エネルギー [Bq] (gross 値)																																																																																						
		原子炉格納容器からの漏えい及びアニユラス空気浄化設備による放出																																																																																						
希ガス類	約 3.0×10 <sup>19</sup>	約 5.4×10 <sup>18</sup>																																																																																						
よう素類	約 3.1×10 <sup>19</sup>	約 2.3×10 <sup>14</sup>																																																																																						
Cs 類	約 1.2×10 <sup>19</sup>	約 6.0×10 <sup>12</sup>																																																																																						
Te 類	約 1.9×10 <sup>19</sup>	約 2.5×10 <sup>12</sup>																																																																																						
Ba 類	約 1.8×10 <sup>19</sup>	約 1.7×10 <sup>12</sup>																																																																																						
Ru 類	約 3.7×10 <sup>19</sup>	約 2.3×10 <sup>11</sup>																																																																																						
Ce 類	約 6.5×10 <sup>19</sup>	約 3.4×10 <sup>11</sup>																																																																																						
La 類	約 6.6×10 <sup>19</sup>	約 2.4×10 <sup>11</sup>																																																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																							
<p>2.3. 大気拡散の評価</p> <p>被ばく評価に用いる相対濃度と相対線量は、大気拡散の評価に従い実効放出継続時間を基に計算した値を年間について小さい方から順に並べた累積出現頻度97%に当たる値を用いた。評価においては、2010年1月～2010年12月の1年間における気象データを使用した。</p> <p>なお、当該データの使用に当たっては、風向風速データが不良標本の棄却検定により、最近10年間の気象状態と比較して特に異常でないことを確認している。</p> <p>2.4. 建屋内の放射性物質からのガンマ線の評価</p> <p>建屋内の放射性物質からの直接ガンマ線およびスカイシャインガンマ線による運転員の実効線量は、施設の位置、建屋の配置、形状等から評価した。直接ガンマ線はQADコード、スカイシャインガンマ線はSCATTERINGコードを用いて評価した。</p> <p>2.5. 中央制御室居住性に係る被ばく評価</p> <p>被ばく評価に当たって考慮している被ばく経路(①～⑤)は、第2.1図に示すとおりである。それぞれの経路における評価方法および評価条件は以下に示すとおりである。</p>	<p>2.3 大気拡散の評価</p> <p>被ばく評価に用いる相対濃度と相対線量は、大気拡散の評価に従い実効放出継続時間を基に計算した値を年間について小さい方から順に並べて整理し、累積出現頻度97%に当たる値を用いた。評価においては、女川原子力発電所敷地内において観測した2012年1月～2012年12月の1年間における気象データを使用した。</p> <p>相対濃度及び相対線量の評価結果を表3に示す。</p> <table border="1" data-bbox="772 614 1265 1093"> <caption>表3 相対濃度及び相対線量</caption> <thead> <tr> <th>放出源及び放出源高さ</th> <th>評価点</th> <th>着目方位</th> <th>相対濃度 [1/m<sup>3</sup>]</th> <th>相対線量 [Gy/Bq]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">原子炉格納容器 フィルタメント 系統気管 (地上36m)</td> <td>中央制御室 換気空調系統気口</td> <td>SE, SSE, S, SSW, SW</td> <td>5.8×10<sup>-4</sup></td> <td>4.6×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>中央制御室中心</td> <td>ENE, E, ESE, SE, SSE, S, SSW, SW</td> <td>8.6×10<sup>-4</sup></td> <td>6.6×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>出入管理所</td> <td>SSW, SW, WSW, W</td> <td>5.0×10<sup>-4</sup></td> <td>4.3×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>制御棟屋出入口</td> <td>SSE, S, SSW, SW, WSW, W</td> <td>7.1×10<sup>-4</sup></td> <td>5.6×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">原子炉建屋ブローアウトパネル (地上0m)</td> <td>中央制御室 換気空調系統気口</td> <td>SE, SSE, S, SSW, SW</td> <td>1.3×10<sup>-4</sup></td> <td>5.0×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>中央制御室中心</td> <td>ESE, SE, SSE, S, SSW, SW</td> <td>1.6×10<sup>-4</sup></td> <td>6.3×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>出入管理所</td> <td>SSW, SW, WSW, W</td> <td>9.9×10<sup>-5</sup></td> <td>4.4×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>制御棟屋出入口</td> <td>SSE, S, SSW, SW, WSW, W</td> <td>1.5×10<sup>-4</sup></td> <td>6.0×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">排気筒 (地上50m)</td> <td>中央制御室 換気空調系統気口</td> <td>ESE</td> <td>2.8×10<sup>-5</sup></td> <td>1.0×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>中央制御室中心</td> <td>ESE</td> <td>2.8×10<sup>-5</sup></td> <td>1.0×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>出入管理所</td> <td>SE</td> <td>4.0×10<sup>-5</sup></td> <td>1.4×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>制御棟屋出入口</td> <td>ESE</td> <td>2.8×10<sup>-5</sup></td> <td>1.0×10<sup>-10</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※放出源高さは放出エネルギーによる影響は未考慮</p> <p>2.4 中央制御室の居住性（炉心の著しい損傷）に係る被ばく評価</p> <p>被ばく評価に当たっては、評価期間を事故発生後7日間とし、運転員が交替（5直3交替）するものとして実効線量を評価した。運転員の直交替サイクルを表4に、交替スケジュール例を表5に示す。</p>	放出源及び放出源高さ	評価点	着目方位	相対濃度 [1/m <sup>3</sup> ]	相対線量 [Gy/Bq]	原子炉格納容器 フィルタメント 系統気管 (地上36m)	中央制御室 換気空調系統気口	SE, SSE, S, SSW, SW	5.8×10 <sup>-4</sup>	4.6×10 <sup>-10</sup>	中央制御室中心	ENE, E, ESE, SE, SSE, S, SSW, SW	8.6×10 <sup>-4</sup>	6.6×10 <sup>-10</sup>	出入管理所	SSW, SW, WSW, W	5.0×10 <sup>-4</sup>	4.3×10 <sup>-10</sup>	制御棟屋出入口	SSE, S, SSW, SW, WSW, W	7.1×10 <sup>-4</sup>	5.6×10 <sup>-10</sup>	原子炉建屋ブローアウトパネル (地上0m)	中央制御室 換気空調系統気口	SE, SSE, S, SSW, SW	1.3×10 <sup>-4</sup>	5.0×10 <sup>-10</sup>	中央制御室中心	ESE, SE, SSE, S, SSW, SW	1.6×10 <sup>-4</sup>	6.3×10 <sup>-10</sup>	出入管理所	SSW, SW, WSW, W	9.9×10 <sup>-5</sup>	4.4×10 <sup>-10</sup>	制御棟屋出入口	SSE, S, SSW, SW, WSW, W	1.5×10 <sup>-4</sup>	6.0×10 <sup>-10</sup>	排気筒 (地上50m)	中央制御室 換気空調系統気口	ESE	2.8×10 <sup>-5</sup>	1.0×10 <sup>-10</sup>	中央制御室中心	ESE	2.8×10 <sup>-5</sup>	1.0×10 <sup>-10</sup>	出入管理所	SE	4.0×10 <sup>-5</sup>	1.4×10 <sup>-10</sup>	制御棟屋出入口	ESE	2.8×10 <sup>-5</sup>	1.0×10 <sup>-10</sup>	<p>2.3 大気拡散の評価</p> <p>被ばく評価に用いる相対濃度と相対線量は、大気拡散の評価に従い実効放出継続時間を基に計算した値を年間について小さい方から順に並べて整理し、累積出現頻度97%に当たる値を用いた。評価においては、泊発電所敷地内において観測した1997年1月～1997年12月の1年間における気象データを使用した。</p> <p>なお、当該データの使用に当たっては、風向風速データが不良標本の棄却検定により、1998年1月～2007年12月の気象状態と比較して特に異常でないことを確認している。</p> <p>相対濃度及び相対線量の評価結果を第2表に示す。</p> <table border="1" data-bbox="1344 614 1960 885"> <caption>第2表 相対濃度及び相対線量</caption> <thead> <tr> <th>放出源及び放出源高さ</th> <th>評価点</th> <th>着目方位</th> <th>相対濃度 [1/m<sup>3</sup>]</th> <th>相対線量 [Gy/Bq]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地上 (地上0m)</td> <td>中央制御室中心</td> <td>W, WNW, NW, NNW, N</td> <td>約5.6×10<sup>-4</sup></td> <td>約2.4×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>出入管理建屋入口</td> <td>WNW, NW, NNW</td> <td>約3.8×10<sup>-4</sup></td> <td>約1.8×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">排気筒 (地上73.1m)</td> <td>中央制御室入口</td> <td>W, WNW, NW, NNW, N, NNE</td> <td>約5.7×10<sup>-4</sup></td> <td>約2.3×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>中央制御室中心</td> <td>W, WNW, NW, NNW, N</td> <td>約2.8×10<sup>-4</sup></td> <td>約4.6×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>出入管理建屋入口</td> <td>WNW, NW, NNW</td> <td>約1.9×10<sup>-4</sup></td> <td>約3.3×10<sup>-10</sup></td> </tr> <tr> <td>中央制御室入口</td> <td>W, WNW, NW, NNW, N, NNE</td> <td>約2.8×10<sup>-4</sup></td> <td>約4.7×10<sup>-10</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※放出源高さは放出エネルギーによる影響は未考慮</p>	放出源及び放出源高さ	評価点	着目方位	相対濃度 [1/m <sup>3</sup> ]	相対線量 [Gy/Bq]	地上 (地上0m)	中央制御室中心	W, WNW, NW, NNW, N	約5.6×10 <sup>-4</sup>	約2.4×10 <sup>-10</sup>	出入管理建屋入口	WNW, NW, NNW	約3.8×10 <sup>-4</sup>	約1.8×10 <sup>-10</sup>	排気筒 (地上73.1m)	中央制御室入口	W, WNW, NW, NNW, N, NNE	約5.7×10 <sup>-4</sup>	約2.3×10 <sup>-10</sup>	中央制御室中心	W, WNW, NW, NNW, N	約2.8×10 <sup>-4</sup>	約4.6×10 <sup>-10</sup>	出入管理建屋入口	WNW, NW, NNW	約1.9×10 <sup>-4</sup>	約3.3×10 <sup>-10</sup>	中央制御室入口	W, WNW, NW, NNW, N, NNE	約2.8×10 <sup>-4</sup>	約4.7×10 <sup>-10</sup>	<p>【女川・大飯】気象データ対象年の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象データの代表性については、「2-13 被ばく評価に用いた気象資料の代表性について」を参照。</li> </ul> <p>【女川】記載充実（大飯実績反映）</p> <p>【大飯】気象データ対象年の相違</p> <p>【女川】型式の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PWRでは格納容器ベントを用いない。</li> </ul> <p>【大飯】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次項で比較</li> </ul> <p>【大飯】女川審査実績の反映</p>
放出源及び放出源高さ	評価点	着目方位	相対濃度 [1/m <sup>3</sup> ]	相対線量 [Gy/Bq]																																																																																						
原子炉格納容器 フィルタメント 系統気管 (地上36m)	中央制御室 換気空調系統気口	SE, SSE, S, SSW, SW	5.8×10 <sup>-4</sup>	4.6×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	中央制御室中心	ENE, E, ESE, SE, SSE, S, SSW, SW	8.6×10 <sup>-4</sup>	6.6×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	出入管理所	SSW, SW, WSW, W	5.0×10 <sup>-4</sup>	4.3×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	制御棟屋出入口	SSE, S, SSW, SW, WSW, W	7.1×10 <sup>-4</sup>	5.6×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
原子炉建屋ブローアウトパネル (地上0m)	中央制御室 換気空調系統気口	SE, SSE, S, SSW, SW	1.3×10 <sup>-4</sup>	5.0×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	中央制御室中心	ESE, SE, SSE, S, SSW, SW	1.6×10 <sup>-4</sup>	6.3×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	出入管理所	SSW, SW, WSW, W	9.9×10 <sup>-5</sup>	4.4×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	制御棟屋出入口	SSE, S, SSW, SW, WSW, W	1.5×10 <sup>-4</sup>	6.0×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
排気筒 (地上50m)	中央制御室 換気空調系統気口	ESE	2.8×10 <sup>-5</sup>	1.0×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	中央制御室中心	ESE	2.8×10 <sup>-5</sup>	1.0×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	出入管理所	SE	4.0×10 <sup>-5</sup>	1.4×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	制御棟屋出入口	ESE	2.8×10 <sup>-5</sup>	1.0×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
放出源及び放出源高さ	評価点	着目方位	相対濃度 [1/m <sup>3</sup> ]	相対線量 [Gy/Bq]																																																																																						
地上 (地上0m)	中央制御室中心	W, WNW, NW, NNW, N	約5.6×10 <sup>-4</sup>	約2.4×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	出入管理建屋入口	WNW, NW, NNW	約3.8×10 <sup>-4</sup>	約1.8×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
排気筒 (地上73.1m)	中央制御室入口	W, WNW, NW, NNW, N, NNE	約5.7×10 <sup>-4</sup>	約2.3×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	中央制御室中心	W, WNW, NW, NNW, N	約2.8×10 <sup>-4</sup>	約4.6×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
	出入管理建屋入口	WNW, NW, NNW	約1.9×10 <sup>-4</sup>	約3.3×10 <sup>-10</sup>																																																																																						
中央制御室入口	W, WNW, NW, NNW, N, NNE	約2.8×10 <sup>-4</sup>	約4.7×10 <sup>-10</sup>																																																																																							



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																						
<p>中央制御室等の運転員に係る被ばく評価期間は事象発生後7日間とした。運転員の勤務形態としては5直2.5交代とし、7日間の評価期間において最も中央制御室の滞在期間が長く入退域回数が多い運転員を対象として、7日間の積算線量を滞在期間および入退域に要する時間の割合で配分することで、実効線量を評価した。</p> <p>2.5.1 中央制御室内での被ばく                  2.5.1.1 建屋からのガンマ線による被ばく (経路①)</p> <p>事故期間中に建屋内に存在する放射性物質からの直接ガンマ線およびスカイシャインガンマ線による中央制御室内での運転員の外部被ばくは、上記2.4.の方法で実効線量を評価した。</p> <p style="text-align: right;">□ = SA</p>	<p>また、評価で想定した運転員の入退域及び中央制御室滞在の開始及び終了の時間並びに空調起動や格納容器ベント実施の時間の前後関係を参考図に示す。なお、本評価においては、1直(1日目)の中央制御室滞在開始時に事故が発生するものと想定した。</p> <p>被ばく評価に当たって考慮した被ばく経路と被ばく経路のイメージを図1及び図2に示す。また、中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価の主要条件を表9に、被ばく評価に係る換気空調設備の概略図を図3に示す。</p> <p style="text-align: center;">表4 直交代サイクル</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>勤務</th> <th>勤務時間</th> <th>勤務時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1直</td> <td>21時30分～9時00分</td> <td>11時間30分</td> </tr> <tr> <td>2直</td> <td>8時40分～16時50分</td> <td>8時間10分</td> </tr> <tr> <td>3直</td> <td>16時30分～21時50分</td> <td>5時間20分</td> </tr> <tr> <td>2・3直</td> <td>8時40分～21時50分</td> <td>13時間10分</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表5 直交替スケジュール例</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">勤務</th> <th colspan="7">日動</th> <th rowspan="2">滞在時間</th> <th rowspan="2">入退域回数</th> </tr> <tr> <th>1日</th> <th>2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>2</td> <td>23</td> <td>3</td> <td>/</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>休</td> <td>49:40</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>3</td> <td>/</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>休</td> <td>休</td> <td>2</td> <td>36:30</td> <td>8回</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0:00</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>休</td> <td>休</td> <td>2</td> <td>23</td> <td>3</td> <td>49:40</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>休</td> <td>休</td> <td>2</td> <td>23</td> <td>3</td> <td>/</td> <td>1</td> <td>38:10</td> <td>8回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表6 直交代サイクル</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>勤務</th> <th>勤務時刻</th> <th>勤務時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1直</td> <td>22:00～8:10</td> <td>10時間10分</td> </tr> <tr> <td>2直</td> <td>8:10～15:20</td> <td>7時間20分</td> </tr> <tr> <td>3直</td> <td>15:00～22:10</td> <td>7時間10分</td> </tr> <tr> <td>連直</td> <td>8:00～22:10</td> <td>14時間10分</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表7 勤務スケジュール例</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">勤務</th> <th colspan="7">日動</th> <th rowspan="2">滞在時間</th> <th rowspan="2">入退域回数</th> </tr> <tr> <th>1日</th> <th>2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>3直</td> <td>連直</td> <td>2直</td> <td></td> <td>1直</td> <td>1直</td> <td></td> <td>49:00</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3直</td> <td>連直</td> <td>2直</td> <td>1直</td> <td>38:50</td> <td>8回</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>1直</td> <td>1直</td> <td></td> <td></td> <td>3直</td> <td>連直</td> <td>2直</td> <td>49:00</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>2直</td> <td></td> <td>1直</td> <td>1直</td> <td></td> <td></td> <td>3直</td> <td>34:50</td> <td>8回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図3 概略図</p> <p>参考図 評価で想定した運転員の中央制御室滞在の時間や空調起動等の時間の前後関係</p> <p>2.4.1 中央制御室内での被ばく                  2.4.1.1 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路①)</p> <p>事故期間中に原子炉建屋原子炉棟内に存在する放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による中央制御室内での外部被ばくは、原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質の積算線源強度、施設の位置、遮蔽構造、地形条件等を踏まえて評価した。</p> <p>なお、原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置は、原子炉建屋原子炉棟内に設置しているため、原子炉建屋の躯体により遮蔽されるため影響はない。</p>	勤務	勤務時間	勤務時間	1直	21時30分～9時00分	11時間30分	2直	8時40分～16時50分	8時間10分	3直	16時30分～21時50分	5時間20分	2・3直	8時40分～21時50分	13時間10分	勤務	日動							滞在時間	入退域回数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	A班	2	23	3	/	1	1	休	49:40	10回	B班	3	/	1	1	休	休	2	36:30	8回	C班								0:00	0回	D班	1	1	休	休	2	23	3	49:40	10回	E班	休	休	2	23	3	/	1	38:10	8回	勤務	勤務時刻	勤務時間	1直	22:00～8:10	10時間10分	2直	8:10～15:20	7時間20分	3直	15:00～22:10	7時間10分	連直	8:00～22:10	14時間10分	勤務	日動							滞在時間	入退域回数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	A班	3直	連直	2直		1直	1直		49:00	10回	B班										C班				3直	連直	2直	1直	38:50	8回	D班	1直	1直			3直	連直	2直	49:00	10回	E班	2直		1直	1直			3直	34:50	8回	<p>なお、本評価においては、3直(1日目)の中央制御室滞在開始時に事故が発生するものと想定した。</p> <p>被ばく評価に当たって考慮した被ばく経路と被ばく経路のイメージを第1図及び第2図に示す。また、中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価の主要条件を表8表に、被ばく評価に係る中央制御室空調装置の概略図を第3図に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3 直交代サイクル</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>勤務</th> <th>勤務時刻</th> <th>勤務時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1直</td> <td>22:00～8:10</td> <td>10時間10分</td> </tr> <tr> <td>2直</td> <td>8:10～15:20</td> <td>7時間20分</td> </tr> <tr> <td>3直</td> <td>15:00～22:10</td> <td>7時間10分</td> </tr> <tr> <td>連直</td> <td>8:00～22:10</td> <td>14時間10分</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表4 勤務スケジュール例</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">勤務</th> <th colspan="7">日動</th> <th rowspan="2">滞在時間</th> <th rowspan="2">入退域回数</th> </tr> <tr> <th>1日</th> <th>2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>3直</td> <td>連直</td> <td>2直</td> <td></td> <td>1直</td> <td>1直</td> <td></td> <td>49:00</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3直</td> <td>連直</td> <td>2直</td> <td>1直</td> <td>38:50</td> <td>8回</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>1直</td> <td>1直</td> <td></td> <td></td> <td>3直</td> <td>連直</td> <td>2直</td> <td>49:00</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>2直</td> <td></td> <td>1直</td> <td>1直</td> <td></td> <td></td> <td>3直</td> <td>34:50</td> <td>8回</td> </tr> </tbody> </table> <p>2.4.1 中央制御室内での被ばく                  2.4.1.1 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (経路①)</p> <p>事故期間中に原子炉建屋内に存在する放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による中央制御室内での外部被ばくは、原子炉格納容器内の放射性物質の積算線源強度、施設の位置、遮蔽構造、地形条件等を踏まえて評価した。</p>	勤務	勤務時刻	勤務時間	1直	22:00～8:10	10時間10分	2直	8:10～15:20	7時間20分	3直	15:00～22:10	7時間10分	連直	8:00～22:10	14時間10分	勤務	日動							滞在時間	入退域回数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	A班	3直	連直	2直		1直	1直		49:00	10回	B班										C班				3直	連直	2直	1直	38:50	8回	D班	1直	1直			3直	連直	2直	49:00	10回	E班	2直		1直	1直			3直	34:50	8回	<p>【大飯】                  女川実績の反映                  ・⑨の相違</p> <p>【女川】運用の相違                  ・交代スケジュールの相違による選定条件の相違                  ・女川の1直は泊の1直より勤務時間が長く、女川の2直から23直までの期間は、泊の3直から連直までの期間より長い。</p> <p>【女川・大飯】記載表現の相違                  ・泊では格納容器ベントや待避所の正圧化といったイベントは発生しない。</p> <p>【女川】型式の相違                  ・PWRでは格納容器ベントを用いない。</p>
勤務	勤務時間	勤務時間																																																																																																																																																																																																																																																							
1直	21時30分～9時00分	11時間30分																																																																																																																																																																																																																																																							
2直	8時40分～16時50分	8時間10分																																																																																																																																																																																																																																																							
3直	16時30分～21時50分	5時間20分																																																																																																																																																																																																																																																							
2・3直	8時40分～21時50分	13時間10分																																																																																																																																																																																																																																																							
勤務	日動							滞在時間	入退域回数																																																																																																																																																																																																																																																
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日																																																																																																																																																																																																																																																		
A班	2	23	3	/	1	1	休	49:40	10回																																																																																																																																																																																																																																																
B班	3	/	1	1	休	休	2	36:30	8回																																																																																																																																																																																																																																																
C班								0:00	0回																																																																																																																																																																																																																																																
D班	1	1	休	休	2	23	3	49:40	10回																																																																																																																																																																																																																																																
E班	休	休	2	23	3	/	1	38:10	8回																																																																																																																																																																																																																																																
勤務	勤務時刻	勤務時間																																																																																																																																																																																																																																																							
1直	22:00～8:10	10時間10分																																																																																																																																																																																																																																																							
2直	8:10～15:20	7時間20分																																																																																																																																																																																																																																																							
3直	15:00～22:10	7時間10分																																																																																																																																																																																																																																																							
連直	8:00～22:10	14時間10分																																																																																																																																																																																																																																																							
勤務	日動							滞在時間	入退域回数																																																																																																																																																																																																																																																
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日																																																																																																																																																																																																																																																		
A班	3直	連直	2直		1直	1直		49:00	10回																																																																																																																																																																																																																																																
B班																																																																																																																																																																																																																																																									
C班				3直	連直	2直	1直	38:50	8回																																																																																																																																																																																																																																																
D班	1直	1直			3直	連直	2直	49:00	10回																																																																																																																																																																																																																																																
E班	2直		1直	1直			3直	34:50	8回																																																																																																																																																																																																																																																
勤務	勤務時刻	勤務時間																																																																																																																																																																																																																																																							
1直	22:00～8:10	10時間10分																																																																																																																																																																																																																																																							
2直	8:10～15:20	7時間20分																																																																																																																																																																																																																																																							
3直	15:00～22:10	7時間10分																																																																																																																																																																																																																																																							
連直	8:00～22:10	14時間10分																																																																																																																																																																																																																																																							
勤務	日動							滞在時間	入退域回数																																																																																																																																																																																																																																																
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日																																																																																																																																																																																																																																																		
A班	3直	連直	2直		1直	1直		49:00	10回																																																																																																																																																																																																																																																
B班																																																																																																																																																																																																																																																									
C班				3直	連直	2直	1直	38:50	8回																																																																																																																																																																																																																																																
D班	1直	1直			3直	連直	2直	49:00	10回																																																																																																																																																																																																																																																
E班	2直		1直	1直			3直	34:50	8回																																																																																																																																																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>【再掲】</b></p> <p>2.4. 建屋内の放射性物質からのガンマ線の評価                  建屋内の放射性物質からの直接ガンマ線およびスカイシャインガンマ線による運転員の実効線量は、施設の位置、建屋の配置、形状等から評価した。直接ガンマ線はQADコード、スカイシャインガンマ線はSCATTERINGコードを用いて評価した。</p> <p>2.5.1.2 大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく（経路②）                  大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に大気拡散効果と中央制御室の壁によるガンマ線の遮蔽効果を踏まえて運転員の実効線量を評価した。地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線についても考慮して評価した。</p>  <p>第21図 事故時における中央制御室等の運転員の被ばく経路</p>	<p>原子炉建屋原子炉棟内に存在する放射性物質からの直接ガンマ線については、QAD-CGGP2Rコードを用い、スカイシャインガンマ線についてはANISNコード及びG33-GP2Rコードを用いて評価した。</p> <p>2.4.1.2 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路②）                  放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室での外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に、大気拡散効果と建屋によるガンマ線の遮蔽効果を踏まえて評価した。</p>	<p>原子炉格納容器内に存在する放射性物質からの直接ガンマ線については、QAD-CGGP2Rコードを用い、スカイシャインガンマ線についてはSCATTERINGコードを用いて評価した。</p> <p>2.4.1.2 大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路②）                  大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による中央制御室での外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に、大気拡散効果と中央制御室の壁によるガンマ線の遮蔽効果を踏まえて評価した。地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線についても考慮して評価した。</p>	<p><b>【大飯】</b>                  女川審査実績の反映</p> <p><b>【女川】設計等の相違</b>                  ・BWRでは、ANISNコードにより天井の遮蔽による減衰を計算し、G33-GP2Rコードによりスカイシャイン線の評価するが、PWRのSCATTERINGコードでは、遮蔽体をモデル化してスカイシャイン線量を評価可能であるため、BWRのように2つのコードを用いる必要はない。なお、大飯とは評価方法は同様である。</p> <p><b>【女川】記載方針の相違</b>                  ・女川の経路②、③を、泊では経路②としてまとめている。なお、大飯とは評価条件は同様である。</p> <p><b>【大飯】</b>                  記載箇所の相違                  （女川実績の反映）</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2.5.1.3 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく（経路③）</p> <p>事故期間中に大気中へ放出された放射性物質の一部は外気から中央制御室内に取り込まれる。中央制御室内に取り込まれた放射性物質のガンマ線による外部被ばくおよび吸入摂取による内部被ばくの和として実効線量を評価した。</p> <p>中央制御室内の放射性物質濃度の計算にあたっては、運転員はマスクを着用しているとして評価した。また、(1)、(2)に示す中央制御室換気設備の効果を考慮した。</p> <p>なお、中央制御室換気設備の起動時間については、全交流動力電源喪失および最終ヒートシンク喪失を想定した起動遅れを考慮した評価とした。</p> <p>(1)事故時運転モード</p> <p>中央制御室換気設備の事故時運転モードは、通常開いている外気取り込みダンパを閉止し、再循環させて放射性物質をフィルタにより低減する運転モードで、具体的な系統構成は第2.2図に示すとおりである。</p> <p><b>【再掲】</b></p> <p>なお、中央制御室換気設備の起動時間については、全交流動力電源喪失および最終ヒートシンク喪失を想定した起動遅れを考慮した評価とした。</p> <p>なお、大飯発電所3号炉と4号炉の中央制御室はそれぞれ共有している。</p> <p style="text-align: right;">□ = SA</p>	<p>2.4.1.3 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路③）</p> <p>地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に、大気拡散効果、地表面沈着効果及び建屋によるガンマ線の遮蔽効果を踏まえて評価した。</p> <p>2.4.1.4 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく（経路④）</p> <p>外気から中央制御室内に取り込まれた放射性物質による被ばくは、中央制御室内の放射性物質濃度を基に、放射性物質からのガンマ線による外部被ばく及び放射性物質の吸入摂取による内部被ばくの和として評価した。</p> <p>なお、内部被ばくの評価に当たっては、マスクの着用による防護効果を考慮した。</p> <p>また、格納容器ペントの際には運転員は図4に示す中央制御室待避所内に滞在するとして評価した。</p> <p>中央制御室内の放射性物質濃度の計算は、以下の(1)から(3)に示す効果を考慮した。被ばく評価で想定する空調運用等のタイムチャートを図5に示す。</p> <p>(1) 事故時運転モード（少量外気取入）：中央制御室換気空調系</p> <p>中央制御室換気空調系の事故時運転モード（少量外気取入）は、通常開いている外気取り入れダンパを閉止し、再循環させて放射性物質をフィルタにより低減し、フィルタを通した外気を少量取入れる運転モードである。具体的な系統構成を図3に示す。</p> <p>中央制御室内の放射性物質濃度は事故時運転モード（少量外気取入）で評価している。</p> <p>なお、中央制御室換気空調系の事故時運転モード（少量外気取入）への切り換え時間については、運転操作や全交流動力電源喪失を想定した遅れを考慮し、有効性評価で設定した30分を起動遅れ時間として考慮した。</p> <p>(2) 中央制御室待避所加圧設備による中央制御室待避所の加圧</p> <p>中央制御室待避所を中央制御室待避所加圧設備（以下、「加圧設備」という。）により正圧を維持することで、外気の流入を防止する効果を考慮した。</p>	<p>2.4.1.3 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく（経路③）</p> <p>外気から中央制御室内に取り込まれた放射性物質による被ばくは、中央制御室内の放射性物質濃度を基に、放射性物質からのガンマ線による外部被ばく及び放射性物質の吸入摂取による内部被ばくの和として評価した。</p> <p>なお、内部被ばくの評価に当たっては、マスクの着用による防護効果を考慮した。</p> <p>中央制御室内の放射性物質濃度の計算は、以下の(1)、(2)に示す効果を考慮した。</p> <p>(1) 閉回路循環運転：中央制御室空調装置</p> <p>中央制御室空調装置の閉回路循環運転は、通常開いている外気取り入れダンパを閉止し、再循環させて放射性物質をフィルタにより低減する運転モードである。具体的な系統構成を第3図に示す。</p> <p>中央制御室内の放射性物質濃度は閉回路循環運転で評価している。</p> <p>なお、中央制御室空調装置の起動時間については、全交流動力電源喪失及び最終ヒートシンク喪失を想定した遅れを考慮し、300分を起動遅れ時間として考慮した。</p>	<p><b>【大飯】</b>                  女川審査実績の反映  <b>【女川】</b> 記載方針の相違                  ・女川の経路②、③を、泊では経路②としてまとめている。なお、大飯とは評価条件は同様である。</p> <p>①の相違</p> <p><b>【大飯】</b> 記載箇所の相違                  2.5.1.3 (1)にて再掲  <b>【女川】</b> 記載方針の相違                  ・泊では中央制御室待避所の加圧を行わないため、タイムチャートは記載していない。</p> <p><b>【大飯】</b>                  ・プラント条件の相違                  泊は3号炉のみのため中央制御室の共有はない。                  ②の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) <b>フィルタを通らない空気流入量</b>                      大飯発電所3、4号炉中央制御室へのフィルタを通らない空気流入量は、空気流入率測定試験結果を踏まえて保守的に換気率換算で0.5回/hを仮定して評価した。</p> <p>2.5.2 入退域時の被ばく  <b>【再掲】</b>                      入退域時の運転員の実効線量の評価に当たっては、周辺監視区域境界から中央制御室入口までの運転員の移動経路を対象とした。代表評価点は、<b>入退域の経路に沿って、正門、事務所入口および中央制御室入口として評価した。</b></p> <p>2.5.2.1 建屋からのガンマ線による被ばく（経路④）                      事故期間中に建屋内に存在する放射性物質からの直接ガンマ線およびスカイシャインガンマ線による入退域時の運転員の外部被ばくは、中央制御室の壁によるガンマ線の遮蔽効果を期待しないこと以外は、「2.5.1.1 建屋からのガンマ線による被ばく（経路①）」と同様な手法で実効線量を評価した。                      入退域時の運転員の実効線量の評価に当たっては、周辺監視区域境界から中央制御室入口までの運転員の移動経路を対象とした。代表評価点は、入退域の経路に沿って、正門、事務所入口および中央制御室入口として評価した。</p> 	<p>(3) 中央制御室への外気の直接流入率                      中央制御室へのフィルタを通らない空気流入量は、保守的に換気率換算で1.0回/hを仮定して評価した。</p> <p>2.4.2 入退域時の被ばく                      入退域時の運転員の実効線量の評価に当たっては、周辺監視区域境界から<b>制御建屋</b>中央制御室出入口までの運転員の移動経路を対象とした。代表評価点は<b>出入管理所と制御建屋出入口の2箇所</b>とし、入退域ごとに各々の評価点に7分間及び5分間滞在するとして評価した。なお、<b>原子炉格納容器フィルタベント系の屋外配管に付着した放射性物質からの影響についても、上記と同様の評価点及び滞在時間として評価した。</b></p> <p>2.4.2.1 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路⑤）                      事故期間中に<b>原子炉建屋原子炉棟内</b>に存在する放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による入退域時の運転員の外部被ばくは、<b>評価点を屋外とすること以外</b>は「2.4.1.1 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路①）」と同様な手法で実効線量を評価した。</p> <p>また、<b>原子炉格納容器フィルタベント系の排気管内に付着した放射性物質からの直接ガンマ線による外部被ばくも上記と同様な手法で実効線量を評価した。</b></p>	<p>(2) 中央制御室への外気の直接流入率                      中央制御室へのフィルタを通らない空気流入量は、保守的に換気率換算で0.5回/hを仮定して評価した。</p> <p>2.4.2 入退域時の被ばく                      入退域時の運転員の実効線量の評価に当たっては、周辺監視区域境界から中央制御室入口までの運転員の移動経路を対象とした。代表評価点は<b>出入管理建屋入口及び中央制御室入口の2箇所</b>とし、入退域ごとに各々の評価点に10分間及び5分間滞在するとして評価した。</p> <p>2.4.2.1 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路④）                      事故期間中に<b>原子炉建屋内</b>に存在する放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による入退域時の運転員の外部被ばくは、<b>中央制御室の壁によるガンマ線の遮蔽効果を期待しないこと以外</b>は、「2.4.1.1 原子炉建屋内からのガンマ線による被ばく（経路①）」と同様な手法で実効線量を評価した。</p>	<p>【大飯】                      女川審査実績の反映                      【女川】評価条件の相違                      ・泊は大飯と同じ流入率。                      【女川・大飯】評価条件の相違                      ・具体的な代表点、滞在時間は異なる。                      【女川】型式の相違                      ・PWRでは格納容器ベントを用いない。                      【大飯】                      記載箇所の相違                      【女川】型式の相違                      ・PWRでは格納容器ベントを用いない。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2.5.2.2 大気中へ放出された放射性物質による被ばく（経路⑤）</p> <p>大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による入退域時について、外部被ばくは、中央制御室の壁によるガンマ線の遮蔽効果を期待しないこと以外は「2.5.1.2 大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく（経路②）」と同様な手法で、内部被ばくは、空調設備効果を期待しないこと以外は「2.5.1.3 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく（経路③）」と同様な手法で放射性物質からのガンマ線による外部被ばくおよび吸入摂取による内部被ばくの和として運転員の実効線量を評価した。地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線についても考慮して評価した。</p> <p>入退域時の運転員の実効線量の評価に当たっては、上記 2.5.2.1 の仮定に同じである。</p> <p>2.6. 評価結果のまとめ</p> <p>3号炉、4号炉事故発生時の中央制御室の居住性に係る被ばく評価結果は、第2.1表に示すとおり、実効線量が7日間でそれぞれ約7.2mSv、約4.3mSvである。また、3号炉事故発生時および4号炉事故発生時の合算値は約12mSvである。</p> <p>したがって、評価結果は、「判断基準は、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと」を満足している。評価結果の内訳を第2.2表～第2.3表に示す。</p> <p>なお、マスク着用を考慮しない場合の3号炉、4号炉事故発生時の中央制御室の居住性に係る被ばく評価結果は、実効線量が7日間でそれぞれ約66mSv、約49mSvであり、3号炉事故発生時および4号炉事故発生時の合算値は約120mSvである。</p> <p style="text-align: right;">□ = SA</p> <p>なお、参考として原子炉格納容器からの漏えいに関するエアロゾル粒子の捕集効果に期待しない（DF=1）場合の評価結果について表6-3及び表6-4に示す。</p>	<p>2.4.2.2 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路⑥）</p> <p>中央制御室の壁等によるガンマ線の遮蔽効果を期待しないこと以外は「2.4.1.2 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路②）」と同様な手法で実効線量を評価した。</p> <p>2.4.2.3 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路⑦）</p> <p>中央制御室の壁等によるガンマ線の遮蔽効果を期待しないこと以外は「2.4.1.3 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路③）」と同様な手法で実効線量を評価した。</p> <p>2.4.2.4 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による被ばく（経路⑧）</p> <p>入退域時の内部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量及び大気拡散効果を踏まえ評価した。なお、評価に当たってはマスクの着用による防護効果を考慮した。</p> <p>2.5 評価結果のまとめ</p> <p>代替循環冷却系を用いて事象収束に成功した場合の評価結果を表6-1-1及び表6-1-2に示す。また、格納容器ペントを実施した場合の評価結果を表6-2-1及び表6-2-2に示す。さらに、各ケースについて被ばく線量の合計が最も大きい班の評価結果の内訳を表7-1-1から表7-2-2に、被ばく線量の合計が最も大きい滞在日における評価結果の内訳を表8-1-1から表8-2-2に示す。</p> <p>評価の結果、7日間での実効線量は代替循環冷却系を用いて事象収束に成功した場合で最大約51mSv、格納容器ペントを実施した場合で最大約51mSvとなった。この評価結果は遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の評価としている。</p> <p>このことから、判断基準である「運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと」を満足することを確認した。</p> <p>なお、参考として原子炉格納容器からの漏えいに関するエアロゾル粒子の捕集効果に期待しない（DF=1）場合の評価結果について表6-3及び表6-4に示す。</p>	<p>2.4.2.2 大気中へ放出された放射性物質による被ばく（経路⑤）</p> <p>大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による入退域時について、外部被ばくは、中央制御室の壁によるガンマ線の遮蔽効果を期待しないこと以外は「2.4.1.2 大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく（経路②）」と同様な手法で、内部被ばくは、空調設備効果を期待しないこと以外は「2.4.1.3 室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく（経路③）」と同様な手法で放射性物質からのガンマ線による外部被ばく及び吸入摂取による内部被ばくの和として運転員の実効線量を評価した。地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線についても考慮して評価した。</p> <p>入退域時の運転員の実効線量の評価に当たっては、上記 2.4.2.1 の仮定に同じである。</p> <p>2.5 評価結果のまとめ</p> <p>評価結果を第5-1表及び第5-2表に示す。さらに、被ばく線量の合計が最も大きい班の評価結果の内訳を第6-1表及び第6-2表に、被ばく線量の合計が最も大きい滞在日における評価結果の内訳を第7-1表及び第7-2表に示す。</p> <p>評価の結果、7日間での実効線量は約21mSvとなった。この評価結果は遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の評価としている。</p> <p>このことから、判断基準である「運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと」を満足することを確認した。</p> <p>なお、参考として原子炉格納容器からの漏えいに関するエアロゾル粒子の捕集効果に期待しない（DF=1）の評価結果について、第5-3表に示す。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載方針の相違          ・女川の経路⑥、⑦、⑧を、泊では経路⑤としてまとめている。なお、大飯とは評価方法は同様である。</p> <p>【女川】型式の相違          ・プラント型式の相違に伴う評価事象想定との相違。なお、大飯とは同様の評価事象想定である。</p> <p>【女川、大飯】個別解析の相違          【大飯】女川実績の反映          ・ただし、評価結果の値は個別解析の相違</p> <p>【大飯】女川実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	<p>表6-1-1 各勤務サイクルでの被ばく線量 (代替簡便冷却系を用いて事象を収束する場合) (中央制御室内でマスクの着用を考慮した場合) (単位: mSv) <sup>※1)※2)</sup></p> <table border="1" data-bbox="801 215 1234 375"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日</th> <th>2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>約6.2<sup>※4)</sup></td> <td>約2.7</td> <td>約1.4</td> <td>-</td> <td>約1.3</td> <td>約1.2</td> <td>-</td> <td>約13</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>約5.3<sup>※4)</sup></td> <td>-</td> <td>約1.9</td> <td>約1.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約0.87</td> <td>約9.5</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>約46<sup>※4)</sup></td> <td>約2.9</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約1.1</td> <td>約1.2</td> <td>約0.47<sup>※4)</sup></td> <td>約51</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約1.6</td> <td>約1.5</td> <td>約0.92</td> <td>-</td> <td>約1.3<sup>※4)</sup></td> <td>約5.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 入浴場所においてマスク (DP-00) の着用を考慮                  ※2 中央制御室内でマスク (DP-00) の着用を考慮。4時間当たり1時間外のものとして評価                  ※3 遮蔽マゼラ上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量                  ※4 中央制御室内及び入浴場所において事故後1日目のマスク (DP-L000) の着用を考慮。中央制御室内は4時間当たり18分間外のものとして評価                  ※5 本評価において想定した交代スケジュールでは、7日3直の直が中央制御室存在中に、交替のために入浴する1直勤務の直 (本評価では7日1直の直と同様に直を想定) が入浴を終了した時点で評価期間終了 (事象発生から18時間経過) となる。本表では、評価期間終了直前の入浴に伴う被ばく線量は、7日1直の被ばく線量に加えて整理している。また、本表における7日3直の被ばく線量は、7日3直の直が中央制御室存在中に評価期間終了となることから、入浴及び中央制御室存在 (評価期間終了まで) に伴う被ばく線量を示している。</p> <p>表6-1-2 各勤務サイクルでの被ばく線量 (代替簡便冷却系を用いて事象を収束する場合) (中央制御室内でマスクの着用を考慮しない場合) (単位: mSv) <sup>※1)</sup></p> <table border="1" data-bbox="801 582 1234 742"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日</th> <th>2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>約7.1<sup>※4)</sup></td> <td>約4.8</td> <td>約2.3</td> <td>-</td> <td>約3.2</td> <td>約2.9</td> <td>-</td> <td>約21</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>約6.0<sup>※4)</sup></td> <td>-</td> <td>約3.8</td> <td>約3.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約2.0</td> <td>約16</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>約520<sup>※4)</sup></td> <td>約4.6</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約2.4</td> <td>約3.1</td> <td>約1.2<sup>※4)</sup></td> <td>約530</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約3.0</td> <td>約3.8</td> <td>約1.8</td> <td>-</td> <td>約2.9<sup>※4)</sup></td> <td>約12</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 入浴場所においてマスク (DP-00) の着用を考慮                  ※2 遮蔽マゼラ上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量                  ※3 入浴場所において事故後1日目のマスク (DP-L000) の着用を考慮                  ※4 評価期間終了直前の入浴に伴う被ばく線量は、7日1直の被ばく線量に加えて整理。7日3直の被ばく線量は、入浴及び中央制御室存在 (評価期間終了まで) に伴う被ばく線量 (表6-1-1の※4を参照)</p> <p>表6-2-1 各勤務サイクルでの被ばく線量 (原子炉格納容器フィルターメント系を用いて事象を収束する場合) (中央制御室内でマスクの着用を考慮した場合) (単位: mSv) <sup>※1)※2)</sup></p> <table border="1" data-bbox="801 869 1234 1029"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日</th> <th>2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>約6.2<sup>※4)</sup></td> <td>約3.1</td> <td>約1.4</td> <td>-</td> <td>約1.1</td> <td>約0.84</td> <td>-</td> <td>約13</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>約5.3<sup>※4)</sup></td> <td>-</td> <td>約1.8</td> <td>約1.4</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約0.65</td> <td>約9.0</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>約46<sup>※4)</sup></td> <td>約2.9</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約0.88</td> <td>約0.94</td> <td>約0.24<sup>※4)</sup></td> <td>約51</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約1.6</td> <td>約1.3</td> <td>約0.79</td> <td>-</td> <td>約0.86<sup>※4)</sup></td> <td>約4.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 入浴場所においてマスク (DP-00) の着用を考慮                  ※2 中央制御室内でマスク (DP-00) の着用を考慮。4時間当たり1時間外のものとして評価                  ※3 遮蔽マゼラ上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量                  ※4 中央制御室内及び入浴場所において事故後1日目のマスク (DP-L000) の着用を考慮。中央制御室内は4時間当たり18分間外のものとして評価                  ※5 本評価において想定した交代スケジュールでは、7日3直の直が中央制御室存在中に、交替のために入浴する1直勤務の直 (本評価では7日1直の直と同様に直を想定) が入浴を終了した時点で評価期間終了 (事象発生から18時間経過) となる。本表では、評価期間終了直前の入浴に伴う被ばく線量は、7日1直の被ばく線量に加えて整理。7日3直の被ばく線量は、入浴及び中央制御室存在 (評価期間終了まで) に伴う被ばく線量 (表6-1-1の※4を参照)</p> <p>表6-2-2 各勤務サイクルでの被ばく線量 (原子炉格納容器フィルターメント系を用いて事象を収束する場合) (中央制御室内でマスクの着用を考慮しない場合) (単位: mSv) <sup>※1)</sup></p> <table border="1" data-bbox="801 1204 1234 1364"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日</th> <th>2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>約7.1<sup>※4)</sup></td> <td>約3.5</td> <td>約2.0</td> <td>-</td> <td>約1.6</td> <td>約1.2</td> <td>-</td> <td>約21</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>約6.0<sup>※4)</sup></td> <td>-</td> <td>約3.0</td> <td>約2.4</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約0.75</td> <td>約16</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>約520<sup>※4)</sup></td> <td>約4.7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約1.2</td> <td>約1.1</td> <td>約0.39<sup>※4)</sup></td> <td>約530</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約2.7</td> <td>約2.2</td> <td>約0.97</td> <td>-</td> <td>約1.2<sup>※4)</sup></td> <td>約7.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 入浴場所においてマスク (DP-00) の着用を考慮                  ※2 遮蔽マゼラ上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量                  ※3 入浴場所において事故後1日目のマスク (DP-L000) の着用を考慮                  ※4 評価期間終了直前の入浴に伴う被ばく線量は、7日1直の被ばく線量に加えて整理。7日3直の被ばく線量は、入浴及び中央制御室存在 (評価期間終了まで) に伴う被ばく線量 (表6-1-1の※4を参照)</p>		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計	A班	約6.2 <sup>※4)</sup>	約2.7	約1.4	-	約1.3	約1.2	-	約13	B班	約5.3 <sup>※4)</sup>	-	約1.9	約1.5	-	-	約0.87	約9.5	C班	-	-	-	-	-	-	-	0	D班	約46 <sup>※4)</sup>	約2.9	-	-	約1.1	約1.2	約0.47 <sup>※4)</sup>	約51	E班	-	-	約1.6	約1.5	約0.92	-	約1.3 <sup>※4)</sup>	約5.3		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計	A班	約7.1 <sup>※4)</sup>	約4.8	約2.3	-	約3.2	約2.9	-	約21	B班	約6.0 <sup>※4)</sup>	-	約3.8	約3.5	-	-	約2.0	約16	C班	-	-	-	-	-	-	-	0	D班	約520 <sup>※4)</sup>	約4.6	-	-	約2.4	約3.1	約1.2 <sup>※4)</sup>	約530	E班	-	-	約3.0	約3.8	約1.8	-	約2.9 <sup>※4)</sup>	約12		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計	A班	約6.2 <sup>※4)</sup>	約3.1	約1.4	-	約1.1	約0.84	-	約13	B班	約5.3 <sup>※4)</sup>	-	約1.8	約1.4	-	-	約0.65	約9.0	C班	-	-	-	-	-	-	-	0	D班	約46 <sup>※4)</sup>	約2.9	-	-	約0.88	約0.94	約0.24 <sup>※4)</sup>	約51	E班	-	-	約1.6	約1.3	約0.79	-	約0.86 <sup>※4)</sup>	約4.6		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計	A班	約7.1 <sup>※4)</sup>	約3.5	約2.0	-	約1.6	約1.2	-	約21	B班	約6.0 <sup>※4)</sup>	-	約3.0	約2.4	-	-	約0.75	約16	C班	-	-	-	-	-	-	-	0	D班	約520 <sup>※4)</sup>	約4.7	-	-	約1.2	約1.1	約0.39 <sup>※4)</sup>	約530	E班	-	-	約2.7	約2.2	約0.97	-	約1.2 <sup>※4)</sup>	約7.0	<p>第5-1表 各勤務サイクルでの被ばく線量 (中央制御室内でマスクの着用を考慮した場合) (単位: mSv) <sup>※1)※2)※3)</sup></p> <table border="1" data-bbox="1440 207 1854 367"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日目</th> <th>2日目</th> <th>3日目</th> <th>4日目</th> <th>5日目</th> <th>6日目</th> <th>7日目</th> <th>8日目</th> <th>合計<sup>※4)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>約5.4</td> <td>約4.9</td> <td>約3.0</td> <td>-</td> <td>約2.2</td> <td>約1.9</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約21</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約2.8</td> <td>約2.6</td> <td>約1.9</td> <td>-</td> <td>約1.6</td> <td>約1.4</td> <td>約11</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>約6.7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約1.8</td> <td>約1.9</td> <td>約1.4</td> <td>-</td> <td>約12</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約3.0</td> <td>約2.7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約1.3</td> <td>約0.7</td> <td>約8.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 3直 (1日目) の中央制御室存在開始時に事故が発生するものと想定するため、評価期間が7日0時00分であることから8日目の途中まで考慮                  ※2 入浴場所においてマスク (DP-00) の着用を考慮                  ※3 中央制御室内でマスク (DP-00) の着用を考慮。1日目は4時間当たり18分間、2日以後は6時間当たり1時間外のものとして評価                  ※4 遮蔽マゼラ上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量                  ※5 合計線量は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値                  ※6 事象発生直前のため、評価対象外                  ※7 本評価において想定した交代スケジュールでは、8日目直前の途中で評価期間終了となることから、入浴及び中央制御室存在 (評価期間終了まで) に伴う線量を示している。</p> <p>第5-2表 各勤務サイクルでの被ばく線量 (中央制御室内でマスクの着用を考慮しない場合) (単位: mSv) <sup>※1)※2)※3)</sup></p> <table border="1" data-bbox="1440 574 1854 734"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日目</th> <th>2日目</th> <th>3日目</th> <th>4日目</th> <th>5日目</th> <th>6日目</th> <th>7日目</th> <th>8日目</th> <th>合計<sup>※4)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>約8.1</td> <td>約4.4</td> <td>-</td> <td>約3.8</td> <td>約3.3</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約21</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約4.1</td> <td>約5.0</td> <td>約3.1</td> <td>-</td> <td>約2.9</td> <td>約2.6</td> <td>約18</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>約9.8</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約2.9</td> <td>約3.8</td> <td>約2.3</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約19</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約5.7</td> <td>約4.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約2.2</td> <td>約1.5</td> <td>約14</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 3直 (1日目) の中央制御室存在開始時に事故が発生するものと想定するため、評価期間が7日0時00分であることから8日目の途中まで考慮                  ※2 入浴場所においてマスク (DP-00) の着用を考慮                  ※3 遮蔽マゼラ上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量                  ※4 合計線量は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値                  ※5 事象発生直前のため、評価対象外                  ※6 本評価において想定した交代スケジュールでは、8日目直前の途中で評価期間終了となることから、入浴及び中央制御室存在 (評価期間終了まで) に伴う線量を示している。</p>		1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	合計 <sup>※4)</sup>	A班	約5.4	約4.9	約3.0	-	約2.2	約1.9	-	-	約21	B班	-	-	-	-	-	-	-	-	0	C班	-	-	約2.8	約2.6	約1.9	-	約1.6	約1.4	約11	D班	約6.7	-	-	-	約1.8	約1.9	約1.4	-	約12	E班	-	-	約3.0	約2.7	-	-	約1.3	約0.7	約8.4		1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	合計 <sup>※4)</sup>	A班	約8.1	約4.4	-	約3.8	約3.3	-	-	-	約21	B班	-	-	-	-	-	-	-	-	0	C班	-	-	約4.1	約5.0	約3.1	-	約2.9	約2.6	約18	D班	約9.8	-	-	約2.9	約3.8	約2.3	-	-	約19	E班	-	-	約5.7	約4.5	-	-	約2.2	約1.5	約14	<p>【女川】 個別解析の相違</p> <p>【女川】型式の相違 ・プラント型式の相違に伴う評価事象想定 の相違により評価ケース 数が異なる。</p>
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
A班	約6.2 <sup>※4)</sup>	約2.7	約1.4	-	約1.3	約1.2	-	約13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
B班	約5.3 <sup>※4)</sup>	-	約1.9	約1.5	-	-	約0.87	約9.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
C班	-	-	-	-	-	-	-	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
D班	約46 <sup>※4)</sup>	約2.9	-	-	約1.1	約1.2	約0.47 <sup>※4)</sup>	約51																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
E班	-	-	約1.6	約1.5	約0.92	-	約1.3 <sup>※4)</sup>	約5.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
A班	約7.1 <sup>※4)</sup>	約4.8	約2.3	-	約3.2	約2.9	-	約21																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
B班	約6.0 <sup>※4)</sup>	-	約3.8	約3.5	-	-	約2.0	約16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
C班	-	-	-	-	-	-	-	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
D班	約520 <sup>※4)</sup>	約4.6	-	-	約2.4	約3.1	約1.2 <sup>※4)</sup>	約530																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
E班	-	-	約3.0	約3.8	約1.8	-	約2.9 <sup>※4)</sup>	約12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
A班	約6.2 <sup>※4)</sup>	約3.1	約1.4	-	約1.1	約0.84	-	約13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
B班	約5.3 <sup>※4)</sup>	-	約1.8	約1.4	-	-	約0.65	約9.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
C班	-	-	-	-	-	-	-	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
D班	約46 <sup>※4)</sup>	約2.9	-	-	約0.88	約0.94	約0.24 <sup>※4)</sup>	約51																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
E班	-	-	約1.6	約1.3	約0.79	-	約0.86 <sup>※4)</sup>	約4.6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
A班	約7.1 <sup>※4)</sup>	約3.5	約2.0	-	約1.6	約1.2	-	約21																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
B班	約6.0 <sup>※4)</sup>	-	約3.0	約2.4	-	-	約0.75	約16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
C班	-	-	-	-	-	-	-	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
D班	約520 <sup>※4)</sup>	約4.7	-	-	約1.2	約1.1	約0.39 <sup>※4)</sup>	約530																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
E班	-	-	約2.7	約2.2	約0.97	-	約1.2 <sup>※4)</sup>	約7.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	合計 <sup>※4)</sup>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
A班	約5.4	約4.9	約3.0	-	約2.2	約1.9	-	-	約21																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
B班	-	-	-	-	-	-	-	-	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
C班	-	-	約2.8	約2.6	約1.9	-	約1.6	約1.4	約11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
D班	約6.7	-	-	-	約1.8	約1.9	約1.4	-	約12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
E班	-	-	約3.0	約2.7	-	-	約1.3	約0.7	約8.4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	合計 <sup>※4)</sup>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
A班	約8.1	約4.4	-	約3.8	約3.3	-	-	-	約21																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
B班	-	-	-	-	-	-	-	-	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
C班	-	-	約4.1	約5.0	約3.1	-	約2.9	約2.6	約18																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
D班	約9.8	-	-	約2.9	約3.8	約2.3	-	-	約19																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
E班	-	-	約5.7	約4.5	-	-	約2.2	約1.5	約14																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																								
	<p>表6-3 各勤務サイクルでの被ばく線量 (参考)                      (代替循環冷却系を用いて事象を収束する場合)                      (原子炉格納容器からの漏えいに関するエアロゾル粒子の捕集効果を DF=1 とした場合)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮した場合) (単位: mSv) <sup>※1)※2)※3)</sup></p> <table border="1" data-bbox="714 256 1312 480"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日</th> <th>2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>約 8.7<sup>※4)</sup></td> <td>約 5.2</td> <td>約 3.0</td> <td>-</td> <td>約 3.1</td> <td>約 2.8</td> <td>-</td> <td>約 23</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>約 7.5<sup>※4)</sup></td> <td>-</td> <td>約 4.0</td> <td>約 3.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 2.2</td> <td>約 17</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>約 55<sup>※4)</sup></td> <td>約 5.3</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 2.6</td> <td>約 2.9</td> <td>約 1.2<sup>※5)</sup></td> <td>約 66</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 3.4</td> <td>約 3.6</td> <td>約 2.3</td> <td>-</td> <td>約 3.3<sup>※6)</sup></td> <td>約 13</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 入退城時においてマスク (PF=50) の着用を考慮                      ※2 中央制御室内でマスク (PF=50) の着用を考慮。6時間当たり1時間外すものとして評価                      ※3 運転モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量                      ※4 中央制御室内及び入退城時において事故後1日目のみマスク (PF=1,000) の着用を考慮。中央制御室内は6時間当たり18分間外すものとして評価                      ※5 評価期間終了直前の入城に伴う被ばく線量は、7日目1直の被ばく線量に加えて整理。7日目3直の被ばく線量は、入城及び中央制御室滞在 (評価期間終了まで) に伴う被ばく線量 (表6-1-1の※5を参照)</p> <p>表6-4 各勤務サイクルでの被ばく線量 (参考)                      (原子炉格納容器フィルタベント系を用いて事象を収束する場合)                      (原子炉格納容器からの漏えいに関するエアロゾル粒子の捕集効果を DF=1 とした場合)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮した場合) (単位: mSv) <sup>※1)※2)※3)</sup></p> <table border="1" data-bbox="714 719 1312 943"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日</th> <th>2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>約 8.7<sup>※4)</sup></td> <td>約 24</td> <td>約 3.0</td> <td>-</td> <td>約 2.8</td> <td>約 2.5</td> <td>-</td> <td>約 41</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>約 7.5<sup>※4)</sup></td> <td>-</td> <td>約 3.3</td> <td>約 3.3</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 2.0</td> <td>約 16</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>約 55<sup>※4)</sup></td> <td>約 5.4</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 2.4</td> <td>約 2.6</td> <td>約 1.1<sup>※5)</sup></td> <td>約 66</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 3.5</td> <td>約 3.3</td> <td>約 2.2</td> <td>-</td> <td>約 3.0<sup>※6)</sup></td> <td>約 12</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 入退城時においてマスク (PF=50) の着用を考慮                      ※2 中央制御室内でマスク (PF=50) の着用を考慮。6時間当たり1時間外すものとして評価                      ※3 運転モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量                      ※4 中央制御室内及び入退城時において事故後1日目のみマスク (PF=1,000) の着用を考慮。中央制御室内は6時間当たり18分間外すものとして評価                      ※5 評価期間終了直前の入城に伴う被ばく線量は、7日目1直の被ばく線量に加えて整理。7日目3直の被ばく線量は、入城及び中央制御室滞在 (評価期間終了まで) に伴う被ばく線量 (表6-1-1の※5を参照)</p>		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計	A班	約 8.7 <sup>※4)</sup>	約 5.2	約 3.0	-	約 3.1	約 2.8	-	約 23	B班	約 7.5 <sup>※4)</sup>	-	約 4.0	約 3.5	-	-	約 2.2	約 17	C班	-	-	-	-	-	-	-	0	D班	約 55 <sup>※4)</sup>	約 5.3	-	-	約 2.6	約 2.9	約 1.2 <sup>※5)</sup>	約 66	E班	-	-	約 3.4	約 3.6	約 2.3	-	約 3.3 <sup>※6)</sup>	約 13		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計	A班	約 8.7 <sup>※4)</sup>	約 24	約 3.0	-	約 2.8	約 2.5	-	約 41	B班	約 7.5 <sup>※4)</sup>	-	約 3.3	約 3.3	-	-	約 2.0	約 16	C班	-	-	-	-	-	-	-	0	D班	約 55 <sup>※4)</sup>	約 5.4	-	-	約 2.4	約 2.6	約 1.1 <sup>※5)</sup>	約 66	E班	-	-	約 3.5	約 3.3	約 2.2	-	約 3.0 <sup>※6)</sup>	約 12	<p>第5-3表 各勤務サイクルでの被ばく線量 (参考)                      (原子炉格納格納容器からの漏えいに関するエアロゾル粒子の捕集効果を DF=1 とした場合)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮した場合) (単位: mSv) <sup>※1)※2)※3)</sup></p> <table border="1" data-bbox="1379 248 1912 472"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日目</th> <th>2日目</th> <th>3日目</th> <th>4日目</th> <th>5日目</th> <th>6日目</th> <th>7日目</th> <th>8日目</th> <th>合計<sup>※5)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A班</td> <td>約 14</td> <td>約 5.3</td> <td>約 3.2</td> <td>-</td> <td>約 2.4</td> <td>約 2.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 27</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>C班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 3.0</td> <td>約 2.9</td> <td>約 2.1</td> <td>-</td> <td>約 1.8</td> <td>約 1.5</td> <td>約 12</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>約 7.8</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 2.0</td> <td>約 2.1</td> <td>約 1.5</td> <td>-</td> <td>約 14</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 3.8</td> <td>約 2.9</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>約 1.5</td> <td>約 0.8</td> <td>約 9.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 3直 (1日目) の中央制御室滞在開始時に事故が発生するものと想定するため。評価期間が7日+168時間であることから8日目の途中まで考慮                      ※2 入退城時においてマスク (DF=60) の着用を考慮                      ※3 中央制御室内でマスク (DF=50) の着用を考慮。1日目は6時間当たり18分間、2日以降は6時間当たり1時間外すものとして評価                      ※4 運転モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量                      ※5 合計線量は、有効成績3桁目を切り上げて2桁に丸めた値                      ※6 事象発生前のため、評価対象外                      ※7 本評価において想定した直交代スケジュールでは、8日目連直の途中で評価期間終了となることから、入城及び中央制御室滞在 (評価期間終了まで) に伴う線量を示している。</p>		1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	合計 <sup>※5)</sup>	A班	約 14	約 5.3	約 3.2	-	約 2.4	約 2.0	-	-	約 27	B班	-	-	-	-	-	-	-	-	0	C班	-	-	約 3.0	約 2.9	約 2.1	-	約 1.8	約 1.5	約 12	D班	約 7.8	-	-	-	約 2.0	約 2.1	約 1.5	-	約 14	E班	-	-	約 3.8	約 2.9	-	-	約 1.5	約 0.8	約 9.1	<p>【女川】                      個別解析の相違</p> <p>【女川】型式の相違                      ・プラント型式の相違に伴う評価事象想定                      の相違により評価ケース数が異なる。</p>
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計																																																																																																																																																																			
A班	約 8.7 <sup>※4)</sup>	約 5.2	約 3.0	-	約 3.1	約 2.8	-	約 23																																																																																																																																																																			
B班	約 7.5 <sup>※4)</sup>	-	約 4.0	約 3.5	-	-	約 2.2	約 17																																																																																																																																																																			
C班	-	-	-	-	-	-	-	0																																																																																																																																																																			
D班	約 55 <sup>※4)</sup>	約 5.3	-	-	約 2.6	約 2.9	約 1.2 <sup>※5)</sup>	約 66																																																																																																																																																																			
E班	-	-	約 3.4	約 3.6	約 2.3	-	約 3.3 <sup>※6)</sup>	約 13																																																																																																																																																																			
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計																																																																																																																																																																			
A班	約 8.7 <sup>※4)</sup>	約 24	約 3.0	-	約 2.8	約 2.5	-	約 41																																																																																																																																																																			
B班	約 7.5 <sup>※4)</sup>	-	約 3.3	約 3.3	-	-	約 2.0	約 16																																																																																																																																																																			
C班	-	-	-	-	-	-	-	0																																																																																																																																																																			
D班	約 55 <sup>※4)</sup>	約 5.4	-	-	約 2.4	約 2.6	約 1.1 <sup>※5)</sup>	約 66																																																																																																																																																																			
E班	-	-	約 3.5	約 3.3	約 2.2	-	約 3.0 <sup>※6)</sup>	約 12																																																																																																																																																																			
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	合計 <sup>※5)</sup>																																																																																																																																																																		
A班	約 14	約 5.3	約 3.2	-	約 2.4	約 2.0	-	-	約 27																																																																																																																																																																		
B班	-	-	-	-	-	-	-	-	0																																																																																																																																																																		
C班	-	-	約 3.0	約 2.9	約 2.1	-	約 1.8	約 1.5	約 12																																																																																																																																																																		
D班	約 7.8	-	-	-	約 2.0	約 2.1	約 1.5	-	約 14																																																																																																																																																																		
E班	-	-	約 3.8	約 2.9	-	-	約 1.5	約 0.8	約 9.1																																																																																																																																																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																										
<p>第2.1表 中央制御室居住性 (重大事故対策) に係る被ばく評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="2">7日間の実効線量 (mSv) **</th> </tr> <tr> <th>3号炉</th> <th>4号炉</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>1</sup></td> <td>約 4.0×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>1</sup></td> <td>約 9.2×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく</td> <td>約 3.0×10<sup>0</sup></td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 3.1×10<sup>1</sup></td> <td>約 2.4×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>④建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.7×10<sup>0</sup></td> <td>約 1.2×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.4×10<sup>0</sup></td> <td>約 7.6×10<sup>-1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 4.1×10<sup>0</sup></td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 7.2<sup>1</sup></td> <td>約 4.3<sup>1</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                  *2：「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値</p> <p>第2.2表 中央制御室居住性 (重大事故対策) に係る被ばく評価結果内訳 (3号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">7日間の実効線量 (mSv) **</th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>1</sup></td> <td>—</td> <td>約 4.0×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>1</sup></td> <td>—</td> <td>約 4.0×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 1.1×10<sup>0</sup></td> <td>約 3.0×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 1.9×10<sup>1</sup></td> <td>約 1.1×10<sup>0</sup></td> <td>約 3.1×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>④建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.7×10<sup>0</sup></td> <td>—</td> <td>約 2.7×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.4×10<sup>0</sup></td> <td>約 7.3×10<sup>-1</sup></td> <td>約 1.4×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 4.0×10<sup>0</sup></td> <td>約 7.3×10<sup>-1</sup></td> <td>約 4.1×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 6.0</td> <td>約 1.2</td> <td>約 7.2<sup>1</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                  *2：「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値</p> <p>第2.3表 (中央制御室居住性 (重大事故対策) に係る被ばく評価結果内訳 (4号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">7日間の実効線量 (mSv) **</th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>1</sup></td> <td>—</td> <td>約 4.0×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく</td> <td>約 3.2×10<sup>1</sup></td> <td>—</td> <td>約 3.2×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.3×10<sup>0</sup></td> <td>約 8.7×10<sup>-1</sup></td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 1.5×10<sup>1</sup></td> <td>約 8.7×10<sup>-1</sup></td> <td>約 2.4×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>④建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 1.2×10<sup>0</sup></td> <td>—</td> <td>約 1.2×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 7.3×10<sup>-1</sup></td> <td>約 3.8×10<sup>-1</sup></td> <td>約 7.6×10<sup>-1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 3.8×10<sup>-1</sup></td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 3.4</td> <td>約 0.9</td> <td>約 4.3<sup>1</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                  *2：「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値</p>	被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **		3号炉	4号炉	①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	約 4.0×10 <sup>1</sup>	②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	約 9.2×10 <sup>1</sup>	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 3.0×10 <sup>0</sup>	約 2.3×10 <sup>0</sup>	小計 (①+②+③)	約 3.1×10 <sup>1</sup>	約 2.4×10 <sup>1</sup>	④建屋からのガンマ線による被ばく	約 2.7×10 <sup>0</sup>	約 1.2×10 <sup>0</sup>	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.4×10 <sup>0</sup>	約 7.6×10 <sup>-1</sup>	小計 (④+⑤)	約 4.1×10 <sup>0</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤)	約 7.2 <sup>1</sup>	約 4.3 <sup>1</sup>	被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	—	約 4.0×10 <sup>1</sup>	②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	—	約 4.0×10 <sup>1</sup>	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 1.1×10 <sup>0</sup>	約 3.0×10 <sup>0</sup>	小計 (①+②+③)	約 1.9×10 <sup>1</sup>	約 1.1×10 <sup>0</sup>	約 3.1×10 <sup>1</sup>	④建屋からのガンマ線による被ばく	約 2.7×10 <sup>0</sup>	—	約 2.7×10 <sup>0</sup>	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.4×10 <sup>0</sup>	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 1.4×10 <sup>0</sup>	小計 (④+⑤)	約 4.0×10 <sup>0</sup>	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 4.1×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤)	約 6.0	約 1.2	約 7.2 <sup>1</sup>	被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	—	約 4.0×10 <sup>1</sup>	②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 3.2×10 <sup>1</sup>	—	約 3.2×10 <sup>1</sup>	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.3×10 <sup>0</sup>	約 8.7×10 <sup>-1</sup>	約 2.3×10 <sup>0</sup>	小計 (①+②+③)	約 1.5×10 <sup>1</sup>	約 8.7×10 <sup>-1</sup>	約 2.4×10 <sup>1</sup>	④建屋からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>0</sup>	—	約 1.2×10 <sup>0</sup>	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 3.8×10 <sup>-1</sup>	約 7.6×10 <sup>-1</sup>	小計 (④+⑤)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 3.8×10 <sup>-1</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.4	約 0.9	約 4.3 <sup>1</sup>	<p>表7-1-1 評価結果の内訳 (被ばく線量が最大となる班 (D班) の合計) (代替循環冷却系を用いて事象を収束する場合) (中央制御室内でマスクの着用を考慮する場合) (単位：mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被ばく経路</th> <th>7日間の実効線量<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 原子炉建屋原子炉種内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 4.1×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 7.0×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 6.7×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく (内訳) 内部被ばく (約 2.7×10<sup>0</sup>) 外部被ばく (約 5.6×10<sup>0</sup>)</td> <td>約 3.2×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③+④)</td> <td>約 4.6×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤ 原子炉建屋原子炉種内の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 1.4×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 2.5×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 5.1×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく</td> <td>約 1.2×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 5.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 5.1×10<sup>1</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p>	被ばく経路	7日間の実効線量 <sup>※1</sup>	① 原子炉建屋原子炉種内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 4.1×10 <sup>2</sup>	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 6.7×10 <sup>0</sup>	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく (内訳) 内部被ばく (約 2.7×10 <sup>0</sup> ) 外部被ばく (約 5.6×10 <sup>0</sup> )	約 3.2×10 <sup>1</sup>	小計 (①+②+③+④)	約 4.6×10 <sup>1</sup>	⑤ 原子炉建屋原子炉種内の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 1.4×10 <sup>1</sup>	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.5×10 <sup>2</sup>	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.1×10 <sup>0</sup>	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 1.2×10 <sup>2</sup>	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.3×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.1×10 <sup>1</sup>	<p>第6-1表 評価結果の内訳 (被ばく線量が最大となる班 (A班) の合計) (中央制御室内でマスクの着用を考慮した場合) (単位：mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">7日間の実効線量 (mSv) <sup>※1※2※3※4</sup></th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 3.3×10<sup>-2</sup></td> <td>—</td> <td>約 3.3×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.1×10<sup>-2</sup></td> <td>—</td> <td>約 2.1×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.7×10<sup>0</sup></td> <td>約 6.2×10<sup>0</sup></td> <td>約 7.9×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 1.8×10<sup>0</sup></td> <td>約 6.2×10<sup>0</sup></td> <td>約 8.0×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 1.2×10<sup>1</sup></td> <td>—</td> <td>約 1.2×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 7.3×10<sup>-1</sup></td> <td>約 3.0×10<sup>-2</sup></td> <td>約 7.6×10<sup>-1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 1.2×10<sup>1</sup></td> <td>約 3.0×10<sup>-2</sup></td> <td>約 1.2×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 14</td> <td>約 6.2</td> <td>約 21<sup>※4</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 中央制御室内でマスク (DF=50) の着用を考慮。1日目は6時間当たり18分間、2日以降は6時間当たり1時間外すものとして評価                  ※2 入退城時においてマスク (DF=50) の着用を考慮                  ※3 表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                  ※4 「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値                  ※5 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p>	被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) <sup>※1※2※3※4</sup>			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 3.3×10 <sup>-2</sup>	—	約 3.3×10 <sup>-2</sup>	②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.1×10 <sup>-2</sup>	—	約 2.1×10 <sup>-2</sup>	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.7×10 <sup>0</sup>	約 6.2×10 <sup>0</sup>	約 7.9×10 <sup>0</sup>	小計 (①+②+③)	約 1.8×10 <sup>0</sup>	約 6.2×10 <sup>0</sup>	約 8.0×10 <sup>0</sup>	④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>1</sup>	—	約 1.2×10 <sup>1</sup>	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 3.0×10 <sup>-2</sup>	約 7.6×10 <sup>-1</sup>	小計 (④+⑤)	約 1.2×10 <sup>1</sup>	約 3.0×10 <sup>-2</sup>	約 1.2×10 <sup>1</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤)	約 14	約 6.2	約 21 <sup>※4</sup>	<p>【女川・大飯】個別解析による相違                  ・各社、マスクの着用を考慮する場合は、判断基準である「運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと」を満足することに相違なし。</p> <p>【大飯】設計の相違                  ・大飯は複数号炉の運転を考慮し、3号炉及び4号炉についてそれぞれ記載している。</p>
被ばく経路		7日間の実効線量 (mSv) **																																																																																																																																																																											
	3号炉	4号炉																																																																																																																																																																											
①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	約 4.0×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																											
②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	約 9.2×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																											
③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 3.0×10 <sup>0</sup>	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																											
小計 (①+②+③)	約 3.1×10 <sup>1</sup>	約 2.4×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																											
④建屋からのガンマ線による被ばく	約 2.7×10 <sup>0</sup>	約 1.2×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																											
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.4×10 <sup>0</sup>	約 7.6×10 <sup>-1</sup>																																																																																																																																																																											
小計 (④+⑤)	約 4.1×10 <sup>0</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																											
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 7.2 <sup>1</sup>	約 4.3 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																											
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **																																																																																																																																																																												
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																																																																																																																																																										
①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	—	約 4.0×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	—	約 4.0×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 1.1×10 <sup>0</sup>	約 3.0×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																										
小計 (①+②+③)	約 1.9×10 <sup>1</sup>	約 1.1×10 <sup>0</sup>	約 3.1×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
④建屋からのガンマ線による被ばく	約 2.7×10 <sup>0</sup>	—	約 2.7×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																										
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.4×10 <sup>0</sup>	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 1.4×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																										
小計 (④+⑤)	約 4.0×10 <sup>0</sup>	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 4.1×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																										
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 6.0	約 1.2	約 7.2 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **																																																																																																																																																																												
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																																																																																																																																																										
①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>1</sup>	—	約 4.0×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 3.2×10 <sup>1</sup>	—	約 3.2×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.3×10 <sup>0</sup>	約 8.7×10 <sup>-1</sup>	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																										
小計 (①+②+③)	約 1.5×10 <sup>1</sup>	約 8.7×10 <sup>-1</sup>	約 2.4×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
④建屋からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>0</sup>	—	約 1.2×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																										
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 3.8×10 <sup>-1</sup>	約 7.6×10 <sup>-1</sup>																																																																																																																																																																										
小計 (④+⑤)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 3.8×10 <sup>-1</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																										
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.4	約 0.9	約 4.3 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
被ばく経路	7日間の実効線量 <sup>※1</sup>																																																																																																																																																																												
① 原子炉建屋原子炉種内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 4.1×10 <sup>2</sup>																																																																																																																																																																												
② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																												
③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 6.7×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																												
④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく (内訳) 内部被ばく (約 2.7×10 <sup>0</sup> ) 外部被ばく (約 5.6×10 <sup>0</sup> )	約 3.2×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																												
小計 (①+②+③+④)	約 4.6×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																												
⑤ 原子炉建屋原子炉種内の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 1.4×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																												
⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.5×10 <sup>2</sup>																																																																																																																																																																												
⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.1×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																												
⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 1.2×10 <sup>2</sup>																																																																																																																																																																												
小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.3×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																												
合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.1×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																												
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) <sup>※1※2※3※4</sup>																																																																																																																																																																												
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																																																																																																																																																										
①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 3.3×10 <sup>-2</sup>	—	約 3.3×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																																																										
②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.1×10 <sup>-2</sup>	—	約 2.1×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																																																										
③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.7×10 <sup>0</sup>	約 6.2×10 <sup>0</sup>	約 7.9×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																										
小計 (①+②+③)	約 1.8×10 <sup>0</sup>	約 6.2×10 <sup>0</sup>	約 8.0×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																																																										
④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>1</sup>	—	約 1.2×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 3.0×10 <sup>-2</sup>	約 7.6×10 <sup>-1</sup>																																																																																																																																																																										
小計 (④+⑤)	約 1.2×10 <sup>1</sup>	約 3.0×10 <sup>-2</sup>	約 1.2×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																																																										
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 14	約 6.2	約 21 <sup>※4</sup>																																																																																																																																																																										

SA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由																																																																																																							
<p><b>【再掲】</b></p> <p>第2.7表 中央制御室居住性（重大事故対策）に係る被ばく評価結果（3号炉）（マスクなし）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">7日間の実効線量 (mSv) **</th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①建屋からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>3</sup></td> <td>—</td> <td>約 4.0×10<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>2</sup></td> <td>—</td> <td>約 4.0×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>③外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 5.6×10<sup>1</sup></td> <td>約 5.8×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 5.6×10<sup>1</sup></td> <td>約 5.8×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>④建屋の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.7×10<sup>0</sup></td> <td>—</td> <td>約 2.7×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.4×10<sup>0</sup></td> <td>約 3.7×10<sup>0</sup></td> <td>約 5.0×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 4.0×10<sup>0</sup></td> <td>約 3.7×10<sup>0</sup></td> <td>約 7.7×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 6.0</td> <td>約 60</td> <td>約 66**</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                  *2：「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値</p>				被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	①建屋からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>	②大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 4.0×10 <sup>2</sup>	—	約 4.0×10 <sup>2</sup>	③外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 5.6×10 <sup>1</sup>	約 5.8×10 <sup>1</sup>	小計 (①+②+③)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 5.6×10 <sup>1</sup>	約 5.8×10 <sup>1</sup>	④建屋の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.7×10 <sup>0</sup>	—	約 2.7×10 <sup>0</sup>	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.4×10 <sup>0</sup>	約 3.7×10 <sup>0</sup>	約 5.0×10 <sup>0</sup>	小計 (④+⑤)	約 4.0×10 <sup>0</sup>	約 3.7×10 <sup>0</sup>	約 7.7×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤)	約 6.0	約 60	約 66**	<p>表7-1-2 評価結果の内訳（被ばく線量が最大となる班（D班）の合計）                  （代替循環冷却系を用いて事象を収束する場合）                  （中央制御室内でマスクの着用を考慮しない場合）（単位：mSv）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th rowspan="2">7日間の実効線量*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>約 4.1×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 7.0×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 6.7×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく （内訳）内部被ばく 外部被ばく</td> <td>約 5.1×10<sup>1</sup> （約 5.0×10<sup>1</sup>） （約 5.6×10<sup>0</sup>）</td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③+④)</td> <td>約 5.2×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤ 原子炉建屋原子炉格納容器内の放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく</td> <td>約 1.4×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく</td> <td>約 2.5×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく</td> <td>約 5.1×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退域時の被ばく</td> <td>約 1.2×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 5.3×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 5.3×10<sup>2</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p>				被ばく経路	7日間の実効線量*	約 4.1×10 <sup>2</sup>	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 6.7×10 <sup>0</sup>	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく （内訳）内部被ばく 外部被ばく	約 5.1×10 <sup>1</sup> （約 5.0×10 <sup>1</sup> ） （約 5.6×10 <sup>0</sup> ）	小計 (①+②+③+④)	約 5.2×10 <sup>1</sup>	⑤ 原子炉建屋原子炉格納容器内の放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく	約 1.4×10 <sup>1</sup>	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく	約 2.5×10 <sup>2</sup>	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく	約 5.1×10 <sup>0</sup>	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退域時の被ばく	約 1.2×10 <sup>2</sup>	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.3×10 <sup>2</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.3×10 <sup>2</sup>	<p>第6-2表 評価結果の内訳（被ばく線量が最大となる班（A班）の合計）                  （中央制御室内でマスクの着用を考慮しない場合）（単位：mSv）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">7日間の実効線量 (mSv) **10204</th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">室内作業時</td> <td>①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 3.3×10<sup>-2</sup></td> <td>—</td> <td>約 3.3×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.1×10<sup>-2</sup></td> <td>—</td> <td>約 2.1×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.7×10<sup>0</sup></td> <td>約 7.4×10<sup>1</sup></td> <td>約 7.6×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 1.8×10<sup>0</sup></td> <td>約 7.4×10<sup>1</sup></td> <td>約 7.6×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">入退域時</td> <td>④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 1.2×10<sup>1</sup></td> <td>—</td> <td>約 1.2×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 7.3×10<sup>-1</sup></td> <td>約 3.0×10<sup>-2</sup></td> <td>約 7.6×10<sup>-1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 1.2×10<sup>1</sup></td> <td>約 3.0×10<sup>-2</sup></td> <td>約 1.2×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 14</td> <td>約 74</td> <td>約 89**3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 入退域時においてマスク（DF=50）の着用を考慮                  ※2 表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                  ※3 「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値                  ※4 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p>				被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **10204			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	室内作業時	①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 3.3×10 <sup>-2</sup>	—	約 3.3×10 <sup>-2</sup>	②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.1×10 <sup>-2</sup>	—	約 2.1×10 <sup>-2</sup>	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.7×10 <sup>0</sup>	約 7.4×10 <sup>1</sup>	約 7.6×10 <sup>1</sup>	小計 (①+②+③)	約 1.8×10 <sup>0</sup>	約 7.4×10 <sup>1</sup>	約 7.6×10 <sup>1</sup>	入退域時	④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>1</sup>	—	約 1.2×10 <sup>1</sup>	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 3.0×10 <sup>-2</sup>	約 7.6×10 <sup>-1</sup>	小計 (④+⑤)	約 1.2×10 <sup>1</sup>	約 3.0×10 <sup>-2</sup>	約 1.2×10 <sup>1</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤)	約 14	約 74	約 89**3	<p>【女川】                  個別解析の相違</p> <p>【大飯】設計の相違                  ・大飯は複数号炉の運転を考慮し、3号炉及び4号炉についてそれぞれ記載している。</p>
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **																																																																																																																		
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																																																																																																
①建屋からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>																																																																																																																
②大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 4.0×10 <sup>2</sup>	—	約 4.0×10 <sup>2</sup>																																																																																																																
③外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 5.6×10 <sup>1</sup>	約 5.8×10 <sup>1</sup>																																																																																																																
小計 (①+②+③)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 5.6×10 <sup>1</sup>	約 5.8×10 <sup>1</sup>																																																																																																																
④建屋の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.7×10 <sup>0</sup>	—	約 2.7×10 <sup>0</sup>																																																																																																																
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.4×10 <sup>0</sup>	約 3.7×10 <sup>0</sup>	約 5.0×10 <sup>0</sup>																																																																																																																
小計 (④+⑤)	約 4.0×10 <sup>0</sup>	約 3.7×10 <sup>0</sup>	約 7.7×10 <sup>0</sup>																																																																																																																
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 6.0	約 60	約 66**																																																																																																																
被ばく経路	7日間の実効線量*																																																																																																																		
		約 4.1×10 <sup>2</sup>																																																																																																																	
② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>																																																																																																																		
③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 6.7×10 <sup>0</sup>																																																																																																																		
④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく （内訳）内部被ばく 外部被ばく	約 5.1×10 <sup>1</sup> （約 5.0×10 <sup>1</sup> ） （約 5.6×10 <sup>0</sup> ）																																																																																																																		
小計 (①+②+③+④)	約 5.2×10 <sup>1</sup>																																																																																																																		
⑤ 原子炉建屋原子炉格納容器内の放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく	約 1.4×10 <sup>1</sup>																																																																																																																		
⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく	約 2.5×10 <sup>2</sup>																																																																																																																		
⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退域時の被ばく	約 5.1×10 <sup>0</sup>																																																																																																																		
⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退域時の被ばく	約 1.2×10 <sup>2</sup>																																																																																																																		
小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.3×10 <sup>2</sup>																																																																																																																		
合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.3×10 <sup>2</sup>																																																																																																																		
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **10204																																																																																																																		
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																																																																																																
室内作業時	①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 3.3×10 <sup>-2</sup>	—	約 3.3×10 <sup>-2</sup>																																																																																																															
	②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.1×10 <sup>-2</sup>	—	約 2.1×10 <sup>-2</sup>																																																																																																															
	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.7×10 <sup>0</sup>	約 7.4×10 <sup>1</sup>	約 7.6×10 <sup>1</sup>																																																																																																															
小計 (①+②+③)	約 1.8×10 <sup>0</sup>	約 7.4×10 <sup>1</sup>	約 7.6×10 <sup>1</sup>																																																																																																																
入退域時	④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>1</sup>	—	約 1.2×10 <sup>1</sup>																																																																																																															
	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 3.0×10 <sup>-2</sup>	約 7.6×10 <sup>-1</sup>																																																																																																															
	小計 (④+⑤)	約 1.2×10 <sup>1</sup>	約 3.0×10 <sup>-2</sup>	約 1.2×10 <sup>1</sup>																																																																																																															
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 14	約 74	約 89**3																																																																																																																
<p>第2.8表 中央制御室居住性（重大事故対策）に係る被ばく評価結果（4号炉）（マスクなし）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">7日間の実効線量 (mSv) **</th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①建屋からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>3</sup></td> <td>—</td> <td>約 4.0×10<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 3.2×10<sup>2</sup></td> <td>—</td> <td>約 3.2×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>③外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 1.5×10<sup>0</sup></td> <td>約 4.3×10<sup>1</sup></td> <td>約 4.5×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 1.5×10<sup>0</sup></td> <td>約 4.3×10<sup>1</sup></td> <td>約 4.5×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>④建屋の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 1.2×10<sup>0</sup></td> <td>—</td> <td>約 1.2×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 7.3×10<sup>-1</sup></td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 2.6×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 3.8×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 3.4</td> <td>約 45</td> <td>約 49**</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                  *2：「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値</p>				被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	①建屋からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>	②大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 3.2×10 <sup>2</sup>	—	約 3.2×10 <sup>2</sup>	③外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 4.3×10 <sup>1</sup>	約 4.5×10 <sup>1</sup>	小計 (①+②+③)	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 4.3×10 <sup>1</sup>	約 4.5×10 <sup>1</sup>	④建屋の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>0</sup>	—	約 1.2×10 <sup>0</sup>	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 2.6×10 <sup>0</sup>	小計 (④+⑤)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 3.8×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.4	約 45	約 49**																																																																									
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **																																																																																																																		
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																																																																																																
①建屋からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>																																																																																																																
②大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 3.2×10 <sup>2</sup>	—	約 3.2×10 <sup>2</sup>																																																																																																																
③外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 4.3×10 <sup>1</sup>	約 4.5×10 <sup>1</sup>																																																																																																																
小計 (①+②+③)	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 4.3×10 <sup>1</sup>	約 4.5×10 <sup>1</sup>																																																																																																																
④建屋の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>0</sup>	—	約 1.2×10 <sup>0</sup>																																																																																																																
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 2.6×10 <sup>0</sup>																																																																																																																
小計 (④+⑤)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 3.8×10 <sup>0</sup>																																																																																																																
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.4	約 45	約 49**																																																																																																																



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																								
	<p>表7-2-1 評価結果の内訳 (被ばく線量が最大となる班 (D班) の合計)                      (原子炉格納容器フィルタベント系を用いて事象を収束する場合)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮する場合) (単位:mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被ばく経路</th> <th>7日間の実効線量<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">中央制御室滞在時</td> <td>① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 <math>4.1 \times 10^{-2}</math></td> </tr> <tr> <td>② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 <math>7.0 \times 10^0</math></td> </tr> <tr> <td>③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 <math>6.7 \times 10^0</math></td> </tr> <tr> <td>④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 <math>3.2 \times 10^1</math></td> </tr> <tr> <td>(内訳) 内部被ばく 外部被ばく</td> <td>(約 <math>2.6 \times 10^1</math>) (約 <math>5.6 \times 10^0</math>)</td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③+④)</td> <td>約 <math>4.5 \times 10^1</math></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">入退城時</td> <td>⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 <math>1.2 \times 10^{-1}</math></td> </tr> <tr> <td>⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 <math>1.6 \times 10^{-2}</math></td> </tr> <tr> <td>⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 <math>5.2 \times 10^0</math></td> </tr> <tr> <td>⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく</td> <td>約 <math>5.7 \times 10^{-3}</math></td> </tr> <tr> <td>小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 <math>5.4 \times 10^0</math></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 <math>5.1 \times 10^1</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p> <p>表7-2-2 評価結果の内訳 (被ばく線量が最大となる班 (D班) の合計)                      (原子炉格納容器フィルタベント系を用いて事象を収束する場合)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮しない場合) (単位:mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被ばく経路</th> <th>7日間の実効線量<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">中央制御室滞在時</td> <td>① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 <math>4.1 \times 10^{-2}</math></td> </tr> <tr> <td>② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 <math>7.0 \times 10^0</math></td> </tr> <tr> <td>③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 <math>6.7 \times 10^0</math></td> </tr> <tr> <td>④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 <math>5.0 \times 10^1</math></td> </tr> <tr> <td>(内訳) 内部被ばく 外部被ばく</td> <td>(約 <math>5.0 \times 10^1</math>) (約 <math>5.6 \times 10^0</math>)</td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③+④)</td> <td>約 <math>5.2 \times 10^1</math></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">入退城時</td> <td>⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 <math>1.2 \times 10^{-1}</math></td> </tr> <tr> <td>⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 <math>1.6 \times 10^{-2}</math></td> </tr> <tr> <td>⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 <math>5.2 \times 10^0</math></td> </tr> <tr> <td>⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく</td> <td>約 <math>5.7 \times 10^{-3}</math></td> </tr> <tr> <td>小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 <math>5.4 \times 10^0</math></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 <math>5.2 \times 10^1</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p>	被ばく経路	7日間の実効線量 <sup>※1</sup>	中央制御室滞在時	① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $4.1 \times 10^{-2}$	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $7.0 \times 10^0$	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $6.7 \times 10^0$	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 $3.2 \times 10^1$	(内訳) 内部被ばく 外部被ばく	(約 $2.6 \times 10^1$ ) (約 $5.6 \times 10^0$ )	小計 (①+②+③+④)	約 $4.5 \times 10^1$	入退城時	⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $1.2 \times 10^{-1}$	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $1.6 \times 10^{-2}$	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $5.2 \times 10^0$	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 $5.7 \times 10^{-3}$	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 $5.4 \times 10^0$	合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 $5.1 \times 10^1$	被ばく経路	7日間の実効線量 <sup>※1</sup>	中央制御室滞在時	① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $4.1 \times 10^{-2}$	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $7.0 \times 10^0$	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $6.7 \times 10^0$	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 $5.0 \times 10^1$	(内訳) 内部被ばく 外部被ばく	(約 $5.0 \times 10^1$ ) (約 $5.6 \times 10^0$ )	小計 (①+②+③+④)	約 $5.2 \times 10^1$	入退城時	⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $1.2 \times 10^{-1}$	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $1.6 \times 10^{-2}$	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $5.2 \times 10^0$	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 $5.7 \times 10^{-3}$	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 $5.4 \times 10^0$	合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 $5.2 \times 10^1$		<p>【女川】型式の相違                      ・プラント型式の相違に伴う評価事象想定                      の相違により評価ケース                      数が異なる。</p>
被ばく経路	7日間の実効線量 <sup>※1</sup>																																																										
中央制御室滞在時	① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $4.1 \times 10^{-2}$																																																									
	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $7.0 \times 10^0$																																																									
	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $6.7 \times 10^0$																																																									
	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 $3.2 \times 10^1$																																																									
	(内訳) 内部被ばく 外部被ばく	(約 $2.6 \times 10^1$ ) (約 $5.6 \times 10^0$ )																																																									
小計 (①+②+③+④)	約 $4.5 \times 10^1$																																																										
入退城時	⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $1.2 \times 10^{-1}$																																																									
	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $1.6 \times 10^{-2}$																																																									
	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $5.2 \times 10^0$																																																									
	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 $5.7 \times 10^{-3}$																																																									
	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 $5.4 \times 10^0$																																																									
合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 $5.1 \times 10^1$																																																										
被ばく経路	7日間の実効線量 <sup>※1</sup>																																																										
中央制御室滞在時	① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $4.1 \times 10^{-2}$																																																									
	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $7.0 \times 10^0$																																																									
	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 $6.7 \times 10^0$																																																									
	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 $5.0 \times 10^1$																																																									
	(内訳) 内部被ばく 外部被ばく	(約 $5.0 \times 10^1$ ) (約 $5.6 \times 10^0$ )																																																									
小計 (①+②+③+④)	約 $5.2 \times 10^1$																																																										
入退城時	⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $1.2 \times 10^{-1}$																																																									
	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $1.6 \times 10^{-2}$																																																									
	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 $5.2 \times 10^0$																																																									
	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 $5.7 \times 10^{-3}$																																																									
	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 $5.4 \times 10^0$																																																									
合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 $5.2 \times 10^1$																																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																						
	<p>表 8-1-1 評価結果の内訳 (D班の1日目)                      (代替循環冷却系を用いて事象を収束する場合)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮する場合) (単位: mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被ばく経路</th> <th>D班の1日目の実効線量<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 3.8×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 7.0×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 5.5×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 3.1×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>(内訳) 内部被ばく</td> <td>(約 2.5×10<sup>1</sup>)</td> </tr> <tr> <td>外部被ばく</td> <td>(約 5.6×10<sup>0</sup>)</td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③+④)</td> <td>約 4.3×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 5.3×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 3.9×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく</td> <td>約 5.0×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 4.6×10<sup>1</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p> <p>表 8-1-2 評価結果の内訳 (D班の1日目)                      (代替循環冷却系を用いて事象を収束しない場合) (単位: mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被ばく経路</th> <th>D班の1日目の実効線量<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 3.8×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 7.0×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 5.5×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 5.0×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>(内訳) 内部被ばく</td> <td>(約 5.0×10<sup>2</sup>)</td> </tr> <tr> <td>外部被ばく</td> <td>(約 5.6×10<sup>0</sup>)</td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③+④)</td> <td>約 5.1×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 5.3×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 3.9×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく</td> <td>約 5.0×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 5.2×10<sup>2</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p>	被ばく経路	D班の1日目の実効線量 <sup>※1</sup>	① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 3.8×10 <sup>-2</sup>	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 5.5×10 <sup>0</sup>	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 3.1×10 <sup>1</sup>	(内訳) 内部被ばく	(約 2.5×10 <sup>1</sup> )	外部被ばく	(約 5.6×10 <sup>0</sup> )	小計 (①+②+③+④)	約 4.3×10 <sup>1</sup>	⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.3×10 <sup>-2</sup>	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 3.9×10 <sup>-2</sup>	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.3×10 <sup>0</sup>	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 5.0×10 <sup>-2</sup>	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 2.3×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 4.6×10 <sup>1</sup>	被ばく経路	D班の1日目の実効線量 <sup>※1</sup>	① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 3.8×10 <sup>-2</sup>	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 5.5×10 <sup>0</sup>	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 5.0×10 <sup>2</sup>	(内訳) 内部被ばく	(約 5.0×10 <sup>2</sup> )	外部被ばく	(約 5.6×10 <sup>0</sup> )	小計 (①+②+③+④)	約 5.1×10 <sup>2</sup>	⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.3×10 <sup>-2</sup>	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 3.9×10 <sup>-2</sup>	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.3×10 <sup>0</sup>	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 5.0×10 <sup>-2</sup>	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 2.3×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.2×10 <sup>2</sup>	<p>第7-1表 評価結果の内訳 (A班の1日目)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮した場合) (単位:mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">1日目の実効線量 (mSv) <sup>※1)※2)※3)</sup></th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.4×10<sup>-2</sup></td> <td>—</td> <td>約 2.4×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 1.4×10<sup>-2</sup></td> <td>—</td> <td>約 1.4×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく</td> <td>約 7.6×10<sup>-1</sup></td> <td>約 4.5×10<sup>0</sup></td> <td>約 5.2×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 7.9×10<sup>-1</sup></td> <td>約 4.5×10<sup>0</sup></td> <td>約 5.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.9×10<sup>0</sup></td> <td>—</td> <td>約 2.9×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.9×10<sup>-1</sup></td> <td>約 6.4×10<sup>-2</sup></td> <td>約 2.0×10<sup>-1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 3.1×10<sup>0</sup></td> <td>約 6.4×10<sup>-2</sup></td> <td>約 3.1×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 3.9</td> <td>約 4.5</td> <td>約 8.4<sup>※4)</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 中央制御室内でマスク (DP-50) の着用を考慮。1日目は6時間当たり18分間外すものとして評価                      ※2 入退城時においてマスク (DP-50) の着用を考慮                      ※3 表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                      ※4 「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値                      ※5 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p> <p>第7-2表 評価結果の内訳 (A班の1日目)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮しない場合) (単位:mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">1日目の実効線量 (mSv) <sup>※1)※2)</sup></th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.4×10<sup>-2</sup></td> <td>—</td> <td>約 2.4×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 1.4×10<sup>-2</sup></td> <td>—</td> <td>約 1.4×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく</td> <td>約 7.6×10<sup>-1</sup></td> <td>約 6.5×10<sup>0</sup></td> <td>約 6.6×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 7.9×10<sup>-1</sup></td> <td>約 6.5×10<sup>0</sup></td> <td>約 6.6×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.9×10<sup>0</sup></td> <td>—</td> <td>約 2.9×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.9×10<sup>-1</sup></td> <td>約 6.4×10<sup>-2</sup></td> <td>約 2.0×10<sup>-1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 3.1×10<sup>0</sup></td> <td>約 6.4×10<sup>-2</sup></td> <td>約 3.1×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 3.9</td> <td>約 6.5</td> <td>約 6.9<sup>※2)</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 入退城時においてマスク (DP-50) の着用を考慮                      ※2 表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                      ※3 「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値                      ※4 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p>	被ばく経路	1日目の実効線量 (mSv) <sup>※1)※2)※3)</sup>			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.4×10 <sup>-2</sup>	—	約 2.4×10 <sup>-2</sup>	②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.4×10 <sup>-2</sup>	—	約 1.4×10 <sup>-2</sup>	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 7.6×10 <sup>-1</sup>	約 4.5×10 <sup>0</sup>	約 5.2×10 <sup>0</sup>	小計 (①+②+③)	約 7.9×10 <sup>-1</sup>	約 4.5×10 <sup>0</sup>	約 5.3×10 <sup>0</sup>	④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.9×10 <sup>0</sup>	—	約 2.9×10 <sup>0</sup>	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.9×10 <sup>-1</sup>	約 6.4×10 <sup>-2</sup>	約 2.0×10 <sup>-1</sup>	小計 (④+⑤)	約 3.1×10 <sup>0</sup>	約 6.4×10 <sup>-2</sup>	約 3.1×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.9	約 4.5	約 8.4 <sup>※4)</sup>	被ばく経路	1日目の実効線量 (mSv) <sup>※1)※2)</sup>			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.4×10 <sup>-2</sup>	—	約 2.4×10 <sup>-2</sup>	②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.4×10 <sup>-2</sup>	—	約 1.4×10 <sup>-2</sup>	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 7.6×10 <sup>-1</sup>	約 6.5×10 <sup>0</sup>	約 6.6×10 <sup>0</sup>	小計 (①+②+③)	約 7.9×10 <sup>-1</sup>	約 6.5×10 <sup>0</sup>	約 6.6×10 <sup>0</sup>	④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.9×10 <sup>0</sup>	—	約 2.9×10 <sup>0</sup>	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.9×10 <sup>-1</sup>	約 6.4×10 <sup>-2</sup>	約 2.0×10 <sup>-1</sup>	小計 (④+⑤)	約 3.1×10 <sup>0</sup>	約 6.4×10 <sup>-2</sup>	約 3.1×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.9	約 6.5	約 6.9 <sup>※2)</sup>	<p>【大飯】女川実績の反映                      ・泊、女川は各ケースについて被ばく線量の合計が最も大きい滞在日における評価を実施。                      【女川】個別解析の相違</p>
被ばく経路	D班の1日目の実効線量 <sup>※1</sup>																																																																																																																																								
① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 3.8×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																								
② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																								
③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 5.5×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																								
④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 3.1×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																								
(内訳) 内部被ばく	(約 2.5×10 <sup>1</sup> )																																																																																																																																								
外部被ばく	(約 5.6×10 <sup>0</sup> )																																																																																																																																								
小計 (①+②+③+④)	約 4.3×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																								
⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.3×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																								
⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 3.9×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																								
⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																								
⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 5.0×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																								
小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																								
合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 4.6×10 <sup>1</sup>																																																																																																																																								
被ばく経路	D班の1日目の実効線量 <sup>※1</sup>																																																																																																																																								
① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 3.8×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																								
② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																								
③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 5.5×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																								
④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 5.0×10 <sup>2</sup>																																																																																																																																								
(内訳) 内部被ばく	(約 5.0×10 <sup>2</sup> )																																																																																																																																								
外部被ばく	(約 5.6×10 <sup>0</sup> )																																																																																																																																								
小計 (①+②+③+④)	約 5.1×10 <sup>2</sup>																																																																																																																																								
⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.3×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																								
⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 3.9×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																								
⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																								
⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 5.0×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																								
小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																								
合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.2×10 <sup>2</sup>																																																																																																																																								
被ばく経路	1日目の実効線量 (mSv) <sup>※1)※2)※3)</sup>																																																																																																																																								
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																																																																																																																						
①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.4×10 <sup>-2</sup>	—	約 2.4×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																						
②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.4×10 <sup>-2</sup>	—	約 1.4×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																						
③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 7.6×10 <sup>-1</sup>	約 4.5×10 <sup>0</sup>	約 5.2×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																						
小計 (①+②+③)	約 7.9×10 <sup>-1</sup>	約 4.5×10 <sup>0</sup>	約 5.3×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																						
④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.9×10 <sup>0</sup>	—	約 2.9×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																						
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.9×10 <sup>-1</sup>	約 6.4×10 <sup>-2</sup>	約 2.0×10 <sup>-1</sup>																																																																																																																																						
小計 (④+⑤)	約 3.1×10 <sup>0</sup>	約 6.4×10 <sup>-2</sup>	約 3.1×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																						
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.9	約 4.5	約 8.4 <sup>※4)</sup>																																																																																																																																						
被ばく経路	1日目の実効線量 (mSv) <sup>※1)※2)</sup>																																																																																																																																								
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																																																																																																																						
①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.4×10 <sup>-2</sup>	—	約 2.4×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																						
②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.4×10 <sup>-2</sup>	—	約 1.4×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																						
③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 7.6×10 <sup>-1</sup>	約 6.5×10 <sup>0</sup>	約 6.6×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																						
小計 (①+②+③)	約 7.9×10 <sup>-1</sup>	約 6.5×10 <sup>0</sup>	約 6.6×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																						
④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.9×10 <sup>0</sup>	—	約 2.9×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																						
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.9×10 <sup>-1</sup>	約 6.4×10 <sup>-2</sup>	約 2.0×10 <sup>-1</sup>																																																																																																																																						
小計 (④+⑤)	約 3.1×10 <sup>0</sup>	約 6.4×10 <sup>-2</sup>	約 3.1×10 <sup>0</sup>																																																																																																																																						
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.9	約 6.5	約 6.9 <sup>※2)</sup>																																																																																																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																								
	<p>表 8-2-1 評価結果の内訳 (D班の1日目)                      (原子炉格納容器フィルタベント系を用いて事象を収束する場合)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮する場合) (単位: mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被ばく経路</th> <th>D班の1日目の実効線量<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 3.8×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 7.0×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 5.5×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 3.1×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>(内訳) 内部被ばく</td> <td>(約 2.5×10<sup>1</sup>)</td> </tr> <tr> <td>外部被ばく</td> <td>(約 5.6×10<sup>0</sup>)</td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③+④)</td> <td>約 4.3×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 5.3×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 3.9×10<sup>-3</sup></td> </tr> <tr> <td>⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく</td> <td>約 5.0×10<sup>-4</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 4.6×10<sup>1</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p> <p>表 8-2-2 評価結果の内訳 (D班の1日目)                      (原子炉格納容器フィルタベント系を用いて事象を収束する場合)                      (中央制御室内でマスクの着用を考慮しない場合) (単位: mSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被ばく経路</th> <th>D班の1日目の実効線量<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 3.8×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 7.0×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 5.5×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく</td> <td>約 5.0×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>(内訳) 内部被ばく</td> <td>(約 4.9×10<sup>1</sup>)</td> </tr> <tr> <td>外部被ばく</td> <td>(約 5.6×10<sup>0</sup>)</td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③+④)</td> <td>約 5.1×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 5.3×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 3.9×10<sup>-3</sup></td> </tr> <tr> <td>⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく</td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく</td> <td>約 5.0×10<sup>-4</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 2.3×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)</td> <td>約 5.2×10<sup>1</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 遮蔽モデル上のコンクリート厚を許容される施工誤差分だけ薄くした場合の被ばく線量</p>	被ばく経路	D班の1日目の実効線量 <sup>※1</sup>	① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 3.8×10 <sup>-2</sup>	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 5.5×10 <sup>0</sup>	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 3.1×10 <sup>1</sup>	(内訳) 内部被ばく	(約 2.5×10 <sup>1</sup> )	外部被ばく	(約 5.6×10 <sup>0</sup> )	小計 (①+②+③+④)	約 4.3×10 <sup>1</sup>	⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.3×10 <sup>-2</sup>	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 3.9×10 <sup>-3</sup>	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.3×10 <sup>0</sup>	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 5.0×10 <sup>-4</sup>	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 2.3×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 4.6×10 <sup>1</sup>	被ばく経路	D班の1日目の実効線量 <sup>※1</sup>	① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 3.8×10 <sup>-2</sup>	② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>	③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 5.5×10 <sup>0</sup>	④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 5.0×10 <sup>1</sup>	(内訳) 内部被ばく	(約 4.9×10 <sup>1</sup> )	外部被ばく	(約 5.6×10 <sup>0</sup> )	小計 (①+②+③+④)	約 5.1×10 <sup>1</sup>	⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.3×10 <sup>-2</sup>	⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 3.9×10 <sup>-3</sup>	⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.3×10 <sup>0</sup>	⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 5.0×10 <sup>-4</sup>	小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 2.3×10 <sup>0</sup>	合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.2×10 <sup>1</sup>		<p>【女川】型式の相違                      ・プラント型式の相違に伴う評価事象想定                      の相違により評価ケース                      数が異なる。</p>
被ばく経路	D班の1日目の実効線量 <sup>※1</sup>																																																										
① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 3.8×10 <sup>-2</sup>																																																										
② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>																																																										
③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 5.5×10 <sup>0</sup>																																																										
④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 3.1×10 <sup>1</sup>																																																										
(内訳) 内部被ばく	(約 2.5×10 <sup>1</sup> )																																																										
外部被ばく	(約 5.6×10 <sup>0</sup> )																																																										
小計 (①+②+③+④)	約 4.3×10 <sup>1</sup>																																																										
⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.3×10 <sup>-2</sup>																																																										
⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 3.9×10 <sup>-3</sup>																																																										
⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																										
⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 5.0×10 <sup>-4</sup>																																																										
小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																										
合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 4.6×10 <sup>1</sup>																																																										
被ばく経路	D班の1日目の実効線量 <sup>※1</sup>																																																										
① 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 3.8×10 <sup>-2</sup>																																																										
② 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 7.0×10 <sup>0</sup>																																																										
③ 地表面に沈着した放射性物質のガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 5.5×10 <sup>0</sup>																																																										
④ 室内に外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 5.0×10 <sup>1</sup>																																																										
(内訳) 内部被ばく	(約 4.9×10 <sup>1</sup> )																																																										
外部被ばく	(約 5.6×10 <sup>0</sup> )																																																										
小計 (①+②+③+④)	約 5.1×10 <sup>1</sup>																																																										
⑤ 原子炉建屋原子炉棟内等の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 5.3×10 <sup>-2</sup>																																																										
⑥ 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 3.9×10 <sup>-3</sup>																																																										
⑦ 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による入退城時の被ばく	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																										
⑧ 大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による入退城時の被ばく	約 5.0×10 <sup>-4</sup>																																																										
小計 (⑤+⑥+⑦+⑧)	約 2.3×10 <sup>0</sup>																																																										
合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧)	約 5.2×10 <sup>1</sup>																																																										



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由									
<p><b>【参考】マスク着用期間を限定した線量評価について</b></p> <p>中央制御室の居住性（重大事故対策）に係る被ばく評価においては、評価期間中マスクの着用を考慮している。一方、事故発生時には、事象の進展及び中央制御室内の放射性物質濃度に応じ、放射線管理を踏まえてマスク着用の運用を行う。</p> <p>今回の選定した事故シーケンス及び居住性に係る被ばく評価手法を用い、マスク着用期間を事故発生直後に限定した場合の被ばく評価を以下に示す。</p> <p>ここで、選定した事故シーケンスでは、全交流動力電源喪失を想定し、評価上、中央制御室非常用循環設備の起動遅れ時間を300分（5時間）としている。</p> <p>中央制御室非常用循環設備の起動後は、よう素フィルタ及び微粒子フィルタにより室内に取り込まれた放射性物質は低減される。</p> <p>このため、ここでは中央制御室非常用循環設備起動後の室内の放射性物質低減を考慮して、第2.4表のとおり事故発生後5時間までマスクを着用するとした。</p> <p>なお、評価上、屋外においては、室内より放射性物質濃度が高いため、入退域時にマスクを着用するとして評価した。</p> <p>マスク着用期間を限定した線量評価における中央制御室等の運転員の被ばく評価結果を第2.5表及び第2.6表に示す。マスクなしの結果を第2.7表及び第2.8表に示す。</p> <p>第2.4表 中央制御室非常用循環設備の作動状態及びマスク着用時間</p> <table border="1" data-bbox="71 805 703 925"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>0～5h</th> <th>5～168h</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央制御室非常用循環設備</td> <td>—</td> <td>作動（フィルタによる放射性物質の低減）</td> </tr> <tr> <td>マスク</td> <td>着用</td> <td>—※</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※入退域時のみ着用</p> <p style="text-align: right;">☐ = SA</p>	時間	0～5h	5～168h	中央制御室非常用循環設備	—	作動（フィルタによる放射性物質の低減）	マスク	着用	—※			<p><b>【大飯】</b></p> <p>女川実績の反映</p> <p>・大飯では参考としてマスク着用期間を限定した評価を行っている。泊では女川実績を反映し、適合性を示すための評価においてもマスク着用期間を限定した評価を行っているため、本評価は実施していない。</p>
時間	0～5h	5～168h										
中央制御室非常用循環設備	—	作動（フィルタによる放射性物質の低減）										
マスク	着用	—※										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3 / 4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉	相違理由																																												
<p>第2.5表 中央制御室居住性（重大事故対策）に係る被ばく評価結果（3号炉）（5時間までマスク考慮、5時間以降マスクなし）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">7日間の実効線量 (mSv) **</th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>3</sup></td> <td>—</td> <td>約 4.0×10<sup>3</sup></td> <td rowspan="3">室内作業時</td> <td rowspan="6">【大飯】 女川実績の反映 ・大飯では参考としてマスク着用期間を限定した評価を行っている。泊では女川実績を反映し、適合性を示すための評価においてもマスク着用期間を限定した評価を行っているため、本評価は実施していない。</td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>2</sup></td> <td>—</td> <td>約 4.0×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 1.8×10<sup>1</sup></td> <td>約 2.0×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 1.8×10<sup>1</sup></td> <td>約 2.0×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>④建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 2.7×10<sup>0</sup></td> <td>—</td> <td>約 2.7×10<sup>0</sup></td> <td rowspan="2">入退城時</td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく*1</td> <td>約 1.4×10<sup>0</sup></td> <td>約 7.3×10<sup>2</sup></td> <td>約 1.4×10<sup>0</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 4.0×10<sup>0</sup></td> <td>約 7.3×10<sup>2</sup></td> <td>約 4.1×10<sup>0</sup></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 6.0</td> <td>約 18</td> <td>約 24**</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：入退城時については常にマスクを着用とした。                  *2：表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                  *3：「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値</p>						被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>	室内作業時	【大飯】 女川実績の反映 ・大飯では参考としてマスク着用期間を限定した評価を行っている。泊では女川実績を反映し、適合性を示すための評価においてもマスク着用期間を限定した評価を行っているため、本評価は実施していない。	②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>2</sup>	—	約 4.0×10 <sup>2</sup>	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 1.8×10 <sup>1</sup>	約 2.0×10 <sup>1</sup>	小計 (①+②+③)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 1.8×10 <sup>1</sup>	約 2.0×10 <sup>1</sup>	④建屋からのガンマ線による被ばく	約 2.7×10 <sup>0</sup>	—	約 2.7×10 <sup>0</sup>	入退城時	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく*1	約 1.4×10 <sup>0</sup>	約 7.3×10 <sup>2</sup>	約 1.4×10 <sup>0</sup>	小計 (④+⑤)	約 4.0×10 <sup>0</sup>	約 7.3×10 <sup>2</sup>	約 4.1×10 <sup>0</sup>		合計 (①+②+③+④+⑤)	約 6.0	約 18	約 24**	
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **																																																
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																														
①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>	室内作業時	【大飯】 女川実績の反映 ・大飯では参考としてマスク着用期間を限定した評価を行っている。泊では女川実績を反映し、適合性を示すための評価においてもマスク着用期間を限定した評価を行っているため、本評価は実施していない。																																												
②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>2</sup>	—	約 4.0×10 <sup>2</sup>																																														
③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 1.8×10 <sup>1</sup>	約 2.0×10 <sup>1</sup>																																														
小計 (①+②+③)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 1.8×10 <sup>1</sup>	約 2.0×10 <sup>1</sup>																																														
④建屋からのガンマ線による被ばく	約 2.7×10 <sup>0</sup>	—	約 2.7×10 <sup>0</sup>	入退城時																																													
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく*1	約 1.4×10 <sup>0</sup>	約 7.3×10 <sup>2</sup>	約 1.4×10 <sup>0</sup>																																														
小計 (④+⑤)	約 4.0×10 <sup>0</sup>	約 7.3×10 <sup>2</sup>	約 4.1×10 <sup>0</sup>																																														
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 6.0	約 18	約 24**																																														
<p>第2.6表 中央制御室居住性（重大事故対策）に係る被ばく評価結果（4号炉）（5時間までマスク考慮、5時間以降マスクなし）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被ばく経路</th> <th colspan="3">7日間の実効線量 (mSv) **</th> </tr> <tr> <th>外部被ばくによる実効線量</th> <th>内部被ばくによる実効線量</th> <th>実効線量の合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 4.0×10<sup>3</sup></td> <td>—</td> <td>約 4.0×10<sup>3</sup></td> <td rowspan="3">室内作業時</td> <td rowspan="6">【大飯】 女川実績の反映 ・大飯では参考としてマスク着用期間を限定した評価を行っている。泊では女川実績を反映し、適合性を示すための評価においてもマスク着用期間を限定した評価を行っているため、本評価は実施していない。</td> </tr> <tr> <td>②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく</td> <td>約 3.2×10<sup>2</sup></td> <td>—</td> <td>約 3.2×10<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく</td> <td>約 1.5×10<sup>0</sup></td> <td>約 1.4×10<sup>1</sup></td> <td>約 1.5×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (①+②+③)</td> <td>約 1.5×10<sup>0</sup></td> <td>約 1.4×10<sup>1</sup></td> <td>約 1.5×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>④建屋からのガンマ線による被ばく</td> <td>約 1.2×10<sup>0</sup></td> <td>—</td> <td>約 1.2×10<sup>0</sup></td> <td rowspan="2">入退城時</td> </tr> <tr> <td>⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく*1</td> <td>約 7.3×10<sup>1</sup></td> <td>約 3.8×10<sup>2</sup></td> <td>約 7.6×10<sup>1</sup></td> </tr> <tr> <td>小計 (④+⑤)</td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td>約 3.8×10<sup>2</sup></td> <td>約 1.9×10<sup>0</sup></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (①+②+③+④+⑤)</td> <td>約 3.4</td> <td>約 14</td> <td>約 18**</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：入退城時については常にマスクを着用とした。                  *2：表における「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                  *3：「実効線量の合計 (①+②+③+④+⑤)」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値</p>						被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **			外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計	①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>	室内作業時	【大飯】 女川実績の反映 ・大飯では参考としてマスク着用期間を限定した評価を行っている。泊では女川実績を反映し、適合性を示すための評価においてもマスク着用期間を限定した評価を行っているため、本評価は実施していない。	②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 3.2×10 <sup>2</sup>	—	約 3.2×10 <sup>2</sup>	③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 1.4×10 <sup>1</sup>	約 1.5×10 <sup>1</sup>	小計 (①+②+③)	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 1.4×10 <sup>1</sup>	約 1.5×10 <sup>1</sup>	④建屋からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>0</sup>	—	約 1.2×10 <sup>0</sup>	入退城時	⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく*1	約 7.3×10 <sup>1</sup>	約 3.8×10 <sup>2</sup>	約 7.6×10 <sup>1</sup>	小計 (④+⑤)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 3.8×10 <sup>2</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>		合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.4	約 14	約 18**	
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) **																																																
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計																																														
①建屋からのガンマ線による被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>	室内作業時	【大飯】 女川実績の反映 ・大飯では参考としてマスク着用期間を限定した評価を行っている。泊では女川実績を反映し、適合性を示すための評価においてもマスク着用期間を限定した評価を行っているため、本評価は実施していない。																																												
②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく	約 3.2×10 <sup>2</sup>	—	約 3.2×10 <sup>2</sup>																																														
③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 1.4×10 <sup>1</sup>	約 1.5×10 <sup>1</sup>																																														
小計 (①+②+③)	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 1.4×10 <sup>1</sup>	約 1.5×10 <sup>1</sup>																																														
④建屋からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>0</sup>	—	約 1.2×10 <sup>0</sup>	入退城時																																													
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく*1	約 7.3×10 <sup>1</sup>	約 3.8×10 <sup>2</sup>	約 7.6×10 <sup>1</sup>																																														
小計 (④+⑤)	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 3.8×10 <sup>2</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>																																														
合計 (①+②+③+④+⑤)	約 3.4	約 14	約 18**																																														
<p style="text-align: right;">□ = SA</p>																																																	

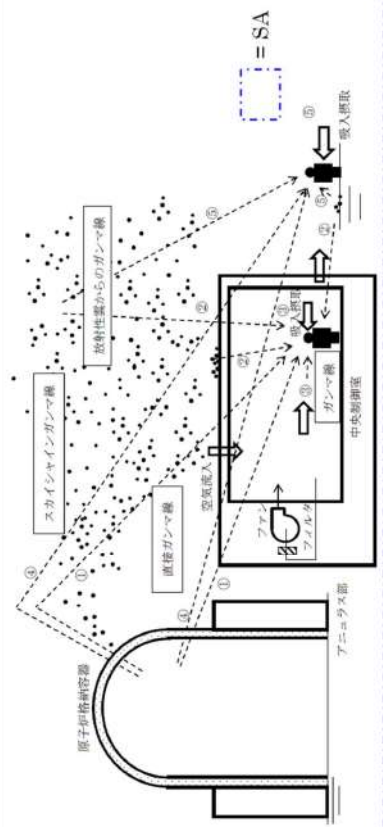


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉				女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由	
第2.7表 中央制御室居住性（重大事故対策）に係る被ばく評価結果 （3号炉）（マスクなし）							
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) *1						
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計				
①建屋からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>			【大飯】 女川実績の反映 ・大飯では参考としてマスク着用期間を限定した評価を行っている。泊では女川実績を反映し、適合性を示すための評価においてもマスク着用期間を限定した評価を行っているため、本評価は実施していない。 ・ただし、マスクを着用しない評価については第6-2表で示しており、大飯を再掲している。	
②大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 4.0×10 <sup>2</sup>	—	約 4.0×10 <sup>2</sup>				
③外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 5.6×10 <sup>1</sup>	約 5.8×10 <sup>1</sup>				
小計（①+②+③）	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 5.6×10 <sup>1</sup>	約 5.8×10 <sup>1</sup>				
④建屋の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 2.7×10 <sup>0</sup>	—	約 2.7×10 <sup>0</sup>				
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 1.4×10 <sup>0</sup>	約 3.7×10 <sup>0</sup>	約 5.0×10 <sup>0</sup>				
小計（④+⑤）	約 4.0×10 <sup>0</sup>	約 3.7×10 <sup>0</sup>	約 7.7×10 <sup>0</sup>				
合計（①+②+③+④+⑤）	約 6.0	約 60	約 66*2				
*1：表における「実効線量の合計（①+②+③+④+⑤）」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値 *2：「実効線量の合計（①+②+③+④+⑤）」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値							
第2.8表 中央制御室居住性（重大事故対策）に係る被ばく評価結果 （4号炉）（マスクなし）							
被ばく経路	7日間の実効線量 (mSv) *1						
	外部被ばくによる実効線量	内部被ばくによる実効線量	実効線量の合計				
①建屋からのガンマ線による中央制御室内での被ばく	約 4.0×10 <sup>3</sup>	—	約 4.0×10 <sup>3</sup>				
②大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 3.2×10 <sup>2</sup>	—	約 3.2×10 <sup>2</sup>				
③外気から取り込まれた放射性物質による中央制御室内での被ばく	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 4.3×10 <sup>1</sup>	約 4.5×10 <sup>1</sup>				
小計（①+②+③）	約 1.5×10 <sup>0</sup>	約 4.3×10 <sup>1</sup>	約 4.5×10 <sup>1</sup>				
④建屋の放射性物質からのガンマ線による被ばく	約 1.2×10 <sup>0</sup>	—	約 1.2×10 <sup>0</sup>				
⑤大気中へ放出された放射性物質による被ばく	約 7.3×10 <sup>-1</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 2.6×10 <sup>0</sup>				
小計（④+⑤）	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 1.9×10 <sup>0</sup>	約 3.8×10 <sup>0</sup>				
合計（①+②+③+④+⑤）	約 3.4	約 45	約 49*2				
*1：表における「実効線量の合計（①+②+③+④+⑤）」以外の数値は、有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値 *2：「実効線量の合計（①+②+③+④+⑤）」の数値は、有効数値3桁目を切り上げて2桁に丸めた値							
[ ] = SA							

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由				
<p style="text-align: center;">中央制御室居住性 (重大事故対策) に係る被ばく経路イメージ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">中央制御室内での被ばく</td> <td style="padding: 5px;">①建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャイン及びグラウンドシャインによる外部被ばく)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">入退域での被ばく</td> <td style="padding: 5px;">③外気から中央制御室内へ取り込まれた放射性物質による被ばく (吸入摂取による内部被ばく、室内に浮遊している放射性物質による外部被ばく) ④建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ⑤大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャイン及びグラウンドシャインによる外部被ばく、吸入摂取による内部被ばく)</td> </tr> </table> 	中央制御室内での被ばく	①建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャイン及びグラウンドシャインによる外部被ばく)	入退域での被ばく	③外気から中央制御室内へ取り込まれた放射性物質による被ばく (吸入摂取による内部被ばく、室内に浮遊している放射性物質による外部被ばく) ④建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ⑤大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャイン及びグラウンドシャインによる外部被ばく、吸入摂取による内部被ばく)			<p>【大飯】 記載箇所の相違</p>
中央制御室内での被ばく	①建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャイン及びグラウンドシャインによる外部被ばく)						
入退域での被ばく	③外気から中央制御室内へ取り込まれた放射性物質による被ばく (吸入摂取による内部被ばく、室内に浮遊している放射性物質による外部被ばく) ④建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ⑤大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャイン及びグラウンドシャインによる外部被ばく、吸入摂取による内部被ばく)						

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

中央制御室居住性(重大事故対策)に係る被ばく評価の主要条件(1/3)

炉心溶融が早く、事象進展中、原子炉格納容器圧力が高く推移し、被ばく評価の観点で厳しくなる「大LOCA + ECCS 注入失敗 + 格納容器スプレイ失敗」を選定。

評価イメージ図

大項目	中項目	主要条件
原子炉格納容器に放出される核分裂生成物量	炉心熱出力	定格出力(3411MW)の102%
	原子炉運転時間	最高40,000時間
原子炉格納容器内での低減効果	核分裂生成物割合	NUREG 1465に基づいて設定
	代替低圧注水ポンプによるエアロソルのスプレイ除去効果	SRP6.5.2の評価式*1に基づき算出した除去速度により低減
環境への放出	原子炉格納容器等への無機よう素の沈着効果	CSE 実験に基づき沈着率により低減
	原子炉格納容器からの漏えい率	0.16%/day(事故期間中一定)
	原子炉格納容器からのエアロソル除去効率	エアロソル: 99% よう素: 95%
	設備起動遅延時間	起動遅延時間: 60分(SBOを想定)

$A_1 = V_r \frac{A_1}{V_r}$   $A_2 = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_3 = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_4 = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_5 = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_6 = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_7 = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_8 = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_9 = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{10} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{11} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{12} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{13} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{14} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{15} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{16} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{17} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{18} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{19} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{20} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{21} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{22} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{23} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{24} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{25} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{26} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{27} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{28} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{29} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{30} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{31} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{32} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{33} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{34} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{35} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{36} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{37} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{38} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{39} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{40} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{41} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{42} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{43} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{44} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{45} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{46} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{47} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{48} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{49} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{50} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{51} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{52} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{53} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{54} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{55} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{56} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{57} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{58} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{59} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{60} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{61} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{62} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{63} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{64} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{65} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{66} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{67} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{68} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{69} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{70} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{71} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{72} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{73} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{74} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{75} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{76} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{77} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{78} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{79} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{80} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{81} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{82} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{83} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{84} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{85} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{86} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{87} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{88} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{89} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{90} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{91} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{92} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{93} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{94} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{95} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{96} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{97} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{98} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{99} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$   $A_{100} = \frac{A_1}{V_r} \frac{V_r}{V_r}$

\* 1: スプレイによるエアロソルの除去速度を以下の式により算出 \* 2: エアロソルの原子炉格納容器等への沈着率を以下の式により算出

$A_1 = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_2 = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_3 = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_4 = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_5 = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_6 = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_7 = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_8 = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_9 = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{10} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{11} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{12} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{13} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{14} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{15} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{16} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{17} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{18} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{19} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{20} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{21} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{22} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{23} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{24} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{25} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{26} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{27} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{28} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{29} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{30} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{31} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{32} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{33} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{34} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{35} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{36} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{37} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{38} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{39} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{40} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{41} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{42} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{43} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{44} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{45} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{46} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{47} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{48} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{49} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{50} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{51} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{52} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{53} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{54} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{55} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{56} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{57} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{58} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{59} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{60} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{61} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{62} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{63} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{64} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{65} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{66} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{67} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{68} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{69} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{70} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{71} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{72} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{73} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{74} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{75} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{76} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{77} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{78} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{79} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{80} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{81} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{82} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{83} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{84} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{85} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{86} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{87} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{88} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{89} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{90} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{91} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{92} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{93} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{94} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{95} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{96} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{97} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{98} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{99} = \frac{3MFE}{2V_r D}$   $A_{100} = \frac{3MFE}{2V_r D}$

$\lambda_s$ : スプレイ除去速度  $h$ : スプレイ噴霧器下高さ  
 $V_s$ : スプレイ領域の体積  $F$ : スプレイ流量  
 $E$ : 捕集効率  $D$ : スプレイ管径  
 $PWR$  を模擬した NURC 実験によりスプレイ効率(E/D)を7と設定

表9 中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価の主要条件(1/4)

項目	評価条件
炉心熱出力	2号炉 大破断 LOCA + HPCS 失敗 + 低圧 ECCS 失敗 + 全交流動力電源喪失
原子炉運転時間	2,436MWh 1サイクル: 10,000h (約416日) 2サイクル: 20,000h 3サイクル: 30,000h 4サイクル: 40,000h 5サイクル: 50,000h
取替炉心の燃料装荷割合	1サイクル: 0.229 2サイクル: 0.229 3サイクル: 0.229 4サイクル: 0.229 5サイクル: 0.684
気象資料	女川原子力発電所における1年間の気象データ(2012年1月~2012年12月)(地上約10m, 地上約71m)
実効放出継続時間	全放出源: 1時間
建屋巻き込み	【原子炉格納容器フィルタベント系排気管】考慮する 【原子炉建屋ブローアウトパネル】考慮する 【排気筒】巻き込みの影響はないため考慮しない
累積出現頻度	小さい方から累積して97%
放出源及び放出源高さ	【原子炉格納容器フィルタベント系排気管】地上35m 【原子炉建屋ブローアウトパネル】地上0m 【排気筒】地上80m <sup>※1</sup>
中央制御室滞在時	【原子炉格納容器フィルタベント系排気管】中央制御室換気空調系の給気口: 5方位 中央制御室中心: 8方位 【原子炉建屋ブローアウトパネル】中央制御室換気空調系の給気口: 5方位 中央制御室中心: 6方位 【排気筒】中央制御室換気空調系の給気口: 1方位 中央制御室中心: 1方位
着目方位	【原子炉格納容器フィルタベント系排気管】出入管理所: 4方位 制御建屋出入口: 6方位 【原子炉建屋ブローアウトパネル】出入管理所: 4方位 制御建屋出入口: 6方位 【排気筒】出入管理所: 1方位 制御建屋出入口: 1方位

※1 排気筒の放出源高さは、敷地境界における有効高さを使用

表8 中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価の主要条件(1/3)

項目	評価条件
炉心熱出力	3号炉 大破断 LOCA 時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故
原子炉運転時間	2,705MWh ウラン燃料 1サイクル: 10,000h (約416日) 2サイクル: 20,000h 3サイクル: 30,000h 4サイクル: 40,000h ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料 1サイクル: 10,000h (約416日) 2サイクル: 20,000h 3サイクル: 30,000h
取替炉心の燃料装荷割合	装荷割合はウラン燃料: 約3/4 (117体/157体) ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料: 約1/4 (40体/157体) サイクル数(バッチ数)はウラン燃料: 4 ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料: 3
気象資料	泊発電所における1年間の気象データ(1997年1月~1997年12月)(地上約10m)
実効放出継続時間	全放出源: 1時間
建屋巻き込み	考慮する
累積出現頻度	小さい方から累積して97%
放出源及び放出源高さ	地上: 地上0m 排気筒: 地上73.1m
中央制御室滞在時	【地上、排気筒】中央制御室中心: 5方位
着目方位	【地上、排気筒】出入管理建屋入口: 3方位 中央制御室入口: 6方位

相違理由

【大飯】  
女川審査実績の反映

【女川】  
評価条件の相違  
【女川】型式の相違  
・型式の相違により、記載事項が異なる。

【大飯】評価条件の相違  
・大飯との比較では、熱出力等の評価条件の相違はあるが、大きな差異はない。



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉

La 類	Ce 類	Ba 類	Ru 類	Te 類	Cs 類	ヨウ素類	希ガス類	原子炉内蓄積量 (Bq)
約 8.8×10 <sup>10</sup>	約 8.8×10 <sup>10</sup>	約 4.5×10 <sup>10</sup>	約 2.5×10 <sup>10</sup>	約 2.5×10 <sup>10</sup>	約 1.7×10 <sup>10</sup>	約 4.0×10 <sup>10</sup>	約 4.0×10 <sup>10</sup>	

表 事故直後の炉心内蓄積量\*1  
 \*1 ORIGENを用いて算出 \*2 Cs-137の炉心内蓄積量  
 表 原子炉格納容器への放出割合、放出時間 (NUREG-1465 Table3, 13)

項目	Gap Release***		Early In-Vessel		Late In-Vessel	
	0.5	1.3	0.05	0	2.0	10.0
Duration (hour)	0.05	0.05	0.05	0	0	0
Noble Gas**	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.1
Halogens	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.1
Alkali Metals	0	0	0	0.05	0.05	0.05
Tellurium group	0	0	0	0.02	0.1	0
Barium, Strontium	0	0	0	0.0025	0	0
Noble Metals	0	0	0	0.0005	0.0005	0
Cerium group	0	0	0	0.0005	0.0005	0
Lanthanides	0	0	0	0.0002	0.0002	0

\* Values shown are fractions of core inventory.  
 \*\* See Table 3.5 for a listing of the elements in each group.  
 \*\*\* Gap release is 5 percent if long-term fuel cooling is maintained.

各フューエーゼの継続時間  
 Cs-137の各フューエーゼの放出割合

事象進展の各フューエーゼは大きく以下のよう整理されている。  
 ・ Gap-Release/Early In-Vessel  
 燃料被覆管損傷後のギャップからの放出 (Gap-Release) と、燃料の溶解に伴う原子炉容器損傷までの炉心からの放出 (Early In-Vessel) を想定。  
 ・ Ex-Vessel/Late In-Vessel  
 原子炉容器損傷後、炉外の溶解炉心からの放出 (Ex-Vessel) 及び1次系に沈着した核分裂生成物の放出 (Late In-Vessel) を想定。

女川原子力発電所2号炉

表9 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価の主要条件 (2/4)

項目	評価条件
原子炉格納容器の漏えい開始時刻	事故発生直後 (なお、放射性物質は、MAAP 解析に基づき事故発生約5分後から漏えい)
原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉種への漏えい率	開口面積を原子炉格納容器の圧力に応じ設定。MAAP 解析上で、原子炉格納容器の圧力に応じ漏えい率が変化するものとした。 【開口面積】 IPd 以下 : 1.0Pd で 0.9%/日 1~1.5Pd : 1.5Pd で 1.1%/日 1.5~2Pd : 2.0Pd で 1.3%/日 に相当する開口面積
原子炉圧力容器から原子炉格納容器に放出されるよう素の形態	粒子状よう素 : 5% 無機よう素 : 91% 有機よう素 : 4%
原子炉格納容器内の pH 制御の効果	未考慮
原子炉格納容器からの漏えいに関する捕集効果 (DF)	希ガス : 1 エアロゾル粒子 : 10 無機よう素 : 1 有機よう素 : 1
原子炉格納容器内での有機よう素の除去効果	未考慮
原子炉格納容器内での粒子状放射性物質の除去効果	・格納容器スプレーによる除去効果 ・自然沈着による除去効果 ・サブプレッションチェンバのプール水でのスクラビングによる除去効果 上記を MAAP 解析で評価
原子炉格納容器等への無機よう素の沈着効果	9.0×10 <sup>-1</sup> [1/s] (上限 DF=200)
サブプレッションチェンバのプール水でのスクラビングによる無機よう素の除去係数	無機よう素 : 5
原子炉格納容器からベントラインへの流入割合	停止時炉内内蔵量に対して、 希ガス類 : 約 9.5×10 <sup>-1</sup> よう素類 : 約 3.0×10 <sup>-2</sup> Cs 類 : 約 1.2×10 <sup>-6</sup> Te 類 : 約 2.4×10 <sup>-7</sup> Ba 類 : 約 9.4×10 <sup>-8</sup> Ru 類 : 約 1.2×10 <sup>-8</sup> La 類 : 約 9.4×10 <sup>-10</sup> Ce 類 : 約 2.4×10 <sup>-9</sup>

泊発電所3号炉

表8 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価の主要条件 (2/3)

項目	評価条件
原子炉格納容器の漏えい開始時刻	0秒
原子炉格納容器からの漏えい率	0.16%/day
原子炉格納容器からの漏えい割合	アニュラス部 : 97% アニュラス部以外 : 3%
原子炉格納容器に放出されるよう素の形態	粒子状よう素 : 5% 無機よう素 : 91% 有機よう素 : 4%
原子炉格納容器内の pH 制御の効果	未考慮
原子炉格納容器からの漏えいに関する捕集効果 (DF)	希ガス : 1 エアロゾル粒子 : 10 無機よう素 : 1 有機よう素 : 1
原子炉格納容器内での有機よう素の除去効果	未考慮
原子炉格納容器内での粒子状放射性物質の除去効果	・代替格納容器スプレーによる除去効果 ・自然沈着による除去効果
原子炉格納容器等への無機よう素の沈着効果	9.0×10 <sup>-4</sup> [1/s]
原子炉格納容器等へのエアロゾルの沈着効果	6.65×10 <sup>-3</sup> [1/h]
代替格納容器スプレーによるスプレー効果開始時間	60分
代替格納容器スプレーによるエアロゾルのスプレー除去効果	SRP6.5.2 <sup>※</sup> に示された評価式に基づく
原子炉格納容器に放出される核分裂生成物割合	炉心内蔵量に対して、 希ガス類 : 1.0×10 <sup>0</sup> よう素類 : 7.5×10 <sup>-1</sup> Cs 類 : 7.6×10 <sup>-1</sup> Te 類 : 3.05×10 <sup>-1</sup> Ba 類 : 1.2×10 <sup>-1</sup> Ru 類 : 5.0×10 <sup>-2</sup> La 類 : 5.2×10 <sup>-3</sup> Ce 類 : 5.5×10 <sup>-3</sup>

※ : 米国 Standard Review Plan 6.5.2 "Containment Spray as a Fission Product Cleanup System"

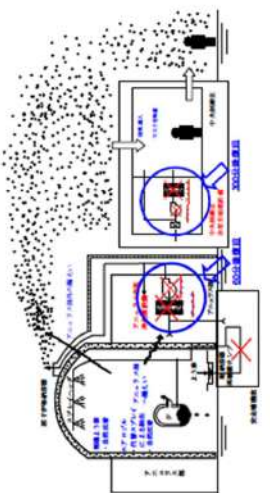
相違理由

【大飯】  
 女川審査実績の反映

【女川】型式の相違  
 ・型式の相違により、記載事項が異なる。

【大飯】  
 女川実績反映  
 ・原子炉格納容器からの漏えいに関する捕集効率 (DF) は女川実績を反映し、最確条件となるよう 10 として評価した。

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉																																															
	<p>7日間の実効線量</p> <table border="1"> <tr> <td>3号炉</td> <td>約7.2mSv</td> </tr> <tr> <td>4号炉</td> <td>約4.3mSv</td> </tr> <tr> <td>3号炉+4号炉</td> <td>約12mSv</td> </tr> </table> <p>被ばく評価結果</p>	3号炉	約7.2mSv	4号炉	約4.3mSv	3号炉+4号炉	約12mSv																																								
3号炉	約7.2mSv																																														
4号炉	約4.3mSv																																														
3号炉+4号炉	約12mSv																																														
<p>主要な評価条件(重大事故対策)に係る被ばく評価の主要条件 (3/3)</p> <p>中央制御室居住性(重大事故対策)に係る被ばく評価の主要条件 (3/3)</p>	<p>被ばく評価結果</p> <p>7日間</p>																																														
<p>主要な評価条件(重大事故対策、運転員の被ばく評価)</p> <table border="1"> <tr> <th>大項目</th> <th>中項目</th> <th>主要条件</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">大気拡散</td> <td>気象資料</td> <td>2010年1~12月</td> </tr> <tr> <td>実効放出継続時間</td> <td>全稼働：1時間</td> </tr> <tr> <td>累積出現頻度</td> <td>小さいほうから97%</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">運転員の被ばく評価</td> <td>着目方位</td> <td>3号,4号とも列線は5方位(中央制御室)</td> </tr> <tr> <td>中央制御室非常用循環ろ過システムのフィルタ除去効率</td> <td>フィルタ除去効率: 95% エアロゾル: 99% よう素: 95% 起動遅れ時間: 300分(SBOを想定)</td> </tr> <tr> <td>及び起動遅れ時間</td> <td>0.5回/h</td> </tr> <tr> <td>中央制御室の空気流入率</td> <td>50(事故期間中一定)</td> </tr> <tr> <td>マスクによる除染係数</td> <td>運転員の勤務形態を考慮して最大となる滞在時間及び入退室回数を設定</td> </tr> <tr> <td>交代要員体制の考慮</td> <td>QAD、SCATTERING</td> </tr> <tr> <td>直接線、スカイシャイニングの評価コード</td> <td>評価期間</td> <td>7日間</td> </tr> </table>	大項目	中項目	主要条件	大気拡散	気象資料	2010年1~12月	実効放出継続時間	全稼働：1時間	累積出現頻度	小さいほうから97%	運転員の被ばく評価	着目方位	3号,4号とも列線は5方位(中央制御室)	中央制御室非常用循環ろ過システムのフィルタ除去効率	フィルタ除去効率: 95% エアロゾル: 99% よう素: 95% 起動遅れ時間: 300分(SBOを想定)	及び起動遅れ時間	0.5回/h	中央制御室の空気流入率	50(事故期間中一定)	マスクによる除染係数	運転員の勤務形態を考慮して最大となる滞在時間及び入退室回数を設定	交代要員体制の考慮	QAD、SCATTERING	直接線、スカイシャイニングの評価コード	評価期間	7日間	<p>表9 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価の主要条件 (3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟への流入割合</td> <td>格納容器ベントの実施を想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 <math>2.2 \times 10^{-2}</math> よう素類：約 <math>8.3 \times 10^{-4}</math> Cs類：約 <math>3.1 \times 10^{-4}</math> Te類：約 <math>6.3 \times 10^{-2}</math> Ba類：約 <math>2.5 \times 10^{-2}</math> Ru類：約 <math>3.1 \times 10^{-4}</math> La類：約 <math>2.5 \times 10^{-4}</math> Ce類：約 <math>6.3 \times 10^{-4}</math>  代替循環冷却系を用いて事象を収束することを想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 <math>6.0 \times 10^{-2}</math> よう素類：約 <math>2.2 \times 10^{-4}</math> Cs類：約 <math>3.1 \times 10^{-4}</math> Te類：約 <math>6.2 \times 10^{-2}</math> Ba類：約 <math>2.5 \times 10^{-2}</math> Ru類：約 <math>3.1 \times 10^{-4}</math> La類：約 <math>2.5 \times 10^{-4}</math> Ce類：約 <math>6.2 \times 10^{-4}</math></td> </tr> <tr> <td>格納容器ベント開始時間</td> <td>事故発生から約45時間後</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置による除去係数</td> <td>希ガス：1 粒子状放射性物質：1,000 無機よう素：500 有機よう素：50</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋原子炉棟からの漏えい開始時刻</td> <td>事故発生直後</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系起動時間</td> <td>事故発生から60分後</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系排風機風量</td> <td>2,500m<sup>3</sup>/h</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋原子炉棟負圧達成時間</td> <td>事故発生から70分後</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋原子炉棟の換気率</td> <td>・事故発生から70分後~168時間後： 0.5[回/日]で屋外に放出 (非常用ガス処理系による放出) ・上記以外の期間： 無限大[回/日] (原子炉建屋原子炉棟からの漏えい)</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系のフィルタ装置の除去効果</td> <td>未考慮</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟への流入割合	格納容器ベントの実施を想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 $2.2 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $8.3 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ Te類：約 $6.3 \times 10^{-2}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-2}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-4}$ Ce類：約 $6.3 \times 10^{-4}$  代替循環冷却系を用いて事象を収束することを想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 $6.0 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $2.2 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ Te類：約 $6.2 \times 10^{-2}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-2}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-4}$ Ce類：約 $6.2 \times 10^{-4}$	格納容器ベント開始時間	事故発生から約45時間後	原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置による除去係数	希ガス：1 粒子状放射性物質：1,000 無機よう素：500 有機よう素：50	原子炉建屋原子炉棟からの漏えい開始時刻	事故発生直後	非常用ガス処理系起動時間	事故発生から60分後	非常用ガス処理系排風機風量	2,500m <sup>3</sup> /h	原子炉建屋原子炉棟負圧達成時間	事故発生から70分後	原子炉建屋原子炉棟の換気率	・事故発生から70分後~168時間後： 0.5[回/日]で屋外に放出 (非常用ガス処理系による放出) ・上記以外の期間： 無限大[回/日] (原子炉建屋原子炉棟からの漏えい)	非常用ガス処理系のフィルタ装置の除去効果	未考慮
大項目	中項目	主要条件																																													
大気拡散	気象資料	2010年1~12月																																													
	実効放出継続時間	全稼働：1時間																																													
	累積出現頻度	小さいほうから97%																																													
運転員の被ばく評価	着目方位	3号,4号とも列線は5方位(中央制御室)																																													
	中央制御室非常用循環ろ過システムのフィルタ除去効率	フィルタ除去効率: 95% エアロゾル: 99% よう素: 95% 起動遅れ時間: 300分(SBOを想定)																																													
	及び起動遅れ時間	0.5回/h																																													
	中央制御室の空気流入率	50(事故期間中一定)																																													
	マスクによる除染係数	運転員の勤務形態を考慮して最大となる滞在時間及び入退室回数を設定																																													
交代要員体制の考慮	QAD、SCATTERING																																														
直接線、スカイシャイニングの評価コード	評価期間	7日間																																													
項目	評価条件																																														
原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟への流入割合	格納容器ベントの実施を想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 $2.2 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $8.3 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ Te類：約 $6.3 \times 10^{-2}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-2}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-4}$ Ce類：約 $6.3 \times 10^{-4}$  代替循環冷却系を用いて事象を収束することを想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 $6.0 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $2.2 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ Te類：約 $6.2 \times 10^{-2}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-2}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-4}$ Ce類：約 $6.2 \times 10^{-4}$																																														
格納容器ベント開始時間	事故発生から約45時間後																																														
原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置による除去係数	希ガス：1 粒子状放射性物質：1,000 無機よう素：500 有機よう素：50																																														
原子炉建屋原子炉棟からの漏えい開始時刻	事故発生直後																																														
非常用ガス処理系起動時間	事故発生から60分後																																														
非常用ガス処理系排風機風量	2,500m <sup>3</sup> /h																																														
原子炉建屋原子炉棟負圧達成時間	事故発生から70分後																																														
原子炉建屋原子炉棟の換気率	・事故発生から70分後~168時間後： 0.5[回/日]で屋外に放出 (非常用ガス処理系による放出) ・上記以外の期間： 無限大[回/日] (原子炉建屋原子炉棟からの漏えい)																																														
非常用ガス処理系のフィルタ装置の除去効果	未考慮																																														

女川原子力発電所2号炉																					
<p>原子炉格納容器外への放出</p>	<p>表9 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価の主要条件 (3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟への流入割合</td> <td>格納容器ベントの実施を想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 <math>2.2 \times 10^{-2}</math> よう素類：約 <math>8.3 \times 10^{-4}</math> Cs類：約 <math>3.1 \times 10^{-4}</math> Te類：約 <math>6.3 \times 10^{-2}</math> Ba類：約 <math>2.5 \times 10^{-2}</math> Ru類：約 <math>3.1 \times 10^{-4}</math> La類：約 <math>2.5 \times 10^{-4}</math> Ce類：約 <math>6.3 \times 10^{-4}</math>  代替循環冷却系を用いて事象を収束することを想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 <math>6.0 \times 10^{-2}</math> よう素類：約 <math>2.2 \times 10^{-4}</math> Cs類：約 <math>3.1 \times 10^{-4}</math> Te類：約 <math>6.2 \times 10^{-2}</math> Ba類：約 <math>2.5 \times 10^{-2}</math> Ru類：約 <math>3.1 \times 10^{-4}</math> La類：約 <math>2.5 \times 10^{-4}</math> Ce類：約 <math>6.2 \times 10^{-4}</math></td> </tr> <tr> <td>格納容器ベント開始時間</td> <td>事故発生から約45時間後</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置による除去係数</td> <td>希ガス：1 粒子状放射性物質：1,000 無機よう素：500 有機よう素：50</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋原子炉棟からの漏えい開始時刻</td> <td>事故発生直後</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系起動時間</td> <td>事故発生から60分後</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系排風機風量</td> <td>2,500m<sup>3</sup>/h</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋原子炉棟負圧達成時間</td> <td>事故発生から70分後</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋原子炉棟の換気率</td> <td>・事故発生から70分後~168時間後： 0.5[回/日]で屋外に放出 (非常用ガス処理系による放出) ・上記以外の期間： 無限大[回/日] (原子炉建屋原子炉棟からの漏えい)</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系のフィルタ装置の除去効果</td> <td>未考慮</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟への流入割合	格納容器ベントの実施を想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 $2.2 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $8.3 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ Te類：約 $6.3 \times 10^{-2}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-2}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-4}$ Ce類：約 $6.3 \times 10^{-4}$  代替循環冷却系を用いて事象を収束することを想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 $6.0 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $2.2 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ Te類：約 $6.2 \times 10^{-2}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-2}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-4}$ Ce類：約 $6.2 \times 10^{-4}$	格納容器ベント開始時間	事故発生から約45時間後	原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置による除去係数	希ガス：1 粒子状放射性物質：1,000 無機よう素：500 有機よう素：50	原子炉建屋原子炉棟からの漏えい開始時刻	事故発生直後	非常用ガス処理系起動時間	事故発生から60分後	非常用ガス処理系排風機風量	2,500m <sup>3</sup> /h	原子炉建屋原子炉棟負圧達成時間	事故発生から70分後	原子炉建屋原子炉棟の換気率	・事故発生から70分後~168時間後： 0.5[回/日]で屋外に放出 (非常用ガス処理系による放出) ・上記以外の期間： 無限大[回/日] (原子炉建屋原子炉棟からの漏えい)	非常用ガス処理系のフィルタ装置の除去効果	未考慮
項目	評価条件																				
原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟への流入割合	格納容器ベントの実施を想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 $2.2 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $8.3 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ Te類：約 $6.3 \times 10^{-2}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-2}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-4}$ Ce類：約 $6.3 \times 10^{-4}$  代替循環冷却系を用いて事象を収束することを想定する場合： 停止時が内蔵量に対して、 希ガス類：約 $6.0 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $2.2 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ Te類：約 $6.2 \times 10^{-2}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-2}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-4}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-4}$ Ce類：約 $6.2 \times 10^{-4}$																				
格納容器ベント開始時間	事故発生から約45時間後																				
原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置による除去係数	希ガス：1 粒子状放射性物質：1,000 無機よう素：500 有機よう素：50																				
原子炉建屋原子炉棟からの漏えい開始時刻	事故発生直後																				
非常用ガス処理系起動時間	事故発生から60分後																				
非常用ガス処理系排風機風量	2,500m <sup>3</sup> /h																				
原子炉建屋原子炉棟負圧達成時間	事故発生から70分後																				
原子炉建屋原子炉棟の換気率	・事故発生から70分後~168時間後： 0.5[回/日]で屋外に放出 (非常用ガス処理系による放出) ・上記以外の期間： 無限大[回/日] (原子炉建屋原子炉棟からの漏えい)																				
非常用ガス処理系のフィルタ装置の除去効果	未考慮																				

泊発電所3号炉																	
<p>環境への放出</p>	<p>第8表 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価の主要条件 (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アニュラス部体積</td> <td>7860m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>アニュラス空気浄化設備ファン流量</td> <td>1.86×10<sup>4</sup> m<sup>3</sup>/h (ただし60分後起動)</td> </tr> <tr> <td>アニュラス負圧達成時間</td> <td>78分</td> </tr> <tr> <td>アニュラス空気浄化設備よう素フィルタによる除去効率</td> <td>0~78分：0%</td> </tr> <tr> <td>アニュラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率</td> <td>78分~：95%</td> </tr> <tr> <td>アニュラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率</td> <td>0~78分：0%</td> </tr> <tr> <td>アニュラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率</td> <td>78分~：99%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	アニュラス部体積	7860m <sup>3</sup>	アニュラス空気浄化設備ファン流量	1.86×10 <sup>4</sup> m <sup>3</sup> /h (ただし60分後起動)	アニュラス負圧達成時間	78分	アニュラス空気浄化設備よう素フィルタによる除去効率	0~78分：0%	アニュラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	78分~：95%	アニュラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	0~78分：0%	アニュラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	78分~：99%
項目	評価条件																
アニュラス部体積	7860m <sup>3</sup>																
アニュラス空気浄化設備ファン流量	1.86×10 <sup>4</sup> m <sup>3</sup> /h (ただし60分後起動)																
アニュラス負圧達成時間	78分																
アニュラス空気浄化設備よう素フィルタによる除去効率	0~78分：0%																
アニュラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	78分~：95%																
アニュラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	0~78分：0%																
アニュラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	78分~：99%																
<p>運転員の被ばく評価</p>	<p>【風量】</p> <p>事故発生から0~300分後：0 m<sup>3</sup>/h          事故発生から300分~7日：5.1×10<sup>2</sup> m<sup>3</sup>/h  <b>【よう素フィルタによる除去効率】</b>          事故発生から0~300分後：0%          事故発生から300分~7日：95%  <b>【微粒子フィルタによる除去効率】</b>          事故発生から0~300分後：0%          事故発生から300分~7日：99%  <b>【起動遅れ時間】</b>          300分</p> <p>中央制御室バウンダリへの外気の直接流入率 0.5回/h</p> <p>マスク防護係数 入退室：50 中央制御室滞在時：50</p> <p>ヨウ素剤の服用 未考慮</p> <p>交代要員体制の考慮 考慮する</p> <p>直接ガンマ線及びスカイシャイニングガンマ線の評価コード 直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード スカイシャイニングガンマ線：SCATTERINGコード</p> <p>地表面への沈着速度 希ガス：沈着なし 希ガス以外：1.2cm/s</p> <p>事故の評価期間 7日間</p>																

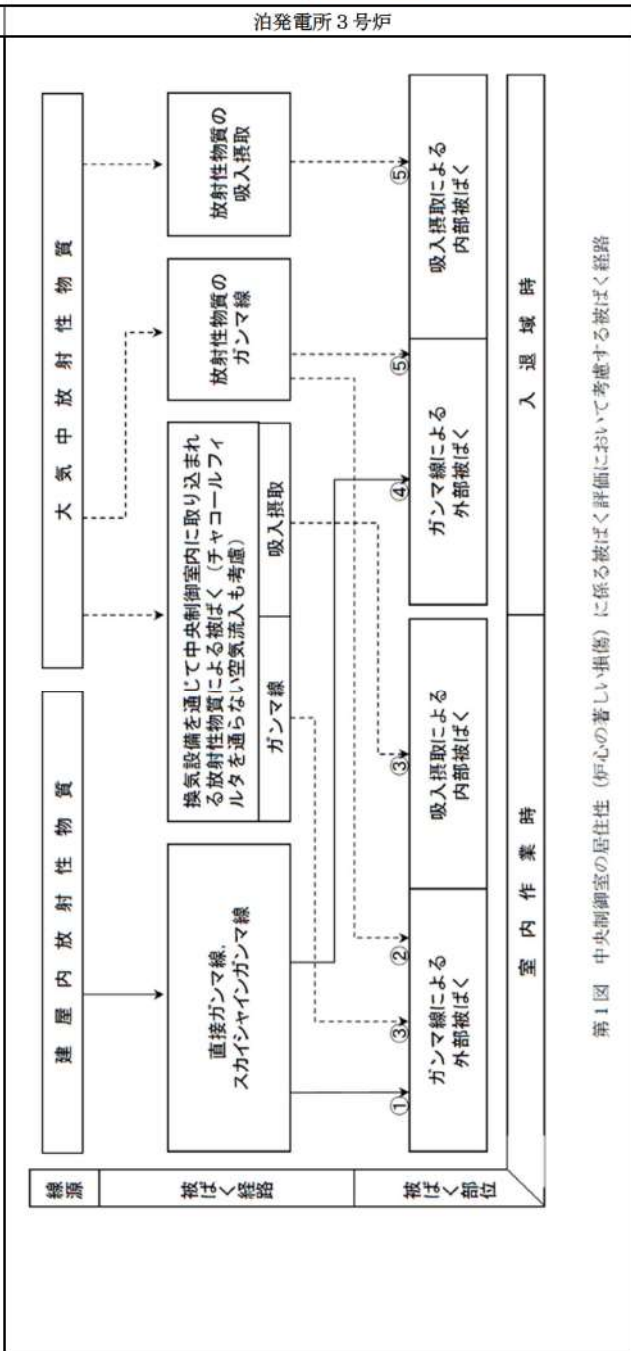
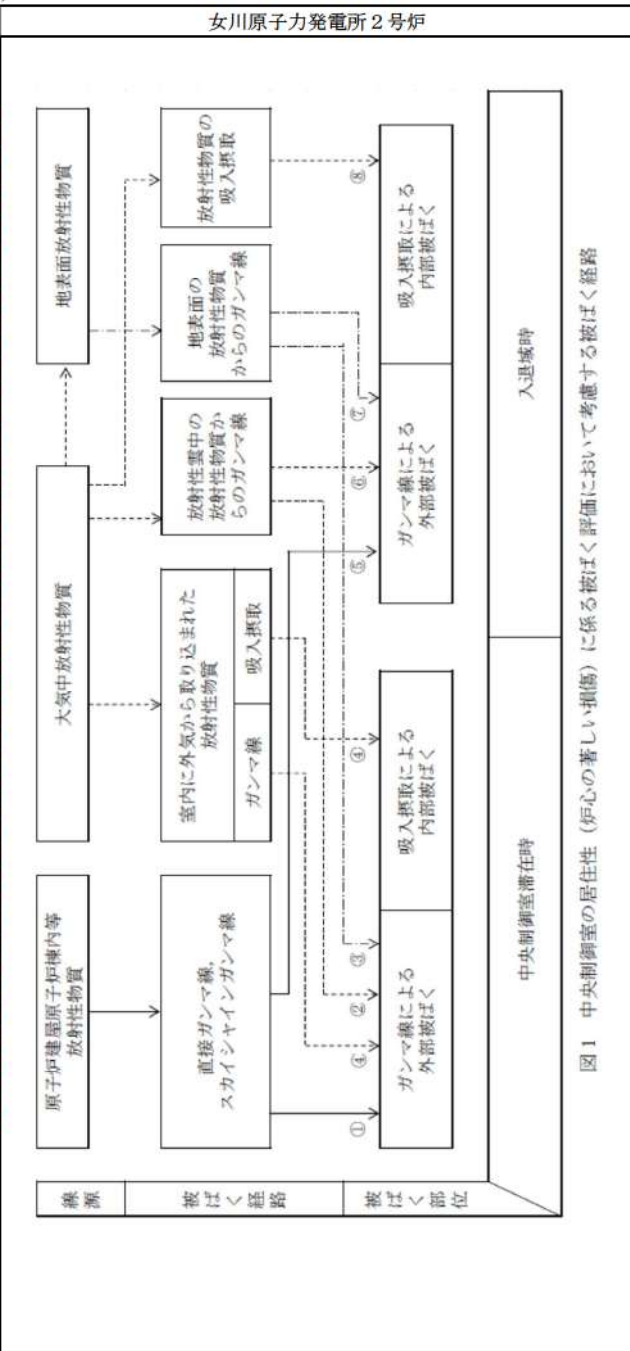
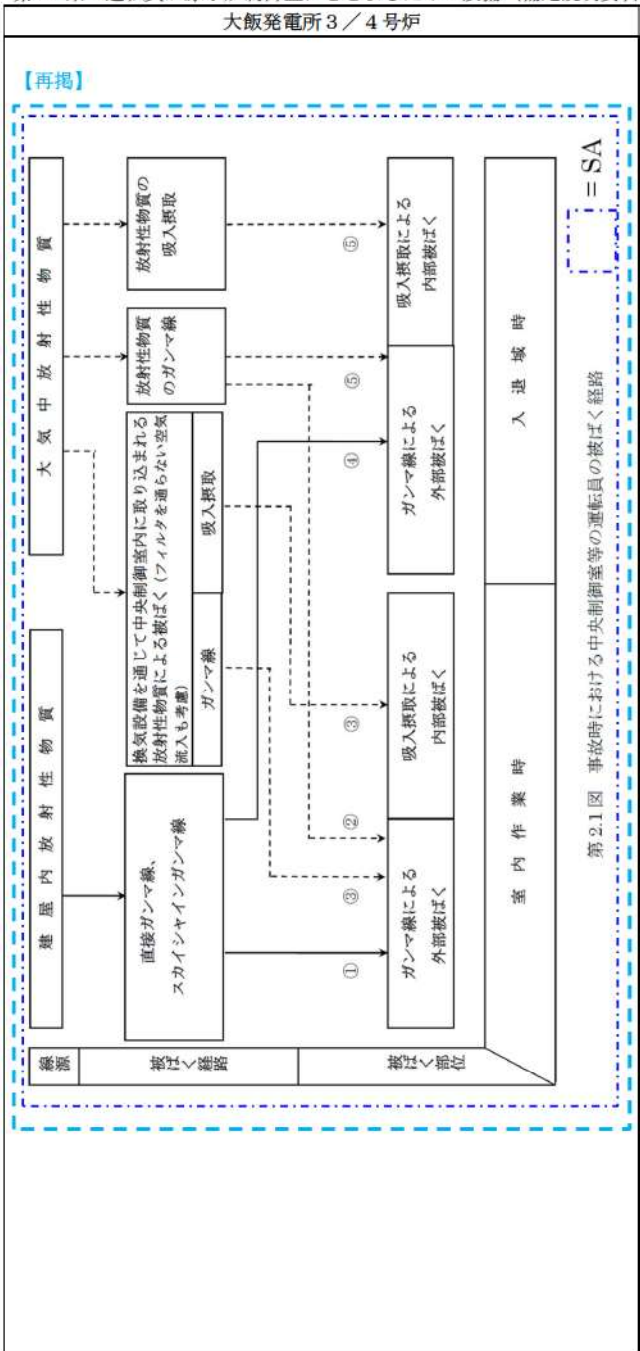
相違理由
<p>【大飯】                  女川審査実績の反映                  【女川】型式の相違                  ・型式の相違により、記載事項が異なる。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																						
	<p>表9 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価の主要条件 (4/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>主要条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央制御室換気空調系再循環送風機及び再循環フィルタ装置 (風量、フィルタ除去効率及び起動遅れ時間)</td> <td> <b>【風量】</b>                      事故発生から0～0.5時間後：0m<sup>3</sup>/h                      事故発生から0.5～168時間後：8,000m<sup>3</sup>/h (外気取込500m<sup>3</sup>/hを含む)  <b>【チャコールフィルタ除去効率】</b>                      希ガス、粒子状放射性物質：0%                      無機よう素、有機よう素：90%  <b>【高性能エアフィルタ除去効率】</b>                      希ガス、無機よう素、有機よう素：0%                      粒子状放射性物質：99.9%  <b>【起動遅れ時間】</b>                      0.5時間                 </td> </tr> <tr> <td>中央制御室バウンダリへの外気の直接流入率</td> <td>1.0回/h</td> </tr> <tr> <td>中央制御室待避所加圧設備の空気供給量</td> <td>事故発生から0～45時間後：0m<sup>3</sup>/h                      事故発生から45～55時間後：30m<sup>3</sup>/h<sup>※1</sup>                      事故発生から55～168時間後：0m<sup>3</sup>/h</td> </tr> <tr> <td>マスク防護係数</td> <td>入退城時：50 (1日目のみ1,000)                      中央制御室滞在時：50 (1日目のみ1,000)</td> </tr> <tr> <td>ヨウ素剤の服用</td> <td>未考慮</td> </tr> <tr> <td>交代要員体制の考慮</td> <td>考慮する</td> </tr> <tr> <td>直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価コード</td> <td> <b>【原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からの寄与】</b>                      ・直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード                      ・スカイシャインガンマ線：ANISNコード、G33-GP2Rコード  <b>【原子炉格納容器フィルタベント系排気管内の放射性物質からの寄与】</b>                      ・直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード                 </td> </tr> <tr> <td>地表面への沈着速度</td> <td>エアロゾル粒子：1.2cm/s                      無機よう素：1.2cm/s                      有機よう素：4.0×10<sup>-3</sup>cm/s                      希ガス：沈着なし</td> </tr> <tr> <td>評価期間</td> <td>7日間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 代替循環冷却系により事象収束する場合は加圧設備の効果を考慮しない</p>	項目	主要条件	中央制御室換気空調系再循環送風機及び再循環フィルタ装置 (風量、フィルタ除去効率及び起動遅れ時間)	<b>【風量】</b> 事故発生から0～0.5時間後：0m <sup>3</sup> /h 事故発生から0.5～168時間後：8,000m <sup>3</sup> /h (外気取込500m <sup>3</sup> /hを含む) <b>【チャコールフィルタ除去効率】</b> 希ガス、粒子状放射性物質：0% 無機よう素、有機よう素：90% <b>【高性能エアフィルタ除去効率】</b> 希ガス、無機よう素、有機よう素：0% 粒子状放射性物質：99.9% <b>【起動遅れ時間】</b> 0.5時間	中央制御室バウンダリへの外気の直接流入率	1.0回/h	中央制御室待避所加圧設備の空気供給量	事故発生から0～45時間後：0m <sup>3</sup> /h 事故発生から45～55時間後：30m <sup>3</sup> /h <sup>※1</sup> 事故発生から55～168時間後：0m <sup>3</sup> /h	マスク防護係数	入退城時：50 (1日目のみ1,000) 中央制御室滞在時：50 (1日目のみ1,000)	ヨウ素剤の服用	未考慮	交代要員体制の考慮	考慮する	直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価コード	<b>【原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からの寄与】</b> ・直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード ・スカイシャインガンマ線：ANISNコード、G33-GP2Rコード <b>【原子炉格納容器フィルタベント系排気管内の放射性物質からの寄与】</b> ・直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード	地表面への沈着速度	エアロゾル粒子：1.2cm/s 無機よう素：1.2cm/s 有機よう素：4.0×10 <sup>-3</sup> cm/s 希ガス：沈着なし	評価期間	7日間	<p>【前頁より再掲】</p> <p>第8表 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷)に係る被ばく評価の主要条件 (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アニュラス部体積</td> <td>7860m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>アニュラス空気浄化設備</td> <td>1.86×10<sup>4</sup> m<sup>3</sup>/h</td> </tr> <tr> <td>ファン流量</td> <td>(ただし60分後起動)</td> </tr> <tr> <td>アニュラス負圧達成時間</td> <td>78分</td> </tr> <tr> <td>アニュラス空気浄化設備</td> <td>0～78分：0%</td> </tr> <tr> <td>よう素フィルタによる除去効率</td> <td>78分～：95%</td> </tr> <tr> <td>アニュラス空気浄化設備</td> <td>0～78分：0%</td> </tr> <tr> <td>微粒子フィルタによる除去効率</td> <td>78分～：99%</td> </tr> <tr> <td>中央制御室非常用循環系統 (風量、フィルタ除去効率及び起動遅れ時間)</td> <td> <b>【風量】</b>                      事故発生から0～300分後：0 m<sup>3</sup>/h                      事故発生から300分～7日：5.1×10<sup>3</sup> m<sup>3</sup>/h  <b>【よう素フィルタによる除去効率】</b>                      事故発生から0～300分後：0%                      事故発生から300分～7日：95%  <b>【微粒子フィルタによる除去効率】</b>                      事故発生から0～300分後：0%                      事故発生から300分～7日：99%  <b>【起動遅れ時間】</b>                      300分                 </td> </tr> <tr> <td>中央制御室バウンダリへの外気の直接流入率</td> <td>0.5回/h</td> </tr> <tr> <td>マスク防護係数</td> <td>入退城：50                      中央制御室滞在時：50</td> </tr> <tr> <td>ヨウ素剤の服用</td> <td>未考慮</td> </tr> <tr> <td>交代要員体制の考慮</td> <td>考慮する</td> </tr> <tr> <td>直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価コード</td> <td>直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード                      スカイシャインガンマ線：SCATTERINGコード</td> </tr> <tr> <td>地表面への沈着速度</td> <td>希ガス：沈着なし                      希ガス以外：1.2cm/s</td> </tr> <tr> <td>事故の評価期間</td> <td>7日間</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	アニュラス部体積	7860m <sup>3</sup>	アニュラス空気浄化設備	1.86×10 <sup>4</sup> m <sup>3</sup> /h	ファン流量	(ただし60分後起動)	アニュラス負圧達成時間	78分	アニュラス空気浄化設備	0～78分：0%	よう素フィルタによる除去効率	78分～：95%	アニュラス空気浄化設備	0～78分：0%	微粒子フィルタによる除去効率	78分～：99%	中央制御室非常用循環系統 (風量、フィルタ除去効率及び起動遅れ時間)	<b>【風量】</b> 事故発生から0～300分後：0 m <sup>3</sup> /h 事故発生から300分～7日：5.1×10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> /h <b>【よう素フィルタによる除去効率】</b> 事故発生から0～300分後：0% 事故発生から300分～7日：95% <b>【微粒子フィルタによる除去効率】</b> 事故発生から0～300分後：0% 事故発生から300分～7日：99% <b>【起動遅れ時間】</b> 300分	中央制御室バウンダリへの外気の直接流入率	0.5回/h	マスク防護係数	入退城：50 中央制御室滞在時：50	ヨウ素剤の服用	未考慮	交代要員体制の考慮	考慮する	直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価コード	直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード スカイシャインガンマ線：SCATTERINGコード	地表面への沈着速度	希ガス：沈着なし 希ガス以外：1.2cm/s	事故の評価期間	7日間	<p>【大飯】                      女川審査実績の反映</p> <p>【女川】型式の相違・型式の相違により、記載事項が異なる。</p>
項目	主要条件																																																								
中央制御室換気空調系再循環送風機及び再循環フィルタ装置 (風量、フィルタ除去効率及び起動遅れ時間)	<b>【風量】</b> 事故発生から0～0.5時間後：0m <sup>3</sup> /h 事故発生から0.5～168時間後：8,000m <sup>3</sup> /h (外気取込500m <sup>3</sup> /hを含む) <b>【チャコールフィルタ除去効率】</b> 希ガス、粒子状放射性物質：0% 無機よう素、有機よう素：90% <b>【高性能エアフィルタ除去効率】</b> 希ガス、無機よう素、有機よう素：0% 粒子状放射性物質：99.9% <b>【起動遅れ時間】</b> 0.5時間																																																								
中央制御室バウンダリへの外気の直接流入率	1.0回/h																																																								
中央制御室待避所加圧設備の空気供給量	事故発生から0～45時間後：0m <sup>3</sup> /h 事故発生から45～55時間後：30m <sup>3</sup> /h <sup>※1</sup> 事故発生から55～168時間後：0m <sup>3</sup> /h																																																								
マスク防護係数	入退城時：50 (1日目のみ1,000) 中央制御室滞在時：50 (1日目のみ1,000)																																																								
ヨウ素剤の服用	未考慮																																																								
交代要員体制の考慮	考慮する																																																								
直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価コード	<b>【原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からの寄与】</b> ・直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード ・スカイシャインガンマ線：ANISNコード、G33-GP2Rコード <b>【原子炉格納容器フィルタベント系排気管内の放射性物質からの寄与】</b> ・直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード																																																								
地表面への沈着速度	エアロゾル粒子：1.2cm/s 無機よう素：1.2cm/s 有機よう素：4.0×10 <sup>-3</sup> cm/s 希ガス：沈着なし																																																								
評価期間	7日間																																																								
項目	評価条件																																																								
アニュラス部体積	7860m <sup>3</sup>																																																								
アニュラス空気浄化設備	1.86×10 <sup>4</sup> m <sup>3</sup> /h																																																								
ファン流量	(ただし60分後起動)																																																								
アニュラス負圧達成時間	78分																																																								
アニュラス空気浄化設備	0～78分：0%																																																								
よう素フィルタによる除去効率	78分～：95%																																																								
アニュラス空気浄化設備	0～78分：0%																																																								
微粒子フィルタによる除去効率	78分～：99%																																																								
中央制御室非常用循環系統 (風量、フィルタ除去効率及び起動遅れ時間)	<b>【風量】</b> 事故発生から0～300分後：0 m <sup>3</sup> /h 事故発生から300分～7日：5.1×10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> /h <b>【よう素フィルタによる除去効率】</b> 事故発生から0～300分後：0% 事故発生から300分～7日：95% <b>【微粒子フィルタによる除去効率】</b> 事故発生から0～300分後：0% 事故発生から300分～7日：99% <b>【起動遅れ時間】</b> 300分																																																								
中央制御室バウンダリへの外気の直接流入率	0.5回/h																																																								
マスク防護係数	入退城：50 中央制御室滞在時：50																																																								
ヨウ素剤の服用	未考慮																																																								
交代要員体制の考慮	考慮する																																																								
直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価コード	直接ガンマ線：QAD-CGGP2Rコード スカイシャインガンマ線：SCATTERINGコード																																																								
地表面への沈着速度	希ガス：沈着なし 希ガス以外：1.2cm/s																																																								
事故の評価期間	7日間																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)



相違理由

【女川】  
 記載方針の相違  
 ・女川は「放射性物質中の放射性物質からのガンマ線」と「地表面の放射性物質からのガンマ線」を分けているが、泊ではどちらも「放射性物質のガンマ線」としている。

経路の対応  
 【女川】 【泊】  
 ① - ①  
 ②③ - ①②  
 ④ - ①②③  
 ⑤ - ①④  
 ⑥⑦⑧ - ⑤

なお、泊と大飯の①～⑤の分類は審査ガイドの分類に合わせた記載となっている。

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所3/4号炉

【再掲】

中央制御室居住性 (重大事故対策) に係る被ばく経路イメージ

中央制御室内での被ばく	①建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャイン及びグラウンドシャインによる外部被ばく) ③外気から中央制御室内へ取り込まれた放射性物質による被ばく (吸入摂取による内部被ばく、室内に浮遊している放射性物質による外部被ばく)
入退域での被ばく	④建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ⑤大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャイン及びグラウンドシャインによる外部被ばく、吸入摂取による内部被ばく)

①原子炉建屋原子炉格納容器からのガンマ線による被ばく (直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく)  
 ②大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく (クラウドシャインガンマ線による外部被ばく)  
 ③地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく (グラウンドシャインガンマ線による外部被ばく)  
 ④室内に外気から取り込まれた放射性物質からのガンマ線による被ばく (吸入摂取による内部被ばく、室内に浮遊している放射性物質による外部被ばく)  
 ⑤原子炉建屋原子炉格納容器からのガンマ線による被ばく (直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく)  
 ⑥大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく (クラウドシャインガンマ線による外部被ばく)  
 ⑦地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく (グラウンドシャインガンマ線による外部被ばく)  
 ⑧大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による被ばく (吸入摂取による内部被ばく)

女川原子力発電所2号炉

図2 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価の被ばく経路イメージ図

中央制御室内	①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャインガンマ線による外部被ばく) ③地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく (グラウンドシャインガンマ線による外部被ばく) ④室内に外気から取り込まれた放射性物質からのガンマ線による被ばく (吸入摂取による内部被ばく、室内に浮遊している放射性物質による外部被ばく)
入退域	⑤原子炉建屋原子炉格納容器からのガンマ線による被ばく (直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ⑥大気中へ放出された放射性物質からのガンマ線による被ばく (クラウドシャインガンマ線による外部被ばく) ⑦地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく (グラウンドシャインガンマ線による外部被ばく) ⑧大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による被ばく (吸入摂取による内部被ばく)

泊発電所3号炉

中央制御室内	①原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ②大気中へ放出された放射性物質のガンマ線による被ばく (クラウドシャインガンマ線及びグラウンドシャインによる外部被ばく) ③室内に外気から取り込まれた放射性物質による被ばく (吸入摂取による内部被ばく、室内に浮遊している放射性物質による外部被ばく)
入退域	④原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく (直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による外部被ばく) ⑤大気中へ放出された放射性物質の吸入摂取による被ばく (クラウドシャインガンマ線及びグラウンドシャインによる内部被ばく)

図2 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価の被ばく経路イメージ図

【女川】  
記載方針の相違  
経路の対応

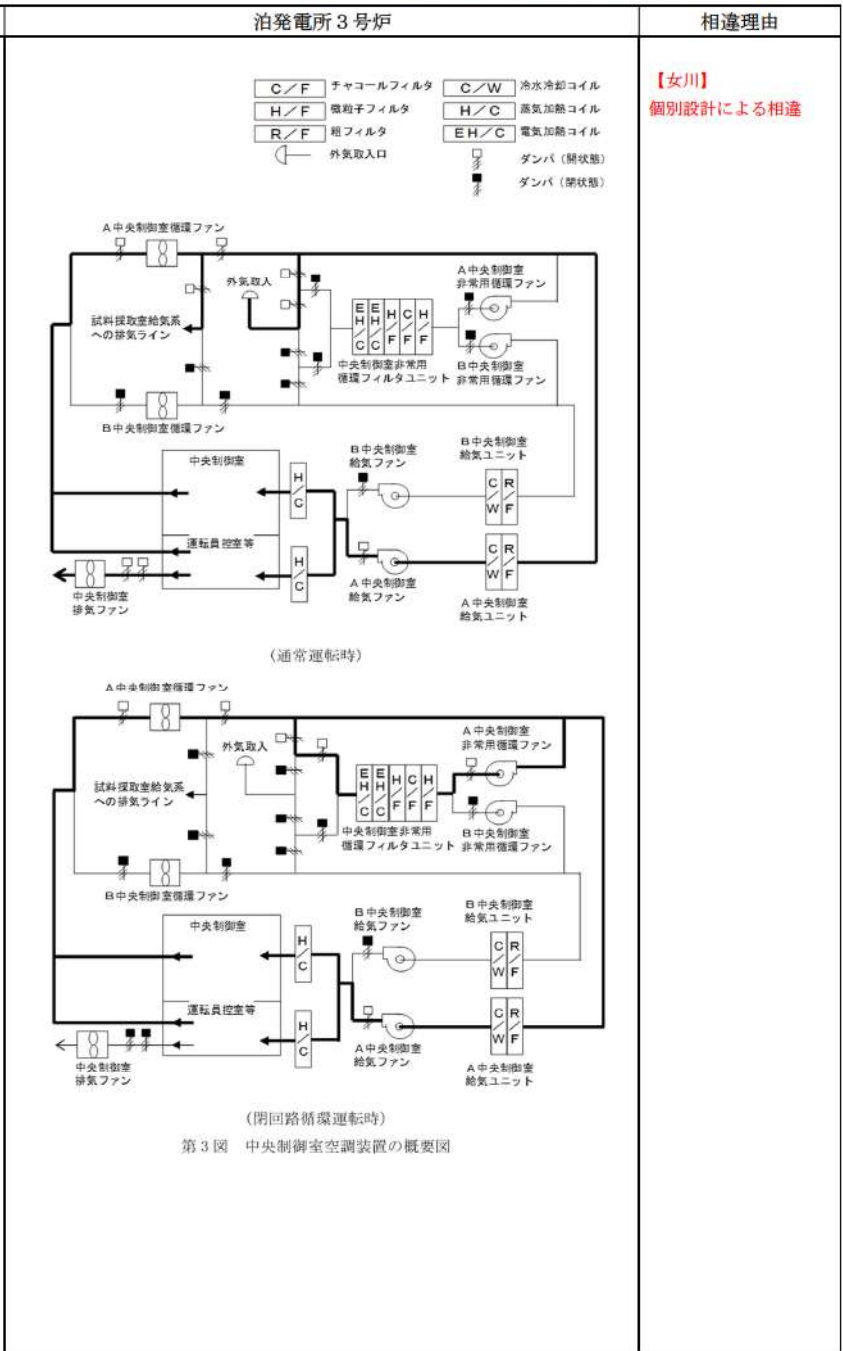
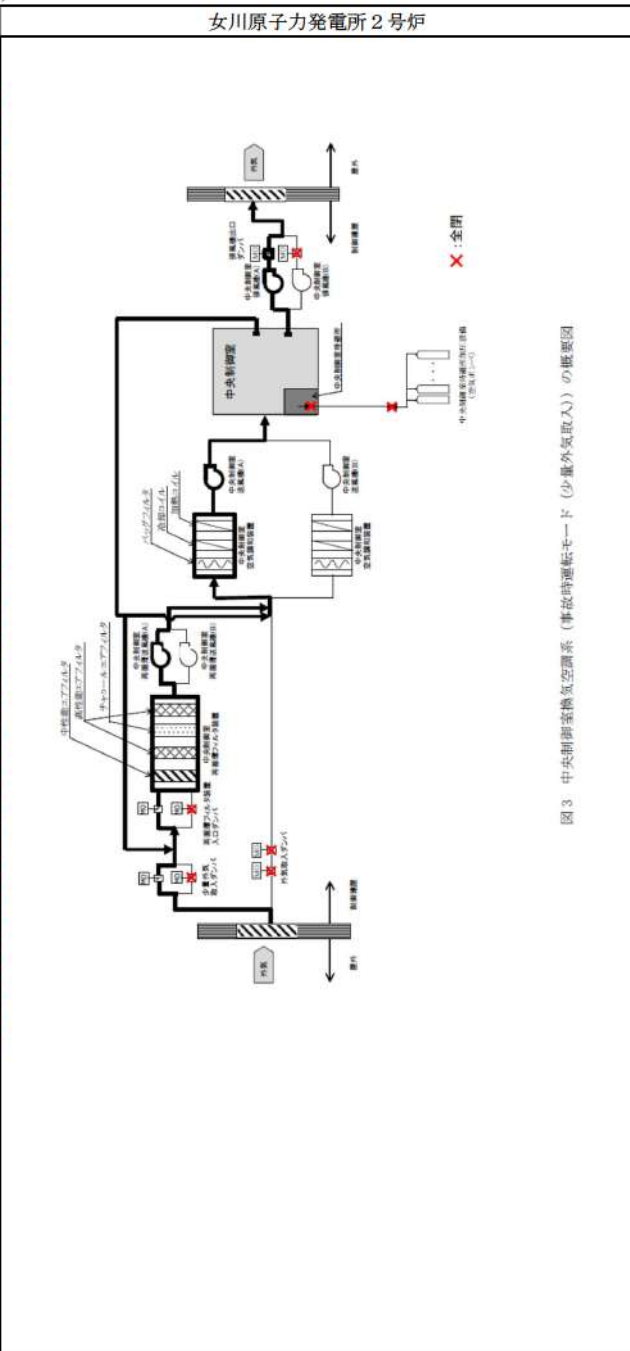
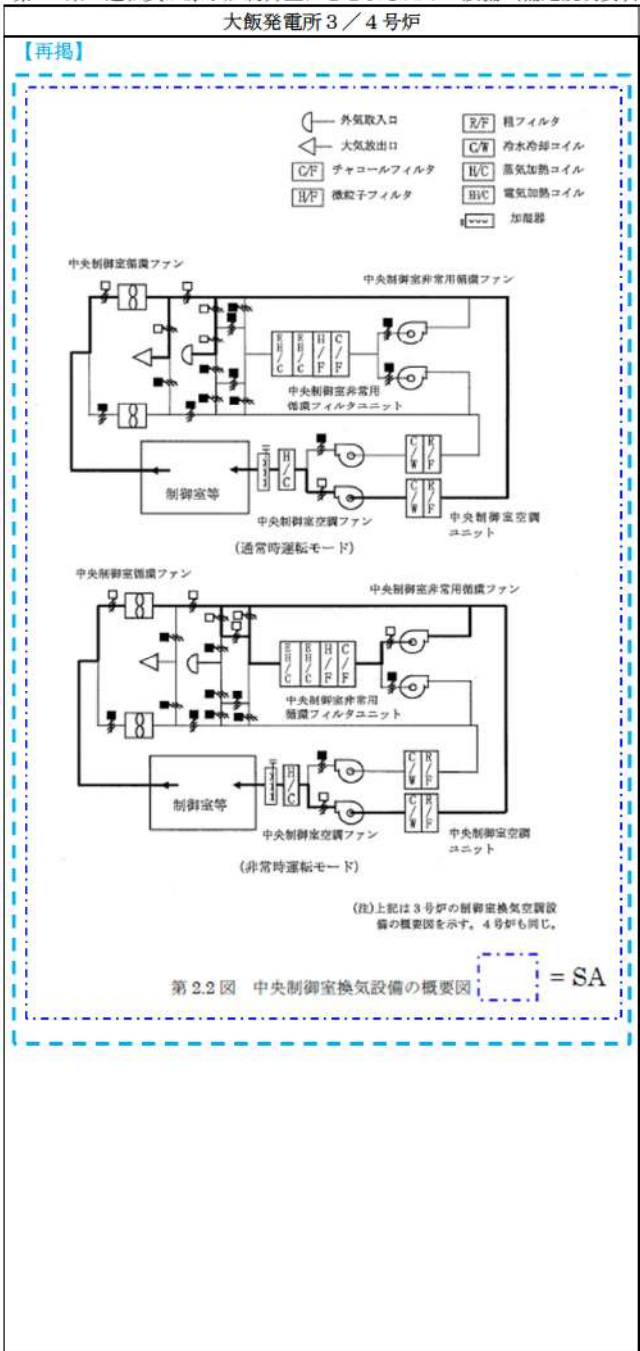
【女川】 [泊]

①	—	①
②③	—	②
④	—	③
⑤	—	④
⑥⑦⑧	—	⑤

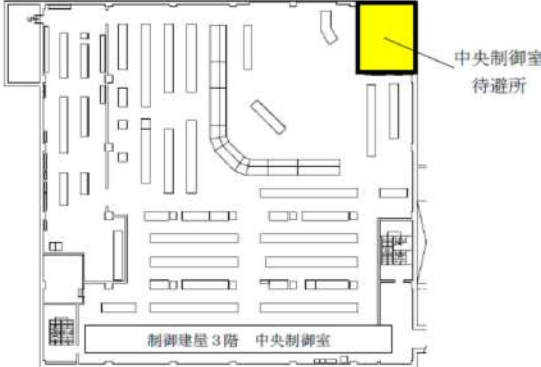
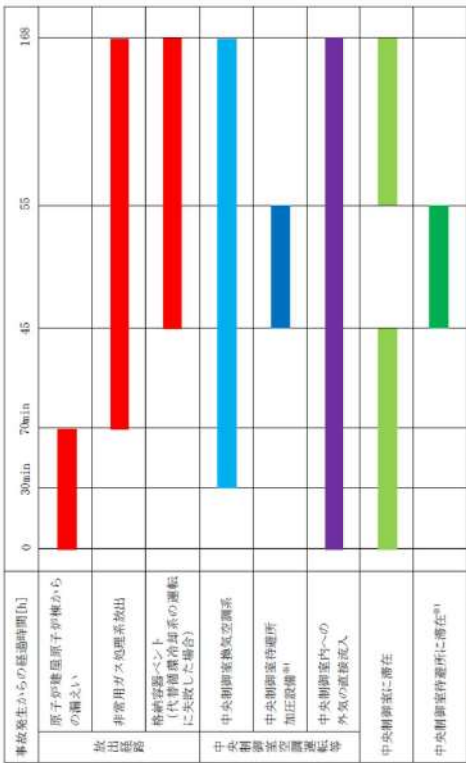
なお、泊と大阪の①～⑤の分類は審査ガイドの分類に合わせた記載となっている。



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
	 <p>中央制御室待避所</p> <p>制御建屋3階 中央制御室</p> <p>図4 中央制御室待避所の設置場所</p>  <p>事故発生からの経過時間 [分]</p> <table border="1"> <tr> <td>原子炉建屋原子炉棟からの離れ</td> <td>0 - 30</td> </tr> <tr> <td>放出設備</td> <td>30 - 70</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス絶縁系放出</td> <td>70 - 108</td> </tr> <tr> <td>格納容器ベント (内管側冷却系系の運転に変化した場合)</td> <td>70 - 108</td> </tr> <tr> <td>中央制御室換気空調系</td> <td>30 - 108</td> </tr> <tr> <td>中央制御室待避所 加圧設備<sup>※1</sup></td> <td>45 - 55</td> </tr> <tr> <td>中央制御室内への外気の直接流入</td> <td>0 - 108</td> </tr> <tr> <td>中央制御室に滞在</td> <td>45 - 55</td> </tr> <tr> <td>中央制御室待避所に滞在<sup>※1</sup></td> <td>45 - 55</td> </tr> </table> <p>※1 代替機種の球室を用いて事後を想定する場合は考慮しない。          図5 概しく詳集で想定する空調運用等タイムチャート</p>	原子炉建屋原子炉棟からの離れ	0 - 30	放出設備	30 - 70	非常用ガス絶縁系放出	70 - 108	格納容器ベント (内管側冷却系系の運転に変化した場合)	70 - 108	中央制御室換気空調系	30 - 108	中央制御室待避所 加圧設備 <sup>※1</sup>	45 - 55	中央制御室内への外気の直接流入	0 - 108	中央制御室に滞在	45 - 55	中央制御室待避所に滞在 <sup>※1</sup>	45 - 55		<p>①の相違</p> <p>①の相違                  記載方針の相違                  ・泊では中央制御室の加圧を行わないため、タイムチャートは記載していない。</p>
原子炉建屋原子炉棟からの離れ	0 - 30																				
放出設備	30 - 70																				
非常用ガス絶縁系放出	70 - 108																				
格納容器ベント (内管側冷却系系の運転に変化した場合)	70 - 108																				
中央制御室換気空調系	30 - 108																				
中央制御室待避所 加圧設備 <sup>※1</sup>	45 - 55																				
中央制御室内への外気の直接流入	0 - 108																				
中央制御室に滞在	45 - 55																				
中央制御室待避所に滞在 <sup>※1</sup>	45 - 55																				



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>59-10 大飯発電所3号炉および4号炉原子炉制御室等について</p>			<p>【大飯】                      資料構成の相違                      ・大飯は補足的な事項を別資料として整理しているが、泊は女川実績の反映として女川と同様の資料構成としている。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>目次</p> <p><a href="#">1. 中央制御室居住性に係る被ばく評価について</a></p> <p>2. 中央制御室の放射線管理用資機材について</p> <p>3. 中央制御室への汚染の持ちこみを防止する機能（チェンジングエリア）について（緊急時対策所と共通）</p> <p>4. パス等の汚染確認方法について</p> <p>5. 全交流動力電源喪失時の中央制御室設備への給電について</p> <p>6. 酸素濃度、炭酸濃度を踏まえた対応について</p> <p>7. 設置許可基準規則59条における可搬型照明の扱いについて</p>	<p>26条別添1の比較表で比較</p>		<p>【大飯】資料構成の相違</p> <p>・大飯は補足的な事項を別資料として整理しているが、泊は女川実績の反映として女川と同様の資料構成としている。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1. 中央制御室居住性に係る被ばく評価について                      大飯3, 4号炉 中央制御室居住性に係る被ばく評価の評価条件等について、添付資料の一覧を以下に示す。                      添付一覧</p> <p>添付資料1-1：中央制御室の居住性(設計基準事故)に係る被ばく評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1-1-1 中央制御室の居住性(設計基準事故)に係る被ばく評価条件表</li> <li>・ 1-1-2 原子炉冷却材喪失時における再循環開始時間について</li> <li>・ 1-1-3 居住性に係る被ばく評価に用いた気象資料の代表性について</li> <li>・ 1-1-4 線量評価に用いる大気拡散の評価について</li> <li>・ 1-1-5 空気流入率試験結果について SAの内容を含む</li> <li>・ 1-1-6 直交代の考え方について</li> <li>・ 1-1-7 内規<sup>*1</sup>との整合性について</li> </ul> <p>添付資料1-2：中央制御室の居住性(重大事故対策)に係る被ばく評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1-2-1 中央制御室の居住性(重大事故対策)に係る被ばく評価条件表</li> <li>・ 1-2-2 事故シーケンス選定の考え方について</li> <li>・ 1-2-3 原子炉格納容器への核分裂生成物の放出割合の設定について</li> <li>・ 1-2-4 よう素の化学形態の設定について</li> <li>・ 1-2-5 原子炉格納容器等への元素状よう素の沈着効果について</li> <li>・ 1-2-6 原子炉格納容器等へのエアロゾルの沈着効果について</li> <li>・ 1-2-7 スプレイによるエアロゾルの除去速度の設定について</li> <li>・ 1-2-8 原子炉格納容器漏えい率の設定について</li> <li>・ 1-2-9 アニュラス空気浄化系統 空気作動ダンパの開放手順の成立性について</li> <li>・ 1-2-10 フィルタ除去効率の設定について</li> <li>・ 1-2-11 大気への放出放射放射量の推移グラフについて</li> <li>・ 1-2-12 中央制御室の直接線、スカイシャイン線評価方法について</li> <li>・ 1-2-13 中央制御室換気系統の閉回路循環運転時における空気作動ダンパ強制開放手順の成立性について</li> <li>・ 1-2-14 マスクによる防護係数について</li> <li>・ 1-2-15 中央制御室滞在時に飲食等のためマスクを外した場合の影響について</li> <li>・ 1-2-16 中央制御室のグランドシャイン線量の評価方法について</li> <li>・ 1-2-17 湿性沈着を考慮した地表面沈着速度の設定について</li> <li>・ 1-2-18 審査ガイド<sup>*2</sup>との適合性について</li> </ul> <p>*1：原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について（内規）                      *2：実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド</p> <p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> = DB                        <span style="border: 1px dashed blue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> = SA                 </p>			<p>【大飯】                      資料構成の相違                      p59-補足-167 に再掲し比較している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

中央制御室の居住性 (重大事故対策) に係る被ばく評価条件表  
 第1表(1/3) 大気中への放出量評価条件 (3号、4号共通)

評価条件	使用値	選定理由	出由	審査ガイドでの記載
評価事象	大破断LOCA+ECCS注入失敗+格納容器スプレイ失敗		初期相違が早く、また、格納容器内の圧力が高く維持される事象であることから、中央制御室の運転員の被ばく観点から結果が最も厳しくなる事象として選定(添付1-2-2参照)	4.3(1)a. 原子炉格納容器への放射線物質の放出割合は、4.1(2)の原子炉制御室の運転員の被ばく観点から結果が最も厳しくなる事象収束に成功した事故シナクセスのソースターム解析結果を基に設定する。
全交流動力電源喪失	考慮する	評価が厳しくなるように設定		同上
最終ヒートシンク喪失	考慮する	評価が厳しくなるように設定		同上
炉心熱出力	定格出力(3,411MWt)の102%	定格値に定常誤差(+2%)を考慮		同上
原子炉運転時間	最高40,000時間	燃料を1/4ずつ取り替えていく場合の平均炉心を考慮し、最高時間を設定		同上
サイクル数(バッチ数)	4	燃料を1/4ずつ取り替えていく場合の平均炉心を考慮し、最高時間を設定		同上
原子炉格納容器に放出される核分裂生成物量、放出時間	Xe類：100%、I類：75% Cs類：75%、Te類：30.5% Ba類：12%、Ru類：0.5% Ce類：0.55%、La類：0.52% 放出時間もNUREG-1465に基づき	評価対象が炉心損傷後であることを踏まえ、核分裂生成物放出量が大きくなる低圧シナクセス(大破断LOCA+ECCS注入失敗+格納容器スプレイ失敗シナクセスを含む)を代表するNUREG-1465に記載の放出割合(破断管破損放出~晩期圧力容器内放出まで)を考慮(添付1-2-3参照)		4.3(1)a. 希ガス類、ヨウ素類、Cs類、Te類、Ba類、Ru類、Ce類及びLa類を考慮する。
よう素の形態	粒子状よう素：5% 元素状よう素：91% 有機よう素：4%	既設格納容器スプレイ失敗を想定するためにpH>7となる限り、pHに依らず有機よう素割合を保守的に設定するために、(R.G.1.195)のよう素割合に基づき設定(添付1-2-4参照)		4.3(1)a. 原子炉格納容器内への放出割合の設定に際し、ヨウ素類の性状を適切に考慮する。

添付資料2 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価について

2-1 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価条件表

表 2-1-1 大気中への放出放射線評価条件(1/5)

項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載
発災プラント	2号炉	運転号炉を想定	4.2(3)b. 同じ敷地内に複数の原子炉施設が設置されている場合、全原子炉施設について同時に事故が起きたと想定して評価を行うが、各原子炉施設から被ばく経路別に個別に評価を実施して、その結果を合算することは保守的な結果を与える。
評価事象	大破断 LOCA+HFCS 失敗+低圧 ECCS 失敗+全交流動力電源喪失	運転員の被ばく観点から結果が最も厳しくなる事故シナクセスとして選定(添付資料2-2.2.2-20参照)	4.1(2)a. 原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価では、格納容器破損防止対策の有効性評価で想定する格納容器破損モードのうち、原子炉制御室の運転員又は対策要員の被ばく観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シナクセス(この場合、格納容器破損防止対策が有効に働いたため、格納容器は健全である)のソースターム解析を基に、大気中への放射性物質放出量及び原子炉施設内の放射性物質存在量分布を設定する。
炉心熱出力	2,436MWt	定格熱出力	
運転時間	1サイクル：10,000h(約416日) 2サイクル：20,000h 3サイクル：30,000h 4サイクル：40,000h 5サイクル：50,000h	1サイクル13ヶ月(395日)を考慮して、燃料の最高取出燃焼度に余裕を持たせ長めに設定	
取替炉心の燃料装荷割合	1サイクル：0.229 2サイクル：0.229 3サイクル：0.229 4サイクル：0.229 5サイクル：0.084	取替炉心の燃料装荷割合に基づき設定	

添付資料2 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価について

2-1 中央制御室の居住性 (炉心の著しい損傷) に係る被ばく評価条件表

第2-1-1表 大気中への放出放射線評価条件(1/3)

項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載
発災プラント	3号炉	運転号炉を想定	4.2(3)b. 同じ敷地内に複数の原子炉施設が設置されている場合、全原子炉施設について同時に事故が起きたと想定して評価を行うが、各原子炉施設から被ばく経路別に個別に評価を実施して、その結果を合算することは保守的な結果を与える。
評価事象	大破断 LOCA時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故	運転員の被ばく観点から結果が最も厳しくなる事故シナクセスとして選定(添付資料2-2.2.2参照)	4.1(2)a. 原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価では、格納容器破損防止対策の有効性評価で想定する格納容器破損モードのうち、原子炉制御室の運転員又は対策要員の被ばく観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シナクセス(この場合、格納容器破損防止対策が有効に働いたため、格納容器は健全である)のソースターム解析を基に、大気中への放射性物質放出量及び原子炉施設内の放射性物質存在量分布を設定する。
炉心熱出力	2,705MWt	定格値(2,652MWt)に定常誤差(+2%)を考慮	
運転時間	ウラン燃料 1サイクル：10,000h(約410日) 2サイクル：20,000h 3サイクル：30,000h 4サイクル：40,000h ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料 1サイクル：10,000h(約410日) 2サイクル：20,000h 3サイクル：30,000h	1サイクル13ヶ月(395日)を考慮して、燃料の最高取出燃焼度に余裕を持たせ長めに設定	
取替炉心の燃料装荷割合	装荷割合はウラン燃料：約3/4(117体/157体) ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料：約1/4(40体/157体) サイクル数(バッチ数)はウラン燃料：4 ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料：3	取替炉心の燃料装荷割合に基づき設定	

相違理由

【女川】  
 評価条件による相違  
 ・想定する炉心熱出力について、泊では定常誤差を考慮して102%として評価している。

【大飯】設計による相違  
 ・個別設計条件による相違はあるが概ね同等の内容  
 ・泊ではウラン燃料での評価条件とウラン・プルトニウム混合酸化物燃料での評価条件を記載している



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
第1表(2/3) 大気中への放出量評価条件 (3号、4号共通)												
評価条件	使用値	選定理由	審査ガイドでの記載	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	審査ガイドでの記載	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	審査ガイドでの記載	
放出開始時刻	0秒	選定した事故シナリオのソースターム解析結果のNUREG-1465記載の値を設定。	4.3(4)d. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	放出開始時刻	0秒	原子炉格納容器漏えい：事故発生直後 (なお、放射性物質は、MAAP解析に基づき事故発生約5分後から漏えい)  格納容器ベント：事故発生から約45時間後  原子炉建屋原子炉棟漏えい：事故発生直後  非常用ガス処理系による放出：事故発生から70分後	原子炉格納容器漏えい：MAAP解析に基づく  格納容器ベント：MAAP解析に基づく  原子炉建屋原子炉棟漏えい：原子炉建屋原子炉棟の負圧が解消している期間  非常用ガス処理系による放出：原子炉建屋原子炉棟の負圧達成時間を参照 (添付資料 2-2-6参照)	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2) aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。  4.1(2)a.で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	放出開始時刻	0秒	選定した事故シナリオのソースターム解析結果のNUREG-1465記載の値を設定。	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2) aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。
原子炉格納容器等への汚染効果	9.0×10 <sup>-4</sup> (1/a)	CSE A6実験に基づき設定。(添付12-5参照)	4.3(3)d. 原子炉格納容器等の自然沈着率については、実験等から得られた適切なモデルを基に設定する。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	SRP6.5.2 <sup>3)</sup> に示された評価式に基づき設定 (添付12-7参照)	原子炉格納容器内のpH制御設備は、重大事故等対処設備と位置付けていないため考慮しない	4.3(3)e. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2) aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器内のpH制御設備は、重大事故等対処設備と位置付けていないため考慮しない	4.3(3)e. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2) aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。
原子炉格納容器等へのエアロゾルの沈着効果	重力沈着速度を用いた自然沈着率の評価式に基づく	$A_s = k_s \frac{V}{g}$ (添付12-6参照) 基に設定。	4.3(3)c. 原子炉格納容器スプレイの作動については、4.1(2)a.で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	13.100m <sup>3</sup>	SRP6.5.2 <sup>3)</sup> に示された評価式に基づき設定 (添付12-7参照)	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day
代替経路注水ポンプによるエアロゾルの除去効果	54分	選定した事故シナリオに基づき、全交差運動力駆動機発生最終シークリング失を考慮した起動遅れ時間を見込んだ値として設定。	4.3(3)c. 原子炉格納容器スプレイの作動については、4.1(2)a.で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	97% 3%	SRP6.5.2 <sup>3)</sup> に示された評価式に基づき設定 (添付12-7参照)	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day
原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	有効評価で想定する事故収束に成功した事故シナリオのうち、原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率を見込んだ値として設定 (添付12-8参照)	4.3(3)c. 原子炉格納容器スプレイの作動については、4.1(2)a.で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	アニュラス部 97% アニュラス部外 3%	SRP6.5.2 <sup>3)</sup> に示された評価式に基づき設定 (添付12-7参照)	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day
原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	13.100m <sup>3</sup>	設計値として設定。	4.3(3)c. 原子炉格納容器スプレイの作動については、4.1(2)a.で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	アニュラス部体積	設計値として設定。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day
原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	アニュラス部体積	設計値として設定。	4.3(3)c. 原子炉格納容器スプレイの作動については、4.1(2)a.で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	アニュラス部体積	設計値として設定。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day
原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	アニュラス部体積	設計値として設定。	4.3(3)c. 原子炉格納容器スプレイの作動については、4.1(2)a.で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	アニュラス部体積	設計値として設定。	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day

【女川】型式の相違  
 ・想定する事故シナリオ及びソースタームの相違

表2-1-1 大気中への放出放射線量評価条件(2/5)

項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載
放出開始時刻	原子炉格納容器漏えい：事故発生直後 (なお、放射性物質は、MAAP解析に基づき事故発生約5分後から漏えい)  格納容器ベント：事故発生から約45時間後  原子炉建屋原子炉棟漏えい：事故発生直後  非常用ガス処理系による放出：事故発生から70分後	原子炉格納容器漏えい：MAAP解析に基づく  格納容器ベント：MAAP解析に基づく  原子炉建屋原子炉棟漏えい：原子炉建屋原子炉棟の負圧が解消している期間  非常用ガス処理系による放出：原子炉建屋原子炉棟の負圧達成時間を参照 (添付資料 2-2-6参照)	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2) aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。
原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	原子炉格納容器内のpH制御設備は、重大事故等対処設備と位置付けていないため考慮しない	4.3(3)e. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2) aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。
原子炉圧力容器からの原子炉格納容器への放出される放射線の形態	粒子状よう素：5% 無機よう素：91% 有機よう素：4%	原子炉格納容器内のpH制御の効果に期待しないため、R.6.1.195に基づき設定	4.3(1)a. 原子炉格納容器内への放出割合の設定に際し、ヨウ素類の性状を適切に考慮する。
原子炉格納容器内の放射性物質の除去効果	・代替格納容器スプレイによる除去効果 ・自然沈着 <b>次ページ</b> で女川と比較 去効果	選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。	4.3(3)c. 原子炉格納容器スプレイの作動については、4.1(2)a.で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。
原子炉格納容器内での有機よう素の除去効果	未考慮	保守的に考慮しないものとした	4.3(3)d. 原子炉格納容器内の自然沈着率については、実験種から得られた適切なモデルを基に設定する。
原子炉格納容器内での無機よう素の自然沈着率	9.0×10 <sup>-4</sup> [1/a]	CSE 実験に基づき設定 (添付資料 2-2-7参照)	4.3(3)d. 原子炉格納容器内の自然沈着率については、実験種から得られた適切なモデルを基に設定する。

第2-1-1表 大気中への放出放射線量評価条件(2/3)

項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載
放出開始時刻	0秒	選定した事故シナリオのソースターム解析結果のNUREG-1465記載の値を設定	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2) aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。
原子炉格納容器内のpH制御の効果	未考慮	既設の格納容器スプレイ失敗を想定して、pH調整ができず、pH7とすると限らないため	—
原子炉格納容器からの原子炉格納容器への放出される放射線の形態	粒子状よう素：5% 無機よう素：91% 有機よう素：4%	原子炉格納容器内のpH制御の効果に期待しないため、R.6.1.195に基づき設定 (添付資料 2-2-6参照)	4.3(1)a. 原子炉格納容器内への放出割合の設定に際し、ヨウ素類の性状を適切に考慮する。
原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率	0.16%/day	有効性評価で想定する事故収束に成功した事故シナリオのうち、原子炉格納容器内圧力が高く推移する対象事故シナリオの原子炉格納容器内圧力に応じた漏えい率に余裕をみた値を設定 (添付資料 2-2-4参照)	4.3(3)e. 原子炉格納容器漏えい率は、4.1(2)a.で選定した事故シナリオの事故進展解析結果を基に設定する。
原子炉格納容器からの原子炉格納容器への漏えい率に関する捕集効率(DP)	希ガス：1 エアロゾル粒子：10 無機よう素：1 有機よう素：1	粒子状物質に対しては、原子炉格納容器からの漏えいに関する捕集効果を考慮 (添付資料 2-2-25参照)	—
原子炉格納容器内での放射性物質の除去効果	・代替格納容器スプレイによる除去効果 ・自然沈着 <b>次ページ</b> で女川と比較 去効果	選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。	4.3(3)c. 原子炉格納容器スプレイの作動については、4.1(2)a.で選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。
原子炉格納容器内での有機よう素の除去効果	未考慮	保守的に考慮しないものとした	—
原子炉格納容器内での無機よう素の自然沈着率	9.0×10 <sup>-4</sup> [1/a]	CSE 実験に基づき設定 (添付資料 2-2-7参照)	4.3(3)d. 原子炉格納容器内の自然沈着率については、実験種から得られた適切なモデルを基に設定する。



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由		
第1表(3/3) 大気中への放出量評価条件(3号、4号共通)	審査ガイドでの記載	4.3(3)a. アンニウラス空気浄化設備の稼働については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。	同上	審査ガイドでの記載	4.3(3)b. アンニウラス空気浄化設備フィルタ効率は、エアロゾルのフィロムと粒子状放射性物質の設計値を基に設定する。なお、フィルタの効率の設定に際し、ヨウ素類の性状を適切に考慮する。	同上	3. 判断基準は、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと	審査ガイドでの記載	第2-1-1表 大気中への放出放射線量評価条件(2/3)	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	【女川】型式の相違 ・型式の相違により、記載事項が異なる。 【大飯】女川実績反映 ・原子炉格納容器からの漏えいに関する捕集効率(DP)は女川実績を反映し、最悪条件となるよう10として評価した。
	理由	ファン1台の起動を想定。 (選定した事故シナリオに基づき、全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失を想定した起動遅れ時間を見込む)	選定した事故シナリオに基づき、全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失を想定した起動遅れ時間を見込む(起動遅れ時間60分+起動後負圧達成時間2分(事件+遅延)を評価に含む)	使用条件での設計値を基に設定。 試験による確認値であり、事故期間中確保できる除去効率であるため、設計値を評価条件として設定(添付資料1-2-10参照)	使用条件での設計値を基に設定。 試験による確認値であり、事故期間中確保できる除去効率であるため、設計値を評価条件として設定(添付資料1-2-10参照)	審査ガイドに示されたとおり評価期間を設定	審査ガイドに示されたとおり評価期間を設定	第2-1-1表 大気中への放出放射線量評価条件(2/3)	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載		
	選定	ファン1台の起動を想定。 (選定した事故シナリオに基づき、全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失を想定した起動遅れ時間を見込む)	選定した事故シナリオに基づき、全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失を想定した起動遅れ時間を見込む(起動遅れ時間60分+起動後負圧達成時間2分(事件+遅延)を評価に含む)	使用条件での設計値を基に設定。 試験による確認値であり、事故期間中確保できる除去効率であるため、設計値を評価条件として設定(添付資料1-2-10参照)	使用条件での設計値を基に設定。 試験による確認値であり、事故期間中確保できる除去効率であるため、設計値を評価条件として設定(添付資料1-2-10参照)	審査ガイドに示されたとおり評価期間を設定	審査ガイドに示されたとおり評価期間を設定	第2-1-1表 大気中への放出放射線量評価条件(2/3)	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載		
	値	9.36×10 <sup>4</sup> m <sup>3</sup> /h (ただし、60分後起動)	62分	0~62分: 0% 62分~: 95%	0~62分: 0% 62分~: 95%	7日	7日	第2-1-1表 大気中への放出放射線量評価条件(2/3)	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載		
	条件	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	第2-1-1表 大気中への放出放射線量評価条件(2/3)	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	
評価	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	アンニウラス空気浄化設備 ファン容量	第2-1-1表 大気中への放出放射線量評価条件(2/3)	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載		
								第2-1-1表 大気中への放出放射線量評価条件(2/3)	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載		

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
	<p>表2-1-1 大気中への放出放射能評価条件(4/5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>審査ガイドでの記載</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器からベントラインへの流入割合</td> <td>停止時が内内蔵量に対して、 希ガス類：約<math>9.5 \times 10^{-1}</math> よう素類：約<math>3.0 \times 10^{-2}</math> Cs類：約<math>1.2 \times 10^{-6}</math> Te類：約<math>2.4 \times 10^{-7}</math> Ba類：約<math>9.4 \times 10^{-8}</math> Ru類：約<math>1.2 \times 10^{-8}</math> La類：約<math>9.4 \times 10^{-10}</math> Ce類：約<math>2.4 \times 10^{-9}</math></td> <td>MAAP解析結果及びNUREG-1465の知見に基づき設定（添付資料2-2-3参照） よう素類については、よう素の化学形態に応じた原子炉格納容器内での除去のされかたの違いを考慮</td> <td>4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉種への流入割合</td> <td>格納容器ベントの実施を想定する場合： 停止時が内内蔵量に対して、 希ガス類：約<math>2.2 \times 10^{-2}</math> よう素類：約<math>8.3 \times 10^{-4}</math> Cs類：約<math>3.1 \times 10^{-6}</math> Te類：約<math>6.3 \times 10^{-7}</math> Ba類：約<math>2.5 \times 10^{-7}</math> Ru類：約<math>3.1 \times 10^{-8}</math> La類：約<math>2.5 \times 10^{-9}</math> Ce類：約<math>6.3 \times 10^{-9}</math>  代替格納冷却器を用いて事象を収束することを想定する場合： 停止時が内内蔵量に対して、 希ガス類：約<math>6.0 \times 10^{-2}</math> よう素類：約<math>2.2 \times 10^{-3}</math> Cs類：約<math>3.1 \times 10^{-6}</math> Te類：約<math>6.2 \times 10^{-7}</math> Ba類：約<math>2.5 \times 10^{-7}</math> Ru類：約<math>3.1 \times 10^{-8}</math> La類：約<math>2.5 \times 10^{-9}</math> Ce類：約<math>6.2 \times 10^{-9}</math></td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	原子炉格納容器からベントラインへの流入割合	停止時が内内蔵量に対して、 希ガス類：約 $9.5 \times 10^{-1}$ よう素類：約 $3.0 \times 10^{-2}$ Cs類：約 $1.2 \times 10^{-6}$ Te類：約 $2.4 \times 10^{-7}$ Ba類：約 $9.4 \times 10^{-8}$ Ru類：約 $1.2 \times 10^{-8}$ La類：約 $9.4 \times 10^{-10}$ Ce類：約 $2.4 \times 10^{-9}$	MAAP解析結果及びNUREG-1465の知見に基づき設定（添付資料2-2-3参照） よう素類については、よう素の化学形態に応じた原子炉格納容器内での除去のされかたの違いを考慮	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉種への流入割合	格納容器ベントの実施を想定する場合： 停止時が内内蔵量に対して、 希ガス類：約 $2.2 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $8.3 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-6}$ Te類：約 $6.3 \times 10^{-7}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-7}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-8}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-9}$ Ce類：約 $6.3 \times 10^{-9}$  代替格納冷却器を用いて事象を収束することを想定する場合： 停止時が内内蔵量に対して、 希ガス類：約 $6.0 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $2.2 \times 10^{-3}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-6}$ Te類：約 $6.2 \times 10^{-7}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-7}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-8}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-9}$ Ce類：約 $6.2 \times 10^{-9}$	同上	同上	<p>第2-1-1表 大気中への放出放射能評価条件 (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>審査ガイドでの記載</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器からの漏えい割合</td> <td>アニユラス部：97% アニユラス部以外：3%</td> <td>内規に示されたとおり設定</td> <td>解説4.3 原子炉格納容器からの漏えいは、97%がアニユラス部で生じ、残り3%はアニユラス部外で生ずるものと仮定することは妥当である。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器に放出される核分裂生成物割合</td> <td>炉心内内蔵量に対して、 希ガス類：<math>1.0 \times 10^0</math> よう素類：<math>7.5 \times 10^{-1}</math> Cs類：<math>7.5 \times 10^{-1}</math> Te類：<math>3.05 \times 10^{-1}</math> Ba類：<math>1.2 \times 10^{-1}</math> Ru類：<math>5.0 \times 10^{-2}</math> La類：<math>5.2 \times 10^{-2}</math> Ce類：<math>5.5 \times 10^{-2}</math></td> <td>評価対象が炉心損傷後であることを踏まえ、核分裂生成物放出量が大きくなる低圧シナリオ（大破断 LOCA 時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプアレイ注入機能が喪失する事故を含む）を代表する。NUREG-1465記載の放出割合（Gap Release ~ Late in-Vessel までを考慮）を設定。（添付資料2-2-4参照）</td> <td>4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>アニユラス空気浄化設備起動時間</td> <td>事故発生から60分後</td> <td>運用を基に設定</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>アニユラス空気浄化設備ファン流量</td> <td><math>1.86 \times 10^4</math> m<sup>3</sup>/h</td> <td>設計値としてファン1台の起動を想定。</td> <td>4.3(3)a. アニユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>アニユラス空気浄化設備よう素フィルタによる除去効率</td> <td>0~78分：0% 78分～：95%</td> <td>設計値を基に設定</td> <td>4.3(3)b. アニユラス空気浄化設備フィルタ効率ヨウ素類及びエアロゾルのフィルタ効率は、使用条件での設計値を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>アニユラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率</td> <td>0~78分：0% 78分～：99%</td> <td>設計値を基に設定</td> <td>4.3(3)a. アニユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>アニユラス負圧達成時間</td> <td>事故発生から78分後</td> <td>設計値を基に設定（添付資料2-2-11参照）</td> <td>4.3(3)a. アニユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>事故の評価期間</td> <td>7日</td> <td>審査ガイドに示された通り評価期間を設定</td> <td>3. 判断基準は、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	原子炉格納容器からの漏えい割合	アニユラス部：97% アニユラス部以外：3%	内規に示されたとおり設定	解説4.3 原子炉格納容器からの漏えいは、97%がアニユラス部で生じ、残り3%はアニユラス部外で生ずるものと仮定することは妥当である。	原子炉格納容器に放出される核分裂生成物割合	炉心内内蔵量に対して、 希ガス類： $1.0 \times 10^0$ よう素類： $7.5 \times 10^{-1}$ Cs類： $7.5 \times 10^{-1}$ Te類： $3.05 \times 10^{-1}$ Ba類： $1.2 \times 10^{-1}$ Ru類： $5.0 \times 10^{-2}$ La類： $5.2 \times 10^{-2}$ Ce類： $5.5 \times 10^{-2}$	評価対象が炉心損傷後であることを踏まえ、核分裂生成物放出量が大きくなる低圧シナリオ（大破断 LOCA 時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプアレイ注入機能が喪失する事故を含む）を代表する。NUREG-1465記載の放出割合（Gap Release ~ Late in-Vessel までを考慮）を設定。（添付資料2-2-4参照）	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。	アニユラス空気浄化設備起動時間	事故発生から60分後	運用を基に設定	—	アニユラス空気浄化設備ファン流量	$1.86 \times 10^4$ m <sup>3</sup> /h	設計値としてファン1台の起動を想定。	4.3(3)a. アニユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。	アニユラス空気浄化設備よう素フィルタによる除去効率	0~78分：0% 78分～：95%	設計値を基に設定	4.3(3)b. アニユラス空気浄化設備フィルタ効率ヨウ素類及びエアロゾルのフィルタ効率は、使用条件での設計値を基に設定する。	アニユラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	0~78分：0% 78分～：99%	設計値を基に設定	4.3(3)a. アニユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。	アニユラス負圧達成時間	事故発生から78分後	設計値を基に設定（添付資料2-2-11参照）	4.3(3)a. アニユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。	事故の評価期間	7日	審査ガイドに示された通り評価期間を設定	3. 判断基準は、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと。	<p>型式の相違</p> <p>評価条件による相違          ・想定する事故シナリオ及びソースタームの相違</p>
項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載																																																
原子炉格納容器からベントラインへの流入割合	停止時が内内蔵量に対して、 希ガス類：約 $9.5 \times 10^{-1}$ よう素類：約 $3.0 \times 10^{-2}$ Cs類：約 $1.2 \times 10^{-6}$ Te類：約 $2.4 \times 10^{-7}$ Ba類：約 $9.4 \times 10^{-8}$ Ru類：約 $1.2 \times 10^{-8}$ La類：約 $9.4 \times 10^{-10}$ Ce類：約 $2.4 \times 10^{-9}$	MAAP解析結果及びNUREG-1465の知見に基づき設定（添付資料2-2-3参照） よう素類については、よう素の化学形態に応じた原子炉格納容器内での除去のされかたの違いを考慮	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。																																																
原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉種への流入割合	格納容器ベントの実施を想定する場合： 停止時が内内蔵量に対して、 希ガス類：約 $2.2 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $8.3 \times 10^{-4}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-6}$ Te類：約 $6.3 \times 10^{-7}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-7}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-8}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-9}$ Ce類：約 $6.3 \times 10^{-9}$  代替格納冷却器を用いて事象を収束することを想定する場合： 停止時が内内蔵量に対して、 希ガス類：約 $6.0 \times 10^{-2}$ よう素類：約 $2.2 \times 10^{-3}$ Cs類：約 $3.1 \times 10^{-6}$ Te類：約 $6.2 \times 10^{-7}$ Ba類：約 $2.5 \times 10^{-7}$ Ru類：約 $3.1 \times 10^{-8}$ La類：約 $2.5 \times 10^{-9}$ Ce類：約 $6.2 \times 10^{-9}$	同上	同上																																																
項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載																																																
原子炉格納容器からの漏えい割合	アニユラス部：97% アニユラス部以外：3%	内規に示されたとおり設定	解説4.3 原子炉格納容器からの漏えいは、97%がアニユラス部で生じ、残り3%はアニユラス部外で生ずるものと仮定することは妥当である。																																																
原子炉格納容器に放出される核分裂生成物割合	炉心内内蔵量に対して、 希ガス類： $1.0 \times 10^0$ よう素類： $7.5 \times 10^{-1}$ Cs類： $7.5 \times 10^{-1}$ Te類： $3.05 \times 10^{-1}$ Ba類： $1.2 \times 10^{-1}$ Ru類： $5.0 \times 10^{-2}$ La類： $5.2 \times 10^{-2}$ Ce類： $5.5 \times 10^{-2}$	評価対象が炉心損傷後であることを踏まえ、核分裂生成物放出量が大きくなる低圧シナリオ（大破断 LOCA 時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプアレイ注入機能が喪失する事故を含む）を代表する。NUREG-1465記載の放出割合（Gap Release ~ Late in-Vessel までを考慮）を設定。（添付資料2-2-4参照）	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に設定する。																																																
アニユラス空気浄化設備起動時間	事故発生から60分後	運用を基に設定	—																																																
アニユラス空気浄化設備ファン流量	$1.86 \times 10^4$ m <sup>3</sup> /h	設計値としてファン1台の起動を想定。	4.3(3)a. アニユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。																																																
アニユラス空気浄化設備よう素フィルタによる除去効率	0~78分：0% 78分～：95%	設計値を基に設定	4.3(3)b. アニユラス空気浄化設備フィルタ効率ヨウ素類及びエアロゾルのフィルタ効率は、使用条件での設計値を基に設定する。																																																
アニユラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	0~78分：0% 78分～：99%	設計値を基に設定	4.3(3)a. アニユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。																																																
アニユラス負圧達成時間	事故発生から78分後	設計値を基に設定（添付資料2-2-11参照）	4.3(3)a. アニユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)aで選定した事故シナリオの事故進展解析条件を基に設定する。																																																
事故の評価期間	7日	審査ガイドに示された通り評価期間を設定	3. 判断基準は、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えないこと。																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3 号炉	相違理由																																																																
	<p>表 2-1-1 大気中への放出放射能評価条件 (5/5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>審査ガイドでの記載</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋原子炉棟の換気率</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋原子炉棟負圧維持期間以外：無限大 [回/日]</li> <li>原子炉建屋原子炉棟負圧維持期間：非常用ガス処理系を用いた場合の設計換気率 0.5 [回/日] に より屋外に放出</li> </ul> </td> <td>非常用ガス処理系により負圧維持していない期間は原子炉建屋原子炉棟内に放射性物質が保持されないものとした。非常用ガス処理系により負圧維持している期間は非常用ガス処理系を用いている場合の設計換気率を基に設定</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系起動時間</td> <td>事故発生から 60 分後</td> <td>運用を基に設定</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系排気機風量</td> <td>2,500m<sup>3</sup>/h</td> <td>非常用ガス処理系の設計値を基に設定</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系のフィルタ装置による除去係数</td> <td>希ガス：1 粒子状放射性物質：1 無機より素：1 有機より素：1</td> <td>保守的に考慮しないものとした</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋原子炉棟負圧達成時間</td> <td>事故発生から 70 分後</td> <td>非常用ガス処理系起動時間及び排気風量並びに原子炉建屋原子炉棟の設計気密度を基に評価し設定 (添付資料 2 2-6 を参照)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>事故の評価期間</td> <td>7 日</td> <td>審査ガイドに示されたとおり評価期間を設定</td> <td>3. 判断基準は、運転員の実効線量が 7 日間で 100mSv を超えないこと。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	原子炉建屋原子炉棟の換気率	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋原子炉棟負圧維持期間以外：無限大 [回/日]</li> <li>原子炉建屋原子炉棟負圧維持期間：非常用ガス処理系を用いた場合の設計換気率 0.5 [回/日] に より屋外に放出</li> </ul>	非常用ガス処理系により負圧維持していない期間は原子炉建屋原子炉棟内に放射性物質が保持されないものとした。非常用ガス処理系により負圧維持している期間は非常用ガス処理系を用いている場合の設計換気率を基に設定	—	非常用ガス処理系起動時間	事故発生から 60 分後	運用を基に設定	—	非常用ガス処理系排気機風量	2,500m <sup>3</sup> /h	非常用ガス処理系の設計値を基に設定	—	非常用ガス処理系のフィルタ装置による除去係数	希ガス：1 粒子状放射性物質：1 無機より素：1 有機より素：1	保守的に考慮しないものとした	—	原子炉建屋原子炉棟負圧達成時間	事故発生から 70 分後	非常用ガス処理系起動時間及び排気風量並びに原子炉建屋原子炉棟の設計気密度を基に評価し設定 (添付資料 2 2-6 を参照)	—	事故の評価期間	7 日	審査ガイドに示されたとおり評価期間を設定	3. 判断基準は、運転員の実効線量が 7 日間で 100mSv を超えないこと。	<p>第 2-1-1 表 大気中への放出放射能評価条件 (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>審査ガイドでの記載</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器からの漏えい割合</td> <td>                     アンユラス部：97%                      アンユラス部以外：3%                 </td> <td>内規に示されたとおり設定</td> <td>解説 4.3 原子炉格納容器からの漏えいは、97%がアンユラス部で生じ、残り 3%はアンユラス部外で生ずるものと仮定することは妥当である。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器に放出される核分裂生成物割合</td> <td>                     前ページで女川と比較                      伊心内内蔵量に対して、                      希ガス類：1.0×10<sup>0</sup>                      Te 類：7.5×10<sup>-1</sup>                      Cs 類：7.5×10<sup>-1</sup>                      Ie 類：3.05×10<sup>-1</sup>                      Ba 類：1.2×10<sup>-1</sup>                      Ru 類：5.0×10<sup>-2</sup>                      La 類：5.2×10<sup>-2</sup>                      Ce 類：5.5×10<sup>-2</sup> </td> <td>評価対象が伊心損傷後でもること請けま、出量が大きくなる低圧シーケンス (大飯断 LOCA 時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故を含む) を代表する。NREG-1465 記載の放出割合 (Gap Release ~ Late In-Vessel までを考慮) を設定。(添付資料 2 2-4 参照)</td> <td>4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)a. で選定した事故シーケンスのソースターム解析結果を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>アンユラス空気浄化設備起動時間</td> <td>事故発生から 60 分後</td> <td>運用を基に設定</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>アンユラス空気浄化設備ファン流量</td> <td>1.86×10<sup>4</sup> m<sup>3</sup>/h</td> <td>設計値としてファン 1 台の起動を想定。</td> <td>4.3(3)a. アンユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)a. で選定した事故シーケンスの事故進展解析条件を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>アンユラス空気浄化設備より素フィルタによる除去効率</td> <td>0~78 分：0% 78 分～：95%</td> <td>設計値を基に設定</td> <td>4.3(3)b. アンユラス空気浄化設備フィルタ効率より素類及びエアロゾルのフィルタ効率は、使用条件での設計値を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>アンユラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率</td> <td>0~78 分：0% 78 分～：99%</td> <td>設計値を基に設定</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>アンユラス負圧達成時間</td> <td>事故発生から 78 分後</td> <td>設計値を基に設定 (添付資料 2 2-11 参照)</td> <td>4.3(3)a. アンユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)a. で選定した事故シーケンスの事故進展解析条件を基に設定する。</td> </tr> <tr> <td>事故の評価期間</td> <td>7 日</td> <td>審査ガイドに示された通り評価期間を設定</td> <td>3. 判断基準は、運転員の実効線量が 7 日間で 100mSv を超えないこと。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	原子炉格納容器からの漏えい割合	アンユラス部：97% アンユラス部以外：3%	内規に示されたとおり設定	解説 4.3 原子炉格納容器からの漏えいは、97%がアンユラス部で生じ、残り 3%はアンユラス部外で生ずるものと仮定することは妥当である。	原子炉格納容器に放出される核分裂生成物割合	前ページで女川と比較 伊心内内蔵量に対して、 希ガス類：1.0×10 <sup>0</sup> Te 類：7.5×10 <sup>-1</sup> Cs 類：7.5×10 <sup>-1</sup> Ie 類：3.05×10 <sup>-1</sup> Ba 類：1.2×10 <sup>-1</sup> Ru 類：5.0×10 <sup>-2</sup> La 類：5.2×10 <sup>-2</sup> Ce 類：5.5×10 <sup>-2</sup>	評価対象が伊心損傷後でもること請けま、出量が大きくなる低圧シーケンス (大飯断 LOCA 時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故を含む) を代表する。NREG-1465 記載の放出割合 (Gap Release ~ Late In-Vessel までを考慮) を設定。(添付資料 2 2-4 参照)	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)a. で選定した事故シーケンスのソースターム解析結果を基に設定する。	アンユラス空気浄化設備起動時間	事故発生から 60 分後	運用を基に設定	—	アンユラス空気浄化設備ファン流量	1.86×10 <sup>4</sup> m <sup>3</sup> /h	設計値としてファン 1 台の起動を想定。	4.3(3)a. アンユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)a. で選定した事故シーケンスの事故進展解析条件を基に設定する。	アンユラス空気浄化設備より素フィルタによる除去効率	0~78 分：0% 78 分～：95%	設計値を基に設定	4.3(3)b. アンユラス空気浄化設備フィルタ効率より素類及びエアロゾルのフィルタ効率は、使用条件での設計値を基に設定する。	アンユラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	0~78 分：0% 78 分～：99%	設計値を基に設定	—	アンユラス負圧達成時間	事故発生から 78 分後	設計値を基に設定 (添付資料 2 2-11 参照)	4.3(3)a. アンユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)a. で選定した事故シーケンスの事故進展解析条件を基に設定する。	事故の評価期間	7 日	審査ガイドに示された通り評価期間を設定	3. 判断基準は、運転員の実効線量が 7 日間で 100mSv を超えないこと。	<p>②の相違</p>
項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載																																																																
原子炉建屋原子炉棟の換気率	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋原子炉棟負圧維持期間以外：無限大 [回/日]</li> <li>原子炉建屋原子炉棟負圧維持期間：非常用ガス処理系を用いた場合の設計換気率 0.5 [回/日] に より屋外に放出</li> </ul>	非常用ガス処理系により負圧維持していない期間は原子炉建屋原子炉棟内に放射性物質が保持されないものとした。非常用ガス処理系により負圧維持している期間は非常用ガス処理系を用いている場合の設計換気率を基に設定	—																																																																
非常用ガス処理系起動時間	事故発生から 60 分後	運用を基に設定	—																																																																
非常用ガス処理系排気機風量	2,500m <sup>3</sup> /h	非常用ガス処理系の設計値を基に設定	—																																																																
非常用ガス処理系のフィルタ装置による除去係数	希ガス：1 粒子状放射性物質：1 無機より素：1 有機より素：1	保守的に考慮しないものとした	—																																																																
原子炉建屋原子炉棟負圧達成時間	事故発生から 70 分後	非常用ガス処理系起動時間及び排気風量並びに原子炉建屋原子炉棟の設計気密度を基に評価し設定 (添付資料 2 2-6 を参照)	—																																																																
事故の評価期間	7 日	審査ガイドに示されたとおり評価期間を設定	3. 判断基準は、運転員の実効線量が 7 日間で 100mSv を超えないこと。																																																																
項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載																																																																
原子炉格納容器からの漏えい割合	アンユラス部：97% アンユラス部以外：3%	内規に示されたとおり設定	解説 4.3 原子炉格納容器からの漏えいは、97%がアンユラス部で生じ、残り 3%はアンユラス部外で生ずるものと仮定することは妥当である。																																																																
原子炉格納容器に放出される核分裂生成物割合	前ページで女川と比較 伊心内内蔵量に対して、 希ガス類：1.0×10 <sup>0</sup> Te 類：7.5×10 <sup>-1</sup> Cs 類：7.5×10 <sup>-1</sup> Ie 類：3.05×10 <sup>-1</sup> Ba 類：1.2×10 <sup>-1</sup> Ru 類：5.0×10 <sup>-2</sup> La 類：5.2×10 <sup>-2</sup> Ce 類：5.5×10 <sup>-2</sup>	評価対象が伊心損傷後でもること請けま、出量が大きくなる低圧シーケンス (大飯断 LOCA 時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故を含む) を代表する。NREG-1465 記載の放出割合 (Gap Release ~ Late In-Vessel までを考慮) を設定。(添付資料 2 2-4 参照)	4.3(4)a. 放射性物質の大気中への放出開始時刻及び放出継続時間は、4.1(2)a. で選定した事故シーケンスのソースターム解析結果を基に設定する。																																																																
アンユラス空気浄化設備起動時間	事故発生から 60 分後	運用を基に設定	—																																																																
アンユラス空気浄化設備ファン流量	1.86×10 <sup>4</sup> m <sup>3</sup> /h	設計値としてファン 1 台の起動を想定。	4.3(3)a. アンユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)a. で選定した事故シーケンスの事故進展解析条件を基に設定する。																																																																
アンユラス空気浄化設備より素フィルタによる除去効率	0~78 分：0% 78 分～：95%	設計値を基に設定	4.3(3)b. アンユラス空気浄化設備フィルタ効率より素類及びエアロゾルのフィルタ効率は、使用条件での設計値を基に設定する。																																																																
アンユラス空気浄化設備微粒子フィルタによる除去効率	0~78 分：0% 78 分～：99%	設計値を基に設定	—																																																																
アンユラス負圧達成時間	事故発生から 78 分後	設計値を基に設定 (添付資料 2 2-11 参照)	4.3(3)a. アンユラス空気浄化設備の作動については、4.1(2)a. で選定した事故シーケンスの事故進展解析条件を基に設定する。																																																																
事故の評価期間	7 日	審査ガイドに示された通り評価期間を設定	3. 判断基準は、運転員の実効線量が 7 日間で 100mSv を超えないこと。																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>放出量と蓄積量は有効数字2桁に四捨五入した値を記載 単位: Bq (GROSS 値)</p> <p>第1-1図 希ガスの大気放出過程</p> <p>アネウラス負圧達成時間(02分)までは直接大気に放出するとして評価</p>	<p>放出量と蓄積量は有効数字2桁に四捨五入した値を記載 単位: Bq (GROSS 値)</p> <p>第1-2図 希ガスの大気放出過程</p> <p>アネウラス負圧達成時間(02分)までは直接大気に放出するとして評価</p>		<p>【大飯】                  記載箇所の相違                  女川実績の反映                  (泊資料2-5にて比較)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>単位：Bq (GROSS 値)</p> <p>放出量と蓄積量は有効数字2桁に四捨五入した値を記載</p> <p>大気へ</p> <p>セシウム放出量：約 <math>3.4 \times 10^{10}</math> Bq</p> <p>原子炉格納容器からの漏えい：0.16%/d</p> <p>原子炉格納容器内のセシウム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代替排水ポンプのスプレイによる削減 (SRP 5.2 の評価式に基づく除去速度)</li> <li>・ 原子炉格納容器内での沈着による削減 (重力沈降速度を用いた評価式に基づく除去速度)</li> </ul> <p>(NREG-1465 に基づく放出割合)</p> <p>長時間運転した場合はセシウムの炉心内蓄積量 約 <math>7.8 \times 10^{10}</math> Bq</p> <p>第1-3図 セシウムの大気放出過程</p> <p>アニュラス負圧達成時間(62分)までは直接大気に放出するとして評価</p>	<p>単位：Bq (GROSS 値)</p> <p>放出量と蓄積量は有効数字2桁に四捨五入した値を記載</p> <p>大気へ</p> <p>その他核種放出量：約 <math>7.6 \times 10^{10}</math> Bq</p> <p>原子炉格納容器からの漏えい：0.16%/d</p> <p>原子炉格納容器内のその他核種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代替排水ポンプのスプレイによる削減 (SRP 5.2 の評価式に基づく除去速度)</li> <li>・ 原子炉格納容器内での沈着による削減 (重力沈降速度を用いた評価式に基づく除去速度)</li> </ul> <p>(NREG-1465 に基づく放出割合)</p> <p>長時間運転した場合はその他核種の炉心内蓄積量 約 <math>2.8 \times 10^{10}</math> Bq</p> <p>第1-4図 その他核種の大気放出過程</p> <p>アニュラス負圧達成時間(62分)までは直接大気に放出するとして評価</p>		<p>【大飯】                  記載方針の相違                  女川実績の反映</p>



泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																				
<p>第2表 大気中への放出放射能評価結果（3号、4号共通） （7日積算）</p> <table border="1" data-bbox="85 225 687 513"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価結果<sup>*1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">希ガス</td> <td>Gross値</td> <td>約<math>6.7 \times 10^{16}</math>Bq</td> </tr> <tr> <td>ガンマ線エネルギー 0.5MeV換算値</td> <td>約<math>1.0 \times 10^{16}</math>Bq</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">よう素</td> <td>Gross値</td> <td>約<math>2.3 \times 10^{14}</math>Bq</td> </tr> <tr> <td>I-131等価量 (成人実効線量係数換算)</td> <td>約<math>7.7 \times 10^{13}</math>Bq</td> </tr> <tr> <td>セシウム</td> <td>Gross値</td> <td>約<math>3.4 \times 10^{13}</math>Bq</td> </tr> <tr> <td>上記以外の核種</td> <td>Gross値</td> <td>約<math>7.6 \times 10^{13}</math>Bq</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 放出放射能量の推移グラフは添付1-2-11に示すとおりである</p>	評価項目	評価結果 <sup>*1</sup>	希ガス	Gross値	約 $6.7 \times 10^{16}$ Bq	ガンマ線エネルギー 0.5MeV換算値	約 $1.0 \times 10^{16}$ Bq	よう素	Gross値	約 $2.3 \times 10^{14}$ Bq	I-131等価量 (成人実効線量係数換算)	約 $7.7 \times 10^{13}$ Bq	セシウム	Gross値	約 $3.4 \times 10^{13}$ Bq	上記以外の核種	Gross値	約 $7.6 \times 10^{13}$ Bq	<p>表2-1-2 大気中への放出放射能（7日間積算値） （代替循環冷却系により事象を収束することを想定する場合）</p> <table border="1" data-bbox="730 220 1308 577"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種グループ</th> <th rowspan="2">停止時炉内内蔵量 [Bq] (gross 値)</th> <th colspan="2">放出放射能[Bq] (gross 値)</th> </tr> <tr> <th>原子炉建屋原子炉種からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希ガス類</td> <td>約<math>1.6 \times 10^{19}</math></td> <td colspan="2">約<math>1.6 \times 10^{17}</math></td> </tr> <tr> <td>よう素類</td> <td>約<math>2.1 \times 10^{19}</math></td> <td colspan="2">約<math>4.5 \times 10^{15}</math></td> </tr> <tr> <td>Cs類</td> <td>約<math>8.4 \times 10^{17}</math></td> <td colspan="2">約<math>2.5 \times 10^{15}</math></td> </tr> <tr> <td>Te類</td> <td>約<math>6.0 \times 10^{15}</math></td> <td colspan="2">約<math>2.7 \times 10^{12}</math></td> </tr> <tr> <td>Ba類</td> <td>約<math>1.8 \times 10^{19}</math></td> <td colspan="2">約<math>2.9 \times 10^{12}</math></td> </tr> <tr> <td>Ru類</td> <td>約<math>1.8 \times 10^{19}</math></td> <td colspan="2">約<math>4.2 \times 10^{11}</math></td> </tr> <tr> <td>Ce類</td> <td>約<math>5.5 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>2.8 \times 10^{11}</math></td> </tr> <tr> <td>La類</td> <td>約<math>4.1 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>7.5 \times 10^{10}</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>表2-1-3 大気中への放出放射能（7日間積算値） （格納容器ベントの実施を想定する場合）</p> <table border="1" data-bbox="730 671 1308 1050"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種グループ</th> <th rowspan="2">停止時炉内内蔵量 [Bq] (gross 値)</th> <th colspan="2">放出放射能[Bq] (gross 値)</th> </tr> <tr> <th>原子炉格納容器フィルタベント系を経由した放出</th> <th>原子炉建屋原子炉種からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希ガス類</td> <td>約<math>1.6 \times 10^{19}</math></td> <td>約<math>4.6 \times 10^{18}</math></td> <td>約<math>8.9 \times 10^{18}</math></td> </tr> <tr> <td>よう素類</td> <td>約<math>2.1 \times 10^{19}</math></td> <td>約<math>3.3 \times 10^{17}</math></td> <td>約<math>3.0 \times 10^{15}</math></td> </tr> <tr> <td>Cs類</td> <td>約<math>8.4 \times 10^{17}</math></td> <td>約<math>9.6 \times 10^8</math></td> <td>約<math>2.5 \times 10^{12}</math></td> </tr> <tr> <td>Te類</td> <td>約<math>6.0 \times 10^{15}</math></td> <td>約<math>6.7 \times 10^8</math></td> <td>約<math>2.7 \times 10^{12}</math></td> </tr> <tr> <td>Ba類</td> <td>約<math>1.8 \times 10^{19}</math></td> <td>約<math>6.3 \times 10^8</math></td> <td>約<math>2.9 \times 10^{12}</math></td> </tr> <tr> <td>Ru類</td> <td>約<math>1.8 \times 10^{19}</math></td> <td>約<math>1.3 \times 10^8</math></td> <td>約<math>4.2 \times 10^{11}</math></td> </tr> <tr> <td>Ce類</td> <td>約<math>5.5 \times 10^{18}</math></td> <td>約<math>7.9 \times 10^7</math></td> <td>約<math>2.8 \times 10^{11}</math></td> </tr> <tr> <td>La類</td> <td>約<math>4.1 \times 10^{18}</math></td> <td>約<math>2.0 \times 10^7</math></td> <td>約<math>7.5 \times 10^{10}</math></td> </tr> </tbody> </table>	核種グループ	停止時炉内内蔵量 [Bq] (gross 値)	放出放射能[Bq] (gross 値)		原子炉建屋原子炉種からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出		希ガス類	約 $1.6 \times 10^{19}$	約 $1.6 \times 10^{17}$		よう素類	約 $2.1 \times 10^{19}$	約 $4.5 \times 10^{15}$		Cs類	約 $8.4 \times 10^{17}$	約 $2.5 \times 10^{15}$		Te類	約 $6.0 \times 10^{15}$	約 $2.7 \times 10^{12}$		Ba類	約 $1.8 \times 10^{19}$	約 $2.9 \times 10^{12}$		Ru類	約 $1.8 \times 10^{19}$	約 $4.2 \times 10^{11}$		Ce類	約 $5.5 \times 10^{18}$	約 $2.8 \times 10^{11}$		La類	約 $4.1 \times 10^{18}$	約 $7.5 \times 10^{10}$		核種グループ	停止時炉内内蔵量 [Bq] (gross 値)	放出放射能[Bq] (gross 値)		原子炉格納容器フィルタベント系を経由した放出	原子炉建屋原子炉種からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出	希ガス類	約 $1.6 \times 10^{19}$	約 $4.6 \times 10^{18}$	約 $8.9 \times 10^{18}$	よう素類	約 $2.1 \times 10^{19}$	約 $3.3 \times 10^{17}$	約 $3.0 \times 10^{15}$	Cs類	約 $8.4 \times 10^{17}$	約 $9.6 \times 10^8$	約 $2.5 \times 10^{12}$	Te類	約 $6.0 \times 10^{15}$	約 $6.7 \times 10^8$	約 $2.7 \times 10^{12}$	Ba類	約 $1.8 \times 10^{19}$	約 $6.3 \times 10^8$	約 $2.9 \times 10^{12}$	Ru類	約 $1.8 \times 10^{19}$	約 $1.3 \times 10^8$	約 $4.2 \times 10^{11}$	Ce類	約 $5.5 \times 10^{18}$	約 $7.9 \times 10^7$	約 $2.8 \times 10^{11}$	La類	約 $4.1 \times 10^{18}$	約 $2.0 \times 10^7$	約 $7.5 \times 10^{10}$	<p>第2-1-2表 大気中への放出放射能（7日間積算値）*</p> <table border="1" data-bbox="1357 204 1946 592"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種グループ</th> <th rowspan="2">停止時炉心内蓄積量 [Bq] (gross 値)</th> <th colspan="2">放出放射能[Bq] (gross 値)</th> </tr> <tr> <th>原子炉格納容器からの漏えい及び アニュラス空気浄化設備による放出</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希ガス類</td> <td>約<math>3.0 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>5.4 \times 10^{16}</math></td> </tr> <tr> <td>よう素類</td> <td>約<math>3.1 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>2.3 \times 10^{14}</math></td> </tr> <tr> <td>Cs類</td> <td>約<math>1.2 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>5.0 \times 10^{12}</math></td> </tr> <tr> <td>Te類</td> <td>約<math>1.9 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>2.5 \times 10^{12}</math></td> </tr> <tr> <td>Ba類</td> <td>約<math>1.8 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>1.7 \times 10^{12}</math></td> </tr> <tr> <td>Ru類</td> <td>約<math>3.7 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>2.3 \times 10^{11}</math></td> </tr> <tr> <td>Ce類</td> <td>約<math>6.5 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>3.4 \times 10^{11}</math></td> </tr> <tr> <td>La類</td> <td>約<math>6.6 \times 10^{18}</math></td> <td colspan="2">約<math>2.4 \times 10^{11}</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>*：有効数字2桁で四捨五入した値</p>	核種グループ	停止時炉心内蓄積量 [Bq] (gross 値)	放出放射能[Bq] (gross 値)		原子炉格納容器からの漏えい及び アニュラス空気浄化設備による放出		希ガス類	約 $3.0 \times 10^{18}$	約 $5.4 \times 10^{16}$		よう素類	約 $3.1 \times 10^{18}$	約 $2.3 \times 10^{14}$		Cs類	約 $1.2 \times 10^{18}$	約 $5.0 \times 10^{12}$		Te類	約 $1.9 \times 10^{18}$	約 $2.5 \times 10^{12}$		Ba類	約 $1.8 \times 10^{18}$	約 $1.7 \times 10^{12}$		Ru類	約 $3.7 \times 10^{18}$	約 $2.3 \times 10^{11}$		Ce類	約 $6.5 \times 10^{18}$	約 $3.4 \times 10^{11}$		La類	約 $6.6 \times 10^{18}$	約 $2.4 \times 10^{11}$		<p>評価条件による相違</p> <p>型式の相違              ・PWRでは格納容器ベントを用いない。</p>
評価項目	評価結果 <sup>*1</sup>																																																																																																																																						
希ガス	Gross値	約 $6.7 \times 10^{16}$ Bq																																																																																																																																					
	ガンマ線エネルギー 0.5MeV換算値	約 $1.0 \times 10^{16}$ Bq																																																																																																																																					
よう素	Gross値	約 $2.3 \times 10^{14}$ Bq																																																																																																																																					
	I-131等価量 (成人実効線量係数換算)	約 $7.7 \times 10^{13}$ Bq																																																																																																																																					
セシウム	Gross値	約 $3.4 \times 10^{13}$ Bq																																																																																																																																					
上記以外の核種	Gross値	約 $7.6 \times 10^{13}$ Bq																																																																																																																																					
核種グループ	停止時炉内内蔵量 [Bq] (gross 値)	放出放射能[Bq] (gross 値)																																																																																																																																					
		原子炉建屋原子炉種からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出																																																																																																																																					
希ガス類	約 $1.6 \times 10^{19}$	約 $1.6 \times 10^{17}$																																																																																																																																					
よう素類	約 $2.1 \times 10^{19}$	約 $4.5 \times 10^{15}$																																																																																																																																					
Cs類	約 $8.4 \times 10^{17}$	約 $2.5 \times 10^{15}$																																																																																																																																					
Te類	約 $6.0 \times 10^{15}$	約 $2.7 \times 10^{12}$																																																																																																																																					
Ba類	約 $1.8 \times 10^{19}$	約 $2.9 \times 10^{12}$																																																																																																																																					
Ru類	約 $1.8 \times 10^{19}$	約 $4.2 \times 10^{11}$																																																																																																																																					
Ce類	約 $5.5 \times 10^{18}$	約 $2.8 \times 10^{11}$																																																																																																																																					
La類	約 $4.1 \times 10^{18}$	約 $7.5 \times 10^{10}$																																																																																																																																					
核種グループ	停止時炉内内蔵量 [Bq] (gross 値)	放出放射能[Bq] (gross 値)																																																																																																																																					
		原子炉格納容器フィルタベント系を経由した放出	原子炉建屋原子炉種からの漏えい及び非常用ガス処理系による放出																																																																																																																																				
希ガス類	約 $1.6 \times 10^{19}$	約 $4.6 \times 10^{18}$	約 $8.9 \times 10^{18}$																																																																																																																																				
よう素類	約 $2.1 \times 10^{19}$	約 $3.3 \times 10^{17}$	約 $3.0 \times 10^{15}$																																																																																																																																				
Cs類	約 $8.4 \times 10^{17}$	約 $9.6 \times 10^8$	約 $2.5 \times 10^{12}$																																																																																																																																				
Te類	約 $6.0 \times 10^{15}$	約 $6.7 \times 10^8$	約 $2.7 \times 10^{12}$																																																																																																																																				
Ba類	約 $1.8 \times 10^{19}$	約 $6.3 \times 10^8$	約 $2.9 \times 10^{12}$																																																																																																																																				
Ru類	約 $1.8 \times 10^{19}$	約 $1.3 \times 10^8$	約 $4.2 \times 10^{11}$																																																																																																																																				
Ce類	約 $5.5 \times 10^{18}$	約 $7.9 \times 10^7$	約 $2.8 \times 10^{11}$																																																																																																																																				
La類	約 $4.1 \times 10^{18}$	約 $2.0 \times 10^7$	約 $7.5 \times 10^{10}$																																																																																																																																				
核種グループ	停止時炉心内蓄積量 [Bq] (gross 値)	放出放射能[Bq] (gross 値)																																																																																																																																					
		原子炉格納容器からの漏えい及び アニュラス空気浄化設備による放出																																																																																																																																					
希ガス類	約 $3.0 \times 10^{18}$	約 $5.4 \times 10^{16}$																																																																																																																																					
よう素類	約 $3.1 \times 10^{18}$	約 $2.3 \times 10^{14}$																																																																																																																																					
Cs類	約 $1.2 \times 10^{18}$	約 $5.0 \times 10^{12}$																																																																																																																																					
Te類	約 $1.9 \times 10^{18}$	約 $2.5 \times 10^{12}$																																																																																																																																					
Ba類	約 $1.8 \times 10^{18}$	約 $1.7 \times 10^{12}$																																																																																																																																					
Ru類	約 $3.7 \times 10^{18}$	約 $2.3 \times 10^{11}$																																																																																																																																					
Ce類	約 $6.5 \times 10^{18}$	約 $3.4 \times 10^{11}$																																																																																																																																					
La類	約 $6.6 \times 10^{18}$	約 $2.4 \times 10^{11}$																																																																																																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
項目	使用値	設定理由	審査ガイドでの記載	項目	使用値	設定理由	審査ガイドでの記載	項目	使用値	設定理由	審査ガイドでの記載	
大気拡散評価モデル	ガウスプルームモデル	審査ガイドに示されたとおり設定	4.2(2)a. 放射性物質の空气中濃度は、放出源高さ及び気象条件に応じて、空間濃度分布が水平方向及び鉛直方向ともに正規分布になると仮定したガウスプルームモデルを適用して計算する。	大気拡散評価モデル	ガウスプルームモデル	審査ガイドに示されたとおり設定	4.2(2)a. 放射性物質の空气中濃度は、放出源高さ及び気象条件に応じて、空間濃度分布が水平方向及び鉛直方向ともに正規分布になると仮定したガウスプルームモデルを適用して計算する。	大気拡散評価モデル	ガウスプルームモデル	審査ガイドに示されたとおり設定	4.2(2)a. 放射性物質の空气中濃度は、放出源高さ及び気象条件に応じて、空間濃度分布が水平方向及び鉛直方向ともに正規分布になると仮定したガウスプルームモデルを適用して計算する。	<p>評価条件の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は放出源毎に気象データを使い分けず、保守的に全て地上風を使用している</li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価条件による相違はあるが概ね同等の内容</li> </ul>
気象資料	大飯発電所における1年間の気象資料 (2010.1~2010.12) (地上風を代表する観測点(地上約10m)の気象データ)	建屋影響を受ける大気拡散評価を行うため保守的に地上風(地上約10m)の気象データを使用 審査ガイドに示されたとおり大飯発電所において観測された1年間の気象資料を使用 (添付資料1-3参照)	4.2(2)a. 風向、風速、大気安定度及び降雨の観測項目を、現地において少なくとも1年間観測して得られた気象資料を大気拡散式に用いる。	気象データ	大飯発電所における1年間の気象データ (2012年1月~2012年12月) (地上約10m)	【排気筒】 排気筒と同じ高さの高所風(地上約71m)の気象データを使用	4.2(2)a. 風向、風速、大気安定度及び降雨の観測項目を、現地において少なくとも1年間観測して得られた気象資料を大気拡散式に用いる。	気象データ	泊発電所における1年間の気象データ (1997年1月~1997年12月) (地上約10m)	【排気筒】 建屋影響を受ける大気拡散評価を行うため保守的に地上風(地上約10m)の気象データを使用	4.2(2)a. 風向、風速、大気安定度及び降雨の観測項目を、現地において少なくとも1年間観測して得られた気象資料を大気拡散式に用いる。	
実効放出継続時間	全稼働：1時間	保守的に最も短い実効放出継続時間を設定	4.2(2)c. 相対濃度は、短時間放出又は長時間放出に応じて、毎時刻の気象項目と実効的な放出継続時間を基に評価点ごとに計算する。	実効放出継続時間	全放出源：1時間	保守的に1時間と設定	4.2(2)c. 相対濃度は、短時間放出又は長時間放出に応じて、毎時刻の気象項目と実効的な放出継続時間を基に評価点ごとに計算する。	実効放出継続時間	全放出源：1時間	保守的に1時間と設定	4.2(2)c. 相対濃度は、短時間放出又は長時間放出に応じて、毎時刻の気象項目と実効的な放出継続時間を基に評価点ごとに計算する。	
放出源及び放出源高さ	地上 0m		4.3(4)b. 放出源高さは、4.1(2)aで選定した事故シナリオに応じた放出口からの放出を仮定する。4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に、放出エネルギーを考慮してもよい。	放出源及び放出源高さ	・原子炉格納容器フィルタベント系排気管：地上36m ・原子炉建屋ブローアウトパネル：地上0m ・排気筒：地上80m	審査ガイドに示されたとおり設定 ただし、放出エネルギーによる影響は未考慮 なお、建屋巻き込みの影響を受けない排気筒の放出源高さは、敷地境界における有効高さを使用	4.3(4)b. 放出源高さは、4.1(2)aで選定した事故シナリオに応じた放出口からの放出を仮定する。4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に、放出エネルギーを考慮してもよい。	放出源及び放出源高さ	地上：地上0m 排気筒：地上73.1m	審査ガイドに示されたとおり設定 ただし、放出エネルギーによる影響は未考慮	4.3(4)b. 放出源高さは、4.1(2)aで選定した事故シナリオに応じた放出口からの放出を仮定する。4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に、放出エネルギーを考慮してもよい。	
放出源及び放出源高さ	地上 0m 排気筒 73m		4.3(4)b. 放出源高さは、4.1(2)aで選定した事故シナリオに応じた放出口からの放出を仮定する。4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に、放出エネルギーを考慮してもよい。	放出源及び放出源高さ	地上 0m 排気筒 73m		4.3(4)b. 放出源高さは、4.1(2)aで選定した事故シナリオに応じた放出口からの放出を仮定する。4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に、放出エネルギーを考慮してもよい。	放出源及び放出源高さ	地上：地上0m 排気筒：地上73.1m	審査ガイドに示されたとおり設定 ただし、放出エネルギーによる影響は未考慮	4.3(4)b. 放出源高さは、4.1(2)aで選定した事故シナリオに応じた放出口からの放出を仮定する。4.1(2)aで選定した事故シナリオのソースターム解析結果を基に、放出エネルギーを考慮してもよい。	

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由			
第3表(2/3) 大気拡散条件 (3号、4号共通)  項目 累積出現頻度 建屋の影響 巻き込みを生じる代表建屋	審査ガイドでの記載 4.2.(2)c 評価点の相対濃度又は相対線量は、毎時刻の相対濃度又は相対線量を年間について小さい方から累積した場合、その累積出現頻度が97%に当たる値とする。 4.2.(2)a 原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所居住性の居住性評価で特徴的な放出点から近距離の建屋の影響を受ける場合には、建屋による巻き込み現象を考慮した大気拡散による拡散パラメータを用いる。 4.2.(2)b 巻き込みを生じる建屋として、原子炉格納容器、原子炉建屋、原子炉補助建屋、タービン建屋、コントロール建屋及び燃料取り扱い建屋等、原則として放出源の近隣に存在するすべての建屋が対象となるが、巻き込みの影響が最も大きいと考えられる一つの建屋を代表建屋とすることは、保守的な結果を与える。	設定理由 審査ガイドに示されたとおり設定 放出点(排気筒)から近距離の建屋(原子炉格納容器)の影響を受けるため、建屋による巻き込み現象を考慮 放出源(排気筒)から最も近く、巻き込みの影響が最も大きい建屋として選定	使用値 小さい方から97% 考慮する 原子炉格納容器	表 2-1-4 大気拡散条件(2/4) 項目 累積出現頻度 建屋巻き込み 巻き込みを生じる代表建屋 放射性物質濃度の評価点	評価条件 小さい方から累積して97% ・原子炉格納容器フィルタメント系排気管：考慮する ・原子炉建屋ブローアウトパネル：考慮する ・排気筒：考慮しない 原子炉建屋 【中央制御室滞在時】 ・中央制御室換気空調系給気口 ・中央制御室中心 【入退城時】 ・出入管理所 ・制御建屋出入口 審査ガイドに示されたとおり設定	選定理由 審査ガイドに示されたとおり設定 (添付資料 2-2-8 を参照) 放出点から近距離の建屋の影響を受けるため、建屋による巻き込み現象を考慮。 4.2 (2)a、原子炉制御室の居住性評価で特徴的な放出点から近距離の建屋の影響を受ける場合には、建屋による巻き込み現象を考慮した大気拡散による拡散パラメータを用いる。 巻き込みの影響が最も大きい建屋として設定 4.2.(2)b、2) 1) 評価期間中も給気口から外気を取り入れることを前提とする場合は、給気口が設置されている原子炉制御室が属する建屋の表面とする。 4.2.(2)b、3) 1) 建屋の巻き込みの影響を受ける場合には、原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所の属する建屋表面での濃度は風下距離の依存性は小さくほぼ一律と考えられるので、評価点は厳密に定める必要はない。 屋上面を代表とする場合、例えば原子炉制御室/緊急時対策所の中心点を評価点とするのは妥当である。	第2-1-3表 大気拡散条件 (2/3) 項目 累積出現頻度 建屋巻き込み 巻き込みを生じる代表建屋 放射性物質濃度の評価点	審査ガイドでの記載 4.2(2)c、評価点の相対濃度又は相対線量は、毎時刻の相対濃度又は相対線量を年間について小さい方から累積した場合、その累積出現頻度が97%に当たる値とする。 4.2 (2)a、原子炉制御室の居住性評価で特徴的な放出点から近距離の建屋の影響を受ける場合には、建屋による巻き込み現象を考慮した大気拡散による拡散パラメータを用いる。 4.2(2)b、巻き込みを生じる建屋として、原子炉格納容器、原子炉建屋、原子炉補助建屋、タービン建屋、コントロール建屋及び燃料取り扱い建屋等、原則として放出源の近隣に存在するすべての建屋が対象となるが、巻き込みの影響が最も大きい建屋として選定 4.2.(2)b、2) 1) 評価期間中も給気口から外気を取り入れることを前提とする場合は、給気口が設置されている原子炉制御室が属する建屋の表面とする。 4.2.(2)b、3) 1) 建屋の巻き込みの影響を受ける場合には、原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所の属する建屋表面での濃度は風下距離の依存性は小さくほぼ一律と考えられるので、評価点は厳密に定める必要はない。 屋上面を代表とする場合、例えば原子炉制御室/緊急時対策所の中心点を評価点とするのは妥当である。	
	審査ガイドでの記載 4.2.(2)c 評価点の相対濃度又は相対線量は、毎時刻の相対濃度又は相対線量を年間について小さい方から累積した場合、その累積出現頻度が97%に当たる値とする。 4.2.(2)a 原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所居住性の居住性評価で特徴的な放出点から近距離の建屋の影響を受ける場合には、建屋による巻き込み現象を考慮した大気拡散による拡散パラメータを用いる。 4.2.(2)b 巻き込みを生じる建屋として、原子炉格納容器、原子炉建屋、原子炉補助建屋、タービン建屋、コントロール建屋及び燃料取り扱い建屋等、原則として放出源の近隣に存在するすべての建屋が対象となるが、巻き込みの影響が最も大きいと考えられる一つの建屋を代表建屋とすることは、保守的な結果を与える。	設定理由 審査ガイドに示されたとおり設定 放出点(排気筒)から近距離の建屋(原子炉格納容器)の影響を受けるため、建屋による巻き込み現象を考慮 放出源(排気筒)から最も近く、巻き込みの影響が最も大きい建屋として選定	使用値 小さい方から97% 考慮する 原子炉格納容器	表 2-1-4 大気拡散条件(2/4) 項目 累積出現頻度 建屋巻き込み 巻き込みを生じる代表建屋 放射性物質濃度の評価点	評価条件 小さい方から累積して97% ・原子炉格納容器フィルタメント系排気管：考慮する ・原子炉建屋ブローアウトパネル：考慮する ・排気筒：考慮しない 原子炉建屋 【中央制御室滞在時】 ・中央制御室換気空調系給気口 ・中央制御室中心 【入退城時】 ・出入管理所 ・制御建屋出入口 審査ガイドに示されたとおり設定	選定理由 審査ガイドに示されたとおり設定 (添付資料 2-2-8 を参照) 放出点から近距離の建屋の影響を受けるため、建屋による巻き込み現象を考慮。 4.2 (2)a、原子炉制御室の居住性評価で特徴的な放出点から近距離の建屋の影響を受ける場合には、建屋による巻き込み現象を考慮した大気拡散による拡散パラメータを用いる。 巻き込みの影響が最も大きい建屋として設定 4.2.(2)b、2) 1) 評価期間中も給気口から外気を取り入れることを前提とする場合は、給気口が設置されている原子炉制御室が属する建屋の表面とする。 4.2.(2)b、3) 1) 建屋の巻き込みの影響を受ける場合には、原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所の属する建屋表面での濃度は風下距離の依存性は小さくほぼ一律と考えられるので、評価点は厳密に定める必要はない。 屋上面を代表とする場合、例えば原子炉制御室/緊急時対策所の中心点を評価点とするのは妥当である。		第2-1-3表 大気拡散条件 (2/3) 項目 累積出現頻度 建屋巻き込み 巻き込みを生じる代表建屋 放射性物質濃度の評価点	審査ガイドでの記載 4.2(2)c、評価点の相対濃度又は相対線量は、毎時刻の相対濃度又は相対線量を年間について小さい方から累積した場合、その累積出現頻度が97%に当たる値とする。 4.2 (2)a、原子炉制御室の居住性評価で特徴的な放出点から近距離の建屋の影響を受ける場合には、建屋による巻き込み現象を考慮した大気拡散による拡散パラメータを用いる。 4.2(2)b、巻き込みを生じる建屋として、原子炉格納容器、原子炉建屋、原子炉補助建屋、タービン建屋、コントロール建屋及び燃料取り扱い建屋等、原則として放出源の近隣に存在するすべての建屋が対象となるが、巻き込みの影響が最も大きい建屋として選定 4.2.(2)b、2) 1) 評価期間中も給気口から外気を取り入れることを前提とする場合は、給気口が設置されている原子炉制御室が属する建屋の表面とする。 4.2.(2)b、3) 1) 建屋の巻き込みの影響を受ける場合には、原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所の属する建屋表面での濃度は風下距離の依存性は小さくほぼ一律と考えられるので、評価点は厳密に定める必要はない。 屋上面を代表とする場合、例えば原子炉制御室/緊急時対策所の中心点を評価点とするのは妥当である。
	審査ガイドでの記載 4.2.(2)c 評価点の相対濃度又は相対線量は、毎時刻の相対濃度又は相対線量を年間について小さい方から累積した場合、その累積出現頻度が97%に当たる値とする。 4.2.(2)a 原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所居住性の居住性評価で特徴的な放出点から近距離の建屋の影響を受ける場合には、建屋による巻き込み現象を考慮した大気拡散による拡散パラメータを用いる。 4.2.(2)b 巻き込みを生じる建屋として、原子炉格納容器、原子炉建屋、原子炉補助建屋、タービン建屋、コントロール建屋及び燃料取り扱い建屋等、原則として放出源の近隣に存在するすべての建屋が対象となるが、巻き込みの影響が最も大きいと考えられる一つの建屋を代表建屋とすることは、保守的な結果を与える。	設定理由 審査ガイドに示されたとおり設定 放出点(排気筒)から近距離の建屋(原子炉格納容器)の影響を受けるため、建屋による巻き込み現象を考慮 放出源(排気筒)から最も近く、巻き込みの影響が最も大きい建屋として選定	使用値 小さい方から97% 考慮する 原子炉格納容器	表 2-1-4 大気拡散条件(2/4) 項目 累積出現頻度 建屋巻き込み 巻き込みを生じる代表建屋 放射性物質濃度の評価点	評価条件 小さい方から累積して97% ・原子炉格納容器フィルタメント系排気管：考慮する ・原子炉建屋ブローアウトパネル：考慮する ・排気筒：考慮しない 原子炉建屋 【中央制御室滞在時】 ・中央制御室換気空調系給気口 ・中央制御室中心 【入退城時】 ・出入管理所 ・制御建屋出入口 審査ガイドに示されたとおり設定	選定理由 審査ガイドに示されたとおり設定 (添付資料 2-2-8 を参照) 放出点から近距離の建屋の影響を受けるため、建屋による巻き込み現象を考慮。 4.2 (2)a、原子炉制御室の居住性評価で特徴的な放出点から近距離の建屋の影響を受ける場合には、建屋による巻き込み現象を考慮した大気拡散による拡散パラメータを用いる。 巻き込みの影響が最も大きい建屋として設定 4.2.(2)b、2) 1) 評価期間中も給気口から外気を取り入れることを前提とする場合は、給気口が設置されている原子炉制御室が属する建屋の表面とする。 4.2.(2)b、3) 1) 建屋の巻き込みの影響を受ける場合には、原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所の属する建屋表面での濃度は風下距離の依存性は小さくほぼ一律と考えられるので、評価点は厳密に定める必要はない。 屋上面を代表とする場合、例えば原子炉制御室/緊急時対策所の中心点を評価点とするのは妥当である。			第2-1-3表 大気拡散条件 (2/3) 項目 累積出現頻度 建屋巻き込み 巻き込みを生じる代表建屋 放射性物質濃度の評価点

評価条件による相違  
 ・女川は排気筒が周囲の建屋の2.5倍以上の高さにあるため、建屋巻き込みを考慮しない。



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由		
項目	放射線物質濃度の評価点	使用値	【中央制御室内】 中央制御室中心 【入退域時】 正門 事務所入口 中央制御室入口	【中央制御室内】 審査ガイドに示されたとおり設定 【入退域時】 入退域時の移動経路に従った適切な評価点を設定	設定理由	【中央制御室内】 4.2.(2)b. 屋上面を代表とする場合、例えば原子炉制御室の中心点を評価点とするのは妥当である。 【入退域時】 入退域時の評価点については、記載なし。	審査ガイドでの記載	着目方位	3号機 中央制御室 正門 事務所入口 中央制御室入口	5方位 2方位 3方位 5方位	着目方位	【原子炉格納容器フィルタメント系排気筒】 中央制御室換気空調系 給気口：5方位 (SE, SSE, S, SSW, SW) 中央制御室中心：8方位 (ESE, E, ESE, SE, SSE, S, SSW, SW) 【原子炉建屋ブローアクトパネル】 中央制御室換気空調系 給気口：5方位 (SE, SSE, S, SSW, SW) 中央制御室中心：6方位 (ESE, SE, SSE, S, SSW, SW) 【排気筒】 中央制御室換気空調系 給気口：1方位 (ESE) 中央制御室中心：1方位 (ESE)	審査ガイドに示された評価方法に基づき設定(添付資料2-2-8を参照)	審査ガイドでの記載
			4号機 中央制御室 正門 事務所入口 中央制御室入口	5方位 1方位 2方位 3方位		【原子炉格納容器フィルタメント系排気筒】 出入管理所：4方位 (SSW, SW, WSW, W) 制御建屋出入口：6方位 (SSE, S, SSW, SW, WSW, W) 【原子炉建屋ブローアクトパネル】 出入管理所：4方位 (SSW, SW, WSW, W) 制御建屋出入口：6方位 (SSE, S, SSW, SW, WSW, W) 【排気筒】 出入管理所：1方位 (SE) 制御建屋出入口：1方位 (ESE)			審査ガイドに示されたとおり設定(添付資料2-2-8を参照)	審査ガイドでの記載				
			原子炉格納容器の垂直な投影面積(2.8x10 <sup>3</sup> m <sup>2</sup> )	1/2		審査ガイドに示されたとおり設定			審査ガイドでの記載					
			形状係数	1/2		現行許認可(添付書類六)の考え方に同じ。			審査ガイドでの記載					
表 2-1-4 大気拡散条件(3/4)				表 2-1-4 大気拡散条件(4/4)				第2-1-3表 大気拡散条件(3/3)				評価条件による相違		
項目		評価条件	選定理由	項目		評価条件	選定理由	項目		評価条件	選定理由		審査ガイドでの記載	
建屋投影面積		2,050m <sup>2</sup>	審査ガイドに示されたとおり設定 風向に垂直な投影面積のうち最も小さいもの	建屋投影面積		2,700m <sup>2</sup>	審査ガイドに示されたとおり設定 対象となる複数の風向を対しては、風向の方位ごとに垂直な投影面積を求め、最小面積を、すべての方位の計算の投入として共通に適用することは、合理的であり保守的である。	着目方位		中央制御室中心：5方位 (W, WNW, NW, NNW, N) 出入管理建屋入口：3方位 (KNW, NW, NNW) 中央制御室入口：6方位 (W, WNW, NW, NNW, N, NNE)	審査ガイドに示された評価方法に基づき設定(添付資料2-2-14参照)		4.2(2)a. 原子炉制御室の居住性に係る被ばく評価では、代表建屋の風下後流側での広範囲に及ぶ乱流混合域が顕著であることから、放射線物質濃度を計算する当該着目方位としては、放出源と評価点を結ぶラインが含まれる1方位のみを対象とするのではなく、図5に示すように、代表建屋の後流側の拡がり及び乱流混合域が顕著であることから、放射線物質濃度を計算する当該着目方位としては、放出源と評価点を結ぶラインが含まれる1方位のみを対象とするのではなく、図5に示すように、建屋の後流側の拡がりの影響が評価点に及ぶ可能性のある複数の方位を対象とする。	
形状係数		1/2	「原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について(内規)」に示されたとおり設定	形状係数		1/2	「原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について(内規)」による。	形状係数		1/2	「原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について(内規)」による。		4.2(2)a. 放射線物質の大気拡散の詳細は、「原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について(内規)」による。	

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉							女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由				
第4表 相対濃度及び相対線量	3号	室内作業時	中央制御室中心	評価点	評価距離*	着目方位	評価方位	相対濃度 X/Q (s/m <sup>3</sup> )	相対線量 D/Q (Gy/Bq)	地上放出: 3.3×10 <sup>-18</sup>	原子炉格納容器フィルタベント系排気管 (地上30m)	中央制御室	5.8×10 <sup>-4</sup>	4.6×10 <sup>-19</sup>	第2-1-4表 相対濃度 (X/Q) 及び相対線量 (D/Q)	地上 (地上0m)	中央制御室中心	約5.6×10 <sup>-4</sup>	約2.4×10 <sup>-18</sup>
										排気筒放出: 5.4×10 <sup>-19</sup>		中央制御室中心	8.6×10 <sup>-4</sup>	6.6×10 <sup>-19</sup>			出入管理建屋入口	約3.8×10 <sup>-4</sup>	約1.8×10 <sup>-18</sup>
										地上放出: 1.3×10 <sup>-18</sup>		出入管理所	5.0×10 <sup>-4</sup>	4.3×10 <sup>-19</sup>			中央制御室入口	約5.7×10 <sup>-4</sup>	約2.3×10 <sup>-18</sup>
										排気筒放出: 7.2×10 <sup>-19</sup>		制御建屋出入口	7.1×10 <sup>-4</sup>	5.6×10 <sup>-19</sup>			中央制御室中心	約2.8×10 <sup>-4</sup>	約4.6×10 <sup>-19</sup>
										地上放出: 1.6×10 <sup>-18</sup>		地上放出: 1.0×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 2.1×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.9×10 <sup>-4</sup>			出入管理建屋入口	約1.9×10 <sup>-4</sup>	約3.3×10 <sup>-19</sup>
										排気筒放出: 3.5×10 <sup>-19</sup>		地上放出: 7.3×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 3.7×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 2.8×10 <sup>-4</sup>			中央制御室入口	約2.8×10 <sup>-4</sup>	約4.7×10 <sup>-19</sup>
	4号	室内作業時	中央制御室中心	評価点	評価距離*	着目方位	評価方位	相対濃度 X/Q (s/m <sup>3</sup> )	相対線量 D/Q (Gy/Bq)	地上放出: 2.5×10 <sup>-18</sup>	原子炉建屋ブローアウツパネル (地上0m)	中央制御室	1.3×10 <sup>-3</sup>	5.0×10 <sup>-19</sup>	第2-1-5表 相対濃度 (X/Q) 及び相対線量 (D/Q)	地上 (地上0m)	中央制御室換気空調系給気口	1.6×10 <sup>-3</sup>	6.3×10 <sup>-19</sup>
										排気筒放出: 4.4×10 <sup>-19</sup>		中央制御室中心	1.6×10 <sup>-3</sup>	6.3×10 <sup>-19</sup>			出入管理所	9.9×10 <sup>-4</sup>	4.4×10 <sup>-19</sup>
										地上放出: 3.3×10 <sup>-18</sup>		出入管理所	5.0×10 <sup>-4</sup>	4.3×10 <sup>-19</sup>			制御建屋出入口	1.5×10 <sup>-3</sup>	6.0×10 <sup>-19</sup>
										排気筒放出: 7.7×10 <sup>-19</sup>		地上放出: 5.6×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 2.8×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 2.8×10 <sup>-6</sup>			中央制御室換気空調系給気口	2.8×10 <sup>-6</sup>	1.0×10 <sup>-19</sup>
										地上放出: 1.7×10 <sup>-18</sup>		地上放出: 1.0×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 2.1×10 <sup>-4</sup>	中央制御室中心			2.8×10 <sup>-6</sup>	1.0×10 <sup>-19</sup>	* 放出源から評価点までの水平距離
										排気筒放出: 4.4×10 <sup>-19</sup>		地上放出: 7.3×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 3.7×10 <sup>-4</sup>	出入管理所			4.0×10 <sup>-6</sup>	1.4×10 <sup>-19</sup>	
										地上放出: 6.3×10 <sup>-19</sup>		地上放出: 1.0×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 5.2×10 <sup>-5</sup>	制御建屋出入口			2.8×10 <sup>-6</sup>	1.0×10 <sup>-19</sup>	
										排気筒放出: 3.4×10 <sup>-19</sup>		地上放出: 2.1×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.0×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.0×10 <sup>-6</sup>			中央制御室換気空調系給気口	2.8×10 <sup>-6</sup>	
地上放出: 1.2×10 <sup>-18</sup>	地上放出: 2.1×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.0×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.0×10 <sup>-6</sup>	中央制御室中心	2.8×10 <sup>-6</sup>	1.0×10 <sup>-19</sup>													
排気筒放出: 3.0×10 <sup>-19</sup>	地上放出: 1.0×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 3.7×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.0×10 <sup>-6</sup>	出入管理所	4.0×10 <sup>-6</sup>	1.4×10 <sup>-19</sup>													
地上放出: 1.7×10 <sup>-18</sup>	地上放出: 3.7×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.8×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.0×10 <sup>-6</sup>	制御建屋出入口	2.8×10 <sup>-6</sup>	1.0×10 <sup>-19</sup>													
排気筒放出: 4.4×10 <sup>-19</sup>	地上放出: 1.8×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.8×10 <sup>-4</sup>	地上放出: 1.0×10 <sup>-6</sup>	中央制御室換気空調系給気口	2.8×10 <sup>-6</sup>	1.0×10 <sup>-19</sup>													
評価条件の相違 ・評価点数の相違は放出源数と評価地点数が異なることによる。 ・放出源数の相違 (女川3箇所、泊2箇所) は、フィルタベントの相違による。 ・評価地点数の相違 (女川4箇所、泊3箇所) は事故時に給気口からの外気取り入れを前提とするかどうかの相違による。 【大飯】 ・大飯とは入退城時に設定している評価点数および号機数が異なる。																			



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																											
<p>第5表(1/2) 直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価条件 (3号、4号共通)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価条件</th> <th>取用値</th> <th>選定理由</th> <th>審査ガイドでの記載</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器内線源強度分布</td> <td>原子炉格納容器内に放射された核分裂生成物が均一に分布</td> <td>審査ガイドに示されたとおり設定</td> <td>4.3(5)a. 原子炉建屋内の放射性物質は、自由空間容積に均一分布するものとして、事故後7日間の積算線源強度を計算する。</td> </tr> <tr> <td>事故の評価期間</td> <td>7日</td> <td>審査ガイドに示されたとおり設定</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋遮蔽厚さ</td> <td>PCCVソーム面 PCCV円筒部 原子炉格納容器外壁遮蔽の厚さは、PCCV壁の厚さ(約1.2m)と同等と見做す。PCCV壁の厚さは、PCCV壁の厚さ(約1.2m)と同等と見做す。</td> <td>4.3(5)a. 原子炉建屋内の放射性物質からのスカイシャインガンマ線及び直接ガンマ線による外部放射線量は、線源線源強度、施設的位置、遮蔽構造及び地形条件から計算する。</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>アニュラス壁厚さ</td> <td>アニュラス上部：基準しない アニュラス下部：約30mm 施工測定については、30mmを考慮する</td> <td>設計値に施工誤差(5mm)を考慮</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">□内は標準に異なる事項のため記載できません。</p>	評価条件	取用値	選定理由	審査ガイドでの記載	原子炉格納容器内線源強度分布	原子炉格納容器内に放射された核分裂生成物が均一に分布	審査ガイドに示されたとおり設定	4.3(5)a. 原子炉建屋内の放射性物質は、自由空間容積に均一分布するものとして、事故後7日間の積算線源強度を計算する。	事故の評価期間	7日	審査ガイドに示されたとおり設定	同上	原子炉建屋遮蔽厚さ	PCCVソーム面 PCCV円筒部 原子炉格納容器外壁遮蔽の厚さは、PCCV壁の厚さ(約1.2m)と同等と見做す。PCCV壁の厚さは、PCCV壁の厚さ(約1.2m)と同等と見做す。	4.3(5)a. 原子炉建屋内の放射性物質からのスカイシャインガンマ線及び直接ガンマ線による外部放射線量は、線源線源強度、施設的位置、遮蔽構造及び地形条件から計算する。	同上	アニュラス壁厚さ	アニュラス上部：基準しない アニュラス下部：約30mm 施工測定については、30mmを考慮する	設計値に施工誤差(5mm)を考慮	同上	<p>表 2-1-6 原子炉建屋原子炉棟内の放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>審査ガイドでの記載</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>線源強度</td> <td>原子炉建屋原子炉棟内線源強度分布</td> <td>運転員の交替を考慮した場合の評価をより適切に行えるように設定</td> <td>4.3 (5)a. 原子炉建屋内の放射性物質は、自由空間容積に均一分布するものとして、事故後7日間の積算線源強度を計算する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事故の評価期間</td> <td>7日</td> <td>審査ガイドに示されたとおり設定</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計算モデル</td> <td>原子炉建屋遮蔽厚さ</td> <td>図 2-1-1 のとおり</td> <td>4.3 (5)a. 原子炉建屋内の放射性物質からのスカイシャインガンマ線及び直接ガンマ線による外部放射線量は、線源線源強度、施設的位置、遮蔽構造及び地形条件から計算する。</td> </tr> <tr> <td>中央制御室遮蔽厚さ</td> <td>(評価点高さ) 床面上 1.2m</td> <td>審査ガイドに示された評価方法に基づき設定(コンクリート厚の施工誤差を考慮して評価モデルを設定)</td> </tr> <tr> <td>評価点</td> <td></td> <td>中央制御室及び中央制御室待避所において、最も線量の高い箇所を選定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">評価コード</td> <td>直接ガンマ線： QAD-CGGP2R コード</td> <td></td> <td>直接ガンマ線の線量評価に用いる QAD-CGGP2R は三次元形状を、スカイシャインガンマ線の線量評価に用いる ANISN 及び G33-GP2R はそれぞれ一次元、三次元形状を扱う運搬解析コードであり、ガンマ線の線量を計算することができる。計算に必要な主な条件は、線源条件、遮蔽体条件であり、これらの条件が与えられれば線量評価は可能である。したがって、設計基準事故を超える事故における線量評価に適用可能である。</td> </tr> <tr> <td>スカイシャインガンマ線： ANISN コード、G33-GP2R コード (参考) 【原子炉格納容器フィルタベント系排気管内の放射性物質からの寄与】 直接ガンマ線： QAD-CGGP2R コード</td> <td></td> <td>4.1(2) 実験等を基に検証され、適用範囲の適切なモデルを用いる。QAD-CGGP2R、ANISN 及び G33-GP2R はそれぞれ許認可での使用実績がある。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	線源強度	原子炉建屋原子炉棟内線源強度分布	運転員の交替を考慮した場合の評価をより適切に行えるように設定	4.3 (5)a. 原子炉建屋内の放射性物質は、自由空間容積に均一分布するものとして、事故後7日間の積算線源強度を計算する。		事故の評価期間	7日	審査ガイドに示されたとおり設定	計算モデル	原子炉建屋遮蔽厚さ	図 2-1-1 のとおり	4.3 (5)a. 原子炉建屋内の放射性物質からのスカイシャインガンマ線及び直接ガンマ線による外部放射線量は、線源線源強度、施設的位置、遮蔽構造及び地形条件から計算する。	中央制御室遮蔽厚さ	(評価点高さ) 床面上 1.2m	審査ガイドに示された評価方法に基づき設定(コンクリート厚の施工誤差を考慮して評価モデルを設定)	評価点		中央制御室及び中央制御室待避所において、最も線量の高い箇所を選定	評価コード	直接ガンマ線： QAD-CGGP2R コード		直接ガンマ線の線量評価に用いる QAD-CGGP2R は三次元形状を、スカイシャインガンマ線の線量評価に用いる ANISN 及び G33-GP2R はそれぞれ一次元、三次元形状を扱う運搬解析コードであり、ガンマ線の線量を計算することができる。計算に必要な主な条件は、線源条件、遮蔽体条件であり、これらの条件が与えられれば線量評価は可能である。したがって、設計基準事故を超える事故における線量評価に適用可能である。	スカイシャインガンマ線： ANISN コード、G33-GP2R コード (参考) 【原子炉格納容器フィルタベント系排気管内の放射性物質からの寄与】 直接ガンマ線： QAD-CGGP2R コード		4.1(2) 実験等を基に検証され、適用範囲の適切なモデルを用いる。QAD-CGGP2R、ANISN 及び G33-GP2R はそれぞれ許認可での使用実績がある。	<p>第 2-1-5 表 原子炉建屋内の放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>審査ガイドでの記載</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>線源強度</td> <td>原子炉格納容器内線源強度分布</td> <td>審査ガイドに示されたとおり設定</td> <td>4.3(5)a. 原子炉建屋内の放射性物質は、自由空間容積に均一分布するものとして、事故後7日間の積算線源強度を計算する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事故の評価期間</td> <td>7日</td> <td>審査ガイドに示されたとおり設定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計算モデル</td> <td>外部遮蔽厚さ</td> <td>ドーム部：約1.2m 円筒部：約1.2m マイナス側許容差については、-5mmを考慮する</td> <td>審査ガイドに示された評価方法に基づき設定(コンクリート厚の施工誤差を考慮して評価モデルを設定)</td> </tr> <tr> <td>中央制御室遮蔽厚さ</td> <td>壁：約1.2m 天井：約1.2m マイナス側許容差については、-5mmを考慮する</td> <td>審査ガイドに示されたとおり設定。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">評価コード</td> <td>直接ガンマ線量評価： QAD-CGGP2R コード (QAD-CGGP2R Ver. 1.04)</td> <td></td> <td>QAD-CGGP2R 及び SCATTERING は共に3次元形状の運搬解析コードであり、ガンマ線の線量を計算することができる。計算に必要な主な条件は、線源条件、遮蔽体条件であり、これらの条件が与えられれば線量評価は可能である。したがって、設計基準事故を超える事故における線量評価に適用可能である。</td> </tr> <tr> <td>スカイシャインガンマ線量評価： SCATTERING コード (SCATTERING Ver. 09m)</td> <td></td> <td>QAD-CGGP2R 及び SCATTERING はそれぞれ許認可での使用実績がある。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">□内は標準に異なる事項のため記載できません。</p>	項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載	線源強度	原子炉格納容器内線源強度分布	審査ガイドに示されたとおり設定	4.3(5)a. 原子炉建屋内の放射性物質は、自由空間容積に均一分布するものとして、事故後7日間の積算線源強度を計算する。		事故の評価期間	7日	審査ガイドに示されたとおり設定	計算モデル	外部遮蔽厚さ	ドーム部：約1.2m 円筒部：約1.2m マイナス側許容差については、-5mmを考慮する	審査ガイドに示された評価方法に基づき設定(コンクリート厚の施工誤差を考慮して評価モデルを設定)	中央制御室遮蔽厚さ	壁：約1.2m 天井：約1.2m マイナス側許容差については、-5mmを考慮する	審査ガイドに示されたとおり設定。	評価コード	直接ガンマ線量評価： QAD-CGGP2R コード (QAD-CGGP2R Ver. 1.04)		QAD-CGGP2R 及び SCATTERING は共に3次元形状の運搬解析コードであり、ガンマ線の線量を計算することができる。計算に必要な主な条件は、線源条件、遮蔽体条件であり、これらの条件が与えられれば線量評価は可能である。したがって、設計基準事故を超える事故における線量評価に適用可能である。	スカイシャインガンマ線量評価： SCATTERING コード (SCATTERING Ver. 09m)		QAD-CGGP2R 及び SCATTERING はそれぞれ許認可での使用実績がある。	<p>【女川】型式による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・BWR では、ANISN コードにより天井の遮蔽による減衰を計算し、G33-GP2R コードによりスカイシャイン線を評価するが、PWR の SCATTERING コードでは、遮蔽体をモデル化してスカイシャイン線量を評価可能であるため、BWR のように2つのコードを用いる必要はない</li> <li>【大飯】</li> <li>・大飯は PCCV のため、アニュラスが外部遮蔽の外にあり、アニュラス部を線源とした直接線及びスカイシャイン線の評価において、アニュラス壁の遮蔽を別途評価している。</li> <li>・泊は鋼製 CV の先行実績である高浜3、4号炉と同様の条件である。</li> </ul>
評価条件	取用値	選定理由	審査ガイドでの記載																																																																											
原子炉格納容器内線源強度分布	原子炉格納容器内に放射された核分裂生成物が均一に分布	審査ガイドに示されたとおり設定	4.3(5)a. 原子炉建屋内の放射性物質は、自由空間容積に均一分布するものとして、事故後7日間の積算線源強度を計算する。																																																																											
事故の評価期間	7日	審査ガイドに示されたとおり設定	同上																																																																											
原子炉建屋遮蔽厚さ	PCCVソーム面 PCCV円筒部 原子炉格納容器外壁遮蔽の厚さは、PCCV壁の厚さ(約1.2m)と同等と見做す。PCCV壁の厚さは、PCCV壁の厚さ(約1.2m)と同等と見做す。	4.3(5)a. 原子炉建屋内の放射性物質からのスカイシャインガンマ線及び直接ガンマ線による外部放射線量は、線源線源強度、施設的位置、遮蔽構造及び地形条件から計算する。	同上																																																																											
アニュラス壁厚さ	アニュラス上部：基準しない アニュラス下部：約30mm 施工測定については、30mmを考慮する	設計値に施工誤差(5mm)を考慮	同上																																																																											
項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載																																																																											
線源強度	原子炉建屋原子炉棟内線源強度分布	運転員の交替を考慮した場合の評価をより適切に行えるように設定	4.3 (5)a. 原子炉建屋内の放射性物質は、自由空間容積に均一分布するものとして、事故後7日間の積算線源強度を計算する。																																																																											
	事故の評価期間	7日	審査ガイドに示されたとおり設定																																																																											
計算モデル	原子炉建屋遮蔽厚さ	図 2-1-1 のとおり	4.3 (5)a. 原子炉建屋内の放射性物質からのスカイシャインガンマ線及び直接ガンマ線による外部放射線量は、線源線源強度、施設的位置、遮蔽構造及び地形条件から計算する。																																																																											
	中央制御室遮蔽厚さ	(評価点高さ) 床面上 1.2m	審査ガイドに示された評価方法に基づき設定(コンクリート厚の施工誤差を考慮して評価モデルを設定)																																																																											
	評価点		中央制御室及び中央制御室待避所において、最も線量の高い箇所を選定																																																																											
評価コード	直接ガンマ線： QAD-CGGP2R コード		直接ガンマ線の線量評価に用いる QAD-CGGP2R は三次元形状を、スカイシャインガンマ線の線量評価に用いる ANISN 及び G33-GP2R はそれぞれ一次元、三次元形状を扱う運搬解析コードであり、ガンマ線の線量を計算することができる。計算に必要な主な条件は、線源条件、遮蔽体条件であり、これらの条件が与えられれば線量評価は可能である。したがって、設計基準事故を超える事故における線量評価に適用可能である。																																																																											
	スカイシャインガンマ線： ANISN コード、G33-GP2R コード (参考) 【原子炉格納容器フィルタベント系排気管内の放射性物質からの寄与】 直接ガンマ線： QAD-CGGP2R コード		4.1(2) 実験等を基に検証され、適用範囲の適切なモデルを用いる。QAD-CGGP2R、ANISN 及び G33-GP2R はそれぞれ許認可での使用実績がある。																																																																											
項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載																																																																											
線源強度	原子炉格納容器内線源強度分布	審査ガイドに示されたとおり設定	4.3(5)a. 原子炉建屋内の放射性物質は、自由空間容積に均一分布するものとして、事故後7日間の積算線源強度を計算する。																																																																											
	事故の評価期間	7日	審査ガイドに示されたとおり設定																																																																											
計算モデル	外部遮蔽厚さ	ドーム部：約1.2m 円筒部：約1.2m マイナス側許容差については、-5mmを考慮する	審査ガイドに示された評価方法に基づき設定(コンクリート厚の施工誤差を考慮して評価モデルを設定)																																																																											
	中央制御室遮蔽厚さ	壁：約1.2m 天井：約1.2m マイナス側許容差については、-5mmを考慮する	審査ガイドに示されたとおり設定。																																																																											
評価コード	直接ガンマ線量評価： QAD-CGGP2R コード (QAD-CGGP2R Ver. 1.04)		QAD-CGGP2R 及び SCATTERING は共に3次元形状の運搬解析コードであり、ガンマ線の線量を計算することができる。計算に必要な主な条件は、線源条件、遮蔽体条件であり、これらの条件が与えられれば線量評価は可能である。したがって、設計基準事故を超える事故における線量評価に適用可能である。																																																																											
	スカイシャインガンマ線量評価： SCATTERING コード (SCATTERING Ver. 09m)		QAD-CGGP2R 及び SCATTERING はそれぞれ許認可での使用実績がある。																																																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉				女川原子力発電所2号炉										泊発電所3号炉			相違理由
第6表 直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価に用いる 建屋内の積算線源強度 (3号、4号共通) (7日積算)				表2-1-7 直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価に用いる原子炉建屋原子 炉内の積算線源強度 (1/2) (代替値補正係数を用いて事象を収束する場合)										第2-1-6表 直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価に用いる 原子炉格納容器内の積算線源強度			評価条件による相違 ・評価コードが異なる ため、エネルギーの区 分が異なる。
代表エネルギー (MeV/dis)	エネルギー範囲 (MeV/dis)	原子炉格納容器内 積算線源強度 (MeV)	アンニュラス内 積算線源強度 (MeV)	エネルギー (MeV)	12時間後 始時点	24時間後 始時点	48時間後 始時点	72時間後 始時点	96時間後 始時点	120時間 後時点	144時間 後時点	168時間 後時点	代表エネルギー (MeV/dis)	エネルギー範囲 (MeV/dis)	原子炉格納容器内 積算線源強度 (MeV)		
0.1	$E \leq 0.1$	$2.2 \times 10^{23}$	$2.3 \times 10^{19}$	1.00E+00	1.00E+00	1.00E+00	1.00E+00	1.00E+00	1.00E+00	1.00E+00	1.00E+00	1.00E+00	0.1	$E \leq 0.1$	$1.7 \times 10^{23}$		
0.125	$0.1 < E \leq 0.15$	$2.1 \times 10^{22}$	$2.3 \times 10^{17}$	1.00E+01	1.00E+01	1.00E+01	1.00E+01	1.00E+01	1.00E+01	1.00E+01	1.00E+01	1.00E+01	0.125	$0.1 < E \leq 0.15$	$1.6 \times 10^{22}$		
0.225	$0.15 < E \leq 0.3$	$2.4 \times 10^{23}$	$1.1 \times 10^{19}$	1.00E+02	1.00E+02	1.00E+02	1.00E+02	1.00E+02	1.00E+02	1.00E+02	1.00E+02	1.00E+02	0.225	$0.15 < E \leq 0.3$	$1.9 \times 10^{23}$		
0.375	$0.3 < E \leq 0.45$	$4.1 \times 10^{23}$	$2.0 \times 10^{18}$	1.00E+03	1.00E+03	1.00E+03	1.00E+03	1.00E+03	1.00E+03	1.00E+03	1.00E+03	1.00E+03	0.375	$0.3 < E \leq 0.45$	$3.3 \times 10^{23}$		
0.575	$0.45 < E \leq 0.7$	$1.9 \times 10^{24}$	$9.9 \times 10^{18}$	1.00E+04	1.00E+04	1.00E+04	1.00E+04	1.00E+04	1.00E+04	1.00E+04	1.00E+04	1.00E+04	0.575	$0.45 < E \leq 0.7$	$1.4 \times 10^{24}$		
0.85	$0.7 < E \leq 1$	$1.8 \times 10^{24}$	$7.2 \times 10^{18}$	1.00E+05	1.00E+05	1.00E+05	1.00E+05	1.00E+05	1.00E+05	1.00E+05	1.00E+05	1.00E+05	0.85	$0.7 < E \leq 1$	$1.3 \times 10^{24}$		
1.25	$1 < E \leq 1.5$	$6.4 \times 10^{23}$	$3.4 \times 10^{18}$	1.00E+06	1.00E+06	1.00E+06	1.00E+06	1.00E+06	1.00E+06	1.00E+06	1.00E+06	1.00E+06	1.25	$1 < E \leq 1.5$	$5.0 \times 10^{23}$		
1.75	$1.5 < E \leq 2$	$1.5 \times 10^{23}$	$1.5 \times 10^{18}$	1.00E+07	1.00E+07	1.00E+07	1.00E+07	1.00E+07	1.00E+07	1.00E+07	1.00E+07	1.00E+07	1.75	$1.5 < E \leq 2$	$1.2 \times 10^{23}$		
2.25	$2 < E \leq 2.5$	$9.7 \times 10^{22}$	$3.9 \times 10^{18}$	1.00E+08	1.00E+08	1.00E+08	1.00E+08	1.00E+08	1.00E+08	1.00E+08	1.00E+08	1.00E+08	2.25	$2 < E \leq 2.5$	$7.2 \times 10^{22}$		
2.75	$2.5 < E \leq 3$	$7.9 \times 10^{21}$	$2.5 \times 10^{17}$	1.00E+09	1.00E+09	1.00E+09	1.00E+09	1.00E+09	1.00E+09	1.00E+09	1.00E+09	1.00E+09	2.75	$2.5 < E \leq 3$	$5.8 \times 10^{21}$		
3.5	$3 < E \leq 4$	$8.1 \times 10^{20}$	$2.3 \times 10^{16}$	1.00E+10	1.00E+10	1.00E+10	1.00E+10	1.00E+10	1.00E+10	1.00E+10	1.00E+10	1.00E+10	3.5	$3 < E \leq 4$	$5.8 \times 10^{20}$		
5	$4 < E \leq 6$	$1.5 \times 10^{20}$	$4.0 \times 10^{15}$	1.00E+11	1.00E+11	1.00E+11	1.00E+11	1.00E+11	1.00E+11	1.00E+11	1.00E+11	1.00E+11	5	$4 < E \leq 6$	$1.1 \times 10^{20}$		
7	$6 < E \leq 8$	$1.0 \times 10^{15}$	$2.5 \times 10^7$	1.00E+12	1.00E+12	1.00E+12	1.00E+12	1.00E+12	1.00E+12	1.00E+12	1.00E+12	1.00E+12	7	$6 < E \leq 8$	$2.6 \times 10^{13}$		
9.5	$8 < E$	$1.6 \times 10^{12}$	$3.8 \times 10^6$	1.00E+13	1.00E+13	1.00E+13	1.00E+13	1.00E+13	1.00E+13	1.00E+13	1.00E+13	1.00E+13	9.5	$8 < E$	$4.0 \times 10^{12}$		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>【再掲】</b></p> <p>原子炉格納容器          原子炉格納容器モデル化概略図          線源領域2          線源領域1          アニュラス部モデル化概念図          中央制御室          × 評価点          内は機密に係る事項のため公開できません</p>	<p>図2-1-1 直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の計算モデル (1/2)          評価点の内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> <p>図2-1-2 直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の計算モデル (2/2)</p>	<p>(直接ガンマ線の評価モデル)          評価点①          評価点②          評価点③</p> <p>(スカイシャインガンマ線の評価モデル)          評価点①          評価点②          評価点③</p> <p>第2-1-1図 直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の計算モデル</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>型式の相違</p> <p><b>【大阪】</b>          記載方針の相違          女川実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

第7表(1/2) 中央制御室換気設備条件 (3号、4号共通)

項目	使用値	設定理由	審査ガイドとの関係性
事故時における外気取り込み	評価において考慮せず	評価期間中は外気を遮断することを前提としているため、中央制御室内には放射性物質が外気から直接流入することのみを考慮。	4.2(2)e 原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所の建屋の表面空気中から、次の二つの経路で放射性物質が外気から取り込まれることを仮定する。 一 原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時対策所内に直接流入すること (空気流入) 二 原子炉制御室内に取り込まれる放射性物質の空気流入量は、空気流入率及び原子炉制御室/バウンダリ体積 (容積) を用いて計算する。
外部ガンマ線による全身に対する線量評価時の自由体積	$5.1 \times 10^3 \text{ m}^3$	事故時運転員が立ち入りうる可能性のあるフロアのエアリヤ体積を設定	4.2(2)e 原子炉制御室内に取り込まれる放射性物質の空気流入率は、空気流入率とバウンダリ体積 (容積) を用いて計算する。
空気流入率	$4.9 \times 10^3 \text{ m}^3$ $0.5 \text{ 回/h}$	空気流入率測定試験結果 (0.17 回/h) を基に余裕を見込んだ値として設定 (添付 1-1-5 参照)	4.2(1)b 既設の場合では、空気流入率は、空気流入率測定試験結果を基に設定する。

大飯発電所3 / 4号炉

女川原子力発電所2号炉

表 2-1-6 防護装置の設備条件 (1/3)

項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載
中央制御室換気空調系再循環ファン流量	事故発生から 0分～30分: $0 \text{ m}^3/\text{h}$ 30分～168時間: $8,000 \text{ m}^3/\text{h}$	伊心の著しい損傷が発生した場合には損傷の中央制御室換気空調系のチャールスフィルタ及び高性能エアフィルタにより放射性物質を遮断	4.2(2)c、原子炉制御室内への外気取り込みによる放射性物質の取り込みについては、非常用換気空調設備の設計及び運転条件に基づいて計算する。
中央制御室換気空調系非常用再循環運転の起動遅れ時間	30分	選定した事故シナリオに基づき、非常用電源の復旧を見込んだ作動時間	4.3(3)j、原子炉制御室の非常用換気空調設備の作動については、非常用電源の作動状態を基に設定する。
事故時における再取り込み	事故時運転モード (少量外気取り込み) $500 \text{ m}^3/\text{h}$	審査ガイドに基いて非常用換気空調系から室内に取り入れることを考慮	4.2(2)e、原子炉制御室の建屋の表面空気中から、次の二つの経路で放射性物質が外気から取り込まれることを仮定する。 一 原子炉制御室/緊急時対策所内に直接流入すること (空気流入)
中央制御室換気空調系再循環ファンによる除去効率	事故発生から0～45時間後: $0\%$ 事故発生から47～55時間後: $90\%$ 事故発生から57～168時間後: $0\%$ ※1 稼働管理ベントの運転に伴い評価期間中に放出される放射性物質のうち、大部分が放出される期間 (長時間 (添付資料 2-2-4 図 2-4-8 参照)) に余裕を持たせ、加工設備による正圧化時間を16時間と設定	運用を基に設定。なお、代替稼働モードを用いて事故を収束する見込みの影響に対しては、加工設備の稼働を考慮したものとした。	4.2(2)c、原子炉制御室の建屋の表面空気中から、次の二つの経路で放射性物質が外気から取り込まれることを仮定する。なお、フィルタ効率の設計値を基に設定する。なお、フィルタ効率の設計値を基に設定する。なお、フィルタ効率の設計値を基に設定する。

表 2-1-8 防護装置の設備条件 (2/3)

項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載
中央制御室換気空調系再循環フィルタ装置高性能エアフィルタの除去効率	希ガス: $0\%$ 無機よう素: $0\%$ 有機よう素: $0\%$ 粒子状放射性物質: $99.9\%$	設計値を基に設定	4.2(1)a、ヨウ素類及びエアロゾルのフィルター効率は、使用条件での設計値を基に設定する。なお、フィルター効率の設計値を基に設定し、ヨウ素類の性状を適切に考慮する。
中央制御室換気空調系再循環チャールスフィルタの除去効率	希ガス: $0\%$ 無機よう素: $90\%$ 有機よう素: $90\%$ 粒子状放射性物質: $0\%$	同上	同上
中央制御室バウンダリへの外気の直接流入率	$1.0 \text{ 回/h}$	「原子力発電所中央制御室の居住性に係る助言」に基づく評価手法に基づき、1.2号炉の中央制御室 (空間容積: $14,000 \text{ m}^3$ ) において空気流入率試験を実施した結果、最大で $0.21 \text{ 回/h}$ であり、空気流入率試験では $2.940 \text{ m}^3/\text{h}$ であった。他に2号炉中央制御室 (空間容積: $8,900 \text{ m}^3$ ) のルーフへの空気流入量を $2,940 \text{ m}^3/\text{h}$ と仮定すると、換気中換算で $0.33 \text{ 回/h}$ となるため、概ね評価に $1.0 \text{ 回/h}$ として設定した。	4.2(1)b、既設の場合では、空気流入率は、空気流入率測定試験結果を基に設定する。

泊発電所3号炉

表 2-1-7 表 防護装置の設備条件 (1/2)

項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載
中央制御室換気空調装置非常用循環ファン流量	事故発生から 0分～30分: $0 \text{ m}^3/\text{h}$ 30分～7日: $5.1 \times 10^3 \text{ m}^3/\text{h}$	審査ガイドに示されたとおり作動開始時間については、選定した事故シナリオに基づき、時間遅れを考慮。流量は設計値を基に設定。	4.2(2)e、原子炉制御室内への外気取り込みによる放射性物質の取り込みについては、非常用換気空調設備の設計及び運転条件に基づいて計算する。
中央制御室換気空調装置の起動遅れ時間	300分	選定した事故シナリオに基づき、非常用電源の復旧を見込んだ作動時間	4.3(3)j、原子炉制御室の非常用換気空調設備の作動については、非常用電源の作動状態を基に設定する。
中央制御室換気空調装置微粒子フィルタによる除去効率	希ガス: $0\%$ 無機よう素: $0\%$ 有機よう素: $0\%$ 粒子状放射性物質: $99\%$	審査ガイドに示されたとおり使用条件での設計値を基に設定。(添付資料 2-2-12 参照)	4.3(3)b、ヨウ素類及びエアロゾルのフィルター効率は、使用条件での設計値を基に設定する。なお、フィルター効率の設計値に際し、ヨウ素類の性状を適切に考慮する。
中央制御室換気空調装置による除去効率	希ガス: $0\%$ 無機よう素: $95\%$ 有機よう素: $95\%$ 粒子状放射性物質: $0\%$	審査ガイドに示されたとおり使用条件での設計値を基に設定。(添付資料 2-2-12 参照)	同上
中央制御室バウンダリへの外気の直接流入率	$0.5 \text{ 回/h}$	空気流入率測定試験結果 (0.14 回/h) を基に余裕を見込んだ値として設定	4.2(1)b、既設の場合では、空気流入率は、空気流入率測定試験結果を基に値を設定する。

評価条件による相違  
①の相違

【大飯】  
・評価条件による相違はあるが概ね同等の内容

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由							
項目	使用値	設定理由	審査ガイドとの関係性	項目	使用値	設定理由	審査ガイドとの関係性	項目	使用値	設定理由	審査ガイドとの関係性	相違理由	
中央制御室非常用循環設備フィルタによる除去効率	0~300分: 0% 300分~7日: 99%	設計上期待できる値を設定し、試験による確認値であり、事故時中絶保護できる除去効率であるため、設計値を評価条件として設定 (添付1-2-10参照)	4.2(1)a. ヨウ素類及びエアロゾルのフィルタ効率、使用条件での設計値を基に設定する。なお、フィルタ効率の劣化に際し、ヨウ素類の性状を適切に考慮する。	中央制御室非常用循環設備フィルタによる除去効率	0~300分: 0% 300分~7日: 99%	設計上期待できる値を設定し、試験による確認値であるため、設計値を評価条件として設定 (添付1-2-11参照)	同上	中央制御室非常用循環設備フィルタによる除去効率	0~300分: 0% 300分~7日: 99%	設計上期待できる値を設定し、試験による確認値であるため、設計値を評価条件として設定 (添付1-2-11参照)	同上	4.2(1)a. ヨウ素類及びエアロゾルのフィルタ効率、使用条件での設計値を基に設定する。なお、フィルタ効率の劣化に際し、ヨウ素類の性状を適切に考慮する。	
中央制御室非常用循環設備ファン流量	300分	選定した事故シナリオに基づき、全交流電力電源喪失時において、交流動力電源喪失を想定した起動遅延時間を考慮した値	4.2(1)b. 原子炉制御室の非常用循環設備の起動遅延時間については、非常用電源の稼働状態を基に設定する。	中央制御室非常用循環設備ファン流量	1,385.10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> /h (ただし、300分後に起動)	選定した事故シナリオに基づき、作動時間については、交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失を考慮	4.2(1)c. 原子炉制御室への外気取入による放射性物質の取り込みについては、非常用電源の稼働状態を基に設定する。	中央制御室非常用循環設備ファン流量	50 (評価期間中マスク着用)	性能上期待できる値 (添付1-2-14、添付1-2-15参照)	4.2(1)d. 原子炉制御室/緊急時制御室/緊急時制御室内でマスク着用を考慮する。	ただし、マスクの除去係数について、記載なし。	
入退城に要する時間	入城及び退城でそれぞれ1回当たり、 ・出入管理所に7分とどまるものとする ・制御建屋出入口に5分とどまるものとする	実測値に余裕を持たせ設定		入退城に要する時間	入城及び退城でそれぞれ1回当たり、 ・出入管理所に7分とどまるものとする ・制御建屋出入口に5分とどまるものとする			入退城に要する時間	入城及び退城でそれぞれ1回当たり、 ・出入管理所に7分とどまるものとする ・制御建屋出入口に5分とどまるものとする				
要員の交代	考慮する	運用を基に設定		要員の交代	考慮する	運用を基に設定		要員の交代	考慮する	運用を基に設定			評価条件による相違 ・女川は電動ファン付き全面マスクを用いることで一部期間において防護係数を1000として評価している。  【大飯】 ・評価条件による相違はあるが概ね同等の内容
ヨウ素剤の服用	未考慮	保守的に考慮しないものとした		ヨウ素剤の服用	未考慮	保守的に考慮しないものとした		ヨウ素剤の服用	未考慮	保守的に考慮しないものとした			
マスクの防護係数	入退城時: 50 (1日目のみ、1,000) 中央制御室滞在時: 50 (1日目のみ、1,000)	性能上期待できる値 (添付資料2-2-12参照)。入退城時及び中央制御室滞在時ともにマスクの着用を考慮した。	②運転員はマスクの着用を考慮してもよい。ただしその場合は、実施のための体制を整備すること。	マスクの防護係数	50	性能上期待できる値 (添付1-2-14、添付1-2-15参照)		マスクの防護係数	50	性能上期待できる値 (添付1-2-14、添付1-2-15参照)			
中央制御室の空調パウンダリ体積	中央制御室パウンダリ: 8,900m <sup>3</sup> 中央制御室内待避所: 148m <sup>3</sup>	設計値を基に設定		中央制御室の空調パウンダリ体積	4,000 m <sup>3</sup>	設計値を基に設定		中央制御室の空調パウンダリ体積	4,000 m <sup>3</sup>	設計値を基に設定			
放射性物質のガンマ線による外部被ばくに係る容積	中央制御室パウンダリ: 8,900m <sup>3</sup> 中央制御室内待避所: 148m <sup>3</sup>	同上		放射性物質のガンマ線による外部被ばくに係る容積	3,800 m <sup>3</sup>	事故時運転員が立ち入る可能性がある中央制御室と同フロアのエリア体積を設定。		放射性物質のガンマ線による外部被ばくに係る容積	3,800 m <sup>3</sup>	事故時運転員が立ち入る可能性がある中央制御室と同フロアのエリア体積を設定。			
ヨウ素剤の服用	未考慮	保守的に考慮しないものとした		ヨウ素剤の服用	未考慮	保守的に考慮しないものとした		ヨウ素剤の服用	未考慮	保守的に考慮しないものとした			
要員の交代	考慮する	運用を基に設定		要員の交代	考慮する	運用を基に設定		要員の交代	考慮する	運用を基に設定			
入退城に要する時間	入城及び退城でそれぞれ1回当たり、 ・出入管理建屋入口に10分間とどまるものとする ・中央制御室入口に5分間とどまるものとする			入退城に要する時間	入城及び退城でそれぞれ1回当たり、 ・出入管理建屋入口に10分間とどまるものとする ・中央制御室入口に5分間とどまるものとする			入退城に要する時間	入城及び退城でそれぞれ1回当たり、 ・出入管理建屋入口に10分間とどまるものとする ・中央制御室入口に5分間とどまるものとする				
ヨウ素剤の服用	未考慮	保守的に考慮しないものとした		ヨウ素剤の服用	未考慮	保守的に考慮しないものとした		ヨウ素剤の服用	未考慮	保守的に考慮しないものとした			
要員の交代	考慮する	運用を基に設定		要員の交代	考慮する	運用を基に設定		要員の交代	考慮する	運用を基に設定			
入退城に要する時間	入城及び退城でそれぞれ1回当たり、 ・出入管理建屋入口に10分間とどまるものとする ・中央制御室入口に5分間とどまるものとする			入退城に要する時間	入城及び退城でそれぞれ1回当たり、 ・出入管理建屋入口に10分間とどまるものとする ・中央制御室入口に5分間とどまるものとする			入退城に要する時間	入城及び退城でそれぞれ1回当たり、 ・出入管理建屋入口に10分間とどまるものとする ・中央制御室入口に5分間とどまるものとする				



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

第8表 運転員交代考慮条件 (3号、4号共通)

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
評価条件	使用値	選定理由	審査ガイドでの記載	
中央制御室滞在期間	49時間	運転員の勤務形態として5直2.5交代とし、評価期間中、最大となる班の滞在時間として設定 (添付1-1-6参照)	交代考慮時の原子炉制御室滞在時間について、記載なし	
回数	10回	運転員の勤務形態として5直2.5交代とし、評価期間中、最大となる班の入退城回数として設定 (添付1-1-6参照)	交代考慮時の入退城回数について、記載なし	
入退城	入退城1回あたり、入退城の経路に沿って、 ・正門に3分 ・事務所入り口に3分 ・中央制御室入り口に5分 とどまるものとする。	周辺監視区域境界から制御室入口までを評価対象とし、周辺監視区域から正門、正門から事務所入り口までは車での移動を考慮して、事務所入り口から中央制御室入り口までは徒歩での移動を考慮して設定。	入退城時の滞在時間について、記載なし。	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由	
項目	規定値	設定理由	審査ガイドとの関係性	項目	規定値		設定理由
線量換算係数	成人実効線量換算係数を使用（主な核種を以下に示す） F-131： $2.0 \times 10^8$ Sv/Bq F-132： $3.1 \times 10^{10}$ Sv/Bq F-133： $4.0 \times 10^9$ Sv/Bq F-134： $1.5 \times 10^{10}$ Sv/Bq F-135： $9.2 \times 10^{10}$ Sv/Bq Cs-134： $2.0 \times 10^8$ Sv/Bq Cs-136： $2.8 \times 10^9$ Sv/Bq Cs-137： $3.9 \times 10^8$ Sv/Bq 上記以外の核種はICRP Pub.71等に基づく	ICRP Publication 71等に基づく	線量換算係数について、記載なし。	線量換算係数	成人実効線量換算係数を使用（主な核種を以下に示す） F-131： $2.0 \times 10^8$ Sv/Bq F-132： $3.1 \times 10^{10}$ Sv/Bq F-133： $4.0 \times 10^9$ Sv/Bq F-134： $1.5 \times 10^{10}$ Sv/Bq F-135： $9.2 \times 10^{10}$ Sv/Bq Cs-134： $2.0 \times 10^8$ Sv/Bq Cs-136： $2.8 \times 10^9$ Sv/Bq Cs-137： $3.9 \times 10^8$ Sv/Bq 上記以外の核種はICRP Pub.71等に基づく	ICRP Publication 71等に基づく	線量換算係数について、記載なし。
呼吸率	1.2 m <sup>3</sup> /h	成人活動時の呼吸率を設定 ICRP Publication 71に基づく	呼吸率について、記載なし。	呼吸率	1.2 m <sup>3</sup> /h	成人活動時の呼吸率を設定 ICRP Publication 71に基づく	呼吸率について、記載なし。
地表への沈着速度	1.2 cm/s	評価点での気象条件を積まると地表面沈着速度を基に、湿性沈着を考慮して乾性沈着速度はNUREG/CR-4551 Vol.2 <sup>※1</sup> より設定（添付資料2-16、1-2-17参照）	4.2(2)d 放射性物質の地表面への沈着評価では、地表面への放射性沈着及び降雨による湿性沈着を考慮して地表面沈着濃度を計算する。	地表への沈着速度	エアロゾル粒子：1.2 cm/s 無機よう素：1.2 cm/s 有機よう素： $4.0 \times 10^3$ cm/s 希ガス：沈着なし	線量目標値評価指針（降水時における沈着率は乾燥時の2～3倍大きい）を参考に、湿性沈着を考慮して乾性沈着速度（0.3cm/s）の4倍を設定。乾性沈着速度はNUREG/CR-4551 Vol.2 <sup>※1</sup> 及び NRPB-R322 より設定。（添付資料 2-2-9,2-10,2-11を参照）	4.2(2)d 放射性物質の地表面への沈着評価では、地表面への乾性沈着及び降雨による湿性沈着を考慮して地表面沈着濃度を計算する。

※1 NUREG/CR-4551 Vol.2 "Evaluation of Severe Accident Risks: Quantification of Major Input Parameters"

※2 NUREG/CR-4551 Vol.2 "Evaluation of Severe Accident Risks: Quantification of Major Input Parameters"

表 2-1-9 線量換算係数及び地表面への沈着速度の条件

項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載
線量換算係数	成人実効線量換算係数を使用（主な核種を以下に示す） F-131： $2.0 \times 10^8$ Sv/Bq F-132： $3.1 \times 10^{10}$ Sv/Bq F-133： $4.0 \times 10^9$ Sv/Bq F-134： $1.5 \times 10^{10}$ Sv/Bq F-135： $9.2 \times 10^{10}$ Sv/Bq Cs-134： $2.0 \times 10^8$ Sv/Bq Cs-136： $2.8 \times 10^9$ Sv/Bq Cs-137： $3.9 \times 10^8$ Sv/Bq 上記の核種以外の核種はICRP Publication 71及びICRP Publication 72に基づく	ICRP Publication 71及びICRP Publication 72に基づく	—
呼吸率	1.2 m <sup>3</sup> /h	ICRP Publication 71に基づき、成人活動時の呼吸率を設定	—
地表への沈着速度	エアロゾル粒子：1.2 cm/s 無機よう素：1.2 cm/s 有機よう素： $4.0 \times 10^3$ cm/s 希ガス：沈着なし	線量目標値評価指針（降水時における沈着率は乾燥時の2～3倍大きい）を参考に、湿性沈着を考慮して乾性沈着速度（0.3cm/s）の4倍を設定。乾性沈着速度はNUREG/CR-4551 Vol.2 <sup>※1</sup> 及び NRPB-R322 より設定。（添付資料 2-2-9,2-10,2-11を参照）	4.2(2)d 放射性物質の地表面への沈着評価では、地表面への乾性沈着及び降雨による湿性沈着を考慮して地表面沈着濃度を計算する。

※1 NUREG/CR-4551 Vol.2 "Evaluation of Severe Accident Risks: Quantification of Major Input Parameters"

第 2-1-8 表 線量換算係数及び地表面への沈着速度の条件

項目	評価条件	選定理由	審査ガイドでの記載
線量換算係数	成人実効線量換算係数を使用（主な核種を以下に示す） I-131： $2.0 \times 10^8$ Sv/Bq I-132： $3.1 \times 10^{10}$ Sv/Bq I-133： $4.0 \times 10^9$ Sv/Bq I-134： $1.5 \times 10^{10}$ Sv/Bq I-135： $9.2 \times 10^{10}$ Sv/Bq Cs-134： $2.0 \times 10^8$ Sv/Bq Cs-136： $2.8 \times 10^9$ Sv/Bq Cs-137： $3.9 \times 10^8$ Sv/Bq 上記の核種以外の核種はICRP Publication 71及びICRP Publication 72に基づく	ICRP Publication 71及びICRP Publication 72に基づく	—
呼吸率	1.2 m <sup>3</sup> /h	ICRP Publication 71に基づき、成人活動時の呼吸率を設定	—
地表への沈着速度	1.2 cm/秒	線量目標値評価指針（降水時における沈着率は乾燥時の2～3倍大きい）を参考に、湿性沈着を考慮して乾性沈着速度（0.3cm/s）の4倍を設定。乾性沈着速度はNUREG/CR-4551 Vol.2 <sup>※1</sup> より設定。（添付資料 2-2-15参照）	4.2(2)d 放射性物質の地表面への沈着評価では、地表面への乾性沈着及び降雨による湿性沈着を考慮して地表面沈着濃度を計算する。

※1 NUREG/CR-4551 Vol.2 "Evaluation of Severe Accident Risks: Quantification of Major Input Parameters"

評価条件による相違

評価条件による相違  
 ・女川では有機よう素の沈着速度を別途評価しているが、泊は保守的に他と同じ値を採用している。



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">添付1-2-2</p> <p style="text-align: center;">事故シーケンス選定の考え方について</p> <p>重大事故時の居住性に係る被ばく評価において、評価事象については、有効性評価で想定する格納容器破損モードのうち、中央制御室の運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シーケンスとして、格納容器破損防止対策の有効性評価における雰囲気圧力・温度による静的負荷のうち、格納容器過圧の破損モードにおいて想定している、<b>大破断LOCA時にECCS注入及び格納容器スプレイに失敗するシーケンス</b>を対象としている。</p> <p>中央制御室の被ばく線量は、放出された放射性物質からの線量が支配的であることから、放射性物質の放出量が多くなるシーケンスが中央制御室被ばくの観点から厳しくなるシーケンスである。そこで、放射性物質の放出量を基に中央制御室被ばくの観点から厳しいシーケンスについて以下に示す。</p> <p>ECCS注水機能喪失や全交流動力電源喪失等の炉心損傷防止シーケンスでは、炉心が損傷しないことから大規模な放射性物質の放出はない。一方、炉心が損傷する事象では、大規模な放射性物質の放出が伴うため、被ばく評価上厳しくなる。</p> <p>炉心が損傷する事象としては、<b>大飯発電所3,4号炉の場合、格納容器破損防止対策の有効性に係る格納容器破損モードとして選定される、「大破断LOCA+ECCS注入失敗+格納容器スプレイ失敗」、「全交流動力電源喪失時+補助給水失敗」及び「大破断LOCA+ECCS注入失敗」</b>である。</p> <p>ここで被ばく評価の観点で厳しくなる条件としては、炉心損傷に至るまでの時間が短い場合、格納容器スプレイが失敗する場合及び原子炉格納容器の圧力が高く推移する場合である。</p> <p>炉心損傷に至るまでの時間が短い場合では、アンユラス空気浄化設備の起動によりアンユラス空気浄化設備のフィルタを介して放射性物質の放出が大幅に低減する効果が期待できない時間がある。</p> <p>格納容器スプレイが失敗する場合には、流量が少ない代替スプレイを用いることから、原子炉格納容器内に放出されたよう素やセシウム等の放射性物質を除去する効果が小さくなる。</p> <p>原子炉格納容器圧力が高く推移する場合には、原子炉格納容器貫通部等からの漏えい率が大きくなることから、放射性物質の放出量が多くなる。</p> <p>炉心が損傷する事象として選定した3事象について、具体的な被ばく評価上の条件の相違点及び被ばく評価への影響を第1表にまとめる。</p> <p>第1表のとおり、炉心損傷に至るまでの時間が短い場合、かつ、格納容器スプレイが失敗する場合、かつ、原子炉格納容器圧力が高く推移する場合である「<b>大破断LOCA時にECCS注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事象</b>」が、中央制御室の被ばく評価上最も厳</p>	<p>2-2 事象の選定の考え方について</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合の中央制御室の居住性に係る被ばく評価に当たっては、評価事象として、重大事故等対策の有効性評価において想定する格納容器破損モードのうち、運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シーケンスを選定する必要がある。</p> <p>女川原子力発電所2号炉においては、炉心の著しい損傷が発生した場合の中央制御室の居住性を確認する上で想定する事故シナリオとして、炉心損傷が発生する「大破断LOCA+HPCS失敗+低圧ECCS失敗+全交流動力電源喪失」シナリオを選定した。</p> <p>なお、女川原子力発電所2号炉においては、炉心の著しい損傷が発生したと想定する場合、第一に代替循環冷却系を用いて事象を収束することとなる。しかしながら、被ばく評価においては代替循環冷却系の運転に失敗することも考慮し、原子炉格納容器フィルタベント系を用いてサブプレッションチェンパの排気ラインを使用した格納容器ベントを実施する場合も評価対象とする。</p> <p>1. 事象の概要（格納容器ベント実施時）</p> <p>(1) 大破断LOCAが発生し、原子炉格納容器内に冷却材が大量に漏えいする。</p> <p>(2) 更にHPCS失敗、低圧ECCS失敗、全交流動力電源喪失(SBO)を想定するため、原子炉圧力容器への注水が出来ず炉心損傷に至る。事象発生25分後に低圧代替注水系(常設)(復水移送ポンプ)による原子炉圧力容器への注水を開始することで、原子炉圧力容器破損は回避される。</p> <p>(3) その後、原子炉圧力容器への注水及び格納容器へのスプレイを実施するが、事象発生から約44時間経過した時点で、外部水源注水量限界(サブプレッションプール水位が真空破壊装置下端-0.4m(通常運転水位+約2m))に到達しスプレイを停止する。</p> <p>(4) 格納容器スプレイを停止後、事象発生から約45時間後に原子炉格納容器フィルタベント系を用いたベントを実施する。</p> <p>2. 想定事故シナリオ選定</p> <p>想定事故シナリオ選定については、事故のきっかけとなる起因事象の選定を行い、起因事象に基づく事故シナリオの抽出及び分類を行う。その後、重大事故等対策の有効性評価及び事故シナリオの選定を行う。</p> <p>(1) 起因事象の選定</p> <p>プラントに影響を与える事象について、内部で発生する事象と外部で発生する事象(地震、津波、その他自然現象)をそれぞれ分析し、事故のきっかけとなる事象(起因事象)について選定する。</p> <p>プラント内部で発生する事象については、プラントの外乱となる事象として、従前より許認可解析の対象としてきた事象である運転</p>	<p>2-2 事象の選定の考え方について</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合の居住性に係る被ばく評価において、評価事象については、有効性評価で想定する格納容器破損モードのうち、中央制御室の運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる事故収束に成功した事故シーケンスとして、格納容器破損防止対策の有効性評価における雰囲気圧力・温度による静的負荷のうち、格納容器過圧の破損モードにおいて想定している、<b>大破断LOCA時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故</b>を対象としている。</p> <p>中央制御室の被ばく線量は、放出された放射性物質からの線量が支配的であることから、放射性物質の放出量が多くなるシーケンスが中央制御室被ばくの観点から厳しくなるシーケンスである。そこで、放射性物質の放出量を基に中央制御室被ばくの観点から厳しいシーケンスについて以下に示す。</p> <p>ECCS注水機能喪失や全交流動力電源喪失等の炉心損傷防止シーケンスでは、炉心が損傷しないことから大規模な放射性物質の放出はない。一方、炉心が損傷する事象では、大規模な放射性物質の放出が伴うため、被ばく評価上厳しくなる。</p> <p>炉心が損傷する事象としては、<b>泊発電所3号炉の場合、格納容器破損防止対策の有効性に係る格納容器破損モードとして選定される、「大破断LOCA時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故」、「外部電源喪失時に非常用所内交流電源が喪失し、補助給水機能が喪失する事故」及び「大破断LOCA時に低圧注入機能及び高圧注入機能が喪失する事故」</b>である。</p> <p>ここで被ばく評価の観点で厳しくなる条件としては、炉心損傷に至るまでの時間が短い場合、格納容器スプレイが失敗する場合及び原子炉格納容器の圧力が高く推移する場合である。</p> <p>炉心損傷に至るまでの時間が短い場合では、アンユラス空気浄化設備の起動によりアンユラス空気浄化設備のフィルタを介して放射性物質の放出が大幅に低減する効果が期待できない時間がある。</p> <p>格納容器スプレイが失敗する場合には、流量が少ない代替スプレイを用いることから、原子炉格納容器内に放出されたよう素やセシウム等の放射性物質を除去する効果が小さくなる。</p> <p>原子炉格納容器圧力が高く推移する場合には、原子炉格納容器貫通部等からの漏えい率が大きくなることから、放射性物質の放出量が多くなる。</p> <p>炉心が損傷する事象として選定した3事象について、具体的な被ばく評価上の条件の相違点及び被ばく評価への影響を第2-2-1表にまとめる。</p> <p>第2-2-1表のとおり、炉心損傷に至るまでの時間が短い場合、かつ、格納容器スプレイが失敗する場合、かつ、原子炉格納容器圧力が高く推移する場合である「<b>大破断LOCA時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故</b>」が、中央制御室</p>	<p>【大飯】女川実績の反映</p> <p>【女川】大飯審査実績の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な方針として型式による相違はあるものの、最も被ばく評価が厳しくなるシーケンス(評価対象事象)を選定した考え方を記載していることに差異はない。</li> <li>・泊は本資料において定性的に評価対象事象を選定しているが、女川は「2-20 格納容器雰囲気直接加熱発生時の被ばく評価について」にて選定したシナリオにて被ばく評価を行った評価対象事象を確認している。</li> <li>・選定の考え方が同じである大飯との比較を行う。</li> </ul> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、シーケンス名を有効性評価と整合させたため大飯と表現が異なる。</li> </ul> <p>【大飯】記載表現の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																						
<p>しい結果となる。                  したがって、本評価においては、「大破断LOCA時にECCS注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事象」にて評価を行っている。</p> <table border="1" data-bbox="100 255 683 1316"> <caption>第1表 各シナリオの比較</caption> <thead> <tr> <th>シナリオ</th> <th>大破断LOCA時にECCS注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事象</th> <th>全交流動力電源喪失時に補助給水機能が喪失する事象</th> <th>大破断LOCA時にECCS注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事象</th> <th>中央制御室被ばくへの影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 炉心溶融開始</td> <td>約21分</td> <td>約3.1時間</td> <td>約27分</td> <td>格納容器スプレイが成功することにより、スプレイ水による除去効果が大きくなる。格納容器からの放出量は低減される。失敗の方が厳しい結果となる。</td> </tr> <tr> <td>② 空気浄化設備の作動</td> <td>約21分</td> <td>約3.1時間</td> <td>約27分</td> <td>成功</td> </tr> <tr> <td>③ 原子炉格納容器の圧力</td> <td>約21分</td> <td>約3.1時間</td> <td>約27分</td> <td>成功</td> </tr> </tbody> </table>	シナリオ	大破断LOCA時にECCS注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事象	全交流動力電源喪失時に補助給水機能が喪失する事象	大破断LOCA時にECCS注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事象	中央制御室被ばくへの影響	① 炉心溶融開始	約21分	約3.1時間	約27分	格納容器スプレイが成功することにより、スプレイ水による除去効果が大きくなる。格納容器からの放出量は低減される。失敗の方が厳しい結果となる。	② 空気浄化設備の作動	約21分	約3.1時間	約27分	成功	③ 原子炉格納容器の圧力	約21分	約3.1時間	約27分	成功	<p>時の異常な過渡変化 (外部電源喪失等) 及び設計基準事故 (原子炉冷却材喪失等) を選定する。また、原子炉の運転に影響を与える事象として、非常用交流電源母線の故障、原子炉補機冷却系の故障等を選定する。</p> <p>プラント外部で発生する事象については、地震、津波及び地震・津波以外の自然現象の55事象から、地域性等を考慮して12事象 (洪水、風 (台風)、竜巻、凍結、降水、積雪、落雷、地滑り、火山の影響、生物学的事象、森林火災及び高潮) を選定する。また、設計基準を大幅に超える規模の事象発生を想定した上で、プラントに有意な頻度で影響を与えると考えられる場合は、考慮すべき起因事象とする。</p> <p>(2) 起因事象に基づく事故シナリオの抽出及び分類</p> <p>イベントツリー等により、事故のきっかけとなる事象 (起因事象) を出発点に、事象がどのように進展して最終状態に至るかを、安全機能を有する系統の動作の成否を分岐として樹形状に展開し、事故シナリオを漏れなく抽出する。</p> <p>抽出した事故シナリオを事故進展の特徴によって、表2-2-1のとおりグループ別に分類する。</p> <table border="1" data-bbox="728 742 1310 1109"> <caption>表2-2-1 運転中の炉心損傷に係る事故シナリオグループ</caption> <thead> <tr> <th>出力運転中の炉心損傷に係る事故シナリオグループ</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>崩壊熱除去機能喪失</td> <td>崩壊熱の除去に失敗して炉心損傷に至るグループ</td> </tr> <tr> <td>高圧・低圧注水機能喪失</td> <td>低圧注水に失敗して炉心損傷に至るグループ</td> </tr> <tr> <td>高圧注水・減圧機能喪失</td> <td>高圧注水に失敗して炉心損傷に至るグループ</td> </tr> <tr> <td>全交流動力電源喪失</td> <td>電源を失うことにより炉心損傷に至るグループ</td> </tr> <tr> <td>原子炉停止機能喪失</td> <td>止める機能を喪失して炉心損傷に至るグループ</td> </tr> <tr> <td>LOCA時注水機能喪失</td> <td>LOCA時に注水に失敗して炉心損傷に至るグループ</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 重大事故等対策の有効性評価及び事故シナリオの選定</p> <p>(2) で分類した事故シナリオのうち、出力運転中の原子炉における崩壊熱除去機能喪失、高圧・低圧注水機能喪失、高圧注水・減圧機能喪失、全交流動力電源喪失及び原子炉停止機能喪失については、炉心損傷に至らないため、重大事故等対処設備が機能しても炉心損傷を避けられない事故シナリオは、LOCA時注水機能喪失のみとなる。</p> <p>しかしながら、重大事故等対策の有効性評価においては、格納容器破損モードとして、雰囲気圧力・温度による静的負荷 (格納容器過圧・過温破損) (LOCA時注水機能喪失) に加えて、高圧溶融物放出/格納容器雰囲気直接加熱 (DCH)、原子炉圧力容器外の溶融燃</p>	出力運転中の炉心損傷に係る事故シナリオグループ	概要	崩壊熱除去機能喪失	崩壊熱の除去に失敗して炉心損傷に至るグループ	高圧・低圧注水機能喪失	低圧注水に失敗して炉心損傷に至るグループ	高圧注水・減圧機能喪失	高圧注水に失敗して炉心損傷に至るグループ	全交流動力電源喪失	電源を失うことにより炉心損傷に至るグループ	原子炉停止機能喪失	止める機能を喪失して炉心損傷に至るグループ	LOCA時注水機能喪失	LOCA時に注水に失敗して炉心損傷に至るグループ	<p>の被ばく評価上最も厳しい結果となる。                  したがって、本評価においては、「大破断LOCA時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故」にて評価を行っている。</p> <table border="1" data-bbox="1433 255 1892 1316"> <caption>第2-2-1表 各シナリオの比較</caption> <thead> <tr> <th>シナリオ</th> <th>大破断LOCA時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事故</th> <th>外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、補助給水機能が喪失する事故</th> <th>大破断LOCA時に低圧注入機能及び高圧注入機能が喪失する事故</th> <th>中央制御室被ばくへの影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 炉心溶融開始</td> <td>約19分</td> <td>約3.1時間</td> <td>約21分</td> <td>格納容器スプレイが成功することにより、スプレイ水による除去効果が大きくなる。格納容器からの放出量は低減される。したがって、失敗の方が厳しい結果となる。</td> </tr> <tr> <td>② 空気浄化設備の作動</td> <td>約19分</td> <td>約3.1時間</td> <td>約21分</td> <td>成功</td> </tr> <tr> <td>③ 原子炉格納容器の圧力</td> <td>約19分</td> <td>約3.1時間</td> <td>約21分</td> <td>成功</td> </tr> </tbody> </table>	シナリオ	大破断LOCA時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事故	外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、補助給水機能が喪失する事故	大破断LOCA時に低圧注入機能及び高圧注入機能が喪失する事故	中央制御室被ばくへの影響	① 炉心溶融開始	約19分	約3.1時間	約21分	格納容器スプレイが成功することにより、スプレイ水による除去効果が大きくなる。格納容器からの放出量は低減される。したがって、失敗の方が厳しい結果となる。	② 空気浄化設備の作動	約19分	約3.1時間	約21分	成功	③ 原子炉格納容器の圧力	約19分	約3.1時間	約21分	成功	<p>【大飯】記載表現の相違</p>
シナリオ	大破断LOCA時にECCS注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事象	全交流動力電源喪失時に補助給水機能が喪失する事象	大破断LOCA時にECCS注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事象	中央制御室被ばくへの影響																																																					
① 炉心溶融開始	約21分	約3.1時間	約27分	格納容器スプレイが成功することにより、スプレイ水による除去効果が大きくなる。格納容器からの放出量は低減される。失敗の方が厳しい結果となる。																																																					
② 空気浄化設備の作動	約21分	約3.1時間	約27分	成功																																																					
③ 原子炉格納容器の圧力	約21分	約3.1時間	約27分	成功																																																					
出力運転中の炉心損傷に係る事故シナリオグループ	概要																																																								
崩壊熱除去機能喪失	崩壊熱の除去に失敗して炉心損傷に至るグループ																																																								
高圧・低圧注水機能喪失	低圧注水に失敗して炉心損傷に至るグループ																																																								
高圧注水・減圧機能喪失	高圧注水に失敗して炉心損傷に至るグループ																																																								
全交流動力電源喪失	電源を失うことにより炉心損傷に至るグループ																																																								
原子炉停止機能喪失	止める機能を喪失して炉心損傷に至るグループ																																																								
LOCA時注水機能喪失	LOCA時に注水に失敗して炉心損傷に至るグループ																																																								
シナリオ	大破断LOCA時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ機能が喪失する事故	外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、補助給水機能が喪失する事故	大破断LOCA時に低圧注入機能及び高圧注入機能が喪失する事故	中央制御室被ばくへの影響																																																					
① 炉心溶融開始	約19分	約3.1時間	約21分	格納容器スプレイが成功することにより、スプレイ水による除去効果が大きくなる。格納容器からの放出量は低減される。したがって、失敗の方が厳しい結果となる。																																																					
② 空気浄化設備の作動	約19分	約3.1時間	約21分	成功																																																					
③ 原子炉格納容器の圧力	約19分	約3.1時間	約21分	成功																																																					

泊発電所3号炉 SA基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>料-冷却材相互作用（FCI）、水素燃焼、溶融炉心・コンクリート相互作用（MCCI）の計5つを想定している※1。</p> <p>これらのモードにおける原子炉格納容器の破損防止のための対応は、LOCA時注水機能喪失とDCHに集約されているため、LOCA時注水機能喪失とDCHのうち、運転員の被ばくの観点から結果が厳しくなる事故シーケンスを確認した結果、LOCA時注水機能喪失の方が厳しくなる結果となった（「2-20 格納容器雰囲気直接加熱発生時の被ばく評価について」を参照）。</p> <p>以上より、炉心損傷が発生するLOCA時注水機能喪失を想定事故シナリオとして選定した。</p> <p>なお、前述のとおり、炉心の著しい損傷が発生したと想定する場合、第一には代替循環冷却系を用いて事象を収束することとなる。しかしながら、被ばく評価においては代替循環冷却系の運転に失敗することも考慮し、原子炉格納容器フィルタベント系を用いてサブプレッションチェンパの排気ラインを使用した格納容器ベントを実施する場合も評価対象とした。</p> <p>※1 格納容器破損モード「DCH」、 「FCI」及び「MCCI」は、重大事故等対処設備に期待する場合はこれらの現象の発生を防止することができるが、「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈」第37条2-1(a)において、「必ず想定する格納容器破損モード」として定められているため、評価を成立させるために、重大事故等対処設備の一部に期待しないものとしている。</p>		



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																								
	<p><b>【高浜3, 4号炉まとめ資料 (平成26年2月規制庁公開版)】</b></p> <p>居住性評価に用いる炉心選定の考え方について</p> <p>居住性評価における被ばくについては、一般的に内部被ばくによる寄与が大きい。そのため、<b>重大事故時の居住性評価</b>においては、内部被ばくに着目して炉心を選定している。</p> <p>ウラン燃料炉心<sup>(注1)</sup>及びMOX燃料装荷炉心<sup>(注2)</sup>における炉心内蓄積量及び放出放射エネルギーを第1表及び第2表に示す。</p> <p>MOX燃料装荷炉心では、ウラン燃料炉心に比べ、内部被ばく評価に用いられるI-131等価換算値が大きい。従って、<b>重大事故時の居住性評価</b>においては、MOX燃料装荷炉心を選定している。</p> <p>なお、第2表に示すとおり、大気中へ放出された放射性物質による外部被ばくについては、外部被ばく評価に用いられるγ線エネルギー0.5MeV換算値がほぼ変わらない結果となっている。また、第3表に示すとおり、建屋からのガンマ線による外部被ばくについても、外部被ばく評価に用いられる原子炉格納容器内の7日間積算線源強度がほぼ変わらない結果となっている。</p> <p>第1表 ウラン燃料炉心とMOX燃料装荷炉心の炉心内蓄積量</p> <table border="1" data-bbox="779 831 1261 975"> <tr> <td rowspan="2">MOX燃料装荷炉心</td> <td>γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)</td> <td>約 4.2×10<sup>22</sup></td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (Bq)</td> <td>約 6.2×10<sup>22</sup></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウラン燃料炉心</td> <td>γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)</td> <td>約 4.4×10<sup>22</sup></td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (Bq)</td> <td>約 1.6×10<sup>23</sup></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MOX/ウラン比</td> <td>γ線エネルギー0.5MeV換算 (-)</td> <td>約 96%</td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (-)</td> <td>約 39%</td> </tr> </table> <p>第2表 ウラン燃料炉心とMOX燃料装荷炉心の放出放射エネルギー</p> <table border="1" data-bbox="745 1002 1294 1209"> <thead> <tr> <th></th> <th>アニュラス 部外</th> <th>アニュラス 経由</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">MOX燃料装荷炉心</td> <td>γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)</td> <td>約 4.7×10<sup>14</sup></td> <td>約 8.0×10<sup>15</sup></td> <td>約 8.5×10<sup>15</sup></td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (Bq)</td> <td>約 6.4×10<sup>13</sup></td> <td>約 7.9×10<sup>13</sup></td> <td>約 1.4×10<sup>14</sup></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウラン燃料炉心</td> <td>γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)</td> <td>約 4.7×10<sup>14</sup></td> <td>約 7.9×10<sup>15</sup></td> <td>約 8.4×10<sup>15</sup></td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (Bq)</td> <td>約 4.4×10<sup>13</sup></td> <td>約 7.0×10<sup>13</sup></td> <td>約 1.1×10<sup>14</sup></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MOX/ウラン比</td> <td>γ線エネルギー 0.5MeV換算 (-)</td> <td>約 100.2%</td> <td>約 100.8%</td> <td>約 100.8%</td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (-)</td> <td>約 146%</td> <td>約 113%</td> <td>約 126%</td> </tr> </tbody> </table> <p>第3表 ウラン燃料炉心とMOX燃料装荷炉心の原子炉格納容器内の7日間積算線源強度</p> <table border="1" data-bbox="801 1262 1238 1353"> <thead> <tr> <th>MOX燃料装荷炉心 (MeV)</th> <th>ウラン燃料炉心 (MeV)</th> <th>MOX/ウラン比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>約 4.1×10<sup>24</sup></td> <td>約 4.1×10<sup>24</sup></td> <td>約 100.02%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 燃料集合体最高燃焼度48,000MWD/tまでのウラン燃料を100%装荷した炉心。                  (注2) 炉心の3/4に燃料集合体最高燃焼度48,000MWD/tまでのウラン燃料、1/4に燃料集合体最高燃焼度45,000MWD/tまでのMOX燃料を装荷した炉心。</p>	MOX燃料装荷炉心	γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)	約 4.2×10 <sup>22</sup>	I-131等価換算 (Bq)	約 6.2×10 <sup>22</sup>	ウラン燃料炉心	γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)	約 4.4×10 <sup>22</sup>	I-131等価換算 (Bq)	約 1.6×10 <sup>23</sup>	MOX/ウラン比	γ線エネルギー0.5MeV換算 (-)	約 96%	I-131等価換算 (-)	約 39%		アニュラス 部外	アニュラス 経由	合計	MOX燃料装荷炉心	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)	約 4.7×10 <sup>14</sup>	約 8.0×10 <sup>15</sup>	約 8.5×10 <sup>15</sup>	I-131等価換算 (Bq)	約 6.4×10 <sup>13</sup>	約 7.9×10 <sup>13</sup>	約 1.4×10 <sup>14</sup>	ウラン燃料炉心	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)	約 4.7×10 <sup>14</sup>	約 7.9×10 <sup>15</sup>	約 8.4×10 <sup>15</sup>	I-131等価換算 (Bq)	約 4.4×10 <sup>13</sup>	約 7.0×10 <sup>13</sup>	約 1.1×10 <sup>14</sup>	MOX/ウラン比	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (-)	約 100.2%	約 100.8%	約 100.8%	I-131等価換算 (-)	約 146%	約 113%	約 126%	MOX燃料装荷炉心 (MeV)	ウラン燃料炉心 (MeV)	MOX/ウラン比	約 4.1×10 <sup>24</sup>	約 4.1×10 <sup>24</sup>	約 100.02%	<p>2-3 居住性評価に用いる炉心選定の考え方について</p> <p>居住性評価における被ばくについては、一般的に内部被ばくによる寄与が大きい。そのため、<b>炉心の著しい損傷が発生した場合の居住性評価</b>においては、内部被ばくに着目して炉心を選定している。</p> <p>ウラン燃料炉心<sup>(注1)</sup>及びウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心<sup>(注2)</sup>における炉心内蓄積量及び原子炉格納容器貫通部のエアロゾル粒子に対するDFを1とした場合の放出放射エネルギーを第2-3-1表及び第2-3-2表に示す。</p> <p>ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心では、ウラン燃料炉心に比べ、内部被ばく評価に用いられるI-131等価換算値が大きい。なお、原子炉格納容器貫通部のエアロゾル粒子に対するDFを10とした場合においても、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心の方がI-131等価換算値が大きくなる傾向に影響はない。したがって、<b>炉心の著しい損傷が発生した場合の居住性評価</b>においては、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心を選定している。</p> <p>なお、第2-3-2表に示すとおり、大気中へ放出された放射性物質による外部被ばくについては、外部被ばく評価に用いられるγ線エネルギー0.5MeV換算値がほぼ変わらない結果となっている。また、第2-3-3表に示すとおり、建屋からのガンマ線による外部被ばくについても、外部被ばく評価に用いられる原子炉格納容器内の7日間積算線源強度がほぼ変わらない結果となっている。</p> <p>第2-3-1表 ウラン燃料炉心とウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心の炉心内蓄積量</p> <table border="1" data-bbox="1379 831 1910 975"> <tr> <td rowspan="2">ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心</td> <td>γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)</td> <td>約 4.2E+20</td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (Bq)</td> <td>約 6.6E+20</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウラン燃料炉心</td> <td>γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)</td> <td>約 4.4E+20</td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (Bq)</td> <td>約 2.1E+20</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウラン・プルトニウム混合酸化物/ウラン比</td> <td>γ線エネルギー0.5MeV換算 (-)</td> <td>約 97%</td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (-)</td> <td>約 31%</td> </tr> </table> <p>第2-3-2表 ウラン燃料炉心とウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心の放出放射エネルギー</p> <table border="1" data-bbox="1391 1002 1899 1209"> <thead> <tr> <th></th> <th>アニュラス 部外</th> <th>アニュラス 経由</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心</td> <td>γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)</td> <td>約 4.8E+14</td> <td>約 9.1E+15</td> <td>約 9.6E+15</td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (Bq)</td> <td>約 6.6E+13</td> <td>約 8.3E+13</td> <td>約 1.5E+14</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウラン燃料炉心</td> <td>γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)</td> <td>約 4.8E+14</td> <td>約 9.0E+15</td> <td>約 9.5E+15</td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (Bq)</td> <td>約 4.7E+13</td> <td>約 7.5E+13</td> <td>約 1.2E+14</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウラン・プルトニウム混合酸化物/ウラン比</td> <td>γ線エネルギー 0.5MeV換算 (-)</td> <td>約 100.1%</td> <td>約 100.4%</td> <td>約 100.4%</td> </tr> <tr> <td>I-131等価換算 (-)</td> <td>約 139%</td> <td>約 111%</td> <td>約 122%</td> </tr> </tbody> </table> <p>第2-3-3表 ウラン燃料炉心とウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心の原子炉格納容器内の7日間積算線源強度</p> <table border="1" data-bbox="1447 1262 1854 1353"> <thead> <tr> <th>ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心 (MeV)</th> <th>ウラン燃料炉心 (MeV)</th> <th>ウラン・プルトニウム混合酸化物/ウラン比 (-)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>約 4.18×10<sup>24</sup></td> <td>約 4.20×10<sup>24</sup></td> <td>約 99.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 燃料集合体最高燃焼度55,000 MWD/tまでのウラン燃料を100%装荷した炉心。                  (注2) 炉心の3/4に燃料集合体最高燃焼度55,000 MWD/tまでのウラン燃料、1/4に燃料集合体最高燃焼度45,000 MWD/tまでのウラン・プルトニウム混合酸化物燃料を装荷した炉心。</p>	ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心	γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)	約 4.2E+20	I-131等価換算 (Bq)	約 6.6E+20	ウラン燃料炉心	γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)	約 4.4E+20	I-131等価換算 (Bq)	約 2.1E+20	ウラン・プルトニウム混合酸化物/ウラン比	γ線エネルギー0.5MeV換算 (-)	約 97%	I-131等価換算 (-)	約 31%		アニュラス 部外	アニュラス 経由	合計	ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)	約 4.8E+14	約 9.1E+15	約 9.6E+15	I-131等価換算 (Bq)	約 6.6E+13	約 8.3E+13	約 1.5E+14	ウラン燃料炉心	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)	約 4.8E+14	約 9.0E+15	約 9.5E+15	I-131等価換算 (Bq)	約 4.7E+13	約 7.5E+13	約 1.2E+14	ウラン・プルトニウム混合酸化物/ウラン比	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (-)	約 100.1%	約 100.4%	約 100.4%	I-131等価換算 (-)	約 139%	約 111%	約 122%	ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心 (MeV)	ウラン燃料炉心 (MeV)	ウラン・プルトニウム混合酸化物/ウラン比 (-)	約 4.18×10 <sup>24</sup>	約 4.20×10 <sup>24</sup>	約 99.4%	<p><b>【大飯】記載方針の相違</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、ウラン燃料炉心、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心それぞれの炉心内蓄積量と放出放射エネルギーを評価し、炉心選定の考え方について記載している。</li> <li>・同様の記載がある高浜3, 4号炉のまとめ資料を掲載し比較した。</li> </ul> <p><b>【高浜】記載方針の相違</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は原子炉格納容器のDFが変わった場合の影響について記載した。</li> </ul>
MOX燃料装荷炉心	γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)		約 4.2×10 <sup>22</sup>																																																																																																								
	I-131等価換算 (Bq)	約 6.2×10 <sup>22</sup>																																																																																																									
ウラン燃料炉心	γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)	約 4.4×10 <sup>22</sup>																																																																																																									
	I-131等価換算 (Bq)	約 1.6×10 <sup>23</sup>																																																																																																									
MOX/ウラン比	γ線エネルギー0.5MeV換算 (-)	約 96%																																																																																																									
	I-131等価換算 (-)	約 39%																																																																																																									
	アニュラス 部外	アニュラス 経由	合計																																																																																																								
MOX燃料装荷炉心	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)	約 4.7×10 <sup>14</sup>	約 8.0×10 <sup>15</sup>	約 8.5×10 <sup>15</sup>																																																																																																							
	I-131等価換算 (Bq)	約 6.4×10 <sup>13</sup>	約 7.9×10 <sup>13</sup>	約 1.4×10 <sup>14</sup>																																																																																																							
ウラン燃料炉心	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)	約 4.7×10 <sup>14</sup>	約 7.9×10 <sup>15</sup>	約 8.4×10 <sup>15</sup>																																																																																																							
	I-131等価換算 (Bq)	約 4.4×10 <sup>13</sup>	約 7.0×10 <sup>13</sup>	約 1.1×10 <sup>14</sup>																																																																																																							
MOX/ウラン比	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (-)	約 100.2%	約 100.8%	約 100.8%																																																																																																							
	I-131等価換算 (-)	約 146%	約 113%	約 126%																																																																																																							
MOX燃料装荷炉心 (MeV)	ウラン燃料炉心 (MeV)	MOX/ウラン比																																																																																																									
約 4.1×10 <sup>24</sup>	約 4.1×10 <sup>24</sup>	約 100.02%																																																																																																									
ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心	γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)	約 4.2E+20																																																																																																									
	I-131等価換算 (Bq)	約 6.6E+20																																																																																																									
ウラン燃料炉心	γ線エネルギー0.5MeV換算 (Bq)	約 4.4E+20																																																																																																									
	I-131等価換算 (Bq)	約 2.1E+20																																																																																																									
ウラン・プルトニウム混合酸化物/ウラン比	γ線エネルギー0.5MeV換算 (-)	約 97%																																																																																																									
	I-131等価換算 (-)	約 31%																																																																																																									
	アニュラス 部外	アニュラス 経由	合計																																																																																																								
ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)	約 4.8E+14	約 9.1E+15	約 9.6E+15																																																																																																							
	I-131等価換算 (Bq)	約 6.6E+13	約 8.3E+13	約 1.5E+14																																																																																																							
ウラン燃料炉心	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (Bq)	約 4.8E+14	約 9.0E+15	約 9.5E+15																																																																																																							
	I-131等価換算 (Bq)	約 4.7E+13	約 7.5E+13	約 1.2E+14																																																																																																							
ウラン・プルトニウム混合酸化物/ウラン比	γ線エネルギー 0.5MeV換算 (-)	約 100.1%	約 100.4%	約 100.4%																																																																																																							
	I-131等価換算 (-)	約 139%	約 111%	約 122%																																																																																																							
ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心 (MeV)	ウラン燃料炉心 (MeV)	ウラン・プルトニウム混合酸化物/ウラン比 (-)																																																																																																									
約 4.18×10 <sup>24</sup>	約 4.20×10 <sup>24</sup>	約 99.4%																																																																																																									



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																								
<p>添付1-2-3                      原子炉格納容器への核分裂生成物の放出割合の設定について</p> <p>重大事故等時における居住性に係る被ばく評価では、原子炉格納容器への核分裂生成物の放出割合の設定について、重大事故等時までの洞察を含む米国の代表的なソースタームである NUREG-1465 に示された放出割合、放出時間を用いている。</p> <p>1. NUREG-1465 の放出割合、放出時間の適用性について                      NUREG-1465<sup>1</sup> のソースタームは、燃料被覆管破損時点より、原子炉容器が破損しデブリが炉外に放出される状態に至るまでを対象としたものであり、本評価で想定している事故シーケンスと同様のシーケンスについても対象に含まれている。NUREG-1465 で対象としているシーケンスを第1表に示す。</p> <p>第1表 NUREG-1465 で対象としているシーケンス。</p> <table border="1" data-bbox="190 582 571 1029"> <caption>Table 32 PWR Source Term Contributing Sequences</caption> <thead> <tr> <th>Plant</th> <th>Sequence</th> <th>Description</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">Sary</td> <td>AG</td> <td>LOCA (hot leg), no containment heat removal system</td> </tr> <tr> <td>TMLB<sup>1</sup></td> <td>LOCC, no PCS and no APWS</td> </tr> <tr> <td>V</td> <td>Interfacing system LOCA</td> </tr> <tr> <td>SIB</td> <td>SBO with RCP seal LOCA</td> </tr> <tr> <td>SIB-6</td> <td>SRL/LOCA, no ECCS and H<sub>2</sub> combustion</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">Zuo</td> <td>SIDC1</td> <td>LOCA (F<sup>2</sup>), no ECCS, no CSRS</td> </tr> <tr> <td>SIDCF1</td> <td>LOCA (RCP seal), no ECCS, no containment spray, no coolers—H<sub>2</sub> burn or DCH fails containment</td> </tr> <tr> <td>SIDCF2</td> <td>SIDCF1 except late H<sub>2</sub> or overpressure failure of containment</td> </tr> <tr> <td>TMLU</td> <td>Transient, no PCS, no ECCS, no APWS—DCH fails containment</td> </tr> <tr> <td>Occure 3</td> <td>TMLB<sup>1</sup> SIDCF</td> <td>SBO, no active ESF systems LOCA (F<sup>2</sup>), no ESF systems</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">Sequoyah</td> <td>S3HF1</td> <td>LOCA (RCP), no ECCS, no CSRS with reactor cavity flooded</td> </tr> <tr> <td>S3HF2</td> <td>S3HF1 with hot leg induced LOCA</td> </tr> <tr> <td>S3HF3</td> <td>S3HF1 with dry reactor cavity</td> </tr> <tr> <td>S3B</td> <td>LOCA (F<sup>2</sup>) with SBO</td> </tr> <tr> <td>TBA</td> <td>SBO induces hot leg LOCA—hydrogen burn fails containment</td> </tr> <tr> <td>ACD</td> <td>LOCA (hot leg), no ECCS, no CS</td> </tr> <tr> <td>S3H1</td> <td>SBO delayed RCP seal failure, only steam driven APW egress</td> </tr> <tr> <td>S3HF</td> <td>LOCA (RCP seal), no ECCS, no CSRS</td> </tr> <tr> <td>S3H</td> <td>LOCA (RCP seal) no ECC restoration</td> </tr> <tr> <td>SBO</td> <td>Station Blackout</td> <td>LOCA</td> </tr> <tr> <td>RCP</td> <td>Reactor Coolant Pump</td> <td>LOCA</td> </tr> <tr> <td>PCS</td> <td>Power Conversion System</td> <td>ESF</td> </tr> <tr> <td>CS</td> <td>Containment Spray</td> <td>CSRS</td> </tr> <tr> <td>ATWS</td> <td>Anticipated Transient Without Scram</td> <td>LOOF</td> </tr> </tbody> </table>	Plant	Sequence	Description	Sary	AG	LOCA (hot leg), no containment heat removal system	TMLB <sup>1</sup>	LOCC, no PCS and no APWS	V	Interfacing system LOCA	SIB	SBO with RCP seal LOCA	SIB-6	SRL/LOCA, no ECCS and H <sub>2</sub> combustion	Zuo	SIDC1	LOCA (F <sup>2</sup> ), no ECCS, no CSRS	SIDCF1	LOCA (RCP seal), no ECCS, no containment spray, no coolers—H <sub>2</sub> burn or DCH fails containment	SIDCF2	SIDCF1 except late H <sub>2</sub> or overpressure failure of containment	TMLU	Transient, no PCS, no ECCS, no APWS—DCH fails containment	Occure 3	TMLB <sup>1</sup> SIDCF	SBO, no active ESF systems LOCA (F <sup>2</sup> ), no ESF systems	Sequoyah	S3HF1	LOCA (RCP), no ECCS, no CSRS with reactor cavity flooded	S3HF2	S3HF1 with hot leg induced LOCA	S3HF3	S3HF1 with dry reactor cavity	S3B	LOCA (F <sup>2</sup> ) with SBO	TBA	SBO induces hot leg LOCA—hydrogen burn fails containment	ACD	LOCA (hot leg), no ECCS, no CS	S3H1	SBO delayed RCP seal failure, only steam driven APW egress	S3HF	LOCA (RCP seal), no ECCS, no CSRS	S3H	LOCA (RCP seal) no ECC restoration	SBO	Station Blackout	LOCA	RCP	Reactor Coolant Pump	LOCA	PCS	Power Conversion System	ESF	CS	Containment Spray	CSRS	ATWS	Anticipated Transient Without Scram	LOOF	<p>2-3 核分裂生成物の放出割合について</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合における中央制御室の居住性評価に当たっては、放射性物質の原子炉格納容器外への放出割合をMAAPコードとNUREG-1465 の知見を利用し評価している。</p> <p>大破断LOCA+HPCS 失敗+低圧ECCS 失敗+全交流動力電源喪失するシナリオ(W/Wイベント)でのMAAP 解析による放出割合の評価結果(事故発生から168 時間後時点)を表2-3-3 に示す。ただし、以下に示すとおり、表2-3-3 の値は中央制御室の居住性評価に使用していない。</p> <p>表2-3-3 によると、高揮発性核種(CsI やCsOH)の放出割合(10<sup>-6</sup>オーダー)と比べ、中・低揮発性核種の放出割合が大きい(10<sup>-2</sup>オーダー)という結果となっている。</p> <p>一方、TMI 事故や福島第一原子力発電所事故での観測事実から、事故が起こった場合に最も多く放出される粒子状の物質は、よう素やセシウム等の高揮発性の物質であり、中・低揮発性の物質の放出量は高揮発性の物質と比べ少量であることがわかっている。</p> <p>表2-3-4 は、TMI 事故後に評価された放射性核種の場所ごとの存在量であるが、希ガスや高揮発性核種(セシウムやよう素)が原子炉圧力容器外に全量のうち半分程度放出されている一方で、中・低揮発性核種はほぼ全量が原子炉圧力容器内に保持されているという評価となっている。</p> <p>さらに、表2-3-5 は、福島第一原子力発電所事故後に実施された発電所敷地内の土壤中放射性核種のサンプリング結果であるが、最も多く検出されているのは高揮発性核種(セシウムやよう素)であり、多くの中・低揮発性核種は不検出という結果となっている。</p> <p>また、燃料からの核分裂生成物の放出及び移動挙動に関する実験結果より、各元素の放出挙動は以下のように整理されており<sup>※1</sup>、希ガスが高温で燃料からほぼ全量放出されるのに対し、それ以外の核種の放出挙動は雰囲気条件に依存するとしている。</p> <p>希ガス：高温にて燃料からほぼ全量放出される。                      I, Cs：高温にて燃料からほぼ全量放出される。放出速度は希ガスと同等。                      Sb, Te：高温にて燃料からほぼ全量放出される。また、被覆管と反応した後、被覆管の酸化に伴い放出される。                      Sr, Mo, Ru, Rh, Ba：雰囲気条件(酸化条件or 還元条件)に大きな影響を受ける。                      Ce, Np, Pu, Y, Zr, Nb：高温状態でも放出速度は低い。</p> <p>※1 「化学形に着目した破損燃料からの核分裂生成物及びアクチニドの放出挙動評価のための研究(JAEA-Review 2013-034, 2013年12月)」</p>	<p>2-4 核分裂生成物の放出割合について</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合における居住性に係る被ばく評価では、原子炉格納容器への核分裂生成物の放出割合の設定について、重大事故等時までの洞察を含む米国の代表的なソースタームである NUREG-1465 に示された放出割合、放出時間を用いている。</p> <p>1. NUREG-1465 の放出割合、放出時間の適用性について                      NUREG-1465<sup>1</sup> のソースタームは、燃料被覆管破損時点より、原子炉容器が破損しデブリが炉外に放出される状態に至るまでを対象としたものであり、本評価で想定している事故シーケンスと同様のシーケンスについても対象に含まれている。NUREG-1465 で対象としているシーケンスを第2-4-1表に示す。</p> <p>第2-4-1表 NUREG-1465 で対象としているシーケンス</p> <table border="1" data-bbox="1489 582 1870 1029"> <caption>Table 32 PWR Source Term Contributing Sequences</caption> <thead> <tr> <th>Plant</th> <th>Sequence</th> <th>Description</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">Sary</td> <td>AG</td> <td>LOCA (hot leg), no containment heat removal system</td> </tr> <tr> <td>TMLB<sup>1</sup></td> <td>LOCC, no PCS and no APWS</td> </tr> <tr> <td>V</td> <td>Interfacing system LOCA</td> </tr> <tr> <td>SIB</td> <td>SBO with RCP seal LOCA</td> </tr> <tr> <td>SIB-6</td> <td>SRL/LOCA, no ECCS and H<sub>2</sub> combustion</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">Zuo</td> <td>SIDC1</td> <td>LOCA (F<sup>2</sup>), no ECCS, no CSRS</td> </tr> <tr> <td>SIDCF1</td> <td>LOCA (RCP seal), no ECCS, no containment spray, no coolers—H<sub>2</sub> burn or DCH fails containment</td> </tr> <tr> <td>SIDCF2</td> <td>SIDCF1 except late H<sub>2</sub> or overpressure failure of containment</td> </tr> <tr> <td>TMLU</td> <td>Transient, no PCS, no ECCS, no APWS—DCH fails containment</td> </tr> <tr> <td>Occure 3</td> <td>TMLB<sup>1</sup> SIDCF</td> <td>SBO, no active ESF systems LOCA (F<sup>2</sup>), no ESF systems</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">Sequoyah</td> <td>S3HF1</td> <td>LOCA (RCP), no ECCS, no CSRS with reactor cavity flooded</td> </tr> <tr> <td>S3HF2</td> <td>S3HF1 with hot leg induced LOCA</td> </tr> <tr> <td>S3HF3</td> <td>S3HF1 with dry reactor cavity</td> </tr> <tr> <td>S3B</td> <td>LOCA (F<sup>2</sup>) with SBO</td> </tr> <tr> <td>TBA</td> <td>SBO induces hot leg LOCA—hydrogen burn fails containment</td> </tr> <tr> <td>ACD</td> <td>LOCA (hot leg), no ECCS, no CS</td> </tr> <tr> <td>S3H1</td> <td>SBO delayed RCP seal failure, only steam driven APW egress</td> </tr> <tr> <td>S3HF</td> <td>LOCA (RCP seal), no ECCS, no CSRS</td> </tr> <tr> <td>S3H</td> <td>LOCA (RCP seal) no ECC restoration</td> </tr> <tr> <td>SBO</td> <td>Station Blackout</td> <td>LOCA</td> </tr> <tr> <td>RCP</td> <td>Reactor Coolant Pump</td> <td>LOCA</td> </tr> <tr> <td>PCS</td> <td>Power Conversion System</td> <td>ESF</td> </tr> <tr> <td>CS</td> <td>Containment Spray</td> <td>CSRS</td> </tr> <tr> <td>ATWS</td> <td>Anticipated Transient Without Scram</td> <td>LOOF</td> </tr> </tbody> </table>	Plant	Sequence	Description	Sary	AG	LOCA (hot leg), no containment heat removal system	TMLB <sup>1</sup>	LOCC, no PCS and no APWS	V	Interfacing system LOCA	SIB	SBO with RCP seal LOCA	SIB-6	SRL/LOCA, no ECCS and H <sub>2</sub> combustion	Zuo	SIDC1	LOCA (F <sup>2</sup> ), no ECCS, no CSRS	SIDCF1	LOCA (RCP seal), no ECCS, no containment spray, no coolers—H <sub>2</sub> burn or DCH fails containment	SIDCF2	SIDCF1 except late H <sub>2</sub> or overpressure failure of containment	TMLU	Transient, no PCS, no ECCS, no APWS—DCH fails containment	Occure 3	TMLB <sup>1</sup> SIDCF	SBO, no active ESF systems LOCA (F <sup>2</sup> ), no ESF systems	Sequoyah	S3HF1	LOCA (RCP), no ECCS, no CSRS with reactor cavity flooded	S3HF2	S3HF1 with hot leg induced LOCA	S3HF3	S3HF1 with dry reactor cavity	S3B	LOCA (F <sup>2</sup> ) with SBO	TBA	SBO induces hot leg LOCA—hydrogen burn fails containment	ACD	LOCA (hot leg), no ECCS, no CS	S3H1	SBO delayed RCP seal failure, only steam driven APW egress	S3HF	LOCA (RCP seal), no ECCS, no CSRS	S3H	LOCA (RCP seal) no ECC restoration	SBO	Station Blackout	LOCA	RCP	Reactor Coolant Pump	LOCA	PCS	Power Conversion System	ESF	CS	Containment Spray	CSRS	ATWS	Anticipated Transient Without Scram	LOOF	<p>【女川】大飯実績の反映                      ・女川とは型式が異なるためPWRである大飯の審査実績を反映した。</p> <p>【大飯】記載表現の相違                      ・泊は有効性評価の名称と統一させた。</p>
Plant	Sequence	Description																																																																																																																									
Sary	AG	LOCA (hot leg), no containment heat removal system																																																																																																																									
	TMLB <sup>1</sup>	LOCC, no PCS and no APWS																																																																																																																									
	V	Interfacing system LOCA																																																																																																																									
	SIB	SBO with RCP seal LOCA																																																																																																																									
	SIB-6	SRL/LOCA, no ECCS and H <sub>2</sub> combustion																																																																																																																									
Zuo	SIDC1	LOCA (F <sup>2</sup> ), no ECCS, no CSRS																																																																																																																									
	SIDCF1	LOCA (RCP seal), no ECCS, no containment spray, no coolers—H <sub>2</sub> burn or DCH fails containment																																																																																																																									
	SIDCF2	SIDCF1 except late H <sub>2</sub> or overpressure failure of containment																																																																																																																									
	TMLU	Transient, no PCS, no ECCS, no APWS—DCH fails containment																																																																																																																									
	Occure 3	TMLB <sup>1</sup> SIDCF	SBO, no active ESF systems LOCA (F <sup>2</sup> ), no ESF systems																																																																																																																								
Sequoyah	S3HF1	LOCA (RCP), no ECCS, no CSRS with reactor cavity flooded																																																																																																																									
	S3HF2	S3HF1 with hot leg induced LOCA																																																																																																																									
	S3HF3	S3HF1 with dry reactor cavity																																																																																																																									
	S3B	LOCA (F <sup>2</sup> ) with SBO																																																																																																																									
	TBA	SBO induces hot leg LOCA—hydrogen burn fails containment																																																																																																																									
	ACD	LOCA (hot leg), no ECCS, no CS																																																																																																																									
	S3H1	SBO delayed RCP seal failure, only steam driven APW egress																																																																																																																									
	S3HF	LOCA (RCP seal), no ECCS, no CSRS																																																																																																																									
	S3H	LOCA (RCP seal) no ECC restoration																																																																																																																									
	SBO	Station Blackout	LOCA																																																																																																																								
RCP	Reactor Coolant Pump	LOCA																																																																																																																									
PCS	Power Conversion System	ESF																																																																																																																									
CS	Containment Spray	CSRS																																																																																																																									
ATWS	Anticipated Transient Without Scram	LOOF																																																																																																																									
Plant	Sequence	Description																																																																																																																									
Sary	AG	LOCA (hot leg), no containment heat removal system																																																																																																																									
	TMLB <sup>1</sup>	LOCC, no PCS and no APWS																																																																																																																									
	V	Interfacing system LOCA																																																																																																																									
	SIB	SBO with RCP seal LOCA																																																																																																																									
	SIB-6	SRL/LOCA, no ECCS and H <sub>2</sub> combustion																																																																																																																									
Zuo	SIDC1	LOCA (F <sup>2</sup> ), no ECCS, no CSRS																																																																																																																									
	SIDCF1	LOCA (RCP seal), no ECCS, no containment spray, no coolers—H <sub>2</sub> burn or DCH fails containment																																																																																																																									
	SIDCF2	SIDCF1 except late H <sub>2</sub> or overpressure failure of containment																																																																																																																									
	TMLU	Transient, no PCS, no ECCS, no APWS—DCH fails containment																																																																																																																									
	Occure 3	TMLB <sup>1</sup> SIDCF	SBO, no active ESF systems LOCA (F <sup>2</sup> ), no ESF systems																																																																																																																								
Sequoyah	S3HF1	LOCA (RCP), no ECCS, no CSRS with reactor cavity flooded																																																																																																																									
	S3HF2	S3HF1 with hot leg induced LOCA																																																																																																																									
	S3HF3	S3HF1 with dry reactor cavity																																																																																																																									
	S3B	LOCA (F <sup>2</sup> ) with SBO																																																																																																																									
	TBA	SBO induces hot leg LOCA—hydrogen burn fails containment																																																																																																																									
	ACD	LOCA (hot leg), no ECCS, no CS																																																																																																																									
	S3H1	SBO delayed RCP seal failure, only steam driven APW egress																																																																																																																									
	S3HF	LOCA (RCP seal), no ECCS, no CSRS																																																																																																																									
	S3H	LOCA (RCP seal) no ECC restoration																																																																																																																									
	SBO	Station Blackout	LOCA																																																																																																																								
RCP	Reactor Coolant Pump	LOCA																																																																																																																									
PCS	Power Conversion System	ESF																																																																																																																									
CS	Containment Spray	CSRS																																																																																																																									
ATWS	Anticipated Transient Without Scram	LOOF																																																																																																																									

<sup>1</sup> Accident Source Terms For Light-Water Nuclear Power Plants

<sup>1</sup> Accident Source Terms For Light-Water Nuclear Power Plants



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																						
<p>第2表 原子炉格納容器への放出割合 (NUREG-1465 Table3.13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Gap Release***</th> <th>Early In-Vessel</th> <th>Ex-Vessel</th> <th>Late In-Vessel</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Duration (Hours)</td><td>0.5</td><td>1.3</td><td>2.0</td><td>10.0</td></tr> <tr><td>Noble Gases**</td><td>0.05</td><td>0.95</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>Halogens</td><td>0.05</td><td>0.35</td><td>0.25</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>Alkali Metals</td><td>0.05</td><td>0.25</td><td>0.35</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>Tellurium group</td><td>0</td><td>0.05</td><td>0.25</td><td>0.005</td></tr> <tr><td>Barium, Strontium</td><td>0</td><td>0.02</td><td>0.1</td><td>0</td></tr> <tr><td>Noble Metals</td><td>0</td><td>0.0025</td><td>0.0025</td><td>0</td></tr> <tr><td>Cerium group</td><td>0</td><td>0.0005</td><td>0.005</td><td>0</td></tr> <tr><td>Lanthanides</td><td>0</td><td>0.0002</td><td>0.005</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> <p>● Values shown are fractions of core inventory.              ** See Table 3.8 for a listing of the elements in each group              *** Gap release is 3 percent if long-term fuel cooling is maintained.</p> <p>事象進展の各フェーズは大きく以下のように整理されている。              ・Gap-Release/Early In-Vessel              燃料被覆管損傷後のギャップからの放出 (Gap-Release) と、燃料の溶融に伴う原子炉容器損傷までの炉心からの放出 (Early In-Vessel) を想定。              ・Ex-Vessel/Late In-Vessel              原子炉容器損傷後、炉外の溶融炉心からの放出 (Ex-Vessel) 及び1次系に沈着した核分裂生成物の放出 (Late In-Vessel) を想定。</p> <p>事象が発生してから炉心が溶融を開始し、原子炉容器が破損する事象進展のタイミングについて、MAAP を用いた大飯3号炉及び4号炉の解析結果と NUREG-1465 の想定を比較すると、第3表のとおりとなる。</p> <table border="1"> <caption>第3表 溶融を開始から原子炉容器が破損するまでのタイミングの比較</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>燃料被覆管損傷が開始し、ギャップから放射性物質が放出される期間</th> <th>炉心溶融が開始し、溶融燃料が原子炉容器を破損するまでの期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MAAP</td> <td>0~約21分</td> <td>約21分~約1.4時間</td> </tr> <tr> <td>NUREG-1465</td> <td>0~30分</td> <td>30分~1.8時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>炉心溶融開始および原子炉容器損傷のタイミングについては、ほぼ同じであり、核分裂生成物が大量に放出される初期の事象進展に大きな差はないと判断している。</p> <p>NUREG-1465 のソースタームは、低燃焼度燃料を対象にしている。そのため、米国において、NUREG-1465 のソースターム (以下、「更新ソースターム」という) を高燃焼度燃料及びMOX燃料に適用する場合の課題に関し、1999年に第461回ACRS (Advisory Committee on Reactor Safeguards) 全体会議において議論がなされている。そこでは、ACRS から、高燃焼度燃料及びMOX燃料への適用について判断するためには解析ツールの改良及び実験データの収集が必要とコメントがなされている。これに対し、NRC スタッフは、実質的にソースタームへの影響はないと考えられると説明している。</p> <p>その後、各放出フェーズの継続時間及び各核種グループの放出割合に与える影響等について専門家パネルでの議論が行われており、その結果がERI/NRC02-202<sup>2</sup> (2002年11月)にまとめられ公開されている。</p>		Gap Release***	Early In-Vessel	Ex-Vessel	Late In-Vessel	Duration (Hours)	0.5	1.3	2.0	10.0	Noble Gases**	0.05	0.95	0	0	Halogens	0.05	0.35	0.25	0.1	Alkali Metals	0.05	0.25	0.35	0.1	Tellurium group	0	0.05	0.25	0.005	Barium, Strontium	0	0.02	0.1	0	Noble Metals	0	0.0025	0.0025	0	Cerium group	0	0.0005	0.005	0	Lanthanides	0	0.0002	0.005	0		燃料被覆管損傷が開始し、ギャップから放射性物質が放出される期間	炉心溶融が開始し、溶融燃料が原子炉容器を破損するまでの期間	MAAP	0~約21分	約21分~約1.4時間	NUREG-1465	0~30分	30分~1.8時間	<p>表2-3-3 の評価結果はこれらの観測事実及び実験結果と整合が取れていない。これは、大破断LOCA+HPCS 失敗+低圧ECCS 失敗+全交流動力電源喪失するシナリオにおいては、MAAP 解析が中・低揮発性核種の放出割合を過度に大きく評価しているためであると考えられる。</p> <p>MAAP 解析の持つ保守性としては、炉心が再冠水し溶融炉心の外周部が固化した後でも、燃料デブリ表面からの放射性物質の放出評価において溶融プール中心部の温度を参照し放出量を評価していることや、炉心冠水時において燃料デブリ上部の水によるスクラビング効果を考慮していないことが挙げられる。MAAP コードの開発元であるEPRI から、再冠水した炉心からの低揮発性核種の放出について、MAAP 解析が保守的な結果を与える場合がある旨の以下の報告がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>炉心が再冠水した場合の低揮発性核種 (Ru 及びMo) の放出について、低温の溶融燃料表面付近ではなく、溶融燃料の平均温度を基に放出速度を算出しているため、MAAP 解析が保守的な結果を与える場合がある。</li> <li>Mo の放出量評価について、NUREG-1465 よりもMAAP コードの方が放出量を多く評価する。</li> </ul> <p>なお、高揮発性核種 (セシウムやヨウ素) については、炉心溶融初期に炉心外に放出されるため、上述の保守性の影響は受けにくいものと考えられる。</p> <p>以上のことから、大破断LOCA+HPCS 失敗+低圧ECCS 失敗+全交流動力電源喪失するシナリオにおいて中・低揮発性核種の放出割合を評価する際、単にMAAP 解析による評価結果を採用すると、放出割合として過度に保守的な結果を与える可能性があるため、他の手法を用いた評価が必要になると考えられる。</p> <p>そこで、炉心の著しい損傷が発生した場合における中央制御室の居住性を評価する際は、MAAP 解析による放出割合の評価結果以外に、海外での規制等にも活用されているNUREG-1465 (米国の原子力規制委員会 (NRC) で整備されたものであり、米国でもシビアアクシデント時の典型的な例として、中央制御室の居住性等の様々な評価で使用されている) の知見を利用するものとした。このことにより、TMI 事故や福島第一原子力発電所事故の実態により見合った評価が可能となる。</p> <p>なお、事故シーケンス「大破断LOCA+HPCS 失敗+低圧ECCS 失敗+全交流動力電源喪失」において、原子炉注水機能が使用できないものと仮定した場合における、炉心損傷開始から、原子炉圧力容器が破損するまでのMAAP 解析事象進展 (炉心の著しい損傷が発生した場合における中央制御室の居住性評価における想定事故シナリオでは、当該事故シーケンスにおいて原子炉注水機能を使用することにより原子炉圧力容器破損には至らない) とNUREG-1465 の想定と比較は表2-3-1のとおりであり、NUREG-1465 の想定とMAAP 解析の事象進展に大きな差はなく、本評価においてNUREG-1465 の知見は使用可能と判断した。</p> <p>NUREG-1465 の知見を利用した場合の放出割合の評価結果を表2-3-6</p>	<p>第2-4-2表 原子炉格納容器への放出期間及び放出割合 (NUREG-1465 Table3.13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Gap Release***</th> <th>Early In-Vessel</th> <th>Ex-Vessel</th> <th>Late In-Vessel</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Duration (Hours)</td><td>0.5</td><td>1.3</td><td>2.0</td><td>10.0</td></tr> <tr><td>Noble Gases**</td><td>0.05</td><td>0.95</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>Halogens</td><td>0.05</td><td>0.35</td><td>0.25</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>Alkali Metals</td><td>0.05</td><td>0.25</td><td>0.35</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>Tellurium group</td><td>0</td><td>0.05</td><td>0.25</td><td>0.005</td></tr> <tr><td>Barium, Strontium</td><td>0</td><td>0.02</td><td>0.1</td><td>0</td></tr> <tr><td>Noble Metals</td><td>0</td><td>0.0025</td><td>0.0025</td><td>0</td></tr> <tr><td>Cerium group</td><td>0</td><td>0.0005</td><td>0.005</td><td>0</td></tr> <tr><td>Lanthanides</td><td>0</td><td>0.0002</td><td>0.005</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> <p>● Values shown are fractions of core inventory.              ** See Table 3.8 for a listing of the elements in each group              *** Gap release is 3 percent if long-term fuel cooling is maintained.</p> <p>事象進展の各フェーズは大きく以下のように整理されている。              ・Gap-Release/Early In-Vessel              燃料被覆管損傷後のギャップからの放出 (Gap-Release) と、燃料の溶融に伴う原子炉容器損傷までの炉心からの放出 (Early In-Vessel) を想定。              ・Ex-Vessel/Late In-Vessel              原子炉容器損傷後、炉外の溶融炉心からの放出 (Ex-Vessel) 及び1次系に沈着した核分裂生成物の放出 (Late In-Vessel) を想定。</p> <p>事象が発生してから炉心が溶融を開始し、原子炉容器が破損する事象進展のタイミングについて、MAAP を用いた泊発電所3号炉の解析結果と NUREG-1465 の想定を比較すると、第2-4-3表のとおりとなる。</p> <table border="1"> <caption>第2-4-3表 溶融開始から原子炉容器が破損するまでのタイミング比較</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>燃料被覆管損傷が開始し、ギャップから放射性物質が放出される期間</th> <th>炉心溶融が開始し、溶融燃料が原子炉容器を破損するまでの期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MAAP 解析結果</td> <td>0~約19分</td> <td>約19分~約1.6時間</td> </tr> <tr> <td>NUREG-1465</td> <td>0~30分</td> <td>30分~1.8時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>炉心溶融開始及び原子炉容器損傷のタイミングについては、ほぼ同じであり、核分裂生成物が大量に放出される初期の事象進展に大きな差はないと判断している。</p> <p>NUREG-1465 のソースタームは、低燃焼度燃料を対象にしている。そのため、米国において、NUREG-1465 のソースターム (以下、「更新ソースターム」という) を高燃焼度燃料及びウラン・プルトニウム混合酸化物燃料に適用する場合の課題に関し、1999年に第461回ACRS (Advisory Committee on Reactor Safeguards) 全体会議において議論がなされている。そこでは、ACRS から、高燃焼度燃料及びウラン・プルトニウム混合酸化物燃料への適用について判断するためには解析ツールの改良及び実験データの収集が必要とコメントがなされている。これに対し、NRC スタッフは、実質的にソースタームへの影響はないと考えられると説明している。</p> <p>その後、各放出フェーズの継続時間及び各核種グループの放出割合に与える影響等について専門家パネルでの議論が行われており、その結果がERI/NRC 02-202<sup>2</sup> (2002年11月)にまとめられ公開されている。</p>		Gap Release***	Early In-Vessel	Ex-Vessel	Late In-Vessel	Duration (Hours)	0.5	1.3	2.0	10.0	Noble Gases**	0.05	0.95	0	0	Halogens	0.05	0.35	0.25	0.1	Alkali Metals	0.05	0.25	0.35	0.1	Tellurium group	0	0.05	0.25	0.005	Barium, Strontium	0	0.02	0.1	0	Noble Metals	0	0.0025	0.0025	0	Cerium group	0	0.0005	0.005	0	Lanthanides	0	0.0002	0.005	0		燃料被覆管損傷が開始し、ギャップから放射性物質が放出される期間	炉心溶融が開始し、溶融燃料が原子炉容器を破損するまでの期間	MAAP 解析結果	0~約19分	約19分~約1.6時間	NUREG-1465	0~30分	30分~1.8時間	<p>【女川】大飯実績の反映</p> <p>【大飯】個別解析による相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p>
	Gap Release***	Early In-Vessel	Ex-Vessel	Late In-Vessel																																																																																																																					
Duration (Hours)	0.5	1.3	2.0	10.0																																																																																																																					
Noble Gases**	0.05	0.95	0	0																																																																																																																					
Halogens	0.05	0.35	0.25	0.1																																																																																																																					
Alkali Metals	0.05	0.25	0.35	0.1																																																																																																																					
Tellurium group	0	0.05	0.25	0.005																																																																																																																					
Barium, Strontium	0	0.02	0.1	0																																																																																																																					
Noble Metals	0	0.0025	0.0025	0																																																																																																																					
Cerium group	0	0.0005	0.005	0																																																																																																																					
Lanthanides	0	0.0002	0.005	0																																																																																																																					
	燃料被覆管損傷が開始し、ギャップから放射性物質が放出される期間	炉心溶融が開始し、溶融燃料が原子炉容器を破損するまでの期間																																																																																																																							
MAAP	0~約21分	約21分~約1.4時間																																																																																																																							
NUREG-1465	0~30分	30分~1.8時間																																																																																																																							
	Gap Release***	Early In-Vessel	Ex-Vessel	Late In-Vessel																																																																																																																					
Duration (Hours)	0.5	1.3	2.0	10.0																																																																																																																					
Noble Gases**	0.05	0.95	0	0																																																																																																																					
Halogens	0.05	0.35	0.25	0.1																																																																																																																					
Alkali Metals	0.05	0.25	0.35	0.1																																																																																																																					
Tellurium group	0	0.05	0.25	0.005																																																																																																																					
Barium, Strontium	0	0.02	0.1	0																																																																																																																					
Noble Metals	0	0.0025	0.0025	0																																																																																																																					
Cerium group	0	0.0005	0.005	0																																																																																																																					
Lanthanides	0	0.0002	0.005	0																																																																																																																					
	燃料被覆管損傷が開始し、ギャップから放射性物質が放出される期間	炉心溶融が開始し、溶融燃料が原子炉容器を破損するまでの期間																																																																																																																							
MAAP 解析結果	0~約19分	約19分~約1.6時間																																																																																																																							
NUREG-1465	0~30分	30分~1.8時間																																																																																																																							

<sup>2</sup> ACCIDENT SOURCE TERMS FOR LIGHT-WATER NUCLEAR POWER PLANTS: HIGH BURNUP AND MIXED OXIDE FUELS

<sup>2</sup> ACCIDENT SOURCE TERMS FOR LIGHT-WATER NUCLEAR POWER PLANTS: HIGH BURNUP AND MIXED OXIDE FUELS



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由									
<p>この議論の結果として、以下に示す通り、解決すべき懸案事項が挙げられているものの、高燃焼度燃料及びMOX燃料に対しても更新ソースタームの適用について否定されているものではない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Finally, there is a general expectation that the physical and chemical forms of the revised source terms as defined in NUREG-1465 are applicable to high burnup and MOX fuels. (ERI/NRC 02-202 第4章)</p> </div> <p>議論された高燃焼度燃料は、燃料集合体の最大燃焼度 75 GwD/t、炉心平均燃焼度 50 GwD/t を対象としている。</p> <p>専門家パネルの議論の結論として示された、各フェーズの継続時間及び格納容器内への放出割合について、別紙1の第1-1表に示す(ERI/NRC 02-202 Table 3.1)。表のカッコ内の数値は、NUREG-1465の値を示している。また、複数の数値が同一の欄に併記されているのは、パネル内で単一の数値が合意されなかった場合における各専門家の推奨値である。それぞれの核種について NUREG-1465 と全く一致しているとは限らないが、NUREG-1465 から大きく異なるような数値は提案されていない。</p> <p>以上の議論の結果として、ERI/NRC 02-202 では、引用した英文のとおり高燃焼度燃料に対しても NUREG-1465 のソースタームを適用できるものと結論付けている。</p> <p>なお、米国の規制基準である Regulatory Guide の1.183 においては、NUREG-1465 記載の放出割合を燃料棒で最大 62GWd/t までの燃焼度の燃料まで適用できるものと定めている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>3.2 Release Fractions<sup>18</sup></b></p> <p>The core inventory release fractions, by radionuclide groups, for the gap release and early in-vessel damage phases for DBA LOCAs are listed in Table 1 for BWRs and Table 2 for PWRs. These fractions are applied to the equilibrium core inventory described in Regulatory Position 3.1.</p> <p>For non-LOCA events, the fractions of the core inventory assumed to be in the gap for the various radionuclides are given in Table 3. The release fractions from Table 3 are used in conjunction with the fission product inventory calculated with the maximum core radial peaking factor.</p> <p><small><sup>18</sup> The release fractions listed here have been determined to be acceptable for use with currently approved LWR fuel with a peak burnup up to 62,000 MWD/MTU. The data in this section may not be applicable to cores containing mixed oxide (MOX) fuel.</small></p> </div> <p>その後更新ソースタームを高燃焼度燃料に適用する場合の課題に対して検討が行われており、2011年1月には、サンディア国立研究所から報告書が出されている。(SAND2011-0128<sup>3</sup>)</p> <p>高燃焼度燃料の放出割合は、別紙1の第1-2表に示すとおり、低燃焼度燃料のそれと著しく異なるものではないことが示されている。このことから、現段階においては、NUREG-1465 の高燃焼度燃料の適用について否定されるものではないと考える。第4表にそれらのデータを整理する。</p> <div style="font-size: small; margin-top: 10px;"> <p>3 Accident Source Terms for Light-Water Nuclear Power Plants Using High-Burnup or MOX Fuel</p> </div>	<p>に示す。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>表2-3-1 MAAP 解析事象進展と NUREG-1465 の想定と比較</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td></td> <td>燃料被覆管の損傷が開始し、ギャップからの放射性物質が放出される期間</td> <td>炉心溶融が開始し、溶融燃料が原子炉圧力容器を破損するまでの期間</td> </tr> <tr> <td>MAAP</td> <td>約5分～約30分<sup>※1</sup></td> <td>約30分～約3.0時間<sup>※2</sup></td> </tr> <tr> <td>NUREG-1465</td> <td>～30分</td> <td>30分～2時間</td> </tr> </table> <p><small>※1 炉心損傷開始（燃料被覆管温度 1000K）～炉心溶融開始（燃料被覆管温度 2500K）                  ※2 原子炉注水機能が使用できないものと仮定した場合における原子炉圧力容器破損時間</small></p> </div> <p>各MAAP 核種グループの放出割合の具体的な評価方法は以下に示すとおり。</p> <p>1. 希ガスグループ、CsI グループ、CsOH グループ</p> <p>希ガスを含めた高揮発性の核種グループについては、原子炉格納容器フィルタバント系への放出割合、原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟への漏えい割合ともにMAAP 解析の結果得られた放出割合を採用する。</p> <p>なお、Cs の放出割合はCsI グループとCsOH グループの放出割合<sup>※1</sup> <sup>※2</sup> 及びI 元素とCs 元素の停止時炉内内蔵量より、以下の式を用いて評価する。</p> $F_{Cs}(T) = F_{CsOH}(T) + M_I/M_{Cs} \times W_{Cs}/W_I \times (F_{CsI}(T) - F_{CsOH}(T))$ <p style="font-size: small;"> <math>F_{Cs}(T)</math> : 時刻 T におけるセシウムの放出割合  <math>F_{CsOH}(T)</math> : 時刻 T における CsOH グループの放出割合  <math>F_{CsI}(T)</math> : 時刻 T における CsI グループの放出割合  <math>M_I</math> : 停止直後の I 元素の炉心内内蔵重量  <math>M_{Cs}</math> : 停止直後の Cs 元素の炉心内内蔵重量  <math>W_I</math> : I の原子量  <math>W_{Cs}</math> : Cs の原子量                 </p> <p>※1 MAAP コードでは化学的・物理的性質を考慮し核種をグループ分けしており、各グループの放出割合は、当該グループの停止時炉内内蔵量と放出重量の比をとることで評価している。</p> <p>※2 各核種グループの停止時炉内内蔵量は以下の手順により評価している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ORIGEN コードにより核種ごとの初期重量を評価する。</li> <li>② ①の評価をもとに、同位体の重量を足し合わせ、各元素の重量を評価する。</li> <li>③ ②の結果をMAAP コードにインプットし、MAAP コードにて、各元素の化合物の重量を評価する。</li> <li>④ 各化合物は表2-3-2 に示す核種グループに属するものとして整理している。核種グループの炉内内蔵量は、当該の核種グループに属する化合物の炉内内蔵量の和として評価している。</li> </ol>		燃料被覆管の損傷が開始し、ギャップからの放射性物質が放出される期間	炉心溶融が開始し、溶融燃料が原子炉圧力容器を破損するまでの期間	MAAP	約5分～約30分 <sup>※1</sup>	約30分～約3.0時間 <sup>※2</sup>	NUREG-1465	～30分	30分～2時間	<p>この議論の結果として、以下に示す通り、解決すべき懸案事項が挙げられているものの、高燃焼度燃料及びウラン・プルトニウム混合酸化物燃料に対しても更新ソースタームの適用について否定されているものではない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Finally, there is a general expectation that the physical and chemical forms of the revised source terms as defined in NUREG-1465 are applicable to high burnup and MOX fuels. (ERI/NRC 02-202 第4章)</p> </div> <p>議論された高燃焼度燃料は、燃料集合体の最大燃焼度 75GwD/t、炉心平均燃焼度 50GwD/t を対象としている。</p> <p>専門家パネルの議論の結論として示された、各フェーズの継続時間及び格納容器内への放出割合について、別紙1の第2-4-1-1表及び第2-4-1-2表に示す(ERI/NRC 02-202 Table 3.1 及び Table 3.12)。表のカッコ内の数値は、NUREG-1465 の値を示している。また、複数の数値が同一の欄に併記されているのは、パネル内で単一の数値が合意されなかった場合における各専門家の推奨値である。それぞれの核種について NUREG-1465 と全く一致しているとは限らないが、NUREG-1465 から大きく異なるような数値は提案されていない。</p> <p>以上の議論の結果として、ERI/NRC 02-202 では、引用した英文のとおり高燃焼度燃料に対しても NUREG-1465 のソースタームを適用できるものと結論付けている。</p> <p>なお、米国の規制基準である Regulatory Guide の1.183 においては、NUREG-1465 記載の放出割合を燃料棒で最大 62GWd/t までの燃焼度の燃料まで適用できるものと定めている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>3.2 Release Fractions<sup>18</sup></b></p> <p>The core inventory release fractions, by radionuclide groups, for the gap release and early in-vessel damage phases for DBA LOCAs are listed in Table 1 for BWRs and Table 2 for PWRs. These fractions are applied to the equilibrium core inventory described in Regulatory Position 3.1.</p> <p>For non-LOCA events, the fractions of the core inventory assumed to be in the gap for the various radionuclides are given in Table 3. The release fractions from Table 3 are used in conjunction with the fission product inventory calculated with the maximum core radial peaking factor.</p> <p><small><sup>18</sup> The release fractions listed here have been determined to be acceptable for use with currently approved LWR fuel with a peak burnup up to 62,000 MWD/MTU. The data in this section may not be applicable to cores containing mixed oxide (MOX) fuel.</small></p> </div> <p>その後更新ソースタームを高燃焼度燃料やウラン・プルトニウム混合酸化物燃料に適用する場合の課題に対して検討が行われており、2011年1月には、サンディア国立研究所から報告書が出されている(SAND2011-0128<sup>3</sup>)。</p> <p>高燃焼度燃料及びウラン・プルトニウム混合酸化物燃料の放出割合は、別紙1の第2-4-1-3表及び第2-4-1-4表に示すとおり、低燃焼度燃料のそれと著しく異なるものではないことが示されている。このことから、現段階においては、NUREG-1465 の高燃焼度燃料やウラン・プルトニウム混合酸化物燃料の適用について否定されるものではないと考える。第2-4-4表にそれらのデータを整理する。</p> <div style="font-size: small; margin-top: 10px;"> <p><sup>3</sup> Accident Source Terms for Light-Water Nuclear Power Plants Using High-Burnup or MOX Fuel</p> </div>	<p>【女川】大飯実績の反映</p> <p>【大飯】記載方針の相違                  ・泊は添付2-1に示した通り、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料装荷炉心を選定しているため、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料について記載している（以降、「選定した炉心の相違」と記載する。）。</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違</p>
	燃料被覆管の損傷が開始し、ギャップからの放射性物質が放出される期間	炉心溶融が開始し、溶融燃料が原子炉圧力容器を破損するまでの期間										
MAAP	約5分～約30分 <sup>※1</sup>	約30分～約3.0時間 <sup>※2</sup>										
NUREG-1465	～30分	30分～2時間										



第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																								
<p>第4表 全放出期間での格納容器への放出割合の整理</p> <table border="1" data-bbox="212 199 645 347"> <thead> <tr> <th></th> <th>NUREG-1465</th> <th>ERI/NRC 02-202 (高燃焼燃料)*</th> <th>SAND 2011-0128 (高燃焼燃料)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希ガス類</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.97</td> </tr> <tr> <td>よう素類</td> <td>0.75</td> <td>0.85</td> <td>0.60</td> </tr> <tr> <td>Cs類</td> <td>0.75</td> <td>0.75</td> <td>0.31</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 複数の値が提示されているため、平均値を使用した。</p> <p>以上のように、解決すべき懸案事項があるものの、現在の知見では、高燃焼度燃料燃料に対しても更新ソースタームを否定されているものではないことがRegulatory Guide 1.183、ERI/NRC 02-202 及び Sandia Report に示されている。</p> <p>大飯 3,4 号炉の燃料集合体（ウラン燃料）の最高燃焼度は、55 GWd/t であることから、ERI/NRC 02-202 における適用範囲、燃料集合体の最高燃焼度 75 GWd/t 及び Sandia Report の適用範囲、燃料集合体の最高燃焼度 59GWd/t と比較し適用範囲内にある。また、大飯 3,4 号炉の燃料棒の最高燃焼度は 61GWd/t であり、Regulatory Guide 1.183 に示される適用範囲、燃料棒の最高燃焼度 62GWd/t の範囲内にある。このため、大飯 3,4 号炉に対し、使用を否定されていない更新ソースタームの適用は可能と判断される。</p> <p><b>【高浜3, 4号炉まとめ資料（平成26年2月規制庁公開版）】</b>          ERI/NRC 02-202 に示された放出割合の数値については、専門家の意見も分かれていること、Sandia Report 記載の数値についても、MOX 燃料については単一の格納容器の型式を対象とした解析にとどまっており、米国 NRC にオーソライズされたものではないことを考慮し、今回の評価においては、NUREG-1465 の数値を用いた。</p> <p>2. 各核種グループの内訳について          NUREG-1465 の高燃焼度燃料の適用については、前述のとおり、現在の知見では、否定されるものではないものの、高燃焼度燃料に対する NUREG-1465 の適用に関する専門家での議論の中で、NUREG-1465 に比べて大きな放出割合が提案されている核種グループもある。本評価で用いたモデルでの評価において、各核種グループの内訳を確認する。</p> <p>環境に放出される放射性物質に対する核種グループの内訳及び原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室入退城時の直接及びスカイシャイン線量に対する核種グループの内訳をそれぞれ第5表及び第6表に示す。高燃焼度燃料に対する NUREG-1465 の適用に関する専門家での議論の中で、NUREG-1465 に比べて大きな放出割合が提案されている Te 類や Ru 類については、第5表及び第6表に示すとおり、中央制御室居住性評価における寄与割合は小さく、居住性</p>		NUREG-1465	ERI/NRC 02-202 (高燃焼燃料)*	SAND 2011-0128 (高燃焼燃料)	希ガス類	1.0	1.0	0.97	よう素類	0.75	0.85	0.60	Cs類	0.75	0.75	0.31	<p>表2-3-2 各核種グループの炉内内蔵量</p> <table border="1" data-bbox="728 178 1220 646"> <thead> <tr> <th>核種グループ</th> <th>各核種グループに対応する化合物</th> <th>炉内内蔵量[kg] (安定核種を含む)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希ガス</td> <td>Xe, Kr</td> <td></td> </tr> <tr> <td>CsI</td> <td>CsI, RbI</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TeO<sub>2</sub>, Te<sub>2</sub></td> <td>TeO<sub>2</sub>, Te<sub>2</sub></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SrO</td> <td>SrO</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MoO<sub>2</sub></td> <td>MoO<sub>2</sub>, RuO<sub>2</sub>, TeO<sub>2</sub>, RhO<sub>2</sub></td> <td></td> </tr> <tr> <td>CsOH</td> <td>CsOH, RbOH</td> <td></td> </tr> <tr> <td>BaO</td> <td>BaO</td> <td></td> </tr> <tr> <td>La<sub>2</sub>O<sub>3</sub></td> <td>La<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, Pr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, Nd<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, Sm<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, Y<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, ZrO<sub>2</sub>, Nb<sub>2</sub>O<sub>5</sub>, AmO<sub>2</sub>, CmO<sub>2</sub></td> <td></td> </tr> <tr> <td>CoO<sub>2</sub></td> <td>CoO<sub>2</sub>, NiO<sub>2</sub>, PuO<sub>2</sub></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Sb</td> <td>Sb</td> <td></td> </tr> <tr> <td>UO<sub>2</sub></td> <td>UO<sub>2</sub></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※表中に示すTe<sub>2</sub>の炉内内蔵量[kg]は、停止時に炉内に存在するTe元素の全量がTe<sub>2</sub>の形態で存在する場合の値に相当する。</p> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> <p>2. それ以外の核種グループ          中・低揮発性の核種グループについてはMAAP 解析の結果得られた放出割合は採用せず、MAAP 解析の結果から得られたCsの放出割合、希ガスグループの放出割合及びNUREG-1465 の知見を利用し放出割合を評価する。</p> <p>(1) 原子炉格納容器フィルタベント系への放出割合          放出割合の経時的な振る舞いは希ガスと同一<sup>*1</sup> とし、Cs の放出割合に対する当該核種グループの放出割合の比率が、168 時間経過時点においてNUREG-1465 で得られた比率に等しいとして、以下の評価式に基づき評価した。表2-3-7 及び表2-3-8 にNUREG-1465 で評価された原子炉格納容器内への放出割合を示す。</p>	核種グループ	各核種グループに対応する化合物	炉内内蔵量[kg] (安定核種を含む)	希ガス	Xe, Kr		CsI	CsI, RbI		TeO <sub>2</sub> , Te <sub>2</sub>	TeO <sub>2</sub> , Te <sub>2</sub>		SrO	SrO		MoO <sub>2</sub>	MoO <sub>2</sub> , RuO <sub>2</sub> , TeO <sub>2</sub> , RhO <sub>2</sub>		CsOH	CsOH, RbOH		BaO	BaO		La <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	La <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , Pr <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , Nd <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , Sm <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , Y <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , ZrO <sub>2</sub> , Nb <sub>2</sub> O <sub>5</sub> , AmO <sub>2</sub> , CmO <sub>2</sub>		CoO <sub>2</sub>	CoO <sub>2</sub> , NiO <sub>2</sub> , PuO <sub>2</sub>		Sb	Sb		UO <sub>2</sub>	UO <sub>2</sub>		<p>第2-4-4表 全放出期間での格納容器への放出割合の整理</p> <table border="1" data-bbox="1344 167 1948 343"> <thead> <tr> <th></th> <th>ERI/NRC 02-202 (高燃焼度燃料)*</th> <th>ERI/NRC 02-202 (ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料)*</th> <th>SAND 2011-0128 (高燃焼度燃料)</th> <th>SAND 2011-0128 (ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希ガス類</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.97</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>よう素類</td> <td>0.75</td> <td>0.85</td> <td>0.60</td> <td>0.62</td> </tr> <tr> <td>Cs類</td> <td>0.75</td> <td>0.75</td> <td>0.31</td> <td>0.55</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 複数の値が提示されているため、平均値を使用した。</p> <p>以上のように、解決すべき懸案事項があるものの、現在の知見では、高燃焼度燃料及びウラン・プルトニウム混合酸化物燃料に対しても更新ソースタームを否定されているものではないことがRegulatory Guide 1.183、ERI/NRC 02-202 及び Sandia Report に示されている。</p> <p>泊発電所3号炉の燃料集合体の最高燃焼度は、ウラン燃料で55GWd/t、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料で45GWd/t であることから、ERI/NRC 02-202 における適用範囲、燃料集合体の最高燃焼度75GWd/t 及び Sandia Report の適用範囲、燃料集合体の最高燃焼度59GWd/t と比較し適用範囲内にある。また、泊発電所3号炉の燃料棒の最高燃焼度はウラン燃料で61GWd/t、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料で53GWd/t であり、Regulatory Guide 1.183 に示される適用範囲、燃料棒の最高燃焼度62GWd/t の範囲内にある。このため、泊発電所3号炉に対し、使用を否定されていない更新ソースタームの適用は可能と判断される。</p> <p>ERI/NRC 02-202 に示された放出割合の数値については、専門家の意見も分かれていること、Sandia Report 記載の数値についても、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料については単一の格納容器の型式を対象とした解析にとどまっており、米国 NRC にオーソライズされたものではないことを考慮し、今回の評価においては、NUREG-1465 の数値を用いた。</p> <p>2. 各核種グループの内訳について          NUREG-1465 の高燃焼度燃料及びウラン・プルトニウム混合酸化物燃料の適用については、前述のとおり、現在の知見では、否定されるものではないものの、高燃焼度燃料及びウラン・プルトニウム混合酸化物燃料に対する NUREG-1465 の適用に関する専門家での議論の中で、NUREG-1465 に比べて大きな放出割合が提案されている核種グループもある。本評価で用いたモデルでの評価において、各核種グループの内訳を確認する。</p> <p>環境に放出される放射性物質に対する核種グループの内訳及び原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室入退城時の直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線量に対する核種グループの内訳をそれぞれ第2-4-5表及び第2-4-6表に示す。ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料に対する NUREG-1465 の適用に関する専門家での議論の中で、NUREG-1465 に比べて大きな放出割合が提案されている Te 類や Ru 類については、第2-4-5表及び第2-4-6表に示すとおり、中</p>		ERI/NRC 02-202 (高燃焼度燃料)*	ERI/NRC 02-202 (ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料)*	SAND 2011-0128 (高燃焼度燃料)	SAND 2011-0128 (ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料)	希ガス類	1.0	1.0	0.97	0.96	よう素類	0.75	0.85	0.60	0.62	Cs類	0.75	0.75	0.31	0.55	<p>【女川】大飯実績の反映</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違              ・高浜のまとめ資料を掲載し、比較した。</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違</p> <p>【大飯】選定した炉心の相違</p>
	NUREG-1465	ERI/NRC 02-202 (高燃焼燃料)*	SAND 2011-0128 (高燃焼燃料)																																																																								
希ガス類	1.0	1.0	0.97																																																																								
よう素類	0.75	0.85	0.60																																																																								
Cs類	0.75	0.75	0.31																																																																								
核種グループ	各核種グループに対応する化合物	炉内内蔵量[kg] (安定核種を含む)																																																																									
希ガス	Xe, Kr																																																																										
CsI	CsI, RbI																																																																										
TeO <sub>2</sub> , Te <sub>2</sub>	TeO <sub>2</sub> , Te <sub>2</sub>																																																																										
SrO	SrO																																																																										
MoO <sub>2</sub>	MoO <sub>2</sub> , RuO <sub>2</sub> , TeO <sub>2</sub> , RhO <sub>2</sub>																																																																										
CsOH	CsOH, RbOH																																																																										
BaO	BaO																																																																										
La <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	La <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , Pr <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , Nd <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , Sm <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , Y <sub>2</sub> O <sub>3</sub> , ZrO <sub>2</sub> , Nb <sub>2</sub> O <sub>5</sub> , AmO <sub>2</sub> , CmO <sub>2</sub>																																																																										
CoO <sub>2</sub>	CoO <sub>2</sub> , NiO <sub>2</sub> , PuO <sub>2</sub>																																																																										
Sb	Sb																																																																										
UO <sub>2</sub>	UO <sub>2</sub>																																																																										
	ERI/NRC 02-202 (高燃焼度燃料)*	ERI/NRC 02-202 (ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料)*	SAND 2011-0128 (高燃焼度燃料)	SAND 2011-0128 (ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料)																																																																							
希ガス類	1.0	1.0	0.97	0.96																																																																							
よう素類	0.75	0.85	0.60	0.62																																																																							
Cs類	0.75	0.75	0.31	0.55																																																																							



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																								
<p>評価に大きな影響を及ぼすものではない。</p> <p>(1) 環境に放出される放射性物質の内訳について（I-131 等価量換算、<math>\gamma</math>線エネルギー0.5MeV換算）</p> <p>中央制御室内及び入退域時の被ばく評価結果における環境に放出される放射性物質について、NUREG-1465 に示される各核種グループの内訳としてI-131 等価量換算及び<math>\gamma</math>線エネルギー0.5MeV換算の値を第5表に示す。I-131 等価量換算はハロゲン（よう素類）が約62%、Cs 類が約16%、その他が約22%となっており、<math>\gamma</math>線エネルギー0.5MeV換算は希ガス類が約92%、ハロゲン（よう素類）が約6%、Cs 類が約2%、その他が約1%となっている。</p> <p>第5表(1/2) 環境に放出される放射性物質の各核種グループの内訳（I-131 等価量換算）</p> <table border="1" data-bbox="134 566 645 909"> <thead> <tr> <th>核種グループ</th> <th>放出放射能<sup>(注1, 2, 3)</sup> (Bq)</th> <th>内訳 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Xe 類</td><td>約 0.0</td><td>0</td></tr> <tr><td>I 類</td><td>約 7.7×10<sup>13</sup></td><td>62</td></tr> <tr><td>Cs 類</td><td>約 1.9×10<sup>13</sup></td><td>16</td></tr> <tr><td>Te 類</td><td>約 4.2×10<sup>12</sup></td><td>3</td></tr> <tr><td>Ba 類</td><td>約 7.7×10<sup>12</sup></td><td>6</td></tr> <tr><td>Ru 類</td><td>約 4.9×10<sup>11</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ce 類</td><td>約 9.4×10<sup>12</sup></td><td>8</td></tr> <tr><td>La 類</td><td>約 5.7×10<sup>12</sup></td><td>5</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約 1.2×10<sup>14</sup></td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>(注1) 7日間積算放出量                      (注2) 有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                      (注3) 大飯発電所3号炉又は4号炉の1基あたりの放出放射能</p> <p>第5表(2/2) 環境に放出される放射性物質の各核種グループの内訳（<math>\gamma</math>線エネルギー0.5MeV換算）</p> <table border="1" data-bbox="134 1061 645 1404"> <thead> <tr> <th>核種グループ</th> <th>放出放射能<sup>(注1, 2, 3)</sup> (Bq)</th> <th>内訳 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Xe 類</td><td>約 1.0×10<sup>16</sup></td><td>92</td></tr> <tr><td>I 類</td><td>約 6.1×10<sup>14</sup></td><td>6</td></tr> <tr><td>Cs 類</td><td>約 1.7×10<sup>14</sup></td><td>2</td></tr> <tr><td>Te 類</td><td>約 2.9×10<sup>13</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ba 類</td><td>約 2.0×10<sup>13</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ru 類</td><td>約 8.6×10<sup>11</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ce 類</td><td>約 1.3×10<sup>12</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>La 類</td><td>約 3.7×10<sup>12</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約 1.1×10<sup>16</sup></td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>(注1) 7日間積算放出量                      (注2) 有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                      (注3) 大飯発電所3号炉又は4号炉の1基あたりの放出放射能</p>	核種グループ	放出放射能 <sup>(注1, 2, 3)</sup> (Bq)	内訳 (%)	Xe 類	約 0.0	0	I 類	約 7.7×10 <sup>13</sup>	62	Cs 類	約 1.9×10 <sup>13</sup>	16	Te 類	約 4.2×10 <sup>12</sup>	3	Ba 類	約 7.7×10 <sup>12</sup>	6	Ru 類	約 4.9×10 <sup>11</sup>	<1	Ce 類	約 9.4×10 <sup>12</sup>	8	La 類	約 5.7×10 <sup>12</sup>	5	合計	約 1.2×10 <sup>14</sup>	100	核種グループ	放出放射能 <sup>(注1, 2, 3)</sup> (Bq)	内訳 (%)	Xe 類	約 1.0×10 <sup>16</sup>	92	I 類	約 6.1×10 <sup>14</sup>	6	Cs 類	約 1.7×10 <sup>14</sup>	2	Te 類	約 2.9×10 <sup>13</sup>	<1	Ba 類	約 2.0×10 <sup>13</sup>	<1	Ru 類	約 8.6×10 <sup>11</sup>	<1	Ce 類	約 1.3×10 <sup>12</sup>	<1	La 類	約 3.7×10 <sup>12</sup>	<1	合計	約 1.1×10 <sup>16</sup>	100	<p>女川原子力発電所2号炉</p> $F_i(T) = F_{\text{mobile, gas}}(T) \times \gamma_i / \gamma_{\text{Cs}} \times F_{\text{Cs}}(168\text{h}) / F_{\text{mobile, gas}}(168\text{h})$ <p><math>F_i(T)</math> : 時刻 T における i 番目の MAAP 核種グループの放出割合  <math>F_{\text{mobile, gas}}(T)</math> : 時刻 T における希ガスグループの放出割合  <math>\gamma_i</math> : NUREG-1465 における i 番目の MAAP 核種グループに相当する核種グループの原子炉格納容器内への放出割合  <math>\gamma_{\text{Cs}}</math> : NUREG-1465 における Cs に相当する核種グループの格納容器内への放出割合</p> <p>※1 中・低揮発性の核種グループは、事故初期の燃料が高温となっているとき以外はほとんど燃料外に放出されないものと考えられる。そのため、格納容器ベント後の燃料からの追加放出はほとんどなく、事故初期に原子炉格納容器内に放出され、原子炉格納容器気相部に浮遊しているものだけが大气中に放出され得ると考えられる。</p> <p>格納容器ベントに伴い中・低揮発性核種は原子炉格納容器気相部からベントラインに流入するが、その流入の仕方、すなわち放出割合の経時的な振る舞いは、同じく原子炉格納容器気相部に浮遊しており壁面等からの追加放出がない希ガスの放出割合の振る舞いに近いと考えられる。</p> <p>以上のことから、中・低揮発性の核種グループの「各時刻における放出割合」は、「各時刻における希ガスグループの放出割合」に比例するものとした。</p> <p>(2) 原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉棟への漏えい割合</p> <p>放出割合の経時的な振る舞いはCs と同一※2 とし、Cs の放出割合に対する当該核種グループの放出割合の比率は、168 時間経過時点においてNUREG-1465 で得られた比率に等しいとして、以下の評価式に基づき評価した。</p> $F_i(T) = F_{\text{Cs}}(T) \times \frac{\gamma_i}{\gamma_{\text{Cs}}}$ <p><math>F_i(T)</math> : 時刻 T における i 番目の MAAP 核種グループの放出割合  <math>\gamma_i</math> : NUREG-1465 における i 番目の MAAP 核種グループに相当する核種グループの原子炉格納容器内への放出割合  <math>\gamma_{\text{Cs}}</math> : NUREG-1465 における Cs に相当する核種グループの格納容器内への放出割合</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>中央制御室居住性評価における希与割合は小さく、居住性評価に大きな影響を及ぼすものではない。</p> <p>(1) 環境に放出される放射性物質の内訳について（I-131 等価量換算、<math>\gamma</math>線エネルギー0.5MeV換算）</p> <p>中央制御室内及び入退域時の被ばく評価結果における環境に放出される放射性物質について、NUREG-1465に示される各核種グループの内訳としてI-131等価量換算及び<math>\gamma</math>線エネルギー0.5MeV換算の値を第2-4-5表に示す。I-131等価量換算はハロゲン（よう素類）が約92%、Cs類が約2%、その他が約6%となっており、<math>\gamma</math>線エネルギー0.5MeV換算は希ガス類が約93%、ハロゲン（よう素類）が約7%、Cs類が約1%、その他が約1%となっている。</p> <p>第2-4-5表(1/2) 環境に放出される放射性物質の各核種グループの内訳（I-131 等価量換算）</p> <table border="1" data-bbox="1400 574 1899 949"> <thead> <tr> <th>核種グループ</th> <th>放出放射能<sup>(注1, 2)</sup> (Bq)</th> <th>内訳 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 0.0×10<sup>15</sup></td><td>0</td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 7.9×10<sup>13</sup></td><td>92</td></tr> <tr><td>Cs 類</td><td>約 1.7×10<sup>12</sup></td><td>2</td></tr> <tr><td>Te 類</td><td>約 3.8×10<sup>11</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ba 類</td><td>約 6.1×10<sup>11</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ru 類</td><td>約 5.9×10<sup>10</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ce 類</td><td>約 2.2×10<sup>12</sup></td><td>3</td></tr> <tr><td>La 類</td><td>約 1.7×10<sup>12</sup></td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約 8.6×10<sup>13</sup></td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>(注1) 7日間積算放出量                      (注2) 有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値</p> <p>第2-4-5表(2/2) 環境に放出される放射性物質の各核種グループの内訳（<math>\gamma</math>線エネルギー0.5MeV換算）</p> <table border="1" data-bbox="1400 1069 1899 1420"> <thead> <tr> <th>核種グループ</th> <th>放出放射能<sup>(注1, 2)</sup> (Bq)</th> <th>内訳 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 8.7×10<sup>15</sup></td><td>93</td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 6.2×10<sup>14</sup></td><td>7</td></tr> <tr><td>Cs 類</td><td>約 1.7×10<sup>13</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Te 類</td><td>約 3.1×10<sup>12</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ba 類</td><td>約 1.7×10<sup>12</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ru 類</td><td>約 9.9×10<sup>10</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ce 類</td><td>約 1.1×10<sup>11</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>La 類</td><td>約 2.9×10<sup>11</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約 9.3×10<sup>15</sup></td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>(注1) 7日間積算放出量                      (注2) 有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値</p>	核種グループ	放出放射能 <sup>(注1, 2)</sup> (Bq)	内訳 (%)	希ガス類	約 0.0×10 <sup>15</sup>	0	よう素類	約 7.9×10 <sup>13</sup>	92	Cs 類	約 1.7×10 <sup>12</sup>	2	Te 類	約 3.8×10 <sup>11</sup>	<1	Ba 類	約 6.1×10 <sup>11</sup>	<1	Ru 類	約 5.9×10 <sup>10</sup>	<1	Ce 類	約 2.2×10 <sup>12</sup>	3	La 類	約 1.7×10 <sup>12</sup>	2	合計	約 8.6×10 <sup>13</sup>	100	核種グループ	放出放射能 <sup>(注1, 2)</sup> (Bq)	内訳 (%)	希ガス類	約 8.7×10 <sup>15</sup>	93	よう素類	約 6.2×10 <sup>14</sup>	7	Cs 類	約 1.7×10 <sup>13</sup>	<1	Te 類	約 3.1×10 <sup>12</sup>	<1	Ba 類	約 1.7×10 <sup>12</sup>	<1	Ru 類	約 9.9×10 <sup>10</sup>	<1	Ce 類	約 1.1×10 <sup>11</sup>	<1	La 類	約 2.9×10 <sup>11</sup>	<1	合計	約 9.3×10 <sup>15</sup>	100	<p>【女川】 大飯実績の反映</p> <p>【大飯】 個別解析結果の相違</p> <p>【大飯】 個別解析結果の相違</p> <p>【大飯】 個別解析結果の相違</p>
核種グループ	放出放射能 <sup>(注1, 2, 3)</sup> (Bq)	内訳 (%)																																																																																																																									
Xe 類	約 0.0	0																																																																																																																									
I 類	約 7.7×10 <sup>13</sup>	62																																																																																																																									
Cs 類	約 1.9×10 <sup>13</sup>	16																																																																																																																									
Te 類	約 4.2×10 <sup>12</sup>	3																																																																																																																									
Ba 類	約 7.7×10 <sup>12</sup>	6																																																																																																																									
Ru 類	約 4.9×10 <sup>11</sup>	<1																																																																																																																									
Ce 類	約 9.4×10 <sup>12</sup>	8																																																																																																																									
La 類	約 5.7×10 <sup>12</sup>	5																																																																																																																									
合計	約 1.2×10 <sup>14</sup>	100																																																																																																																									
核種グループ	放出放射能 <sup>(注1, 2, 3)</sup> (Bq)	内訳 (%)																																																																																																																									
Xe 類	約 1.0×10 <sup>16</sup>	92																																																																																																																									
I 類	約 6.1×10 <sup>14</sup>	6																																																																																																																									
Cs 類	約 1.7×10 <sup>14</sup>	2																																																																																																																									
Te 類	約 2.9×10 <sup>13</sup>	<1																																																																																																																									
Ba 類	約 2.0×10 <sup>13</sup>	<1																																																																																																																									
Ru 類	約 8.6×10 <sup>11</sup>	<1																																																																																																																									
Ce 類	約 1.3×10 <sup>12</sup>	<1																																																																																																																									
La 類	約 3.7×10 <sup>12</sup>	<1																																																																																																																									
合計	約 1.1×10 <sup>16</sup>	100																																																																																																																									
核種グループ	放出放射能 <sup>(注1, 2)</sup> (Bq)	内訳 (%)																																																																																																																									
希ガス類	約 0.0×10 <sup>15</sup>	0																																																																																																																									
よう素類	約 7.9×10 <sup>13</sup>	92																																																																																																																									
Cs 類	約 1.7×10 <sup>12</sup>	2																																																																																																																									
Te 類	約 3.8×10 <sup>11</sup>	<1																																																																																																																									
Ba 類	約 6.1×10 <sup>11</sup>	<1																																																																																																																									
Ru 類	約 5.9×10 <sup>10</sup>	<1																																																																																																																									
Ce 類	約 2.2×10 <sup>12</sup>	3																																																																																																																									
La 類	約 1.7×10 <sup>12</sup>	2																																																																																																																									
合計	約 8.6×10 <sup>13</sup>	100																																																																																																																									
核種グループ	放出放射能 <sup>(注1, 2)</sup> (Bq)	内訳 (%)																																																																																																																									
希ガス類	約 8.7×10 <sup>15</sup>	93																																																																																																																									
よう素類	約 6.2×10 <sup>14</sup>	7																																																																																																																									
Cs 類	約 1.7×10 <sup>13</sup>	<1																																																																																																																									
Te 類	約 3.1×10 <sup>12</sup>	<1																																																																																																																									
Ba 類	約 1.7×10 <sup>12</sup>	<1																																																																																																																									
Ru 類	約 9.9×10 <sup>10</sup>	<1																																																																																																																									
Ce 類	約 1.1×10 <sup>11</sup>	<1																																																																																																																									
La 類	約 2.9×10 <sup>11</sup>	<1																																																																																																																									
合計	約 9.3×10 <sup>15</sup>	100																																																																																																																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第59条 運転員が原子炉制御室にとどまるための設備（補足説明資料）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																							
<p>(2) 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室入退域時の直接及びスカイシャイン線量の内訳について</p> <p>中央制御室入退域時の被ばく評価結果における原子炉建屋内の放射性物質からの直接線及びスカイシャインガンマ線について、NUREG-1465 に示される各核種グループの内訳を第6表に示す。希ガス類が約64%、ハロゲン（よう素類）が約26%、Cs類が約5%、その他が約5%となっている。</p> <p>第6表 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室入退域時の被ばく評価における各核種グループの内訳</p> <table border="1" data-bbox="85 496 683 826"> <thead> <tr> <th>核種グループ</th> <th>直接線及びスカイシャイン線量 (注1, 2) (mSv)</th> <th>内訳 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 2.9×10<sup>2</sup></td><td>64</td></tr> <tr><td>I類</td><td>約 1.2×10<sup>2</sup></td><td>26</td></tr> <tr><td>Cs類</td><td>約 2.1×10<sup>1</sup></td><td>5</td></tr> <tr><td>Te類</td><td>約 8.5×10<sup>0</sup></td><td>2</td></tr> <tr><td>Ba類</td><td>約 6.6×10<sup>0</sup></td><td>1</td></tr> <tr><td>Ru類</td><td>約 2.6×10<sup>-1</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ce類</td><td>約 5.6×10<sup>-1</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>La類</td><td>約 7.5×10<sup>0</sup></td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約 4.5×10<sup>2</sup></td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>(注1) 有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値                      (注2) 大飯発電所3号炉の1基あたりの7日間積算線量</p>	核種グループ	直接線及びスカイシャイン線量 (注1, 2) (mSv)	内訳 (%)	希ガス類	約 2.9×10 <sup>2</sup>	64	I類	約 1.2×10 <sup>2</sup>	26	Cs類	約 2.1×10 <sup>1</sup>	5	Te類	約 8.5×10 <sup>0</sup>	2	Ba類	約 6.6×10 <sup>0</sup>	1	Ru類	約 2.6×10 <sup>-1</sup>	<1	Ce類	約 5.6×10 <sup>-1</sup>	<1	La類	約 7.5×10 <sup>0</sup>	2	合計	約 4.5×10 <sup>2</sup>	100	<p>※2 中・低揮発性の核種グループは原子炉格納容器内で粒子状物質として振る舞い、沈着や格納容器スプレイ等により気相部から除去されると考えられる。また、事故発生後、原子炉格納容器の気相部からの除去が進んだ後は原子炉格納容器からの漏れいはほとんどなくなるものと考えられる。</p> <p>本評価では、中・低揮発性の核種グループ同様、原子炉格納容器内で粒子状物質として除去されるCsを代表として参照し、中・低揮発性の核種グループの「各時刻における漏れい割合」を、「各時刻におけるCsの漏れい割合」に比例するものとした。</p> <p>表2-3-3 MAAP解析による放出割合の評価結果                      (炉心の著しい損傷が発生した場合における中央制御室の居住性評価に使用しない)</p> <table border="1" data-bbox="792 520 1265 991"> <thead> <tr> <th>核種グループ</th> <th>停止時炉内蔵量に対する 原子炉格納容器フィルタベント系への放出割合 (事故発生から168時間後時点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス</td><td>約 9.6×10<sup>-1</sup></td></tr> <tr><td>Cs1</td><td>約 1.3×10<sup>-6</sup></td></tr> <tr><td>TeO<sub>2</sub></td><td>約 4.5×10<sup>-2</sup></td></tr> <tr><td>SrO</td><td>約 4.7×10<sup>-2</sup></td></tr> <tr><td>MoO<sub>2</sub></td><td>約 1.1×10<sup>-6</sup></td></tr> <tr><td>CoOH</td><td>約 1.2×10<sup>-6</sup></td></tr> <tr><td>BaO</td><td>約 2.5×10<sup>-2</sup></td></tr> <tr><td>La<sub>2</sub>O<sub>3</sub></td><td>約 4.2×10<sup>-2</sup></td></tr> <tr><td>CeO<sub>2</sub></td><td>約 4.2×10<sup>-2</sup></td></tr> <tr><td>Sb</td><td>約 2.5×10<sup>-6</sup></td></tr> <tr><td>Te<sub>2</sub></td><td>0</td></tr> <tr><td>UO<sub>2</sub></td><td>0</td></tr> <tr><td>Cs<sup>99</sup></td><td>約 1.2×10<sup>-6</sup></td></tr> </tbody> </table> <p>表1 Cs1グループとCsOHグループの放出割合から評価（評価式は参考1を参照）</p> <p>表2-3-4 TMI事故後に評価された放射性核種の場所ごとの存在量                      (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="741 1121 1294 1262"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種</th> <th colspan="3">低揮発性</th> <th colspan="4">中揮発性</th> <th colspan="2">高揮発性</th> </tr> <tr> <th><sup>135</sup>Cs</th> <th><sup>137</sup>Cs</th> <th><sup>134</sup>Te</th> <th><sup>90</sup>Sr</th> <th><sup>90</sup>Zr</th> <th><sup>91</sup>Zr</th> <th><sup>91</sup>Y</th> <th><sup>90</sup>Mo</th> <th><sup>90</sup>Tc</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>原子炉建屋</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>原子炉容器</td><td>105.4</td><td>122.7</td><td>109.5</td><td>89.7</td><td>93.2</td><td>117.2</td><td>40.1</td><td>42</td><td>30</td></tr> <tr><td>原子炉冷却系</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td><td>—</td><td>0.2</td><td>3</td><td>1</td><td>—</td></tr> <tr><td>油層水、気相タンク類</td><td>0.01</td><td>—</td><td>—</td><td>2.1</td><td>0.5</td><td>0.7</td><td>47</td><td>(47)<sup>1</sup></td><td>54</td></tr> <tr><td>補機棟屋</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>0.1</td><td>—</td><td>0.7</td><td>5</td><td>7</td><td>—</td></tr> <tr><td>合計</td><td>105</td><td>123</td><td>110</td><td>93</td><td>94</td><td>119</td><td>96</td><td>97</td><td>85</td></tr> </tbody> </table> <p><sup>1</sup> 広範囲の1階空間空室と多量のデブリ(炉心に沈着した燃料)のため、ここでの評価値は炉心インベントリリー七大きく上回る分析結果となります。したがって、ここに示されたインベントリリーはCsと同程度であると考へる。</p> <p>出典：TMI-2号機の調査研究成果（渡会慎祐、井上康、樹田藤夫 日本原子力学会誌 Vol.32, No.4(1990)）</p>	核種グループ	停止時炉内蔵量に対する 原子炉格納容器フィルタベント系への放出割合 (事故発生から168時間後時点)	希ガス	約 9.6×10 <sup>-1</sup>	Cs1	約 1.3×10 <sup>-6</sup>	TeO <sub>2</sub>	約 4.5×10 <sup>-2</sup>	SrO	約 4.7×10 <sup>-2</sup>	MoO <sub>2</sub>	約 1.1×10 <sup>-6</sup>	CoOH	約 1.2×10 <sup>-6</sup>	BaO	約 2.5×10 <sup>-2</sup>	La <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	約 4.2×10 <sup>-2</sup>	CeO <sub>2</sub>	約 4.2×10 <sup>-2</sup>	Sb	約 2.5×10 <sup>-6</sup>	Te <sub>2</sub>	0	UO <sub>2</sub>	0	Cs <sup>99</sup>	約 1.2×10 <sup>-6</sup>	核種	低揮発性			中揮発性				高揮発性		<sup>135</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>134</sup> Te	<sup>90</sup> Sr	<sup>90</sup> Zr	<sup>91</sup> Zr	<sup>91</sup> Y	<sup>90</sup> Mo	<sup>90</sup> Tc	原子炉建屋										原子炉容器	105.4	122.7	109.5	89.7	93.2	117.2	40.1	42	30	原子炉冷却系	—	—	—	1	—	0.2	3	1	—	油層水、気相タンク類	0.01	—	—	2.1	0.5	0.7	47	(47) <sup>1</sup>	54	補機棟屋	—	—	—	0.1	—	0.7	5	7	—	合計	105	123	110	93	94	119	96	97	85	<p>(2) 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室入退域時の直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の内訳について</p> <p>中央制御室入退域時の被ばく評価結果における原子炉建屋内の放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線について、NUREG-1465 に示される各核種グループの内訳を第2-4-6表に示す。希ガス類が約5%、ハロゲン（よう素類）が約85%、Cs類が約5%、その他が約5%となっている。</p> <p>第2-4-6表 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による中央制御室入退域時の被ばく評価における各核種グループの内訳</p> <table border="1" data-bbox="1397 504 1906 874"> <thead> <tr> <th>核種グループ</th> <th>直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線量 (注1, 2) (mSv)</th> <th>内訳 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 4.1×10<sup>1</sup></td><td>5</td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 7.3×10<sup>2</sup></td><td>85</td></tr> <tr><td>Cs類</td><td>約 4.7×10<sup>1</sup></td><td>5</td></tr> <tr><td>Te類</td><td>約 1.1×10<sup>1</sup></td><td>1</td></tr> <tr><td>Ba類</td><td>約 1.3×10<sup>1</sup></td><td>2</td></tr> <tr><td>Ru類</td><td>約 5.1×10<sup>-1</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>Ce類</td><td>約 2.0×10<sup>-1</sup></td><td>&lt;1</td></tr> <tr><td>La類</td><td>約 1.6×10<sup>1</sup></td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約 8.6×10<sup>2</sup></td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>(注1) 中央制御室入口地点における7日間積算線量                      (注2) 有効数値3桁目を四捨五入し2桁に丸めた値</p>	核種グループ	直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線量 (注1, 2) (mSv)	内訳 (%)	希ガス類	約 4.1×10 <sup>1</sup>	5	よう素類	約 7.3×10 <sup>2</sup>	85	Cs類	約 4.7×10 <sup>1</sup>	5	Te類	約 1.1×10 <sup>1</sup>	1	Ba類	約 1.3×10 <sup>1</sup>	2	Ru類	約 5.1×10 <sup>-1</sup>	<1	Ce類	約 2.0×10 <sup>-1</sup>	<1	La類	約 1.6×10 <sup>1</sup>	2	合計	約 8.6×10 <sup>2</sup>	100	<p>【女川】 大飯実績の反映</p> <p>【大飯】 個別解析結果の相違</p> <p>【大飯】 個別解析結果の相違</p>
核種グループ	直接線及びスカイシャイン線量 (注1, 2) (mSv)	内訳 (%)																																																																																																																																																																								
希ガス類	約 2.9×10 <sup>2</sup>	64																																																																																																																																																																								
I類	約 1.2×10 <sup>2</sup>	26																																																																																																																																																																								
Cs類	約 2.1×10 <sup>1</sup>	5																																																																																																																																																																								
Te類	約 8.5×10 <sup>0</sup>	2																																																																																																																																																																								
Ba類	約 6.6×10 <sup>0</sup>	1																																																																																																																																																																								
Ru類	約 2.6×10 <sup>-1</sup>	<1																																																																																																																																																																								
Ce類	約 5.6×10 <sup>-1</sup>	<1																																																																																																																																																																								
La類	約 7.5×10 <sup>0</sup>	2																																																																																																																																																																								
合計	約 4.5×10 <sup>2</sup>	100																																																																																																																																																																								
核種グループ	停止時炉内蔵量に対する 原子炉格納容器フィルタベント系への放出割合 (事故発生から168時間後時点)																																																																																																																																																																									
希ガス	約 9.6×10 <sup>-1</sup>																																																																																																																																																																									
Cs1	約 1.3×10 <sup>-6</sup>																																																																																																																																																																									
TeO <sub>2</sub>	約 4.5×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																																																									
SrO	約 4.7×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																																																									
MoO <sub>2</sub>	約 1.1×10 <sup>-6</sup>																																																																																																																																																																									
CoOH	約 1.2×10 <sup>-6</sup>																																																																																																																																																																									
BaO	約 2.5×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																																																									
La <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	約 4.2×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																																																									
CeO <sub>2</sub>	約 4.2×10 <sup>-2</sup>																																																																																																																																																																									
Sb	約 2.5×10 <sup>-6</sup>																																																																																																																																																																									
Te <sub>2</sub>	0																																																																																																																																																																									
UO <sub>2</sub>	0																																																																																																																																																																									
Cs <sup>99</sup>	約 1.2×10 <sup>-6</sup>																																																																																																																																																																									
核種	低揮発性			中揮発性				高揮発性																																																																																																																																																																		
	<sup>135</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>134</sup> Te	<sup>90</sup> Sr	<sup>90</sup> Zr	<sup>91</sup> Zr	<sup>91</sup> Y	<sup>90</sup> Mo	<sup>90</sup> Tc																																																																																																																																																																	
原子炉建屋																																																																																																																																																																										
原子炉容器	105.4	122.7	109.5	89.7	93.2	117.2	40.1	42	30																																																																																																																																																																	
原子炉冷却系	—	—	—	1	—	0.2	3	1	—																																																																																																																																																																	
油層水、気相タンク類	0.01	—	—	2.1	0.5	0.7	47	(47) <sup>1</sup>	54																																																																																																																																																																	
補機棟屋	—	—	—	0.1	—	0.7	5	7	—																																																																																																																																																																	
合計	105	123	110	93	94	119	96	97	85																																																																																																																																																																	
核種グループ	直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線量 (注1, 2) (mSv)	内訳 (%)																																																																																																																																																																								
希ガス類	約 4.1×10 <sup>1</sup>	5																																																																																																																																																																								
よう素類	約 7.3×10 <sup>2</sup>	85																																																																																																																																																																								
Cs類	約 4.7×10 <sup>1</sup>	5																																																																																																																																																																								
Te類	約 1.1×10 <sup>1</sup>	1																																																																																																																																																																								
Ba類	約 1.3×10 <sup>1</sup>	2																																																																																																																																																																								
Ru類	約 5.1×10 <sup>-1</sup>	<1																																																																																																																																																																								
Ce類	約 2.0×10 <sup>-1</sup>	<1																																																																																																																																																																								
La類	約 1.6×10 <sup>1</sup>	2																																																																																																																																																																								
合計	約 8.6×10 <sup>2</sup>	100																																																																																																																																																																								